山田美妙雜稿

中學全科辭典校正刷ニ
かゝきくけこ

特別
15
1664
56

15
1664
56

繆繆ありしも、四四年プルタスの爲め議事堂に殺さる、時に年五十六なりき。

がいうーぶんろく 雅洋漫錄 名 書名 諸器 物の圖及遊戯の式をかけるもの大杖流芳の著なり。

かいーいき 改易 名 德川時代の刑律の一、士は族籍を除き、家祿を沒して、素浪人となし、民は所拂ひとなして、家財を沒收することなり。

がいいねん 外焰 名 化學 「ほのう」の條を見よ、

ガイアンヌ Cayenne 名 地名 フランス領ギアナの首府、西紀一八五二年よりフランス囚徒の殖民地となる、熱帶植物繁茂せり。

かいたうーせい 海王星 Neptune 名 天文 惑星 天王星の發見後、其運動の關係上より最近に發見せられたり、されど其の自轉なるを知らず。

がいーか 拔下 名 地名 安徽省鳳陽府靈壁縣の南、春秋楚の地たり、漢高帝五年、項羽潰楚せんとし此に至り、に圍まれて南走せり「力山を拔く」の悲歌は此包圍中のことなりき。

かいーかふ 開國 名 役名 宮中和歌所の書物の出納及雜務を司る役、又鎌倉幕府時代侍所の屬官にして、簿書の記錄文案を司る、引付衆の補職なりき。

かいかん 開管 名 物理 風琴管の條を見よ。

かいがんーしよう 海岸松 名 植物 草木、生長速く、大木となる松の一種なり。

かいがんせん 海岸線 名 地文 海岸に於ける、海陸相接する所を連ぬる線を言ふ。

かいがらーむし 介殼虫 名 動物 昆虫類、有吻類、介殼狀の分泌物を出し、自體を蔽ふ、雄は前翅に唯一個の分支せる脈を有し、吻なく、繭を作りて蛹化す、雌は無翅のもの多く、介殼狀分泌物らに產卵して孵化す。

かいき 河域 名 地文 河系が水を供給する所の土地を言ふ。

かいぎうーるい 海牛類 Sirenia 名 動物 海水哺乳類海牛及ヂユゴン(鼠長)より成る、全形鯨に似て頭部は陸上動物に似たり、海中に生死し、海草其他植物を食す、稍緩慢く發達し、馬牛の蹄齒に似たり。

かいきしよく 皆既蝕 Total eclipse 名 天文太陰の太陽全部を蔽ふときの月蝕を云ふ、而して其時間の最も長き所は赤道近邊にありて七分三十秒續續す。

かいきーせん 回歸線 Tropic 名 天文 赤道の南北二十二度半の所にある線線を云ふ。

かいきーねん 回歸年 Tropical year 名 天文 或年の春

分より翌年の春分までの時日、春分とは三月廿一日を云ふなり。

かいき—むふうたい 回無風帶 Calm-zone of Tropic 名 地文 回歸線の近傍一帶の地、貿易風帶の極に近き方の限界の土地、高氣壓なるを以て、大氣に水平の運動なきなり

かい—きんしや 海金砂 名 植物 草本、糸の如き細き莖にて一尺許に成長す、葉は細薄にて表面に皺わり、此間に砂の如きものわり、是れ莖と共に藥用とするものなり。

かい—ざやう 戒行 名 佛語 戒を守りて佛道を修業することを云ふ。

かいきよう—しよくみんち 海峽殖民地 Straits Settlements 名 東インドに於けるイギリス殖民地にて、マライ半島の英領、シンガポール、マラカ等を云ふ、人口五十萬七千餘内十五萬人は支那人なり。

かいぐ 皆具 名 武具 兜、鎧、馬具などの凡て揃ひたるもののこと。

かいぐん—く 海軍區 名 地名 海防便利の爲め鎮守府所在地を基點とし 全國を五區に分ち管轄す、即ち 相州の横須賀、安藝の國の吳、肥前の佐世保、丹波の舞鶴、勝振の室蘭の五港なり。

かいぐん—たいふ 海軍大輔 名 役名 明治五年二月廿八日、兵部省を廢し、陸軍省海軍省の二部とし、長官を卿と次官を大輔少輔と云ひき、今は陸海軍大臣となれり。

かいぐん—れきし 海軍歴史 名 書名 本邦海軍の發達の歴史勝安房の著書なり。

かいくわ—てんわう 開化天皇 名 人名 人皇第九代の天子、孝元第二皇子稚日本根子彦太日日（わかやまとねこひこふとひひ）と申す、都を大和國春日に奠め、率川宮と云ひ、紀元五百〇四年より在位六十三年、年百十五、崩御。

かいくわん—ぜい 海關税 名 輸入物品に對して課する税 貿易港にありて、出入の貨物を檢して、關税を課す。

がい—け 改悔 名 佛語、懺悔（さんげ）に同じ。

がいけい—どうみやく 外頸動脈 名 生理 總頸動脈に起り、二腹頸筋と莖狀舌筋骨との後側より下顎枝後緣を上り

かいけい—ろつ 介形類 Ostracoda 名 動物 甲殼類、小便殼類、切甲類、二牧の殼を以て蔽はれ、檜田にして觸屑より、一個の眼、七對の肢、觸角二對、上顎一對、下顎二對、胸脚二對わり。

かい—げん 改元 名 一、古代 帝王の代替りに年號を改めしもの、二、轉じて、總て年號を改むるにいへり。

かいげん—せん 開元錢 名 貨幣、支那唐高祖の代の鑄造

錢なり。

かいげん—の—ち 開元の治 名 歴史 開元とは支那唐の玄宗の代の年號、玄宗、性聖明、即位の初め、鋭意、治を圖り、風俗の奢侈を戒めしを以て、國富み、兵强く、文學技藝並び起り、天下大平なりき、即ち是を云ふなり。

かいけ—もん 改悔文 名 佛語、眞宗中興大師 蓮如上人の作りし假名交りの經文、眞宗信者等の佛に向ひて、安心立命を詫することを誓ひしもの。

かいこう—づ 海紅豆 名 植物 喬木、二三丈に達し、白花を咲き、實は莢中にあり。

かいこく—へいだん 海國兵談 名 書名 林子平が外國に對する戰備を論じたる書にて十六卷、天明六年自序、寛政三年出版す。

がい—こつかく 外骨骼 Exo-skeleton 名 動物外面に有する骨骼にして、筋足動物、軟體動物皆是れなり。

かい—こづむ 掻靈 國四 古語 しづかになること、かいは接頭語なり。

がいこつ—ち—こふ 乞骸骨 文 官を辭して隱居すること 冠を掛くるに同じ。

がいさい—の—うらみ 眦睚之怨 同 極めて僅かなる怨のこと、史記に「眦睚之怨必報」とあり。「眦」は目の邊なり。

かい—さいぼう—そう 外網胞層 名 動物 「がいはいぼう」に同じ、

かい—さん 開山 名 山を開くこと、寺を建立すること、眞宗信徒の、祖師親鸞上人を敬ひ云ふ語なり。

かい—ざん 改竄 名 文章などを、あらためなほすこと、改も竄もあらためると云ふ意よりかく出でしなり。

がい—さん 崖山 名 地名 支那廣東省新會縣の南、絶海中にあり、宋の祥興二年二月、元軍大挙して、崖山にある宋の幼帝を攻撃せしかば、張世傑之を奉じて、忠死し、宋此に滅亡せり。

カイサリア Kaisarich 名 地名 小アジアのカパドキア州の主要なる舊都、歐洲産物品と棉、鞣革等を交換す、人口約四萬（35,000, 35,000）パレスチナの海港、地中海に臨す、ケーサルの紀念としてヘロデ大王の建てし所なり、今は衰微せるも、十字軍時代には有名なりし地なり、（35,000, 35,000）

かい—し 介士 名 甲冑をつけたるさむらい。

かい—し 開士 名 佛語 菩薩のこと。

がい—し 碍子 名 白色陶器を以て 硝盃の如く製し、電線をふきつくるものこれなり。

がい—じ 外耳 External ear 名 生理 耳介及外耳道の總

稱内方は鼓膜に接す。

かいじつ―わう 戒日王 名 人名 王、西紀七世紀頃の印度烏茸國の王、佛教を興隆し、文學技藝を奬勵し、其號令全印度に及びぬ。

がいじ―だう 外耳道 名 生理 外聽道とも言ふ、外方耳介に始り、内方鼓膜に接せる管にして、茸毛一面に生じ、害物の侵入を妨ぐ。

かい―しのぎ 槍鎬 名 武器 鎬は、太刀のみねと刃との間に高く稜の立ちたる處、故に、この鎬の角を立てずして丸みをつけ、舟の櫂く、扁みに少し肉をつけたるを云ふ。

かい―じやう 開成 名 人名 光仁帝の皇子、桓武帝の兄性英敏佛教を厚く信じ、勝尾山に入りて修業せらる、彌勒寺の開山たり、天應元年十月四日、年五十八寂す。

かいしやう―はふ 海商法 名 法律 專ら海上の商賣を支配するもの、矢張り 商法の一部たり。

かいじやう―はふ 海上法 名 法律 所謂航海律にて、海上往來の船舶に關しての法律なり。

かい―しやく 介錯 名 後見人、介抱人、附添人の意あれど、素と、切腹するとき、附添ひ居て、首を斬る人を云ふ。

かい―じやく 海若 名 海神のこと、唯若とも云ふ。

かいじよう―かざん 塊狀火山 Massive volcano 名 地文 單に熔岩のみ噴出して一塊の火山をなすもの形は圓錐形あり、一面平爽の岩臺あり、平面ドームあり。

かいじよう―がん 塊狀岩 名 地文 火成岩の事なり。

かいじよう―ろしき 塊狀組織 Massive structure 名 鑛物、多く黄鐵鑛方解石等の組織にて、其排置せる狀、一定ならず、不規則にして、粒狀或は緻密なるあり。

かいしよく―さんひ 海蝕山麓 名 地文 胴山麓の海底に入りてなれるものを云ふ。

かい―しろ 桓代 名 古語 帳、とばりのことと、樂人のことを云ふ。

かい―すい 海水 Seawater 名 地文 比重一〇二六、氷點零下二度、鹽類多量含有す 最も多きは 塩化ナトリウム(食鹽)とす是れ 陸地を循環する水の運び來りしものと地球創造時代より海水中に存在せるものなり。

かいすい―の―がんいうづつ 海水の含有物 名 化學 其所在によりて差異あり 英國海峽に於ける海水は左の如し

食鹽 (NaCl)	二七、〇五九
塩化マグネシウム ($MgCl_2$)	三、六六六
硫酸マグネシウム ($MgSO_4$)	二、二九六
硫酸カルシウム ($CaSO_4$)	一、四〇六
塩化カリウム (KCl)	〇、九六六
炭酸カルシウム ($CaCO_3$)	〇、〇三三
臭化マグネシウム ($MgBr_2$)	〇、〇二九
水	九六四、七四五
合計	一〇〇〇、〇〇〇

又太平洋の海水は左の如し

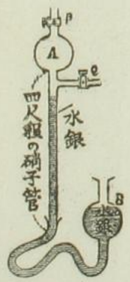
食鹽 (NaCl)	二、五九
臭化ナトリウム (NaBr)	〇、〇四
硫酸ナトリウム (Na_2SO_4)	〇、一四
硫酸カルシウム ($CaSO_4$)	〇、一六
硫酸マグネシウム ($MgSO_4$)	〇、一一
鹽化マグネシウム ($MgCl_2$)	〇、四三
水	九六、五三
合計	一〇〇、〇〇

かいすい―の―うんだう 海水の運動 The motion of seawater 名 地文 波浪、潮汐、津浪如く 海水の靜止すこもなく 常に動搖すること。

ガイスレル Heinrich Geisler 名 人名 「ガイスレル」水銀空氣ポンプの創作者なる獨逸の物理學者なり、初め硝子職工なりしも、物理學上の知識を有すが故、物理學的裝置を作るに妙を得たり、(西紀一八一四―一八七九)

ガイスレルチユーブ (Geissler Tube がいすれるかん 名 物理 氣體スペクトルの研究に常用するもの、硝子管の両端に白金絲を封入し、空氣ポンプを以て内部の空氣を稀薄となし感應コイルの導線を連ぬるときは、極間に弱光を放つ明暗相隔てゝ、鱗列する如き狀を現出す、形狀及色は其氣體によりて差異あるも、各特有のスペクトル現すべければなり。

ガイスレル、パンプ Geissler's Pump 名 物理 即ち水銀ポンプにて、トリセリー眞空を應用したるもの、圖に示せる如く、A球形室を眞空にするにあり 第一にPカランを開き、B球をあげてA球内に水銀を充しPカランを閉じB球を下るときは、A球内に眞空の場所を生ず、Qカランを開くときはA球内の空氣擴張するを以て、更に反覆して此の作用をなすより、以て眞空とするものなり。



かい―せい 海瀣 名 海濱の水際を云ふ、江淹の詩句に、「且泛二桂湖一映二月遊一海瀣一」とあり、即ち此意なり。

がい―せい 蓋世 名 一世に秀逸したるもの、蓋世文雄とも云ふ、「力拔山氣蓋世」とあるも此意なり。

かいせいーじ 海清寺 名 地名 攝津國河邊郡西宮にあり て、慶永年中發因禪師の開基せし寺なり。

かいせいーじよ 開成所 名 德川幕府の學校 初、洋學所と稱し安政二年將軍家定の學問所にて、蘭學のみを教へしが、安政三年蕃書調所と改め、文久二年書調所と改め翌年開成所と改正し志英佛獨の學及數學を教授し、後理化學を加へ、明治元年朝廷再興し、二年南校とし、諸國の人材を選り、洋學を修めしむ、六年開成學校年をし、十年大學の一郡とせり。

かいせうーるゐ 海稍類 名 動物 最下動物の一、單立又は群體をなし、體は囊狀、口と排泄門とは殆んと同一、外物に固着す。

かいぜんじーにふだう 開善寺入道 名 人名 小笠原眞宗を云ふ。

かいーぜん 介然 連形 さびしきこと、獨居、獨來獨行、又細細なる事を心配する意あり。

かいぜんーばんり 階前萬里 句 下情の、陛下に通せざる意、蓋し 御所の階段の前が 萬里もありて、階下の人民が見ぬとの警より來れり。

がいせんーもん 凱旋門 名 地理 戰勝ちて凱歌を唱ふて師を還すときに作れるもの、佛國パリのは ナポレオン一世のオートルリーツ戰勝紀念として、築けるもの、石造にして弓形をなし、四大柱、高五十メートルなり。

ガイゼリク Gaiserich 名 人名 バンダル國王、四二九年アフリカを攻めカルタゴを占領して首府とす（西紀四〇六—四七七）

カイゼル Kaiser 名 人名 古代ゲルマニの皇帝に與へし尊號にてラテン語のケーザルの意。近代ワイルレム一世、其後繼者皆此名を稱す。

カイゼルーウィルヘルムランド Kaiser-Wilhelmsl-and 名 地名 イギリス及オランダドイツの分領する地、新ギチアの東半部の北方にあり、西紀一八八四年以來ドイツの保護領たり、面積七二〇〇〇方哩、人口一一、六〇〇〇なり。

かいーろ 解訴 名 法律 解原とも云ひ、原被の示談にて訴訟を願下げること。

がいーろう 劾奏 名 官 人の罪過を陛下に奏聞すること。

かいーろざ 甲斐茸 名 質素なる板茸の方、德川初代まで行はれけり。

かいーろく 海賊 名 歴史 海上にありて盛に船舶を劫し物を奪掠するものにて 清和帝の頃より猖獗を極め 瀬戸内海を横行し、貢米を掠し、陽成帝の時は備前諸方を以て此が根據地となし、延喜の治世に於ても、紀貫之の任滿ちて歸るさに、其だ之が爲め困難せり、天慶年中には藤原純友伊豫にありて海賊の長として反亂せり、後足利氏の末代に至りて、海軍を海賊と云ひしとなむ。

がいーたい 外帶 名 地文 崑崙山系の條を參せよ。

がいーたい 驗態 名 愚なる樣、

かいーだう 海棠 Pinus spectabilis 名 植物 薔薇科、春末、薄紅なる五瓣の花を開き、梨の如き小なる實を結ぶなり、支那にては、本邦の櫻の如く、艶麗として稱美す。

かいたうーふうどき 海島風土記 名 書名 佐藤行信、吉川秀道の撰、四册より成れる寫本なり。

かいたくーし 開拓使 名 役名 今の北海道長官にて、明治二年八月 蝦夷を改めて、北海道と稱し十二國と定め、之を管する官なりき。

かいーだて 垣楯 名 かきたての音便 薄を張るときに、垣の如く楯を并べ立つること、後楯ならでも急なる場合立てたる城壁を云ふ。

かいーたん 開端 名 曆語 陰曆正月のこと。

がいーたん 骸炭 名 化學 「コークス」の事なり。

かいーだん 戒壇 名 地歴 僧侶の戒を授くるに用ふる壇、古三戒壇とて奈良の東大寺、筑前の觀音寺、下野の藥師寺にありしも、後延曆寺のみとなれり。

かいだんーせき 戒壇石 名 多く禪宗、律宗の寺門前に、不許葷酒入山門などと書きて立てたる石を云ふ。

かいだんーち 階段地 Terrace 名 地文 兩極地方に著しく起る現象にして、陸地漸次蜂起するか、海面下降するより生ずるもの。

かいーち 獬豸 名 動物 獸類、神羊とも云ひ、羊に似て一角あるもの、想像のものならむ、昔 支那の堯舜時代に棲息し、獄皐陶の獄を斷ずるとき、之に觸れしめて、其正邪曲直を判ずるものなり、其辨ずること神の如しと。

かいーちう 介冑 名 よろひかぶと、具足、介甲のこと。

がいちやうけい 外長莖 Exogenous stem 名 植物 双子葉莖の如く、新材輪は、年々舊材輪の外面に生成するものなり、之卽ち年輪によるなり、年輪は春材秋材の二部より成り、以て莖の年を檢するに明なり、但し土地の寒暖により て差異あり、熱帶地方の如く、終始の溫度の變化なき所は雨期と雨期ならざる場合とを以て、區別せられ得。

かいーちやう 戒定慧 名 佛語 持戒、禪定、智慧の三德にして 佛者の修すべきもの。

かいーちゅう 蛔虫 Ascaris lumbricoides, L. 名 動物 蠕形動物 圓虫類、寄生虫、小兒の小腸内に寄生す、長さ雄は一寸二三分より七寸餘、雌は三寸五分より一尺二寸

餘　上皮は分泌物の凝固より成り、細胞より成れる體壁此に次ぐ、口に三個の突起、雌雄異體卵を皮を被り、楕圓形

がいちゅう　害蟲　名　動物　人の生活に直接間接に害を加ふる虫にして、カンカ、いなむし、わぶらむし等の如し。

がいちょく-きん　外直筋　名　生理、外旋神經の支配するところ、收縮するときは、眼球外方に轉じ、視線の方向を變せしむるものなり。

かいちょ-でうけん　解除條件　名　法律　條件の成就したる時より、法律行爲の効力を消滅せしむること。

がいちょうどう　外聽道　名　生理　外耳道に同じ。

かい-づ　海圖　Sea map　名　地文　普通航海者、海軍の所持する海洋の狀を示すもの、數字を以て、各地點の深淺を示し、別に符號によりて海底の狀態を知らしむるもの。

かい-づ　海津　名　地名　近江國高島郡にありて、越前街道の西路たり、又信濃埴科郡今の松代のことを云ひたり。

かいつむり　鳰　名　動物　背推動物　游禽類、太さ七寸、池沼に棲みて、水中に潛り、魚を捕食す、嘴は先端黑く、根部黃綠色、脊面黑褐色、腹面灰色、頭上及頸に長毛あり尾極めて短し、趾に板狀の蹼を張り、巢を水上に浮ぶ。

かい-てい　海底　名　地文　海の底の意味にして、眞の海床と言ふべきものは、海岸を距る二百米突位より始まるものなり、是迄は海底の傾斜甚だしからず、是より先は傾斜俄に急となる、是大陸の端なり、之より太洋の海床となり、後再び傾斜緩慢となり、漸次深海に達す、世界最深の海底は太平洋にありて、海面下三萬千六百尺なる所あり。

がい-てい　孩提　名　小兒の幼稚にして可愛らしきこと　孩は小さきこと、提は手にさぐること、「孩提之童、無不知愛其親也」とあるも此意なり　孟子盡心篇の

かいてい-かざん　海底火山　名　地文　火山の分布の條下を見よ。

がい-ていこう　外抵抗　External resistance　名　物理　內抵抗に對して云ふ語にて、內抵抗は普通の電池の抵抗を云ひ、其他の場合卽ち導線に於ける抵抗は則ち外抵抗なり、

かいてい-りつれい　改定律令　名　明治六年頒布せられたる刑法なれども、明治十五年一月に至りて廢せらる。

かいてつ-きせき　灰鐵輝石　名　礦物　輝石の條を參看せよ。

かいてん-まさつ　廻轉摩擦　Rolling friction　名　物理　車輪又圓筒の、平面上を廻轉する時、其の接觸する點に於て、其の運動に抵抗する力あり、之を云ふ。

かい-と　垣外　名　古語　垣根のそとのこと、又畑（はた）のことも云ふ。

がいとう-こう　外套腔　Mantle cavity　名　動物　外套膜と體との間に存する空所のこと。

がいとう-せん　外套線　Pallial-impression　名　動物　外套膜の　貝殼に附着する部分と、離るる部分との境界にして貝殼に永く痕跡を存する線を云ふ。

がいとう-まく　外套膜　名　Mantle　動物　軟體動物にして貝殼を有するもの、殼の直下に接する膜を云ふ、殼は此の膜より分泌して生ずるものなり。

かい-ともし　掻燈　名　古の夜の御殿の燈火のこと。

かい-とる　掻取　國四　つまさきをとりわぐること。

かいなん-ぶう　海軟風　Sea Breeze　名　地文　日中海上より陸上に向ひて吹く軟風なり、是れ日中は通例陸地の海面より、溫度高きによりて起るものなり。

がい-ねん　概念　名　心理、感覺によつて得る所の諸種の智識の中、其相異なるものを省き、相類似するものを綜合して、普通知識を作るの意識の作用なり。

かいねり　掻練　皆練　名　表裏とも、紅の練絹にて作れるもの、多くは女の服なり。

かいば　海馬　名　動物　哺乳類、海獸、大さ二丈餘、上あごに二本の牙ありて下方に向し、長強なり、四肢はあざらしに似たり、多く、北海に棲み、群集す。

がいはい-いう　外胚葉　Ectoderm　名　動物　腔腸動物等の下等動物の如く、三層より成る體の外層なり、高等動物にても、發生初期には三層より成り、外層を外胚葉と云ひ上皮となり　內部に入りて神經を作るもの。

がいはいろう　外胚層　名　動物　外胚葉を見よ。

かいぱう-がく　解剖學　Anatomy　名　醫學　動物　體の諸器官の構造、位置、病根及其諸部に關することを論ずる學問なり　比較解剖も則ち此一にして　諸動物の構造を比較して研究するものを云ふ。

かいぱう-かん　海防艦　名　軍艦　海岸防禦及攻擊を完全になすもの、甲裝、非裝甲あり、現今の松島　厳島等は則ち此れなり。

かいはう-ぎよりん　海保漁村　名　人名　儒者、下總武射郡北清村の人、名元備、字鄉老、通稱章之介、性銳悟、成長して經書に潛み、廿四歲、江戸に至りて太田錦城に師事す、後幕府の醫學直舍の儒學となる、處士にして、教授となりし始なり、慶應二年九月十八日、年六十九にて歿す。

かい-ばしら　具柱　名　動物、軟足類の閉殼筋を取り、乾燥せるものこれなり。

かいばら-いきけん　貝原益軒　名　人名　學者、筑前福岡の人、名を篤信と云ひ、世々福岡侯に仕ふ、京都に入り、

松永尺五、山崎闇齋、木下順庵等の門に入り業を修む、著者頗る多く、初學訓、養生訓、女大學、慎思錄、小學備考大和本草、其他農業書、紀行文書等なり、正德四年八月年八十五、にて歿す。

がいひ 外皮 名 動物 上皮に同じ。

かい—ひざ 名 古語 手を膝下に入れて座すること。

カイピン Kaiping 開平 名 地名 一、支那廣東省肇慶府の一縣、二、直隸省遵化道の豊潤縣に近き一營、天津の東北にあり。

かいひん—しよくぶつ—ぐん 海濱植物群 名 植物 まはひるがは、はまなでしこ、はまなす、はまぎく等の如く、海濱に群落して、僅に水中に體をれき、體の組織厚く、葉も狹く、刺狀に變化して厚し、是れ 水を吸收して、容易に蒸發せしめざらむ爲めなり。

かい—ふ 開埠 名 港、埠頭に同じ。

かい—ぶ 海部 名 地名、佐渡西北の海濱のこと、內海府或は外海府と云ふ。

がい—ふう 凱風 颯風 名 南風 「南風謂之凱風」より出す。

かい—ふう 海風 名 地文 海軟風に同じ。

かい—ふん 海粉 名 食物、一、アメフラシ、ウミウシの卵を乾燥したるもの、支那に輸出す、二、海草の一種、色青く、はしのりに似たり。

かい—へい 開平 名 地名 蒙古の濼河の北岸に在り、唐憲宗五年桓州を置き、世祖此處に居し、中統元年開平府とす。

かいぼう—がく 解剖學 名 動物 動物の成體につき、器官の位置、構造及諸部の關係を論ずる學問なり、比較解剖學は諸動物の構造を比較的に攻究するものなり。

かいぼう—ふ 開封府 名 地名 清國湖南省治、明洪武元年北京とし、二年開封とす、河南布政司治たり、淸朝河南省治たり、乾隆四八年陽武 懷慶府に隷し、封邱に衛輝府に隷す、今二州十五縣と爲す。

かいぼく—いうしよう 海北友松 名 人名、畫工、近江堅田の人、名紹益、狩野永德に學び、朝鮮に往きて、宋人梁楷の筆意を學び、一家をなして歸朝し、後陽成帝の知遇を得、宸筆の御賛を辱ふせしこと數度、實に名譽と云ふ可し慶長二十年六月、年八十三にて歿せり。

かいぼく—じやくちゆう 海北若沖 名 人名 國學者、大阪の人 岑柏と號す 學を契沖に就きて修め、古學に精通せり、和訓類林の著者なり。

かい—みやう 戒名 名 佛語 法名、法號にれなしく、佛教にて人の死後につくる名。

かいめい—もんゐん 開明門院 名 人名 藤原定子のこと

かい—めん 海綿 Sponge 名 動物 單體又は群體を成して海中に產し、其形狀一樣ならざれども、上部に一大孔を有し體中の分岐せる主腔と疎通す、而して一種の骨格を具へ、二三細胞層より成り、外層は扁平細胞にて體軀の全面を袍ふ、又所々に球形の小空所ありて、襟細胞と稱する小動物附着し、2圖に示す如く先端に一纖毛を具へ、之を動めして水流を起さしめ流れ來る小有機物を捕食す、かくして周圍の小孔より吸水し、中央大孔より排水す、故に此體內は常に新鮮なる水循環をなす理なり。

かいめん—るゐ 海綿類 Porifera, or Spongida 名 動物 腔腸動物、海綿と全く同じく、出芽法及兩性生殖によりて生ずもの、ホッスガイ、カイラウドーケツ、マミズカイ、ユアミカイメン、ゾミ等の屬なり。

かいめんじよう—ろしき 海綿狀組織 Spongy parenchyma 名 植物 柵狀組織の下位にありて葉肉部を構成するもの其細胞の排列は不規則なり、故に大なる細胞間隙を有せり

かいめんじやう—はつきん 海綿狀白金 Platinum Sponge 名 化學 白金にして海綿狀をなせるもの黑色なり、製法—鹽化金と鹽化アムモニウムとの複鹽、($PtCl_4 \cdot 2NH_4Cl$)を熱すれば生ず、觸媒として必要物とせる。

かい—もん 戒文 名 佛語 佛教の戒の條章。

かいやう—たう 海洋島 名 地名、清國遼東半島盛京省の太孤山沖にあり、南北五哩、島頂千三百二十呎、近海は明治二十七八年役に於て、日本艦隊の支那北洋艦隊を擊沈したる古戰場なり。

かい—やざま 垣矢間 名 武具 戰時に、敵に見られざる爲め、墻を作り穴をあけて、射る仕掛のものを云ふ。

がい—ゆうせい 外游星 名 天文、木、土、天王、海王の四星を總稱して云ふ。

かい—よ 海芋 名 植物 草名、苗より生じ、葉極めて、大、紫色の裏面、夏秋の間、潭青色の花を開く。

かいよう 海洋 名 地文 地球表面を被へる廣大なる水を言ふ。

かい—よう 海容 名 度量の寬大なること。

かいらう—ざうけつ 偕老同穴 Euplectella 名 動物 海綿類、我可摸灘の深處に多く產するものにて、外見籠の如きもの、中空部分は palaemon 屬の小エビ二匹、棲息す

るを常とす、是れ佛老同穴の名ある所以、故に、夫婦の契りを云ふ、蓋し白樂天の詩句にあり。

かいらう—び 海老尾 名 俗にテンジンと云ふものにて、琵琶、三絃などの棹の頭の、伊勢海老の尾に似たるところの稱なり。

かいらく—いん 偕樂園 名 水戸烈公齊昭卿の設けられたる庭園、偕樂の字は、孟子に「古之人君與民偕樂、故能樂」とあるによる。

かい—り 海里 Knot 名 海上の里數、十六町九間餘を一海里とす、此十分の一を一インチと云ふ。

かい—り 海狸 名 動物 海獸、アフリカに產し、眼虎に似て小、尾は稽圓にして扁平、後趾に蹼ありて巧に水中を游泳す、牙大にして强く、木の皮及枝を食用とし、幹を以て海中に巢を作りて栖息す。

かい—り 解離 Dissociation 名 化學 化合物の陽イオンと陰イオンに分離すること、熱解離とは化合物が、熱の爲めに二種のイオンと分るゝこと、電離とは 溶液中にて二種のイオンとなりて存在するを云ふ。

かい—りう 海流 Ocean current 名 地文 大氣中の風の如く、海水太陽に熱せられ 一定の方向に流動する海水の運動を云ふ、赤道地方に熱せられたるものは高緯度の地に向ひ 海面を流る、卽ち暖流なり、極地の冷水は海底に沿ひて赤道地方に流る、卽ち寒流なり、黑潮は本島と小笠原島との間を流る、暖流、親潮は、千島より本島の東海岸に沿ふて來る寒流なり。

かい—りつ 介立 名 孤立すること。

がいりん—ざん 外輪山 Somma 名 地文 初めの火山の火口内に、更に新火山の噴出して、圓錐丘を造れる場合にありては、其外廓をなせる火口壁を外輪山と云ふ、箱根、阿蘇等の火山是れなり。

がい—りよく 外力 Outer agent 名 地文 水、空氣、生物の營力等の如く、外界より來りて、種々の營作を地球上に施す力、是れなり。

カイロ Cairo 名 地名 アフリカのエジプトの首府ナイル河の左岸にありて、アフリカ最大の都市、大學、博物館あり、交通の便よく商業盛なり。

かい—ろ 薤露 名 歌 支那にて 貴人の柩を挽く時に歌ひしもの、是れ漢の田橫の死を悼みて作りし挽歌なり。

かいろう—どうけつ 偕老同穴 名 動物 外見龍の如く、中空部分に、小なる蝦二匹棲息す、「かいめん」の一種にして我國相換灘に多し。

がいろ—わう 蓋國王 名 人名 王、百濟王昆有の長子、嗣いで王となり、在位二十一年間 二十二年高勾麗臣璉の爲め 殺さる、時に宋の元徽三年なりき。

かいわう—せい 海王星 名 天文 太陽系中第八位卽ち、最外界にある遊星、太陽を去る十一億里、直徑一萬四千里 太陽を一周するに 百六十八年を要す。

がいわく—せい 外惑星 Superior planet 名 天文 がいゆうせいにたなし。

かう 名 かみの音便、督、長官ともかく、卽ち衛門府の兵衛府の長官を云ふ、かうの君、かうの殿と云ふこれなり。

かう 更 名 一夜を五期に分つ、初更を戌(今の午後八時) 二更を亥(午後十時) 三更を子(夜半十二時) 四更を丑(午前二時) 五更を寅(午前四時)とす。

かう 郊 名 一、邑外のこと、二、支那の天地の祭名、冬至には天を南郊に祭り、夏至には北郊に祭るなど云ふ。

かう 皐 名 岡(をか)のこと。

かう 毫 名 尺度 一厘の十分の一。

かう—あはせ 香合 名 多く茶道の共に行はる遊びの一にて、種々の香を焚きて 何香なるを鳴ぎ知りわふこと。

かうあん—てんわう 孝安天皇 名 人名、人皇第六代の天子、孝昭帝第二皇子大日本足彦國押人(おしやまとたらひこくにおしひと)と申し、母を世襲足媛と云ふ、紀元二百六十九年より百〇二年間在位、壽百三十三 崩御。

かう—い 更衣 名 一、てろもがへ、二、天皇の御衣を更へさせ給ふ便殿に伺候する女官、三、後 五位の位を賜はり女御に次ぎ列するに至る。

かう—う 衡宇 名 一、木を構へたる軒、二、粗末なる家。

がうう—が—やま—な—ぬくちから 項羽が山を抜く力 同 支那楚の項羽、漢高祖と天下を爭ひ 垓下に圍まれたるとき 夜密に酒を飲み、歌ふて曰く「力拔山兮 氣蓋世、時不レ利兮 雖不レ逝云云」と卽ち是れなり。

かう—ぐい 康永 名 年號 紀元二千〇二年より三年間光明天皇の御代。

かう—ぐう 康應 名 年號 紀元二千〇四十九年にわたる、後小松天皇の御代。

かう—か 降霞 名 赤色の霞、春季山の端の赤く照りて、棚引ける霞をいふ。

かう—が 降嫁 名 皇女の、親王家と御結婚なること、王女の華族と御結婚なること。

がう—が 豪才 名 一、强梗にして 人の云ふことなど、聞き入れぬこと、唐書元結傳に「能學整牙、保宗而全家、自號二豪夏一」とあるも此意なり、二、文辭の用方の平易ならぬこと、韓愈進學解に「周語殷盤、佶屈聱牙」とあり。

かう—がい 沆瀣 名 海氣、露氣、北方夜半の氣。

かう—がい 笄 名 一、古は男女共に髪を掻き上ぐるに用ゐし細長き具、二、刀或は合口などの鞘に挿みわき、職場に出でて、敵の首を取りたるとき、その耳にさして、己れの取りし印とせり。

かうがい—びる 笄蛭 名 動物 虫類、匍行するとき、體形、細長くして、かうがいに似たり、色は黑或は淡黃色にて 多〻深山等の木に棲む。

かう—かう 耿耿 副形 光り輝々として鮮明なること、又不安の狀を云ふ、楚辭に「夜耿々而不寐兮」とあり。

かう—かう 皇皇 副形 一、顧遑にて理を知らざるもの。二、明白なること。

かう—かう 灝灝 副形 水面、地面の大なる狀を云ふ。

かう—かう 杲杲 副形 日光の明なること。

かう—かう 昂昂 副形 一、高尚なる志、二、馬の行く樣三、衆拔の貌、晉書に「昂昂然若二野鶴之在二雞群一」とあり

がう—がう 敖敖 副形 長き貌にも 欣然たる貌にも云ふ。

かうがう—し 肅肅し 形 かみがみしの音便、たふとし、かみさびてある貌。

かう—かけ 首懸 名 馬具、馬の頭部に、横にわたしてかくる革を云ふ。

カウカシアン Kaukasian 高加索 固 人名 世界三大人種の一、歐州全部 インド ペルシア アラビアに住むもの皆之に屬し、皮膚白く、毛紅く 柔にして縮み、鼻は狹くして高し。

カウカソス Kaukasos 名 地名、ロシアの一山系、黑海とカスピ海との間、東南より西北に亘り、ヨーロパとアジアとの境界をなせり、全長八〇〇〇哩、東、中、西の三部とす、最高峯をルアエルーズ及カズベクとし、ダニアル及デルベントを主なる通路とす。

かう—がふ 香合 名 香匣、香盒ともなしく 香を貯へたく器具を云ふ。

ガウガメラ Gaugamela 名 地名 古戰場、インドのチグリス河の左岸にある地、紀元前三三一年十月アレクサンデル大帝の、ペルシア王ダライアスを驅ちし所。

かう—き 綱紀 名 天下の政治、一、凡そ 綱領之を張るを綱と云ひ 之を理むるを紀といふ 故に國家を張量經理する意、二、綱は大づな、紀は小づな 故に國家の法度のことを云ふ。

がう—きう 强弓 名 つよきゆみのこと、本邦にて 四三貫の重量をかけて、僅か挽むはどのものを云ふ。

かうき—じてん 康熙字典 名 書名 漢字の辭書、清國の

康照帝の勅撰に係るものを云ふ。

かう—きやう 孝經 名 書名 著者不明、十三の經一、孔子の弟子曾參の 孔子より受けし孝道の大意を載す。

かう—きよ 薨去 名 親王以下三位以上の貴人の死せることを云ふ。

かう—ぐわ 高臥 名 自ら高しとして 世を隱遁して居ること、晉書の一句に「應遂朝旨、高臥二東山一」とあり。

かう—げつ 皐月 名 暦語、陰暦五月のこと。

かう—げん 康元 名 年號、紀元一九一六年、後深草天皇の御代。

かうけん—てんわう 孝謙天皇 名 人名 人皇第四十六代の天子、聖武帝の皇女高野、又阿閉(あへ)と申す、紀元一四〇九年より十年間在位。

かうげん—てんわう 孝元天皇 名 人名 人皇第八代の天子 孝靈帝の太子 日本根子國彥泰(やまとねこくにくる)と申す、紀元四四七年より五七年間在位、壽百六、九月二日崩御。

かうげん—れいしよく 巧言令色 同 愛敬を顏に見せて、口まへをよくすること、巧言は もの言ひを好くすること 令色は其顏色をよくすること。

かう—こ 江湖 名 世間のこと。

かう—ご 香壺 名 香具を入れおくつぼ。

かう—こく 抗告 名 法律 裁判所の判決を不當とし、更に上告すること。

かうご—けいさん 交互計算 名 法律、定期間を 互に差引計算して その債權債務を消却すること。

かう—ごじやう 高五常 名 人名 在原行平（ありはらゆきひら）を云ふ。

かうこつ—るゐ 硬骨類 名 動物 脊推動物、魚類、骨硬く、鱗は極めて薄すく 翼風狀に並列す、尾は平等、卵を產すること極めて多きも、成長すべきものは其何萬分の一二に過ぎずと云ふ。

かうこ—にわろく 好古日錄 名 書名 古代の事物の考證をしるせるもの、藤原眞幹之を著す。

かうさいくわん—しほ 交際官試補 名 役名 外務省の屬官、外國交際のことを見習ふもの、奏任五六等の官とす。

かうさか—まさのぶ 高坂昌信 名 人名 武士、源五郎、彈正と云ひき、甲斐の人、歲十六、武田信玄に仕へ、永祿四年、高坂の家を嗣はり鬚ひ、昌信と云ふ、天正六年 年五十三、歿す。

かうざき—じんじや 神崎神社 名 地理 下總國香取郡神崎驛にありて 面足尊及惶根命を祀れり。

かう―さく 告朔 名 昔 百官の行事を印して毎月 天覽に供せし公事なり。

かう―ざま―に 斯樣 副 かくあるさまに、かやうに等の意なり。

かう―ざん 衡山 名 地名 支那の山、或は云ふ支那の南方地、山海經に南海之丙有二衡山一とあり。

がう―さんぜ 降三世 名 佛語 明王の一、三面八手、貪嗔 痴の三毒を制し 東方を守るものこれなり。

かう―し 講師 名 一、學問を人に教ふる人、二、歌會の批評などするとき、其歌をよみあぐる人、三、諸國に置かれし國分寺の住職、一國の僧尼を取締るものをもいへり。

かう―し 鳴矢 名 一、かぶらや 二、支那の射法に 第一に此のかぶら矢を用ゐしより第一番となること、事のはじめとなることを云ふ。爲初三盲史之不仞三樂師之鳴矢一とわう。

かう―じ 鏗爾 副形 琴瑟の聲、金石の響、からりと響き渡る聲を云ふ。

かう―じ 勘事 名 かんしの音便、古語、勘當、勘氣におなじく、惡事をなしたる人を、咎め責むること。

かう―しき 香敷 名 香を焚く時に用ゐるもの、通常雲母の薄片などにて造り、炭火の上にれくなり。

かうし―ろうにく 行尸走肉 回 無智 無能、無神經などのこと、人となり謝劣、死尸の行くが如く 死肉の走るが如くと云ふ意、拾遺に記「任末曰 人不レ學者 雖レ存乃行尸走肉」と云へり 則ち此意なり。

かうし―でん 高士傳 名 書名 支那晉以前の高名なる隱者の傳を集めたるもの、支那晉の皇甫謐の著なり。

かう―しん 弘眞 名 人名 名僧、後醍醐天皇の叡旨を奉し 北條高時を討つ議に與り 事發覺して 流刑に處せらる、正平十二年八月 寂す、氏は梵書を好み、畫を能す。

かうしん―かう 降眞香 名 琉球、支那、暹羅等に産する木にて作れる香料なり。

かうしん―じ 庚申寺 名 地理 遠江國鹿玉郡鹿玉村にある禪宗臨濟派の一寺、境内に庚申尊天を安置し 之を庚申堂と云ふ。

かうしん―の―よ 庚申夜 名 庚申の日に當る夜、この夜信者は三猿を祭り、寢ぬれば災ありとて、終夜寢ぬす、これを庚申待ちと云ふなり。

がう―しや 郷社 名 神格 第四位にて 府縣社の次位。

かう―しやう 康正 名 年號 後花園天皇の御代、紀元二一一五年より二年間。

かうしやう―ぜんじ 興聖禪師 名 地理 山城國宇治郡の

宇治佛德山興聖寶林禪寺を云ふ、僧道元の開基、中興の祖を萬安とす。

かう―しゆ 甲首 名 甲冑をつけたる武者の首を云ふ。

かうしよう―ざん 高勝山 名 武具、兜の一種、明銀、應永頃より始まりし、鉢わきをつぶし、山を高くし、人の頭と同じ形にし、頂上をせまくせるものこれなり。

かうしよう―の―くわん 高勝鐶 名 武具 兜のうしろにある鐶。

かうじ―な―かうじて―ぜんてい―な―とふことなかれ 好事を行して前程を問ふこと勿れ 文 是れ支那清獻公の座右銘にして「よき行ひをなすに當りては 報を得んと思ふことなかれ、善行と見れば、直に行へ」と云ふ意なり。

かう―す 幸 國佐 貴人の其の侍女などを愛すること。

かう―す 幸 國佐 みゆきすにれなしく 天皇の御出のことを云ふ。

ガウス (Gauss) 名 人名 數學者天文學者、西紀一七五年ドイツのブランスウイクに生れ、四〇年間ゲッチンゲンの天文臺長たりき、磁氣學に於て有要なる發明をなし 西紀一八五五年歿せり。

かう―すゐ 香水 名 一、神佛の供水、二、眞宗信者のかみそりを頂くとき、その頭上に、ふりかくる水を云ふ。

かう―すゐ 硬水 名 化學 總て多量のカルシュム鹽類を含有するものを硬水と云ふ、硬水に二種あり卽ち一は炭酸カルシウムを含有するもの、之を煮沸し若くば之に適量の石灰水を混合すれば水中に含有する炭酸カルシウム及硫酸カルシウムは沈澱して容易に軟水と爲る、之を一時の硬水と云ふ、二は硫酸カルシウムを含有するもの、之を煮沸し或は石灰水を加ふるも軟水とも爲らず、之を永時の硬水と云ふ。

かう―すゐ 交綏 名 敵味方相共に疲勞して、相引きに陣を引くこと 左傳に「晉人從二秦師於河曲一交綏」と云へり。

かうせい―ねん 恒星年 名 天文 地球は 四より東に向ひ、太陽の周圍なる軌道を運行するに一秒時間凡一里半の速力を以て飛行す、全軌道を一周するに三百六十五日六時九分十秒を要す、之を恒星年と云ふ、太陽年と異なるは春分點に移動を生ずるためなり。

かうせう―てんわう 孝昭天皇 名 人名 人皇第五代の天子、懿德天皇の皇子觀松彦殖稻(みまつひこかゑしね)と申す 母を天豐津姫、紀元前八六年より八十三年間在位、壽九三 八月五日 崩御。

かう―せき 梼責 名 犯罪人をきびしく責むること。

かうせん―じ 神峯寺 名 地理 攝津國島上郡清水村神峯

山にある天臺宗の寺、天武天皇の創建にて行基の作りたる長五尺の毘沙門天あり。

がうせん—せい 鄉先生 名 村夫子とも云ひ、士大夫にて仕を退き、鄉に歸りて、子弟を教授するものを云ふ、儀禮の疏に「鄉有二鄉學一、取二在鄉中之大夫一爲二大師一、致仕之士、爲二小師一、名曰二鄉先生一」とあり。則ち此意なり。

かうぜん—の—き 浩然之氣 名 一身の元氣 ひろびろしたる氣、孟子に「我善養二浩然之氣一、敢問何謂二浩然之氣一、曰、難レ言也、其爲レ氣也、至大至剛、以直養而無害、則塞二天地一間一」とあり。

かう—ろ 高祖 名 一、一宗一寺の開祖の稱、高祖親鸞、高祖日蓮等の如し、二、五代前の先祖、三、後變して單に先祖を高祖と云ふに至れり。

かう—ろ 控訴 名 法律、第一審の裁判を不服として、更に上級裁判に訴へ出づること。

かうぞ 楮 名 植物 灌木類、皮を以て紙を製す。

かう—ちつ 江帥 名 人名 大江匡房のことなり。

かう—ぞり 髮剃 名 佛語、眞宗のわかみそりのこと、卽ち 戒師の、戒を授けて出家する者の髮を剃り落すこと。

かうたい—じ 高麗寺 名 京都東山にある禪宗臨濟派の一寺なり。

かうたい—よりあひ 交代寄合 名 德川時代、臣下にして一萬石未滿の者の稱。領地にありて 年限を定めて、參勤交代することより云ふ。

かうだい—ゐん 高臺院 名 人名 北政所、豊臣秀吉の正室、淺野長政の從妹、常に秀吉を助けて、力ありき、寛永元年九月歿す。

かう—だて 甲立 名 多く 神佛の供物に用ゐるものにて盛物の廻りに、紙にて折形をして付くることある折形。

かう—たん 降誕 名 神佛 國王、高僧、偉人などの 此世に生るることを云ふ、降世にもなし。

かうたん—ゑ 降誕會 名 一、四月十五日釋迦の降誕日を祝する法會、灌物會と云ひしも明治二十一、二年頃より此名にせり、二、五月二十一日 見眞大師(眞宗の開祖)の降誕日を祝する法會、これも明治二十年頃より始まれり。

かう—ち 高知 名 地名 土佐國土佐郡の海岸にありて、高知縣廳の所在地なり、元、山内氏の藩地なりき、浦戸港に枕み、市内の商業頗る盛、土地溫暖にして夏季雨多し。

かうち 交趾 名 陶器 今の安南に產せしものにて 本邦に渡りし陶器の一種、青磁燒多し。

かうち 麴 名 植物、かんだち、かばらとも云ひ 米より酒、醬油を造る原料なり 米麥等を蒸し室中にねき 黴花

生を作せしめて作るなり。

かう—ちう 膠柱 名 きのきかぬこと 臨機應變の處置の出來ぬこと、柱はことなり、琴柱を膠にてつくれば調子を整へ、又變ずること能はず、故に、變化なきものをもあるべきものをも 同樣の律にねかむとするなり。

カウヂウム Caudium 名 地名 イタリアのベチベントの西南方アツピリス街道に沿へるサムニテの舊市、此近傍の狹路は西紀前三二一年ローマ人のサムニテ人を包圍攻擊せし地。

かうち—は—せつろくに—しかず 巧遲不如拙速 文 事をなすにあたりて遲疑せんは たとひ巧みなりとも 拙にして決行するものには 如かずとの意なり。

かうぢまち—く 麴町區 名 地名 東京市の一區、宮城其他諸官省等皆此地にあり。

かう—ちやう 綱丁 名 古語 貢物を運送せる人夫の長、三代實錄に「中年輸貢調庸雜物、色數非少、而民弊人疲、未進狼藉、實是綱丁犯盜。」

かう—ちやう 考定 名 古語 公事、年毎に 六位以上の人の勢能、行狀、功勞などを考へて、その位階を進むることを定むることなり。

かうづけ—の—くに 上野國 名 地名、東山道十三國の一群馬縣に屬し 十七郡より成る、則ち 利根、南北勢多、吾妻、東西群馬、碓氷、南北甘樂、多胡、緣野、片岡、那波佐位、新田、山田、邑樂なり。

かうづ—しま 神津島 名 地名 伊豆七島の一、周圍五里三十三町、上津島、高津島、神集島とも書く。

かう—てい 扛鼎 名 强力 大力、などのこと、史記項羽本紀「力能扛鼎」とあり。

かう—てん 昊天 名 ひろき空 大空のこと。

かう—でん 香奠 名 線香料のことにて 吊ふための贈物

かう—ど 硬度 名 鑛物 硬の比を云ふ、現今の鑛物中金剛石を以て最大硬度のものとす。

がう—とう 鼈頭 名 一、頭書とも云ふことにて、書物の本文の上欄に註を加へたるもの 二、考課にて第一等に級第したるものを云ふ。

がうとう—くじき 鼈頭舊事記 名 書名 舊事記の異本を集め校正し 古書にて闕文を補ひ 誤字を正したるもの、山口延佳之を著す。

がうとう—こじき 鼈頭古事記 名 書名 古事記の異本を集めて校正し、誤字を正し、缺語を補ひ、行文を刪り、訓點を加へたるもの、山口延佳之を著す。

かうとう—はふゐん 高等法院 名 裁判所、國事犯の者を

審判する爲め、一時　特別に設くること。

かうとくーじ　高德寺　名　地名　上野國邑樂郡大川村にある眞言宗の寺、義時法師の開山に係れり。

かうとくーてんわう　孝德天皇　名　人名　人皇第三六代の天子、皇極帝の同母弟輕(かる)と申す、紀元一三〇五年より十年間在位、壽五九、白雉四年崩御、帝の在位中は大化改新の行ばれ、始めて年號を大化とせられたり。

かうと—しして—りやうく—にらる　狡兎死、「良狗烹　文　役に立つ間は用ひらるれど、その用がすめば　捨てらるるを云ふ、史記に「狡兎死良狗烹、高鳥盡良弓藏、敵國破謀臣亡」とあり、則ち此意なり。

かう—とどく　江都督　名　人名　大江匡房のこと、太宰權帥たりしより云ふなり。

カウニッツ　Kaunitz　名　人名　政治家、紀元一七一一年オーストリアのウィーンに生る、カロロ六世幷にマリアテレサの朝に仕へ、一七四八年アーヘンの會議、七年戰爭の時、外交家として名聲嘖々たりき、一七八四年死す。

かうね—しま　高根島　名　地名　安藝國東南方にある島、周圍二里二十六町なり。

かう—の—きみ　督頭　名　古語　かんのきみのこと。

かう—の—けむり—に—かたち—な—みる　香の烟に形を見る　文　故事、漢武帝李夫人の死を甚だ悼み悲みて　反魂香を燒きしかば　烟の内に夫人の形顯はれたりと云ふ。

かうの—げんざう　河野顧三　名　人名　俠義に富める人、下野吉田の人　名通植、字壬威、越智通弘と云ひき、文久二年正月十五日、坂下門外にて、安藤信正を要擊し、事成らず、衛士に殺さる、年二五。

かう—の—こし　香輿　名　葬式の時に用ゐる　香を載する輿なり。

かうの—ひたたれ　香の直垂　名　香染の直垂、香染は紅黑くして黃を帶びたる色なり。

かう—の—しま　神島　名　地名　備中國南方海中にある島周圍四里二十六町あり。

かうの—じよさい　河野恕齋　名　人名　學者、蓬池侯の舊吏、名子龍、字伯潛、通稱黑右衛門、詩、文章に巧み、博學にして諸子百家の書より　野乘に至るまで　讀まざるものなし、安永八年二月年三十七にて歿す。

かうの—どがま　河野敏鎌　名　人名　政治家、山內侯の臣性卓落不羈、勇斷果決、然かも氣節あり、維新の際、大に勤王節義を唱へ　一時獄に下されしも、明治政府に仕し、文部、內務、司法の大臣を經、廿六年十一月華族に列し、子爵を賜はる　廿八年四月二十四日　年五十二にして薨去。

かうの—みちあり　河野通有　名　人名　勇者　伊豫の豪族孝靈天皇の皇子伊豫親王の後胤　道機の子、驍勇にて膂力あり、對馬守たり、弘安の役　元の一將を虜にし首を闕下に献したり。

かうの—みちもり　河野通盛　名　人名、驍勇、通有の子、北條高時に仕へ　後足利尊氏に降りて伊豫守たり、貞治元年死す。

かう—ば　行馬　名　馬防、敵の騎兵の進行を妨ぐ爲め、陣前に散布せる、長さ五六尺の材に、鐵釘を附したるもの。

かうはい—せい　抗排性　名　心理　墨と雪との如く相反するものを以て記臆する作用なり、凡そ心意は常に　二種の作用を以て歸往の事實を記臆す、其一は同類相連續して記臆するもの、第二は異類相反したる上に記臆すること、卽ち抗排性なり。

かう—はう　康保　名　年號　紀元一六二四年より四年間

村上帝の御代。

かう—ひ　孝妣　名　考は死せる父、妣は死せる母、禮記に「生曰三父母一死曰三考妣一」とあり。

かう—ぶし　香附子　名　植物　初夏、三稜ある中空の長き莖を出し、先端に二三牧の葉を生ず　堅くして光澤あり、青花を開き　穗を出して小果を結ぶ。

かうぶ—しよ　講武所　名　一、武術講習所に同じ、二、東京市神田區旅籠町は、德川時代の武術演習所なりき。

かうぶん—ざくら　香芬櫻　名　植物　禾本科木本　白花、の八重櫻にして香氣郁馥たり。

カウフマン　Kaufmann　名　人名　畫家、四紀一七四七年オーストリアのチロールに生れ　畫を以て衆目を引きし、アンジェリカカウフマン此人なり、後ロンドンに來りて帝室技術員となる、一八〇七年死せり。

カウフマン　Kaufmann　名　人名　將軍、四紀一八一八年ドイツに生れ　ロシアの將軍となり、ロシアの中央アジアに勢力を扶植するに與りて力ありき、一八八二年卒す。

かう—ふよう　高芙蓉　名　人名　書畫家、甲斐名取の人、名、孟彪、字繻彥、通稱大島逸記、性銳敏、諸藝に通じ篆刻を以て名聲嘖々たりき　晩年宋戸侯に仕へ儒官となり天明四年四月　年六十三　江戸に歿す、我邦の印章の技、芙蓉によりて大に一變新をなせり。

かう—ぶり　冠　名　一、かんむりのこと、二、古語　うひかうぶりのこと、三、古語　位階(ゐかい)とれなし　古人に冠を賜ひ　其品を以て　高下の區別とせられたるもの

かうぶる　被　動四　古語　かかふるの音便なり。

かう—べ　神戸　名　地名　攝津國八部郡の東南に位せる一

市、本邦五港の一、貿易業の盛なること横濱に次ぐ、又東海道鐵道の終點地たり。

かう—へい 康平 名 年號 紀元七一七一八年より七年間、後冷泉天皇の御代。

かう—べん 高辨 名 人名 高僧、紀伊國有田郡の人、明惠と称す 寛喜四年正月十五日年六十にて寂す。

かうべ—な—めぐらす—うた 首頭歌 名 古語 せどうかにたなしく 五七五七の句を二度重ねたる歌を云ふ。

かう—ぼく 香木 名 沈香、伽羅、白檀、などの如くにほひのよき木のことを云ふ。

かう—ぼね 川骨 名 植物、かはほねのこと、夏秋の間、池中の水上に莖を出し、葉は芋に似て細長く、厚し、黄色の花を咲く、五瓣にて形梅に似て大なり。

かう—ぼり 蝙蝠 名 動物 古語 かうもりのこと。

かうん—せい 霞雲星 名 天文 宇宙には恒星の外 圓き微白色の光りに取り卷かれたる恒星ありて 微白色光は恒星の周圍に鮮明にして 遠ざかるに從ひて薄し、是れ卽ち霞雲星なり。

かうんせい—せつ 霞雲星說 Nebula hypothesis 名 地文 此の宇宙間には始め 霞雲星と云ふ一團の瓦斯體ありて、極めて高溫度を有し、四より東に向ひて回轉しつゝ、ありしが、運行中遠心力を以て分離し 其の周圍に帶狀の環を作り、切斷せられて一所に凝集し 一團となりて同一の方向に、中央の瓦斯體を中心として廻轉せり、中央體は卽ち太陽にして、周圍を分離するもの卽ち 遊星なり、我地球も此の一にして 此の說は十八世紀頃 カント及びラプラスの唱道せし想像說なり。

かうぬい—てんわう 孝明天皇 名 人名 人皇第百二十一代の天子、仁孝帝第四皇子統仁(たさひと)と申す、紀元二五〇七年より二十一年間在位、母を藤原雅子と申す、明治元年一月三十日 壽三十六にて崩御。

かう—ぬん 高兎 名 御兎にたなしく、長者のゆるしを受くることの敬語。

かう—もん 衙門 名 粗木なる家、蓋し 二本の柱を立て上に一本の笠木を渡してつくれる門の意より出でしなり、詩經に「衙門之下、可二以棲遲一」とあり。

かう—もん 皐門 名 高き門のこと、禮記に「天子皐門」とあり、則ち此意なり。

がう—もん 拷問 名 犯罪人をして實を吐かしめむ爲め、苦痛を與へて問ひ糺すこと、武家時代に用ゐられたり。

かう—もり 蝙蝠 名 動物 哺乳類、獸類、全身帶黑茶褐色、頭部は鼠の如く、四脚の中 前脚は變じて鳥の翅の如く 指間に皮膜ありて、空中に飛ぶに適す、眼力極めて弱く 黄昏に至りて 出で來り 蚊蚋を食ふなり。

かうやさ—しま 香燒島 名 地名 肥前國西南方の海中にある島 周圍三里三十町あり。

かうや—さん 高野山 名 地名 紀伊國伊都郡にある金剛峰寺のことにて 南山とも云ふ、僧空海卽ち弘法大師の開きしもの。

かうや—てんわう 廣野天皇 名 人名 稱德天皇のことを申す、これ 大和國高野山陵に葬り奉りし故なり。

かうや—ひじり 高野聖 名 人名 僧、紀伊國高野山より諸國勸化の爲め出づる僧のことを云ふ。

かうや—ひじり 高野聖 名 動物 水爬虫、田龜とも云ひ 脊は帶黑色甲を以て掩はれ 六脚あり前二脚は長く 先端に鋏を有し 小魚を挾み捕ふへて食す、眼は黑色にて突出せり。

かう—ら 高良 名 地理 山城國男山郡八幡宮の麓にある社、上高良、下高良の二社に分る。

かう—らい 高麗 名 地名 こまとも云ふ 太祖神聖王の建國せしもの 三十四代 四百五十六年に滅ぶ 時に我紀元二三四年なりき。

かうらい—うぐひす 高麗鶯 名 動物 脊推動物、鳥類、燕雀類、頭脊は黄綠色、腹部白色、恰もころがる如き調子に囀る、多く人の愛するところとなり、籠飼せらる。

かうらい—ぜきしやう 高麗石菖 名 植物 草類、錢蒲びろれとせきしやうとも云ひ 葉の細小なる愛らしき石菖の一なり。

かうらい—ろでがき 高麗袖垣 名 竹をまだらに 筋違に組みたる袖垣を云ふ。

かうらい—べり 高麗縁 名 疊の縁 白麻布に 黑又は紺の摸樣を染め出して寺院、神社、又は高貴の家などに用ゐらるもの 素 白地に雲形、蘭花などを黑色に織り出し、宮中親王家 大臣家などに用ゐ 大摸樣を用ふ、小摸樣は公卿の用ゐしものゝ〻せり。

かうら—ざん 高良山 名 地理 筑後國御井郡の東南隅、不濡山、高牟禮山と云ふ。

かうら—じんじや 高良神社 名 地理 筑後國御井郡御井町にある一社、高良玉垂命を祀れる國幣中社なり。

かう—らん 高欄 皐闌 名 一、高き欄干、二、澤に生ずる闌を云ふ。

かうりうじ—の—みささぎ 香隆寺陵 名 地理 山城國葛野郡衣笠村にある 二條天皇の御陵なり。

がうり—の—さ—せんり—の—あやまり—な—いたす 毫釐

差致千里ヲ謬　文　物事の始めを慎めとの意　始めの少きちがいも　終には大なるわやまりとなる故なり、禮記に「易曰、君子愼始、差百亭釐　繆以千里」とあり。

ガウリサンカル Gaurisankar　名　地名　エベレストとも云ひ　インドのヒマラヤ山脉の一山　最高峯、二九〇〇二呎　又世界中最高山なり。

かうりん—るゐ 硬鱗類　名　動物　脊椎動物、魚類　皮膚は硬鱗を以て蔽はれ、珠瑞質にて光澤あり、是れ硬鱗類の名ある所以なり、鰓は櫛狀にして側面に各一孔を有し、尾は不正なり。

かう—りやうさい 高良齋　名　人名　醫、名謨　字子清、鄂淵と號す、長崎に往いて、蘭醫シイボルト氏に學び、眼科を能くす、性廉直、實踐窮行を德とす、弘化三年九月年四十八にて歿す。

かう—りやく 康曆　名　年號　紀元二〇三九年より二年間　後圓融天皇の御代。

かうりよう—うんむ—ぬ—う 蚊龍雲霧を得　文　蚊龍は蚓龍とも云ひ、未だ池中にありて天上せざるもの、故に人傑の時を得て天下に雄飛することを意味せり。吳志に「劉備非ヲ久密安ニ人用一者。恐蚊龍得二雲雨一、終非二池中物一」とあり則ち此意なり。

かうりよう—の—くい 亢龍之悔　句　十分の德なくして、高位に上るものを戒めたる語、亢は高、人の貴顯の地位に至り戒愼せざれば　高きに過ぎたる龍の如く　再び落入るの悔あればなり、易に曰く亢龍有悔と　此を云ふなり。

カウルバハ Kaulbach　名　人名　畫家、西紀一八〇五年ドイツのロルデックに生れ　コルチリオに畫を學び　フレデリキ四世の朝に其手腕を振ひ、新派の領袖となりし、ウイルレムカウルバハ其人なり　一八七四年歿す。

かう—れい 綱領　名　要領　がんもく等にたなしく、たはもとのすぢみちのこと、綱の大綱衣の領とは　共に必要なるもののゆゑなり。

かうれい—てんわう 孝靈天皇　名　人名、人皇第七代の天子　孝安天皇の太子大日本根子彦太瓊（たはやまとねこひこふとに）と申し　母を押媛皇后とす。紀元三七一年より七六年間　壽百六、二月に崩御。

がうれい—の—ろくもつ 號令六物　名　武具　支那の將校戰場にて　兵士に指圖するに用ゐる六個の具　即ち角　革　金　麾　旗　幟とす。

かうれん—たい 香奩體　名　詩　宮詞、竹枝の類にて　支那宋の韓偓の始めたる詩の一體を云ふ。

かうろ—ぼう 香爐峰　名　地理　支那の山、白樂天詩のに

「香爐峰雪捲簾看、遺愛寺鐘欹枕聽」とあり、則ち此山なり。

かうろ—やま 香爐山　名　地理、山城國男山のこと。

かう—わ 康和　名　年號　紀元一七五九年より五年間　堀河天皇の御代。

かうわう—さう 項王草　名　植物　草本、苗より生し　五月十月間に　單瓣黃色花を開き　小さき莢の實を結ぶ。

か—ない 嘉永　名　年號　紀元二五〇八年より六年間、孝明天皇の御代。

かを—せん 替錢　名　今日の爲替法に同じく　甲地より手形を組み　約束の地にて　錢を受取るなり、是れ鎌倉時代に行はれたり。

ガエタ Gaeta　名　地名　イタリアの南方にある海港、城砦を築く、ナポリの西北五〇哩、人口一萬七千餘、人民は多く漁業を業とす、古代　ローマの貴族の海水浴場たりしを以て　景色絕佳なり。

かをん 火焰　名　化學　焰の條下を見よ。

か—たう 嘉應　名　年號　紀元一八二九年より二年間　高倉天皇の御代。

か—たう 可翁　名　人名　畫僧、筑前の人、元に往き居ること十年、宋の畫風を學び、禪旨を味ふ、後南禪寺に入り傍ら畫を以て樂とせり　貞祖元年四月廿五日寂す。

カオードンレク Kao Donrek　名　地名　インド支那半島の山脈。

か—か 哥哥　代　支那の俗語、貴兄とか、他人を敬ひて云ふ。大哥、老哥、阿哥皆同じ。

か—が 加賀　名　地名　石川縣に屬する國にして　弘仁十四年三月越前の二郡を割きて置かれしもの、永延の初　富樫忠賴　國政を取り、建武中興の時、大納言師基國司たり後本願寺に屬し　秀吉の時　前田利家此中を領し　德川家康の時、全部を與へられ　能登守を兼ねて維新に至る、明治四年新潟縣をわかれ、五年石川縣となる。

か—が 夏芽　Summer　名　植物　春生じ秋枯るる草木の芽を云ふ　特に寒氣を防ぐ必要なき故　鮮狀葉なく　最初より綠色を呈す。

が—が 峨峨　形　山の高き貌、岩石のかどかどと聳ゆたる貌。

か—がい 花蓋　Perianth　名　植物　蕚花冠の互に其色を同くし區別し難きものを稱して　花蓋と云ふ　分離、合着の二種あり　例へば百合、燕子花、かきつばた）の如きものこれなり。

かかい—は—さいりう—ぬ—ながれ 河海不擇細流　文　人を取るに　廣くすべきことを意味す。「河海不擇二細流一

故能就二其深一王者不レ却二衆庶一故能明二其德一」と云ふことわり。

かが—いも 蘿蔔 名 植物、蔓性植物、春末舊根より 苗を出し、楕圓形の末尖りたる葉を有し、小なる紫色の五瓣花を開く、後實を結び 青色柔軟なる殼を被り、降霜するときは種落ちて綿狀白色のものを出す、卽ちぱんやと云ひて蒲團に入れ 莖は綿弓の弦とす。

か—がう 化合 Combination 名 化學 二種或は二種以上の物體の結合して 各其特有の性質を失ひ、新に特有の性質を有するものを生ずることなり。例へば 水素と酸素と結合して 電氣の力を以て火花を出して 水となる 此水は水素或は酸素に比較するに少しも同じき所を見す 全く別のものとなれり 卽ちこれ化合なり。

かがう—ぶつ 化合物 Compound 名 化學 二種或は二種以上の物質に分解し得べきものを云ふ、例へば水は水素及酸素に分解し得べく、硫酸は 水素、酸素及硫黃に分解し得べし これ卽ち化合物なればなり。

かが—きく 加賀菊 名 植物 菊科草本、紫衣菊とも云ひ通常の菊の如き葉を有し 淡紫色の八重花を有す。

か—がく 家學 名 父祖傳來の學問を云ふ。

が—がく 雅樂 名 本邦上古よりの歌舞唐より中古時代に渡れる唐樂、高麗より渡れる高麗樂の總稱にして 朝廷の大禮には常に用ゐられたり、大寶の制には 治部省の下に雅學寮ありて之を管理せり。

かがく—さがう 化學卽號 Chemical Symdol 名 化學 各元素及元素の原子量を表はす符號なり、Oは酸素なることと 酸素の原子量十六なることを示すが如し。

かがく—こつ 下顎骨 Mandible 名 生理 下顎を成す骨なり、通常、哺乳類にありては、一個を有すれども 蛇類の如きに至りては二牧より成り、左右各々の作用をなすものあり、何れも皆、上顎と共に口をなし、多く齒を有して食物を咀嚼するに必要とし、又人類にありては 言語を發する上に於て最も必要なるものとす。

かがく—さよう 化學作用 Chemical action 名 化學 二種以上の異れる元素或は化合物質を混合する時 熱、電氣光等の助を以て、其原子の分配を變じ 全く別體のものを生ずる作用なり、但し稀に混合するのみに化合するものあり。

かがく—しき 化學式 Chemical formulae 名 化學、分子式及實驗式を云ふ。

かがくせん 化學線 名 物理 化學放線に同じ。

かがく—はんたう 化學反應 Chemical reaction 名 化學

二種或は二種以上の物質間に起る化學變化を云ふ、例へば $2NaCl + H_2SO_4 = Na_2SO_4 + 2HCl$ の如し。

かがく—へいかう 化學平衡 Chemical equilibrium 名 化學 二種或は二種以上の物質又は化合物の溶解、折出何れにも起り得べき狀態にあるを云ふ、例へば 炭酸カルシウムを熱して 酸化カルシウムと二酸化炭素とに分解する場合に、溫度及び溶劑の濃度、時間の狀態如何によりて何れへもなし得べき時あり、其狀態は則ち平衡したるなり 左の方程式を以て示す、

$$CaCO_3 \longrightarrow CaO + CO_2$$

かがく—へんか 化學變化 Chemical change 名 化學 物質其のもの固有の特性を失ふ變化を云ふ、例へば 水素の燃ゆるときは水となり、炭の燐ゆるときは炭酸瓦斯となる等の如し。

かがく—ほうせん 化學放線 Chemical Ray 名 物理 精密線或は紫外線と云ひ、白熱せられたる物體より發する輻射線の中にありて、特種の物體に相遇せば 之をして化學變化を起さしめ、其の性質を變化せしむる作用ある光線を云ふ。

かがく—ほうていしき 化學方程式 Chemical Equation 名 化學 化學式を用ゐて、化學變化を方程式の形に表したるものを稱して云ふ $2H_2 + O_2 = 2H_2O$ は則ち一の方程式にして 水素の二分子量と酸素の一分子量と化合して二分子量の水を作れるを示すものなり則ち(=)は 物質の量は反應前後に變化せざることを示し左邊は反應する物質右邊は反應によりて生じたる物質を示すものなり。

かがく—れう 雅樂寮 名 歌寮に同じく、治部省に屬し、雅樂を司る役所、大寶令にあり。

かが—し 案山子 名 一、そはと、うはづ、かんれとしと同じ 田圃に鳥獸の來りて 害をなすを嚇し防ぐ爲め 通常 竹、藁にて人形を作り 笠を被らせ 弓矢を持たせて田圃に立たしめくもの、又竹、或は鈴を鳴す仕掛にして嚇す法もあり、二、見かけばかりよくて 實際間に合はぬ人を云ふ。

かがす 黠戛斯 名 地名 韓戛斯、戛々斯ともかき、ギルギスとも讀む支那の古代の一國なり、其時は堅昆國と云ひしも 今は居勿或は結骨と云ふ、一千百年代遼の時に北部の大國たりき、突厥と親み、其滅ぶるや延陀に隸し貞觀二十二年唐帝堅昆府とし俟利弗を以て都督とし、燕然都護府に隸せしむ、唐の乾元中、回紇の爲め破られて滅せり。

かが—だいなごん 加賀大納言 名 人名 前田利家を云ふ

利家は秀吉に仕へ、加賀の一部を與へられ、後德川家康の時、關ヶ原の役の功により全國を與へられ、大納言なりしかば、かく云ふなり。

かかづらふ 係 動四 たづさはること、物事を執掌すること事に關係(かかりわふ)することを意味す。

かがと 踵 Heel 名 生理 足の後端にある突起部分なり內部に踝骨ありて體重の加はる支點なり。

かーがーなべて 副 古語 日の重なること、日日並べて意なり。

かが—の—わよ 加賀の千代 名 人名 女俳家、加賀國松任の人、廿五歲の時、夫を失ひ、尼となりて素圓と號す、俳諧を能くし又畫に妙を得たり、安永四年九月八日、年七十四にて歿す。

かがは—かげき 香川景樹 名 人名 歌人、因幡國鳥取の人、姓は荒井氏、小字銀之助、桂園又は東塢亭と號す、幼にして 性穎悟、能く讀み、能く書く、京都に往きて、香川景柄の養子となり、時に年十八歲、和歌を教授するを以て業とせしかば 門弟萬に及ぶ、天保十四年三月廿七日年七十六にて歿す、新學異見、古今集正義、桂園一枝等の著書あり。

かがは—けん 香川縣 名 四國讃岐全國を管轄するもの、讃岐高松に縣廳を置く。

かがは—しげん 賀川子玄 名 人名 產科醫、近江國彥根の人、名玄悅、師を求めずして自己の發明せし法なり、晩年、阿波侯の醫官となり 明和頃死す。

かが—ばんし 加賀半紙 名 加賀國能美、石川、河北の三郡より多く出す紙にして 通常の半紙より廣く、白色にして質細かなり、頗る上品とせらる。

かかは—わらうづ 綫帛鞋 名 古語 かかはを織り雜せてつくりたる鞋を云ふ。

かかふ 甍瓦 名 破れたる瓦、瓦ろのこと。

かー—かふ 假甲 名 獸の爪を云ふ。

かが—ぶし 加賀節 名 德川氏の初年に創りたる俗謠のふしにして 寬文の頃 最も盛に行はれしが 延寶に至り漸く廢れたり。

かかぶる 被 動四 古語 かうぶるにたなし。

かがみ 鏡 名 一、物の光りかがやく表面を云ふ、二、物の形姿を映し見るもの、これは青銅に白蠟を和して方圓の板に作り、表面を平滑にし 水銀を塗擦して 光りを發せしむるもの、近來は 唯硝子板の裏に水銀を塗り 木製のわくをつくるのみ、三、かがみもちのこと。

かがみ—いし 鏡石 名 鑛物、巖岩、玉英と稱し、透明にて、物の影を映す鏡の如き石なり、諸國に產す。

かがみ—がは 鏡川 名 地理 土佐國にある川にして 月、柳の名所なるを以て名高し。

かがみ—くさ 鏡草 名 植物 草類、一、正月元日、禁中にて 鏡餅の上に置きし大根のこと。春のかがみぐさと云ふ。二、すゑつむはなを夏のかがみぐさ、三、あさがほを秋のかがみぐさ、四、うきぐさ 五、べんけいさう、六、石上に 帶赤色光澤あるばいの具の蓋の如き形の葉を有して蔓生するもの 其裏に毛あり、又まつのことを云ふ。

かがみ—ぐつわ 鏡轡 名 馬具 轡の口にあたる兩側を打ち延べて 鏡の如く作りたるもの。

かがみ—くら 鏡鞍 名 馬具 外面に金具をはりて 山形のふちに雲輪をかけたる鞍のこと。

かがみ—の—しゆく 鏡宿 名 地名 近江國蒲生郡鏡村の鏡山の北にあり。

かがみ—しなて 鏡四緒手 名 馬具 馬の鞍につくる紐の名稱。

かがみ—だひ 鏡鯛 名 動物 魚類、まとだひ まといを とも云ひ 海產にして 青黃色にて金色を帶び。腹脊に、一圓の輝ありて鏡の如し。

かがみ—つくり 鏡作部 名 上古鏡を作れる部曲の民なり

かがみ—の 各務野 名 地名 美濃國各務野郡にありて美濃三大野の一、東西三里、南北一里餘、岐阜より中山道に入る要路をなす。

かがみ—の—ふね 蠶摩船 名 古語 かがみぐさの莢の、片方破れたるを云ふ。

かがみ—びらき 鏡開 名 正月十一日 かがみもちを切りて食ふことなり 素 正月廿日なりしも後改めしなり。

かがみ—やま 鏡山 名 地名 近江國蒲生郡西南部にある山を云ふ、

か—かん 可汗 名 支那匈奴にて王と云ふ義、Khan と書く、故に カン、カハン、ハンとも讀むなり、

か—かん 坷坎 名 轗軻に同じく、不仕合せのこと。

か—かん 家監 名 家扶、家宰、用人等のこと。

か—かん 花冠 Corolla 名 植物、內部の花被を云ふ、花冠と萼とを總稱して花被と云ふゆゑなり。

がが—せん 驚眼鏡 名 貨幣 支那宋の拳始中に鑄たる錢にして 圓形にて 中央に方形の穴あり。

かかん—の—けんたう 河間の獻王 名 人名、學者、四紀前二世紀の人、前漢文帝の兄、古學を好み、金帛を出して善書を求む、乃ち秦の古書多く出て、之が爲め學海の利益實に大なりき。

か—がんぼ 蚊姥 名 動物 節足動物、體、脚 趾共に細長なる二趾細にして 觸角長く、六乃至十九節よりなり 普通線狀を呈す、胸背は穹形にして 中央に横皺あり、幼虫は濕地にありて、腐敗物を取りて食とせり。

かかん—の—いち 花冠の位置 名 植物 子房に對して、其位置を定む。1花冠上位、2花冠下位 3花冠周圍。

かがぬく 啼 動四 古語 一、なばゆし、二、面目なし、羞かしきこと。

かがやいし 赫 形 古語 猿などのなくことを云ふ。

カガヤン Cagayan 名 地名 ルソンの最北部に在る廣大なる地方。

かかゆ 蕭 動下二 かをる、匂ふことを云ふ。

かから—しま 加唐島 名 地名 肥前國北海にある島、周圍二里十四町あり。

かかり 掛 名 一、掛ること、高きより低きに下ること、其事件に關係すること、二、勤務のうけもち、三、蹴鞠の時 鞠を蹴る場所、四、作り方、家などのかまへ、五、事に着手せること。

かかり 懸 名 蹴鞠の場を 懸りとも 鞠坪とも云ふ、竹圍を作りて四隅に樹を植う、四本懸と云ふはこれなり、西北は松、西南は楓、東北は櫻、東南は柳とす、源雅經は飛鳥井家の祖、代々蹴鞠の家たりき。

かかり 係 名 文典 結(むすび)に對應して その上に來るべき動詞、助動詞 助辭の用方なり、則ち次の如し、

第一、係の は、も、の、が、徒の時は 動、形、助動、助詞の終止段を以て結ぶものとす。

第二、係の ぞ、や、か、なむ(なも)、なと、の、が、徒、の時は連體段に結ぶものとす、

第三 係の こそ の場合には 已然段にて結ぶものとす。

かがり 篝 名 一、鐵にて籃の如く作り 燃ひたる火を盛る器なり、二、鎌倉時代(北條氏)に 京師の警固として諸處の辻に置きたる兵を云ふ。

かかり—あひ 掛合 名 一、事に關係すること、たづさはること、二、罪科の連累。

かかり—の—てん 懸りの點 Center of Suspension 名 物理 合成振子と相當單一振子を應用したるものにて 合成振子の軸に單振子を結び付け 其糸の長さを適當に加減して 雙方が週期を同じくして振動するに至りたる時 其軸をば設けたる點を この合成振子の懸りの點といふ、又合成振子に於ては懸の點と 振りの中心とは轉換し得べきを以て 振りの中心に軸を設け 之を振動せしむるも 差異なし故に此両中心間の距離が相當單一振子の長さなるを知る可し。

かかり—の—と 懸外 名 古語 蹴鞠場に植ゑある四本の外を云ふ。

かがり—や 篝屋 名 篝座にも作る、古 京都に四十八ヶ所に設け 夜間篝を焚きて不虞の變に備ふ これ 北條氏の幕を握るに至りて 自家防禦と 京師の禁裏守護との爲めに設けたるもの、用途は之を武士より徵集せり、此守る武士卽ち夜番を かがりやのぶしと云へり。

かかる 掛 動四 一、高處より下がる、ぶらさがること、二、依賴すること、もたること、三、とまること、接觸すること、四、その手によりて成る、それに屬するなどのこと、五、襲ふ、攻めつく、六、船舶の港などに碇泊すること、投錨すること、七、相遇す、感染す、八、事を始むる、事に着手すること。

かかる 龜裂 動四 古語 わかぎれのきれること、手足の皮膚の寒冷の爲め 裂け破るること。

かが—わけ 鹿我別 名 人名 武人、神功皇后攝政四十七年、新羅人 百濟より我國に奉る貢調を奪掠す、乃ち問罪使として 鹿我別を送る、鹿我別は 荒田別と共に百濟兵と合し 新羅を破り 大勝を得て翌年凱旋せり。

かき 柿 Diospyros Kaki L.f. 名 植物 柿樹科木本、葉は楕圓形にて帶綠色 花は單性、果實は大漿果、味甚だ善し 良材を種々の器具用とす、又果實より澁を生ずる澁柿あり 其の種類甚だ多し。

か—き 牡蠣 Ostrea or Oyster 名 動物 軟體動物、腹足類、海中の岩石に緊着す、殊に干潮線以内、海底の砂泥土中に棲息す、双殼類にて右は小にして薄く、左殼大にして他物に附着す、外面は不規則の鱗相重り、内面は白色に滑か 英國に產するものは透明にして裏面は眞珠樣の光澤ありと 西は灰色にて美味云ふ可からず、滋養物となる、殼は粉末として肥料となす。

か—き 何基 名 人名 學者、宋人、字子恭、伯賛の子、金華に生る、汲々として專らこれ學事に意を止め、最も易に精通し、朱學の金華派と稱せらる 群守之を延聘すれども應せず 年八十一歿す 文定と謚す。

か—き 喜卉 名 美麗なる草木を云ふ。

かぎ 鉤 名 一、武器、鐵の鉤に長柄のつきたるもの、二

細くして　先端の空りたるものを云ふ。

かーぎ　賈誼　名　人名　學者、支那洛陽の人、秦の孝文帝に仕へ大中太夫たり　十八歳にして能く詩を作る、吳廷尉により　秦帝に仕へ博士となる　一年にして　太中太夫に進む、諸律令の改正、列族を封ずる法則を定む、後讒にあひ長沙王の大傅となる、又梁の懷王の大傅となる、年三十三　病んで歿す。

かぎ　嘉義　名　地名　臺灣の彰化と嘉南との中間にある一市街なり。

がーき　牙旗　名　大將軍の旗、天子出征の時　象牙を以て竿上をかざりしを以てなり、牙營の旗なと云ふ則ち之なり

かきーいた　搔板　名　元服する時用ゐる板にて　髮をのせその先端をかききるなり　多く柳を以て製す。

かきいろーがみ　柿色紙　名　植物　伊豆修善寺邊より產する柿色の紙の一種なり。

かきーかろふ　搔數　他　ふたにかけて云ふ　蓋し　極めて數へ易きを以てなり。

かきーかづら　鉤葛　名　植物　草物、鉤藤とも云ひ、鉤の如き莖にて　蔓草なり。

かきーくもる　搔陰　國四　くもること、かきは接頭語。

かきーごし　垣越　名　桓の上を越ゆること。

かぎーさなだ　鉤蟲蟲　名　動物　さなだ蟲の條を見よ。

かきーしば　垣柴　名　垣に結ぶ柴のこと。

かきーたつ　書立　國下二　一、著しく記すること、二、書き列ねること。

かきつ　嘉吉　名　年號　紀元二一〇一年より四年間、後花園天皇の御代。

かきつ　垣内　名　古語　かきぬのうち　かきうちの變したるもの。

かきーづき　柿糕　名　餅の一種　柿五十を　洗餅米一斗の中に混し　つきて後蒸しあぐるもの。

かきつーのーらむ　嘉吉の亂　名　歷史　後花園天皇嘉吉元年六月　將軍足利義教の赤松滿祐の邸にて殺されしや、山名持豐　滿祐を白旗城に破りて之を誅せり、之を嘉吉の亂と云ふ。

かきつはた　燕子花　Iris Laevigata Fisch　名　植物　鳶尾科草本、杜若、馬蘭、劍草とも作る、葉花共に花菖蒲に似たり、夏季紫色の花を開く、多く田間水邊に自生し觀賞せらる。

かきつーものがたり　嘉吉物語　名　書名　嘉吉の亂の記事を詳しくせるもの、撰者明ならず。

かきつーやざ　垣内柳　名　植物　古語　垣のうちにあるやなぎのこと。

かきーとぼし　垣通　名　植物　草本、莖は四角、葉は丸くして　周緣鋸齒狀刻をなす、冬季に至るも凋むことなく、帶淡紫色の地にて紫の斑點ある花を開く、香氣甚だつよし

かきーとぼし　連錢葉　名　植物　草本、積雪とも作り、路傍に自生する蔓草なり。

かきーともし　搔燈　名　古語　かいともしに同じく、油火の御燈を云ふなり。

かざなしーさなだ　無鉤縑蟲　名　動物　さなだ蟲の條を見よ。

かきーのーうらーしま　蠣浦島　名　地名　豐前國西方海中の一島　周圍六里十三町なり。

かきーのーころも　柿の衣　名　柿色の衣、山伏の着物。

かきのもとーのーかみ　柿本神　名　人名　柿本人麿のことを云ふ。

かきのもとーのーひとまろ　柿本人麿　名　人名　歌人、石見國に生る、孝昭天皇皇子天足彥國押人命の後裔にて父は大和國の人、文武　持統の兩朝に仕へ　新田部皇子、高市皇子との舍人に補せられ　和歌を能くし　山部赤人と共に歌聖と稱せらる、之が詳傳を知るに由なしと云へとも、中御門天皇享保八年、正一位を贈られしは確かなり。

かきはきーのーこだち　搔佩小太刀　名　武器、古語、平常腰に帶べる小刀を云ふ。

かきーびん　搔鬢　名　德川時代武家に行はれし鬢の結ひ方にて　耳の上より　前髮の邊まで　一緒に搔揚げて束ね。

かきべ　部曲　名　「ぶきよく」を見よ。

かきほーなす　如垣穗　他　よそにかけて云ふ、蓋し　樓穗は　横さまにゆひなすものなるより云ふ。

かきーも　垣面　名　古語　垣の表の方。

かきもとーしんげん　垣本鍼源　名　人名　鍼治家、平安の人、明和頃名を揚ぐ。

かぎやうーへんかく　加行變格　名　文典　加行にはたらく不規則動詞にて　こ、き、く、くる、くれと働くなり。

かぎやくーはんたう　可逆反應　Reversible reaction　名　化學　溶解、析出の如き相反對する變化を　溫度の昇降及溶液の濃度により孰れにても生起せしめ得る變化を云ふ、例へば炭酸カルシウム及び塩化カルシウムが溫度によりて分解し　或は化合する反應次の如し、

$$CaCO_3 \longrightarrow CaO + CO_2$$

$$NH_4Cl \longrightarrow NH_3 + HCl$$

之を一般の方程式にて示すを便とす、即ち

$$A + B + C \cdots\cdots \longrightarrow A' + B' + C' \cdots\cdots$$ の如し。

か—きゆう 何休 名 人名 漢學者、任城奚の人、小府豹の子 郡公と字す、性朴訥、雅思有り、六經に精通し、最も公羊春秋を能くし、兼て歴算に通じ、孝經論語に註釋し世儒の及ぶ所にあらず、君奪公之を離騷に侍せしめんとせしも果さず讓郎とす、諫議大夫となること再度に及び、光和五年、年五十四歳せり。

か—きゆう 火球 Bilde 名 地文 流星の大なるものを云ふ。

かぎゆう—かく 蝸牛殼 Cochlea 名 生理 耳の中三半規管と共に內耳をなす部分にて最も重要なり、螺旋狀に卷き上がり、其中央に骨膜ありて、二條の螺管に分る 一は圓窓に通じ 他の一は卵圓窓に通じ 共に淋巴液を以て充たされ、聽神經此戶に分布せり。

か—きよく 下局 名 役所 明治元年閏四月議政官に置きたる一局、上局の命によりて 租稅等の諸般の事を議す、後左院と改め、更に元老院とす、今の衆議院あるも此に胚胎せりと云ふべし。

かぎよ—の—くわん 河魚之患 名 河魚の腐敗は內方より外方に向ひて及ぼすものなれば 內部の腐敗、內幕の困難を云ふ、左傳に曰く、「申叔展奏蓮無社一言、河魚腹疾如何。」

かぎり 限 名 その物 その事のみ、經界、總體、極、定め、程度、臨終等の意あり。

かぎり—なき—ひと 限無人 名 高貴の人を云ふ。

かぎり—の—たび 限りの旅 同 人の死ぬること。はこの旅、この世の限りの旅路と云ふ意より出づ。

かぎり—の—たび—の—みゆき 限度行幸 名 天皇崩御の時、御棺に送り奉ることを云ふ。

かぎり—の—つき 限月 名 暦語 陰暦十二月のこと。

かぎ—ろび 陽燄 名 古語 かげろふにたなびく 春の日 靡々として 霞の如く立ちて見ゆるものを云ふ。

かぎろび—の 陽燄 枕 一、かぎろひは 春の空に見ゆるゆゑ はるにかけて云ふ、二、もゆる、火(ひ)、はのかなとにかけて云ふ。

かきろま—しま 佳奇呂麻島 名 地名 大隅國南方洋中にある一島周圍二十二里十四町あり。

かき—わたす 掻渡 國四 古語 かきならすことに同じ。

かく 膈 名 醫學 疾病のこと 胃中に癌の生して 飲食物の消化せざること。

かく 核 Nucleus 名 動物 生活する細胞內にある小粒 蛋白質より成る 細胞分裂の時 最も重要なるものにて核二分して始めて細胞分裂をなすものなり、植物の核は、

原形質內の中心をなし 動物の核と同じく 其中に仁を含む。

かく 角 名 一、數學 平面角の略にて 平面角とは 同一の點より引ける二つの直線のなす角、圖に於て Aを其頂點と云ひ、角BACをなす BA、CAを其邊と稱す、二、鹿或牛、羊などのつのを云ふ、三、四角の略、五、二十八宿の一、六、馬を進行せしむるに 鐙の角にて 馬の腦腹を蹴ることを云ふ。

かく 翮 Quill 名 動物 鳥の翼或は尾にある羽の根部皮膚中に入る部をいふ。

かく 構成 國四 組み作ること、編むこと。

かぐ 下愚 名 至愚に同じく 甚だ愚なること。

がく 額 名 一、額面 扁額と同じく 橫長き板紙或は絹などに 書畫を寫して 室內、門、擔下等に置くもの是れなり、二、生理、顏部の上部にある一部分卽ひたひのこと 三、分量、員數などを云ふ。

がく 萼 Calyx 名 植物 外花被に同じく、外部の花被なり。

がく—あぢさゐ 額紫陽花 名 植物、紫陽花科木本、がくさうと云ひて 花の周圍より咲きそむるものを云ふ。

かく—い 郭威 名 人名 周王、初め五代漢の武將たりしも 隱帝の忌むところとなり、大梁に至り 全部下に推されて帝位につく、在位三年 西紀九五三年 死す、太祖と謚す。

がく—たん 樂音 Musical Sound 名 物理 音響の一定の振動連續して規則正しく發し 其音の清則にして 人をして爽快ならしむるもの。琴、笛、等の音の如し。

かくたん—じようりゆう 各溫蒸溜 名 化學 分溜に同じ

がく—かい 學階 名 役名 學正 司業の二種とし、學正を五等に分ち 司業を八等に分てり。

かく—かく—と 赫々 國形 きらきらとひかりかがやくことと、又最も著明なることを形容する語。

かくが—とり 覺鶯鳥 名 動物、涉禽類、古 みさごとかく云ひたり。

かく—き 郭遠 名 人名 武臣、仲通と字し、宋世北京の人、性慷慨、仁に富み、軍略兵法に通曉せり、保州の卒叛するや 功を奏して 閤門祗候 環慶兵馬都監に加はる、十年晉宗の卽位せし時、左武衛上將軍を歴て崇福宮を提舉して死す 年六十七なりき、雄武軍節交使を贈らる。

がく—き 樂毅 名 人名 賢人、支那戰國魏の人、昭王に仕へ亞卿たり、兵法に精通し、齊を攻めて七十餘城を取る

殘すところ莒及卽墨のみ　或人之を譏す、乃ち王は置酒大會して識者を斬り、殺を立て、齊王となせしも受けず、惠王立つに及び、趙に往き、此處に死す。

がく—さやう 樂經 名 書名　樂の事を詳記せるもの、支那孔子の正したる漢籍なり。

がくざよ—るゐ 鰐魚類 名 動物　爬蟲類、熱體地方（東インド、北アメリカ）の河口に產し、形とかけに似て頗る大全身堅き粗なる鱗甲を蒙り　頭は長く　口には無數の鋭齒列し　喉中二個の腺ありて劇烈なる香液を出す　性甚猛烈草間濕地に隱れ　人畜を咬み　水中に沒せしめて餌とす、心臟は肺動脈と大動脈と相連結するを以て血液純ならず、肛門縱裂して卵生す、舊大陸より生ずるものを Crocodile 新大陸のものを Alligator と云ふ。

かく—さより 角距離 Angular distance 名 天文、O點よりAかBの二點を見るとき　角AOBを角距離と云ふ。

かく—くわん 客觀 名 哲學、主觀に對して云ふ語、目的物の　己れの外界にありて　形の有無に拘らず　心に感ずるものを云ふ。

がくくわん—ゐん 學院 名 歷史、私立學校、平安朝五學の一にて、嵯峨天皇の皇后、仁明天皇の御母の檀休皇后及弟氏公と共に　橘氏の子弟と教養せんが爲め設けられたり、時に嘉祥三年なりき。

かく—けい 赫經 名 人名　儒者、西紀十三紀の人、元の忠臣、骨て世祖の命を奉じ、宋に使し　賈似道に拘はれて風せざりし人なり。

かく—ごう 恪勤 名 かくでんともよむ、一、職務をよく勤むること、二、攝家以下貴顯の家人を　恪勤の侍とも恪勤の者ともいへり、三、武家及小侍所に　かくごといふ役ありて　營中に候して　雜役に服したるもの。

がく—こつ 顎骨 名 生理、顏部の齒のつきたる骨、上部のを上顎骨、下部のを下顎骨と云ふ　共に　飲食物を咀嚼するに必要なり。

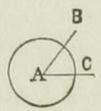
かくこ—ふばつ 確乎不拔 同 堅固にして　動かす可からざること、易經に「確乎其不可拔」「確乎不拔之精神」などとあり。

かくさん 擴散 名 物理　擴散を見よ。

かくし—ざ 郭子儀 名 人名　名臣、支那華州鄭人、唐玄宗に仕へ　天寶十四年安祿山の反するや、衛尉卿靈武郡の太守と爲り、朔方の節度使に充て、大に賊軍を敗る、功を以て司徒を加へ代國公に封せらる、邑千戶を食む、乾元元年　詔勅により安慶緒を討ち、之を破る、建中二年尙文大尉中書令、汾陽の忠武王にて薨ず、年八十五、建陵に

原形質內の中心をなし　動物の核と同じく　其中に仁を含む。

かく 角 名 一、數學　平面角の略にて　平面角とは　同一の點より引ける二つの直線のなす角、圖に於て　Aを其頂點と云ひ、角BACをなすBA、CAを其邊と稱す、二、鹿或牛、羊などのつのを云ふ、三、四角の略、五、二十八宿の一、六、馬を進行せしむるに　鐙の角にて　馬の脇腹を蹴ることを云ふ。



かく 翮 Quill 名 動物　鳥の翼或は尾にある羽の根部皮膚中に入る部をいふ。

かく 構成 國四　組み作ること、編むこと。

かぐ 下愚 名 至愚に同じく　甚だ愚なること。

がく 額 名 一、額面　扁額と同じく　橫長き板紙或は絹などに　書畫を寫して　室內、門、擔下等に置くもの是れなり、二、生理、顏部の上部にある一部分卽ひたひのこと三、分量、員數などを云ふ。

がく 萼 Calyx 名 植物　外花被に同じく、外部の花被なり。

がく—あぢさゐ 額紫陽花 名 植物、紫陽花科木本、がくさうと云ひて　花の周圍より咲きそひるものを云ふ。

かく—い 郭威 名 人名　周王、初め五代漢の武將たりしも　隱帝の忌むところとなり、大梁に至り　全部下に推されて帝位につく、在位三年　西紀九五三年　死す、太祖と謚す。

がく—たん 樂音 Musical Sound 名 物理　音響の一定の振動連續して規則正しく發し　其音の清則にして　人をして爽快ならしむるもの。琴、笛、等の音の如し。

かくたん—じようりゆう 各溫蒸溜 名 化學　分溜に同じ

がく—かい 學階 名 役名　學正　司業の二種とし、學正を五等に分ち　司業を八等に分てり。

かく—かく—と 赫々 疊形　きらきらとひかりかがやくことと、又最も著明なることを形容する語。

かくが—とり 鸛鶴鳥 名 動物、涉禽類、古　みさごをかく云ひたり。

かく—き 郭遠 名 人名　武臣、仲通と字し、宋世北京の人、性慷慨、仁に富み、軍略兵法に通曉せり、保州の卒叛するや　功を奏して　閤門祗候　環慶兵馬部監に加はる、十年晉宗の卽位せし時、左武衛上將軍を歷て崇福宮を提舉して死す　年六十七なりき、雄武軍節度使を贈らる。

がく—き 樂毅 名 人名　賢人、支那戰國魏の人、昭王に仕へ亞卿たり、兵法に精通し、齊を攻めて七十餘城を取る

殘すところ苫及卽鹽のみ　或人之を諫す、乃ち王は置酒大會して讒者を斬り、穀を立て、齊王となせしも受けず、惠王立つに及び、趙に往き、此處に死す。

がくきやう 樂經 名 書名　樂の事を詳記せるもの、支那孔子の正したる漢籍なり。

がくざよ—るゐ 鰐魚類 名 動物　爬蟲類、熱體地方（東インド、北アメリカ）の河口に產し、形とかけに似て頗る大全身堅き粗なる鱗甲を蒙り　頭は長く　口には無數の鋭齒列し　喉中二個の腺ありて劇烈なる香液を出す　性甚猛烈草間濕地に隱れ　人畜を咬み　水中に沒せしめて餌とす、心臟は肺動脈と大動脈と相連結するを以て血液純ならず、肛門縱裂して卵生す、舊大陸より生ずるものを Crocodile 新大陸のものを Aligator と云ふ。

かくきより 角距離 Angular distance 名 天文、O點よりA点Bの二點を見るとき　角AOBを角距離と云ふ。

かくくわん 客觀 名 哲學、主觀に對して云ふ語、目的物の　己れの外界にありて　形の有無に拘らず　心に感ずるものを云ふ。

がくくわん—ゐん 學館院 名 歷史、私立學校、平安朝五學の一にて、嵯峨天皇の皇后、仁明天皇の御母の檀休皇后及弟氏公と共に　橘氏の子弟を教養せんが爲め設けられたり、時に嘉祥三年なりき。

かくけい 郭經 名 人名　儒者、四紀十三紀の人、元の忠臣、曾て世祖の命を奉じ、宋に使し　賈似道に拘はれて屈せざりし人なり。

かくごう 恪勤 名 かくでんともよむ、一、職務をよく勤むること、二、攝家以下貴顯の家人を　恪勤の侍とも恪勤の者ともいへり、三、武家及小侍所に　かくといふ役ありて　營中に候して　雜役に服したるもの。

がくこつ 顎骨 名 生理、顏部の齒のつきたる骨、上部のを上顎骨、下部のを下顎骨と云ふ　共に　飲食物を咀嚼するに必要なり。

かくこ—ふばつ 確乎不拔 句 堅固にして　動かす可からざること、易經に「確乎其不可レ拔」、「確乎不拔之精神」などとあり。

かくさん 擴散 名 物理　瀰散を見よ。

かくし—さ 郭子儀 名 人名　名臣、支那華州鄭人、唐玄宗に仕へ　天寶十四年安祿山の反するや、衛尉卿關武郡の太守と爲り、朔方の節度使に充て、大に賊軍を敗る、功を以て司徒を加へ代國公に封せらる、邑千戶を食む、乾元元年　詔勅により安慶緒を討ち、之を破る、建中二年尙父大尉中書令、汾陽の忠武王にて薨ず、尋に年八十五、建陵に

葬り忠武と謚す。

かくし—こう 郭子興 名 人名　英雄、支那明代の人、曹州の人郭子公第二子、長ずるに及び任俠　賓客を喜ぶ、人と爲り暴悍、太祖の謀議に從ひ　親信た右の手の如く、患難相救へり、事成らずして病死す。

かくし—さ 角視差 Angular parallax 名 天文、地球軌道の長徑の兩端に地球がわるとき　其兩端より同じ星を見れば　其方向異なり、其方向の差異、兩端と星とを結合せる二直線のなす角を云ふ。

かく—しつ 確執 名 一、互に我意を張りて讓らぬこと、二、足利時代の語にて　不和となることを云ふ。

かく—しつ 鶴膝 名 醫學、鶴膝風とて、膝の內外腫れ痛みて　漸く痩せ衰へ　鶴の脚の如くなる病を云ふ。

かくしつ—そう 仲質層 名 生理　皮膚の條を見よ。

がく—じやう 學生 名 古語　がくせいのこと。

がく—しゆう 鄂州 名 地名　支那湖北省武昌府、宋理宗の開慶元年　蒙古の爲め此地を圍まる　宋は賈似道をして漢陽に軍して、之を援けしむ、圍漸く解けたり、後元のよるところとなり　宋の滅亡を來せり。

がく—しゆう 岳州 名 地名　支那湖南省巴陵縣の市、岳陽樓は則ち此の城門なり、長髮賊の亂、清廷の養尙阿をして　防がしめ、四紀一八五二年賊湖南に入るに及び陷りぬ

がくしゆう—ゐん 學習院 名 學校、仁孝帝　公卿に學者を招きしを患ひ　假に學習所を設け　京官の子弟十五才以上四十才以下二百人を容れんとせしも成らず　孝明帝其遺旨を奉じ　弘化二年完成し給ふ、明治十年十月學習院を東京に設く　これ今の學習院なり。

がくじゆつ—ふくこう 學術復興 Renaissance 名 歷史　西紀第十五世紀及十六世紀に於て、イタリアのフロレンス　希臘及ローマの古文學、曾て長メヂシ及其他の保護を以て　古技術を復興せられしことなり。

がくしよう—き 岳鍾琪 名 人名　名臣、支那清朝の人、字東美、容齋と號す、天性驍脅　眼光炯炯として四射す、沈默寡言、康熙五九年　軍功を以て四川提督、孔雀翎を賞せらる、賊を討つこと屢々、貴州に病歿、時に年六九、憂勤と謚し　一等輕車都尉を給はる。

かくじよ—ほふしんわう 覺如法親王 名 人名、後奈良天皇皇子、母を宮人伊豫の局とす、元龜元年四月　天台座主天正二年正月　薨ず。

かくす 隱、潛、匿、藏 動四 一、見ぬやうにすること、月隱、雲の如し、二、水中にひそみかくること、三、にげかくること、匿名、匿山、匿罪、四、しまひたくこと

深藏而不レ示とあるが如し。

かく—せい 客星 名 天文 平常現はれず、時々見はるる星を云ふ。

かくせいてき—いし 覺性的意志 名 心理 自然的意志に同じ。

かくせいてき—かんどう 覺性的感動 名 心理 身體の健全ル羸病に關係するもの。

かく—せき 角石 Hornstone 名 鑛物 我國にて燧石と稱するものにて 燧石の不純なるものなり、眞の燧石は英國、佛國、獨逸に產する白堊質中に存す。上古土人の石鏃とせしもの少しとせず。

かくせん—かこうがん 角閃花崗岩 名 鑛物 花崗岩の角閃石を含むものをいふ。

かくせん—げんぶがん 角閃玄武岩 名 鑛物 玄武岩の長石、輝石、や閃石を含むものをいふ。

かくせん—せき 角閃石 Amphibole=Hornblende 名 鑛物 所在—火山及結晶片岩中、性質—一斜晶形、比重二、九乃至三四、硬度五、乃至六、色は綠、黑、白、光澤は眞珠光及玻璃光 透明不透明あり、種類—1、透角閃石は伊豫、伊勢、信濃等より產する、白灰又は淡綠色の柱狀のもの、2—陽起石は淡路沿島より產する綠色纖維狀のもの、3、普通角閃石は加賀白山に產する濃綠又は黑色のもの、4、石綿は白又淡綠、細針狀又は毛狀結晶、或は細き纖維狀の塊をなす、其性耐火力强し、反應—吹管にて熱するも膨脹するのみにて溶けず。

がく—ち 樂所 名 古語 がくしよに同じ。

がく—ちょう 殼頂 Apex 名 動物 貝類の尖れる端、二枚貝にては兩殼相附着する側の尖端、螺は螺旋の先端を云ふなり。

かぐつち—の—かみ 迦具土神 名 神名 火產靈神のこと、火の神なり、故に火災を 迦具土のわらびと云ふなり。

かく—づと 角包 名 丸づとに對する語にて 德川時代の御殿女中の髮のゆひ方、たばを 角がたにせるもの。

かく—ど 角度 名 數學 幾何 圓の中心より周圍を三百六十等分したる點に結び附けてなる角の一を一度と云ふ周圍の四分の一の間の角を直角と云ひ 此角より小なるを鋭角、大なるを鈍角、二倍を水平面と云ふ。

かぐ—なみ 漢南 名 刀の鍔の一種 豊臣秀吉、明を攻めて 分取りし朝鮮刀の鍔に摸擬して造りたるもの。

かぐ—なわ 結果 名 古語 かくのあわのこと。

がく—の—いち 夢の位置 名 植物 子房に對して定む、（かかんのいちを參照）1、夢上位（Superior or Epigynous）

なし、いちごの類、2 夢下位、（Inferior or Hypogynous）さくら、毛莨の類、3、夢周圍、（Perigynous）、すべりひゆの類。

かぐ—の—せい—うつるべからず 下愚の性移るべからず 図 下愚の性質ある者は 如何に教戒しても 其性を移すこと難きをいふ、論語に上智與二下愚一不レ移とあり。

かく—ばしら 角柱 名 植物 古語 たけ（竹）のこと。

かく—はん 學霶 名 人名 高僧にて畫人、肥前の人、正覺と號す、高野山に往きて、阿闍梨定尊に從ひ、密乘の蘊奥を究め、崇德上皇の知遇を得たり、康治二年十二月 年四十九寂す。

がく—ばん 顎板 Jaw plate 名 動物、カタヅムリの上部即ち上顎に當る部にありて角質より成り 三ヶ月形にて舌と共に、咀嚼の用をなす。

がく—ひ 岳飛 名 人名 武臣、支那宋世南京の人、字鵬擧、湯陰の人、絶世の武將、一朝足を揚ぐれば、帝の疆域を增ざると云ふことなし、宣和中の募集に應せしより 功を累ね、樞密副使、參知政事、兩鎮節、萬壽觀使、等に充てらる、年三十九 殁せり、或は云ふ紹興十年讒殺さると云ふ。

がく—ふ 岳父 名 自己の妻の父を云ふ。

かく—ぶつ 格物 名 事の道理を攷窮すること、大學に曰く、「止格レ物致レ知」と 又哲學のことを 格物致知の學と云ふ 則ち此意なり。

かぐぶつ—にふもん 格物入門 名 書名 漢文體理科、アメリカの宣教師ティーラ氏 清國同治七年 七發を出版せしものこれなり 氏は本邦にも來りて 同志社の教鞭をとりしことあり。

かく—ぼく 郭璞 名 人名 詩人、卜筮家、晉の人 景純といひ 博學高才 詩賦に巧み 郭公は卜筮に精し 依て此に從ひ、五行天文卜筮を學びて之に曉通せり、郭の逆謀を筮し、郭の爲め殺さる、時に年四九なりき。

かく—まく 隔膜 Septum 名 動物、圓筒形の腔腸を入口の連絡する數多の縱室に分つ膜にて、サンゴ、イリギンチャク類の腔腸にあり、而して此の遊離緣即ち中央部にはサンゴ類唯一の攻擊器なる絲細胞群を有せり。

かく—まく 角膜 Cornea 名 生理 角質透明の膜 哺乳動物に於ける眼球の最外部にありて 發膜に連絡せり、而して眼中最も堅きところを云ふ。

かくまく 隔膜 Septum 名 植物 なたねの子房に於て 此は元來單細胞なるも、蒲膜によりて二室なる如き觀を呈す、此の蒲膜即ち 隔膜なり。

かく—めい 革命 名 一、支那にて 王者の起るとき 命

を天に受けてなる、故に王者の代を革むるを云ふ、二、ト師の語にて　辛の酉歳は變亂多きことなり。

がくやう—ろう　岳陽樓　名　地名　清國江南西道巴陵郡岳州の城門なり、其創設のこと不明、西は洞庭湖を望み、南は君山を顧る、唐の開元年中　張說　此に守たりき、時の才士と登臨賦詠せり。

かぐ—やま　香具山　名　地名　香山にも作る、大和國高市郡香久山村にある山、天の香山と云ふ。

かぐやひめ—ものがたり　竹取物語　名　書名　古語、竹取物語のこと。

かぐ—ら　神樂　名　みみくらの畧、本邦歌論勃興時代に於ける諸ひものの一にて神を祭るため奏する音樂、和琴、大和笛、抽子の三ツの鳴物を用ゐて歌を謠ひ　舞ひを舞ひたり、伊勢に行はるるを　だいだいかぐらと云ふ。

かぐら—うた　神樂歌　名　神樂を奏する時歌ふ歌にて　三十七曲より成れり。

かぐら—すず　神樂鈴　名　神樂を奏する時の鈴、小鈴十二個を　銅線にて綴り　柄を付けたるものを云ふ。

かぐら—づき　神樂月　名　古語　陰曆十一月のこと。

かぐら—の—なか—の—ひがし—の—みささぎ　神樂岡東陵　名　地名　山城國愛宕郡京都にある陽成天皇の御陵なり。

かく—れい　戒令　名　法令　總理大臣の名義を以て　內閣より發布する令を云ふ。

かくれう—ばう　覺丁房　名　人名　北條時賴のこと、佛道に歸依したる後の名なり。

かくれ—がさ　隱笠　名　笠にて、身をかくすためのもの。

かくれ—がに　名　動物　寄生虫、軟體、眼小、脚短、多くハマグリ、アサリ、タイラギ等に寄生す。

かくれき—がん　角礫岩　Breccia　名　鑛物　岩石、石屑の圭角　未だ消失せざる前　水底に停滯し　粘土、細砂或は硅酸の水に溶解し來りたるもの層間に入り　之を結合し成立せしもの。

かくれ—やま　隱山　名　地名　伊勢國にある山。

かくれ—みの　隱蓑　名　一、身をかくすための蓑、二、かくれがさと共に　摸樣、飾裝等を畫きたる一種の寶。

かくれみの　隱蓑　名　植物　木本、賞觀用植物、葉常に綠に小さく　光澤わり。

かくれん—ぼつぼつ　赫連勃勃　名　人名　支那晉代の僭主字屈子、匈奴右賢王去卑の後裔、劉元海の族、性雄慓美風姚興の寵するところとなる、義熙一年僭して天王大軍王と稱す、元を建て龍昇と云ひ　國號を大夏と云ひ、後渭上に至り壇を築きて天地を祭り　僭して皇帝と稱し、昌武と改

元し、又統萬に還り宮殿を大成し眞興と改元す、在位十三年　南朝宋の元嘉二年歿す。

がくろう　樂浪　名　地名　今の朝鮮平安道の南及び黃海道の地、此地、西紀前一〇八年　前漢武帝　朝鮮征服後設けし郡にして　衛氏の舊都王險を朝鮮縣と改めて其治所とせり。

がくわん—せき　鵝管石　名　鑛物　石類、つららいしの中空のものを云ふ。

かくわん—の—ひと　加冠人　名　役名　加冠役にたなしく元服の時　冠をかぶらする人を云ふ。

かくゐ—しま　鹿久居島　名　地名　備前國和氣郡南方海中の一島　周圍七里三町　鹿咋島とも云ふ。

かげ　影　Shadow　名　物理　陰影のことにて、光の進路に不透明體ありて之を遮る時は　其後部に光の達し得ざる暗黑部を生ず、此則ち影なり。

か—げ　鹿毛　名　鹿の毛に似て茶色なる　馬の毛色を云ふ

かけ—あひ　掛合　名　一、談しあふこと、二、交替して行ふことを云ふ。

かけい　嘉慶　名　年號　紀元二〇四七年より二年間、後小松天皇の御代、又清の仁宗の在世二十五年間の年號とす（西紀一七九六—一八二〇年）。

か—けい　河系　River system　名　地文　一條の本流と之に注入する凡ての支流との總稱なり。

かけい　花莖　名　植物　花軸に同じ。

かけ—いっぽんだち　掛一本立　名　相撲　四十八手の一、自然に　我足一本のみを立たせ　他を倒すことなり。

か—けいぬい　何景明　名　人名　詩人、明代の人、信陽に出で　仲默と云ひ　志操耿介節義を尙び、國士の風有り陝西提學副使を歷て　嘉靖の初　病を以て引き　年三十九遂に長逝しぬ、何李、鴻貴、徐禎卿と竝に四傑たり。

かけ—かう　懸香　名　一、薰物を絹袋に入れ　惡臭を防ぐために　室內又は便所等にかけねくもの、二、にはひぶくろのことにて　多く女の携帶するものを云ふ。

かけ—がは　掛川　名　地名　遠江國佐野郡の一市街、太田氏の舊藩地とす。

か—げき　罅隙　Crack　名　地文　地殼、岩石等に存せる多少の空隙を云ふ。

かけ—ことば　懸詞　名　文典　同音異義の語を混用して上の語句の下部と、下の語句の上部とを　同一の音にてわらはす修辭法なり。

かけ—す　懸巢　名　動物　脊椎動物　鳥類、かしどりとも云ひ、鳩より小にして、性狡烈他の小鳥を捕へ食す、嘴、

足、脊、腹共に黑色、目の周圍白色、翅は淡黑色、能く人語を似び　諸鳥の聲を發するを以て愛翫せらる。

かけす 鵲　射たる矢の　射ぬけて　そこに留らぬさまを云ふなり。

かけ—だひ 懸鯛　名　はし鯛のことにて　古　祝賀の時或は正月の儀式に　門松に懸けし二疋の鯛を云ふ。

かけ—おから 懸税　名　古語　供奉の稲、古　穗のつきたるままの穗を　青竹にかけて　神に供へしなり。

か—げつ 嘉月　名　暦語　陰暦二月のこと。

かけ—づかさ 兼官　名　古語　けんくわんにたなし。

かけ—づくり 掛造　名　古語　樓閣とも云ひ　山　或は屋なとへ、持たせ掛けて造りたる家。

かけ—つ—の—うら 掛津浦　名　地名　丹後國竹野郡琴引濱の前面にある濱を云ふ。

かけ—つめ 緊爪　名　琴爪のこと　琴なと彈く時にはむる爪を云ふ。

かけ—とも 影面　名　古語　一、山の南を云ひ、二、かげともものみちの畧語。

かけとも—の—たはみかど 影面大御門　名　古語　大内裏の南方の門を云ふ。

かけ—どり 鵰鳥　名　飛行しつつある鳥を　的として射ることを云ふ、射術の時の用語。

かけ—なは 掛縄　名　たひなはとも云ひ　馬を捕ふるとき馬の口につけて引く縄なり。

かけはし—の 掛橋　枕　あやふしにかけて云ふ　蓋し　かけはしは　危險なるものなればなり。

かけひ 筧　名　高處より　水を引く樋を云ふ　古歌に「山里は　かけひの水につらゝゐて　たえとゝれぬにゝ　冬をしうぬる」とあり。

かけ—ひなた 陰日向　名　一、日陰と、日向との意、二、古語　陰陽に行の違ふ人、目前にて能く働くも　陰にて怠ることのあるを云ふ。

かけ—ひも 掛紐　名　古語　兄弟、親子、夫婦などの決別の時　再びあふまでを契りて　かけてむすびたく紐なり。

かけ—まつり 影祭　名　東京の神田神社と　日枝神社とを年々交代にて　盛に祭るに　その祭順に當らざる社は　質素にまつることを云ふ。

かけ—むしや 影武者　名　偽武者にたなしく　敵を欺き又は惑す爲めに　本人と同裝したる武者を云ふ。

か—げん 下弦　名　一、陰暦十五日後の月のこと、二、滿月後七日を經過すれば太陰再び半圓となる、而して光面は左方となる　之れ則ち下弦なり。

か—げん 下元　名　暦語　陰暦十月十五日のこと。

かげん 嘉元　名　年號　紀元一九六三年より三年間、後二條天皇の御代。

かげん—しふらむ 雅言集覽　名　書名　雅言をいろは順に集めて　古書の例を引きたるもの　石川雅望の著なり。

かげん—じゆんじよ 加減順序　名　法律　加重、宥恕、自首減輕　酌量減輕、の例を　一罪につきて　同時に行ふ次第を云ふ。

かけ—や 掛屋　名　歴史　今の銀行の如きもの、金員を掛けて預け置く意にて　多く大阪の富豪なる商家を以て　此に充てたり、寛文年間　諸大名の、藏元を出入の商人に託したるより始まりしことなり。

かけゆ—し 勘解由使　名　歴史　役名、國司交替の時、國司前任者より　新任者に事務引繼ぎをなすを監理する職、延暦十六年　始めて置かる。

かげろふ 陽炎　名　かきろひ　かけろひにたなしく、春の長閑なる日に　空にきらきらと煙の如く立つもの、絲遊、野馬の意にたなし。

かげ—ろふ 蜻蛉　蜉蝣　名　動物　一、とんぼう、二、朝に生れて　夕に死すると云ふ　ふいうのこと、直翅類、尾に二本或は三本の長毛を有し　後翅は前翅より小、幼蟲は腹側に鰓あり、三、紺色の貝にて　形人の爪に似たるものあり。

かげろふ 陰　影　枕四　古語　日月の影の　ひらめくことはのめくことを云ふ、かげるの延音なり。

かげろふ—にっき 蜻蛉日記　名　書名八卷あり、天暦八年より天延二年までの記事、村上、冷泉、圓融三帝時代の風俗の一斑を知る可し、著者は　東三條攝政兼家の妻、右大將道綱の母、藤原倫寧の女なり。

かけ—な 懸緒　名　かひりのひも、今は絲にて作れども古は紙なりき。

かけ—なごり 懸踊　名　風俗　七月十四日より晦日まで毎夜　大小人　交りて　街頭或は他人の家にて踊ること。

か—こ 鹿子　名　かのこにたなし。

か—ご 鈕具　名　一、あぶみの輪のびちよがね、二、帶を締めるときに用ゐる鋼製の鍵を云ふ。

かご 影　名　かげの古き語。

か—ご 加護　名　佛語　神や佛に祈りて冥護あること。

が—こ 鷺湖　名　地名　信濃國諏訪郡にある諏訪湖のこと

か—こう 花梗　Pedunde　名　植物、花軸より出づる小枝柄、各其花を着くるものこれなり。

か—こう 河口　River mouth　名　地文　河の海に注ぐ所

單純口、漏斗口(アマゾン河の如し)湯口(磐城宇多川口の松川浦)三稜口(淀川、木曾川、ニール川)等の種類あり。

かーこう 火口 Crater 名 地文 火山の熔岩及諸種の瓦斷體を噴出する孔口を稱して 火口と云ふ。

かーこう 花香 名 植物 花は種々の香を有す、是れ昆虫を誘ふためにして、芳しきもの、臭きものあり、昆蟲の少き時季に咲く花、例へば梅、木犀、春蘭の如きものは、花小く、色淡く、一般に香高し。

かーこう 河湟 名 地名 清國甘肅陝州府四寧府の地、黃河湟水の間にあり、宋の神宗の時 吐蕃の一部と共に、宋領に歸し、熙河路を置けり。

かこう—かいこつ 下甲介骨 Turbinal bone 名 生理 鼻の奥にありて、粘膜を支ふ骨、一對より成る、飾骨より下方に垂れ、縫合なし。

かこう—がん 花崗岩 御影石 名 深造岩の一種、粒狀構造をなす、主成分—石英、正長石、斜長石、雲母、角閃石、輝石なり、副成分として燐灰石、金紅石、柘榴石、電氣石を含む、種類は正式花崗岩、白雲母花崗岩、黑雲母花崗岩角閃花崗岩、輝石花崗岩なり、化學的性質は、硅酸セニパーセント含有せり、硅酸多ければ 酸性 角閃石多ければ鹽基性となる多く大塊、岩脈、岩礁をなして出づ。

かこう—けん 夏侯建 名 人名 儒者、小夏侯とも稱し、西漢の人、今文尚書の證經をなせり。

かこう—げん 火口原 名 地文 火山原に同じ。

かこうげん—こ 火原口湖 名 地文 火山湖の事なり。

かこう—こ 火口湖 名 地文 火山原湖に同じ。

かこう—こう 火口港 Crater harbour 名 地文 火口の一方の陷落して 深く入海し 港をなせる場所を云ふ。

かーこうごう 賈皇后 名 人名 支那晉代平陽の人 賈充の子、南風と諱し 告と呼ぶ、泰始八年二月、年十五にして東帝の妃となる、性兇惡、賈皇后となるや、荒淫放恣、醜虜殘戾殆と度なし 太子を害し 妹夫の子を立てんとし 酷王の爲め、死を賜ひたり、后位にある十一年間なりき。

かこうし 夏后氏禹 名 人名 支那古代の帝、姒姓、鯀の子、舜の爲に九州を開き、九道を通ずる等の功わりしがば舜之を嘉賞し、百官を率ゐて天下の政事を行はしめ、後位を讓りたり。

かこう—しやう 夏侯勝 名 人名 學者、漢の世、魯の東平の人、長公と字す、昭帝の時 博士光祿大夫となり、宣帝の時 關内侯となり、後太子太傅となる、勅によりて尚書論說を撰し 黃金百金を賜はる、年九十にして卒す、冢塋を賜ふ。

かこうしや—がん 花崗砂岩 Granite Sand Stone 名 鑛物、石英、長石、電母の三砂粒よりなる砂岩を云ふ、これ花崗岩に類似するを以てなり。

かこう—こう 夏侯都尉 名 人名 儒者、西紀前二世紀頃西漢の世に出で 今文尚書を傳へたり。

かこう—へき 火口壁 Circus 名 地文 火山口の周壁を云ふ。

かご—うつし 籠寫 名 ふたへがき、かごぬき等に同じく文字又は繪畫の外廓のみを寫しとることを云ふ。

かご—がしら 鉸具頭 名 かごにたなし。

かご—か—に 圖 古語 四方物靜かに圍まれたるさま。

かこ—がは 加古川 名 地名 播磨國の一川、源を丹波の多紀郡の諸山に發し、播磨の加東郡に入り、加古郡に流れ遂に播磨灘に注ぐ。

かこくじよう 下尅上 名 歷史 下の上を凌ぐ意、足利時代には 天子は將軍に、將軍は管領に制せられしことなどを云ふ。

かこげんざいみらい—きよう 過去現在未來經 名 書名 奉眞朝時代の繪卷物なり。

かごさか—の—わうじ 靈阪皇子 名 人名 皇子、仲哀天皇の皇子、應神天皇の庶兄、仲哀帝崩ゝ給ひ 應神帝産れ給ひしかば 我意ならずとし 忍熊王と共に兵を擧げ 神功皇后の軍を逆へ擊つ、乃ち皇后は建振熊をして之を討平せしむ 皇子菟餓野に至り 野猪に囓まれて薨ず。

かこし 名 古語 水を汲む器。

かご—しま 鹿兒島 名 地名 薩摩國鹿兒島郡にあり、島津氏五百餘年間の府城、城趾數所、鶴丸城を最新とす、周圍凡一里、親藩の頃 山上某の居城なりしも 島津家二十代家久 此城に治す 城山は 西南の役 西鄕隆盛の討死せしところなり。

かごしま—けん 鹿兒島縣 名 地名 大隅、薩摩、日向諸南郡の地を管轄せり、縣廳を鹿兒島に置けり。

かごしま—じんじや 鹿兒島神社 名 地理 薩摩國鹿兒島郡鹿兒島にある官幣大社にて、天津四彦高彦出見尊を祀れり。

かごしま—みなと 鹿兒島港 名 地名 鹿兒島にある港、燈竿の設けあり。

かご—ろ 駕籠訴 名 關轎上書のことにて 上下の情の塞がりし時 大名の通行する時に直訴すること、德川時代の頃にありき。

かごと—はかり 託許 圖 僅に 聊かなどのことに用ふ、

かこ—の—しま 賀古島 名 地名 播磨國にありて其東南

海中に一島をなす。

かこぶつ 名 動物 脊椎動物 魚類、かこばちやとも云ひいしぶしにわなし。

かご—ぶね 籠船 名 飾りたる船、多く祭禮などに出す。

か—こん 下悃 名 悃は志の純一なること 故に こころもち、或は下心の意なり。

か—こん 假根 Rhizine. 名 蘚苔地衣等の根毛にて、眞の維管束を有せざるものなり。

かご—やか—に 雛 古語 かごかに同じ。

かさ 笠 名 一、かぶりがさのことにて 雨、日光等を防ぐ爲めに頭部に被ひ 或は筍笠あり 或は編わり 二、さしがさの畧なり。

かさ 暈 名 天文 空中に 水分多量に存ずるとき生ずるものにて 日又は月の周圍に 笠の形に似たる輪の如き影なり。

かさ 弇 名 椀の蓋なり。

かさ 名 天、空、又上部にある總ての物、蓋し、かみさまの意義ならむ。

かさ 風 動 かせのこと かざ折、かざけなどの如し。

かざ—あな 風穴 名 一、山腹などの如く 凡て風の吹き起る穴、二、かざぬきのこと。

か—さい 下顎 Pedipalpi or Maxilla 名 動物 一、クモの觸角作用を司るものにて 雄の先端は甚だ膨大し、其下面鈎狀物多し 是れ卽ち生殖器なり、二、マキシラは 哺乳類にありては上顎と云ひ、節足動物にありては下顎 下顎 下顎、等と譯す。

カサイ Kasai 名 地名 南部アフリカのコンゴー河の一大支流たり。

か—さいさん 假細菌 Bacteroids 名 植物 バクテリアの一種、根瘤細菌の變態、棍棒狀或は叉狀を呈し、甚だ蛋白質を含めり。

かさい—いんし 葛西因是 名 人名 儒者、名は質、字は休文、建藏と云ふ、江戸の人、老莊に精し 昌平黌の講師となりぬ、文政六年四月 年六十にて歿す。

かさい—うじ 葛西氏 名 人名 性は平氏、秩父氏の別族清重に至りて 名高し、系圖は次の如し。

高望……將恒——武基（秩父）
（葛西）——武常——常家——康家——清光
　　清重

かざ—うけ 風受 名 植物 彈絲とも云ひ、松の花粉、楓の翅果 ゾクスの胞子等の如く、風を受けて飛散するに便利なるものなり。

かさい—ねんぶつ 葛西念佛 名 躍り念佛のこと、鉦、太鼓、笛の合奏にて わどるることなり 昔 德川時代の末より武藏國葛西の土人 始めて之をなせしを以て云ふなり。

かざ—う—ぐさ 風有草 名 古語 風の吹き來ぬ物かげなり。

かざ—がくれ 風隱 名 古語 風の吹き來ぬ物かげなり。

かさ—かけ 笠懸 名 騎射の式 鎌倉時代に 行はれたる遊戯にて 射場に高く笠をかけわき 遠矢を射ること。

かさがた—やま 笠形山 名 地名 播磨國神東郡の山、國中最高山とす。

かさ—ぎ 笠木 名 蓋木 衡木とも作り、神社などの鳥井又は門の上に渡す横木なり。

かさぎ—やま 笠置山 名 地名 山城國相樂郡笠置村の東南にある山、大和國添上郡に接す、元弘元年後醍醐天皇の北條高時に攻められ給ひ 大僧正聖尋と茲に行宮を設け給へり、これ笠置寺なり、寺は中興上人解脫の吉野の奥大峯に擬して作られしもの、鹿路島にも作るなり、又儂の名所たり。

かざきり 名 動物 脊椎動物、鳥類、燕雀類、若狹國海邊の岩屋に產し形やや大なり。

かざきり—ば 風切羽 名 翮とも作り、鳥の掖下にありて飛揚するとき 風を切るに要する短き羽なり。

かざく—ぶ 喀薩克部 名 コサック兵の部落 元 露西亞のドン河畔に住みし部落にて 西紀一五八三年酋長エルマーク青幟汗を打ち、無畢兒の地を畧し、ロシアのイワン四世に奉りしものなり。

かざ—ぐるま 風車 名 一、米搗 或は汲水の裝置機械にて大輪の周圍に 數多の翅をつけ 風力によりて之を廻轉せしむるなり、二、小兒の玩具にて 紙を輪に作り 風にて之をまはすなり、三、植物、草名、葉は大にして花は青色、白色なるあり。

かざげつわけ—の—たした—の—かみ 風木津別之忍神神、名 神名 大屋毗古神の弟なり。

かさ—ご 笠子 Lepas 名 動物 海魚類 保護色動物、背部は圓形、背部は綠褐色にて高く、腹部は扁平、口は尖り、鱗わらく 鱗は銳にして刺す、多く本邦の東海 西南海に產し 近海の岩礁に伏し、海藻繁殖するところに棲息す、鬼笠子、オコゼ等は此類なり。

かざ—こ 風聲 名 風邪の爲め 聲の嗄れたるを云ふ。

かささぎ 鵲 Pica or Magpie 名 動物 鳥類、鳴禽類、大さ一尺三四寸、からすに似たり、頭、背、爪は黑色、胸腹部は白色、肩部に白色の羽毛あり、尾七寸餘に及び黑綠色、聲低し、各地に產すれども、本邦にては肥前に最も多

く產す。

かささぎ—の—はし 鵲橋 名 一、七月七日の夜 即七夕に 牽牛織女の相會する時 天の川に多くの鵲の集りて之れが爲めに橋を作ると云ふ、二、禁中にて 天に擬へて渡すと云ふ想像の橋なり。

かささ—の—さき 笠沙崎 名 地名 今の薩摩國の加世田港の舊名なり。

かざし 挿頭 名 古 神祭又は舞樂の時 頭髮或は冠につけし 草木の花 造り花を云ふ。

かさ—じころ 笠錢 名 笠の如く作りたるしころのこと。

かざし—せう 挿頭抄 名 書名 詞を 挿、裝、脚の三區分にして挿を論じたるもの 富士谷成章之を著す。

かざし—の—わた 挿頭綿 名 古語、綿の花造にて、昔 蹈歌する人の 冠の額にさせしものなり。

かざし—の—を 緒 名 鎧の上帶を云ふ。

かさ—じま 笠島 名 地名 一、相摸國三浦郡にある一島 二、陸前國名取郡にある一地なり。

かざす 動四 一、挿頭 かみさすの畧にて 髮につけて飾るものを云ふ、二、擊、たはふことなり。

かさ—すげ 笠菅 Carex disjuncta Boott 名 植物 莎草科草木、濕地に生じ 葉緣銳し 觸るれば指を切る、笠を編むに用ゐらる。

かさ—ど 笠戸 名 古語 高麗臺のこと。

かさど—じま 笠戸島 名 地名、周防國南方海中にある一島周圍九里六町あり。

かさとり—やま 笠取山 名 地名 山城國宇治郡醍醐山の東にある一山、紅葉の名所なり。

かざ—ながれ 風流 名 古語 鷹狩の時、鷹の風の爲めに吹かれて 他地に逃れ行きしことを云ふ。

かざ—なぎ 風凪 名 風止みて 波濤の靜りたるを云ふ。

かさなぎ—の—はま 風凪濱 名 地名 紀伊國にある濱。

かざ—なみ 風波 名 風の爲めに起る高き波のこと。

かざ—なみ 風並 名 風向 風の吹き來る方向なり。

かざ—ぬぎ 風抜 名 風孔 風通に同じく、壁、塀などに穴をあけて 空氣を通行さすところを云ふ。

かさぬい—の—さと 笠縫里 名 地名 近江國にありと云ひ 美濃にありとも云ふ。

かさぬい—の—むら 笠縫邑 名 地名 大和國十市郡笠縫村 或は宇陀郡笠間鄕とも云ふ、兎に角に 人皇第十代の天子崇神天皇 三種の神器の中の鏡劍を摸造し給ひ 神授の神器を此地に崇祀し 皇女豐鍬入姬をして神籬を立てて仕へしめられたるところなり。

かさね—がはらけ 重盃 名 一、定れる盃即五献或は三献の盃以外に 更に飲む盃なり、二、旅行せむとする門立に飲む酒なり。

かさ—の—かりで 笠借手 名 古語 かぶりかさの面頰につけて 紐を通す 輪の如きものを云ふ。

かざ—ばな 風花 名 少雨のことにて 風の吹く前にふるものを云ふ。

かざはや—きんのり 風早公紀 名 人名 華族、現在 從三位子爵たり。

かさはや—の—うら 風早浦 名 地名 駿河國にある浦。

かさはら—さよううん 笠原泰雲 名 人名 醫、名は正恒 雲仙と號す、性仁慈、多藝、醫術に巧みにして、土州侯の醫官となる 天保二年三月十五日年 七十一 歿せり。

かさ—ぴた 茄 名 かさぶたの轉音 きずあとのこと。

かざひ—の—みや 風日祈宮 名 地名 伊勢國皇太神宮の別宮にて 志摩津比古神を祀れり。

かざ—ふり 簪振 名 古語 かざしをつけたる如くすることなり。

かさ—ぼこ 傘鉾 名 菱鉾にれなしく 傘、廣げたる如く飾れる鉾にて 祭禮の時の飾物なり。

かさ—ま 笠間 名 地名 常陸國新治郡にある市街、牧野氏の舊藩地にて 今は茨城縣下の地なり。

かざ—ま 風間 名 風のやみたる間、土佐日記に 祈りくるかざまとれもふを、あやなくに、かもめさへだに、涙と見ゆらむ。

かざまち—ぐさ 風待草 名 古語 植物 梅のことを云ふ

かさ—まつり 風祭 名 米の收獲時に 海上穩なれかしと風の神に祈り祭つること。

かざ—まもり 風守 名 かざまちに同じく、港にて 順風の吹き來るをまつことなり。

か—ざみ 汗形 名 かんさんの轉音 中古時代に 宮女又は小兒の初夏に 着せし衣服なり。

がざみ 蟾蜍 Portunus Pelagicus Eder 名 動物 甲殼類 體長一尺五寸許、後方狹し、頭胸部には 左右に 鋭き突起あり、脚は游泳に適し、最後の脚の如きは游泳肢に變化せり、常に近海にありて 砂泥中に潛み、晝間は只眼及螯を出すのみにて 他物の接近するとき 直ちに之を捕へて餌となす。

かざみ—ぐさ 風見草 名 植物 古語、柳のことなり。

カサン Kasan 名 地名 一、ロシア東部の一州、東南部はリラル山脈を以て橫斷せらる、土地平坦、森林、沼澤、小湖河川多し、人口百七十萬餘、氣候健康に適す、大理石

石炭、鐵、亜麻、野菜、其他石材を生出す、二、同州の首府、ポルガ河口上に在り、人口十四萬　商工業頗る盛にして　木綿製造、鞣皮、鋼鐵、石鹸、陶器、火藥等を製するなり。

かざん　喀散汗　名　地理　ポルガ河濱に居りし金幞國の一部、拔都の弟脫哈怡木兒の後裔、金幞國の衰ふるに當り、克里姆汗と　白幞汗との間に　此が卽位を爭ふこととなりしが　西紀一五五二年モスコー大公イバン四世の亡はすところとなりぬ。

かーざん　火山　Volcano　名　地文　成層火山、塊狀火山の二種あり、凡て地皮の內外を漏鎖せる洞管の　地球內部の地熱の爲め　熔岩　水蒸氣、其他諸種の瓦斯體を噴出するところなり、而して　平野、海底にあるも皆是れ其地殼の弱きによりて起るなり。

がざん　合賓　名　人名　王、元末代の人、伊兒汗周阿八哈の孫、ラマ敎皮キリスト敎を保護し、ローマ法王と與しエジプトを攻め　シリアを畧し、國威擴張、制度文物を大に振興せしかば　蒙古汗中の賢王と尊稱せられたり、西紀一三〇三年歿せり。

かざん—い　火山彙　Volcano group　名　地文　圓錐狀或は線狀の多くの山　不規則に聚合せるを云ふ、フランスのオーヴエルスヌ火山彙卽ち此の一なり。

かざんか—すゐそ　過酸化水素　Hydrogen peroxide H_2O_2　名　化學　製法—過酸化バリウムの水溶液に　冷水の鹽酸を少量づつ注ぐにあり　卽ち　$BaO_2 + 2HCl = BaCl_2 + H_2O_2$　但し硫酸を入れたる眞空內にて水蒸氣を發せしめば純粹のものを得べし、性狀—比重一、四五三一、無色、無臭舍利別狀液體、强き苦味及金屬の如き味あり、甚だ不安定容易に酸素を放つ、故に　漂白劑、還元劑として用ゐらるる事なり。

かざんか—なまり　過酸化鉛　Plumbic peroxide　名　化學　PbO_2 の分子式を有す、製法—四酸化鉛を稀薄なる硝酸を以て酸化すればよし、又醋酸鉛の溶液に白粉の液を加へ酸化せしむるを以て便とす、性狀—黯褐色の粉末にて　之を熱すれば酸素を遊離して　酸化鉛となる。

かざんか—ばりうむ　過酸化バリウム　Barium peroxide　名　化學　BaO_2 の分子式を有す、製法—酸化バリウムを酸素中に僅か熱すれば生ず、性狀—灰色の粉末、酸素製造に用ゐらる。

かざん—がん　火山岩　Volcanic rocks　名　地文　火成岩中の噴出せし岩に同じ。

かざん—きゅう　火山丘　Volcanic hill　名　地文　火山の著火口內に　更に生じたる小火山を云ふ。

かざん—ぐん　火山群　Volcanic group.　名　地文　數多の火山一定の規律なく集まれるものなり。

かざん—げん　火山原　Atrio　名　地文　火山丘と外輪山との間にある低き地のこと。

かざん—げんこ　火山原湖　Atrio lake　名　地文　火山原に水の溜りて生じたる湖のこと、箱根蘆湖の如きは則ち此なり。

かざん—こ　火山湖　Crater lake　名　地文、大口內に水の溜りて生じたる湖水のこと、吾妻山五色沼の如きは此の一なり。

かざん—じしん　火山地震　Volcanic earthquake　名　地文　火山破裂の際其震動波及によりて　起るものにして　其區域狹小なるも　激烈なり、明治二十一年　磐梯山破裂の如きも　此の地震を起せり。

かざん—だん　火山彈　Volcanic bomb　名　地文　粗大にして稜角ある熔岩片より成る火山礫なり、略拳大以上なり。

カサンドル　Kassandros　名　人名　王、マケドニア王アンチパトロスの子、フイリツポの父、初めギリシアと與しマケドニアを攻め　王位に卽き　アレキサンドロス大帝の妹と婚す、(西紀前三五四—二九七)。

かざん—はれつ　火山破裂　名　地文　火山の生ずとき瓦斯體のみを噴出して　溶岩を流出せず　一旦瓦斯體の放散するときは其勢頓に衰へることあり、是れ則ち火山破裂なり磐梯山、吾妻山の如きこれなり。

かざん—はい　火山灰　Volcanic ash　名　鑛物　火山噴出の時　空中に昇騰し　後灰塵となりて四方に散じ　至る所の山を被ふ　多く安山岩、玄武岩、黑曜石等の細屑片より成れり、明治三十五年鳥島噴出の時も全島之を以て被はれたり。

かざん—のーふんしゅつ　火山の噴出　Eruption of Volcano　名　地文　地下の　地熱の爲め水蒸氣を壓積し　其張力を以て　地殼の弱部を破壞して逸出するものなり、此れが爲め　鳴動を與へ　地震を起し、岩石の破片天に飛び、暴風及び大雨を伴ひ、灼熱せる溶岩を以て　滿天暗黑に充し、實に火煙天を焦すが如し。

かざん—のーぶんぷ　火山の分布　Distribution of Volcanos　名　地文　實に本邦は火山脈を以てなれり　卽ち　千島、那須、阿蘇、霧島、山陰等の如く火山脈あり　又之を橫斷する富士火山脈あり、伊豆島の火山脈、又海底火山脈等あり、而して太平洋沿岸の地は最も火山脈に富めり卽ち日本

列島　アレウト島及南アメリカ西海岸に連互して　一大山脈をなす、是れ　火山の　地殼の弱點なる裂罅に沿ひて噴出するものなれば　總狀に排列せられ　かくの如き狀を呈するなり。

かざん—階 火山棚　Volcanic terrace　名　地文、火山の周圍　階落して生ずる階段を云ふ。

かざん—みやく 火山脈　Volcanic Zone　名　地文　數多の火山を連結せる想像的地帶を云ふ、これ火山は　線上に羅列する如く見ゆればなり。

かざん—もう 火山毛　名　地文　熔岩の絲の如く　細くなりたるもの、火山灰の一種たり。

かざん—らい 火山瀨　Barranco　名　地文　阿蘇の白川、箱根の早川の如く　火口壁を破りて　流出する溪流を云ふ

かざんりよく 火山力　名　地文　地球内部にある酷熱體が火山を作り、地殼に變化を及す所の力を言ふ。

かざん—れき 火山礫　Lapilli　名　地文　礫狀をなせる熔岩の破片を云ふ。

かざんれつ 火山列　名　地文　數多の火山、相并列せるものを言ふ。

か—さんれん 下三連　名　詩學　韻格一句中に　末の三字平ならば平三、仄ならば仄三つ　相同じきものの揃ふこと

かさ—やどり 笠宿　名　古語　暫時　雨宿すること。

かざり—くし 飾櫛　名　冠蟬とも云ひ　古　冠につけたる櫛の一種なり。

かざり—ことば 飾詞　名　古語　枕詞に同じ。

かざり—ずみ 飾炭　名　夜　木を燒き炭がして　月内に立つるもの。

かざり—な—たろす 落飾　名　貴人の僧或は尼とならるる時髮を剃ることなり。

かさ—な—もつ 笠持　名　笠掛のとき　矢の當らざりし人が　矢を集め廻るなり　これを云ふ。

かざなり—の—たき 風折瀑　名　地名　伊勢國飲高郡大俣村にある瀑、高さ五十丈　幅一間餘なり。

かざなり—ゑぼし 風折烏帽子　名　略式に用ゐる立烏帽子の一種にて　項を筋邊に折りたるものなり。

かし 樫　名　植物　殼斗科木草、喬木、樫、櫪ともかき葉は大にして栗の如く、花は卵色にて春季開き　後どんぐりと稱する實を結ぶ　椎に似たり、其材は甚だ堅く、種々の用に供す。

かし 鍛冶　名　古語　ふねとめぐひ、もやひぐひとも云ひて、船をつなぐくひのことを云ふ。

かし 下肢　Hind limb　名　生理、哺乳類、爬蟲類、兩棲類の如き四肢を有するものの後肢或は脚のこと。

かし 花絲　Filament　名　植物　葯と共に雄蕊をなすものにて　花の一部分をなす、菊科植物の如く　聚葯雄蕊にては葯の數と等しき大の花絲を有するものなり。

一の雄蕊の部分

か—じ 稼事　名　農事　たねまきのこと。

かし—あげ 河岸揚　名　船舶の乘せ來れる荷物を　河岸より揚ることなり。

カシアトレース Cassiatores　名　人名　イタリア人にて、始めて地震計を發明せし人なり。

カーシャパ Kaçyapa　迦葉波　名　人名　インドの哲學者父も亦カーシャパといひ神人として崇拜さる、釋迦十六羅子の一人なり。

かしい—の—やしろ 香椎社　名　地歴　筑前國糟屋郡香椎村大字香椎にありて　仲哀天皇八年正月熊襲征伐の時、灘縣に至り　櫃日の宮に駐り給ふ、これ即ち香椎の宮なり、翌年九年二月此處に崩御、現今は神功皇后を祀り　官幣大社たり。

カシウス Cassius, Spurius　名　人名　政治家　ローマの人西紀前五〇二年第一度のコンソルに選ばれしより、再選されること、三度に及べり、サビンを征し　ラテン諸市と同盟し、土地平分法を布けり　是に於て　平民は公地の分配に預るを得たりき。

カシウス Cassius, Caius　名　人名　政治家、ローマの人、ケーザルに反抗せし黨與の首領、ブルタスと謀りてケーザルに叛き　シリアに走りて勢力を得　フィリピーによりてブルタスと合同せしも　ケーザルの破るところとなり　西紀前四二年死す。

かじか 鰍　河鹿　名　動物　一、脊椎動物、魚類、淡水魚體長五寸、扁平なり、口廣く　はせに似たり、脊部は帶茶青黑色、腹部は卵色、鱗は極めて細し、ごり、又は杜父魚とも云ふ、二　Hybarlorea Bürgeri, Schlag　金澤子とも作る、爬虫類、蛙の一種、體黑色にて極めて滑せ、疣あり山間の谿流に棲息し　外形醜しと雖も　鳴聲愛すべく　恰も鳥の巧みに囀るが如し　多く籠に飼はる。

かじか—さは 鰍澤　名　地名　甲斐國南巨摩郡の東北端、富士川西岸上にあり　甲府を去る四里許なり。

かじか—かは 河鹿川　名　地名　駿河國富士川の上流を云ふ。

かし—かんだんけい 華氏寒暖計　Fahrenheit's thermometer　名　化學　英人ファーレンハイトの創めしもの、沸騰

點二百十二度、氷點三十二度、本邦にて多く使用せらる。

カシカル Kashgar. 哈賞哈兒　可失哈里　佉沙　名　地名　支那新疆省中天山南路の府都、察合台汗の齎、明の時　回疆之を領せしも康熙中　トルキスタンの滅はすところとなり、今其回教徒巡拜の中心地たり、後西紀一七五八年支那の領となり　更にロシア勢力の範圍中にあり、綿、絹、毛氈、馬具等を産出す。

カシキアレ Cassiquiare　名　地名　南アメリカのペチズエラの河、クナチグロ河とオリノコ河と連接す、恰も運河の如き樣をなせり。

かしぎ—がて　炊糧　名　古語　食物を種々雜せて炊ぎたる飯、ざふすゐの類なり。

かしぎ—どの　炊殿　名　古語　神供物を炊ぐ場所なり。

かしぎやひめ—の—みこと　炊屋姫尊　名　人名　天皇第三十二代推古天皇のこと、初め敏達天皇の皇后なりしも、蘇我馬子の崇峻天皇を弑するに當り　即位し給へり、これ本邦に於ける女皇の始めなり。

かしく　惟悴　動ト二　俗に云ふかしけると云ふことにて冷ゆ、ちぢむ、萎せ細ることの意。

かしく　花軸　Flower-axis　名　植物　花の一部にて、花の着生する壓を云ふ。

かしこ—あらうひ　賢爭　名　智慧くらべにたなし。

かしこくも　畏　恐　副　もつたいなくも、有りがたくも恐れ多くも、かたじけなくもなどの意。

かしこし　畏　恐　賢　形　たそれ多し、有がたし、もつたいなし、貴し、甚だ怜悧なりなどの意なり。

かしこ—どころ　賢所　名　地歴　禁中の溫明殿（内侍所とも云ふ）のことにて　三種の神器の八咫の神鏡を安置する所なり、又八咫鏡のことにも云ふ。

かしこ—どり　畏鳥　名　古語　動物、猛禽類、たかを云ふ

かしこね—の—かみ　嘉根神　名　神名　面足神の妃、吾屋惶城神とも申す。

かしぞの—ぶんしふ　櫃園文集　名　書名　三卷あり、中島廣足の文章を蒐集せしもの。

かし—たい　下肢帶　名　生理　下肢骨の一部、即ち無名骨にして數個結合して一體の大骨をなせり、蔗骨に接し　尾脚骨と共に骨盤をなせり。

かし—こつ　下肢骨　名　生理　足に屬する骨の全部なり、即ち　下肢帶、大腿骨、其末端の足骨より成る。

かし—ぢ　暇日　名　古語　ひまの日、仕事のなき日、用のなき日を云ふ。

かし—づつ　果實　Fruit　名　植物　子房の成長せしもの、及

び子房外に尙他の部分を含むことあり　即ち花部の發育成熟したるものの總稱、1、子房の成熟せるもの、わんどううりの如し、2、子房及花床の成熟せるもの、れちんだいちごの如し、3、子房黃花床の成熟せるもの、りんご、なしの如し。

かしづき　傅　名　一、愛育することにて　大切に養育することなり、二、かしづきびとの略、即　侍のこと。

かしづき—びと　傅人　名　古語、後見する人、大切に養育する人を云ふ。

かしづき—もの　傅物　名　古語　甚だ大切なるもの、重寶なるものを云ふ。

かじつ—の—ぶん　果實の部分　名　植物　果皮（外、中、內の三層）と、種子（有胚乳、無胚乳）との二部より成る。

か—じどう　賈似道　名　人名　姦臣、宋代臺州の人、師憲と云ふ、理宗の時　姉貴姫と爲る　乃ち似道は太常丞軍器監に擢でらる、理宗崩ずるに當り　度宗を立て、師臣と稱す、朝臣之を稱して周公となす、元軍に大敗し　貶せられて循州に往く　途次杖殺されぬ。

かし—どり　樫鳥　名　動物　鳥類、鳴禽類、かけすに同じ

カシニ Cassini　名　人名　天文學者、西紀十七、十八兩世紀に於けるイメリアの天文學者の一族にして　三世共にフランスのパリに居住して　遊星、月、彗星につきて種々の發見をなせり。

かじつ—の—しゅるい　果實の種類　名　植物　大別して二種とす　即ち多肉果、乾燥果、是れなり、多肉果に屬するものは　漿果（Berry）—ぶだう、すぐり、なす、かき、ぐみ、みかんの類　瓠果—（Pepo）—たうなす、きうり、梨果（Pome）—なし、りんご、核果（Drupe）さくら、うめ、乾燥果に屬するものは　長角—（Siliqua）—十字科の類。短角—（Silicula）—なづな。莢—（Pod）—けしの類、翅果—（Samara）—楓、堅果—（Nut）—殼斗科、顆果—（Coryopsis）—禾本科、瘦果—（Achene）—菊科。

カシニ—てう　哥疾尼朝　名　歴史　セブクテキンの建設せし王國　これサマン朝の奴隷のトルコ人なり、其子マームードに至り　非常に國威を宣揚せしも、西紀一一八六年ゴ

ール朝の滅め滅さる、哥疾尼に都せしを以て此名あり。

かじのき 楮 名 植物 桑科木本、葉厚くして大、内皮は紙の原料となる、もとカウゾと同種類とせしも全く別種なることを發見す。

かしの—ざき 樫野崎 名 地名 紀伊國牟婁郡大島にありて 樫蔭を體けられ 航海に便す。

かし—の—ふ 樫生 名 古語 樫の繁茂したるところ。

かしの—み—の 樫實 枕 ひとにかけて云ふ、蓋し かしのみは一つづつなるものなればなり。

かしは 柏 名 植物 松柏科木本、喬木、樹にも作る、廣大なる葉にて 其周緣鋸齒狀をなす 材は甚だ堅けれども用途少なく多く薪とせらる。

かしは 黄雞 名 動物 鳥類、家禽類、羽毛褐色、肉頗る美味、殊に牝を以て貴ばる。

かしは—ぎ 柏木 名 役名 古語 左右兵衛、左右衛門のことを云ふ。

かしはぎ—じよてい 柏木加亭 名 人名 詩人、江戸神田三河町の人、柏木人、加亭人と號す、家世々木匠なりしも資財ありき、書畫詩文に資財を投げて顧みず 詩に於ては大雅詩佛等と共に海内に 名聲嘖々たりき 文政二年七月年五十七 京都に歿す。

かしはぎ—の 柏木 枕 もり(森)にかけて云ふ 蓋し柏は茂りて生ずるを以てなり。

かしは—ぐるま 柏車 名 武具 はくし干とよむ、騎兵其他薬馬する人の 長靴のかかとにつけたる鋸齒狀の輪にして 馬腹を撫して 馬を走らしむる道具たり。

かしは—ご 膳夫 名 古語 一、食膳に同じく 飲食を饗應することなり、二、膳臣と云ひて天皇の供膳の事を掌る役なり。

かしはで—の—いかるが 膳斑鳩 名 人名 魄將 我允源 天皇の時 新羅は屢高麗の爲め侵入せられ 援を任那日本府に請ふ、斑鳩、乃ち兵を率ゐて新羅を援け 高麗軍を破り、新羅王を戒めて歸る、時に我雄畧天皇八年なりき。

かしは—どの 柏殿 名 古語 御膳の事を掌る御殿なり。

かしは—の—くほで 葉盤 名 古語 古海物、葉を縫ひ合せて 食物を盛るに用ゐしもの。

かしは—ばさみ 柏挾 名 冠の纓の端を、外面に向けて、白木を以てはさみとめたるもの。

かしは—ばら 柏原 名 地名 織田氏の舊藩地にて 丹波國氷上郡にあり、今は兵庫縣下に屬す。

かしはばら—の—うみ 柏原湖 名 地名 駿河國浮島沼のことを云ふ。

かしはばら—の—てんわう 柏原天皇 名 人名 桓武天皇のことにて 山城國紀伊郡堀内村に柏原陵あるを以て此名あり。

かしはら—どししげ 樫原俊重 名 人名 槍術家 五郎左衛門と稱し、神道流の槍を學び、遂に樫原流槍術の祖となりぬ。

かしはら—の—じんぐう 橿原神宮 名 地名 奈良縣大和國高市郡白橿村畝傍山の東南にある官幣大社にて 神武天皇及媛蹈鞴五十鈴媛皇后を祀れり、明治二十三年の奉祀、

かしはら—の—てんわう 橿原天皇 名 人名 神武天皇のことを申す。

かしはら—の—みや 橿原宮 名 地理 大和國高市郡白橿村畝傍山の西南の地、紀元元年辛酉の正月朔、神武天皇の即位し給ひし宮、明治二十三年 畝傍山東南の地に橿原神宮を設け 官幣大社となし給ふ。

かしひ—の—みや 香椎宮 名 地理 福國縣筑前國糟屋郡香椎村にある神功皇后を祀れる官幣大社なり。

が—しふ 我執 名 佛語 囚執に同じ、我意を張ること。

がしふさん—はちまんぐう 賀集山八幡宮 名 地理 淡路國三原郡賀集村大字八幡村にある應神天皇を祀れる神社。

かしふ—みんぺい 賀集瑟平 名 人名 陶器師、淡路國三原郡伊賀野村の人、天保年間 京師に入り五條坂にて陶法の秘法を學得し 鄕里に歸りて 開業す 淡路燒又は瑟平燒と稱し 彩畫光澤共に鮮妍たり。

かしま 鹿島 名 人名 常陸國鹿島神社の信徒を云ふ。

かしま—がた 鹿島潟 名 地名 鹿島浦とも云ひ、常陸國鹿島郡東方の海を云ふ。

かしまし 喧 形 かまびすしのこと。

かしま—じんぐう 鹿島神宮 名 地理 茨城縣常陸國鹿島郡宮中村にある官幣大社、武甕槌命、經津主神、天兒屋根神を祀れるなり。

かしま—なだ 鹿島洋 名 地理 鹿島潟の沖を云ふ。

かしま—の—たび 鹿島帶 名 古語 常陸帶より變化したるものにて 逢はむと欲することなり。

かしま—の—ことぶれ 鹿島事觸 名 毎年春季に 鹿島神宮の神託によりて 其年の豊凶如何を 諸國に觸れ知らしむること。

かしま—さき 鹿島崎 名 地名 常陸國鹿島郡の東方にある崎を云ふ。

かしまみこ—の—じんじや 鹿島御子神社 名 地理 磐城國行方郡鹿島村にありて 鹿島神の御子天天別命を祀れる鄕社なり。

かしま—ぢざり 鹿島蹉 名 悪疫病流行を防ぐ爲め 鹿島神社の御輿を所所に廻し渡してたどること 寛永の頃に行はれたり。

カシミル Cashmir 名 人名 王、此名ポーランド王に五人あり、最も名高きは三世なり、西紀一三〇九年生れ 一三三三年王位に卽く、ポヘミアよりシレシアを復しビスチュラ川にてトルコ人を破り、リスロブの一部を從へたり、王權及貴族の權限の法典を制定す、一三七〇年 歿せり。

カシミル Kashmir (Kaçmira) 迦濕彌羅 名 地名 印度の一州 西藏に接す、面積七七九〇〇方哩、長一二〇哩、巾八〇哩 人口二百五十四萬、氣候溫和ヒマラヤ山谷の風光實に絶景なり、首府をカシミルと云ひ 人口五萬餘 シヨール、塗器を製出す。

カシミルペリエー Cashmir-perier 名 人名 大統領、西紀一八四七年フランスのパリに生れ、意志强固機宜の政策を以て 一八九四年大統領の椅子に昇りしも翌年掛冠せり。

かーしん 下唇 Lablum 名 動物 昆虫類の下唇を特に云ふ 又人の下顎に屬するものをも云ふ。

かーじん 賈人 名 商人のこと。

かしん—せん 河身線 Stream line 名 地文 河の深きところを連ねたる線を云ふ。

かじめ Fcklonia cava, Kjellm 名 植物 褐藻類 本に長圓莖あり、上部羽狀をなして分裂し、葉狀をなし、質厚く革の如し、燒きて灰とす、又カジメに似て、葉片羽狀脈をなすヒロハカジメあり。

かしや—きん 下斜筋 名 生理 眼球の一部 筋肉より成り 動眼神經の下枝之れに循る、此の收縮によりて眼球を外方に旋轉せしめ得るなり。

かしやう 嘉祥 名 年號 紀元一五〇八年より三年間 仁明天皇の御代。

かーじやう 嘉祥 名 陰曆六月十六日 疫氣 人身の肌膚に入るを以て 此を祓ふ爲め 餅十六個を神に供へ 食することを云ふ、後之の代りに 錢十六文にて品を買ひ求めを祭るなり。

がーじやう 牙城 名 牙旗を立てたるところの意にて 本營卽ち城の本丸を云ふ。

かじやう—の—しゆうぎ 嘉祥祝儀 名 陰曆六月十六日に嘉祥通寶を集めて 楊弓の掛物とし、勝負事などして遊ぶこと。

カシュ 渦石 名 地名 蓋世の英雄チムールの出生地、サマルカンドの南、今のシエールなり、

かーしゆーう 何首烏 名 植物 草本、葉は尖圓形、夏秋

の間 白き穗にて一尺程の花開く、實は蓼に似たり、根は塊狀をなして藥用とす、元 支那の傳來物なりしも 今は本邦に栽培するに至れり。

かーじゆう 家從 名 役名 親王家或は華族家人の家扶の次ぎにありて 雜事に從ふもの、もとは主人の外出に從行せし人なり。

かしゆう—いも 何首烏芋 名 植物 芋類、葉は扁圓形、根塊をなす、けいもとも云ひ 味苦ければゆでてのち、更に煮て食す可し。

がーじゆつ 莪蒁 名 植物 藥草、葉は一二尺、青白色を呈し 花は黄色、根は生姜の如し、蓬藥、蓬莪蒁とも云ひ 癥の藥を製するなり。

かーじよ 花序 Inflorescence 名 植物 花の排列狀態を云ふ、而して其種類甚だ多し大別して、有限及無限花序とし 尙更に花序を區分すれば次の如し。

花序
- 無限花序
  - 穗狀花序、たばこの類、
  - 總狀花序、すぐりの類、
  - 頭狀花序、きんせんくわ、ごばうの類、
  - 繖狀花序、さくらの類、
  - 名條繖繖花序、みみなぐさ（卷耳）
- 假限花序
  - 假單條繖繖花序、にんじんの類、

かーしよう 嘉承 名 年號 紀元一七六六年より二年間 堀河天皇の御代。

がーしよう 雅頌 名 人の銀行などを稱贊して云ふうた。

かーしよう 花床 名 植物 花托の事なり。

かしよう—たい 假晶體 Crystaloides 名 鑛物 或る物體の結晶體の物理學的變化するのみにて 化學的變化に至らざるもの卽他の結晶物の成分に變化せざるものを云ふ、植物に於ては 有機質の結晶則ち是れなり。

かじよう—とつき 蹶狀突起 名 生理 後頭骨の條を見よ

かーしよく 稼穡 名 農事、農業のこと。

かしら—あらふ 髮洗 同 毛髮を洗ふこと。

かしら—たろす 落髮 同 剃髮して僧尼となること。

かしら—がーしま 頭島 名 地名 肥前國西方海中にある一島、周圍二里九町あり。

かしら—かたし 頭堅 形 古語 壯述なること。

かしら—たつ 頭立 動四 長者となること。

かしら—の—かはら 頭骨 名 生理 古語 腦蓋骨を云ふ

かしら—の—しも 頭霜 名 老年になること 老ひて 白髮となるを以てなり、又頭雪とも云ふ。

かす 斯 動四 古語 つけひたすこと。

かす 駕 動佐 一、車馬に乘ること、二、他人の上にのり

出づること。

がす 瓦斯 名 物理 氣體を見よ。

か—ずい 花蕊 名 植物 花の內部にある二輪卽雄雌二蕊を云ふ 是れ植物體の生殖上缺く可からざるものなり。

かすい—ぶんかい 加水分解 Hydrolysis 名 化學 鹽類の水に溶解さるること、弱酸に於て最も多く此の現象を示す炭酸カルシウムは此の好適例なり。

カスウィニ Kasvini 名 人名 アラビアの生物及地理學者、「驚くべき自然」と著はして名あり、(西紀一二一〇?—一二八二)

がす—えんぢん Gas engine 名 物理 瓦斯機關を見よ。

かす—が 春日 名 地名 京都の地、今の丸太町にて 一條大路と 二條大路との間にあり。

かすが—ごんげん—き 春日權現記 名 書名 繪詞 鎌倉時代の高階隆兼の畫なり、其詞は鷹司基忠の父子四人の作ありと云ふ。

かすが—あきのぶ 春日顯信 名 人名 北畠親房の子にして、延元元年後醍醐帝を迎へて回復を圖らんとし、又父と義良親王を奉じて奧羽を徇へんとしたる事等ありたる忠勇なる人なり、春日少將ともいふ。

かすが—じんじや 春日神社 名 地理 大和國奈良市三笠山の麓にあり、和銅二年藤原不比等 鹿島神を遷して春日明神と云へり、今は官幣大社にて武甕槌命 伊波比主命 天兒屋根命 比賣神を祀れり、興福寺の管掌するものにて古より極て權威を振ひしもの、後三條天皇の時之れが爲め鶴岡八幡と伊勢神宮と并び稱し 三社とす。

かすが—せうしやう 春日少將 名 人名 勤王家、源顯信のこと、氏は北畠親房卿の子 延元元年 後醍醐天皇を迎へ、三年山岐顯泉を破り 男山に陣す、高師直の攻むるに當り、河內に奔り、親房と共に 義良親王を奉し奧羽に赴かむとして 海風に遇ふて伊勢に漂着す、時に興國三年 白河城に陣し 苦戰すること屢、吉野に還り 征西大將軍懷良親王に從ひ 筑前大原に往て戰死す。

かすが—の 春日野 名 地名 大和國添上郡の一地、若菜の名所たり。

かすが—の—いさがは—の—みや 春日率川宮 名 地理 大和國添上郡春日山より出で、猿澤池に入り 更に佐保川に入るところにあり、開化天皇の都せられし宮。

かすがのいさがは—の—さかがみ—の—みささぎ 春日率川坂上陵 名 地理 大和國添上郡念佛寺にある開化天皇の御陵なり、故に天皇を春日率川宮御宇天皇と申す。

かすが—の—しんぼく 春日神木 名 地歷、春日大明神の神靈の宿り給ふ榊なり、堀川天皇寬治七年興福寺の僧徒之を擁して朝廷に强訴せしに始まる。

かすが—の—つぼね 春日局 名 人名 乳母、齋藤利三の女福と云ふ、性英敏謀略あり、德川家光の乳母、寬永六年後水尾天皇に謁見し、春日局と號を賜はり 爵二位を授けられ 二十年九月 年六十五を以て死す。

かすが—の—やま 春日山 名 地理 一、大和國奈良市の東方にある山、三山あり、北を若草山、西を三笠山、南を高圓山と云ふ、二、越後國中頸城郡春日村字春日にある山 上杉憲顯越後守護として此處に居り、天文十一年上杉謙信 又此に構へて不識庵と號せり、後豐臣氏の時堀秀次 德川氏のとき松平忠輝の居所たりき。

かすが—は 春日派 名 人名 土佐派とも云ふ、畫家の一派、藤原基光を祖とす、今吉野派其他支派を出して各其技を精うす。

かすがひ 鎹 名 つぎわはせくぎのことにて鐵頭曲りたる釘なり、鐵、鎹、鯉螺絆にも作る。

がす—カーボン 瓦斯カーボン 名 化學 瓦斯炭に同じ。

かすが—やまだひめ 春日山田媛 名 人名、皇后、仁賢天皇の皇女にて安閑天皇の皇后なり、山田大娘皇女と稱す。

がす—きくわん 瓦斯機關 Gas engine 名 物理、石炭瓦斯及空氣の混合物を 活塞を具へたる圓管內に導き入れ火力によりて之を爆發せしめ 活塞を動かし、依て仕事をなさしむるもの。

かす—げ 糟毛 名 灰色にて白色の交毛ある馬の毛色。

かす—ご 棘鰒 名 動物 魚類、鯛族、帶赤褐黑色、頭尾の間に青色の筋あり、味美珠淡白なり。

ガスコーニュ Gascogne 名 地名 フランスの西南に在る舊州、一五八九年以來フランスに合併されナバラの管轄に屬す。

かす—ごめ 糟交 名 古語 にごり酒。

かずさし 數指 名 古語 數の印、かずとり。

がす—たい 瓦斯體 名 物理 氣體に同じ。

がすたい—の—ふりよく 瓦斯體の浮力 名 物理 浮力の條下を見よ。

ガスタイン Gastein 名 地名 オーストリアのザルツブルグ公國の一谿谷、西紀一二九年ザルツブルグ之を購へり、一八六五年八月 普墺兩國間にシュレスウィヒホルスタイン問題の條約締結の行はれし地。

がすだめ 瓦斯溜 名 化學 石炭瓦斯の條を見よ。

がす—たん 瓦斯炭 Gas carbon 名 化學 石炭瓦斯製造の際 レトルトの上部及び側部に附着せし炭素なり、極めて

純粹のものにて電氣良導體なれば　アーク燈炭末根等の用に供す。

がす—タール Gas-tar 名 化學 「コールタール」の條を見よ。

カスチリア Castile (Castilla) 名 地名 イスパニア中部の一州 山脈によりて南部北部と區別せらる、第十世紀頃カスチリア王國建ち、女王イサベラの時 西紀一四六九年アラゴン王フェルデナンド五世と婚し、其領土を合してイスパニアを統一せり。

かず—づか 數塚 名 砂を盛りて射的をおきたるところ。

かずなし 無數 形 古語 程なきこと、長久ならざること

ガズニ Ghazni 哥疾尼 名 アフガニスタンの一市英領たり、西紀一八三九年一度英領となり、一八四一年アフガンの之を恢復し 又一八七九年の戰の爲め英に歸す。

かず—の—こ 數子 名 動物 ニシン卵塊を乾燥したるもの、多く祝事に用ふ。

カスピアン—しい Caspian Sea (Kuan Dengliu) 寬定吉思海 名 地名 歐亞二州の境界の一部をなす內海 它界第一と稱す、西はカフカス 南はエルブル—山脈、南北六〇〇哩、東西二七—一三〇哩、淡水にて魚類多し。

かずひと—しんわう 量仁親王 名 人名 光廣天皇の御名

かずひ—どり 蚊蝦鳥 名 動物 脊椎動物、鳥類、體淡黃色にて白斑あり、頸脊の間に黑筋あり、夜間小虫を捕ふ、みみづくの類なり。

カスベク Kasbek 名 地名 カフカス山脈中の最高峯、エルブールス山の東南九〇哩、一六五五〇呎の高さあり。

かず—へ—れう 主計寮 名 役名 昔 民部省の屬にて一年間の國費出入、貨物などを司りし所なり。

かず—まふ 數 國ト二 一、員數に加へらるること、二、計算すること。

ガスマントル Gas mantle 名 化學 綿織にて製したる網に硝酸トリウム硝酸セリウムを染りて燒き、酸化トリウム及び酸化セリウムを殘し、瓦斯燈の焰を包みて 其光を強からしむるもの。

かずみ 鳥網 名 極めて細き糸にてあみたる鳥を捕ふる網

かずみいし—げんぶがん 霞石玄武岩 名 鑛物 玄武岩の條を見よ、霞石、白榴石、輝石、橄欖石を含むもの。

かずみ—が—うら 霞浦 名 地理 常陸國東方にある湖、本邦第二の大湖、周圍三十六里、西部に西浦、北部に北浦あり。

かずみ—が—せき 霞關 名 地名 東京市麴町區にありて外務省あり、昔より歌によまること多し。

かずみづき 霞初月 名 古語 陰曆正月のこと。

かずみ—に—のぼる 昇霞 名 古語 崩御、登遐す。

かずみ—の—たに 霞谷 地名 山城國にある谷。

かずみ—の—ほら 霞洞 名 一、仙洞御所のこと、太上天皇のたはすところ、二、仙人の住む處。

かずみ—の—まゆ 霞眉 名 舊幕時代の奧女中に行はれし僅か墨をさして粧ひたる眉。

かず—も—なく 數無 國 非常に多きこと。

かず—もの 數物 名 古語數の多きこと。

かず—もみ 糟藏肉 名 古語 酒粕漬の魚、鳥肉。

かずや—たけのり 糟屋武則 名 人名 賤岳七本槍の一人 播磨の人助左衛門と云ふ 羽柴秀吉に從ひ賤ヶ岳に軍功あり。

かすり—がき 掠書 名 湯華とも云ひ 墨のつかぬところある筆跡を云ふ。

かー—ずみ 嘉瑞 名 吉瑞 吉兆、瑞祥、よきしらせに同じ。

かせ 枷 名 一、はだし、離れがたきもの、二、罪人の頸又は手足にはめて自由ならしめざる刑具、三、三味線の糸の上ようくくりつけ 調子を高むるもの、多く象牙にて作るなり。

かせ 甲蟲 名 動物 甲貝、うにの介殼などを云ふ。

かぜ 風 名 一、傳來する意、二、樣子、容貌、三、Wind 地文 大氣の動搖、密度の差によりて起る、無風、軟風、和風、疾風、強風、烈風、暴風)風等の種類あり。

かぜ 寒冒又風邪 名 生理 寒氣に觸れたる爲め、汗腺の排泄止み、咽喉、氣管、鼻腔等より排泄物出で、咳を催し痰を出す、發汗の効あるは、此汗腺の開放を促すが故なり

かー—せい 賈生 名 人名 學者、名は誼、漢孝文皇帝に仕へ、後長沙に貶せられ、吊屈原賦を作る、後梁懷王の太傅となる 性博聞强記、古今治亂の跡に明、能く詩を誦し、又文も能く屬す、文帝十二年長逝しぬ。(賈誼傳)

かー—せい 火星 Mars 名 天文 二十四時三十七分二十二秒六七の週期にて太陽を周り自轉す、二個の衛星を有し地球に似て紅色なり。

かせい 嘉靖 名 年號 支那明世宗の治世四十五年間、國事多端の時なりき、韃靼の入寇は北に、倭寇の侵掠は東南海岸に盛に行はれたり。

が—せい 芽生 Budding 名 動物 下等動物の生繁殖法なり 動物體の一部より發芽し 成熟するに及び其の根部より離れて 新動物を生ずること、植物に於て 恰もユリの葉腋に生ずる球芽の落ちて新植物を殖生するが如し。

がせい—アルカリ 苛性アルカリ Caustic alkali 名 化學

アルカリ金屬の六酸化物、苛性ソーダ、苛性カリ等の如し

かせい—がん 化成岩 Igneous or Eruptive rocks 名 地、鑛 地球の內部にある熾したる岩漿の 地殼を割きて迸出し 凝固したるもの、故に逆發岩、塊狀岩（水成岩に對して）とも云ふ、其の種類を區分すれば次の如し。

火成岩
- 深造岩……六圖石、閃綠岩、
- 噴出岩
  - 舊火山岩—斑岩、紋岩、
  - 新火山岩—粗面岩、安山岩、玄武岩、

かせいがんと—すいせいがんとの—くべつ 火成岩と水成火岩との區別 名 地、鑛、次の表によりて比較す。

火成岩	水成岩
(一)塊狀をなし、層をなさず、	常に層をなす、
(二)動植物の化石を含まず、	此の如き化石を含む、
(三)硝子質を含有す、	硝子質を含有せず、

かせい—かり 苛性加里 名 化學 水酸化カリウムに同じ。

かせい—そうだ 苛性曹達 名 化學 水酸化ナトリウムに同じ。

かせい—たい 假聲帶 False vocal cords 名 生理、聲帶の一部にて 構造之に類似したる小帶なり、聲帶よりモルガニー氏室を隔てて上方にあり。

かせい—とらよりも—たけし 苛政猛ニ於虎一 句 苛政の下に支配せられて 苦痛を見るは むしろ虎の害にあうて死するにしかずと云ふ意、禮記に此事見ゆ。

かせい—ぶつ 加成物 Addition product 名 化學 化合物 或は單體に 化合物或は單體を加へて生じたるもの、例へばエチレンに鹽素を附加すれば鹽化エチレンを生ず。

$$H_2C-CH_2+Cl_2=CH_2Cl+CHCl_2$$

カセイン Casein 乾酪素 名 化學 哺乳動物の乳汁中に存する一種の蛋白質、新鮮の乳汁中には少量ありて可溶性物として存在す、空氣に放置するか 或は腐敗するときは凝固して沈澱す。

かぜ—いだ—な—ならさず 風不レ鳴枝 句 治世太平なるを云ふ、王充論衡に 太平之世 五日一風 十日一雨 風不レ鳴レ枝、雨不レ破レ塊 とあるより起りしなり。

かせき 鹿 名 動物 四足類、しかの古名なり。

か—せき 化石 Fossils 名 鑛物 其實質の化石如何に拘らず 只其動植物の生存時代の地學上の現今にあらざるものを化石と云ふ、二十年前シベリアのレナ河の氷層中より得たるマンモース(mammoth)、東京附近、玉子濠の川より出る或貝殼等は 皆實質化石にあらざるも 生存時代の前世紀若しくは古代にあればなり、現今溫泉にて生成する木葉石の如きは化石にあらず。

か—せき 鹿柵 名 やらひのこと、動物の侵入を防ぐ爲め丸太などをもて 矢來を作り構へたるもの。

かぜぎき—ぐさ 風聞草 名 植物 をきの古き語。

かせき—さよう 化石作用 Fossilization 名 鑛物 植物の化石となる作用なり、假像生成に類似するか 或は全く同一にして 動物消失して炭酸石灰を沈澱するによるなり 重晶石、碧石英、玉髓の如き化石も 炭酸石灰よりなり、溶解力弱き化合物に溶解して其後を充たしたるものと見る可し。

かぜきる—ひれ 風切比禮 名 古語 神寶、風吹きを止むるもの。

カーセージ Carthage (Carthago) 名 地名 アフリカの北方半島の古代都市、西紀前八五〇年フェニキア人の建設、ローマと對抗し ハンニバルの下にありて ローマを威嚇したることありしも 第三ピューニツク戰爭にコルチリウス、スキピオの敗るところとなり、西紀前一四六年シーザルの爲め一貿易場を建てらる 後西紀六九八年アラビア人に燒失せられしことあり。

かぜ—だぬき 風狸 名 動物 哺乳類、狸族、黑色にして帶赤斑點あり、猿に似て狸の大さあり。

か—せつ 假設 名 一、數學、幾何、定理の一部にて 終結と相對するもの卽ち 假りに然りとすること、二、物理 Hypothesis 分子說、原子說、エーテル波動說等の如く 實驗によりて發見せられ、其後無數の事實によりて 確定せられたる物理上化學上の諸定律に由りて來る所を明にせんが爲め想像せられたる說なり。

かぜ—づか 風塚 名 地名 河內國高安郡神立村の玉祖明神の後の山。

かぜ—づゑ 排杖 名 古語 しゆもくづゑのこと、石突のしゆもく形狀をなせるもの。

かぜ—の—あし 風の脚、名 古語 風の起る筋。

かぜ—の—たまくら 風手枕 名 古語 風の吹く處に經ぬことを云ふ。

かぜ—の—つて 風使 名 古語 風聞、うはさなどのこと

かぜ—の—はふり 風祝 名 古語 かせのはふりとも云ひ 風を鎭むることを祈る巫女なり。

かぜ—の—みや 風宮 名 地理 伊勢大神宮內にある宮。

かぜのみや—ばし 風宮橋 名 地理 伊勢大神宮內の風宮の前方 御裳濯川へ架せらる橋を云ふ。

かぜふる—ひれ 風振ノ禮 名 古語 神寶、かせきるひれに對して云ふ語、風をれてさしひるるもの。

かぜまち—づき 風待月 名 曆語 陰曆六月のこと、蓋し

六月は暑氣なれば　風をまつと云ふ意より云ふ。

かぜ—まつり　風祭　名　豊作を祈るまつりにて　立田、廣瀬神社のまつり。

か—せん　歌仙　名　和歌の達人、三十六歌仙、六歌仙等。

か—せん　歌川　名　人名　俳諧女、越前三國妓樓の若町屋の妓、性風流を好む　江戸に出で　俳諧を學び泊瀬川と稱す、後薙髪して　巷に庵を結べり、安政六年七月死す。

かせん—かしふ　歌仙家集　名　書名　蘇原公任の、三十六人の家集を集めたりしもの、三十六人集とも云ふ。

かせん—がひ　歌仙貝　名　中古　殿上人の玩具とせし美しき貝、源氏貝の類なり。

かぜもち—ぐさ　風持草　名　植物　をぎの古き語。

かせ—やま　鹿背山　名　地名　山城國相樂郡鹿背山村にある山。

かぢ　父　名　古語　父のこと、かぢいろとは父と母とのことと云ふ。

カソード　Cathode　名　物理　電流の電解物より出づる方を云ふ、カソード線（Cathode ray）とはクルクス管の陰極にアルミニウムの小片を附し　之に電流を通ずるとき發する一種の光、陰極放散線とも云ふ。

かろくど　加速度　Acceleration　名　物理　變速運動に於て其速度の變化する割合なり換言すれば時間の單位中に起る可き速度の變化而して毎秒九百八十糎の加速度を以て計算す

かろけし　幽　形　古語　かすかの意。

か—ろしき　假組織　Paleotissue　名　植物　各細胞の結合の完全ならずして、單に錯雜して密集するもの、菌類或は管狀藻類の如し。

かろ—たけ　佳蘇嶽　名　地理　琉球嶽の一、琉球國沖繩島にあり。

カソーボン　Casaubon　名　人名　アイザック　カソーボンはセチバの有名なる古典學者、プロテスタント派にて英國に移る、（西紀一五五九—一六一四）メリック　カソーボンは前者の子神學者にして父に　從て英國に行きオクスフォード大學教授となる（西紀一五九九—一六七一）。

かろわりー　火食鳥　名　動物　ヒクヒドリに同じ。

かた　潟　Marsh　名　地文　海岸の沙洲發達して　淺瀬となり、僅かに　狹路によりて　海に通ずるもの、又入江、入海、浦、沼、湖なとを總稱す。

かだ　迦陀　名　佛語、佛の功德をうたへる經。

かだ—あづままろ　荷田春滿　名　人名　羽倉東麿ともいふ代々稲荷の神官にして、有名なる國學者なり、眞淵等の師なり、元文元年七月歿す、年六十九、著書多し。

かだ—ありまろ　荷田在滿　名　人名　春滿の甥にして亦國學者、殊に有職の事に精通したり、寶曆元年八月歿す。

かた—あらし　片疵　名　古語　半分程あれたること。

か—だい　夏臺　名　支那古代の獄　殷の湯王、夏の桀王の爲め囚れたる獄屋の名より起り、夏にては鈞臺、殷にては羑里、周にては圃土、秦にては囿囹と云ふ。

カタイ　契丹　Cathay　名　地名　北支那の舊帝國。

か—たいげん　假體言　名　文典　動詞ようなりし語。

かたい—こつ　下腿骨　名　生理　栗子狀骨一個、長骨二個より成り、下肢骨の一部たり、而して大腿骨と足骨との間にあり、栗子骨は膝前部に位するを以て膝蓋骨とも云ひ、長骨の中内側を脛骨、外側を腓骨と云ひ　脛骨は大腿骨腓骨及び足骨に相連接し、腓骨は脛骨及び足骨に接す。

かたいと—の　片糸　枕　よる、くるなどにかけて云ふ。

か—だう　勘當　名　かんだうに同じ。

かた—うた　片歌　名　五七七の歌にて　本末のそろはぬ歌

かた—たひ　片生　名　古語　幼少なること、未だ十分成長せぬこと。

かた—たろし　加太於呂之　名　神樂などに　肩ぬぎて舞ふこと、わづまわそびのこと。

かた—かけ　片掛　名　古語　かたはに同じ。

かた—かこ　堅香子　名　植物　かたくりの古語、かたかしとも云ふ。

かた—がた　旁　副　兼ねて、ついでに、副詞より變ず。

かた—かづら　片鬘　名　植物　もろかずらに對して云ふ、葉ばかりのもの。

かた—かど　片角　名　少しの才智。

かた—かな　片假名　名　奈良朝の頃　佛教盛なるに從ひ、寫經及講演の筆記等に　在來の漢字にては甚不便なるを以て　扁旁のみをとりて書き示すに至り　今のものとなれり卽ち（かりな）のことにて音標文字なり　一說に吉備眞備の作なりと云ふ　未だ確定したることにわらず。

かたかは—やぶり　片側破　名　剛情慓悍なること　頑固一方にて理の是非を顧みず我意を通さむとするもの。

かた—がへり　片回　名　二歲の鷹のこと、鳥鷹に作る。

かたがほ—なし　片顔無　名　心の一隨なること。

かたかま—やり　片鎌槍　名　両鎌槍に對して云ふ語、槍の身の一方にのみ　杖の出でたるもの。

かたき—こほり—は—しも—な—ふむより—いたる　履霜堅氷至　句　物事に秩序、順序のあるものなるを示す、易の坤の卦に見ゆ。

かた—ぎぬ　肩衣　名　昔武家に用ゐし禮服　德川氏の制に

は士分以上の者に着衣するを許されたり、袖のなき素袍にて　腰部までわり、下袴と合せ稱して　上下（カミシモ）と云ふ。

かたざり—かつもと　片桐且元　名　人名　武臣、近江國の人、助作と稱す、豊臣秀吉に仕へ、賤が嶽七本槍の一人（天正十一年）、秀吉の死後、秀頼の傅たりき、慶長十九年四月方廣寺の供鐘の銘の事より、家康及大野治長等と不和を生じ、淀君に疎せられ、元和四年五月、秀頼死し城陷りたれば自殺せり　年六十なりき。

かたざり—さだとし　片桐貞俊　名　人名　宗匠、長三郎岩見守と稱す、桑山宗仙に茶道を學び　石州流茶道の祖となる、船越吉勝、多賀左近と三宗匠と稱せらる、氏は又畵に巧みにて古物鑑定に精しかりき。

かたく　花托　Thalamus　名　植物　花軸或は花梗の頂端肥厚して花を着くるとき之を稱して花托と云ふ、其形種々あり、即ち

常形（凹入花托（バラ））

變形（凸出花托（オランダイチゴ））

（果柄（Carpophore）繖形科）

（子房柄（Gynophore）石竹　センノタ。

かたく—ちうさく　家宅搜索　名　法律、犯罪の嫌疑にて其証據物を探らむとして　其家中を搜すこと。

かた—ぐつ　片皆　名　古語　左杏を脱ぐこと、これ杏禮の略式なり。

かたくら—かげつな　片倉景綱　名　人名　伊達政宗の重臣　幼名小十郎、備中と改む、性異才に富み、主家隆興に與りて力ありき　元和元年十月四日　年五十九を以て歿す。

かた—くり　片栗　Erythronium dens-canis　名　植物　車前葉、山慈姑にも作る、百合科草本、葉は對生にて楕圓形をなす、花は花梗の頂に一つ咲く、紫色三瓣花なり、白色肥大なる地下莖を有す、是れ即ちかたくりこの原料なり、此れ澱粉質を多量に含有するを以て、菓子及索麵を製す。

かた—げ　片食　名　古語　一、ひとかたけの意にて一度食すべき犬の食物、二、かたぎとも云ひ、一日　一回食すること。

かた—ごころ　片心　名　古語　微意、寸志の意。

かた—さる　片去　名　古語　少し遠ざかる、退るの意。

かた—し　型師　名　鑄型を造る人。

かた—しき　片敷　名　古語　一、かたしくこと、二、獨りねること。

かたしく　挽　動四　古語　傾く、たわむに同じ。

かた—しほ　堅塩　名　古語　こごりて堅くなりし塩、黑塩とも云ふ。

かたしほ—の—うきあな—の—みや　片塩浮穴宮　名　地理　河内國にありて　安寧天皇の行宮なりき、故に此天皇を片塩浮穴宮御宇天皇（かたしほのうきあなのみやにあめのしたしろしめすすめらみこと）と申すなり。

かたしほ—ひめ　堅媛　名　人名　蘇我稻目の女、欽明天皇の妃（二年入宮）にて用明天皇の御母なり。

かた—しろ　形代　名　一、佛家の位牌に類するものにて古　祭神のとき其靈の代りに作りたるもの、二、なでものわがものの類なり、三、似せ物を云ふ。

かたす　假植　動四　一、場所を移すこと、二、樹木を植ゑ移すとき　假りに　他の場所に植ゑおくことなり。

かたす—くに　堅州國　名　古語　かたよりたる國、地下にある國　蓋しかたすみのくにより變せしならん。

かた—せ　片瀬　名　地名　相模國鎌倉郡江之島の隣にありて　海水浴場あり。

かたせ—がは　片瀬川　名　地理　固瀬川にも作り、相模國境川のことを云ふ。

かた—ちぎ　片削　名　屋上の千木の端を削りたるもの、伊勢大神宮の内宮は内方、外宮は外方に向けて削れり。

かた—ちなへ　片膳　名　寮宮の忌詞にて　いつきのこと。

かた—た　堅田　名　地名　近江國滋賀郡堅田村なり、堅田落雁は近江八景の一にて浮御堂あり、大津の北三里餘なり

かた—たがへ　方違　名　平安朝時代の迷信　昔他出する時天一神（ながかみ）又は太白神（ひとひめぐり）の居る方、金神の方に當れるを忌み　前夜他家に宿し　翌朝　方角をかへて出立すること。

かた—たて　肩盾　名　武器、肩の上を被ふこと。

かた—の—うら　堅田浦　名　地理　近江國堅田邊にある浦なり、此邊に產する鮒を堅田鮒と云ふ。

かたち—ぐさ　容草　名　古語　美しき草のこと。

かたち—の—みこ　容御子　名　古語　美しき稚子のこと。

かた—ちはひ　片幸　名　古語　ねこひいきすること、一方のみを愛すること。

かた—づ　固唾　名　堅唾に作る　事ゐるとき、熱心のあまり、或は氣違ひて　物も云はずして居るときなどに　口中に溜る唾を云ふ。

かた—つ—かた　片方　名　古語　片一方に同じ。

かた—つき　肩衝　名　茶入れの一種。

かたつぶり　蝸牛　Helix or snail　名　動物　軟體動物、復足類、殼は帶褐淡黃色、縱に深褐色の平行線二三條ありて外套膜の分泌物より成る、觸角は長短二對ありて長角の先端に口あり、鰓心舌、胃、肝臟、心臟、腎等を具有すると雖

も最も簡單なり、多く濕地に棲息し、植物の若葉を食ふ、殼、肉は共に外人の好む所にて飼養せらる。

かた—つまど 片妻戸 名 両妻戸の片方の古語。

かたづ—な—のむ 呑固唾 動 氣違ひつつ 息を凝らし、氣を凝らして沈默して居ること、殘念の樣を形容す。

かた—ざり 片手切 名 片よりて射ること。

かた—じやうだん 片手上段 名 武術 擊劍するとき片手にて 上段に擔ふること、片手にて星眼に擔ふること を片手星眼と云ふ、片手にて突き入るること を片手突と云ふ。

かた—まき 片手卷 名 偏紮にも作り 刀の櫛示の卷き方を云ふ。

かた—や 片手矢 名 片手に 矢を持つこと。

かたな 刀 名 一、刃のある鋸、二、腰刀、佩刀の如く太刀の小なるもの、三、裁刀、物をきる庖丁類。

かたなし 結政座 名 役所 昔政事を執り行ひしところ。

かたな—だま 刀玉 名 刀を空へ上げ 手にて之を受くること、田樂、猿樂の時の技術なり。

かたな—の—めきき 刀目利 名 相刀者の意 刀鋸類の眞僞、善惡を鑑定する人を云ふ。

カタニア Catania 名 地名 イメリアのシシリー島中エトナ火山の麓にある古町、エトナ山噴火の爲め慘害を蒙ること屢、硫黄、殼物、果物等を輸出す。

かた—ぬく—しか 肩拔鹿 名 古 占ひに用ゐししか。

かた—ねぶり 片眠 名 古語 うたたね、半ばねぶる。

かた—の 交野 名 地名 河内國河内郡山田村牧野村川越村牧村に當る地、昔しより櫻の名所として知らる。

かた—の—あづまろ 荷田春滿 名 人名 國學者、羽倉東麿とも稱し、京都稻荷山の祠官、信詮の子、古文復興を以て自ら任じ、國史、律令、格式、古文、古歌何れも精通せざることなし、晩年京都東山に、國學校を建設せむとせしも其意を齎らして歿せり、時に元文元年七月二日、年六十九なりき、萬葉集童蒙抄、伊勢物語童子問の著書あり

かた—の—ありまろ 荷田在滿 名 人名 國學者、春滿の甥 名は持之、通稱は東之進、仁良齋と號す、春滿に子なきを以て其後を嗣き、又大に古學を唱へ、有職(今式)の學に精し、門弟を多く集めて教授す、寶暦元年八月四日歿す時に年四十八、一說に四十なりと云ふ。

かた—の—たみ 荷田蒼生 名 人名 學者、在滿の妹、父兄の志を嗣ぎ 和歌文章を修め、其名天下に高し、天明六年二月二日 年六十五にて歿す。

かた—ばかま 片袴 名 山伏のはかま。

かた—ばづし 片外 名 女髮の結ひ方、德川時代の御殿女中丼び貴人の內室の間に行はれたるもの、頭上にて輪形に結び 横に箝をさし上部をはずすなり。

かたばね—だうみ 片羽道味 名 人名 醫、駿河の人、技術に巧み、其名天下に鳴る、性獵を好む 常に 腰に大藥籠をつけ、鉄を肩にし 山野を逍遙せり。

かた—はま 片濱 名 地理 三河國の海濱を云ふ、又陸前國の海濱に此名あり。

かた—ばみ 酢漿草 Oxalis corniculata 名 植物、酢漿科草本 三小葉の互生葉、春期 小形の黃花を開く 五瓣なり、後莢を結ぶ 非常に酸味を有しシソと共に梅干を漬け貯ふるに用ゐらる、又カガミ草とも稱す これ中古磨鏡に用ゐし故なり、尙此の草の花に形どりて紋とするもの多し。

かたはら—なし 傍無 形 古語 比類のなきこと。

かたはら—ぼね 傍腹骨 名 生理 古語、肋骨、筋骨に同しく、あばらぼねのことを云ふ。

かた—びさし 傍廂 傍庇 名 一、書名 齋藤彦麿の隨筆二、片方にのみ出たる庇なり。

かたびん—ろり 片鬢剃 名 刑罰 鎌倉時代より行はれし庶人の閏刑、男子の片鬢を剃るなり。

かたぶく 傾 動四 古語 一、かたむくこと 二、疑ふさま、頭を傾くるより云ふ。

かた—ふたがる 方塞 動四 古語 陰陽家の說に 行かむとする方角に、天一神(なかがみ)の居て、犯すこと能はずと云ふ。

ガタペルチャ 名 化學 グタペルカに同じ。

かた—ま 堅間 名 古語 かつま かたみともよむ、竹にて作りたる目の細かき籠のこと。

かたまし 姦 形 古語 心のねじけたること、かたみ。

かた—まよひ 肩紐 名 古語 肩の破れたること、衣服の肩のところの經緯糸の亂れてかたよること。

かたまる 固 動四 一、凝結すること、二、成就すること 完成すること、三、緊合すること、四、物事に熱心にして他を顧みづしてなすこと。

かたま 裏 名 古語 忌中に同じ。

かたみ—うらみ 互恨 名 古語 互に恨みあふこと。

かたみ—ぐさ 形見草 名 植物 古語、一、きくのこと、二、なでしこ(撫)三、あふひのこと。

かた—みなと 片港 名 地名 東京府下小笠原島東港の古き名なり。

かたみ—の—いろ 形見色 名 古語 喪服の色なり。

かたみ—の—みづ 形見水 名 古語、涙の異名。

かたみ—の—やま 形見山 名 地理 三瓶山のこと、石見國にあり。

かたむく 傾 動ト二 傾かしむ 耳を傾く、國或は城を亡滅すること。

か—たんぱくせき 火蛋白石 名 鑛物 蛋白石の亞種の一、半透明にて 色は乳白、黄のものもあれど、多くは紅色にて火樣の光彩を發す。

かため 固 名 凝結せしめて固くすること、確定すること 警固、警備、守護、要害の地などの意あり。

かた—むくろ 偏軀 名 元祿時代の語にて 物事にかたよる人を云ふ。

かたやま—けんざん 片山兼山 名 人名 儒者、上野國の人、名は世璠、字は叔琶、通稱は東造、鵜士寧、服部南部秋山玉山などに就き、經義を修め、修辭を究む、自ら折衷學と稱して、他の門戸の見をなさず、天明二年三月二十九日、年五十三にて歿せり。

かたやま—ばくかい 片山北海 名 人名 儒者、越後國新潟の人、名は獻、字は孝秩、大阪に出で宇土新に學ぶ、性寡欲、音樂を好み、笛に巧、茶道に精し、經濟の心得あり 寛政二年、年六十八にて歿せり。

かたよりたるひかり 偏りたる光 名 物理 偏光の事なり

カタラウヌム 原 Catalaunian plain 名 地名 フランスのパリの東方八〇哩にあるヤルンシャロンシュル、マルヌ市附近の原にて古戰場たり、西紀四五一年アッチラの軍の四ローマの將軍エーチウス及西ゴート王テオドリックの爲めに擊破せられし地なり。

かたらひ—やま 談山 名 地理 陸奥國にある山。

カタラヌム Catalaunum 名 地名 カタラウム原の一地なり。

かたり—きこゆ 語り聞ゆ 動ト二 御話し申すこと。

カタリナ Catharine, Catharina, Caterina, Ekaterina 名 人名 此名の人、三あり、一、フランス王ヘンリ二世の妃、西紀一五六〇年カロロ九世の攝政となり、一五七二年八月二十四日バルトロメオ祭日の夜 パリーにある新教徒を殘殺せしむ、又ヘンリー三世の立つや 是が攝政たりき（一五一九—一五八九）。二、イギリス王ヘンリー八世の后、フエルヂナンドとイサベラとの第四女、初めイギリスのアルツルに嫁し 夫の死するや 其第八世の后となれり（一四八三—一五三六）。三、ロシアのペテロ三世の皇后、カタリナ二世なり、ペテロ三世の崩御するや、即位し、文學、科學を保護し、帝の遺圖をつぎ 領土擴張に志し、ポーラ

かた—ばづし 片外 名 女髪の結ひ方、德川時代の御殿女中幷びに貴人の内室の間に行はれたるもの、頭上にて輪形に結び 横に笄をさし上部をはすすなり。

かたばね—だうみ 片羽道味 名 人名 醫、駿河の人、技術に巧み、其名天下に鳴る、性獵を好む 常に 腰に大藥籠をつけ、鉄を肩にし 山野を逍遙せり。

かた—はま 片濱 名 地理 三河國の海濱を云ふ、又陸前國の海濱に此名あり。

かた—ばみ 酢漿草 Oxalis corniculata 名 植物、酢漿科草本 三小葉の互生葉、春期 小形の黄花を開く 五瓣なり、後莢を結ぶ 非常に酸味を有しシソと共に梅干を漬け貯ふるに用ゐらる、又カカミ草とも稱す これ中古磨鏡に用ゐし故なり、尙此の草の花に形どりて紋とするもの多し。

かたはら—なし 傍無 形 古語 比類のなきこと。

かたはら—ぼね 傍腹骨 名 生理 古語、肋骨、筋骨に同じく、あばらぼねのことを云ふ。

かた—びさし 傍廂 傍庇 名 一、書名 齋藤彦麿の隨筆 二、片方にのみ出たる庇なり。

かたびん—ろり 片鬢剃 名 刑罰 鎌倉時代より行はれし庶人の閑刑、男子の片鬢を剃るなり。

かたぶく 傾 動四 古語 一、かたむくこと 二、疑ふさま、頭を傾くるより云ふ。

かた—ふたがる 方塞 動四 古語 陰陽家の說に 行かむとする方角に、天一神（なかがみ）の居て、犯すこと能はずと云ふ。

ガタペルチャ 名 化學 ゲタペルカに同じ。

かた—ま 堅間 名 古語 かつま かたみともよむ、竹にて作りたる目の細かき籠のこと。

かたまし 姦 形 古語 心のねじけたること、かたみ。

かた—まよひ 肩紙 名 古語 肩の破れたること、衣服の肩のところの經緯糸の亂れてかたよること。

かたまる 固 動四 一、凝結すること、二、成就すること 完成すること、三、緊合すること、四、物事に熱心にして他を顧みつしてなすこと。

かたま 裏 名 古語 忌中に同じ。

かたみ—うらみ 互恨 名 古語 互に恨みあふこと。

かたみ—ぐさ 形見草 名 植物 古語、一、きくのこと、二、なでしこ（撫子）三、あふひのこと。

かた—みなと 片港 名 地名 東京府下小笠原島東港の古き名なり。

かたみ—の—いろ 形見色 名 古語 裏服の色なり。

かたみ—の—みづ 形見水 名 古語、涙の異名。

かたみ—の—やま 形見山 名 地理 三瓶山のこと、石見國にあり。

かたむく 傾 動ト二 傾かしむ 耳を傾く、國或は城を亡滅すること。

か—たんぱくせき 火蛋白石 名 鑛物 蛋白石の亞種の一、半透明にて 色は乳白、黄のものもあれど、多くは紅色にて火樣の光輝を發す。

かため 固 名 凝結せしめて固くすること、確定すること 警固、警備、守護、要害の地などの意あり。

かた—むくろ 偏軀 名 元祿時代の語にて 物事にかたよる人を云ふ。

かたやま—けんさん 片山兼山 名 人名 儒者、上野國の人、名は世璜、字は叔琶、通稱は東造、鶴士寧、服部南部秋山玉山などに就き、經義を修め、修辭を究む、自ら折衷學と稱して、他の門戸の見をなさず、天明二年三月二十九日、年五十三にて歿せり。

かたやま—ほくかい 片山北海 名 人名 儒者、越後國新潟の人、名は猷、字は孝秩、大阪に出で字土新に學ぶ、性寡欲、音樂を好み、笛に巧、茶道に精し、經濟の心得あり 寛政二年、年六十八にて歿せり。

かたよりたるひかり 偏りたる光 名 物理 偏光の事なり

カタラウヌム 原 Catalaunian plain 名 地名 フランスのパリの東方八〇哩にあるヤルンシャロンシュル、マルヌ市附近の原にて古戰場たり、西紀四五一年アッチラの軍の西ローマの將軍エーチウス及西ゴート王テオドリックの爲めに擊破せられし地なり。

かたらひ—やま 談山 名 地理 陶奥國にある山。

カタラヌム Catalanum 名 地名 カタラウム原の一地なり。

かたり—さこゆ 語り聞ゆ 動ト二 御話し申すこと。

カタリナ Catharine, Catharina, Caterina, Ekaterina 名 人名 此名の人、三あり、一、フランス王ヘンリ二世の妃、西紀一五六〇年カロロ九世の攝政となり、一五七二年八月二十四日パルトロメオ祭日の夜 パリーにある新教徒を殺せしむ、又ヘンリー三世の立つや 是が攝政たりき（一五一九—一五八九）。二、イギリス王ヘンリー八世の后、フエルヂナンドとイサベラとの第四女、初めイギリスのアルツルに嫁し 夫の死するや 其第八世の后となれり（一四八三—一五三六）。三、ロシアのペテロ三世の皇后、カタリナ二世なり、ペテロ三世の崩御するや、即位し、文學、科學を保護し、帝の遺圖をつぎ 領土擴張に志し、ポーラ

ンド分割を行へり、（一七二九—一七九六）。

かたり—べ 語部 名 歷史 我國古代、舊事を記憶口誦せし部族、諸國にありき。

かたりやま—じんじや 談山神社 名 地理 大和國十市郡多武峯村にある藤原鎌足朝臣を祀れる別格官幣社なり。

カタル Catarrh 加答兒 名 生理 粘膜の炎衝より生ずる病氣なり。

カタルニア Catalonia (Catalunia) 名 地名 イスパニア東北の一州、土地肥沃果物を出す、國中製造業の中心地なり

かた—わく 動四 古語 一、混亂したるものを兩方へ分つこと、二、一方を訪問して、他をせざること。

かた—わな 片綱 名 輪を一方にのみ出し 引けば直ちに解くる樣に結ぶことなり。

かたわれ—ぶね 片破船 名 古語 破船して用にならざるもの。

かた—ゑみ 片笑 名 古語 一、僅か笑ひ顏すること、二 片頰にのみ笑を含むこと。

かた—こむ 片咲 名 古語 少し笑むこと。

かたなか—あやめ 片岡菖蒲 名 人名 大阪俳優、幼名豊松又は熊吉、片岡氏の養子、文政七年四月十八日 年四十一にて歿す。

かたなか—いちざう 片岡市藏 名 人名 大阪俳優、幼名鐵三郎又は鐵彌、松島屋と號す、敵役なり。

かたなか—けんさち 片岡健吉 名 人名 政治家、土佐の藩士、東都に出で 衆議院議長たること數度、明治三十六年卒す。

かたなか—じよけい 片岡如圭 名 人名 易學者、天明頃京都に生る、名は基成、字は平甫 通稱平助 易學に通ず。

かたなか—たかふさ 片岡高房 名 人名 四十七士の一人尾張の人、通稱源五衛門、淺野長矩に仕へ 內證用人たり主家滅し後吉岡勝兵衛と變名し 元祿十六年二月四日死を賜ふ、時に年三十七なりき。

かたなか—の—いはつき—の—なか—の—きた—の—みささぎ 傍丘磐林丘北陵 名 地理 大和國葛下郡染山村にある武烈帝の御陵なり。

かたなか—の—いはつき—の—なか—の—みなみ—の—みささぎ 傍丘磐杯丘南陵 名 地理 大和國葛下郡池田村にある顯宗天皇の御陵なり。

かたなか—の—うまさか—の—みささぎ 片丘馬坂陵 名 地理 大和國葛下郡王寺村にある孝靈天皇の御陵なり。

かた—な—ぬく 肩抜 同 一、肩に擔げたる物を卸し去る 二、關係を立つこと。

かたーなり 片折 名 古語 論旨の節なり。

かち 徒 名 一、徒歩の意、二、かちざむらひ(徒士)の略、これは德川時代の歩兵にて各藩毎にありし格式身分の輕き單、將軍出行の時は 先驅して道路を警しめ、平時は門内を衛護す。

かち 梶 名 一、櫓櫂の類にて舟を進め行る具、船尾にありて舟の進行する方向を正すもの、かぢぼう(柁 の略、二、植物、梶科木本、五分裂する一尺許の葉を有し 花、實は楮より大、皮を以て紙を製す。

かーち 加持 名 佛語 一、神佛に祈禱すること、二、眞言宗にて修す。

がーち 雅致 名 みやびなること、風雅の趣きあること。

カーチアーヤナ Kātyāna (迦旃延) 名 人名 釋迦牟尼の弟子にて闍浮那提の著者なり(紀前第四世紀の人)。

かち—いろ 褐色 名 かち、かちんとも云ふ、紺の更に濃きもの、武器を染むるなり。

かち—ぎ 褐衣 名 昔 隨身の着たる服を云ふ。

かちかう—みづ 名 後七日の御修法に行はせらるる法式。

かちかは—きゆうじらう 梶川久次郎 名 人名 江戸の人 寛文天和の頃中橋檜物町に住せり、蒔繪の始祖彦兵衛に學び、其家を嗣ぐ、描金色相一世に冠たり、最も印籠の蒔繪に巧みにて、古今獨歩と云ふ。

かちき—まぐろ 舵木眞黑 名 動物 脊椎動物、魚類、大なるものは一丈餘、上唇長くして鋭し 形狀しひらに似たり、旗魚にも作る。

かち—ぐり 搗栗 名 搗は勝に通ずるを以て、祝儀に用ふ栗實を殼と共に干し 白にて搗き 殼と渋皮とを去りたるもの。

かち—しんぶもん 梶新右衛門 名 人名 釼客 名は正眞 德川家綱、綱吉に歴仕し、一刀流梶派の祖、元和元年十二月十八日歿す。

カチス Cadiz (Cades, Cales) 名 地名 イスパニアの西南海岸にある重要貿易港、西紀前十一世頃フェニキア人の創建せし地、西紀一五九六年英國艦隊の、無敵艦隊の報復の爲め此地を掠し、一八〇〇年チルソン亦之を襲擊せり。

かち—ずみ 和炭 名 古語 やはらかきすみ今のとかまし、けしずみのことならむ。

かちだち—の—みつもの 歩立の三物 名 鎌倉時代にありし弓技の一、草鹿(くさしし)、圓物遊、大的のこと。

かち—つねきち 梶常吉 名 人名 七寶燒 中興の祖、尾張國海東郡正治村の人、幼時樂燒を發明し、七寶燒を解部して その製法を學り 幾多の試驗を積みて遂に目的を

遂せり、明治十六年九月二日 年八十四歿す。

かち—てき 可知的 名 哲學 知覺に感して知り得らる事を云ふ。

ガーチナー Gardiner 名 人名 歴史家、西紀一八六年イギリスに生れ 歴史に精しく 其著も尠からず。

カチニ Caccini 名 人名 音樂家にて歌曲作者、西紀一五六〇年頃ローマに生れ 一六二四年歿す。

かち—ぬの 褐布 名 地理 攝磨國飾磨郡の產出する褐色の布なり。

かちのは—ひめ 梶葉姫 名 人名 古語 たなばたひめのことにて 單に かちのはとも云ひ 昔 七夕に 梶の葉に 歌などをかきて祭りし故なり。

かちばし—かの 鍛冶橋狩野 名 人名 狩野探幽のこと。

かちはら—かげあつ 梶原景惇 名 人名 國學者、讃岐の人、字を復、藍泉と號し、三痴學人と云ふ、國史、典故に精通し、帝王編年一百五十卷を著す 天保五年四月 年七十三歿す。

かちはら—かげすゑ 梶原景季 名 人名 源頼朝の親臣十一人の一、景時の子、惡源太と稱す、宇治川の合戰に 佐々木高綱と先登を爭ひ第二となる、性和歌騎射を能くせしも 狡黠惡む可し、正治二年 頼家の爲め征討せられ 駿河國狐崎に於て 父と共に敗死す、時に年三十九。

かちはら—かげとき 梶原景時 名 人名 鎌倉景政の後、景清の子、平三と稱す、性狡猾、口辯巧みなり、初め大庭景親に從ひ 源頼朝を石橋山に攻めしも 頼朝の匿れたるを知つて云はず 之に降りて大に親近せらる、壽永三年義經に從ひ、木曾義仲を討ち 後義經を讒す、正治元年頼朝薨し頼家嗣ぐ、景時は結城朝光を除かひとし、三浦義村、和田義盛等六十餘人の連署を以て訴告せられ 罪を得て駿河に至り 狐崎にて 蘆名小次郎の爲め殺さる。

カチフ Cardiff 名 地名 ウェールスの南部西方にある一都市、タッフ河上にあり、此地方の鑛物及生產物の輸出港なり。

かち—ま 楫間 名 古語 楫をとる間のこと。

かち—まくら 楫枕 名 ふなやどり、舟旅、船中の宿泊。

かちん 褐 名 かちにれなし、かちんの直垂などは 攝磨國飾磨(しかま)の里にて 布をかち色に染め 此を以て作りたるを云ふ。

かち—ぬ 搗布 名 植物 海藻類、遠江國相良近海に多く產する あらめの嚴多くして 狹きものを云ふ。

かち—ぬつけ 徒目附 名 役名 德川時代の目付役の下役陪臣以下を糺察するを職とす、今の巡査の如し。

が—ちやう 雅丈 名 男子のこと。

かちや—じんじや 加知彌神社 名 地理 因幡國氣多郡勝谷村大字寺内にある 彦火火出見尊 鸕茅葺不合尊 玉依姫命を祀れる經社なり。

か—ちやう 交章 名 植物 熱帶植物、はいたら類、椶櫚に似て大なり 多く屋根を葺くに用ゐらる。

か—ちゆう 花柱 Style 名 植物 子房より上に生ずる柄なり。

かち—ゆざ 步射 名 古語 徒步にて弓射する人の負ふゆぎなり。

が—ちよう 鷺鳥 Goose 名 動物 鳥類、游禽類、頭部長くして肉突起あり、全身白色、體長二尺七寸、ガンに似て大なり。

カチリヌス Catilinus 名 人名 ローマのパトリシアン、西紀前六二年叛黨をつくりて キセロの爲め發見せられて罪せらる。

ガチル Gadir 名 地名 イスパニアの西南海岸にある地なり。

かち—な—せんり—の—ほか—に—けつす 決二於勝千里外一 文 古 支那説の高祖の臣張良の偉人なるを評したる語、張良は朝にありながら、其作戰計畫を以て、必勝疆域を擴むるなりの意。

かつ 喝 名 怒れる聲のこと、五代史に 北兵何能爲レ當二陣上之喝一とあり 則ち此意なり。

かつ 加 國ト二 兼ね合はすこと、混合すること。

かつ—あは 勝安房 名 人名 舊幕臣 幼名義邦 通稱麟太郎、海舟と號す、長崎に往いて歐人に航海術を學ぶ、德川慶喜上野に謹愼するに當り 旗本を鎭撫し、維新後官に仕へ 樞密顧問官正二位勳一等伯爵たり、明治三十二年一月二十一日、年七十八にて歿す。

かつ—うんも 褐雲母 Anomite 名 鑛物 黑雲母の一變種なり。

かつ—ぬき 滑液 Synovium 名 生理 骨骼の關節を充たす液にて 粘性强く 骨端を抵觸せしめず。

かつぬき—まく 滑液膜 Synovial membrane 名 生理 二骨の接する部を被ひ 連絡せしめ、内方に向ひて粘液を分泌する膜即ち之れなり。

かつ—がう 渴迎 名 非常に待ち居ること。

かつかう—どり 郭公鳥 名 動物 鳥類、攀木類、其嘴扁平、上嘴鈎曲す、尾甚だ長く 胸に羽毛多し 昆虫を食す 此が特性は 他禽の巢中に入りて産卵し、他禽をして之を孵化せしむるなり。

かつかさん 活火山 名 地文 淺間山の如く、現に活動せる火山を言ふ。

がつか—せん 顎下線 名 生理 唾線、舌下線の後方顎下に位し 舌下に排泄口あり。

かつ—がつ 且且 副 一、十分ならねども、まづまづ、せめて、二、少し、僅かに、辛ふして、三、少少づつ、一つづつ、たひたひになどの意あり。

かつがは—しゆんらい 勝川春英 名 人名 繪畫師、寛政、享和頃の人。九德齋と號し 繪を勝川春章に學ひ 又土佐派をも修め 一家を成して九德風と稱せらる、最も繪本 錦繪 役者似顔繪、狂畫に巧みなりき、文政二年七月二十六日 年五十八を以て歿す。

かつかは—しゆんしやう 勝川春章 名 人名 浮世繪師、宮川祐助と稱し 酉爾 旭則齋と號す 當谷に學び 役者似顔繪に巧み、寛政四年十二月八日歿せり。

かつかは—しゆんらう 勝川春則 名 人名 浮世繪師、勝川春章の弟子なりき。

かつ—ぎ 被衣 名 きぬかつぎのこと、女の外出するとき顔をかくす爲めに 頭上より被るもの。

かつ—きう 葛裘 名 隱者 農士の着物 葛は葛布の衣にて 夏用のもの 裘は毛衣にて 冬用のもの、故に一度葛裘を易ふと云へば一年は經過せりの意なり。

かつぎ—め 潛女 名 古語 海女、水を潛り 海草、魚介を捕ふる人、水中にくぐり入るを かづく(潛)と云へり。

かつけ—もの 被物 名 一、平安朝時代の饗應する時に客に賜うし引出物なり、二、變して はな、たまもの、贈頭の意となれり。

かつけ—わた 被綿 名 古語 一、佛名の時法師に賜ひし綿、二、蹈歌に賜ひし綿なり。

かつ—こ 羯鼓 名 樂器 大鼓、臺に據ゑ 撥にて 両面を打つもの、腰鼓に似たり。

かつこう—るゐ 濶口類 Colubriformia 名 動物 爬虫類 蛇類、にしき(へび あをだいしよう(黃頷蛇)しまへび やまかがし(赤棟蛇)等を含む、皆 四肢全く缺け上下両顎に鋭齒を有し 上顎には内方に向へる硬き鉤齒あり、印度に産するコブラ、北米の響蛇(Rattle Snake)南米アマゾンの巨林に住むボア(Boa の如きは最も巨大にて最も强く人畜を絞殺すること多し。

かづ—さ 上總 名 地名 東海道十五國の一 天羽、周淮、望陀、夷隅、市原、上埴生、長柄、山邊、武射の九郡より なり 千葉縣に屬す、古は下總と共に一國にて 總國と稱し後別れて二となり カミツフサ シモツフサと云ひき。

かづさのかみ—ただきよ 上總守忠清 名 人名 伊勢古市の人、藤原伊勢五と稱す、平清盛に仕へ 上總介右衛門尉たり、平氏滅亡のとき京師六條河原に斬らる。

かつしか—しきん 葛餅子琴 名 人名 詩人、大阪の人、片山北海混沌社に入り 七才子の一人となる。

かつしか—たいと 葛師戴斗 名 人名 畫人、葛師北齋の門弟にして 二代目戴斗と稱せらる。

かつしか—ほくさい 葛師北齋 名 人名 畫人、中島鐵次郎と稱す、德川氏用達鏡師伊勢の子、江戸本所に住し、勝川春勝の門に入り 浮世繪を學び 後一派をなす 最も浸畫に妙を得たり、嘉永二年四月 年九十にして歿す。

かつ—しき 喝食 名 禪 律宗等の小性にして 食事の給事をなすものなり。

かつじ—きん 活字金 Type metal 名 化學 活字の鑄造に用ゐるもの、錫七十五分 アンチモン 二十分、鉛五分の合金なり。

かっ—しや 滑車 Pulley 名 物理 定滑車 動滑車の二種ありて 何れも 僅少なる力を以て 大なるものを能く動かすの益あるものにて 木製或は金屬製の圓形車の中央に軸を貫きて 匡に入れ 輪の周圍に溝を作りて繩をかけ回轉し得る如き裝置なり。

かつしや—じやうしんけい 滑車上神經 名 生理 一の神經支にて 眼窠より内前方に走り 滑車軟骨の上部に至り 内眥を穿ち 同部の外皮に分布す。

かっしゆうこく—いすぱにあ—せんさう 合衆國イスパニア戰爭 名 イスパニア領にキゆーバに聚斂せしかば、一八九五年キゆーバ遂に叛き久しく平定せず、合衆國大統領マクキンリー、イスパニアの非を鳴らしキゆーバを救はんと欲し軍を起す、之れ此戰なり、合衆國軍サンチアゴを陷るに及んでイスパニア和を請ひ、十二月巴里の和約にて戰局を結ぶ此役イスパニアはキゆーバの獨立を認めてフィリピン群島イスパニア領四印度諸島スル群島グアム島を割讓す

かっしよく—うるる 褐色藻類 Phaeophyceae 名 植物 昆布 褐帶菜、黑菜、羊栖菜等 之に屬す、四分胞子、雌雄生殖にて繁殖す、クロロフィル、フィコヘーンを含有す。

かっ—せき 滑石 名 鑛物 針方晶形 眞珠光澤、銀白色、撓斷性あり 硬度一、—一、五、比重二、五六—二、八なり 酸類には侵蝕せられず、多く太古時代の岩層中にありて 顔料 耐火煉瓦石等に使用せらる。

カツスルリー Castlereagh 名 人名 政治家、英國の人、西紀一八〇一年外務大臣たりし時、ナポレオン 政策に反抗し 同盟の首長となる、一八二二年自殺す。

かっすれども—たうせん—の—みづ—な—のまず 湯不レ飲三鹽泉水二 文 潔白なること、支那の陸機の詩に見ゆ。

カッセル Cassel 名 地名 ヘッセンカッセルの首府なり 有名なるブンセンは此處に生れたり。

カッタア Cattar 名 端艇の一種 脚船 快船の意。

かつ—だう 喝道 名 大音にて叱咤すること。

かつた—だけ 刈田嶽 名 地名 磐城國藏王山のこと。

かつだ—たけたか 勝田武堯 名 人名 四十七士の一人、淺野長矩に仕へ 中小性たり 元祿十六年二月四日 死を賜ふ。

かつ—たん 褐炭 名 鑛物 中古代の砂岩 シェールの間にあり 色褐色 黑炭よりも炭素量多げれば 火力劣等なり、筑前の三池、石狩の札幌、肥前の高島より產出す 點火瓦斯 ペンキ等の用に供す。

カッチ Cutch 名 地名 印度ボンベイ管轄區中グヂアラット州の一國 (29,0N. 68,0E)。

ガッツ Ghats 名 地名 インド南海岸にて東西に相並行せる二山脈。

かつて 都 國 古語 全く、すべての意。

かつて—がた 勝手方 名 役名 德川幕府の置きし 勘定奉行の分掌にて 柳營内にて幕府の財政を司どるもの、

かつてつ—くわう 褐鐵鑛 Limonite 名 鑛物 非結晶、鐘乳狀、葡萄狀、塊狀等をなし 褐、黑、黃の色あり、比重三、六—四、〇、硬度五、—五、五 階岩石中に多少含有し 水成岩にもあり、泥鐵鑛、黃鐵礦、豆鐵鑛等の種類ありて 武藏、美濃、尾張より產出す。

かつどう—げんが 活動幻畫 名 物理 活動寫眞を見よ

かつどう—しやしん 活動寫眞 名 物理 幻燈を利用したる器械にして、幻燈の硝子繪の代りに、セルロイドの如き物にて作りたる透明なる長き帶に、變化の連續せる多くの繪を附し、機械仕掛にて、映出する繪を一定の早さにて交換するなり、人の眼は刺戟を去るも尙其網膜上に少時間印象を止むる性あれば、印象連續して、繪が活動するが如く見ゆるなり。

かつどう—りよう 活動量 Active mass 名 化學 化學作用をなす瓦斯及溶液の濃度なり……故に其一リットル中に存するグラム分子の數にて 活動量を示すなり、活動量の定律 (Law of mass action) とは 溫度及氣壓の一定なるとき 化學作用の速度は 反應する物質の各の活動量に正比例するものなり。

ガットリング—はう 名 軍艦内に備ふる機關砲の合銃砲の類なり。

かつぬ—くさ 蘇黄 名 植物、草本 春生じ 夏花を開き黄色を呈す、後果實を結ぶ。

かづ—の—みや 和宮 名 人名 德川家茂の室、仁孝帝の皇女、是れより公武合體論起る、明治十年九月相州塔澤に薨す。

かつば 河童 名 水中に住む想像的動物、かはわらはなり

かつばい—きん 濶脊筋 Latissimus dorsi 名 生理 脊部の大筋、脊柱及腰骨より起り 上膊骨の上部後面に附着す腕を後背面に向ひて引き下すの用をなす。

かつば—かご 合羽籠 名 かつばざるとも云ひ、古 貴人外出のとき 從者のあまよけに 前後に棒を以て擔ひたりし籠なり。

カツバッハ Katzbach 名 地名 ドイツのサクソニアにあるオーデル河の一支流、一八一三年八月二十三日佛將マクドナルドのプロシア將軍ブリュヘルに破られし所。

カッファ Kaffa (Phoodosia) 名 地名 ロシアのクリム半島の南東岸の一海港、商業甚盛、元ギリシア殖民地、ミトレスの建設、トルコ人占領せしも十八世紀の終に露領となる。

かつぶく 合伏 Superior conjunction 名 天文 地球の動徑と惑星の動徑と 百八十度の角をなす時を云ふ。

かつふ—たき 葛布瀑 名 地名 遠江國周智郡葛布村の瀧

かっぺら—さう 石長生 名 植物 丹沙草、丹草とも云ひ帶紫色の莖、濃綠色の葉を有し岩石に附着して生ず。

かつ—ま 羯磨 名 佛語 辨事とも云ふ、俗人の僧侶より受戒するとき 二本の獨鈷を叉に交叉するものなり。

かつまた—の—いけ 勝間田池 名 地名 美作勝南郡勝間田にある池なり。

かつ—み 勝見 名 植物 水草類、菰、菖蒲 浮草等なりと說種々あり。

かつ—もと 勝本 名 地名 松浦氏の舊藩地、壹岐國壹岐郡にあり、今は長崎縣に屬す。

かつ—やま 勝山 名 一、地名、越前國大野郡にある小笠原氏の舊藩地、及安房國平群郡にある酒井氏の舊藩地、二人名、江戸芳原巴屋の遊女、和歌 書、管弦に巧み、勝山髻の祖なり。

かつら 桂 名 植物 楓樹科木本 女桂、男桂の別あり、樹は肉桂と云ひ 香氣ありて藥用とす。

かつら—あゆ 桂鮎 名 動物、魚類、古 毎日禁裏へ奉りし山城國桂の里の鮎なり。

かつら—うせき 葛烏石 名 人名 肅家、江戸の人、細井廣澤に學び 更に陸陽詢を祖とし 遂に一家をなす、安政

元年歿す 年八十。

かつら—がは 桂川 名 地理 山城國にある川 源を丹羽に發す。

かつらがは—ほさん 桂川甫三 名 人名 德川幕府の侍醫 蘭醫外科を以て名高し、子孫世々此職たり。

かつらがは—ほしう 桂川甫周 名 人名 德川幕府の侍醫 甫三の子、和蘭藥選、海上備要方等の著書あり。

かつら—ぎ 葛城 名 地名 大和國南葛城郡吐田郷村の古名 神武天皇 土蜘蛛を誅し、創業を國造に任ぜらる地、後、綏靖天皇の宮居、蘇我氏の居住、蘇我蝦夷の祖廟を立つ皆此地なり。

かつらぎ—うじ 葛城氏 名 人名 武内宿禰の子葛城襲津彦の後胤を云ふ。

かつらぎ—がは 葛城川 名 地名 大和の廣瀬川のこと

かつらぎ—の—かみ 葛城神 名 神名 夜のみ出でて橋を作り給ひし神。

かつらぎ—の—ちつひこ 葛城襲津彦 名 人名 武内宿禰の子、神功皇后の五年 新羅に渡り 外情を審にす、應神天皇十六年 弓月君を迎へて歸化せしむ。

かつらぎ—の—つぶら 葛城圓 名 人名 玉田宿禰の子、履仲、反正、允恭、安康、雄略の朝に歷仕して大臣たり、眉輪王安康帝を弑し 圓の宅に匿れ給ふ 雄略帝之を燒き給ひしかば圓等焚死す、圓の女葛城韓媛（かつらぎのからひめ）雄略帝の妃、清寧帝雅足皇女を産む。

かつらぎ—やま 葛城山 名 地名 一、葛木山と云ひ 河内の金剛山の別稱、二、大和葛上郡にあり。

かつらく 髻 國四 古語 頭髮に 飾りを着く。

かづら—こ 髻兒 名 人名 和歌人、奈良朝の人、容貌麗、三士爭ふて之を聘するに當り、無耳池に投ず。

かつら—しま 桂島 名 地名 陸前宮城郡松島の前面の島

かつら—ないしんわう 桂内親王 名 人名 桓武帝皇女、伊豆内親王、平城帝皇子阿保親王に適く、在原行平、業平の母なり。

かつら—の—ほし 桂星 名 銚子の柄の 星に入れたる金具なり。

かつら—の—みや 桂宮 名 天親町帝皇子誠仁親王の出、四親王家の一。

かつら—の—ね 葛緒 名 古談 くづかつらにて補ひたる琴の糸。

かつらばら—しんわう 葛原親王 名 人名 桓武帝第三子母を多治比眞宗 性聰明穎悟、博聞强記、一品に進み、常陸太守、式部卿、太宰帥たりき 仁壽三年六月 年六十八

蕊宇　平氏の祖とす。

かつら—びし　桂蓯　名　動物　鳥類、ひしくひ族、頸脊鼠色、柿色の斑點あり、腹白色、嘴黑色にて扁平なり。

かつらやま—さいがん　桂山彩巖　名　人名　儒者、德川幕府講官たり、江戸の人、林整宇に學び　性理に精しく律詩を巧みにす、寛延二年三月廿一日、年七十二歳す。

かつらゐ—しんわう　葛井親王　名　人名　桓武帝皇子、性英敏　射を巧みにす、嘉永三年四月　太宰府に薨ず。

かつら—な—なる　折桂　名　古語　試驗に及第すること。

かつらぎ—わう　葛城王　名　人名　橘諸兄を見よ。

かつりよ　闊廬　名　人名　戰國の吳王　吳越交戰の端緒は此王の開きたるものなり、此戰にて敗死したり。

かつ—りよう　活量　名　生理　肺より出づる空氣の全量、平均男子は一升八合、女子は一升三合。

カツルス　Catullus　名　人名　歌詩人、イタリアの人、元老院の黨與、ケーザルを誹謗する甚し、（西紀前八四—五四年）。

かつな　鰹　Thynnus or Bonito　名　動物、魚類、鯖鰹類、多くは南東海に產す、體肥厚、背面蒼黑、腹部銷白、體側に四乃至八條の蒼色線あり、之を乾し經魚節を製す、土佐最も名高し。

かつな—き　鰹木　名　神社宮殿の棟上に鰹の如き形したる木を并ぶるもの、大社は八本にて長五尺、徑九寸、中社は六本長四尺　徑五寸、小社は長四尺、徑三寸なりと云ふ。

かつな—じ　勝尾寺　名　地理　攝津國住吉郡栗生村にある開來皇子の開基にかゝる眞言宗の一寺なり。

かつ—な—とく　釋褐　名　褐は毛布衣、釋は捨つる、故に始めて仕途に着くを云ふ。

かつな—の—かむり　Vella　名　動物　腔腸動物、海棲類黑潮に棲み　浮けとなる氣泡は楕圓盤、上面に半月形板を立て浮泳す、絲狀部長からず　垂下す。

かつな—の—ふぐし　Physalia　名　動物　かつをかむりに同じく、異なるは絲狀甚だ長く、刺絲胞ありて毒甚し、下面に大小不同の生殖器あり。

かつな—むし　鰹魚虫　名　動物　虫類、稍翅類、體長二分黑色長楕圓形、凡て短毛、鰹を食害す、幼虫は四分あり。

かて　糧　糅　名　一、かれひ、貯へたく穀類、兵糧、二、補ひ加ふる食物。

かてい　夏帝　名　年號　西紀一〇三八年、黨項、拓跋部の裔李元昊の宋仁宗實元元年同紇を擊て興慶に都せし時の僭號

かてい　柯亭　名　昔漢の蔡邕　柯亭館の家のたるきの竹をとりて笛とし、鳴らせしに甚だよし、遂に我國に傳りたり。

かてい—もんだふ　嘉貞問答　名　書名　伊勢貞丈の大塚嘉樹と有識、故實を問答せしもの。

かてう—げ—に　達者　國　古語　輕裝して、身がるの意。

カテガット　Kattegat　名　地名　スウェーデンとユトランド間の海江、長一五〇哩、廣八〇哩、暴風屢々あると、深淺一樣ならざるを以て航海甚だ苦しむ。

がて—に　片　助　古語　名詞に添へ　其者の交じる意。

カテシ　Kadesh　名　地名　今のアインカデシにて　東部ヨルダンの南境にあり、イエスライルの人民集屯所なり、又カナン七族中のヒタヒッ族の都にてガロンテス河畔にあり

か—でん　家傳　國　相傳　傳家に同じ。

かてん—さん　下轉筋　名　生理　動眼神經の下枝の分布せる筋にして收縮すれば　眼球は下方に回轉す。

か—と　河圖　名　理科（支那）天地の消長を數へトするもの　天一は水を生じ　地二は火を生じ、天三は木、地四は金、天五は土、天六は水、天七は火、天八は木、天九は金　地十は土をなすと云ふを基礎とせり。

かど　角　名　一、稜、偶、質、才氣、二、圭角の意あり。

カトー　Cato (Marcus Portius)　名　人名　ローマのコンサル（西紀前一九三年）、第二ピューニック戰爭に從ひ、イスパニアを征服し、アフリカの使節となり、カルタゴ征伐を主張し、惡風俗改良に盡力す。（前二三三—一四九年）。

かとう　河套　名　地名　內蒙古の地、黃河の沿岸にあり。

かとう　果糖　Fruit sugar $C_6H_{12}O_6$　名　化學、製法—甘蔗糖を酸類にて煮沸し　或は酵母を甘蔗糖に作用せしむ、性狀—美麗なる絹絲狀結晶にて　水及アルコールに溶解し易し

かとう—いなほ　加藤枝直　名　人名　櫛笥兵衛と稱し　芳宜園と號す、江戸町奉行大岡忠相の與力、加茂眞淵と交り深く、致仕後全く和歌を以て樂み、名天下に鳴り、弟子頗る多し、天明五年八月十日　年九十四を以て歿す。

か—どうくわん　假導管　名　植物　假脈管に同じ。

かとう—きよまさ　加藤清正　名　人名　武將、尾張愛知郡中村の人、清忠の子　藤原虎之助と稱す、豊臣秀吉に仕へ　幾ばくもなく七本槍の一人となり、征韓の役第二軍の將として、先鋒し功あり鬼將軍と呼ばる、秀吉の死後　家康に仕へ九州肥後守となり　熊本城を築き西海鎭撫の任に當る、慶長十六年四月　年五十にて病歿せり。

かどう—くわんせつ　可動關節　名　生理　全動關節、半動關節の二種あり　甲は肩肘關節の如く　乙は軟骨を有する椎骨の如し。

か—どうこう　何騰蛟　名　人名　支那貴州黎平衛の人、天啓元年鄉に舉げらるるや　諸所に功を奏し　唐王亟鍵貴州

に自立するに及び寵せられ　其歿後　永明王に仕へ　難に殉死す、文烈と謚す。

かとう—しゅんけい　加藤春慶　名　人名　陶器師、尾張春日井郡瀬戸村の人、貞應二年僧道元に從ひ唐に入り、歸朝して瀬戸に窯を設けたり、これ即ち瀬戸燒の開祖なり。

かとう—ただひろ　加藤忠廣　名　人名　清正の子、非文非武、父の如くならず、寛永九年六月出羽庄内に流さる。

かとう—ちかげ　加藤千蔭　名　人名　國學者、橘好、眞淵の門人、萬葉集略解三十卷を著はす。文化五年　七十五歳

かとう—ばんさい　加藤盤齋　名　人名　國學者、攝津の人松永貞德に學び　俳諧を能くす　延寶二年　五四歳す。

かとう—ひろゆき　加藤弘之　名　人名　天保七年但馬出石に生れ　佐久間象山に學び　明治の後　大學總長となり、二十一年文學博士となり、華族に列し、現に貴族院議員宮中顧問官男爵たり。

かとう—ぶし　河東節　名　元祿以後江戸に行はれたる俗曲十寸見河東の始めたる故此名あり。

かとう—よしあき　加藤嘉明　名　人名　武將、三河の人、賤ヶ嶽七本槍の一人、征韓の役　海軍に將として功あり、家康に屬し、關ヶ原役　軍功を以て會津四十萬石に封せられ　寛永八年　年六九を以て歿す。

カトーカンブレジ　Cateau Cambrésis　名　地名　フランスのカムブライの東南一四哩にある町、西紀一五五九年イスパニアのフェリペとフランスのヘンリ二世の條約締結地なり。

かど—だ　門田　名　門に近き田、門の外にある田。

カトーチ　Catoche　名　地名　メキシコのユカタン半島北東方の岬、同名の小港地あり。

かどで—す　門出　動佐　旅立つ、出立す。

かど—ならべ　門並　名　古語　數軒の家にて一つの門。

かどの—ごぼり　葛野郡　名　地名　西都愛宕郡の西北の地天智天皇の時始めて　郡とす。

かどの—わうじ　葛野皇子　名　人名　弘文帝皇子、性英明經史に通じ、詞藻豊富、書畫に巧み、慶雲二年死す。

かど—の—なさ　看督長　名　役名　捺非遣使廳の屬官、姦盜追捕の職、定員六六人なり、矢大臣とふはこれなり。

カトマンヅー　Katmandu　名　地名　ネパールの首府、多くの佛塔あり、人口二萬と號す。

カドミッム　Cadmium, Cd　名　化學　鋅族一硫亞鉛鑛に水炭を加へて熱す、性狀—原子量百十二、四、二價蒼白色、金屬、展性、延性に富む、沸點七四五度、熔點三二〇度なり、イオンの色は無色なり、有機體に對し有毒。

カドミッム—イオン　Cadmion　名　化學　二價のイオンにして、無色、有毒なり。

か—とん　喜遁　名　隱遁に同じ。

カドメア　Kadmea　名　地名　フェニキア人カドモスか同胞ユーロパを索めてテラ及メゾスに上陸し　ボイオチアに立てたる牙城なり。

かとり　鎌　名　目を細かく織りたる薄絹。

かとり—ぐさ　香取草　名　植物　古語　うめとも云ひ　さくらとも云ふ。

かとり—じんぐう　香取神宮　名　下總國香取郡香取村に經津主神を祭れる官幣大社なり。

かとりつく—けう　加特力教　名　宗教　耶蘇、天主、ローマ等の諸宗教にて　ローマ法王之を統轄す。

かとり—なひこ　掃取魚彦　名　人名　和歌及語人、下總香取郡伊能村の人、青藍と號す、述部俊岱に學び　後古學を加茂眞淵に學ぶ、上野法親王其他諸侯に寵せらる　天明三年　年六三を以て歿す。

カトルファージ　Quatrefages　名　人名　佛の博物及人類學者(西紀一八一〇—一八九二)

カトル—ブラー　Quatre-bras　名　地名　ベルギーのブラバント州の一小邑、ワーテルローの戰爭の前二日ワェリントンの英軍とチイ將軍の佛軍と戰ひし地なり。

がな　願　希望の意　が　がもに同じ。

かながき—ろぶん　假名垣魯文　名　人名　戲文者　野崎兼吉と稱し、性滑稽洒落、花柳社會の事情に明通す、明治二十七年　年六六を以て歿す。

かなーが—さき　金ヶ崎　名　地名　越前國敦賀郡敦賀にありて　延元元年十月新田義貞の　恒良親王を奉し　再興を謀りし地、今　尊良恒良兩親王を祭れる官幣大社あり。

カナカ—じんしゅ　カナカ人種　名　人種名　馬來人種の一部　南洋諸島一帶の土人。

かな—がしら　金頭　Lepidorigla　名　動物　魚類、鰈類、體帶黃色赤色、腹底白色、體側淡黃黑色の縱線あり、上顎及額上に棘あり、ポーポーに似て小、海底の砂中に棲息せり。

かながは—けん　神奈川縣　名　地名　相模全部、武藏都筑橘樹久良岐の三郡を統轄す、縣廳を武藏國橘樹郡横濱に置く。

かながは—てうやく　神奈川條約　名　安政元年正月　德川幕府のアメリカ合衆國と締結せし條約　即ち下田、函館兩港に於て　薪水食料を給することを許す。

かながは—ぶぎやう　神奈川奉行　名　安政五年九月　外交

多事に際し　神奈川港を開き　外國奉行をして兼ねしめ、貿易稅を收め　內外人民を管理することを司らしめたり。

かな—がひ　金貝　名　金銀銅錫を以て蒔繪にふりかけたるもの。

かなさな—じんじや　金讃神社　名　地理　武藏國兒玉郡二の宮にありて天照太神、素鳴尊、日本武尊を祀れる官幣中社なり。

かな—ざは　金澤　名　地名　一、加賀國河北郡にありて一大市街をなし　石川縣廳所在地なり　元　前田利家の藩地なりき、二、武藏國にありて　八景なり、花園正和五年北條顯時（金澤實時と云ふ說あり）、金澤稱名寺境內に書學館を立て　多く　和漢書を集め　子弟族人の習學に充てし金澤文庫此處にあり。

かなさは—はちまんぐう　金澤八幡宮　名　地理　羽後國仙北郡金澤村にありて　譽田別命　息長足媛命　玉依姬命を祀れる宮なり。

かなさ—やま　金砂山　名　地理　常陸國久慈郡にありて東金砂四金砂の二山とす、治承四年　頼朝と佐竹義秀と戰ひし地なり。

かなざは—の—さく　金澤柵　名　後三年役に、清原武衡、家衡等の據りて義家と戰ひし柵なり、羽後國仙北郡金澤町大字金澤に在り、築かれたる年代明かならず。

かなざは—ぶんこ　金澤文庫　名　武州金澤に在る文庫にして、儒佛の書を收む、花園天皇正和五年北條顯時之を建つ子貞顯遺志を紹ぎて其子弟を教育す、後一時中絕せしが、室町時代に上杉憲實之を再興す。

かなし　憐　形　古語　かはゆし、大切なりの意。

カナダ　Canada　名　地名　英領にして北米合衆國の北、太平洋とアラスカの東、北氷洋の南、太平洋の西にある大陸地、東西最も長きは三四〇〇哩あり、アパラチア、コルデレラの二大山脈東西にありてカナダ平原を圍む、大陸的氣候、人口五百三十萬と號し　木材　魚類の產出頗る大にして　石炭、銅、金等の埋藏多しと雖も未だ十分採掘せられず。

カナダ—バルサム　Canada balsam　名　化學　バルサムモミを見よ。

かな—だくみ　金工　名　古語　今のかぢや、いものし。

かなづ　奏　動ト一　かきなず（撫）の意にて　琴を彈じ、音樂を奏し、舞踏を舞ふこと。

かなでほん—ちゆうしんぐら　假名手本忠臣藏　名　書名　赤穗四十七士復讐の顚末を記せる戲曲本、竹田出雲の撰。

かなと　鬵　名　釜、鍋の類なり。

かな—どう　金胴　名　古　勇士の鎧の下に着するもの、草摺も袖もなく胴のみ。

かなと—だ　金門田　名　古語　門田に同じ。

カナノル　Cannanore (Kannur)　名　地名　インドのドラスのマラバルにある一港市、西紀一六五六年和蘭人殖民せしも一七八四年英軍に歸す。

かなはし—の—しばかき—の—みや　金椅柴垣宮　名　地理　大和國にありて崇神天皇の行宮なり、故に帝を金椅柴垣御宇天皇（かなはしのしばがきのみやに—あめのしたー しろしめす—すめらみこと）と申す。

かな—びく　試　動四　古語　人の心を試めすこと、氣をつくること。

かなびしや　吹沙魚　名　動物　魚類、こちしやことも云ひこちに似たり、長さ一二寸、鱗細かく、細粒黑色の斑點あり湖水、谷川に產す。

かなふ　加納　名　地名　美濃國厚見郡にありて永井氏の舊藩地なり　今は岐阜縣下なり　嘉納にも作る。

かなふ—さん　加納山　名　地理　周防國大島郡にある山。

かなふ—の—なんせん　加納溫泉　名　地理　岩崎溫泉とも云ひ　伊豆國賀茂郡にあり。

かな—ぶんぶん　名　動物　昆虫類、稍翅類、長さ七八分、青銅色、殼斗科樹木の汁液を吸收し　害虫にり。

かなふ—もろひら　加納諸平　名　人名　儒者、遠江國濱名郡白須賀の人、夏目小太郎と稱し　和歌を能くす、紀伊の醫伊竹の嗣子となり、本居大平に學ぶ、藩命によりて紀伊風土記を始め諸書を撰す、又國學所を設けて敎授たり、安政二年　年五十二にて歿す。

かな—へ　鼎　名　かなへの意、一、昔食物を煎るに用ゐし器、長方形にて三角形に脚を有す、古　支那にて代代天子の寶器とせり。

かなへ—の—なかなる—ひとされ—の—にく　鼎の中なる一切の肉　同　識見の狹きこと、管を以て天を闚ふに似たり

かなへび　蛇蜥蜴　名　動物　「とかけ」に似たる爬蟲類にして、體長の二倍の尾を有し、四肢側出し、舌は長く其端二裂せり。

かな—まり　金椀　名　古語　金屬製の椀。

かな—むぐら　金葎　名　植物　蔓草類、葉は互生、葉及蔓に毛あり、花は五瓣花にて雌株に咲く　雌株には蔕の如き實を結ぶのみ。

カナーン　Canaan　名　地名　ヨルダン川の四方パレスチナの地（北緯三五、三〇　東經三二、三〇）。

かなめ—いし　要石　名　一、常陸鹿島神社社內の石にて其

根部深く知るものなし　故に動かぬ石のことを云ふ、二、拱心石のこと、西洋風家屋に、拱の中央に組み入れて全體の力を支へしむる一の主たる石をいふ。

かな—めん　金面　名　兜につけて顔にかぶる假面、鐵製、

かなめ—もち　要冬青　名　植物、扁骨木科木本、高さ一丈葉面美麗、新芽は赤色にて美、初夏小花を開く、材堅くして扁の原料とせらる。

かなもり—りう　金森流　名　出雲寺　後に　宗和と稱せる人を祖とせる茶家の一流なり。

かなやまびこ—の—かみ　金山彦神　名　神名　いざなみの神の第二十子。

かなやまびめ—の—かみ　金山姫神　名　神名　いざなみの神の第二十一子。

かなりや　鶯島鳥　名　動物　鳥類、燕雀類の鳴禽なり、初め太西洋中のカナリア島より來る　金雀に似たり、色白黄、羽、脚、尾共に長くして指は前三本後一本なり。

カナリア—しまたう　カナリア諸嶋　Canary Is.　名　群島の名、イスパニア領、アフリカの西北太西洋中にある群島にして數多の火山島より成る、最高點は我が富士山に匹敵す、氣候極めて溫和にして砂糖、葡萄酒及烟草を輸出す、人口凡二十万萬。28, 30N. 17, 0W.)

かに　蟹　Crab　名　動物　節足動物、硬殼十脚類、蝦に類す、體扁平、左右各四本の足、二本の鋏あり、横に走るに頗る速し、棲息するところ一ならず、又食用となるものあれど、なきものもあり。

かに—いし　蟹石　名　鑛物　蟹の化石せしもの、及此に類する凡ての化石を云ふ。

かにかん—たけ　蟹寒嶽　名　地理　膽振國山越郡ゐ山。

カニシカ　Kanishka (Kanerko)　迦膩色迦　名　人名　王、西紀六〇年頃大月氏に君臨し、西印度及其附庸國を統治す最も厚く佛に歸依し五百の僧侶を闕賓に會し第四回の結集を開く、是れより佛教大に振へり。

か—に—にほふ　香匂　同　古語　かをること、香しく匂ふ

かに—の—みち　名　動物　「かに」の肝臓にして、食する時赤褐色の軟き物あるを認むるは卽ち是なり。

かに—の—め　蟹目　名　古語　かなめに同じ。

かには　樺　名　植物　古語、かにはざくらとも云ひ、かばのこと。

かにまん—じ　蟹滿寺　名　地理　山城國相樂郡櫻倉村大字綺田にある釋尊を安置せる眞言宗の寺なり。

カニン　Kanin　名　地名　ロシア北方の一大島、北氷洋上のケスカヤ灣及び白海の間を占む。

カニンガム　Cunningham　名　人名　スコットランドの僧侶にしてピューリタン派の學說を研究したる人、(西紀一八〇五—一八六一)。

かに—もり　掃部　名　古語、かもんに同じ。

かにち　鍛冶　名　古語　かぢに同じ　かねうちのこと。

カヌート　Canute　名　人名　王、イングランドを征し功ありてデンマルク王に選ばる、(西紀九九四—一〇三五)。

か—ぬま　鹿沼　名　地名　下野國都賀郡にある地。

カヌレイウス　Canuleius　名　人名　政治家　ローマの人、トリビゅン官たり、紀元前四四五年　貴族は平民と結婚するを得、其生子は父系の族籍に從ふべきものとの法律を發布す、氏の提出せるコンスルは平民より撰出するを得との議は大に貴族の反抗を招きたり。

かね　涅齒　名　はぐろのこと、齒を黑く金漿にて染む、婦人は大古より、男子は　鳥羽帝の朝より公卿に行はれ、足利時代に至り武士も亦なせり、織田氏に至りて止む。

かねあきら—しんわう　兼明親王　名　人名　醍醐天皇第十一子、性英明、文及書を能くし　其名高し、永延元年　二品中務卿にて薨ず、後一品を贈らる、前の中書王と申す。

かねうり—きわじ　金賣言次　名　人名　京都の人　兩替商陸奥に往く途次　牛若丸に會して之に從ひ、義經と稱せらるるや亦從ひて堀彌太郎光景と云ふ。

かねこ—ちゆうすけ　金子重輔　名　人名　武臣、長門の人毛利氏に仕へ、才畧ありて資性豪宕不羈、吉田松陰に從ひ米船に投じ、事成らず　捕へられて檻致せらる、安政二年正月殁す。

かねこ—のりたか　金子教孝　名　人名　水戸侯、郡奉行、攘夷主張論者にて同志を集め　萬延元年三月三日　井伊直弼を櫻田門外に要擊し　京都に遁れ　鳥羽にて捕へられ、文久元年七月二十六日　斬に處せらる。

かね—じやく　曲尺　名　かねざしとも云ひ　鯨尺八寸なり

かねつ　溶熱　名　化學　强く熱することなり。

かね—つけ—いし　金付石　名　鑛物、試金石に同じ。

かねなが—しんわう　懐良親王　名　人名　後醍醐帝皇子、延元元年足利尊氏の叛するや　天皇と共に延曆寺に移り給ひ、尊氏降り　天皇還都し給ふに當り吉野に匿れ給ふ　後西征大將軍に拜し　九州を鎭撫せらる　此時我邦外交既に行はれありき。

かね—に　副　眞直に　すぐに等の意、かねに渡すなど云ふ。

かね—に—なる　同　古語　死すること。

かね—の—しま　鐘島　名　地理　筑前國地島のこと。

かね—の—つる　金蔓　名　一、鑛脈、金銀などの鑛脈、二

鍵設の手段。

かね—の—みさき 鐘岬 名 地名 筑前國宗像郡にある岬昔 三韓より貢せし鐘 此海に沈みしと云ふ。

かね—の—みたけ 金御嶽 名 地名 大和國金峯山のこと

かねひと—しんわう 懐仁親王 名 人名 圓融天皇の皇子母を兼家の女とす、華山天皇の太子、兼家華山帝を强ひて落飾せしめ 懐仁を立て 一條天皇と申す 時に御年七歳。

かね—ふき 金吹 名 冶金家のこと。

かねん—こうぶつ 可燃鑛物 Combustible mineral. 名 鑛物、炭素を含有し 火熱に逢ひて 燃燒する通性のもの。

かねん—せい 可燃性 名 化學 燃へ得べき性質を言ふ、之は通常、空中にて言ふものなり。

かねん—たい 可燃體 名 化學 燃へ得るものを言ふ。

かのう 獨木舟 名 うつろぶね、大なる木のうちを刳り拔きて造りたる船。

かのう—うたのすけ 狩野雅樂助 名 人名 畫家、元信の弟、輪隱と號す、花鳥人物に巧み、文龜年中歿す(三十九)

かのう—ういとく 狩野永德 名 人名 畫家、元信の曾孫織田信長に仕へ 法師に進む 秀吉に仕へ 聚樂殿、大阪城の金壁、桃山御殿の百双屏風を畫く、天正十八年歿す。

かのう—さん 化膿菌 名 植物 バクテリアの一種 動物體中化膿を發する所に 必ず存在す 自然化膿諸症に於て然りとす。

かのう—さん 鹿野山 名 地理 上總國周淮郡四墳にある山、古刹神野寺此山中にあり。

かのう—し 狩野氏 名 人名 此姓を有する人多し、一、山雪、畫家 京都の人、秀麗雅致にて 宋人牧溪の筆意あり、慶安四年 六十三にて死す、二、山樂、畫家、近江國蒲生郡の人、永德に畫を學び 其風あり、羽柴秀吉に仕へ近侍たり、寛永十二年八月四日京に歿す、三、探幽 畫人 鍛冶橋狩野の祖、詩野派中の絶代の名手、孝信の子 守信と號す、宮内卿法印たり、宋人牧溪、宋元の古畫を慕ひ、雪舟の筆意を學ぶ、德川家康 秀忠に寵せられ 鍛冶橋外に宅を賜ふ、寛文二年仙洞御所にて 太上天皇の尊影を拜寫す、延寶二年 七十三を以て歿す、四、洞雲、畫家、後藤立乘の三男、十一歳にて探幽の養嗣子となり、家光に寵を受け 法眼となる、駿河臺狩野の祖 元祿七年 年七十死す、五、尚信 畫人、守信の弟、自適齋と號す、奇韻雄拔父兄に勝るところあり、家光に寵せらる、木挽町狩野の祖慶安三年 年四十四を以て歿す、六、正信、畫人、狩野家の開祖、伊豆國加茂郡狩野村の人、景信の長子、如雪、周文に學び 一家をなす、筆法適意定法なく 天下の畫伯と

カニンガム Cunningham 名 人名 スコットランドの僧侶にしてヒューリタン派の學風を研究したる人、(西紀一八〇五—一八六二)。

かに—もり 鍛部 名 古語、かもんに同じ。

かにち 鍛冶 名 古語 かぢに同じ かねうちのこと。

カヌート Canute 名 人名 王、イングランドを征し功ありてデンマルク王に選ばる、(西紀九九四—一〇三五)。

か—ぬま 鹿沼 名 地名 下野國都賀郡にある地。

カヌレイウス Canuleius 名 人名 政治家 ローマの人、トリビゅン官たり、紀元前四四五年 貴族は平民と結婚するを得、其生子は父系の族籍に從ふべきものとの法律を發布す、氏の提出せるコンスルは平民より撰出するを得との議は大に貴族の反抗を招きたり。

かね 涅齒 名 ねはぐろのこと、齒を黑く金漿にて染む、婦人は大古より、男子は 鳥羽帝の朝より公卿に行はれ、足利時代に至り武士も亦なせり、織田氏に至りて止む。

かねあきら—しんわう 兼明親王 名 人名 醍醐天皇第十一子、性英明、文及書を能くし 其名高し、永延元年 二品中務卿にて薨ず、後一品を贈らる、前の中書王と申す。

かねうり—きわじ 金賣言次 名 人名 京都の人 両替商陸奥に往く途次 牛若丸に會して之に從ひ、義經 稱せらるるや亦從ひて堀彌太郎光景と云ふ。

かねこ—ちゆうすけ 金子重輔 名 人名 武臣、長門の人毛利氏に仕へ、才畧ありて資性豪宕不羈、吉田松陰に從ひ米船に投じ、事成らず 捕へられて檻致せらる、安政二年正月歿す。

かねこ—のりたか 金子教孝 名 人名 水戸侯、郡奉行、攘夷主張論者にて同志を集め 萬延元年三月三日 井伊直弼を櫻田門外に要擊し 京都に遁れ 鳥羽にて捕へられ、文久元年七月二十六日 斬に處せらる。

かね—じやく 曲尺 名 かねざしとも云ひ 鯨尺八寸なり

かねつ 熱熱 名 化學 强く熱することなり。

かね—つけ—いし 金付石 名 鑛物、試金石に同じ。

かねなが—しんわう 懐良親王 名 人名 後醍醐帝皇子、延元元年足利尊氏の叛するや 天皇と共に延曆寺に移り給ひ、尊氏降り 天皇還都し給ふに當り吉野に匿れ給ふ 後西征大將軍に拜し 九州を鎮撫せらる 此時我邦外交既に行はれわりき。

かね—に 副 眞直に すぐに等の意、かねに渡すなど云ふ。

かね—に—なる 同 古語 死すること。

かね—の—しま 鐘島 名 地理 筑前國地島のこと。

かね—の—つる 金蔓 名 一、鑛脈、金銀などの鑛脈、二

鋳設の手段。

かね—の—みさき 鐘岬 名 地名 筑前國宗像郡にある岬 昔 三韓より貢せし鐘 此海に沈みしと云ふ。

かね—の—みたけ 金御嶽 名 地名 大和國金峯山のこと

かねひと—しんわう 懐仁親王 名 人名 圓融天皇の皇子 母を兼家の女とす、華山天皇の太子、兼家華山帝を強いて落飾せしめ 懐仁を立て一條天皇と申す 時に御年七歳。

かね—ふき 金吹 名 冶金家のこと。

かねん—こうぶつ 可燃鑛物 Combustible mineral. 名 鑛物、炭素を含有し 火熱に逢ひて 燃燒する通性のもの。

かねん—せい 可燃性 名 化學 燃へ得べき性質を言ふ、之は通常、空中にて言ふものなり。

かねん—たい 可燃體 名 化學 燃へ得るものを言ふ。

かのう 獨木舟 名 うつろぶね、大なる木のうちを刻り抜きて造りたる船。

かのう—うたのすけ 狩野雅樂助 名 人名 畫家、元信の弟、輔驛と號す、花鳥人物に巧み、文龜年中歿す(三十九)

かのう—ないとく 狩野永德 名 人名 畫家、元信の曾孫 織田信長に仕へ 法師に進む 秀吉に仕へ 聚樂殿、大阪城の金壁、桃山御殿の百双屏風を畫く、天正十八年歿す。

かのう—きん 化膿菌 名 植物 バクテリアの一種 動物體中化膿を發する所に 必ず存在す 自然化膿諸所に於て 然りとす。

かのう—さん 鹿野山 名 地理 上總國周淮郡西境にある山、古刹神野寺此山中にあり。

かのう—し 狩野氏 名 人名 此姓を有する人多し、一、山雪、畫家 京都の人、秀國雅致にて 宋人牧溪の筆意あり、慶安四年 六十三にて死す、二、山樂、畫家、近江國蒲生郡の人、永德に畫を學び 其風あり、羽柴秀吉に仕へ 近侍たり、寛永十二年八月四日京に歿す、三、探幽 畫人 銀箔橋狩野の祖、狩野派中の絶代の名手、孝信の子 守信と號す、宮内卿法印たり、宋人牧溪、宋元の古畫を摹ひ、雪舟の筆意を學ぶ、德川家康 秀忠に寵せられ 銀治橋外に宅を賜ふ、寛文二年仙洞御所にて 太上天皇の尊影を拜寫す、延寶二年 七十三を以て歿す、四、洞雲、畫家、後藤立乘の三男、十一歳にて探幽の養嗣子となり、家光に寵を受け 法眼となる、駿河臺狩野の祖 元祿七年 年七十死す、五、尚信 畫人、守信の弟、自適齋と號す、奇麗雄拔 父兄に勝るところあり、家光に寵せらる、木挽町狩野の祖 慶安三年 年四十四を以て歿す、六、正信、畫人、狩野家の開祖、伊豆國加茂郡狩野村の人、景信の長子、如雪、周文に學び 一家をなす、筆法適意定法なく 天下の畫伯と

なる、延德二年七月九日 年九十七を以て歿す、七、元信 畫家、正信の長子、永仙、玉川と號す、周文、小栗宗丹に學び 幼にして神童と稱せらる、最も花鳥人物に巧み 眞に神に迫る感あり、足利義澄に仕へ近侍たり、古法眼と稱し 狩野家の泰斗たり、土佐光信、雪舟と共に 本朝畫伯の三傑たり、永祿二年 年八十四を以て歿す、八、雲信 畫人、孝信の三男、探幽の弟、秀忠に仕へ 治部卿法眼に叙せられ、中橋狩野の祖、貞享二年七十三にて歿す。

かのう—は 狩野派 名 繪畫の一派 正信より出づ、五家あり、中橋狩野、銀治橋狩野、木挽町狩野、駿河臺狩野、京狩野なり。

かのう—ほふ 可能法 名 文典 動作のなし得らるること及自然になさるることをあらはす助動詞、らる、せらる等なり。

かのこ—あし 鹿子足 名 馬の足なみの拍子の間を大きくして走ること、鹿の走時の如し。

かのこ—まだら 鹿子斑 名 茶褐色の地に白色の斑點あるを云ふ。

かのこ—ゆり 鹿子百合 名 植物 百合科草本、莖高く、白色にて美しき紅色鹿子模樣のある花を咲く、觀賞用なり

カノージ Kanoj (Kanyakubja) 固 印度夷 羯若鞠闍 名 地名、インドのカンプーアの北四〇哩ガンガ河畔の一町、人口一萬七千許あり。

カノサ Canossa 名 地名 ボロニア西北の一市邑、西紀一〇七七年ヘンリ四世 洗足のまま雪中に立つこと三日 哀願の結果 法皇グレゴリー七世に破門を免除せられし地。

かの—しほぢが—むかい—の—つりぶね 彼の新發意が迎の釣舟 句 しほぢは前播磨守明石入道のこと、源氏の君、須磨の風雨に惱み給へるをりから 明石の入道 船よそひして迎へ奉るを云ふ。

カノバ Canova 名 人名 彫刻家、イタリヤのアントニオ カノバなり、其製作物は非常の高價にて此が爲め大に富を爲せり(西紀一七五七—一八二二年)。

か—は 接 反動の意を示す辭、かは疑辭、はは感歎。

かは 皮 名 植物 植物の表面又は機關の表面を言ふ、

かば 樺 名 植物 松柏科木本 喬木 葉は桑に似て外皮白色、其下に美麗なる茶色斑點あり、初夏細小白花を咲く 冬季貧熱す、東北地方に產し 皮は屋根を葺き 材はかんば、かにはと云ふ。

カーバ Kaba 名 地理 アフビアの聖廟、メッカにありて同々教の寺院、キリスト教徒に對するセルサレムにて四方より巡禮者集り來る。

かは—うま 河馬 Hippopotamus 名 動物 哺乳類、海産有蹄類、長さ一丈二尺、肩高四尺五寸、全形象或は豬に似て頭長方形、耳介及眼は小、口及上唇大、頸と四肢は太く短、尾は一尺三寸、犬齒一尺八寸、三キログラムあり、脊部は帶褐色、腹面淺し、鳴聲馬の如く、果實、木根を食とす。

かは—をろ 水獺 Lutra or Otter 名 動物 哺乳類、肉食類、長さ二尺四寸、尾長一尺二寸、頭は平短、耳は圓く毛皮は短く密生する毛を有す、脊部は帶白灰褐色、趾間に蹼あり、趾の裏は裸出す、多く池端の孔中に棲み、夜間出でて魚を捕食す。

かは—なろし 川蓆 名 かはわらし 川上より吹きくるわらき風。

かはがらす Cinclus 名 動物 鳥類、鳴禽類、六寸程の大さ、嘴細長くて先端曲り、翼尾甚だ短かし、脊面灰黑色、頭褐色、咽喉部及前胸部白色、後胸部褐色、腹部鼠色、蹼なくして水中に入る。

かばかり—がみ—しま 蒲刈上島 名 地理 安藝國東南方の海中にある島、三町四に蒲刈下島あり。

かは—きざす 川雉子 名 動物 古語かはずのこと。

かはきた—ねんさん 河北溫山 名 人名 儒者、島原の藩士、重喜と云ふ、參政に擧げらる 溫山文集三卷を著す。

かは—ぐち 河口 名 一、River mouth 地文 江口、入江、川口の海に注ぐ處、二、龍馬樂の呂の曲名、三、武藏國北足立郡川口にて鑄造する鐵器なり。

かはぐち—ちやうじゆ 河口長孺 名 人名 儒者、水戸の藩士、嬰齊と字し 三省と號す、天保五年 年六十三歳す 寨灣紀事、征韓偉略の著あり。

かはぐち—の—みづうみ 川口湖 名 地理 甲斐都留郡川口の南にありて富士八湖の一なり、四里十八町の周圍なり

かは—くま 川隈 名 古語 かはわ、川の曲り流るる所。

かは—げら 不蜻蛉(いしとんぼ) 名 動物 節足動物の一綱昆蟲類、體扁平にて整長なり、左右兩側平行す、胸部大形 觸角長く、尖端多節なり、多く池沼河海の石下に幼蟲時期を送り、出でて周邊を飛翔す。

かは—ごし 川越 名 地名 武藏國入間郡にありて松井氏の舊藩地、今は埼玉縣に屬し、甲武鐵道の停車場あり。

かは—さき 川崎 名 地名 武藏國橘樹郡の一市邑、東海道鐵道の停車場、大森間の電鐵、弘法大師を祀れる神社等ありて繁盛の地なり。

かば—さくら 樺櫻 名 染色、表の薄蘇芳、裏の濃蘇芳のもの。

かば—ん 加波山 名 地名 常陸國眞壁郡にあり、新治郡に跨り、筑波、阿州と共に三山と稱す、明治二〇年騷暴の徒集りて 三條實美の日光參詣の歸路を扼し 爆發彈を以て狙擊せむとして果さざりき。

かは—しば 川柴 名 古語 水邊に生ひたる柳、あしの類

かば—しま 樺島 名 地理 肥前國西南方海中の一島。

かばしま—こうれい 樺島公禮 名 人名 儒者、久留米侯に仕ふ、字は世儀、石梁或は萬年と號す、紀如來の門下、文政十年十二月 年六〇餘死す。

かはしま—の—わうじ 河島皇子 名 人名 天智天皇の皇子、天資溫雅清秀、學才あり 天武帝九年 勅を蒙り 忍壁親王と共に 帝紀及古事を撰す、持統帝五年薨ず。

かはす 交 國四 一、交換する、二、混合する、三、輕く身をひるがへすこと。

かは—すがき 川貫 名 竹にてゐみたるしがらみ、流水を防ぐ。

かはすみ—しんごらう 川澄新五郎 名 人名 劍客、江戸の人、寶山、大東、當流の劍法を學び、三善明致流の祖たり、天保二年歿す。

かはぞひ—ぐさ 川添草 名 植物 古語 やなぎのこと。

かはたけ—しんしち 河竹新七 名 人名 狂言作者、江戸の人 通稱進三、俳名能進、寛政七年 年四十九歳す。

かは—せび 川蟬 King-fisher 名 動物 鳥類、鳴禽類、(叫禽類)、嘴甚大、頭より長し 體長五寸、翼長二寸、背面綠青色、其中央及臀部は青色なり、腹面は薔薇色、咽喉部帶白色、脚赤色、山中閑靜の河邊に住み突然魚を捕へて食す。魚狗、しようびん、かはすすめの類なり。

かはだ—がう 川田剛 名 人名 儒者、備中阿賀崎の人、藤森天山、安井息軒等に學び、經書に明、文章に巧み、明治初年修史局一等編纂官、宮內省に出仕して大學教授たり文學博士となり、明治二十九年二月二日病歿す。

か—は—たれ—どき 彼者誰時 名 古語 黃昏、薄暮の時刻のこと、金星の曉天に見ゆるとき彼者誰星と稱す。

かは—ちさ 川萵 名 植物 水菖蒲科草本、葉は川柳の如く互生、薄くして寒冷となれば紫色を呈す、莖は圓形、四五月頃 桃色の花を開く。

かはち—ひでのり 川路聖謨 名 人名 德川幕府勘定奉行嘉永六年魯艦長崎に來るや 使節と會見して大に論じ、辭屈して還らしむ、老中阿部正弘と意あはず自宅に閉居す、

明治元年三月十五日　世事の憤慨の結果自殺す、年七十二

かはち—としよし　川路利良　名　人名　鹿兒島の藩士、伏見、鳥羽、上野、會津の諸役を鎮定す、明治五年各國警察制度の視察の爲め歐米に渡航し　歸朝し東京に警視廳、府縣に警察署を設け、巡査を置き、司法行政の區別を立つ、明治十年陸軍少將征討旅團司令長官となり、西下して賊の根據地を奪ひ　再び歐米に渡らむとして途に病歿す。

かはち—の—くに　河内國　名　地名　畿内五國の一、十六郡より成り　大阪府に屬す。

かはち—の—ふひとべ　西生部　名　王仁の後裔にして、河内に居り、文事を司りたり。

かはーつ　川津　名　古語　舟をつなぐべき河岸。

かはづ—すけやす　河津祐泰　名　人名　本性工藤　父祐親伊東氏を罰す、父と工藤祐經の采地につき　不和を生じ、頼朝の富士野に獵せしとき　祐經は八幡某をして　赤淨山に祐泰を襲撃せしむ、祐泰の二子十郎五郎ありて曾我氏を罰す。

かはづ—なく　蛙鳴　名　かみなびがはにかけて云ふ、これ蛙は山川に住む故なり、又ゐでにかく。

かはーと　川門　名　古語、河瀬の水　一になりて流るる狹きところを云ふ。

カパドキア　Kappadokia　名　地名　小アジア東部の古州　エウフラトの西、キルキアの北、山嶽横斷せる高地、西紀一七年ローマプロビンスとなり今はアジアトルコに屬す。

かはーな　川菜　名　植物　海藻類、海苔類、かはあをのりの古名。

かはなか—しま　川中島　名　地名　信濃國筑摩川（千曲）と犀川の間にありて天文二十三年武田信玄と上杉謙信と激戰せし古戰場なり。

かはなべ—げうさい　河鍋曉齋　名　人名　畫工、下總古河の人、畫を狩野洞白に學ひ　能力縱橫遊勤、遂に一家をなす、イギリス人コンデエル氏之に師として學ぶ、これ畫工にして外人の師となりし始めとす、明治廿二年　年五十九を以て歿す。

かはーなみ　川並　名　古語　かはそひに同じく　川邊に並列すること。

かばね　加婆禰　名　株根の義にて　古門閥を區別せしもの　允恭帝の時、臣、連、直、首等を賜ひ　天武帝に至り、眞人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置の八級を定めらる。

かはーねずみ　水鼠　Dzeni　名　動物　哺乳類、食蟲類、内外の構造殆んど　鼠に似たれども　口吻突出し、足に游泳

蹼を具へ　尾下側に長毛を有す、川池の畔に棲み　水中に潛行して小魚を捕へ食す。

かばね—な　骨名　名　姓氏のこと、昔　諸氏職業を世襲し別に官職の名を有せず、職業を以て家號とせしを云ふ。

かば—の—くわんじや　蒲冠者　名　人名　源範頼のこと、蒲は範頼の生地　遠州の蒲御厨　冠者は元服して冠を加へたる若者のこと。

かは—はぎ　皮剝　名　かはばう　ゐたのことにて　動物の皮をむきとる如き下賤の人を云ふ。

かは—はぎ　鰥魚　Aracana aculeata　名　動物　魚類、固顎類、東海に多く　近海の岩礁間海藻繁茂せる場所に棲み五寸内外の長さ　縱扁にして皮膚は粗造、小鱗あり　甚だ見惡し　食するとき皮を剝ぐを以て名あり。

かば—はぎ　樺矧　名　樺の皮もて　矢のはぐきを卷きたるもの。

かは—ばらへ　川祓　名　大祓に同じ。

かばふと—かいりう　樺太海流　名　地文　サガレンリウに同じ。

かばふと—さんけい　樺太山系　Sagalien mountain system　名　地文　樺太島に起り　東南に向ひて延長し　本邦の北部に縱走し　崑崙山脈に衝突する山系なり、火山に富む。

かはべ—もとよし　河邊元善　名　人名　水戸の人、文久二年正月十五日　安藤信正を坂下門に要擊して事成らず、萩藩に投じて自殺しぬ。

かは—ほね　川骨　睡蓮草　Nuphar Japonicum De.　名　植物　睡蓮科草本、多年生水草、花黃色、蟑及甲蟲媒花　根莖甚だ大なり。

かは—ぼら　川鯔　名　動物　魚類、鯔族、水產にて　海產のものに比して體扁圓　色は赤を帶ぶ。

かは—ほり　蝙蝠　名　一、動物　かうもりの古語、二、あふぎの古語、これ　その開きたる形　かはほりの翅の如ければなり。

かはむら—ずゐけん　河村瑞軒　名　人名　通稱平太夫、伊勢度會郡の人、性敏捷、機智に富む、市人の流せし瓜茄子を攝津にして利を得、木曾山の木材を買ひ　江戸の大火事に供して巨利を占め、將軍綱吉の時　奥羽江戸間の航路を安全にし、淀川、長柄、中津等の諸川を治めたり、又當時江戸に於ける藏書家にして新井白石も借覽せしと云ふ、元祿十三年六月　年八十三を以て歿す。

かはむら—ずみよし　河村純義　名　人名　鹿兒島藩士、戊辰の役奥州各所に功を奏し　明治十年西南役に參謀となり功ありて勳一等に叙せられ　十七年伯爵、翌年樞密顧問官

となり、明治三十四年皇孫迪宮殿下　御降誕なるや　御養育主任仰付られ　三十七年八月十二日薨ず。

かーはん　夏半　名　曆語　陰曆四月のこと。

かーはん　加判　名　一、証書に己の印と　人の印と共に押して保証すること、二、德川幕府の執政に列すること。

かーばん　加番　名　役名　德川幕府の　大阪及駿府に置きし役、大阪にては四方の守衛、市街巡視を司る、駿府にては城代の補佐、大小名此が任に當る。

かはべーのーにべ　河邊瓊岳　名　人名　欽明天皇二十三年紀男麻呂に從ひ新羅に渡りて之を征せし人。

かはもとーもりたらう　河本杜太郎　名　人名　越後魚沼郡十日市の人、經史を吉野金陵に學び　劍道を伊庭軍兵衛に學ぶ　帝室の式微を慨し　和宮降嫁を聞きて尙憤慨し　文久二年正月十五日　安藤信正を坂下門に襲擊して成らず年に時二十二なりき。

かはもとーゆきたみ　川村幸民　名　人名　西洋機械を始めて我邦に紹介したる人、江戸に生れ、醫を業とす、元化學に通じ、安政六年頃親しく和蘭人に就て研究せり、氣海觀測廣義、理學原始、地理說、遠西奇器述等の著あり、遠西奇器述には寫眞器、蒸氣機、蒸氣車を說明しわり、

かはーやなぎ　川柳　名　ねもごろにかけて云ふ　これ　川柳の根と云ふ意なり。

かばやまーすけのり　樺山資紀　名　人名　鹿兒島藩士、維新の際功あり、日清の役又大功あり　海軍、內務、文部の諸大臣を經　現に從二位勳一等功二級伯爵海軍大將たり　明治三十七年十月　樞密顧問官となる。

かーはゆし　形　古語　かは發語、はゆしは映の意、一、はつかし、二、あはれむべし、氣の毒、三、かはゆらし。

かはら　香春　名　地名　豐前國豐郡の古名なり。

かはーらかーに　副　古語　清らかに、爽かになどの意。

かはらーけ　土器　名　瓦筥の義、一、土燒陶器の未だ釉藥をかけぬもの、二、土燒製の酒杯を云ふ。

かはらーげ　川原毛　名　體白色　土器の如き色ある馬の毛騣にも作る。

かはらけーつめい　山扁豆　Cassia mimosoides L.　名　植物　豆科草本、葉は羽狀複葉、花は黃色、嫩葉を乾かし　茶の代用とす、九州地方に多く產す。

かはらけーな　土器菜　名　植物　草本　圓形の葉　青白色　五瓣花、春七草の一なり、多く地に叢生す。

かはらーすいご　川原柴期　名　植物　草本、葉人參の如く裏面白色黃色、玉鬘花をさく、うらしろの類。

かはらーのーたはみや　河原の大宮　名　人名　近衛帝の后藤原多子（タス）の坐せし鷹司の下　近衛通の東の宮所を云ふ　多子は公能の女にて賴長の養女となり　二條帝に召さる。

かはらーのーさだいじん　河原左大臣　名　人名　嵯峨帝第十七子　源融なり　弘仁五年源姓を賜ひ、從一位左大臣となり　寬平七年　年七十四にて歿す、東六條河原院にありし故　かく申す。

かはらーのーゐん　河原院　名　源融の東六條に建造せしもの、鹽關泉石共に巧を極む。

かはらーばと　鴿　Columba domestica, Gmel.　名　動物　鳥類、鳩鴿類、家鳩の野生したるもの。體長六寸餘、嘴青黃色にて根は暗肉色、背部の下面并に翼の下面を蔽ふ毛は帶青灰色、翼上に唯一の聯絡せる單黑斑よりなる橫の飾帶わり、尾端青色なり、性溫和、飛翔力强し。

かはらーのーまどーなはーのーとぼろ　瓦窓繩樞、甕屬繩樞　同　貧家の樞を形容す、賈誼過秦論に「陳涉　甕屬繩樞之子、氓隸之人也」とわり。

かはらーひ　瓦燈　名　瓦製のとひ。

かはらーひわ　川原鶸　名　動物　鳥類、ひわの一種、多く水邊に群飛す、頭脊共に暗色　脊頭に黑色斑點わり、腹部白、翼に交黃青黑色なり、其鳴くや　刺らなり。

かはらーふぢ　川原藤　名　植物、藤科木本、灌木、幹、いばらの如く刺わり、葉は對生、藤に似たる黃色の花を開く、後莢を結ひ　大豆樣の粒を生ず　多く川原に生ず。

かはらーもの　川原者　名　一、德川時代芝居者、非人、ほたなどを云ふ、二、賤卑なる人夫を云ふ。

かはらやーでら　瓦屋寺　名　地理　近江國愛知郡建部村大字瓦屋寺の山上にありて觀世音を本尊とせる一寺、豐聰耳太子の創建に係る。

かはらーよもぎ　川原蓬　名　植物　菊科草本、一、菊のこと、二、葉は瓦生、下葉は人參に似て毛なく、末葉は糸の如く細し、初秋白花を咲く。

かはる　代、變、更、易、替　國四　代は交代の意　同じものの交ること、子代父の如し、變は變遷と云ひ移りかはること、更は更衣と云ひ改むること、易は此物と彼物と易ること交易の如し、替は廢已なり。

かはーわだ　川曲　名　古語　川の流れの　曲がりて一岸に入りてむとところ。

かはゐーつくのすけ　河井繼之助　名　人名　越後國長岡藩士、性沈勇果斷氣慨あり、佐久間象山に學び　江戸に出で大槻磐溪、齋藤拙堂の門に入り　經義に通ず、明治元年八月十六日　官軍に抗して死す、年四十二なりき。

かはゐーまたごらう　河井又五郎　名　人名　松平忠雄の臣

寛永七年渡邊數馬の弟源太郎を殺して寶刀を奪ひ　其十一月　伊賀國上野にて　數馬及兄木又右衛門に殺さる。

かはーなさ　川長　名　古語　川を守る人。

かはーなろ　川鱸　名　動物　哺乳類、食肉類、鼬鼠族、頭及身は扁平、嘴尖り　四足短く蹼ありて能く水中に潜り魚類を食す、全身毛は柔軟にして細く衣服の料とす、背部は暗褐色腹部は淡淸なり、其肉食用に供し　又藥用となる。

かはーなち　川邊　名　古語　川のむかひ岸、川を隔てて遠くのぞむ方。

かひ　卵　名　古語　たまご、かひてなどの意。

かひ　峽　名　古語　はざまの意にて　山と山との間。

かーひ　花被　Perianth　名　植物　花の外部に位する二輪にして　花蕋を保護するものなり、其の二輪は卽ち圖に示せる如く　萼、瓣なり　瓣は花冠の數片に分離したるものの稱なり。

かーひ　假皮　False-Bark　名　植物　內長整植物の木皮狀のものを云ふ。

かーび　鹿火　名　古語　一、鹿又は猪を追ひやる爲め　假小屋にて焚く火なり、二、かやりびのこと。

がーび　蛾眉　名　一、美人の形容、蛾の眉は細くて長く曲れる故なり、二、支那の蛾眉山を云ふ。

かび　黴菌　名　植物　下等菌類、發育器官は無色の菌絲、其繁殖最も甚だし　果物、靴　菓子等に密生し、有柄黑色の球狀を生ず　則ち子囊にして此中數多の胞子を藏す、子囊成熟破裂すれば　胞子飛散し　再び菌絲を生ず　斯の如くにして繁殖するものなり。

かひーあはせ　貝合　名　中古　婦人間に行はれし遊戲にて三百六十個の貝を以て　歌がるた、繪合せなどの如くす。

かひがーとものぶ　貝賀友信　名　人名　赤穗四十七士の一人、本姓吉田彌左衛門、淺野長矩に仕へ、其雄に信任せられ復讐を遂ぐ　元祿十六年二月四日　死を賜ふ、年五十四

かひーがね　貝鉦　名　昔　陣中に用ゐし貝と鉦なり。

かひーがーね　甲斐根　名　古語　甲斐の高山の意にて　白根山か　富士山の內なり。

かひーがは　甲斐川　名　地理　伊勢國鈴鹿川のこと。

かひかねーもーさこゐぬーところ　貝鐘も聞ゐぬ處　同　名　寺巨刹のなき地、これ　貝も鐘も寺院にて鳴らすものなればなり。

かひがねーなーさやにもーみしが　甲斐が嶺を爽にも見しが　同　見しがは見たきものなりとの意、古今集中の歌にあり　甲斐の山を見むとするに　心なく佐夜の中山が横になりて見ねぬことよと云ひしなり。

かひーがひーし　甲斐甲斐し　形　一、忠實なること、まめまめしきこと、二、いさましい　詮ありげなりの意。

かひーぐら　貝鞍　名　武具　青貝などを塗り籠めたる鞍。

かひーげ　匙筥　名　底の淺き柄杓なり。

かひーこ　蠶　B.mbyx mori, L or Silk worm　名　動物　昆蟲類、鱗翅類、溫帶地方に飼養せらる、完全變態をなす　幼虫期は桑葉を食し　四眠の後繭を作りて蛹となり　更に羽化して蛾となり　雌は交接、產卵の作用により體衰へ死す　雄は交接終りて死す、繭は絹絲の原料にて高貴なり。

かひこーのーうじ　蠶の蛆　B.nl　名　動物　昆蟲類、二翅類、體長四五分、蠶繭より出で、大に養蠶に害をなす。

がびーさん　蛾眉山　名　地名　一、支那四川省嘉定州眉縣の南百里にある山、二、豊後國文殊山のこと。

かびしやらーてう　迦頻闍羅鳥　名　動物　鳥類　梵語のきしの謂なり。

かひーだま　攝綱　名　水をすくひて小魚を捕ふるさでのこと。

かびたん　加比丹　甲必丹　名　德川時代　南船の長を云ひたり、蘭語の　Capitien　より來りしもの。

かーひろう　假皮層　False bark or Rind　名　植物　單子葉莖に於ける維管束の　葉より入り　單子葉莖の來るものの中　最も肥大せるものは　深く內部に入り　再び彎曲して外方に向ひ　漸次狹細となり　遂に表皮の下に達すれば末端相網羅して皮層の狀を爲すものこれなり。

かひーだゐし　腕疲　形　古語　かひだるしとも云ふ、一、腕の疲勞すること、二、身體の疲れたるときのこと。

かひーつぶり　鷿鷈　名　動物　鳥類　常に湖沼にありて小魚を捕食す。

カピトリーのーなか　Capitolions hill　名　地名　ローマ七丘の一、カピトル廟のある地。

カピトル　Capitole　名　カピトリの丘上に在る聖廟にしてタルキンの建てたるものなり。

かひなりーがた　貝狀形　名　德川時代に　三の間以上の奥女中の用ゐし笄の一種。

かひーのーくに　甲斐國　名　地名　東海道十五國の一、海に面する地なし　九郡より成り　山梨縣に屬す。

かひ—の—はしら 貝柱 名 一、ばか貝の柱、二、介殼類の兩殼片を結ぶ一種の太き筋にて 蛤 ばか貝などのものは美麗なり。

かひば—きり 飼葉切 名 草刈鎌のこと、又刃物を仰向にし其上に 飼葉をのせて切る器械を云ふ。

が—ひやう 餓学 名 飢死したる人。

かひよ 感 古語 鹿の鳴く聲。

かひらぎ 梅花皮 名 短刀、盆踊の時、兒童のさしたるものなり。

かひらぎ—の—たき 梅花皮瀑 名 地理 羽前國置賜郡小玉川村にある瀑、高さ二〇丈、幅二間餘。

カピラバスツ Kapila-Vastu 迦毘羅數窣都 名 地名 釋迦の生地 インド、ゴラクプール西北の舊都、釋迦の父首圖駄耶淨飯王はカピラバスツの城主たりき、蓋し 迦毘羅は黄色數窣都は城の義、故に黄城の意義なり。

かひろぐ 動四 古語 ゆれ動く、靡くこと。

かひ—なけ 貝桶 名 昔行はれし貝合の蛤貝を入れおく匣

かふ 甲 名 一、きのえ、二、第一等、優等なること、三 かふらの意にて 龜鼈類の背腹にあるもの、四、よろひに同じ 五、琵琶、月琴、三味線等の胴、六、冠の廣き屈き部分の稱。

か—ふ 家扶 名 親王家 華族の家臣にて 家令の次席家從の上位、家事の一部を司る役。

か—ぶ 歌舞 名 歌ひ 舞ふことにて 本邦は神代よりあり、神武帝は軍陣に用ゐて士氣を鼓舞し、崇神帝は神宴に用ゐて神人を調和し給へり、乘舞、年人舞、倭舞、神樂等の名ありき 後吳樂、隋唐の樂も入り來れり。

が—ふ 樂府 名 詩の一種、昔支那漢武帝に始り哀帝に盛れし漢詩なり、三、五文ぢの句を用ゐ 一種の格に作る。

がふ 合 名 數學 一、桝目を數ふ、一升の十分の一、一勺の十倍に當り、二、一坪の十分の一、一勺の十倍なり。

カプア Capua 名 地名 インドのテーブルスの北方二十五哩カンパニアの都城、バルタルノ河畔にあり、西紀前二一六年ハンニバルの市民請願に應じて カンチ戰爭の冬期を此地に休し 將卒士氣を失し 遂にローマに降り、紀元八十四年 サラセン人に破れし地なり。

カプアス Kapuas 名 地名 一、ボルネオの川、源をセリブセラタスに發し、西流してカバ海に入る、二、ボルネオの西海岸にある一邑なり。

かふ—いつ 甲越 名 甲越の兵 甲越の軍の意にて、甲斐の武田信玄、越後の上杉謙信を云ふ。

カフェーン 珈琲素 名 化學 茶素に同じ。

かふ—か 闔家 名 渾家とも云ひ 全家、家内殘らずの人

かふが—げんご 甲賀源吾 名 人名 遠江國の人、航海術を海軍奉行矢田堀景藏に學び 軍艦頭となる、明治元年榎本武揚等と函館に據りて官軍に抗し 二年三月二十五日南部鐵ヶ崎碇泊の甲鐵艦を奪はんとして敵彈に中りて死す

がふさ—さいばんじよ 合議裁判所 名 法律 訴訟事件に就き 裁判官の集會して議論の結果、判決する裁判所。

かぶき—しばゐ 歌舞伎芝居 名 慶長八年出雲のお國の始めて舞曲したるものの今は格のよきものとして有名なり 歌舞伎十八番は市川家代々勤め來れる當り狂言十八番にて新舊二樣あり。

がふ—きん 合巹 名 婚禮に杯を交ふること、巹は一の瓠にて二つに分ちて作りたる酒器なり。

がふ—し 合子 名 古語 今日の茶椀類の塗りたるものにて蓋あるを云ふ。

かふしう—かいだう 甲州街道 名 地名 甲斐の甲府より武藏東京に至る街道を云ふ。

がふじう—れんかう 合從連衡 名 支那戰國時代の諸侯間の同盟締結の名にて 關東諸國即秦以外六國連合して秦を打つを合從と云ひ 蘇秦の主張なり、秦國に仕へ 各國を分離せしめんとするを連衡と云ひ 張儀之が主張者たり。

がふしき—てき 合式的 名 論理 思想の階級、量、能及關係に用ふ。

かふし—やは 甲子夜話 名 書名 二七〇卷あり、肥前國平戸の城主 松浦靜山の隨筆雜錄なり。

かふ—ずく 甲族 名 よきいへがら、門閥家。

かぶつち—の—たち 頭槌太刀 名 古語 切りさきの太きたち。

がふ—てんじやう 合天井 名 井桁形の天井。

かぶと 兜 名 武具 古 戰爭のとき敵を防ぐ爲め 頭に頂きしもの、上古革にて製せしも 武士起りてより鐵にて製し 其形も一變したり。

かぶと—がに 鱟魚 名 動物 硬殼類、淺き海濱の砂中に棲み 大さ一尺以上二尺五寸、六對の脚あり 板狀の鰓にて呼吸作用をなす、肉は食用とならず、殼は船中の水吸み器に代用す。

かぶとがひ 名 動物 うに類の棘、及骨片の外面にある表皮、内膜を去りたる外骨骼をいふ。

かぶと—したち 兜卜地 名 亂髪の意。

かぶと—たて 兜立 名 陣中にて 兜をかくるもの、六尺許の槍に似て、いしづきある頂上に 饅頭形の盤ありて兜をかくるに適當に作りたるもの。

かぶと—だに　加太谷　名　地名　伊勢國鈴鹿郡鈴鹿山にある谷なり。

かぶと—ごけ　Sticta pulmonaria, Sch　名　植物　地衣類、別層地衣區の葉狀地衣族の植物　深山の樹皮に附着す、葉狀部を横斷して　檢すれば　髓絲層と　絲頸層を明に區分し、雌雄器は　葉狀體上に在るを見るなり。

かぶと—の—な—な—しむ　綿兜　名　油斷せざること。

かぶと—むし　兜蟲　名　動物　甲虫類　翼翅類、長さ二寸許　全身栗色　六脚あり　甲は堅く　翅あり　晝隱れ　夜出で飛ぶ。

かぶの—うら　河野浦　名　地名　越前國南條郡の西方にある浦。

かふ—ふ　甲府　名　地名　甲斐國府中のこと、山梨縣廳の所在地なり。

かふふ—さいしよう　甲府宰相　名　人名　德川綱吉のこと

かふふ—わゆうなごん　甲府中納言　名　人名　德川家宣のこと。

か—ふん　花粉　Pollen　名　植物　雄蕊葯内の細微の粉末なり　此の固塊を花粉塊（Pollen-mass）と云ひ、此量多くて甲蟲の媒介によりて　他の雌蕊に受精せしむる花を花粉花と云ひ、内外兩被を被むる花粉粒が　一旦柱頭に達するとき之より分泌する液質の爲め　雲はれ　内被の一部分が　外被の孔穴或は薄き部を穿ちて伸長す　之れ卽ち花粉管（Pollenrube）なり、其尖端に　二個の雄性核を生ず。

かふん—か　花粉花　名　植物　花粉の量多く、甲蟲の媒介により雌蕊に受精せしむる花を言ふ。

かふん—かい　花粉塊　名　植物　花粉末が固塊をなすものを言ふ、闌の如し。

かふん—くわん　花粉管　名　植物　花粉粒は内外兩被を被むり、柱頭に達する時、内被の一部、外被の孔より出で、伸長す、之を花粉管と言ひ、二個の雄性核を有す。

かふん—りゆう　花粉粒　名　植物　花粉末の一つなり。

かぶら　蕪菁　Brassica campestris　名　植物　十字科草本　葉形大にて分裂す、黄色花を咲き　根頗る肥大なり、煮物漬物として食用とす、コカブ、テンノージカブ　ムラサキカブ等種々あり。

かぶら—しげとう　蕪重藤　名　武具　弓の名　重藤の弓の蕪形に捲きたるもの。

かぶら—とう　鏑藤　名　武具　弓の上下兩部に捲きたる藤

かぶら—や　鏑矢　名　武具　鏃の類　鳴鏑とも云ひ、水にて蕪根形狀に作り　三個の穴をあけ　之を射るとき　音を發す。

かぶら—ぶり　鏑鍋　名　鈴にも作る　鏑矢の乳をあるものにて　頭の曲りたる鑿なり。

カフラリア　Kaffraria　名　地名　アフリカ南端の豐饒なる地　ケープ殖民地、ズルラント及ナタルを含む、廣さ八〇—九〇哩　面積二萬方哩　人口十萬、アラビア人カフアル人の住するを以て此名あり。

カブラル　Cabral　名　人名　航海者　ペドロ、アルバンツズカブラルはポルトガルの人、西紀一五〇〇年西インドに航してブラジル海岸に漂着し　此にポルトガル國旗を立て尙航海を續け　翌年カリコに製造所を建つ、（西紀一四六〇—一五二六）。

ガブリエル　Gabriel　名　人名　建築家、フランスのバリーの人、（西紀一七一〇—一七八二年）。

かぶり—したち　冠下地　名　一、冠をかぶる時の下地となるもの、二、髪を頭上にかためて結び　冠をかぶりてもさはりのなきやうにせるもの。

カブール　Cavour　名　人名　大政治家、イタリアのサルヂニア王ビクトル、エマヌエロの宰相、西紀一八五二年國會議長となる、イタリア統一の基礎をなせり（西紀一八一〇—一八六一年）。

カブール　Kabul　名　地名　アフガニスタンの首府、デーリの西北六五〇哩、カブール州カブール河畔にあり、人口七萬、果物及敷物等の商業盛なり　一七三九年チムルに占領せられしも今は英領たり、其カブール河はアフガニスタンに起り、東方カブールを走りパンジアブ州にて　インドス河に會す、全長二七〇哩あり。

かぶろ　禿　名　はげあたま　はげやま、童髮、遊女の使ふ幼少の女を云ふ。

かぶろき—の—みこと　神漏岐神　名　神名　高皇産靈神を云ひかぶろみのみこと（神漏美神）は　神皇産靈神を云ふなり。

か—べ　漢辨　名　地名　安藝國漢辨郡可部町及中原村なり

カペー　Capet　名　人名　フランス王フーゴーの俗名、王は西紀九八七年王位に卽き　第三王朝の祖となれり、カペ—朝は一三二八年に涉り、其後一五六八年までバロア王統一八四八年までフルボン王統之をつげり。

か—へい　花柄　Carpophore　名　植物　數個の子房間に伸

長せる花托の一部分　柱狀をなすものこれなり。

かべーげんざん　壁見參　名　古語　陰ながら　見參すること。

かへーさ　歸　名　古語　かへるさに同じく　歸るとき。

かへーさまーに　返樣　連　古語　反對に、かへりて。

かへしーうた　反歌　名　一、へんかの意にて人より贈られたる歌の意に答へて詠む歌　二、長歌の終りに添へて　長歌の意を總括して意を含める歌。はんかと訓す。

かべーしま　加部島　名　地名　肥前國北方海中の一島　周圍二里餘。

かへしーもの　返物　名　古語　聲音の調べの律より　呂に變る時に唄ふうたなり。

ガベス　Gabes　名　地名　アフリカのチュニスの一小部邑　首府チュニスの南二〇〇哩　東は地中海水の一部より成るガベス灣に臨む、人口凡九千、指甲花を輸出す。

かへで　楓　名　植物　械樹科木本、喬木、春末の若葉は紅　夏は綠りとなり　秋末紅葉す、形のかへるの手に似たればかく云ふなり。

かへでーだな　楓棚　名　四十八棚の一、足四本、棚八枚を以て　參棚をつけざる棚、多く書院の側方にわく。

かへでーれいとく　鶏冠井令德　名　人名　諸俳師、京都の人、松永貞德の門弟三傑の壹人、延享二年年六八死す。

かへーどの　梁殿　名　朱雀院にありし皇后御所なり。

カベナンター　誓約派　Covenanter　名　宗教上　英王チャールス一世に對し　反抗せんとしたる徒黨なり、卽ち　スコットランド人なり。

カベーニアク　Cavaignac　名　人名　政治家、フランスの將軍、西紀一八四九年アルセリア總督、同年歸國して統總官　大統領選擧に　ルイウス、ナポレオンに反對して失敗す、（西紀一八〇二—一八五七）。

かべにーみみーありーてんにーくちーあり　壁に耳あり　天に口あり　諺　密談をとても誰か聞くものありもるるなりとの諺なり、姚元崇の口箴なりき。

かべーのーなかよりーもとめーいでたりけんーしよ　壁の中より求め出でたりけん書　同　孝經のこと、孔安國古文孝經に「魯恭王使二入壞二夫子講堂一、於壁中石函一得二古文孝經二十二卷一」とあり。

カーペンタリア　Carpentaria　地名　オーストラリア北部の一部會、リボルノの西北三〇哩の地。

カベンヂシ　Cavendish　名　人名　航海者、トマス、カベンヂシは十六世紀のイギリス人、放蕩の結果　家產を破り　南米に往ゐて貴重品を得　世界一週後又航海せしも功あら

ず　西紀一五二九年死す。

かへりーあるじ　還饗　名　古語　昔　相撲などに勝ちて還りしもの　その館にて饗應することなり。

かへりーきく　返聞　動四　古語　結果の噂をきくこと。

かへりーごと　返言　名　返言の意、へんじの意。

かへりーごゑ　返聲　名　古語　律音、春の調子より　秋の調子となる雅樂。

かへりーちゆう　返忠　名　裏切に同意　舊主人に叛きて新主人に忠を致すこと。

かへりーづの　反角　名　刀の鞘の飾り。

かへりーまうし　返申　名　古語　一、報賽の意、神佛にかけし願の成就したればとて　御禮詣りすること、二、復奏の意、勅命の返事を奏聞すること。

かへりみてーたーなーいふ　顧みて他をいふ　文　そしらぬ顏にて　話をよそに紛らすこと。

かへりーみる　顧　動下一　背後をみる、ふりかへりみる、往事を追懷すること、反省すること、仁を以て他を眷顧することなどの意あり。

カベル　Kappel　名　地名　スウィスの北方にある一市、チューリヒの南一〇哩にあり、紀元一五三一年十月十一日改革派と舊教との宗教戰爭、及カペル戰と云ひて紀元一五二九—三一年まで二派間の內亂ありし地なり。

かへる　反　動四　上下相轉倒すること。

かへる　孵　動四　卵の子となること、孵化すること。

かへるーまた　蛙股　名　一、家屋の棟の破風に飾り付くる蛙股の形をなせるもの、二、かんざしの足のかへる形のもの、三、凡て蛙の股をひろげたる如き形のもの。

かへるーやま　歸山　名　地名　越前國にある一山。

かほ　顏　名　古語にて眉目のこと、頭の前面の總て卽ちかもて、又體面、名譽などの意に用ふ。

かーぼ　嘉謨　名　嘉猷とも云ひ、國家を治むる手段方法。

がほう　芽胞　名　植物胞子のことなり。

がほうーのう　芽胞囊　名　植物　子囊のことなり。

かーぼうわ　過飽和　Supersaturation　名　化學、普通の溫度にて飽和する量よりも多きを云ふ　卽ち硫酸ソーダを五十度位に熱して飽和溶液を作り　不溶解の固體を除き　之を冷せば其溫度に於ける飽和溶液が含むより　多量の硫酸ソーダを含みて結晶するなり、これを云ふ。

かほうわーようえき　過飽和溶液　名　化學「かぼうわ」の條を見よ。

かほーがーつぶる　顏潰　同　面目を失ふ。

カーボキシル　Carboxyl　名　化學—CO_2H—$=C\langle^{O}_{OH}$ を云ふ

かーぼろし 細 形 たよわし、羸弱なりの意、かは接頭語にて意味なし。

かぼちや 南瓜 名 植物 瓜科蔓草、形 壺に似て扁なり 南洋のカンボヂヤより傳來せしかば此名あり。

かぼちやーのーうらなり 加保茶浦成 名 人名、狂歌師、加保茶元成の養子、性多能、書畫をも能くす、初め淺草庵春村に從ひて狂歌を學び、十返舍一九の門に入りて草双紙を書く、弘化三年九月六日歿す。

カボット Cabot 名 人名 一、水先案内者、ジオバニ、カボットはベネチアのセノバに生れブリストルに居る、ヘンリ七世の時 北アメリカの一部分を發見す 今のラブラドルなり 時に西紀一四九七年なりき 翌年死す、二、ジオバニの子セバスチアノは父に從ひアメリカに赴きイスパニアに還り、カロロ五帝の時ブラジルに殖民せんとして成功せず、磁針の偏差を發見しイギリスとロシアとの通商を開始せる人也(西紀一四七四—一五五七)。

かほ—どり 顔鳥 名 動物 古語、凡て美しき鳥を云ふ、をし、ひすた、きじ、よぶこどりなどと云ふ。

かほ—ばせ 顔 名 かはいろ、かはつき。

カボ—ベルデーしよたう Cabo Verd Is 名 地名 アフリカの西海岸ベルデ崎の西三二〇哩の大西洋に散在せる諸島なり。

かほんぐわ—しよくぶつ 禾本科植物 Gramineae 名 植物(特徴) 草本、結節莖、節間中空、葉は互生二列、莖を包被し、管狀鞘、花序は穗總狀にて花被鱗如、又は二三の鱗被あり、雄蕊は三乃至一、雌蕊は一、二個の羽狀柱頭を有す、單子房にて上位、果實は穎果、蕊花は一乃至多數の小花より成る、一小花に內外の殼を具ふ、いね、こむぎ、たはむぎ、まだけ、めだけ、さとうきび等之に屬す。

からすむぎ—蕊花

かほ—よ—ばな 顔佳花 名 植物 草本 古語 かきつばたなり。

カーボランダム Carborundum 名 化學 硅素と炭素との化合物なり。

かほ—な—なかして—いましむ 顔を干して諫む 文 對面して直接に練言すること。

カマ Kama 名 印度の戀の神 其秋波一度他神に接する時は 忽ち胸中に不安の念を起さしめ、其身軀迄も灰燼と

ならしむと云はる。

カマ Kama 名 地名 ロシアのボルガ河の一支流、源をワラル山に發し、カザン南方二四哩にて本流に合す。

かま 鎌 名 新月狀の刃の着ける鐵製のものにて木の柄のつきたるもの、草、柴、稻などを刈るに用ふ。

がま 蒲 Typha japonica, Miq. 名 植物 香蒲科草本 水生、莖葉共に細長し、葉は機りて席とし、夏褐色の穗狀花を開く 之をホクチとす。

かま—いり 釜煎 名 天正慶長頃の刑罰、釜にてゆで殺すことなり。

が—まう 鶩毛 名 鶩鳥の羽毛は白色なるより 雪のことを云ふ。

かま—さり 鎌切 蟷螂 Mantis 名 動物 昆虫類、直翅類 全身細長く 六脚を有し 第一對脚は腿節脛節より發達し 相向へる面に鈎狀突起ありて捕獲用をなす、能く木の間を飛翔し 害虫を捕食するを以て益虫とせらる。

かー まく 儘下二 古語 慈すること、事に拘泥すること。

かまくら 鎌倉 名 地名 相模國鎌倉郡鎌倉町にあり、治承四年源頼朝の幕府を開きしより以來源氏の根據地となり北條氏、足利氏皆緣あり 成氏古河公方となりて廢止す、今は鶴岡八幡宮、護良親王を祀れる鎌倉宮、鎌倉五山あり

かまくら—たはさうし 鎌倉大草紙 名 鎌倉の事を記せるもの、後花園天皇頃の著作なり。

かまくら—たはばんやく 鎌倉大番役 名 嘉祿元年藤原頼經が、遠江以東十五國の將士をして各十二月を限り 分番して入衛せしめ 柳營の諸門を衛り府中を警せしめし番衆

かまくら—かげまさ 鎌倉景政 名 人名 權五郎と稱し、源義家に仕へ 勇猛の聞こわりき。

かまくら—ござん 鎌倉五山 名 地理 禪宗の寺、(一)南禪、(二)建長、(三)圓覺、(四)壽福、(五)淨智、(五)淨明の五寺、足利義滿の制定せし順序なり。

かまくら—の—さんらう 鎌倉三老 名 人名 北條時政、和田義盛、畠山重忠なり。

かまくら—の—しわさ 鎌倉七座 名 絹、米、炭、馬、檜物、相物(乾物)千桑積(荒物)の七つの座なり。

かまくら—の—じふしやうぐん 鎌倉十將軍 名 人名 源頼朝、頼家、實朝、平政子、藤原頼經、源頼嗣、宗尊親王、惟康親王、久能親王、守邦親王を云ふ。

かまくら—ぼり 鎌倉彫 名 地は黑漆にて塗り 其上を朱漆にて彩せしもの 鎌倉時代美術の特質たりき。

かま—さき 鎌鷺 名 動物 鳥類 涉禽類、普通のさぎより形やや大、嘴鎌の如し。

かまさし—なは 鎌差縄 名 白き手綱、馬をつなぐに用ふ

かます 鮴 名 動物 魚類、海産類、身圓くして肥大、嘴尖り、鱗細く、銀光色の皮あり、五六寸の大さ 乾魚とす

かま—ずみ 蔗莖 名 植物 木本、高一丈、葉圓く二寸許五瓣花、傘形なり、秋小豆大の赤色實を結ぶ。

かまだ—ういきち 鎌田榮吉 名 人名 和歌山の人、慶應義塾に學び 鹿兒島造士舘教頭、大分縣中學校、師範學校の校長を經、明治二十七年衆議院議員となり 尋で慶應義塾長となり、現に遼東の野に出征中なり。

かまだ—まさいへ 鎌田政家 名 人名 相模の人 本名は正清、藤原秀郷の裔、源義朝の臣、平治の亂 主の尾張知多の平忠致に投ずゝや從ひ 主と共に殺さる、年三十八。

かま—つか 鮣 名 動物 魚類、長さ五六寸淺黄色にて黑色の斑點あり、頭部方形にて長く、鱗細し、常に水底にありて口を張り 目を瞋らして砂を吹く 形 鎌の柄に似たるを以て此名あり。

かま—つか 鎌柄 名 植物 草本、白色の花、材は鎌の柄を製す。

かまど—じんじや 竈門神社 名 地理 筑前國御笠郡大宰府町と御笠村の境にある玉依姫命を祀れる官幣小社なり。

かまど—なし 竈無 名 極めて貧しき人、かまもちは富人。

かまはやぶさ 鎌隼 名 動物 鳥類、隼族、翅に鎌の如き鋭き羽ありて 之を以て他鳥を打ち落して餌とす。

かまふ 搆 国下二 準備する。支度するなどの意、家を搆造す、槍術劍術のとき敵を待ち設くること。

がまふ—うちさと 蒲生氏郷 名 人名 田原藤太秀郷の後幼名鶴千代 飛彈守と稱す、織田信長、豊臣秀吉に仕ふ、性頴敏英武、石田三成に忌まれ 秀吉の勸めにより 文祿四年大阪にて瀬山正忠に殺さる、年四〇なり。

がまふ—くんぺい 蒲生君平 名 人名 下野國宇都宮の人 福田秀實なり、性忠烈至孝 常に御陵の頹壞を慨し 自らこれを採ぐりて山陵志を著す、又、洋夷の來寇を憤り 不恤緯五卷を著す、文化十七年江戸に歿す 年四十六なりき。

がまふ—の 蒲生野 名 地名 近江國にあり。

かま屋こ 蒲鋒 名 動物 鰻 鯽などの肉を叩き搗り 鹽酒を交ぜて長方形の小板に 凸形に盛りたるもの。

かまんがん—さん 過滿俺酸 Permanganic acid $HMnO_4$ 名 化學 製法—過マンガン酸バリウムに強硫酸(冷)を加ふなり、性狀—赤紫色の液體、甚だ不安定、放置するか、日光に曝すときは速に分解し酸素を遊離し 水酸化マンガンとなる、此イオン(MnO_4)は一價赤紫色なり。

かまんがんさん—イオン 過マンガン酸イオン 名 化學、一

價にして赤紫色なり。

かまんがんさん—かり 過滿俺酸加里 Potassium permanganate, $KMnO_4$ 名 化學 一名、過滿俺酸カリウムと云ふ 製法—二酸化滿俺 鹽素酸カリウム及水酸化カリウムを水に溶し 之に炭酸瓦斯を通じて濾し 其濾液を蒸發すれば紫色の結晶を得、性狀—十六倍の水を含む、酸化劑、防腐劑及飲料水中の有機物の有無試檢劑に用ゐらる。

かまやま—じんじや 竈山神社 名 地理 紀伊國名草郡三田村にある彦五瀨命を祀れる官幣中社なり。

かま—やり 鎌槍 名 武器 穂先に枝のある槍なり。

かみ 上 名 上部、貴人或上位の人、年長者、上世卽昔、首府、人の妻などの意あり。

かみ 神 名 形なく靈ありて世に禍福を降し 人の善惡行爲によりて加護冥罰をなすもの、古來の聖賢君子英雄豪傑の靈。人智の知る可からざるものなどの意あり。

かみ 長官 名 役名、大寶令制定の各官署の長官にて 官事を總判するものなり、但し四部官中の第一位のもの、諸官によりて文字を書き分つ、卽ち 伯(神祇長官)卿(省)尹(彈正)長官(使)大夫(職)頭(寮)正(司)督(兵衛府)尉侍(內侍司)守(國衛)等なり。

かみ 紙 Paper 名 化學 楮三椏及桑を以て日本紙を製し、藁、木材、襤褸等にて西洋紙を製す、何れも苛性ソーダ或は石灰或は酸性亞硫酸カルシウム等を用ゐて漂白作用及纖維分解をなして製す、種類なるを以て畧す。

かみ—あがり 神上 名 古語 天皇の崩御。

かみいづみ—たにつら 上泉鬼貫 名 人名 俳諧師、攝津國伊丹の人、初め酒造を業とし後針醫をなし、後更に 松江重頼に學びて一家をなせり、詞藻豊富、自由に能く宇宙をよむ、元文三年八月二日 年七八を以て歿す。

かみいづみ—ひでたね 上泉秀胤 名 人名 軍學者、常陸介と稱し 上泉流兵法の祖となる。

かみ—たき 髮置 名 陰曆十一月十五日男女始めて三歲になりし時 頭に 髮を長せしむる儀式。

かみ—たくり 神送 名 陰曆十月一日 八百萬の神 出雲の大社に集り給ふを送る祭式。

かみ—がかり 神憑 名 かんがかりのこと、神の人身に憑ること。

かみ—がき 神垣 名 一、神社の忌垣 玉垣 瑞籬などに同じく周圍の垣なり、二、之れより轉じて 神社を云ふ。

かみかふの—たき 上河井野瀑 名 地理 肥後國上益城郡河井野にある瀑、十二丈の高さ 一丈の幅あり。

かみき—づき 神來月 名 陰曆十一月のこと。

かみきり—むし　天牛　Melanauster　名　動物　昆蟲類、體長一寸幅三四分、背部は堅甲を有し　黑色にして白色斑點あり、觸角長く十一節より成り　脚節に刺あり、六顆よく發達し、前翅革質、齒鋭く　かみを切るを以て此名あり。

かみ—ぐら　上座　名　かみざ　上席等の意。

かみ—こ　紙子　名　紙にて製したる着物。かみぎぬに同じ

かみこいし—じま　神子石島　名　地名　佐渡國南方海中の一島。

かみこしき—しま　上甑島　名　地理　薩摩國西方海中の一島　周圍十七里餘あり。

かみ—ごと　神語　名　一、大祓の詞、神事に於て陳ぶる語　二、神託、卽神の告げことばなり。

かみこもと—しま　神兒元島　名　地理　伊豆國賀茂郡下田港の南方にある一島　燈臺の設けありて　航海に便なり。

かみ—さかやき　髮月代　名　剃髮　さかやきを剃りあげて髮を結ふこと。

かみさき—みなと　神崎港　名　地理　伊勢國度會郡神崎村にあり。

かみ—さふ　神閑　國上二　神めきたり　古めきたり、かうがうしの意。

かみ—ろぎ　髮削　名　女十六歳に至りし時の祝　卽元服。

かみ—だ　神田　名　古語　神社の所有する田。

かみ—ち　神路　名　古語　神の道ふみち。

かみち—やま　神路山　名　地名　一、伊勢內宮の神路山にある老杉　之を以て箸を作る、三、駿河國の富士山を云ふ。

かみ—つ—いだ　上枝　名　古語　兄のこと。

かみつ—か　花蜜花　名　植物　蟲媒花類、昆蟲　鳥類によりて食用となるべき花蜜を有するもの、ナタネ、ダイコン　サクラ、ウメ等の如し。

かみつけ—の—かたな　上野形名　名　人名　舒明天皇に仕へ、四年蝦夷を征伐して功あり　妻も剛毅にして　夫を助けて名あり。

かみつけぬの—たち　上毛野田道　名　人名　仁德天皇の朝　新羅朝貢を缺く　乃ち五十三年精兵を率ゐて其罪を問ふ、敵　兵を出して挑戰す　田道應せず　奇計を運らして遂に勝を制し　四邑の民を捕獲して歸朝しぬ。

カミツレ　Matricaria chamomilla, L　名　植物　菊科草本　無害の發汗劑を製す。

かみとさ—しま　上砥岐島　名　地理　肥後國西方海中にある島、周回三里餘ありと。

かみ—とけ　神解　名　古語　落雷　霹靂の意。

かみ—なさ—み—くらゐ　神無御位　名　天皇陛下の御位。

かみ—なす　釀成　名　古語　酒などを釀しつくる。

かみな—づき　神無月　名　古語　陰曆十月のこと、かみなかりつき、かみなしつきとも云ふ。

かみなび—やま　神南備山　名　地理　大和國の一山にて紅葉の名所なり。

かみなり—の—ちん　雷陣　名　禁中にあり、雷鳴三度に及び　近衛將官　弓箭を執り、伺候して守衛し奉る所なり。

かみなり—の—つぼ　雷壺　名　禁中五殿舍の一、襲芳舍なり　梅壺の北にあり。

かみなり—まさかり　雷斧　名　雷鳴後　地上に露出す凡て石器なり　是上古土民の迷信より起る。

かみ—の—いさめ—ぬ—みち　神不諫道　名　古語　夫婦のちぎり。

かみのけ—あり　神氣有　同　古語　神靈の我身に宿りたること、かみのけは神のたたりにたなし。

かみのせき—しま　上關島　名　地理　周防國東南方の海中の一島　周回九里十六町　長島の改稱。

かみ—の—つかひ　神使　名　俗說　神々の特に其使とせらるる動物、伊勢神宮の猿、春日の鹿、八幡の鳩、熊野の烏　稻荷の狐、松尾の蟹、諏訪の蛇などを云ふ。

かみのぼら—だき　神洞瀑　名　地理　伊豆國那賀郡安良里村にある瀑　高十九丈　幅一間。

かみ—の—みさか　神御阪　名　古語　深山のけはしき阪。

かみ—の—みち　神道　名　天祖天神の御教訓の道にて　神靈を齋き祀ること、佛教渡來して、混淆戲生す。

かみ—の—みゐ　上御井　名　伊勢豐受宮の傍　藤岡山の麓にあり　神饌を調理する井なり。

かみのやま　上山　名　地名　羽前國村上郡にある舊松平氏の藩地、今は山形縣に屬す。

かみ—はぎ　紙矧　名　武具　矢の羽莖の上下を　紙にて卷きたるもの。

かみ—びと　神人　名　古語　神主　神に仕ふる人。

かみべ—じんじや　神部神社　名　地理　駿河國靜岡市淺機山にありて大巳貴神を祀れる國幣小社なり　淺間神社　大歲御祖神社を合齋せり。

かみ—むかへ　神迎　名　神送に對する語　陰曆十月晦日八百萬の神　出雲の大社より歸り給ふを迎ふ祭式。

かみ—や　神矢　名　神　憤怒して　射あて給ふ矢なり。

かみや—うんたく　神谷雲澤　名　人名　儒醫　美濃國の人　博聞强記　勤王の志厚く　幕府の專恣を憤り、復古の念盛なりき　文政三年二月十五日　年四十八にて歿す。

かみや—がは 紙屋川 名 地理 山城國愛宕郡氷室山より發する川 仁和川とも云ふ、此川にて漉す 詔勅 宣旨などを書くに用ゐし紙を紙屋紙と云ひき。

か—みやくくわん 假脉管 Hydroids, or Tracheides 名 植物 延長したる細胞の両端は 全く消失せざれども 脉管に等しき作用をなすを以て此名あり。

かみや—さだきよ 神谷貞清 名 人名 九州博多三傑の一人、支那、朝鮮 遷延に往き 盛に商業を營み 巨利を占めて歸り 豊臣秀吉德川家康に知遇を得たり、殖産工業に志を向けしかば 今日の博多織 櫨實絞採などの事業皆氏の手に始まれり、寛永十二年十月二十八日 年八十五歳す

かみやのうへ—の—みささぎ 紙屋上陵 名 地理 山城國葛野郡衣笠村の華山天皇の御陵なり。

かみ—やま 神山 名 地名 加茂神社の後の山、又凡て神の鎮座し給ふ山なり。

かみ—よ 神代 名 神武天皇以前を云ふ、泰西にては之を神話時代 (Mythological age) と云ふなり。此時代用ゐられし象形文字を神代文字と云ふ。

かみよ—ななよ 神代七世 名 神名 國常立、豊雲野、宇比邇邇—須比知邇、角材—活材、富斗能地—大斗乃辨、於母陀城—阿夜訶志古泥、伊邪那岐 伊邪那美を云ふ。

かみよ—もじ 神代文字 名 一種の符號として用ひられたる形象文字、字體數種ありて、何れが信なるか詳かならず

かみより—いた 神依板 名 古語 神たろしの時 鳴らす杉の板。

カミラ Camilla 名 人名 ボルスキ人王ソダプス王の娘、神話中にあり、行走極めて速なりしといふ。

カミルス Camillus, Marcus Furius 名 人名 ローマ古代の貴族、ローマの競爭市ウェイイを攻め降し、一度反對派の嫉妬の爲め追放を蒙むりしも ゴール人のローマを襲ふや 出でて之を救ふ、コンスルたること前後五回に及ぶ、メイタリア人を伐ちて壓功ありき 享年八〇 紀元前三六五年歿す。

カミルデムレン Desmoulins, Camille 名 人名 佛國革命史上有名なる人、(西紀一七六二—一七九四)。

カミロ Camillo 名 カミルスのラテン語なり。

かむ 噛 拭 醸 動四他 噛は物を口中にて咀嚼すること 拭はふきとる、ぬぐふに同じ、醸はかもすの古語なり。

かむ—かかり 神懸 名 古語 神託に同じ。

かむ—さろ 神去 名 古語 崩御、死に給ふの意。

が—むし 架蟲 Hydrophilus 名 動物 節足動物 昆虫類、食草性、全形楕圓形 靜水中に住む、他の昆虫と區別し易きは 觸角の形狀棍棒狀にて 複眼の直に前方より出で 六乃至九節よりなり 眼胸間に隱れ、游泳巧なる事也。

かむ—わから 神祝 名 古語 神に奉納する稻なり。

カムチアツカ Kamtchatka 勘察加 名 地名 亞細亞の東北の一大半島 ベーリング海とオコツク海との間 長八五〇哩廣さ二八〇哩(最廣) コルサコフ港ありて 我北海道に對す。西紀一八五五年ロシア沿海の一州となる。

かむ—ながら 神隨 名 古語 神のままなる德を具ふ。

かむ—なぎ 巫 名 古語 神事を行ふ人、男女あり。

かむ—の—てんわう 神野天皇 名 人名 嵯峨天皇を申す

かむ—ばた 綺 名 古語 錦の薄きもの、古代の織物なり

かむ—はとり—はたどの 神服織機殿 名 伊勢國飯南郡大垣内村にありて 皇太神宮の神御衣祭に供進する和妙衣を織る所、崇神天皇の御代の創建。

かむ—べ 神戸 名 古語 一、神田を耕作する人、二、神に奉りたる民のかまど。

かむ—ほぎ 神祝 名 古語 かむはざきとも云ひ 神に奉る祝詞なり。

かむやまと—いはれひこ—の—すめらみこと 神日本磐余彦天皇 名 人名 神武天皇を申す。

かむり 冠 名 かんむりに同じく 上古末より 主に東帶の時に頭にかぶりしもの、厚額、透額、老懸、卷纓、細纓等あり。

かむり—どり 冠鳥 名 動物 鳥類 鳩鴿類、目赤く、足白く、頂に長毛冠を頂く 形 通常の鳩よりやや大なり。

かむり—の—なほし 冠直衣 名 直衣の條を見よ。

かむろぎ—かむろみ 神漏岐 神漏美 名 神名 高皇産靈神 神 神皇産靈神の二神 男女なり。

かん 漢 名 地名 支那古代の國名 前(西)漢、後(東)漢あり 前漢は漢高祖(劉邦)の建設、我紀元四百五十九年に當り、後漢は漢光武帝(劉秀)の建設 我紀元六百八十五年に當れり。

かん 澣 名 旬浣に同じく 一ヶ月中の十日を云ふ。

かん 駻 名 馬の强勢にて 征し難きこと。

ガン Gand (Ghent, Gaunt) 名 地名 ベルギーの一部市 東フランドルの首府、河川運河にて二十六區に分れ 二七〇の橋梁あり 同國商業中心地、木綿 毛織物麻布の貿易の中心地 又花都の名あり 有名なるセントバボン寺は此處にあり。

がん 龕 名 佛像のづし、棺などの意。

がん 雁 名 動物 「かりがね」の條を見よ。

がん—あんらく 顏安樂 名 人名 西漢儒者、後漢光武帝

の時五經博士十四家の一人となる　公羊顏氏春秋を著す。

かん—いき　灌域　名　地文　河域を見よ。

かん—いい　韓嬰　名　人名　西漢儒者　燕人　封龍子と號す、文帝の時博士となり、景帝の時常山太傅となる。

かん—えい　甘英　名　人名　東漢和帝頃の人　班超の部將超の西域都護となるや　太秦(ローマ)の富裕なるを聞り英を使して　是に東西兩洋の交通を開く。

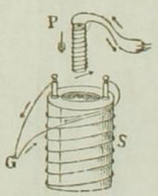
がんえん　岩鹽　Rock salt　名　鑛物　等軸晶系　方形或は塊狀、無色或白色にて黃、赤、青、紫色を帶ぶ、透明不透明玻璃光澤、鹽味强く水に溶く、比重二、一　硬度二、五、鹽化ナトリウムの多量を含有し　吹管にて熱すれば爆發すドイツのスタスフルト、塊のウイルチカ、イスパニアのヒレニース　本邦の信濃、越後より産出す。

がん—えん　顏淵　名　人名　孔子の弟子　名は回。

かん—えんじゆ　甘延壽　名　人名　西漢武將　西域に使して　義成侯に封ず。

かんえん—るゐ　完緣類　名　動物　楔足類の有管類、水管短くして短縮せず、外套線單一にて彎曲せざるもの、シジミ、トリガヒの類なり。

かん—たう　感應　名　物理　感應の種類多し　即ち　一、磁氣感應(Magnetic induction)は　磁場内にある軟鐵片の磁性を得る現象、而して磁石に近き端には磁石端と異名の極を生ずるは磁氣の特性なり、二、電氣感應(Electric induction)　は發電氣體に接近して置かれたる導體の電氣を生ずる現象にて　磁性に同じく　異名の電氣を帶ぶなり、三、感應電流(Induced current)は唯一瞬時の電流なり　P、Sはソレノイド、Pは電池に　SはG電流計に連絡すPをSに接近せしめ或は挿入するときはSに電流感應してGの磁針に感せしめ　須臾にし復位す、Pを急に引き出せば磁針又他方に偏し　須臾にして復位す、而して前と反對なり　則ち此作用を感應電流と云ひ　此を以て磁場内に急激の變化を起さしめ電動力を強大にするなり、四、自己感應、此は相互感應(正副コイルを以て一輪道より他の輪道に感應せしむるもの)に對するものにて　一の輪道の一部が他部に感應作用を起し　電動力に反對す。



かんたう—きでんき　感應起電機　名　物理　感應起電機は電氣の感應作用を利用して多量の電氣を起すべく裝置したる器なり、「ウヰムシアーフ」の起電機の如し。

かんたう—コイル　感應コイル　名　物理　一輪道内を通ずる電流の强さを急激に變化して、其傍にある導線内に感應電流を起す器械なり、而して之によりて小なる電動力を以て大なる電流を生ぜしめ得るなり。

かんたう—じ　感應寺　名　地理　東京下谷區谷中共同墓地の南の一寺　日蓮宗なりしも元祿元年天台宗となれり。

かん—たん　漢音　名　支那隋以前　北部に行はれたる音、推古天皇の朝より傳來す、吳音は應神天皇の朝　王仁の傳へしもの　支那南朝の音なり。

かん—か　坎軻　感荷　名　一、轗軻に同じく　志を得ぬこと、二、人より恩を受けて　其恩を心に感ずること。

ガンガ　Ganges (Ganga)　恒河　殑伽　名　地名　インドの大河　源をヒマラヤ山の南側海拔一三八〇〇呎の所に發し、全長一五五七哩にてベンガル灣に注ぐ、沿岸豐饒、古來河水神聖、罪惡を清め　其沿岸に埋めらるる者は永劫幸福を受くと信ぜらる。

かん—かく　扞格　名　堅固にて侵入し難きこと。

かん—がく　漢學　名　支那學に同じ、應神帝の朝　阿直岐の經典を奉り　王仁が論語及千字文を獻ぜしに起る。

がんかせき　頑火石　名　鑛物　斜輝石類輝石、鐵を含ます。

かん—がふ　勘合　名　支那明代　諸外國に與へて往來の証とせしもの　足利義滿なども　之を受く。

かんがへ—ふみ　勘文　名　古語　勘當の書付。

かんがん—ざいん　寒巖義尹　名　人名　後鳥羽院皇子、脫塵の志ありて如元禪師に道を聞き　支那に遊學して歸る。

カンガルー　Macropus or kangaroo　名　動物　有袋體類、五六尺、尾三四尺、全形鼠に似、體の前半後半の大さの割合甚だ異り　前肢極めて小、後肢と尾とを用ゐ運動をなし一躍三四間を飛ぶ、頭小にして耳殼大、子早く生るるを以て腹部にある囊中にて養ふ、多く濠州に産す。

かんが—るゐ　管牙類　名　動物　蛸類に屬する一亞目にして、毒牙管をなして毒液を通ずることを得、頰の兩側に毒腺ありて、筋肉の運動により牙中に毒液を送るなり。

かん—き　韓琦　名　人名　宋明臣　翰冠にて進士に登り、連りに累進して　神宗の時司空を拜し　侍中を兼ぬ。

かんぎう—じゆうどう　汗牛充棟　同　多く書物を貯へる事　柳宗元曰く「陸文通之書　處則充棟　出則汗牛」と。

がんぎ—だな　雁木棚　名　四十八棚の一、三枚の棚を用ゐて造る、書院脇棚に適す。

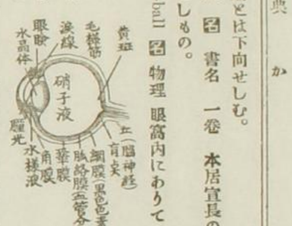
かん—きん　看經　名　經文を點讀すること、及讀經の意。

がん—きん　眼筋　名　生理　眼球を動かす筋にて、内外上下の四直筋と上斜筋及滑車筋との六筋よりなる、内外上直筋は眼球を内外に轉ぜしめ、上直筋と滑車筋とは眼球を上向

せしめ、下斜筋と下直筋とは下向せしむ。

かん—きやうじん 　鉗狂人 　名 　書名 　一卷 　本居宣長の藤井真幹の衝口發を論破せしもの。

がん—きゆう 　眼球 　Eye-ball 　名 　物理 　眼窩内にありて直徑七分餘、殆んど球形、大體の構造は圖の如し、近視、遠視あるは 水晶體の凹凸如何による、即ち近視眼は凸度增加して角膜突出し 網膜に達せざる前に像を結ぶ 故に凹レンズの眼鏡を用ゐ、遠視眼は凸度著しく減し 網膜後方に像を結ぶ 故に凸レンズの眼鏡を用ゐて之を補正す、通常の眼は二十五糎を以て明視距離とす、又眼筋と稱して、眼球を上下四方何れにも轉せしむるものあり 内外上下の四直筋 下斜筋及滑車筋、則ち是なり。



がん—きやう 　眼鏡 　名 　物理 　近眼鏡と遠眼鏡とあり、前者は凹レンズを用ひ、後者は凸レンズを用ふ、皆通常の眼の明視の距離を變じて、近視遠視の人の眼の明視の距離に變せしめ、物體の像を正しく網膜の上に映せしむるために、用ふるものなり。

かんきやう—だう 　咸鏡道 　名 　地名 　朝鮮東北部の地、豊公征韓の役 加藤清正の二王子を擒せし地、今は征露軍の壓迫甚を蒙りし地なりしも 全く平穩となれり。

がん—く 　岸嗣 　名 　人名 　書人、加賀金澤の人、富山侯に仕へ 朝廷宮人となりて諸事を司る、虎の水墨畫を巧みとせり、天保九年 年九〇歳。

かんく—てう 　寒苦鳥 　名 　動物 　鳥類 天竺の雪山に棲む雌は寒夜に 寒苦必死と鳴き 雄は 夜明造栖と鳴く。

かんく—の—あめ 　寒九雨 　名 　寒入より九日目に降る雨、土用入より三日目に降る雨を云ひ 農家の喜ぶもの。

カンゲリ 　康里部 　名 　地名 　現今の露領地、もと漢の康居の裔にてアラル海濱の部落なりしも 元の太祖四征の時其將連不蘭の爲め平げられ 金帳汗の領土となりたり。

かん—くわ 　干戈 　名 　楯とほこのことなりしも 轉して戰爭の意となる。

かん—くわん 　醋家 　名 　飲酒食肉して逸居する意、醋は酒に戚り樂むこと、家は犬羊を養ふこと。

かんくわん—りうり 　間關流離 　同 　困苦してさまよひあるくこと。

かんくわ—ない—ごかす 　動干戈 　同 　戰端開始の意。

かん—けつ 　汗血 　名 　非常なる勞力を云ふ。

かんけつ—せん 　間歇泉 　Geyser 　名 　地文、溫泉の時期を定めて噴出すること、是れ 地内に熱せられたる溶液あるも上表に寒冷の水液あるを以て未だ發せず 漸く上表の熱せらるるや 轟然として噴出するなり 我伊豆の熱海、陸前の鬼首、米國エルローストン、パーク及氷洲の大沸泉皆之れなり。

かん—けん 　寒暄 　名 　寒暖に同じ。

かん—げん 　還元 　Reduction or Deoxidation 　名 　化學 　普通金屬酸化物の陽根を增し或は陰根を減ずることなれども其酸素の幾分或は全量を除くを云ふ、炭素或は水素等は金屬酸化物の酸素を取り去るを以て還元劑 (Reducingagens) と云ふ。

かんげん—ねん 　還元焰 　名 　化學 　焰の條を見よ。

がん—けん 　眼瞼 　名 　生理 　眼球上下の被物にして 上眼瞼は眼を開閉す、眼瞼の裏面の膜を絡膜と言ふ。

がんけん—せん 　眼瞼腺 　名 　生理 　眼瞼の緣にある腺にして、一種の液を分泌し、涙を眼瞼外に流出せしめざる作用をなす。

かん—こ 　鹹湖 　Salt lake 　名 　地文 　地殼内の可溶質物を溶解せる水、流れて出口なき湖水に注ぎ 其水分次第に蒸發するときは 湖水は漸く鹽類の含量に富む 此れ則ち鹹湖なり。

かんご 　漢語 　名 　漢音にて話すを云ふ、吳音より後に起る

かん—こう 　漢江 　名 　地名 　朝鮮の大河 江原道に發し、京畿道に西流して 黄海に注ぐ。

かん—こう 　桓公 　名 　人名 　支那春秋戰國の世の五霸の一人、有名なる管仲は此が將たりき。

かん—こう 　甘汞 　Calomel 　名 　化學 　驢化第一銀水に同じ

かん—こう 　乾候 　Dry season 　名 　地文 　熱帶地方にて年内二回表はるる乾燥時季なり。

がんこうけい 　顏杲卿 　名 　人名 　唐の忠臣、初め安祿山に知られ遂に常山太守となりしが、祿山叛せしかば討たんとして兵を起し祿山の史思明等をして攻むる所となる、杲卿兵を起して魏に入日にして此大軍を受けし故、救を王承業に求めしも承業應せず、杲卿晝夜力戰し、糧矢竭き城陷り遂に捕へらる、而かも頻に降を勸めらるるも應せず却て大に罵倒し遂に慘殺せらる、後乾元の始め太子太保を、建中中又司徒を贈られ其忠節を追賞せらる。

かんこうはく 　韓康伯 　名 　人名 　儒者 晉の人、周易の註家なり。

かんごたん—づ 　漢吳音圖 　名 　書名 　漢音、吳音及之の轉音とを 國字にて 反切のまなやすきれを正せるもの 太田全齋之を著す。

かんこくーがくかう 間谷學校 名 德川時代岡山の藩士のために設けし岡山學校なり。

かんこくーくわん 函谷關 名 地名 清國河南省陝州府靈寶にあり 戰國の秦の故關なり 秦始皇の時 楚趙魏韓の諸國 秦を攻め 此處に至りて敗る、又齊人孟嘗君の秦の昭王に質たりしも 鷄鳴によりて免れ國に歸りし地。

かんーこつ 顴骨 Malar bone 名 生理 顏面頭骨の一部を為す 卽頰部を構成す。

かんこーどり 閑子鳥 諫鼓鳥 名 動物 鳥類 郭公鳥に同じ。

がんーこんじよう 岩紺青 名 化學 藍銅鑛の粉末にして繪具に用ひらる。

かんさい 間齋 名 人名 調馬師 陸奥國の人、慶長元和の頃 馭術を以て 世に鳴る。

かんーざい 寒劑 Freezing mixture 名 物理 氷二貫瓩一にて零下十二度 硝酸アンモニウム一瓩一にて零下十五度の寒冷を有するものなり 是れ固體が液體となるに際し外部より之に熱を供給することなければ四圍の物體若しくは自己より熱を吸收するが爲め自己に寒冷となるものなり。

かんさいーとう 甜菜糖 名 化學 甜菜俗に砂糖大根の根より製したる砂糖にして、寒氣強き地にて製せられ、甘蔗糖と同じく食料とす。

かんーざう 肝臟 Liver 名 生理 橫隔膜の下 胃の上、稍右方に偏位する大腺、靜脈(門脈)より膽汁を吸收し膽囊に集め 十二指腸に送りて 胃中より出る糜粥と混和して脂肪を乳化し、以て腸壁を通過し易からしむ。

かんさぎーのりやす 神崎則休 名 人名 美作の人、赤穗四十七士の一人、性讀書を好み、和歌俳諧に巧みなりき 元祿十六年二月四日 死を賜ふ 年三十八なりき。

カンサス Kansas 名 地名 北米合衆國の中部の一州 カンサス河 アーカンサス河流域なり、西紀一八五九年合衆國に加はる、穀類砂糖を產し 牛豚飼養 製粉所鑄鐵業盛なり、首府をトペカと云ふ。

かんーさぬ 神主 名 古語 祭神、神體に同じ。

かんーし 監司 名 寺院の執事。

かんーし 漢詩 名 四漢韓愈の傳へたる詩、五經にては漢武帝の時の七家、光武帝の時には十四家の一書とす。

かんーし 監視 名 法律 附加刑 主刑滿期後 尙種々の條件を以て 或日限內 司法官の監督の下に 身體の自由を束縛さるること。

がんーし 雁齒 名 がんぎに同じ、橋上に橋にしたる材。

かんじき 樏 名 雪中にて 足の蹈み込まざらむためはくもの、ゆきわらじなり。

かんしきーはんたう 乾式反應 名 化學 乾性反應に同じ

かんじさんたんーかう 漢字三音考 名 書名 一卷、本居宣長の撰、漢字音につき論じたるもの。

がんしーせん 眼脂腺 名 生理 眼瞼腺に同じ。

かんしつ 肝蛭 名 動物 肝臟ヂストマに同じ。

かんしつきうーしつどけい 乾濕球濕度計 Wet and dry thermometer 名 物理 同形二個の寒暖計 一球部は一端を水に浸したる綿糸にて包む 故に溫度他方より低きこと明なり 此溫度の差は 空氣の乾燥せるほど益々大なり故に此の溫度の差と氣溫とを見て 此の器に附屬する表に照らして 空氣の濕度を知るなり。

かんじーはじめ 漢事始 名 漢土の情を起原より論じたる書 貝原益軒の著なり。

かんーしん 鑑眞 名 人名 支那唐楊州江陽縣の人、天平勝寶二年來朝し 聖武帝の勅により 東大寺にて授戒す、七年 我國に寂す 年七十七なり。

かんーしん 韓信 名 人名 漢高祖の將、淮陰の人 匹夫より出で 項羽に屬し 更に漢王に歸し 蕭何に知られて大將となり 齊を伐つて 齊王となり、漢五年楚王に徙され 下邳に都し 翌年淮陰侯に貶せられ 十一年陳豨の反謀に與り 長樂鐘室の露となれり。

かんーじん 函人 名 具足を造る人。

がんしんけい 顏眞卿 名 人名 支那唐中世の忠臣、字清臣、顏師古五世の從孫、博學、書法の大家、勤王の志厚し 天寶十四年安祿山の反するや、士を集めて奮戰大に賊を敗る、德宗の時李希烈の反を慰諭せんとして使し、爲めに縊殺せらる、年七十六、文忠と謚す。

かんしん-るゐ 管心類 Leptocardii 名 動物 脊椎動物中進化の度低きもの、脊椎なく 脊索永存し 其背面に脊髓あり。ナメクヂラは之に屬す。

かんーしや 檻車 名 罪人を載せる車、四方を板にて圍ふ

かんーじや 間者 名 敵のまはしもの、間諜に同じ。

かんーじやう 函丈 名 師の席 又は座右、几下などに同じ意。

かんーじやう 干城 名 干は扞にて禦ぐ意、大將又は軍人社會一般を云ふ。

かんしゆーたう 監守盜 名 法律 委托金品を盜むこと。

かんじゆーりよく 感受力 名 心理 心意が 外界の刺激によりて感動し これを營作する能力なり。

かんーしよ 漢書 名 書名 後漢班固の撰の前漢十二代の歷

史(前漢書)と宋人范曄の撰の後漢の歴史(後漢書)とをいふ

かん—しよう 干渉 Interference of sound wave 名 物理 數多の音波 同時に同一所に相遇するとき同一狀態にある音波は 互に相助け 反對の狀態にあるものは 互に相減殺する現象を音波の干渉と云ふ、光の干渉もこれに同理なり。

かん—しよう 甘蕉 Musa paradisiaca 名 植物 蕉科草本、花は黄白色、其實は漿果、長くして黄色、通常バナナと稱し、琉球 小笠原 臺灣より産出す。

かん—しよう 環礁 Atoll 名 地文 環狀をなせる珊瑚礁なり 海岸に沿ふて生ずるを岸礁(Fringing reef)と云ふ。

がんしよう 岩礁 名 地文 海岸に沿いて走ずる珊瑚礁のことなり。

かん—じやう—がくこつ 間上顎骨 名 動物 哺乳類の両上顎骨間にある小骨なり、人間にも發生上一時あれど、分娩後は癒着して一上顎骨となる。

かんじやう—なんこつ 環狀軟骨 名 生理 喉頭にありて環狀をなせる軟骨なり。

かんじやう—くわん 環狀管 Ring tube 名 動物 棘皮動物の水管系中 食道の周圍に輪狀をなせる管なり。

かんしよう—かう 甘松香 名 植物 草本、印度に産し、芳香あるゆゑ 香料とす。

かん—しよく 寒食 名 冬至後百五日 風雨ありと云ふこと、支那の故事にあり。

かん—しよく 間色 名 物理 赤、黄・青の三色以外の色

かん—す 間 國佐變 絶交する、水をさすなどの 意。

かんすゐ—せき 寒水石 名 鑛物 大理石の屬 白色、堅固にして美麗、彫刻、裝飾などの用に供す。

かん—せい 汗青 名 書冊のこと。

かん—せい 箝制 名 壓迫に同じく ねさへつけ 自由に働かさぬこと。

かん—せいわゆう 韓世忠 名 人名 宋南京の忠臣、年六十三、鎮南武安寧國節度使を以て卒す 忠武と謚す。

かんせい—はんたう 乾性反應 名 化學 定性分析に於て用ふる語なり、單體或は化合物を溶液とせざる時の反應なり。

かんせい—ゆ 乾性油 Drying oil 名 化學 植物 油の一種、亞麻仁油 荏油 桐油等にして 紙又板に塗りて空氣に曝せば 粘質を失ひて 乾燥せるが如きもの。

かんすい—こ 鹹水湖 名 地文 鹹湖に同じ。

がんすい—クロラル 含水クロラル 名 化學 抱水クロラルに同じ。

がんせい 頑性 名 物理 鋼鐵は之に磁氣を帶ばしむることと困難なれ共、一旦磁性を有する時は、其性質を失ふことと容易ならず、之を鋼鐵の頑性と稱す。

がんせき 岩石 名 鑛物 地殼を形成する物質を言ふ、鑛物の集合によりて成る、多くは二種以上の鑛物より成れるものなり。

がんせき—けん 岩石圏 Lithosphere 名 鑛物 水圏下部の地盤をなす固體部分を稱す。

がんせき—らん 岩石蘭 名 植物 草本、根形、岩石の如く 葉に斑點あり、花は黄色。

かん—せつ 關節 Joint 名 生理 可動的に二骨を連接する所を云ふ 而して附屬するもの多く 囊狀にて之を包み一定の運動を許すものは白色の 靭帶あり、此は撓み易けれども 決して伸びず、靱帶の内面及關節面には 滑液膜ありて之を被ひ滑液を分泌し、關節面を摩擦せしめず。

かんせつ 環節 名 動物 「みみず」にある如き節を言ふ。

かんせつ—き 環節器 Segmental organ 名 動物 軟形動物の排泄器なり。

かんせつ—ふくき 間接復起 名 心理 機械的復起、即ち觀念復起法の接近法と 繼續法とを云ふ。

かん—せん 檻泉 名 盛に噴出する泉、諸説(戚角沸檻泉。

かんせん 汗腺 Sweat gland 名 生理 皮膚の表面に小孔ありて 汗管に通じ 深く皮膚中に入り 曲卷して球形をなす 即ち汗腺なり 此は血液中より汗を濾し取りて皮膚の表面に排泄す、即ち體溫の調節を司るなり。

かんせん—ゐふ 完全葉 Perfect leaf 名 植物 葉身、葉柄、托葉の三部より成るもの、リンゴ等の如し。

かんぜん—くわ 完全花 名 植物 花被も花蕊も完備せるものなり。

かんぜん—きたい 完全氣體 名 物理 如何に强大なる壓力を受くるも、如何に低溫に冷却するも常に氣體の狀態を保ち、尚且ボイル氏の法則に從ふものなり。

かんぜん—へんたい 完全變態 名 動物 變態の條を見よ

かんろ 寒素 名 質素に同じ 甚だ貧しきことをいふ。

かん—ろう 盥嗽 名 顔を洗ひ、口をそそぐこと。

がん—ろう 含嗽 名 うがひをすること、又口をそそぐこと。

かん—ろう 甘草 名 植物 あまくさ、に同じ。

かんろう—き 乾燥器 名 化學 空氣浴、蒸氣浴、磷酸乾

燥器の如く、物を乾かすに用ゐるものなり。

かん—ろく　管足　名　動物　棘皮動物の運動するために出す膜足なり、水管系を見よ、

かんろう—さい　乾燥劑　名　化學　鹽化カルシウム、濃硫酸等の如く水分を吸收するものを言ふ。

かんろう—じすとま　肝蛭　名　動物　人の肝臟に寄生する扁蟲類にして、一分以下なり、吸盤二個を有して附着す。

かんろ—の—あらうひ　漢楚の爭　名　歷史　紀元前二世紀頃、楚の項羽西楚王と稱し　其主義帝を殺す　漢王義帝の喪を發し　征楚の師を募り　羽を大に敗りしこと。

ガンター　Gunter　名　人名　數學者　イギリスの人　天文學に通ず　西紀一六二〇年測量に對數表を應用する事を發見し　其他象限儀　ガンター天秤等の發明あり。

かん—たい　寒帶　Frigid zone　名　地文　南北兩緯六六度三十二分以上の地　卽ち兩極地方なり。

かんたい　環帶　名　植物　子囊にある彈力組織をいふ。

がん—だい　岩臺　Sheet　名　地文　熔岩の地上に噴出し、四方に平均に流れ擴がりて凝結せしもの。

かん—たいし　韓退之　名　人名　文章家　支那唐中世の人　鄧州南陽の人、名愈、六經百家の學に通じ　唐德宗に仕へ監察御史たり、憲宗の時、佛骨表を奉り　潮州刺史に貶せらる、赦されて吏部侍郎を以て卒す　著書頗る多し　昌黎文集と云ふ。

かんたく　鹹澤　名　地文　海濱平旦の地にして、高潮の時は水中に沒し、干潮の時は一面濕地となるものを言ふ。

かん—たくわゆう　韓侂胄　名　人名　宋姦臣、憲宗の時用ゐられ　專權恣ゝなり、朱熹　趙汝愚等を陷る　金人侵入するに及び、天下の忌惡するところとなり　玉津園に椎殺せらる。

かんちゆう—るゐ　環蟲類　Annelides　名　動物　蠕形動物の一綱、體延長、同形環節より成り、各節一對の關節器あり、圓頭狀或は扁平狀、血液は赤色或は無色、血管は胃の背腹に走る　胃を圍みて環狀血管をなす、ミミズ　ヒル、ゴカイの類なり。

かんだ—じんじや　神田神社　名　地理　東京市神田區宮本町にある祭神を大己貴命とする府社なり。

かん—だちめ　上達部　名　古語　殿上人とも云ひ　三位以上の人。(奏議は四位たりとも此に入る。)

カンダハル　Kandahar　名　地名　南方アフガニスタン首府、インド、ペルシア、アジアトルコの貿易中心地、西紀一八八一年英領となる。

カンタブリア山　Cantabrian Mts　名　ヒレニー山脈より西に走り　イスパニアの北境に連り大西洋に達す。

カンタベリー　Canterbury　名　地名　一、イングランド宗門上の首府、ロンドン東南六二哩にあり、寺院は西紀五九七年アゴスチンの建設、二、ニュージーランド南島の中央に位する一州、山羊牧畜盛なり。

かん—たん　邯鄲　名　此字のつくもの多し　一、謠曲名、二、動物、昆虫、こはろぎに似て小、夏秋、清亮なる聲をす　三、地名、清國直隷省廣平府城の西南五十里、周の安王十六年趙の敬信始めて都す、秦始皇郡とし　漢の代縣とし　趙國に屬す、四、邯鄲の枕、支那の故事にて人世の　夢の如くならざるを譬ふ。

かんたん—けい　寒暖計　Thermometer　名　物理　溫度の變化により　物體の膨脹收縮する所の性質と　熱の傳導とを利用して、他物體の溫度高低を測るもの、水銀又はアルコールを玻璃管中に入れ、其昇降によりて知る、現今用ゐらるるものは華氏(沸騰點二百十一度、氷點三二度)　攝氏(沸騰點百度　氷點〇度)　列氏(沸騰點八〇度　氷點〇度)の三とす。

カンダーラ　Gandhara (Kandahar)　乾陀衛、(健駄羅)　名　地名　カンダハルに同じ。

カンダリ　Andalus (Kandari) [Sumatra]　干陀利　名　地名　スマトラの古名。

カンチア　Candia (Krete)　名　地名　トルコ領、クレト島の古名　同島は地中海東部多島海の南にあり。

かんちく　寒竹　名　植物　寒中筍を生ず、一根より數十幹を生じ、高さ七八尺に達す、よく家の籬とす。

ガンチス　Ganges　名　地名　ガンガに同じ。

がんちつろ—ぶつ　含窒素物　名　化學　窒素を含有せるものを言ふ。

カンチンジァンガ　Kanchinjanga　名　地名　ヒマラヤの最高山の一、チバルとアレキムの間にあり。

かんちやう—ぶぎやう　勘定奉行　名　役名　金穀の出納、租稅の事を司る、勘定所の長官。

かんちゆう　漢中　名　地名　今の陝西省、漢中興安の二府なり。

かん—ちやう　灌腸　名　生理　大便の秘結せる時、肛門より藥を注入し、便通を促す法なり。

かん—てう　干潮　名　地文　海水の平面、時を定めて低落する現象なり。

かん—てう　寒潮　名　地文　寒流に同じ。

かん—づつみ　髮包　名　古語　づきん、かぶりもの、帕。

かん—てい　鑑眞　名　人名　僧、奈良の人、唐をよくす、世

に奈良法師といふ。

かん—でん 間田 名 年貢を納めず 課役を逋るる田。

かんてんこう 感天后 名 人名 西遼の德宗の皇后。

かんでん—こうひつ 閑田耕筆 名 書名 伴蕃蹊の著、天地人物の四門に分ちて五雜俎體にかきしもの、續編を閑田次筆と云ふ。

かんでん—ろう 乾電槽 名 物理 ライデン瓶及其他の蓄電器を數個組合せたるものなり。

かん—でんち 乾電池 Dry cell 名 物理 液體を用ゐざる蓄電便の電池、外部箱に亞鉛を用ゐて陰極とし 其中に炭素棒を入れて陽極とし、其周圍にコークス粉末及二酸化マンガンの練物を塗り 更に綿狀鹽 化アンモニウムを詰めてむなり、ボルトは一、四一、五なり、永時使用するには溶液を吸收せしむべし。

カント Kant 名 人名 哲學者 ドイツのケーニヒスベルクに生れ 西紀一七四〇年大學に入る 同一七七〇年大學教授 論理 心理を擔任す、死に至るまで在職したり、實に近世哲學の泰斗にして批評哲學の創開者たり、其著頗る多し。(西紀一七二四—一八〇四)

がん—どうみやく 眼動脈 名 生理 內頸動脈より起り直に視神經の外側をへて眼窠に入り 別れて三大四小の枝となる。

かん—どく 簡牘 名 手紙のこと 竿牘ともかく。

かん—どの 神殿 名 神社の古語。

かんと—の—みづうみ 神門湖 名 地理 出雲國神在湖。

カントン Canton (Mahachin) 廣東 名 地名 支那廣東省の首府 南清貿易中心地、西廣總督駐在所 砲臺及艦隊を備ふ、茶、砂糖、絹、肉桂等を出す。

かんなう—ち—に—まみる 肝腦塗地 回 困窮の極なり。

かんながら—の—こころ 神隨心 名 神のままなる心、赤心の意、かんながらのみちを神道と云ふ。

かんなび—やま 神南備山 名 地理 山城國綴喜郡の四境にわる山、紅葉、時雨の名所たり。

カンニンゲ Canning 名 人名 政治家能辯家 イギリスのシヨルヂ、カンニングはピットの後宰相となり、ナポレオン政策に反對して之を挫く、(西紀一七七〇—一八二七)、此子は即ちチャールス、ジョンにして印度總督伯爵たりき。

カンヌ Cannes 名 地名 地中海沿岸の佛國小港、西紀一八一五年三月一日ナポレオン一世、エルバ島を脫し、此地に

上陸す。

かんぬなかわみみ—の—みこと 神倭名川耳尊 名 人名 神武天皇の皇子 綏靖天皇なり 手研耳命を射殺して功あり。

カンチー Cannae 名 地名 イタリアのアプリアの古市 西紀前二一六年ハンニバルのローマを破りし地。

かん—の—きみ 長官君 名 古語 官書局衛の長官、かんのとの(長官殿)かんのぬし(長官主)なども云ふ。

かん—の—ぼうけん 漢の封建 名 歷史 支那漢の高祖秦の孤立に鑑み 子弟同姓を王に封し 此以外のものになさしめず、是れ一朝事ありて相助けて鎭定せしめんにあり

かん—ば 簡馬 名 馬を閱すること、簡は閱なり。

かんば—たき 神庭瀑 名 地理 美作國眞島郡神庭村にある瀧、高三十六丈 幅八間あり。

かんば—の—らう 汗馬の勞 回 戰功なり。

カンパニヤ Campania 名 地名 イタリア西部の古代の一州 土地肥沃、穀類、葡萄酒、油等を出す。

かん—ばら 蒲原 名 地名 駿河國庵原郡の一地 東海道の一驛、永祿年間小田原北條綱重の武田信玄に敗られし地

カンバーランド Cumberland 名 人名 イギリスの高官にて倫理學者(西紀一六三二—一七一八) イギリスの戲曲、小說、論文家(西紀七一三—一八一一)イギリスの將軍、(西紀一七二一—一七六一)

カンバーランド Cumberland 名 地名 イングランド北部の一州、(54,45N. 3,0W) 合衆國パッインランドの半島 合衆國メリーランドの府、(39,37N. 78,43W) 合衆國ケンタッキー州の河及山脈。

がん—び 雁皮 Wickstroemia sikokianum, Fr et sav. 名 植物 瑞香科木本 高さ二三尺 葉は卵形 花は黃色、キカンヒコカンヒと共に 其內皮の纖維を製紙の原料とす

ガンビア Gambia 名 地名、一、西アフリカ州の川、セネガンビアを貫流しバサーストの近傍にて太西洋に注ぐ 全長一四〇〇哩、二、カンビア沿岸の英國殖民地、獸皮、木綿 米等を出す。

かんぴ—し 韓非子 名 書名 支那戰國の刑名法術の大家韓非の著 二十卷あり。

カンビセス Cambyses 名 人名 ペルシア王キロスの子 エジプトを征服し 晚年放肆に流れ 殘虐なり 西紀前五二二年死す。

かんぶ—こつかく 幹部骨骼 名 生理 脊柱胸骨肋骨舌骨より成る。

かんぶん—てい 簡文帝 名 人名 一、昱は東晉八代帝、

桓溫に迎立せられ　九閏月にて病歿す、二、綱は梁第二代帝　侯景の自立し漢王となるや　大寶二年廢せらる。

カンブレー Cambray 名　地名　シエルト河上にあり、ヨチン織物製造盛なり。

カンベー Cambay 名　地名　インドのボンベーの北にある港、一時繁昌せり。

かん—べ　神戸 名　地名　伊勢國河曲郡にあり　本多氏の舊藩地なり。

かんべ—いうりんさい　神戸有鱗齋 名　人名　柔術家、大阪の人、天明頃に出で　藩心流柔術の祖たり。

かんへき　環壁 名　地文　噴火口を圍繞する圓狀壁を言ふ

カンペーシウ Campeche 名　地名　一、メキシコのユカタン半島の西南部を成せる一州、農業を主とし、玉蜀黍、砂糖、煙草、米等を出し、廣大森林より藥材を出す、二、同州の首府、西紀一五一七年フランシスコ、ヘルナンデス、コルドバの發見創建に係る、一八四二年十一月十八日メキシコ人と大に戰ひし地なり。

ガンベタ Gambetta 名　人名　政治家　フランス共和黨の首領、普佛戰爭の時パリ城に圍まれ　大に苦戰す　後エスサス、ロートリンゲンの二州同復を謀りしも成らず、國民哀悼の中に歿す（西紀一八三八—一八八二）。

かん—ぼう　咸豐 名　年號　清文宗の治世十一年間にて實に清國國事多端の時なりき　長髮賊の亂、鴉片事件、アロー事件皆此時なりき。

がんぼうろ　嚴彭祖 名　人名　西漢の世の春秋の經家、公羊嚴氏春秋の著者なり。

かん—ぼく　肝木 名　植物　紫陽花科木本、葉は葡萄に似　初夏白色五瓣花を開き　秋實を結ぶ材堅く　楊枝を作る。

かん—ぼく　灌木 名　植物　一、亞灌木—下部或は全部木質　新生部年々枯死す、二、木灌木—莖の全部木質、新生部年々枯死せず、地下に近き部より數多の側生枝を出す。

カンボヂア Cambodja 名　地名　インド支那の一小王國　交趾支那の北、シアムの南、西紀一八六三年以來佛國保護の下にあり。

カンポ—フォルミオ Campo Formio 名　地名　イタリア東北部ベチチアの一小村、西紀一七九七年フランス　オーストリア兩國間に條約締結せらる、ベチチアの敗州はオーストリアに還附し　ベルギーの屬州とロンバルヂアの一部はフランスに讓與す。

カンポ—フォルミオ—わやく　カンポ、フォルミオ和約 名　一七九七年ナポレオン、ボナパルトがカンポ、フォルミオにて、オーストリアと結びし和約なり、此和約にて、オースト

リアは墺領チーデルランドを讓與し、ロンバルヂアに於ける主權を棄てたり。

かんぼん—ししよ　監本四書 名　書名　唐版四書に同じ、卽ち　大學、中庸、論語、孟子なり。

かんまん—しようかう　緩慢昇降 名　地文　地球の冷却收縮する結果、地面の緩慢に昇降するを言ふ。

かんまん—の—たき　咸滿瀑 名　地理　一、下野國日光山の舍滿淵、二、信濃國高井郡湯田中村の瀧　高三十九丈。

かんみむすび—の—かみ　神皇産靈神 名　人名　造化の神と稱せらる。

がん—みやく　岩脈 Vein 名　地文　熔岩の、岩石中に存する裂罅を尋ねて之を塡充したるものなり。

がんめん—かく　顏面角 名　生理　額より鼻孔の間に引ける線と鼻孔の下より耳孔に引ける線とのなす角を言ふ、此角は野蠻人ほど小なり。

かんめんしやう　完面像 名　鑄物　各晶系に於て成立し得べき、凡ての面の完備したる結晶を言ふ。

がんめん—とうがい　顏面頭蓋 名　生理　頭部骨骼の一、呼吸器、消化器の上部なる口鼻の二腔を構成す、十四個の骨より成る。

かん—もう　冠毛 Pappus 名　植物　夢片の數多の絲毛に分岐してなれるもの、一、絲狀冠毛（Pilosepappus）ツハブキ、タンポポの類、二、羽狀冠毛（Plumosepappus）アザミ、バラモンジンの類。

かんやいみみ—の—みこと　神八井耳命 名　人名　神武天皇の皇子、帝崩後庶兄手研耳命姦謀ありたるを弟神曾名川耳命誅せられたるに依り其功に服し、己れ位に卽かず弟をして卽かしめられたり。

かん—ゆ　韓愈 名　人名　唐學者　韓退之に同じ。

かん—ゆ　乾油 名　化學　乾性油に同じ。

かん—よう　漢陽 名　地名　今の朝鮮の首府京城なり、西紀一三九二年李成桂　高麗を滅ぼし王位に卽き、都となせし地なり。

かんらく—じしん　陷落地震 Depressive earthquake 名　地文　地下侵蝕作用にて　地中に空洞を生じ、重力によりて上層の地盤陷落を來すにあり、其區域狹し、明治三十一年濃尾有馬の地震は此の一例なり。

かんらく—ろ　乾酪素 名　化學　カセインに同じ。

かん—らん　橄欖 名　植物　木本、歐亞南部に生じ、葉は樫に似て細小なり、實は綠色、長一寸、核六角にて堅し、其仁より所謂 Olive oil 卽オリーブ油を得、淡黃、帶綠黃色、又は褐色にて　オレイン及ステアリンを含む、故に石

鰹製造に用ゐらる。

かんらん—げんぶがん　橄欖玄武岩　名　鑛物　玄武岩を見よ。

かんらん—せき　橄欖石　名　鑛物　斜方晶系にして、黄色又は綠色、條痕は白色なり、玻璃光澤を有し、硬度六—七比重三三—三五なり、

カンリ　Kanli（康里、紇里）　名　地名　カフソカスのトルコ領内に於ける一部邑にてクマ上流の右岸に在り、西紀十三世紀頃はアラル海東北岸一帶の部落を總稱してカンリと云ひたり。

かん—りう　乾溜　Dry distillation　名　化學　固體を強熱にして直ちに氣體とすること。

かんりう　寒流　名　地文　兩極地方より赤道地方に流るる寒冷なる海流なり。

がんりう—ゴム　含硫ゴム　名　化學　少量の硫黄を含めるゴム」にして、寒氣に遇ふも硬くならず、ゴム管を製するに用ふ、多量の硫黄を混ずれば、角の如くなり、電氣の不良導體となる、卽エボナイト是なり、

がん—れう　顏料　名　化學　繪具に同じ。

かん—りんじ　韓林兒　名　人名　明初代僭僞者　蘄城の人山童の子　所謂紅巾の童謠の長にして愚民を迷はせり、後除州にありて吳王となり　後二年にて卒す　僭號すること十二年間なりき。

かんりん—ゐん　翰林院　名　支那の大學堂、皇帝勅裁によりて北京にあり、唐太宗、北門學士をおき　明帝　翰林侍詔と改め　開元二十六年　翰林學士と云ふ。

かんれい　緩冷　名　化學　長き時間を費し、徐々に溫度を下ぐることなり。

かん—ろ　寒露　名　地文　二十四節氣の一、陰曆九月節、陽曆十月八日なり。

かん—ろく　干祿　間祿　名　一、　仕を求むること、二、無益の祿。

がん—ろくしょう　岩綠青　名　化學　孔雀石の粉末にして繪具に用ふ。

カンロベル　Canrobert　名　人名　元帥　フランシス、カンロベルはフランスの人アルゼリアに廿年間勤務し、ナポオン三世の股肱たりき、共和政府上院議員を以て歿す（西紀一八〇九—一八九五）。

かんわう—こうく　漢王高煦　名　人名　明の宣宗の叔父、宣宗の樂安に徙されしを怨み叛を謀りしも、帝に親征されて降る。

かんゐん—の—さふ　閑院左府　名　人名　左大臣藤原冬嗣

のこと、かんゐんのだいじやうだいじんは藤原公季なり。

かんゐん—の—みや　閑院宮　名　人名　四品家親王の一、東山天皇の皇子直仁親王より出づ、伏見、京極、有栖川と共に世襲親王なり。

かんな—たりべ　神尾織部　名　人名　馬術家、天正頃の人新當流馬術の祖たり。

かめ　瓶　名　瓶、へいし、花瓶のこと。

かめ　龜　名　動物　爬蟲類　龜類、體扁平盤狀、皮膚の變形よりなる甲は體側に癒着し　其模樣六角形にて十三あり甲の下より鱗を被れる四足及頭を出す、食用としてよし、

かめざく　龜菊　名　人名　後鳥羽上皇の寵姫、白柏子なり舞に巧みなりしかば攝津長江倉橋の二莊を賜はる。

かめ—だ　龜田　名　地名　羽後國由利郡の一市、岩城氏の舊藩地なり。

かめだ—ほうさい　龜田鵬齋　名　人名　儒者　江戸の人、性豪邁不羈　博聞强記、井上金峨に學び　草楷を善くす。文政九年　七十三を以て歿す。

かめのて　石砌　龜手　名　動物　甲殼類中の　切甲類の亞目蔓足類、海岸の岩礁間に附着し、短柄あり　鱗狀に小石灰片を被る、先端に　縱溝ある二枚の貝殼狀殼を有し　其間より胸部にある六對の脚を出し　食物を搔き込む。

かーめん　火綿　Gun cotton　名　化學　性狀—六硝酸エステル屬にして$C_{12}H_{14}(O.NO_2)_6O_4$の分子式を有し爆發藥或は無煙火藥とす、製法—强硝酸と濃硫酸との混合物に一晝夜浸したる綿なり。

カメンツ　Kamenz　名　地名　ドイツのサクソニア州の一市西紀一七二九年レッシング氏此地に生る。

かめ—やま　龜山　名　地名　伊勢國鈴鹿郡の一市　石川氏の舊藩地。

かめやま—じんじや　龜山神社　名　地理　石見國那賀郡濱田町丸内にありて　龜山城主を祀れる神社。

かめやま—てんわう　龜山天皇　名　人名　人皇第九十代の天子　後嵯峨帝第三皇子、恒仁と申す　母は大宮院藤原姞子紀元一五二〇年より十五年在位　後薙髮して金剛源と云ひ南北朝分立するや、大覺寺派と稱せらる、山城國葛野郡嵯峨村に御陵を設け龜山殿法華堂陵と申す。

カメル　Campbell　名　人名　一、アレキサンドル、カメルはカルビン宗教反對にて　西紀一八〇七年アメリカに移住しカメル派を開基せり（西紀一七八八—一八六六）、二、ジオルジ、カメルはスコットランドの神學者にて　アバーデン大學總長たりき　西紀一七〇九—一七九六）、三、印度元帥英國勇將の一人クライブ卿なり。（一七九二—一八六三）。四、

トーマス、カメルはグラスゴーの大詩人、西紀一八二七年グラスゴー大學の監督たりき。(一七七七—一八四四)。

カメレオン Chamaeleon 名 動物 爬蟲類、保護色類、體一尺許 全形ヤモリに似、頭上突起、眼大、五趾ありて三趾内方に向く、運動緩漫、樹上にありて 先端膨大にて粘着性舌を出して昆虫を捕食す、特色とは 表皮の下に 青綠色、赤鳶色の両色素塊ありて種々の色に變ずるにあり。

カメロン Cameron 名 人名 學者 ジョアン、カメロンはインゲランドの僧 グラスゴー大學長たり、博學、行動する圓書館の異名あり 反對派に殺さる (西紀一五七九—一六二五)。

かめあ—しげさよ 亀井重清 名 人名 源義經の臣 四天王の一人通稱 六郎、一の谷、屋島、壇の浦の役に功あり

かめあど 亀井戸 名 地名 東京本所區にあり 天滿宮、臥龍梅、萩寺等あり。

かめ—ぬか 亀岡 名 地名 丹波國北桑田郡の一市、松平氏の舊藩地、京都府に屬す。

かめぬか—じんじや 亀岡神社 名 地理 陸前國仙臺亀岡町にありて應神天皇を祀る。

かも 鴨 Duck 名 動物 鳥類、游禽類、嘴扁大、黄綠色雄は美麗綠色に黑色を帶びたる頭、濃紫に黑點ある胸、灰色に細黑點ある腹 鼠色に黑點交りの背 蹼稍黑色なるを有す、雌は全身帶赤灰褐色に黑斑交れり、尾、脚共に短かし、趾間に蹼あり、肉は美味、滋養となる。

カモエンス Camoens 名 人名 詩人 ポルトガルの人 リスボンの貴族人に憎惡せられしも拒絶して 陸軍に入り ヌウル人と戰ひ インド遠征に 長官に抗し マカオに放逐さる。(西紀一五二四—一五八〇)。

かも—がた 鴨方 名 地名 備中國淺江郡の一市 池田氏の領藩地、今は岡山縣に屬す。

かも—がは 鴨川 名 地理 源を愛宕郡北部山間に發し 鞍馬、貴船、高野の三川を合し 京都東部を貫通し 桂川に入る、白河帝三不如意の一なり。

かもがは—のり 名 植物 念球藻の一種にして、淡水産なり、食用に供せらる。

かも—しか 麂鹿 Nemorhedus or Antelope 名 動物 哺乳類 有蹄類 體長三尺 毛色黑褐 一對の圓鋭なる角あり 多節にて光澤あり 我秩父 駿河に棲み アルプス山、ヒマラヤ山、印度 ペルシア等に産す。

かも—すみたか 加茂季鷹 名 人名 京都加茂神社の祠官 有栖川幟仁親王に和歌を學び、櫛千蔭にも學び、其學大に進む、天保十三年九月 年九十一にて歿す。

かも—の—けいば 加茂の競馬 同 五月五日 山城上下加茂神社に行はる競馬。

かも—の—ちやうめい 鴨長明 名 人名 加茂神社の氏人 遁世類、僧惠法師に學び 和歌管絃に精し 後鳥羽上皇の寵を受け 和歌所寄人となり 加茂社祠官たらむとして成らず 鎌倉に住ゐて 源實朝の門に出入せしも京都に還り 薙髮して蓮胤と稱し 日野山(宇治木幡山の東北)に廬を設け 建保四年六月八日 年六十三にて寂す 方丈記の著あり、長明の爲人を知るに足る。

かも—の—はし 鴨嘴獸 Duck-bill 名 動物 哺乳動物 一穴類 大さチヨ程、全身短毛あり、口喙は扁濶鴨嘴に似、四肢短く、趾間に蹼あり、生殖孔、肛門同一、卵生なり、水邊中にありて 魚、軟體動物を捕食す、最も多く産するは濠州南米なり。

しはのもか

かも—の—やしろ 賀茂社 名 山城國愛宕郡に在り、上賀茂、下賀茂の二社に別る、二社を合して賀茂大神といふ、王城鎮護の祠なり、上賀茂社は、賀茂別雷神社と稱して、玉依姫の子別雷を祀り、下賀茂社は賀茂御祖神社と稱して賀茂氏の祖賀茂建角身命、玉依姫神を祭る。

かも—まつり 賀茂祭 名 四月酉日 山城愛宕郡上下加茂社に行ふ祭、欽明帝に始り 平安朝に最も盛なりき 下賀茂社は下鴨村にありて賀茂御祖(オホミヤ)神社と稱し 賀茂祠の祖賀茂建角身命 玉依姫神を祀り 上賀茂社は上賀茂村にありて賀茂別雷(カミワケ)神社と稱し 玉依姫神を祀る。

かも—まぶち 加茂眞淵 名 人名 國學者三大人の一。遠州加茂社の祠官 定信の子 政信と云ふ、徂徠春滿に學び古學古言、和文和歌を能くす 古學及長歌復興の祖たり、後田安中納言守武の寵を受け 明和六年 年七十三にて歿す、冠辭考 萬葉考 源氏物語新釋等の著あり。

カモミレ Chamomile 名 植物 一名カミツレと稱し、菊科多年生草本なり、白花を開き、季節は夏なり、花を發汗劑とす。

か—もん 勘文 名 昔 天文博士 天地の變及吉凶を勘考して 奏聞せしもの。

かも—め 鷗 Sea-gull 名 動物 鳥類、游禽類、鴿鳩に似て白色、嘴端鈎狀をなし 强くして赤色、翼灰白色にて長く、前三趾間に蹼ありて 海上を飛翔し 小魚を捕食す。

かや 榧 Torreya nucifera's. et z. 名 植物 松柏科木本 雌雄異株、針葉扁平、材白色木理美麗、核中の仁は油を搾りて燈用其他の用に供す。

かや 萱 名 植物 草本、寄生根、蘆に似て莖中空ならず屋根を葺くに用ふ、花は秋開く。

かやうーもん 嘉陽門 名 内裏内廓十二門の一。

かやく 火藥 名 化學 硝石、硫黄、木炭の混合物なり、普通硝石七十五分、木炭十五分、硫黄十分の割合に混ず、點火すれば左の如き反應起る、

$NO_3K + S + 3C = SK_2 + 3CO_2 + N_2$

軍用火藥は川楊或は毛櫟の炭、及精製したる硝石と硫黄とを混ずるなり。

かやーのーうみ 可也海 名 地理 筑前國怡土、志摩二郡に浮入せる海。

かやのーしげさね 萱野重實 名 人名 赤穗四十七士の一人、攝津萱野村の人、元祿十五年三月十四日 先君忌日の前夕 書を良雄に送り 自宅にて自殺す、性忠君に厚く主君の變を聞き 母の棺に遇ふも顧みざりき。

かやのーつねなり 茅野常成 名 人名 赤穗四十七士の一人 富田藤吾と變名し 吉良氏を襲ひ 復讐を遂ぐ 元祿十六年二月四日死を賜ふ、年三十七なりき。

カヤリク Kayalik (Kopal) 海押立 名 地名 中部シマリアのセミレチエンスク州の首府なり。

カヤル Kayal 加異勒 名 地名 英領インドの一市 コモリン海角の東北六九哩、眞珠を出す、マドラス管下。

かーよう 假葉 名 植物 葉柄が葉狀となり、葉身の代用をなすものを言ふ、之は地平面に直角に立つものにして、葉脈も亦尋常葉と異なり。

かーよう 花葉 名 植物 顯花植物の花を形成する所の變形葉にして、最も完全に發達せる花は、專片、花瓣、雄蕊及心皮(子房)を有す。

かよう-せい 可溶性 名 化學 水或はアルコール等を溶媒として之に溶解する性質なり。

かーようゆう 過熔融 Superfusion 名 物理 液體の其凝固點以下の溫度にて 尚液狀を保つ現象なり 燐の凝固點四四度なれども 水と混じてビーカーに入れ 熱にて溶融せしめ放冷するときは二十度に至るも凝固せざる如きは此一例なり。

かよーちやう 駕輿丁 名 御輿をかつぐ人。

かよひーどころ 通所 名 密に通ひゆく所。

カラ 加羅 名 地名今の朝鮮金海府にして、神功皇后の軍を進りて安羅と共に我領土とせられたる地なり、我史上任那といふは是等の總稱なり。

カラ Kara 名 地名 ロシアの海及河。

カラ Karra 名 地名 アイルランドの一州、湖多し、又

インドのアラハバッド州の一邑。

カラ Kara Dagh 名 地名 此名の山系多し 一、小アジアのカパドキア州アマンア附近の一小山系、二、外カフカスのクールの一支流ノラスの右岸に連る一山系、三、南テッサリア(ギリシア)にある一小山脈、四紀前三六四年ピロピダスの死地、四紀前一九七年チッス、クインクツス、フラミニウスがマケドニア王フィリポ三世を破りし地なり。

から-あふひ 名 植物 タチアフヒに同じ。

から-あや 唐綾 名 支那より傳はりし綾織、鎧などを作くるに用ゐたり。

カーライル Carlisle 名 地名 カンバーランドの都會(北緯五四、五三西經二、五六)鐵道中心點たり。

カーライル Carlyle 名 人名 文學者 イギリスの人、十四歳にてエヂンバラ大學に入り エドワルド、アーピングと親交あり エンサイクロペヂア發行に力を盡し、英國文學史上に一新時期を作れり、(西紀一七九五—一八八一)。

か-らう 家老 名 今の家令にて 大小名の家臣なりき。

カラカス Caracas 名 地名 ベネズエラ國の首府、地震多し 人口七萬二千、商業の中心地、寺院、大學あり、シモン、ボリバルの生地にて其墳墓あり。

から-かぢ 唐檝 韓鍛冶 名 一、古語 支那風の船のかぢ或はよきかぢのこと、二、應神帝の朝 王仁に從ひて百濟より來りし鍛工なり。

から-かは 辛川 唐皮 名 一、備前國高津郡の一地、二、平家重代の鎧、虎の革にて織したり。

からかひ-の-たき 唐岬瀑 名 地理 伊豫國浮穴郡河内村にある瀑、高二十餘丈、巾五尺。

カラカルス Caracalla 名 人名 ローマ皇帝、性殘虐 人民を殺すこと二萬人、遂に護衛兵に弑さる、在位西紀二一一年より二一七年まで。

からから-へび 響尾蛇 Rattlesnake 名 動物 爬蟲類、有毒類、北米に産す、四尺餘の體、尾端に表皮の變形環狀物あり其數十八個に及ぶあり、之を振動せしめて音を發す。

カラキタイ 黑契丹 名 地名 耶律大石(後に西遼の德宗)の金の爲國を滅ぼされて西走し、回紇等を降し、吹河上なるベラサグンに都したる國(西紀十三世紀の初)、西遼のこと。

から-き 唐木 名 熱帶産のものにて 支那より來れる木

紫檀、黒檀、白檀等を云ふ。

から—ぎぬ 唐衣 名 中古婦人の禮服とせし上衣、形半臂に似て裾なく 袷に縫ひて上着にす、錦製なり。

からく 可樂 名 人名 落語家、江戸の人、三笑亭と號し、寛政頃の人、大に名を揚ぐ。

から—くさ 唐草 名 織物或は彫刻物の模樣にて 蔓草のうづまきたるが如きもの。

カラクム Kara Kum 名 地名 カスピ海の東北にある一帶の砂漠にて、別名を黒砂と云ふ、(37,0—41,0N. 56,30—65,0E)

からくん—てう 七面鳥 名 動物 シチメンテウに同じ。

カラコルム Karakorum 名 地名 ヒマラヤ山系の一、ヒンヅークシよりチベットまで廣がり、中央に一八、〇〇〇呎の高さを有するカシミルより東部トルコに通ずる唯一の通路あり 一名ムズタフと云ふ。

から—ころも 唐衣 名 古語 支那風に仕立てしもの 韓衣、ともかく、轉じて 珍らしき善き衣を云ふ。

からころも—きつしう 唐衣橘州 名 人名 狂歌師 通稱小島源之助、無碍館、醉竹菴などの號あり、四方赤良と共に狂歌中興の祖と稱せらる、享和二年 年六十死す。

からこ—わげ 唐子髷 名 髪より二分し額の上にて各輪に作る如き髪の結方、昔元服前の童子に行はる。

から—ざい 漢才 名 古語 詩文のオあるを云ふ。

から—さき 唐崎 名 地名 近江國滋賀郡滋賀村にあり、琵琶湖の西岸にありて老松一本あるを以て名あり。

からさはやま—じんじや 唐澤山神社 名 藤原秀郷を祀れる別格官幣社、下野國安蘇郡唐澤山にあり。

からし—な 芥菜 Sinapis Cernua, Thunb 名 植物 十字科草本、花は黄色、果實は長角、種は辛料とす、葉莖共に擂漬とす。

からす 烏 Corvidae, Crow or Raven. 名 動物、鳥類、燕雀類、全體黒色、鳶より小、性機敏 食物は植物性を好み其種類、甚だ多し。

がらす 硝子 名 化學 之を或は玻璃とも言ひ、英語グラスの訛なり、ビードロ、ギヤマン。

からす—うり 烏瓜 Trichosanthes Cucumeroides, Maxim. 名 植物 胡蘆科草本、春舊根より發生し 夏中白色五瓣花を開く 瀉斗狀にして鱗の末端は糸の如く細し 後小卵形の瓜を結ぶ、朱色となる 青色のものは鹽漬或は味噌漬にす。

からす—がは 烏川 名 地理 上野國を流るる利根川の一支流なり。

からす—がひ 烏貝 蚌貝 Unio Anodonta 名 動物 馬蹄類 體八寸許 長楕圓形 外面黒色 表皮輪層、襞あり、内面眞珠色にて淡紅色を帶ぶ 靱帶廣大、多く淡水軟泥池の上層に棲む。

から—すき 唐鋤 名 牛馬に牽かせて 田畑を耕すに用ゐる具、柄曲りて 刃廣し、牛に縛りつくる部分を犁槃（からすきのしりがせ）、耒底に上より縱に貫ける棒を犁耒筩（からすきの—たたりかた）と、前に車の轅の如きを犁耒轅（からすきのとりくび）と、土を壞す部を犁鑱（からすきのへり）と、柄を犁耒底（からすきのねさり）と云ふなり。

からすき—ぼし 唐鋤星 名 天文 二十八宿の一、三個よりなる星 形 からすきの如し。

からす—ぐち 烏口 名 圓引器械、墨汁を含ませて線を引くに用ふ、形烏の嘴の如きより此名あり。

からす—とんび 名 動物 「イカ」の口器の一部にして小なるものは上顎、大なるものは下顎に相當す、小兒の翫弄物とせらる。

がらす—の—いろつけぐすり 硝子の着色劑 名 物理 化學、種々あり 重なるもの二三をあぐれば、酸化 コバルトは藍色、黒色酸化マンガンは赤紫色、酸化金は赤色、或は桃紅色等なり。

からす—の—あたま—しろく—なる 烏頭白くなる 文 出來ざることを云ふ、これ 昔支那戰國燕の太子丹の秦に質たるとき 秦王の云ひし言なり。

がらす—の—げんれう—せいぶん—しゆるゐ 硝子の原料成分、種類 名 物、化 卽ち左表の如し。

種類	原料	成分	一名
カリ硝子、	炭酸カリウム	炭酸カリウム、炭酸カルシウム	ポヘミヤ硝子
ソーダ硝子、	炭酸ソーダ	炭酸ソーダ、炭酸カルシウム	クラウン硝子
鉛硝子、	炭酸カリウム及炭酸カルシウム	炭酸カリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カルシウム、酸化鉛	フリント硝子
	炭酸カリウム、酸化鉛	炭酸カリウム、酸化鉛	

からす—べび 烏蛇 名 動物 爬蟲類、山野に棲み 全身黒色、頭圓 尾尖り 脊に三稜あり 毒蛇なり。

からすまる—の—だい 烏丸第 名 足利將軍義政の第、京都北小路萬里小路にあり。

からすまる—みつひろ 烏丸光廣 名 人名 藤原氏、天正四年侍從、進んで權大納言、和歌を細川幽齋に學ぶ、書を善くす。寛永十五年七月 年六十薨ず。

からす—むぎ 燕麥 Avena Sativa, L. 名 植物 禾本科草本、小穗花序は圓錐狀に排列す 内穎は毛茸あり。（禾本科を參照せよ）。

から—だい—わう 大黄 Rheum undulatum 名 植物 蓼科草本、葉心形にて大、花小にて帶綠色、根を下劑とす。

からーたき 唐瀑 名 地理 和泉國和泉郡槇尾山にありて高十八丈、幅二間の瀧なり。

からーたけ 名 植物 「ハチク」に同じ。

からーたち 枸橘 Aegle Sepiaria De. citrus trifoliata L. 名 植物 芸香科灌木、葉は三個の小葉、花は白色にて無拇、枝變形して鋭針となれり、人家の籬離とし 又密柑を接ぐ臺木とするなり。

カラチ Karachi 名 地名 インドのカラチ灣に面する一市 英領にて其海軍根據地の一、又 シンド地方に同名の州あり。

ガラチア Galatia 名 地名 アジアのアナトリアにある一州、四紀三世紀ゴート人侵入、四紀前二五年ローマのプロビンスとなる。

から—つ 唐津 名 地名 肥前國松浦郡の市街、松浦氏の舊藩地、唐津燒(帶黑薄萌黃色)を出す。

カラット Carat 名 化學 金の合金の分量を示す語、二十四カラットを純金とす、十八カラットと云へば二十四分中十八分の金を含むこと、我國にて之を金と云ふ。

から—とまり 韓泊 名 地名 播磨國加古川の口高砂の泊なるべし、昔れ 聖武帝天平年中 僧行基山陽四海南海三道の舟船 海行の程を計りて定めたる五泊の一。

から—なつめ 唐棗 名 植物 棗科木本、支那渡來品、實圓形にて赤し、仁は固く藥用とす。

から—の 枯野 名 表黃、裏薄青のもの。

ガラパゴス Galapagos 名 地名 エクアドルの西六〇〇哩にある群島、北方不毛 西方森林多し、皆火山系にて、二〇〇〇の噴火口ありて今尚噴火せり。

からはな—さう 唐花草 名 植物 蔓草、春舊根より生ず葉は鋸齒狀にて三尖或は五尖あり、花は淺綠にて細し、雌花は五瓣片にて瓣なし、其間に蘂を生ず、實は驅酔劑或は麥酒釀造に用ふ、此花に形どりたる紋あり。

カラハリ Kalahari 名 地名 アフリカ南部の砂漠、オレヂ河よりドイツ領 南西アフリカ及トランスバールとの間に廣がる、寧ろ牧畜場として適當なり。

から—はふ 唐破風 名 兜の鍬形を倒にしたる如く造りたる破風にて支那風より移れるものなり、神社佛閣の建築に用ふ。

から—びつ 韓櫃 名 唐風の櫃、脚あり、長からびつ、荷ひからびつの二種あり、からうと、からとともいふ。

カラパ Kalapa (咖喱吧、咬喱吧) 名 地名 印度古代神話中の村名。

からびと—の—いけ 韓人池 名 地理 大和國平群郡川東

村にありて 應神帝の代 三韓人等に堀らしめたる池。

カラファ Carafa 名 人名 イタリア作曲家 (西紀一七八五—一八七二)

カラフ Carafa 名 ナポリの一名族の名、法皇パウル四世も此族より出でたる一人なり。

カラフト 樺太 名 地名 露領地 オコツク海の西南に横はる大島、古來蝦夷人住みて 日露の境界明ならず 遂に衝突するに至り、明治八年五月露都にて我全權公使榎本武揚と會議ありて 同八月二十二日東京にて樺太千島交換條約締結せられたり。

からふと—だま 唐太玉 名 鑛物 青き練物の玉、支那滿州唐太を經て渡來せるもの。

からふね—ぶぎやう 唐船奉行 名 朝鮮支那より渡來せる船を始末する武家の役なり。

からぶみ—ごころ 漢籍心 名 支那風の心。

カラブリア Carabria 名 地名 イタリア南部の一地方、山多けれども 土地肥沃 油 酒 絹 綿花 果實等の産出あり。

カラボチョ Karakhodjo 名 地名 今の哈喇和卓吐魯番の附近、海部の子部哇をして兵を合せ 世祖に逼らしめたる時 哇の軍を進めし地、(哈剌霍州、和州)。

から—まくら 摩籠 名 慰問をふ籠。

から—まつ 唐松 落葉松 富士松 Larix Leptolepis. Gord 名 植物 松柏科 落葉木本、新芽茶筌狀、葉は短枝に上敷側叢生、質柔軟、邊材白色、心材赤褐色、水濕に堪ゆるを以て建築用となる。

からまつ—さう Thalictrum aquilegiolian, L. 名 植物 毛茛科草本 花小白色、葉は煙草 ヒタシ物 胡麻アへとして食す。

から—むし 苧麻 Boehmerianiveo, Bl. 名 植物 蕁麻科草本 高四五尺 葉卵形白色、花は單性、雌雄異花を同株に開く、其靭皮纖維を取りて織物とす、チヂミ サラシなどなり。

カラムジン Caramsin 名 人名 史家兼小說家、詩人、ロシアの人著書多し(西紀一七六五—一八二六)。

がーらん 伽藍 名 寺のこと、梵語、精舍の義。

カランタン Kalantan 呵羅單、呵羅旦、名 地名 マライ半島の一州、東岸なり、錫 胡椒、金、錯を出す。

がらん—てう 伽藍鳥 名 動物 鳥類 游禽類、鷸扁平、趾間に蹼あり、足は短かし、嘴は長く 末端曲り 靈かりて魚を入る、尾短し。

からめき—の—ひ 柄目木火 名 天然瓦斯 越後國蒲原郡

柄目木村及加法寺村より出づ。

からもの—つかひ 唐物使 名 古 唐土の船舶渡來せるや取調べの爲め 筑後に下る使なり。

から—もも 唐桃 名 植物 薔薇科木本 杏なり、四五尺花は紅白色、瓣に單複あり。

から—ゆり 唐百合 名 植物 百合科草本、支那より渡來す、花極めて赤く 瓣は厚く 上方にひるがへる。

カララ Carrara 名 地名 イタリア北部の一市 リボルノの西北三〇哩に位す。

カラルク 葛邏祿 名 地名 今の天山北路に居りし 鐵勒中の一部。

から—わ 唐輪 名 德川時代 奥女中の內小姓の少女の結ひし髮のこと。

かり 雁 Wild Goose 名 動物 鳥類、游禽類、體長二尺嘴頭長に等しく黃色を帶び 爪白色、上顎平く、額白し、腹面胸部黑斑あり、背面褐色、秋來り春去る、其鳴くや人をして悲哀の情を起さしむ、かりがね、がんなどいふ。

ガリ Galli 名 地名 北イタリアの地、ガリ族の住地。第一三頭政治のとき ケーザル總督たりき。

カリア Karia 名 地名 小アジアの西南群島海に沿へる一州。

ガリア Gallia 名 地名 一、ガリア人の住地、今のフランスなり、二、合衆國オハイオ州東南の一郡。

ガリアーキサルピナ Gallia Cisalpina 名 地名 イタリア北部の地、リグリアの北方。

かり—あむ 狩襖 名 古衣 表布、裏絹なり 體身、舍人牛飼などの用ゐたるもの。

カリアオ Calho 名 地名 ペルー國第一の良港 リマを去る七哩 商業盛なり。

ガリアートランスアルピナ Gallia Transalpina 名 現今の佛蘭西地方の事なり、トランスアルピナとはローマ人に對し「アルプ山外」といふ意味なり。

カリアリ Cagliari 名 地名 サルヂニア國の首府なる要港、古代カルタゴ人の商業市の跡あり。

カリウム Potassium 名 化學 所在—正長石、雲母、或は植物灰中に炭酸鹽としてあり、製法—炭酸カリウムと木炭との混合物を鐵製レトルトに入れ強熱し生じたる蒸氣を冷して製す、$K_2CO_3 + 2C = 2K + 3CO$ 又電氣分解して製す、性狀—K、原子量三九、一五、光白色金屬、融點六二、五、沸騰して綠色蒸氣となる、酸化し易きを以て水中に貯ふ。此イオンは一價にて無色有害なり。

カリウム—イオン Potassion 名 化學 一價のもの一種ある

のみ、金屬カリウムは甚だ容易く此イオンを生ず。

カリカドヌス Calycadnus 名 地名 小アジアの一河 西紀一一九〇年ドイツ帝フレデリキ第三 十字戰爭の時溺死せり。

かり—がーね 雁 名 動物 游禽類に屬す、嘴黃色にて頭長に等しく、爪は白色、脚は柚黃色を呈し、上顎平く、額白し、背面褐色にて、翼は帶青灰色なり、腹面殊に胸部には黑斑あり、長さは二尺餘あり、形小さきヒシクヒの如し秋の半ばに寒地より來りて春の半ばに歸る、飛翔するや一定の排列をなして進み亂るることなし、鳴く聲人をして悲哀の情を起さしむ、カリガネは カリの鳴く音より轉訛したるなり、ガン、マガン、マカリともいふ。

かり—ぎぬ 狩衣 名 鷹狩の時用ゐしものなれど 鎌倉時代に至り武士と常服となる 領圓く帶にて腰をしめ 指貫をつけ 裾を出すを例とし 五位以上は織紋のもの、以下は無紋を用ふ。

かりぎぬ—しいうせう 狩衣至要抄 名 書名 狩衣の色目 其着用法を詳說するもの、藤原公麗の著。

かり—くら 狩坐、狩鞍 名 一、狩する所、二、狩を爭ふ。

カリグラ Caligula 名 人名 ローマ皇帝 ゲルマニクスの子 西紀三十七年皇位に卽く、初め寬仁なりしも病後驕奢狂暴、市民を集めて宴飲し 一時に捕へて海中に投ず 西紀四十一年ゴール征討の歸途暗殺せらる(一二—四一)。

カリクラテス Kallikrates 名 人名 アケーアン同盟の大將、西紀前一四〇年死す。

かり—げんぷく 假元服 名 男子十一歲の時の元服。

カリコ Calicut 古里 名 地名 インド西岸マラバル海岸重要都會 木綿を出す 所謂カリコなり、西紀一四九年始めてバスコダガマ到着す、一六一六年英の根據となり、一七六五年ハイデルアリに占領せられ 一七八二年再び英人の手に歸す。

かり—こ 狩手 名 狩獵の時 鳥獸を驅り出す卒なり。

かりども—の 刈菰 枕 みだるにかく、刈りたるままの菰は亂れやすきより云ふ。

カリシ Kalisch 名 一、地名 ロシア帝國の一部、元のポーランド八州の一、首府も同名にて華美なる都會、製造業盛なり。西紀一八一三年二月二十八日カリシ同盟のロシア、プロシア間に訂約せられし地、二、人名 滑稽家、ダビード、カリシはヘブライ種のドイツ人にてブレスラウに生る滑稽雜誌に執筆したり、(西紀一八二〇—一八七二)

ガリシア Galicia 名 地名 イスパニア古代の一州、大西洋ビスケー灣に面する北西隅の地、一七七二年オーストリ

アに連結す。

カリスト Calixtus 名 人名 ローマ法王に三人あり、又ジョルヴ、カリストはシウレスウイヒに生る、ルーテル派の宣教師たりき(西紀一五八六—一六五六)。

かりゐぬ—ぶし 假初臥 名 古語 假初は 假りに、暫くの意なれば、かりまくら、かりね、うたたねのことなり。

カーリダーサ Kali-daca 名 人名 詩人、インドの人、ビクラマーデチア朝九聖の一人、印度のシェクスピアと綽名せらる、西紀三世乃至六世紀の内ならむ。

ガリチア Galizia 名 地名 オーストリ、ホンガリーの一州 ポーランド分割の時 オーストリアに屬せり。

カリニアン Carignan 名 地名 フランスのアルデンス州の一村邑 セダンの東南一二哩にあり 西紀一八七〇年八月三十一日普軍の佛軍を反擊せし地なり。

カリノス Kallinos 名 人名 ギリシア最古の詩人、西紀前六〇〇年頃の人。

かり—の—つかひ 狩使 名 一、鷹狩の時の使者、二、觀察使、わせちの類にて 地方政治の可否を見む爲め 中央政府より差し向けられし使者なり。

かりば—ね 刈株 名 古語 刈り取りたるあとの根。

ガリバルチ Garibaldi 名 人名 愛國者、イタリアの人、アメリカ、ヨーロッパ等に流寓し、西紀一八六〇年サルヂニア王ビクトルエマヌエロのイタリア統一を助け所所に功ありき(西紀一八〇七—一八八二)。

かりひ 鮸 名 かれひに同じく干したる飯、旅行の時にもちゆくもの、糒にも作る。

かり—ふ 刈生 名 古語 かれふに同じ、刈りたる田に、更に草の生ゆることなり。

カリブ海 Caribbean sea 名 地名 南アメリカと西インド諸島間の灣、暴風の起點、灣流の曲折點なり。

カリフォルニア California 名 地名 アメリカ合衆國西南の一州、太平洋に面す、金水銀の産出多きこと世界に冠たり、サンフランシスコの良港、サクラメント最大市なり、我犬吠岬より東折し 此地に向ひ南曲する部分の黑潮をカリフォルニア流と稱す。

カリフォルニア—りう カリフォルニア流 名 地文 黑潮の犬吠岬より東に折れ、北米西岸に向ひ南曲する部分なり。

かり—ほふし 刈法師 名 馬の鬣を禿に刈りしもの。

ガリポリ Gallipoli 名 地名 一、ヨーロッパトルコの一海港 ダーダネル海峽の東北端にあり。一八五四年英佛聯合軍の占領せし處、今はトルコの海軍々器廠及鎮守府あり、二、イタリア南部の一海港、城砦あり、タレンメム灣に面す。

カリマタ Karimata 假里馬答 吉嚮馬礁 名 地名 ボルネオの西、百有餘よりなる群島、大カリマタとビリトン島との間にカリマタ地峽あり。

かり—また 雁股 名 燕尾箭に同じ 又の狀をなせる鐵。

カリマ—てふ かりま蝶 Kallima 名 動物 蝶類、琉球地方に産し 恰も木葉の如きもの。

カリンガ Kalinga (迦陵伽) 名 地名 英領印度マンガル州の一市、昔しは今のマドラス附近の北方より東海岸に沿ふて一王國をなしたり。

かりんさん—せっかい 過燐酸石灰 Superphosphate of lime 名 化學、製法—燐灰石骨粉等の燐酸カルシウムを含有するものの粉末に硫酸を注ぐなり卽ち

$(PO_4)_2Ca_3 + 2H_2SO_4 = 2CaSO_4 + (PO_4)_2CaH_4$

性狀—通常濕度にて十倍の水に溶解し、過燐酸石灰肥料となる。

カリンチア Carinthia (Karnten) 名 地名 オーストリアの西方イタリアの境にある皇領地、山岳重疊し鑛物に富む

かりん—りやうざい—しふ 歇林其材集 名 書名 一條禪閤兼良の和歌に付きてかきしもの。

かり—もがり 殯 名 古語 人の死後 假りに棺に藏むること。

カリモンジアバ Karimon Djawa 名 マライ列島中の一群島、就中カリモンジアバ島最も名あり、オランダ貿易港あり。

かり—や 刈谷 名 地名 三河國碧海郡にある市街、土井氏の舊藩地。

かりやす 青芽 Miscanthus tinctrius 名 植物 禾本科草本、形ススキに似、葉共に小、乾して青色の染料とす。

かりよう—びんが 迦陵頻伽 名 動物 佛典に極樂淨土にありて美しき鳥にて鳴く聲又美妙なりとあり。

ガリレー Galilei 名 人名 天文及物理學者、イタリアのピサに生る、天體望遠鏡、木星の衛星を發見し、振子の性質を研究し 創見甚だ多し、年七十八 フロレンチアに死す(西紀一五六四—一六四二年)。

かり—わらは 狩童 名 古語 山伏に同じ。

かる 離 動詞ト二 古語 さる、とはざかる。

カルー Karroo 名 地名 南アフリカの高野 雨後草花繁茂し牧羊に適す。大カール、小カールの別あり。

が—るゐ 蛾類 Heterocera. 名 動物 昆虫類、鱗翅類、成蟲を蛾と稱す。大翅を屋根狀に開展して止り、觸角は先端細く、翅の裏面は表面よりも 後翅の表面は前翅の表面よ

りも一般に美なり、幼虫は多く害虫とす。

かる—いし 浮石 名 鑛物 火山地方 河海砂礫中にあり 白 黝 赤等の色を帶び面粗にして 孔竅非常に多し 故に能く水に游ぶ 黑曜石と同じく火山熔岩の地上に噴出して急激に凝固したるなり。

カルカ Kulki 名 地名 アムリツアールの南東、北部インドに在る一小邑、ヨーロッパロシアのニエベル河の支流、古戰場なり。

カルカ Kulki 名 人名 カルカの有名なる彫刻家、イタリアのチチアン式を摸し眞に迫れりと云はれたり。

カルカ 喀爾喀 名 地名 秦漢の世匈奴の居りし所にて、後漢の北匈奴の地なり。

カルカツタ Calcutta 名 地名 インドベンガル州の首府フーグリ河の左岸八〇哩にあり、印度總督駐在し、公私の建築物壯麗なり。

カルガン Khaghan〔張家口〕 名 地名 清國直隸省北道宣化府に於ける寨外に通ずる要口にして、長城中に在り、北京の西北に當り、開市場として、シベリア、蒙古と通商上緊要の地なり、〔4.5.N. 114.52E〕

かる—かや 刈萱 名 植物 禾本科草本、ススキに似、葉表に 白縱の筋あり、莖頭に穗あり、秋七草の一、

カルケドン Chalkedon 名 地名 コンスタンチノプルの對岸ビチニアの都市。

カルシウム Calcium, Ca. 名 化學 製法—沃化カルシウムに金屬ナトリウムを作用す、($CaI_2 + 2Na = 2NaI + Ca$)、性狀—原子量四〇、一、銀白色金屬結晶、空氣中にては直に水酸化カルシウムの薄膜に掩はれ、水に入れば作用して水を分解し水素を出す、イオンは二價無色なり。

カルシウム—イオン Calcion 名 化學 カルシウム、イオンは二價なり、無色。

かるしま—の—みや 鹿島宮 名 地理 豊明宮（とよのあかり）とも云ひ應神天皇の宮、其跡は大和國高市郡白橿村大字大輕にあり。

カルス Kars 名 地名 ロシアトルコとアジアの國境にある要害の地、人口九千萬餘、西紀一八七七年ロシアに征服せられ、同一八七八年ベルリン條約にて露領となる。

ガルダ Garda 名 地名 イタリア湖水中最大のもの、ロンバルヂアとベチチアとの間にあり、長さ三五哩、廣さ二哩、乃至一〇哩、水甚清く 景色佳美、諸島點々とし滊船相往航す。

カルタゴ Carthage 名 地名 カーセージに同じ。

カルタヘナ Cartagena 名 地名 イスパニアの軍港 人口

八萬六千あり、カルタゴ人の建設、此國最古の都會の一なり。〔37.36N. 1.5W.〕

カルチエー Cartier 名 人名 航海者、フランスの人、西北航路探見のため三度北米に航し フランシス一世の時カナダを佛領とせり（西紀一四九四—一五五四）。

カルチガン Cardigan 名 人名 英國の將軍クリム戰役に輕騎兵旅團を指揮して殊勳を樹てたり、（西紀一七九七—一八六八）

カルツーム Khartum 名 地名 エジプトのゲスンの一要市、白青ニール兩河の合流點、一八二三年モハメット、アリの建設。

カルデア Chaldea 名 地名 昔しはバビロニアの西南ペルシア灣に至る地方の名なりしもカルデア人バビロニアを占領してよりバビロニアをもカルデアと云ふに至りたり、

カルデラ Caldera 名 地名 チレの太平洋岸アタカマに在る海港にて鑛物集散の地なり、人口約三千あり、〔27.38. 70.53W.〕

カール—デル—グローッセ Karl der Grosse 名 カロロ大帝の綽名。

カルテロン Calleron 名 人名 大劇曲家 ペテロ カルデロン デ ラ バルカはイスパニアの人、批評家より古今の白眉と稱せられたり（西紀一六〇〇—一六八一）。

ガルトク Gartok 名 地名 チベットの一村、インドス川の源に近し、支那、チベットとカシミルとの間に夏時茶、獸毛等の交易盛んに行はる。

カルナク Karnak 名 地名 エジプトの一村、ニール河の東岸に在り、古代の堂塔多きを以て名あり、

ガルニエー Garnier 名 人名 此名の人多くあり、一、アドルフガルニエーはフランスの哲學者、パリ大學教授たりき、（西紀一七四五—一七九五）、二、マリ ヨセフ フランシス カルニエー探檢家（フランス） 西紀一八六〇—一八六二年までコシエンシーメ、一八六六年メコン河を探檢（西紀一八三九—一八七三）、三、ガルニエー、パジュは フランスの政治家、西紀一八四八年以來東洋諸國の公使たりき、西紀一八〇三—一八七八。

カルニオラ Carniola (Krain) 名 地名 オーストリアの西南、カリンチアの南に在るオーストリア皇領地、イスパニアのアルマデンに次ぐ水銀の産地なり、人口五萬餘あり、〔46.0N. 14.0E〕。

カルノー Carnot 名 人名 一、マリー、フランシス、カルノーは西紀一八八七年フランス大統領、一八九四年リヨンにて無政府員に殺害さる、二、ニコラス、カルノーはフランス

の數學者、建築家、後公安委員、革命軍の組織者、內務大臣たり(西紀一七五三—一八二)

かる—の—わうじ 珂瑠皇子 名 人名 文武天皇を申す。

かる—の—わうにょ 輕皇女 名 人名 允恭天皇の皇女、同母兄なる皇太子木梨輕と密通せし故伊豫に流さる、實に我國流刑の始めなり。

ガルバ Galba 名 人名 西紀六八年六月チロ帝に次でローマ帝となりしも、苛酷にして奢侈なりしを以て六九年一月臣下に殺さる。

カルパチン山 Carpathian Mts 名 地名 ホンガリアの東北、半環狀をなして連亘せる山脈、鑛物の埋藏多く、松、山毛欅等繁茂す。

カルハナ Kalhana 名 人名 カシミル歷史ラジアタランギニを梵語にて書きし人にて西紀一一四八年迄の歷史を完成したり、シンハデバ王時代の人なり。

ガルバニ Galvani 名 人名 醫、イタリアの人、ガルバニズムと稱する動物電氣を發明す(西紀一七三七—九八)。

ガルバニ—でんりうけい ガルバニ電流計 名 物理 ガルバノメートルを見よ。

ガルバン Galvao 名 人名 歷史家、ポルトガルの人、ジョオン二世に事へ、ローマ、フランス等の諸國の公使たりき、(西紀一四三五—一五一七)。

カルバンタ 合見班荅 (一名鄂爾哲圖汗) 名 人名 伊兒汗にて、合贊の弟、察合臺を掠めたり 西紀一三一六死す)。

カルビン Calvin 名 人名 神學者 フランス人、ラテン語に通じ 經典を研究し 永久神學を修め パリを追はるるや カルビン派を始め 儀典祭祀を廢し 聖賢は唯精神上に感受せりと唱導す。(西紀一五〇九—六四)。

カルビン—は Calvin 派 名 カルビンの創めたる新教、教徒をユゲノ—と云ふ。

ガルペビゲ Galdhoeppig 名 地名 ノルウェーのベルゲン州とハマル州との北境に聳ゆる高山、高さ二六二五呎餘、(61,35N 8,0E)。

カルヘミシ Karchemis 名 地名 エウフラメ河畔の地、西紀前六〇五年埃及王子等のバビロニアのチブカドチザルと戰ひて敗れたる地。

カルボナリ Carbonari 名 十九世紀の始 イメリフに起りし秘密結社なり、專制政府を倒すの目的なりき。

ガルベストン Galveston 名 地名 アメリカのテクサス州首要の海港、メキシコ灣に入る同名島上にあり、木綿の商業盛、其貿易世界第三位なり。

カルマル Karmar 名 地名 スウェーデンの東南の一要塞港 ストクホルムを去る一九〇哩、木材鐵石材等を出す、西紀一三九七年七月二十日 スウェーデン、デンマルク、ノルウェー三國同盟條約締結して一王國となる。

カルマル—れんごう カルマル連合 Calmar Union 名 一三九七年カルマルにて丁抹、諸威、瑞典の三國の貴族相會して、共同攝王の制を立てしもの。

カルムク Kalmucks 名 ロシア人、トルコ人と雜居し支那西部シベリア、東南ロシアの間に住する蒙古人の一支族にて遊牧民なり、其數二十萬を過ぐ。

カルルク 柯耳魯部 名 地名 唐の世に葛邏祿と稱せし部族、今の支那天山北路に居りしが、西紀一二〇九年元の太祖に征せらる。

カルルク Karlok 〔歌邏祿、匪剌魯、柯耳魯、合魯〕 名 蒙古の興起せし時乃驃部の西南伊犁河の流域にありし部名

カルルスタット Karlstadt 名 地名 クロアチア(オーストリアホンガリー)の一市 人口五五〇〇餘あり。

カルルスタット Karlstadt 名 人名 宗教改革者ドイツの人、一時ルーテル派なりしも 實行教儀を異にせり、バーゼル大學教授たりき(西紀一四八三—一五四一)。

カルルスバード Karlsbad 名 地名 オーストリアホンガリーの北境ボヘミヤにある溫泉場、西紀一八一九年墺相メツテルニヒの各大臣を集め、提案を可決せし地なり。

カルロス Charlos 名 人名 イスパニア王カロロを見よ。

かるゐざは 輕井澤 名 信濃國佐久郡にありて中仙道の要路、土地高く 避暑地たり。

カレー Carrhae 名 地名 メソポタミアの一舊市、アブラハムがカナーン地方遊歷の出發地、西紀前五三年ローマ大官クラッススのパルチア人と戰ひ大敗して知事に殺されたる地なり。

カレー Calaio 名 地名 フランス要塞港の一、ドーバー海峽に面す、イングランドより歐州に渡る旅人は此地に上陸す、綿布の輸出盛なり。

かれひ 鰈 名 Flounder 動物 魚類、軟鰭類、體長一尺五寸 扁平、眼は右側、背鰭長し、腹鱗短小、暗紫色にて斑點あり、一面白くして鱗なく 一面黑色、肉白色にて淡薄なり、溫寒兩帶に產す、其名種々あり。

かーれいきやく 過冷却 名 物理 液體の其凝固點以下に冷却せらるるも、尙ほ液狀を保つ現象なり。

かれ—の 枯野 名 冬の野 草木のかれはてたる野。

カレドニア Caledonia Canal 名 地名 運河、スコットランドの西北の部分 大西洋と北海とを連絡す、長六〇哩、

西紀一八二三年成る。

ガレノス Galenos 名 人名 醫、哲學者 ギリシアの人、諸國を遊歷し ローマに西紀一六四年より四年間 住せり 著書多し(西紀一三一—二〇一年)。

かれ—ばむ 枯 動四 古語 草木のかれて見ゆ。

ガレリウス Galerius 名 人名 ローマ皇帝、一兵卒より起り デオクレチアヌス帝の養子となり、西紀三〇五年東ローマ帝國の王位に卽く、耶蘇敎徒を虐待す。

かろ—じんじや 賀茂神社 名 地理 因幡國高草郡賀露村にありて大山祇命 猿田彦命 武甕槌神を祀れる神社なり

カロンヌ Cilonne名 人名 フランスの財政家、(西紀一七三四—一八〇二)。

ガロンヌ Garonne 名 地名 フランス西南部重要の河、ピレチ山中に發し ビスケイ灣に入る 長三四六哩。

カロライナ Carolina 名 地名 北米合衆國南の一州、南北に分る、北は土地肥沃山林多く 鑛物木材に富む 南は沼澤多く 眞實の穀物 綿等を出す。

カロリー Calorie 名 物理 一瓦の水を、攝氏零度より溫度一度だけ上らしむるに要する熱量なり、熱量の單位なり

かろりんいし—やし カロリン石椰子 名 植物 果實は大さ三寸にもなり、松毬の如き鱗にて被はる、此鱗の先は下に向へり、胚乳は鉛製造に供せらるるを以て各國に輸出せらる、千八百九十七年度に獨逸に輸出せるものにても、價格五萬圓以上なりしと云はる。

カロリンガーてう カロリンガ朝 Carolingious 朝 名 中世フランク王國を統治したる王統、八四三年ベルドン條約にてフランク二分したる故此王統も三分したり、始祖はカロロ大帝の父ピピンなり。

カロロ Charles, Karl, Carlos, Carolus 名 人名 此名ある人頗る多し 順次述ぶること左の如し。

カロロ二世 Charles II ルイスの子、八四一年フォンテノイにてロテールを破り、遂にベルドンの條約となりしも彼はノルマン人を防ぐ能はざりしかば、イタリアに逃れてローマの皇帝となりたり、(八二三—八七七)。

カロロ三世 Charles III 八九三年東フランクより迎へられて西フランクの王となり、東西を合同す、王の廢せらるると共に再びフランクに分る、之れやがてドイツ、フランス兩國の基となりたり、(九二九年死)。

カロロ四世 フランス王フィリポ四世の子、一三二二より一三二八迄フランス王たり、カペチアン最後の王なり、治世中ギエンヌを失ふ、(一二九四—一三二八)。

カロロ五世 フランス王ジョアン二世の子、一三六一年より一三八〇年迄王位に在りたり、此間英國に奪はれたる地は總て殆んど之を回復し、財政を整理し、大學の特權を擴張し、圖書館を建てたる等治績の見るべきもの多し、パスチーユは實に此時代に設立されたるものなり、(一三六四—一三八〇)。

カロロ六世 カロロ五世の子、一三八〇年より一四二二年迄フランス王たり、父と同く寛宏の政治を行ひ Well-beloved の名を得たるも 生來暗弱なりしかば貴族の跋扈甚しく、英國に、トロイ條約にて多くの地を取られたり、(一三六八—一四二二)。

カロロ七世 カロロ五世の子、一四二二年王位に卽く、實に百年戰爭の最中なり、女傑ジアンヌ、ダルクの出でたるは此時なり、(一四〇三—一四六一)。

カロロ八世 フランス王、ルイス十一世の子、幼年の時貴族の亂おりしも、ブルゴーニュ公の女アンナを娶りし爲其領土を併せ王權を確立したり、後イタリア戰爭緒を啓くや一四九四年兵を率ゐてナポリを略したる事あり、(一四七〇—一四九八)。

カロロ九世 フランス王、ヘンリ二世の子、治世中ユグノーの內亂あり、バルトロメ祭日の虐殺は一五七二年なり、王之を愧ぢて樂家宇、後二年死す、(一五—〇—一五七四)。

カロロ十世 ルイス十八世の弟、一八二四年兄に次でフランス王となる、性頑明、舊政を復し、貴族僧侶を優待せし爲め人民の反抗を招き、一八三〇年七月革命起り出走す、(一七五五—一八三七)。

カロロ Charles I(イスパニア) 獨逸のカロロ五世を見よ

カロロ二世(イスパニア) フィリポ四世の子、一六五五年王となる、一七〇〇年死す、闇なかりしかば、イスパニア王位繼承の亂起るに至りたるなり。

カロロ五世 (イスパニア)一八三三年フェルヂナンド七世死せしかば自立せしも翌年外國に走りたり。

カロロ四世 (ドイツ) ドイツのバヴリア公ルイスが王位繼承に付き法王と爭ひ、廢位せらるゝや、後を襲ひて、ドイツ聯邦の皇帝となる、一三五六年、ゴールデン、ブル(黃金文書)を發して七大侯を選擧侯と稱し、皇帝選擧權を掌らしむ。

カロロ五世 (ドイツ) オーストリア公子フィリポの子、一五一六年イスパニア王となり、カロロ一世と稱せしも、一五一九年祖父マキシミリアン一世の死するや、之に次でドイツ帝となり、カロロ五世と稱す、オーストリア、チロデルランド、サルヂニア、ナポリシチリア、イスパニア等を領有し、勢盛んなり、乃ちイタリアに入り、ローマを陷

れ、ボロニアにて帝冠及イタリア王冠を受く、舊教を奉じ國内のルーテル一派の新教徒を壓せんが爲め、ウォルムス敕命を發したれども、新教の勢盛んなるを以て、一五三〇年アウグスブルグ信條を提出し、新舊二派の調和を試みしも成らず、一五三二年ニュルンベルヒの宗教和議を結び、一五五五年アウグスブルグ宗教和議にて、兩派の同權を認め、事漸く治まる、此間兵力にて諸國を攻略したれども計畫皆齟齬したり、(一五〇〇—一五五八)。

カロロ六世　(ドイツ)　レオポルド一世の次子、始めイスパニア王嗣に充てられしが、王位繼承戰爭起り、兄ヨセフ一世に次で、一七一一年ドイツ王となる。

カロロ七世　(オーストリア)　始めバワリア侯にてカロロアルベルトと稱せしが、ドイツ帝カロロ九世其女マリア、テレサにオーストリアを讓るや、之が繼承權を主張し、フランス、イスパニア等の後援を得て、オーストリア帝となりたり。

カロロ十世　(スウェーデン)　スウェーデン王、一六五四年より一六六〇年迄位に在りたり、一六五四年ポーランドを討ち、ポーランドの獨立を認めしむ。

カロロ十一世　(スウェーデン)　一六六〇年より一六九七年迄スウェーデン王たり、治世中意を內治に用ひ、王權の擴張、軍備の充實等に盡したる名君なり。

カロロ十二世　(スウェーデン)　カロロ十一世の子、十五にして王となる、勇敢なる人にして、丁抹、ロシア、ノルウェー等に侵入したり、一六九七年より一七一八年迄位に在りたり。

カロロ　Charles of Anjou　子ープルス王サン、ルイスの兄弟(一二二〇—一二八五)。

カロロ　Charles the Bold　ブルゴーニュ侯爵なり、フィリップ善王の子、佛王ルイス九世は彼れが封建君主なりしを以て、此配下を離れて王國を建設せんとせしも成らずして遂に死す(一四三三—一四七七)

カロロ一世　(イギリス)　ジェームス一世の子、王位に卽くや、議會との衝突益々激しくなり、クロムウェルの爲めに虜にせられ、一六四九年死刑に處せらる、(一六〇〇—一六四九)。

カロロ二世　(イギリス)　カロロ一世の子、スコットランド王たるを宣言して、イギリスに入り、ウースターにてクロムウェルの軍の爲に大に敗られフランスに逃る、クロムウェル死してより、一六六〇年迎へられてイギリス王となる、有名なる人身保護律を議會にて議決せしは一六七九年にして、實に彼れの治世中なり、(一六三〇—一六八五)。

カロロアルベルト　Charles Albert　サルデニア王にて、一八三一年フェリス二世に次で王となる、イタリア統一を遂げんと欲し、オーストリアに對し宣戰を布告せしも、オーストリア續々兵を起り、爲に事成らずして退隱す(一七九八—一八四九)バワリア侯カロロ、アルベルトの事に就てはカロロ七世を見よ。

カロロエドワルド　Charles Edward　ジェームス二世の孫一七四五年スコットランドに入り、王位を要求し、イングランドに進軍せしも破られフランスに逃る、(一七二一—一七八九)。

カロロ—だいていカロロ大帝　Charlemagne　カロリンガ朝の始祖ピピンの子、七六八年兄に次ぎてフランク王となる、サクソン人を平げ、ロンバルヂアを滅し、ムーウ人を討ち、イスパニアを服し、南はエブロより北はエルベに至る大領土を有す、八〇〇年法皇レオ三世より、西ローマ帝國の帝冠を受け、都をアーヘンに奠む、治世中鋭意治を圖り國內を數縣に分ち、學術農工を保護奬勵し、寺院學校を建てたる等其治績枚擧に遑あらず、(七四二—八一四)。

カロロ、マルテル　Charles Martel　カロロ大帝の祖父にて、フランク王國の宮宰たり、王權漸く衰ふるや、實權を握る、七三二年サラセン人をツールに擊退して、英名を轟かせり、(六八九—七四一)。

カワド　Kabad (Kawadh)　名　人名　サタン王朝のペルシア王、第十九代及第二十四代。

カワド　Kobad (Kawadh)　名　地名　印度の一州。

き

き　五十音圖中、加行の第二位に位す、語の中にあるときは往々促音のつの如く呼ばるることあり、つきたつ(突起)をつつたつ、ひきこむ(引込)を、ひつこむといふが如し、きの濁音をぎといふ。

き　岐　名　地名　唐朝の末、李茂貞が自立して王となりし時の國名にして、五代唐の莊宗の時に至りて遂に降りたり

き　貴　名　令に定められたる階級の別稱にて、三位以上を稱し、最も鄭重なる待遇を受くるの特典を有するものなり

き　木　名　植物　根幹枝葉を具へて、年年成長し、容易に枯れざるものをいふ、樹木。

き　基　名　化學　種々の化學的變化の際に、分裂することなくして、恰も一原子の如く作用するものをいふ、例へば水又は「アルコール」の OH の類なり、Radical.

き　黄 名　七色の一にして強く光線を反射す。

き　氣 名　一、空氣、二、生きて居る力、三、けしき。

き　己 名　十干の一、つちのと、にたなし。

き　癸 名　十干の一、みづのと、にたなし。

き　驥 名　一、千里の馬、駿馬、二、才能の卓絶せし人。

き　朞 名　めぐる意　年、月の一周すること、「朞年」「朞月」

き　記 名　事實をしるしたる文。

き　季 名　一、陰曆にて、三月、六月、九月、十二月をいふ、二、春、夏、秋、冬の稲。

き　期 名　一定の時間。

き　寸 助　專ら、馬の身長を計るに用ふる語、「七寸」「八寸」。

ぎ　義 名　一、人倫五常の一、品行方正にして、道にもとらざること、二、意味　こころ、三、相約して兄弟などの交をなすこと。

ぎ　艤 名　船を取りよそふこと、即、出帆の用意すること

キアクサレス Kyaxares 名　人名　メヂアの曾長フラオルテスの子、紀前六〇六年アッスルバニパル王の子サラコスを攻め久しくして其城を陷れアッシリア國を亡ぼし都をニクバタナに定む、五九四年(紀前)死す。

キアクト－でうやく　恰克圖條約 名　清の雍正五年露清の兩使が、バイカル湖南のブーラ河邊に會して結びたる條約にして、兩國の境を定め、恰克圖を互市場となしたるなり、(西紀一七二七)。

き－あつ　氣壓 名　物理　空氣の物を壓する力、空氣濃厚なれば、其力も從つて強く、空氣稀薄なれば、其力亦從つて弱しと雖も、通常、六百六十ミリメートルの水銀柱と同一の壓力を有す。

キアーフタ Kjakhta 名　地名　シベリアの一市にして、イルクツクの東南一八〇哩にあり、人口四千餘、露清貿易の一大市場なり。

キアベンジッシュ Henry Cavendish 名　人名　有名なる英國の化學者且物理學者にして硝酸及酸素と水素とが結合すれば水を生ずる事を發見し、空氣は酸素二素が一定の割合にて混合せるものなる事を証明したる等學術上の事業頗る多し、(西紀一七三一－一八〇六)。

ぎ－あん　議案 名　會議に附すべきことを記したるもの。

きあん　乞顔氏 名　姓名　蒙古の氏にして、鐵木眞の祖不勒の汗と稱へ始めたるものなり。

キアンチ Chianti 名　地名　トスカナのアルピアヽヽヽヽプラ、オンブローンの三河の間に介在する地方なり。

き－アンチモニー－くわう　鄰アンチモニー鑛 名　鑛物

斜方晶系にして、主に纖維柱狀をなし、時には粒狀をなすことあり、光澤強く、薄片は稍撓性を有す、硬度二、比重四、五一六、成分は Sb_2S_3 なり、伊豫國市の川の產を以て我國にては最も有名なりとす。

きあん－もん　徽安門 名　內裏十二門の一、玄輝門の左にあり。

き－い　貴意 名　他人の意見を敬していふ語。

き－い　奇異 名　ふしぎ、怪しきこと。

き－いう　杞憂 名　俗に、とりこし苦勞、昔、支那の杞といふ國に、一人の愚者ありて、天地の崩るることなきかと憂へしに、又、其憂を憂へし人ありき、それよりして餘計なる心配をさして杞憂といふに至りぬ、「杞人之憂」。

キ－ウエスト Key West 名　港名　フロリダの西南六〇哩にある、珊瑚島の要塞港にして、かねて、海軍の根據地なり、人口一萬餘、菓物卷煙草等の輸出多し。

き－いちご　木苺 名　植物　薔薇科、いちごの一種、葉は鋸齒狀にして互生す、初夏の頃白き花を開く、果實は紅熟し、食用に可ならず、只、もみぢいちごは之に酷似せる種にして、果實成熟し、味可なり。

き－いと　生糸 名　一、練らざる絹糸、二、絹糸。

きい－のーくに　紀伊國 名　國名、南海道に屬す、十郡あり、和歌山縣と三重縣とに分屬す。

キイル Kiel 名　港名、普露西亞のシュレスウイヒホルスタイン州にある港にして、バルチック海に於ける獨乙の主要なる海軍鎭守府なり、ハンブルグを去る六〇哩の北にあり、歐州中其港の一に數へらる、人口六萬餘。

キイルン　基隆 名　港名　臺灣、臺北縣にあり。

キイーワチン Keewatin 名　州名　加奈陀の一州にしてマニトバ政府の管轄に屬し、鑛山殊に銀銅の產出多し。

きう　灸 名　もぐさを皮膚の上に置き、之に火を點じて、其熱によつて病氣を醫するをいふ。

き－う　氣宇 名　器量、器能、品性、「氣宇宏遠」。

きう－あく　舊惡 名　前に行ひたる惡事、ふるき惡事、

きう－あん　久安 名　近衛天皇の御宇の年號、紀元千八百五年より、千八百十年に至る六年間。

ギイエンヌ Guyenne 名　地名　フランス國の舊州の一にして、ガスコーニュの北、フランスの西南に在り、今は多くの地方に分轄せらる、ギイエンヌはギ。イエン又はアクヽイタニアの轉化せるものにして、之は古くローマ人より與へられたるものなり、(45.0N. 1.0E)。

きういーはちばん　九夷八蠻 名　昔、支那にて、諸外國を輕蔑していへる語。

ぎう—にき 牛疫 名 病名 牛の流行病。

きう—か 九夏 名 九十日間(夏季の)九春の類なり。

きうか 毬果 名 植物 松の果實の如く、裸子を有する、數多の展開心皮が毬狀に集合せるものをいふ。

きう—かう 躬行 名 身自から實行すること、「實踐躬行」

きう—かく 嗅覺 名 生理 物の臭氣を感ずる感覺、嗅神經の司るもの。

きう—かつ 裘葛 名 裘は冬の衣服、葛は夏の衣服なり、故に「一たび裘葛を易ふ」といふ時は、一年を經たることなり。

きう—がふ 糾合 名 集むること、とりまとむること。

きう—かん 休刊 名 新聞雜誌などの、印刷を休むこと。

きう—かん 球杆 名 體操用具、木製にて長さ五尺ばかり圓き棒にして兩端に球をつけたるもの。

きう—き 窮鬼 名 貧乏神にたなし。

きう—ぎ 舊誼 名 ふるき交誼、以前の交際。

きうきう—の—いちまう 九牛一毛 同 夥多なる物に對する極めて僅少なる部分をいふ、「四海一滴、九牛一毛」。

キウキアン Kiu-Kiang 九江 名 港名、支那廣東省の韶州の市府にして、又貿易港なり、南京の西南二百五〇哩に在り、人口約四萬、茶商最も盛なり。

きう—くわい 舊懷 名 ふるき以前の時を思ふこころ。

きう—くわざん 休火山 名 地文 噴火の跡あれども、有史期に入りて、未だ一回の噴火なきものをいふ、此の如き山も、俄然活火山に變ずることなきにあらず、睡眠火山。

きう—くわつ 久濶 名 久しぶり。

きう—くわん 嗅官 名 生理 五官の一にして、鼻に全し

きう—くわん 九官 名 動物 鳥名 よく人語を眞似す、鸚鵡の類なり、鴝鵒。

きう—くわん 舊觀 名 以前の見ゆ、「舊觀を改めず」。

きう—くわん 舊貫 名 一、舊制、二、舊領地、

きう—うけ 氣受 名 他の自己に對する感情、「氣受がよい」

きう—けい 九經 名 九種の經書、即、易經、書經、詩經、周禮、儀禮、禮記、春秋、孝經、及び論語なり。

きう—けい 球莖 名 植物 地下莖の一種にして、鱗莖に似て鱗片少し、例へば、すゐせん(水仙)の球莖の如し。

きうけい 九卿 名 周の時定められたる三少即ち小師少傅小保と九卿とを合せたる稱にして、周の重臣なり。

きうけい—こき 九經古義 名 清の惠棟の著にして十六巻わり周易、尚書、毛詩、周禮、儀禮、禮記、左傳、公羊、穀梁、論語等の古義を明に論評せしものなり。

きう—けつ 宮闕 名 天子の御所 禁裡、九重、内裏。

きう—けつ 九穴 名 生理 人體中の九個の穴、即、口、両耳、両眼、両鼻孔、両便孔、是れなり、九竅。

きう—げん 九原 名 黄泉にたなし、地名より轉用す。

きう—こ 舊故 名 ふるきなじみ、舊知、舊友、舊識。

きうこう 九江港 名 地名 江西省にあり、古の江州潯陽城にして、一八六一年天津條約により開港し、製茶、景德鎮燒陶器を輸出す。

きうご—の—ろん 九五尊 同 天子のこと、一に、九五之位ともいふ、得其正位、居九五之尊」。

きう—さく 窮策 名 苦しまぎれの策略、止むを得ざるに出づる策、仕方なしに採る方法、「窮策を案ず」。

きう—し 九死 名 九死一生の略、殆ど死すべき場合。

キウシ 龜茲 名 地名 今の庫車の地にして、白山、大河の間、筆喇木城鞏及阿克蘇、玉古爾及喀喇沙爾の間にあり王は元匈奴に屬し、漢四城に通し、東漢建武の初め使を絶つ、二十二年莎車王賢之を滅れ、國を分ち烏壘國とす、後匈奴に屬し勢再び張りしも、後班超に破られ、後又苻堅に伐たる、魏太武の世邊に寇し、唐の顯慶三年安西都護府を茲に置き、儀鳳中吐蕃に陷らる。

きうし Chusium (Chiusi) 名 地名 古代エトルリアの都市クルシゥム 今キウシと云ふなり。

きう—しう 九州 名 西海道の九國、即、筑前、筑後、肥前、肥後、豊前、豊後、日向、大隅、薩摩を總稱す。

きう—しう 吸收 名 物理 液體の氣體を溶解する現象、

きうしう—たんだい 九州探題 名 鎌倉幕府が元寇に備ふる爲、建治元年博多に置きたる官にして、室町幕府にも是あり、九州二島を管し、兼て訴訟土貢及び外交の事を掌る

きう—しき 舊識 名 ふるき知人、舊知、舊故。

きうしつ—せい 吸濕性 名 化學 水分を吸收する性質。

きう—しふ 舊習 名 以前よりの習慣、ふるきならはし。

きう—しんけい 嗅神經 名 生理 第一對腦神經、大腦の下面に在る一對の棍棒狀をなせる嗅神經葉より分出し、頭蓋骨の底を通過し、鼻腔内の上中両段の粘膜に分布す。

きうじん—の—こう—ぬ—いつき—に—かく 九仞之功虧一簣 文 仞は八尺 簣は土を盛る奇、九仞はその山を築くに、一簣の土を缺かば、完全に築くこと能はずの意にして幾多の勞を費しながら、一失の爲めに全く敗るるに喩ふ、俗諺の「七日の説法屁一つ」に類す。

きうしんりよく 求心力 名 物理 質點の圓運動をなす時絶えず中心の方に引き付ける力をいふ、此力ある爲圓運動をなすなり。

きうしゆけき 丘就卻 名 人名 漢の末、月氏の分裂を統

一したる人なり。

ぎうじ—なーどる 執牛耳 同 牛耳を執るを以て、盟を主るとなすに出づ、首領として諸事をとり行ふ意なり。

きうじ—じやうたい 球狀態 Spheroidal state 名 物理、「ライデンフロスト」の現象を見よ。

きうじゆ 久壽 名 近衛天皇の時代の年號 紀元一千八百十四年より、二千八百十五年に至るまで。

きうしゆん 九春 名 春季九十日間をいふ、九夏の類。

きうせい—しゆ 救世主 名 耶蘇キリストの異稱。

きうせき 休戚 名 安危 喜憂におなじ、「國家の休戚」

きうせん 九泉 名 よみぢ、黃泉、九原におなじ。

きうせん 休戰 名 戰爭中、双方の合意により、一定の期間、戰爭行爲を休止すること。

きうそ—かへりて—ねこ—な—かむ 窮鼠却嚙猫 文 通常鼠は猫に捕はるるものなれども、逃げ路を失ひなどして愈窮したる場合には、却つて猫をかむことあり、弱小と雖も必死の場合には、却て強者を傷ふことあるに喩ふるなり。

きうぞく 九族 名 九代の親戚、即、高祖、曾祖、祖、父、自己、子、孫、曾孫、玄孫の總稱なり。

きうだい 窮措大 名 措大は大事を與措する義にして秀才といふが如し、即、窮措大とは、窮したる秀才、又は貧乏書生の義なり。

きうだい 休臺 名 茶道の道具なり。

きうちやう 九腸 名 腹全體をさしていふ。

きうつ 氣鬱 名 氣のふさぐこと、氣のむすぼるること

きうてい—だいりよ—よりも—たもし 九鼎大呂よりも重し 文 九鼎大呂は國の重寶なり、非常に大切なる意なり。

きうてう—ふところ—に—いる 窮鳥懷に入る 文 人の困窮して來り倚るに喩ふ、「窮鳥入懷、仁人所憫」。

きうてん 九天 名 佛教の語 池の周圍を廻轉するといふ九つの星の總稱なり。

きうてん 舊典 名 昔時のかきもの、舊記、舊錄、古典

きうとう 舊冬 名 昨年の冬、昨冬。

きうないり 舊內裏 名 以前の御所 京都市にあり、東は寺町より西は、烏丸に至り、南は、丸太町より、北は今出川に亘る、面積十萬餘坪あり。

ぎうにう 牛乳 名 牛のちち 滋養として用ひらる。

ぎうにく 牛肉 名 牛の肉 滋養として食用す、神戸地方のもの最も佳良なり。

きうねつ—はんたう 吸熱反應 名 化學 反應する際、周圍より熱を吸收する反應。

きうはい 九拜 名 古代の最敬禮なり。

きうはう 白砲 名 砲身短くして、口徑大に、其形白に似たるを以て此名あり、攻城に用ゐらる。

きうばく 舊幕 名 德川幕府をいふ。

きうはん 舊藩 名 德川時代の各藩をいふ。

きうび 鳩尾 名 みぞおち、にれなし。

キヤビエー Cuvier 名 人名 有名なる獨逸の博物學者、解剖學者にて又古生物學者の鼻祖なり、地球が創始以來十回乃至十五回の全生物改造の時期を經たるものなることを明示し、比較解剖によりて動物を脊椎動物、關節動物、軟體動物、射線動物の四綱に分ちたる等は有名なり、(西紀一七六九—一八三二)

キヤビエーしーのーき キヤビエー氏の器 名 動物 多くのナマコ類の「クロアカ」(排泄腔)に附着する線狀の長管、其用不明。

きうみんーし 休眠子 名 植物 菌藻類の有性生殖により生ずる胞子にして、直に發生せずして、多少の時日を經て發生するを以て此名あり。

きーうん 氣運 名 きざし、いきはひ、「革命の氣運」。

キウンチアウ Kiung-chau 瓊州 名 地名 清國廣東省雷瓊道の府、瓊山縣の都市、海南島は全部此府中に含まる、開港場にて人口二十萬あり、(19,56N 110,15E)。

きうめんーたうきやう 球凹鏡 名 凹面鏡を見よ。

きうめんーきやう 球面鏡 名 物理 球面の一小部分を取り反射面としたる鏡。

きうめんーしうさ 球面收差 名 物理 光線が、球面凹鏡により反射せらるる時、其鏡心に近き部分より反射するものは、鏡面の遠き所に會合し、鏡心を遠かれる部分より反射するものは、鏡面の近き所にて會合するを以て、物體の像は明瞭を缺ぐ、斯く光の反射する場所に依り、反射光の會合する點を異にする現象を、球面收差といふ。

きうめんーとつきやう 球面凸鏡 名 物理 凸面鏡を見よ。

きうーもん 糾問 名 とひただすこと、尋問、吟味。

きうやくーぜんしよ 舊約全書 名 書名 耶蘇教の聖書、二十六篇より成る、之に對するものを新約全書といふ。

きうーらふ 舊臘 名 昨年の臘月即十二月をいふ、客臘。

キウラソ Curacao 名 島名 西印度諸島のアンチル群島中の一島なり、和蘭の領有たり。

きうーり 胡瓜 名 植物 胡蘆科 草名、卷鬚を有し 葉は掌狀に分裂す、花は單性にして、雌雄異の花を同一株に生ず、色黃なり、果實は細長くして、刺を有し、食用に供せらる。

きうーり 舊里 名 ふるさとにおなじ。

さう—りう 穹窿 名 蒼天　そら、「草堂對穹窿」。

さうりゆう—はんどう 九龍半島 名 地名　西紀一八五九年、英佛が清と北京條約を結びし時、清が英國に割讓したるものなり。

さうりよう 春陵 固 地名　清國湖北省襄陽府にして、西漢の末王莽の地皇二年、劉縯、劉秀の兄弟の兵を起したる處なり。

さう—りよう 丘陵 名 地文　低き山岳。

さう—れい 舊例 名 舊來の習慣、前例、慣例。

さう—れき 舊曆 名 太陰曆、俗に、きうといふ、之に對し太陽曆を新曆といふ。

さ—うは 歸依 名 佛教の語、佛道を信ずること。

さうい 著英 名 人名　鴉片戰爭に關し、道光二十一年廣東の和議破れ、英軍再び江寧府に逼りたれば、宣宗の命を受け、伊里布等と共に、英國大使ポッティンジャールと南京に會して和議を締結したり、(西紀一八四二)。

さう—がてに 滑雞に 副 僅かに消ゆるをいふ、二、死ぬ。

さう—はつ 滑果 固 一、全く消ゆるをいふ、二、死ぬ。

キエフ Kiev 名 地名　露西亞キエフ州の首府にして、ドニエプル河の西岸に位す、もと露領なりしが、西紀一二四〇年、元の拔都に屬し、一三八六年、ポーランドに移り一六八六年復た露西亞に歸せり。

さ—うん 奇緣 名 不思議なる緣。

さ—うん 氣焰 名 勢の盛なるをいふ、「氣焰萬丈」。

さ—うん 棄捐 名 一、他を救ふために財を拋つこと、義捐にあたる、二、足利時代に德政として、人民の貸主をして强ひて其貸金を捐てしめ、借主は之によりて、全く辯濟の義務を免がれたり。

ざ—うん 義捐 名 ざうんにあたる、俗にざけんと誤りよむなり、「義捐金」。

ざうん 義園 名 人名　足利義教の法名なり。

さたく—じゆつ 記臆術 名 物事の記臆を容易ならしむる術なり。

キオス Chios 名 地名　希臘多島海中の一小島にして、土耳古領なり、詩聖ホーマーの出生地なりといふ。

さ—たん 氣溫 名 地文　Temperature of air　大氣の溫度をいふ。

ざたん—なんかい 祇園南海 名 人名　詩作書畫に長ず、初め木下順庵に學ぶ、新井白石等と友とし善し、寶曆元年九月、年七十五にして歿す。

さ—か 麾下 名 大將の旗の下、轉じて、大將の近侍の士をいふ、旗下、配下。

さ—か 貴下 代 あなたの敬語(重に手紙の上に用ふ)。

さ—か 机下 名 文書の往復に用ひて宛名のわきに書き、先方の机の下に呈する意にして、尊敬を表はす語。

さ—か 幾何 名 數學、點、線、角、面積、等につきて、研究する方法なり、之を平面幾何と立體幾何の二に別つ。

ざ—が 嶺峨 名 山の高く聳ゆたること、巍巍にたなし。

さ—かい 機械 名 或點に力を働かせて、其働く力が有益なる効果を奏せしむるために用ふるものなり、機械の重なるものは、挺子、斜面、滑車、輪軸、楔、螺旋の六種にして、複雜なる機械と雖も、多くは此等のものを種々に組合せたるものなり。

さ—かい 氣海 名 一、臍の下部　二、空氣の地球を包めるを形容していふ語。

さ—がい 氣概 名 容易に風せぬ氣象、意氣、意氣地。

さかい—が—しま 鬼界島 名 島名　大隅國南方の海中にあり、周圍約七里。

さかい—たいさう 機械體操 名 種種の機械による體操。

さかい—てき 機械的 名 機械の如くに他人の命令のままに動作して、自己の意思よりして動作せざること。

さかい—ば 機械場 名 機械をすゑ置きて工作する場所、工場、工作場、製造場。

さかい—ゆ 機械油 名 機械の摩擦を減ずるため用ふる油

さ—かう 寄稿 名 詩文等を新紙雜誌などに寄投すること

さ—かう 起稿 名 草稿をかき始むること、(脫稿に對し)。

さ—かう 紀行 名 紀行文、旅行日記、などをいふ。

さ—かう 奇行 名 人なみはづれし奇飛なる行爲。

さ—がう 揶揄 名 書畫をかくこと。

さか—げんそ 奇偶元素 名 化學　Perrissad　一價、三價五價に作用する元素をいふ、水素、カリウムの如し。

さ—が—つく 氣附 固 一、心づく、二、よみがへる。

さかぬ—き 名 俗語、まけぬ氣、まけじだましひ、

さが—の—たんせん 木賀溫泉 名 箱根七湯の一。

さ—がはらけ 黃土器毛 名 馬の毛色の名、白に黃色を帶ひたる色をいふ。

さか—の—せんねつ 氣化の潛熱 名 物理　氣化熱に同じ

さ—かん 龜鑑 名 手本とすべき例、摸範。

さ—かん 旗艦 名 司令長官の坐乘せる軍艦。

さ—かん 期間 名 法律の語、法律上の効果を生ずべき或る時期より他の時期までの時間をいふ。

さ—がん 輝岩 名 鑛物、深造石にして、輝石屬に入るべき、一種又は一種以上の鑛物集合して成りしものなり、完晶にして、外觀は飛白岩に類似す、然れども飛白岩は長石

と鉄石の集合より成り、同一にあらず。

きかん—さい　起寒劑　名　物理　寒劑に同じ。

き—き　危機　名　危急なる場合「危機一髪」。

き—き　忌諱　名　畏避にたなし、いみさくべきこと、「忌諱に觸る」は、他人の機嫌を損じたること。

き—ぎ　危疑　名　あやぶみ疑ふこと、びくびくする、危惧

ぎ—き　魏禧　名　人名　清初代の古學者にして非鳳の子なり翠微峯に一堂を立て易を講ず、後益々古文辭に力を盡したりしが、年四十にして出遊し、天下の隱士に交る、清聖祖徵せしも疾を以て辭したり、康熙十九年十一月卒す、年五十七。

ぎ—き　義氣　名　義に勇む心、義俠心、をとこぎ。

き—いつぱつ　危機一髪　同　まかりまちがへば取り返へしが出來ぬほどに危き場合をいふ。

き—きう　箕裘　名　「箕裘を繼ぐ」といふは、親の業を其子が承けつぐこと、即、親が鍛冶屋なれば、其子も亦冶工たるが如きといふ、禮記に「其冶之子必學爲裘、其弓之子必學爲箕」とあり。

き—きう　鬼臼　名　植物　草名、其果實は消毒劑となる。

き—きう　歸休　名　家に歸省して休むこと、「歸休兵」。

き—きう　氣球　名　地文　氣圏に同じ。

きき—うで　利腕　名　右の腕。

きき—たち　聞落　名　一、聞きたとすこと、二、聞きたる後、案外面白からぬこと。

きき—たぼい　聞覺　名　他人の談話などを聞きて覺ぼゆること。

きき—たよぶ　聞及　動　傳へきく、聞知す。

きき—かう　聞香　名　足利義政大に斯を好めしより、香道大に廣まりて一の技藝となり、各派法式を設けて葬びたり平安王朝には香を薫きて衣服に染香せしめし事もあり。

きき—がみ　利神　名　一、靈驗あらたかなる神、二、聞神

きき—くわいくわい　奇々怪々　名　奇怪にたなし。

きざす　雉子　名　きぎし又はきじにたなし。

きざすて—ならず　聞捨てならず　同　聞すてがたし。

きき—どころ　聞處　名　聞くべき要點、よく聞くべき處。

きき—ども—ない　無聞度　形　一、聞きたくなし、二、人聞きがわるし、外聞がわるし。

きき—ねいり　聞寢入　名　話を聞きながら寢入ること。

ききふ—たんど　危急溫度　名　物理　臨界溫度に同じ。

ききふ—の—じやうたい　危急の狀態　名　物理、「際とき狀態」に同じ。

ぎきふ—ぐんばう—の—とき　危急存亡之秋　同　九死一生の場合といふにたなしく、俗に、のるかそるかのとき。

きき—みみ　聞耳　名　一、世間のうはさ、二、聞かんとする耳「ききみみを立つ」。

き—きん　紀昀　名　人名　石雲と號す、河間献縣の著姓なり年二十五進士となり、後黒澤して協辨大學士を拜し、國子監事を管す、年八十二薨ず。

き—きん　飢饉　名　米穀成熟せずして、人民の飢うること

きぎん—くわう　輝銀鑛　名　鑛物　硫銀鑛に同じ。

き—きんぞく　貴金屬　名　鑛物、價格の貴きもの例へば白金、金、銀の類をいふ、此等の金屬は、普通の酸類に作用せらる、ことなし。

き—ぬ　利目　名　効果　効能、効驗、しるし。

きき—ぬうぬう　奇々妙妙　名　奇妙にたなし。

きき—も—たいては—ごば—に—たとる　騏驥も老いては駑馬に劣る　文　英才俊物も年老いては、役に立たずとの意

きき—もの　聞物　名　聞く甲斐のあるもの。

き—きやう　桔梗　名　植物、桔梗科、草木なり、秋の七草の一に數へらる、花に單瓣と複瓣との別あり、色は白又は紫なり。

ささやう—が—はら　桔梗原　名　野の名、信濃國筑摩郡洗馬の東北にあり、天文年間、武田小笠原の戰ひし處。

ささやう—がひ　桔梗貝　名　動物　棘皮動物、海膽に類し極めて扁平にして、黒色を帶び、棘は細小なり、此の棘を去りたるものは白色なり、管足を出すべき五組の孔ありて其形桔梗に似たり、海岸の砂地に棲息す。

ぎ—きやうだい　義兄弟　名　義理ある兄弟。

き—きよ　起居　名　朝夕のしわざ「如何御起居被爲在候哉」。

ぎ—きよ　義擧　名　義のために事をなすこと。

ぎ—きよく　戲曲　名　淨瑠璃院本　演劇脚本の類にして、聲律節語を主とし、之を樂器にあはせて、劇場に演ずるに適せしむるを主とす、Drama.

き—きよらい　歸去來兮　同　陶淵明が詩に、「歸去來兮、田園將蕪、胡不歸」とあり、いざ歸りなんの意なり。

きく　菊　名　植物　菊科、草名、莖は拇指大にして直く、葉は單葉にして羽狀に鋏刻し、其裂片に鋸齒あり、葉柄を有す、花に緣心の別あり、緣花は舌狀をなし單に一雄蕊のみを具ふ、心花は筒狀をなし、五個の雄蕊と一個の雌蕊とを具ふ、花の色は黄白紅を主となす、種類極めて多く、枚擧に遑あらず。

きく　菊　名　家紋の名　其種類少からず、花瓣十六よりなるものは、十六菊と稱して、皇室の御紋章なり。

き—く　起句　名　詩の第一の句、第二を承句、第三を轉句

第四を結句といふ。

きーく 崎嶇 名 形、動 一、山路の平かならざる貌、二、困難の義にも用ふ、三、直に山路の義にも用ふ。

きく 聞 動 一、耳にきこゆ、二、問ひたづす「道をきく」

きく—いく 鞠育 名 子をそだつること。

きく—いただき 菊戴 名 動物 鳥名、形、目白に似たり頭上に菊に似たる黄色の毛あるを以て、此名あり。

きく—いちもんじ 菊一文字 名 劒の名、後鳥羽天皇の、手づから作らしめ玉ひし太刀にて、銘に、一輪の菊花を打てり、きくづくりの太刀ともいふ。

きく—いはひ 菊祝 名 九月九日の祝。

きーぐう 奇遇 名 思ひがけなく出會ふこと。

きく—がさね 菊襲 名 衣服のかさねの名、表白、裏蘇芳

きく—がは 菊川 名 川名 遠江國榛原郡にあり。

きーくぎ 木釘 名 木にてつくりたる釘。

きく—きり 菊桐 名 皇室の御紋所、十六菊と、五七の桐との二なり、始めは御衣の摸樣なりしが、嵯峨天皇の頃より御紋章となりしといふ。

きくくわ—しよくぶつ 菊科植物 名 植物 Compositae 莖缺裂し、又は冠毛狀をなし、花冠は舌狀又は筒狀をなす雄蕊五にして葯合一し、柱頭二にして、子房中に一胚子を包含す、花は多數相集りて、小頭花をなし、總苞を具ふ。

きくくわ—だいじゆしやう 菊花大綬章 名 勳章の名。

きく—ざけ 菊酒 名 菊の節句にのむ酒、みりんの一種。

きくすり—や 生藥屋 名 生藥を賣る家 藥種屋。

きく—すゐ 菊水 名 家紋の名、流水の上に、半形の菊花を添へたるもの、楠氏の紋。

きくち—うぢ 菊池氏 名 姓名 先は藤原隆家、世々肥後の守たり、武時武光に至り、大に勤王を謀り、南北朝の時一族多く討死して遂に亡ぶ。

きくち—さんけい 菊池三溪 名 人名、漢學者、紀州の人にして、歷史に精通し、國史略の著あり、明治二十年卒す

きくち—たけとき 菊池武時 名 人名 隆盛の子、世々肥後に住す、元弘三年、九州に在りて勤王の兵を擧げしが、小武大友等の變節によりて、之がために攻められ、終に敗死せり、年四十二。

きくち—たけとし 菊池武敏 名 人名 武時の二子、掃部助たり、兵を肥後に擧げ、南軍に應じ、足利尊氏と多々良濱に戰ひ、敗れて後又兵を擧ぐ。

きくち—たけども 菊池武朝 名 人名 武政の子、武光の孫なり、肥後守となり、天授中今川貞世を水島に破り、二年間にして九州略平定す、後將軍の宮を奉じ筑前府に禁む後大内義弘と迎擊し敗る、尋て貞世の軍を受け敗走す、宮之を援けて貞世を走らす、應永十四年四十五にして歿す。

きくち—たけみつ 菊池武光 名 人名 武時の子、懷良親王を肥後に迎へ、諸處に轉戰して聲威大に振ひ、正平十四年、小貳頼尙を筑後川に破る、十七年斯波氏經の九州探題となるや、武光之を豐後に破り、後大内弘世を伐つて之を走らせり。

きく—ちん 鞠塵 名 一、かさねの色目の名、表青、裏黃二、天皇の御衣に用ひしもの、山鳩色といふ染め方にて、黃に青色を帶ぶ、かりやすと、紫草とにて染め、紋は、桐と鳳凰と竹となるも、又、唐草と尾長鳥となるものあり。

きくち—ようさい 菊池容齋 名 人名 有名なる畫家、名は武保、菊池武時の後なり、十八歲の時、高田圓乘の門に入りて狩野派の畫風を學び、遂に一家をなせり、其著、前賢故實は斯界の珍とする所、明治十一年六月卒す、年九十一。

きくてい—うだいじん 菊亭右大臣 名 人名 藤原兼平、

きく—どぢ 菊綴 名 直垂などの縫目の綻びぬやう、縫留のところに、組紐を菊の花形にとぢつけるもの、直垂には釉付のところに、長絹には襟付けと端釉の付けもとにあり

きく—な 菊菜 名 植物、菊科、一名しゆんぎく、一回花を生ずれば、枯死する草木にして、葉は二回羽狀に深裂し舌狀、花は黃又は白色なり、若莖は食用に供すべし。

きく—ならく 聞道 動 聞くところによれば。

きく—の—せつく 菊節句 名 五節句の一、九月九日に、行ふ祝、重陽の節。

きく—の—と 菊戸 名 禁中にある戸の名なりといふ。

きく—の—ゐん 菊宴 名 重陽の節に、宮中に於て、行はれたる觀菊の宴なり。

きく—の—ま 菊之間 名 江戸城の營中の一室にして、德川幕府の時、諸代庶流諸大名の詰所なり。

きく—ばん 菊判 名 洋紙のばんの名、縱三尺橫二尺、又は、縱三尺一寸橫二尺一寸。

きく—ばり 氣配 名 かれこれと注意すること。

きくま 菊間 名 地名 上總國市原郡に在り、千葉縣の管轄に屬す、水野氏の舊領地なり。

きーくん 貴君 代 貴下に代なし。

ぎーくんし 君子 名 見せかけの君子、君子ぶる人。

きく—もん 鞠問 名 罪人を尋問すること。

きー—くらげ 木耳 名 植物 眞菌科、隱花植物の一種なり生殖器は膠質にして杯狀をなし、外面に剪絨樣の毛を有する食用に供すべし。

キクラデス Kyklades 名 地名 希臘のエーゲ海中の群島なり、デロス島を環りて横はる、故に此名あり、人口十二萬余。

きくめ—いし 菊目石 名 珊瑚の類、團塊狀にして、菊紋形の小窩數多密接して連れり、生活の時は一窩毎に、いそぎんちやくに似たるぽりぷ在るなり　南海道に多く産出す。

部一の石目菊

きーぐらゐ 氣位 名 心の持ちかた「氣位が高し」。

きーくわ 奇貨 名 一、窖島に得られざる寶物、二、逸す可らざる機會、「奇貨可居」。

きーくわ 奇禍 名 意外の禍、思ひ設けざる禍害。

きーくわ 氣化 名 化學、液體が氣體になることをいふ。

きーくわ 歸化 名 外國人が他國の國籍を得ること。

きーくわい 機會 名 めぐりあはせ、はづみ。

きーくわい 奇怪 名 不思議、怪訝、「奇怪千萬」。

ぎーくわい 議會 名 貴族院と衆議院との會議。

ぎーくわ—し 義和氏 名 義氏と和氏との併稱なり、義氏は南正重の後、和氏は北正黎の後、世々共に曆家を司れり

キクヮジヤウ Khukhukhoto 歸化城 名 地名 清國山西省朔平府の都會、長城の外に在り（41,0N 112,0E）。

きくわ—ねつ 氣化熱 名 物理 液體を熱して沸騰せしめたる後は、如何に強き熱を加ふるも、唯其氣化を速かならしむるのみにして、其溫度は變更せず、之によつて見れば此間液體に加へたる熱は、其溫度を高くするの用をなさずして、只其分子力に抗して狀態を變化するに費されたるなり、此の如き熱を氣化熱又は氣化の潛熱と稱す。

きーくわん 奇觀 名 珍らしき見もの「千古之奇觀」。

きーくわん 器官 名 生理 一個體は大抵諸機能を分擔せる數多の部分より成る、此各部分を器官といふ、複細胞動物の諸器官は次の八種に分つ、卽、皮膚、運動器、神經系消化器、循環系、呼吸器、泌尿器、生殖器、是れなり。

きーくわん 機關 名 一、組立てし道具、二、我が用をなすもの、「機關新聞」。

きーくわん 氣管 名 生理、上、喉頭に連り、下、氣管支に接する、中空の管にして、肺に空氣を出入せしむる通路をなす、前方及び兩側に數多の彎曲せる軟骨環あり、其間に筋肉ありて之を連接し、屈曲自在ならしむ、後方は食道と相接す、氣管の內面には粘膜ありて茸毛を生ず。

きくわん—し 氣管支 名 生理 氣管より左右の肺へ各一本づつ分れ入る所の枝。

きくわんし—カダル 氣管支加答兒 名 病名 呼吸器の虛

弱なるものが、寒冒によりて發するものにして、氣管支にカタルを起し、咳嗽及び咯痰を發す。

きくわん—しや 機關車 名 蒸氣機關を裝置せる車にして蒸氣力により、列車を動かすなり。

きくわん—しゆ 機關手 名 機關の運轉を司る人。

きーけい 貴兄 名 貴君にたなし。

きーけい 奇計 名 他人の思付かざる計略、奇策、奇謀。

ぎーげい 技藝 名 わざとげいと、技能、技術。

ぎけい—き 義經記 名 書名 源義經の一代記、作者不詳。

ギゲス Gyges 名 人名 リヂア人なり、國王カンダウレスに其妻の裸體を示せしを以て、女王大に不敬を怒り、ギゲスに死するか王を弑するか、其一を選ぶべきを命じたりギゲス遂に王を弑し女王と婚し位に卽く、之れメルムナデ家の始祖なり、三十八年間在位、（西紀前七一八—六八〇）、氏は又牧師として著名なり。

きーけつ 起結 名 詩の起句と、結句と。

きーけつ 剞厥 名 剖は彫刻に用ふる曲刀、厥は仝じく曲鑿なり、版木を刻むこと。

きーげつ 期月 名 かねて約束したる月。

きーげふ 起業 名 事業を起すこと。

きーげふ 企業 名 經濟學の語、自己の計算及び危險に於て、他人より受くる報酬に對し、他人の爲めに貨物を生産するをいふ。

ぎーけふ 義俠 名 男氣のあること。

きーけん 氣圈 名 Atmosphere ききうにたなし、地球を圍繞する空氣の全部をいふ。

きーけん 貴顯 名 官位の高き人、高貴の人。

きーけん 危險 名 危きこと、俗にあぶない。

きーげん 機嫌 名 一、佛教の語、機嫌とあるを正とす、他人の好まぬことを伺ひしること、二、氣色、三、愉快に見ゆること。

きーげん 起原 名 事物の始まり、「社會の起原」。

きーげん 期限 名 一、約束したる時、二、法律上に於ては、當事者が法律行爲の履行又は消滅にかからしめたる將來の時日にして、其到來すること確實なるものをいふ。

きーげん 紀元 名 建國の初年をいふ、日本にては神武天皇卽位の年を以て建國の初とし、歐州諸國に於ては耶蘇の出生後四年（普通其出生の年といふは誤）を以て、紀元元年となす。

きげん—かひ 機嫌買 名 俗語 自己の機嫌の良否により他人に對する態度を異にすること。

きけん—くわざん 寄屑火山 名 Overlapping Volcano 舊

火山の噴火口の側面に、新火山の大なるものを生じたるとき、舊新兩火山を併稱す、又、倚屑火山ともいふ。

きげん—せつ　紀元節　名　三大節の一、神武天皇即位の日を祝する式なり、明治五年始めて行はれ、其後毎年二月十一日に擧行せらる。

きげんぶがん—るゐ　基支武岩類　名　鑛物　基支武岩の一種なり、其質緻密にして、鐵苦土硅酸鹽類及び鐵鑛より成り、玻璃質の石基其間を膠結す。

きけ—もの　聞者　名　俗語　はばのきく人、敏腕家。

キケロ　Cicero　名　人名　羅馬の雄辯家、又政治家にしてかねて文人哲學者なり、紀元前六三年、コンスルとなり、六に聲望を得て國家の父とまで仰ぎ稱せられたり、紀元前四三年卒す。

きーご　綺語　名　一、語をかざること、二、小說。

きーこう　氣候　名　地理、氣壓、氣溫、風向、濕度などを綜合したる、長日月間の氣圈の狀態をいふ、季候。

きーごう　記號　名　化學　各元素に其名稱及び一原子量を表はすため符號と與ふ、通常その元素のラテン名の首字を用ふ、例へば水素は日にして（Hydrogenium）、原子量一即ち、一、〇一を示めすが如し。

きーこう　氣孔　名　植物學　同化作用を營むに最も必要なる孔にして、葉の裏面に多し、稀には表面に存するものもあり、大氣多き時は開き、少き時は閉づる働をなす。

きこうくわん　岐溝關　名　地名　順天府涿州の西南にあり宋の雍熙三年宋の將曹彬が遂に攻め入り、耶律休哥と戰ひ大敗したる地なり。

きこう—ふう　季候風　名　地理　Monsoon　水陸分布の不規則なる結果として、或る地域に限り、年年一定の時期に起る所の風をいふ、例へば、我國に於ては、夏季に東南風多く、冬季に西北風多きが如し。

ぎこう—るゐ　擬猴類　名　動物　四肢皆手のはたらきを爲し、後肢の第二指は鉤狀の爪を有し、面部は毛を以て覆はる、熱帶地方に多く產し、哺乳動物に屬す。

きこゑ　聞　名　一、聞ゆること、二、世間のうはさ、「君の御覺ゑ世の聞ゑ」。

きーこく　枳殼　名　植物　灌木の名、密柑の木に似て小さく、刺あり、夏時白花を開き實を結ぶ、干して藥劑とす、痰に功驗ありといふ、枳殼とからたちとは同一物にあらず

きこくーし　鬼谷子　名　人名　支那戰國時代の人、鬼谷に退隱し居りしかば、此名あるなり、蘇秦の師なり。

きこし—めす　聞召　動　一、きくの敬語、二、飲食などにいふ、敬語。

きーこつ　氣骨　名　正義を守りて屈せぬ氣象、俠骨。

きこ—の—いきほひ　騎虎之勢　同　事をなし始め、中止せんと欲するも能はざること、行きがかり上、中止しがたきこと、俗に、「乘りかかつた船」といふにたなし。

きーごみ　氣込　名　意氣込　精神を傾注すること、意氣、

きーごみ　着込　名　上着の下に着込む鎧の一種、くさりかたびら（鏈帷子）なと、いふもの。

きーこん　氣根　名　根氣といふにたなし、精力、忍耐性、

きこゆ　聞　動　一、人に聞かる、二、理由尤もなり、三、名聲高きこと、四、にはふ。

きーこり　樵夫　名　木を切るを業とする人。

きーさ　蚶　名　動物　貝の名、蛤に似たり、外殼に縱橫のすじあり。

きざ　氣障　名　きさはり、嫌味のあること、「氣障な奴」。

きーざ　危坐　名　正しく座すること。

きーさい　記載　名　かきしるすこと。

きーさい　奇才　名　一、世に稀なる才、二、奇才ある人、奇才子、「天下の奇才なり」。

きさい—の—みや　皇后宮　名　一、皇后の宮殿　二、きさきにたなし。

きーさう　起草　名　草稿をかき始むること、起稿。

ぎーざう　僞造　名　にせてつくること。

きさ—がた　巢潟　名　湖名　羽後國由利郡巢潟村にありし湖水にして、風光明媚松島に劣らざるほどなりしも、現今は田園と化しぬ。

きさき　后　名　一、皇后、二、皇太子、親王の配偶。

きーさく　氣速　名　かうちとけて、興動快活なること。

きーさく　奇策　名　奇計にたなし、「神謀奇策」。

きーざくら　黃櫻　名　植物　櫻の一種にして、其花は黃色を帶ぶ、故にこの名あり。

きーざくろいし　貴柘榴石　Almandine　名　鑛物　等軸晶系柘榴石の變種、化學成分 $3FeO.Al_2O_3.3SiO_2$ 血赤色又は鳶赤色、透明乃至片端透明、片麻岩中に包生す、往々大結晶あり、有名なる產地は錫蘭島なり。

きさご　細螺子　名　動物　貝の名、やどかりに類する虫にして、外殼は蝸牛に似て小なり、表面には種々の斑點ありて光澤あり、俗に、きしやごといふ。

きーささげ　木角豆　名　植物　木の名、ひさぎに仝じ。

きざし　萌　名　一、始まらんとす、來らんとす、二、若草のもゑ出づるにいふ。

きーさつ　貴札　名　他人に返信する時に、先方の手紙をさしていふ敬語、貴墨、貴翰、芳墨などにたなし。

きざーはし 階 名 一足づつ刻んで段段に昇降するやうに造くりたる梯段なり。

きーざはし 木酸 名 植物、柿の一種、よく熟せぬ頃より澁味なき柿なり。

きーざはり 氣障 名 氣にさはること、心に面白からず思ふこと。

きーさま 貴樣 代 一、貴下にたなし、二、現今は却りて目下のものに對して用ふ、汝。

きざみ 刻 名 一、こまかに切ること、二、時刻、三、だん、等級、四、刻煙草の略。

きざむ 刻 動 一、彫刻す、二、こまかに切る。

きーさん 歸參 名 一度主人のもとを辭し去りし者が、復たかへり來るをいふ、「歸參がかなふた」。

きざん 祁山 名 地名 甘肅省鞏昌府西和縣の西北にあり蜀漢の建興六年諸葛亮、之を攻め、晉の大興二年南陽王保晉王を此處に稱せし事所あり。

ぎーさん 蟻酸 名 化學 H.COOH. 蟻の體中に存する故に此名あり、松杉の葉などにも存す、無色の揮發し易き液體にして、刺激性の臭氣を有し、皮膚にふるれば膿物を生ず容易に酸化して無水炭酸と水とを生ず、濃硫酸と共に熱すれば、酸化炭素を生ず、苛性加里に酸化炭素を通じ、之に酸化水素を加へ蒸溜して生成するなり、防腐劑として用ふ

ぎさん-アルデヒード 蟻酸アルデヒード 名 化學 英名 Formaldehyde CH_2O「メチルアルコール」の蒸氣に空氣を混じ灼熱したる白金又は銅の螺線中を通過せしむれば生ず

きさらぎ 更衣 名 陰曆二月の異名、着たる上に更に衣服を着るより來りし名なり。

きさらづ 木更津 名 地名 上總國望陀郡にあり、千葉縣の管轄に屬す。

きし 岸 名 一、海岸、河岸 二、懸涯、がけ。

きーし 箕子 名 人名 殷の紂王の親戚なり、周の殷を平ぐるや、武王箕子を以て朝鮮王に封せり。

きーし 騎士 名 歐州中世の封建の制に伴ひ生じたるものにして、二十一歳騎士となる、寛仁、義俠、勇敢、敬神を以て其理想とす。

キジ Chigi 名 人名 ローマの法王にして美術家文學者を保護せし人なり、フランス大使殺害事件にてルイ十五世と爭ひたる事あり、(西紀一五九九—一六七三)。

キジ Chigi 名 教會の爲有名なるイタリアの一族の名。

ぎじ 義慈 名 人名 百濟最終の王にして、西紀六六〇年唐の高宗新羅の請により、蘇定方を將とし、海軍を率ゐて新羅の武烈王と共に泗沘を陷れしかば、義慈降り、百濟亡

びたり。

きじ 雉子 名 動物 鳥名、雞類に屬す、雄は翠黑色にして美麗なれども、雌は黃黑色の斑點ありて尾短かし、その肉は冬季最も佳なり、保護鳥の一にして三月十六日より、十月十四日まで捕獲を禁止せらる。

きーじ 記事 名 一、事物のありしまゝを書き記すこと、二、之をかきしるしたる文、記事文。

ぎーし 技師 名 職名 技手をつかふ人、「農商務省技師」。

ぎーじ 議事 名 一、議すること、二、議すべきこと。

きしう 冀州 名 地名 舜の時禹が洪水を治め全國を九分したる一つにして、帝都存す、今の直隸山西二省なり。

きしう-みかん 紀州蜜柑 名 紀伊國より產出する蜜柑にして、在田郡より產するもの殊に有名なりとす。

ぎしう-もん 宜秋門 名 門の名 陰明門の前にあり。

ぎーしき 儀式 名 公事 節會などの作法。

ぎしき-くわん 儀式官 名 官職 禁中の儀式を司る官。

きし-せんめい 旗幟鮮明 同 旗色のはつきりしたること主義の公明正大なること。

ぎじ-だう 議事堂 名 議員の會議所、「國會議事堂」。

きーしつ 氣質 名 氣性 性質、もちまへの心。

キシナフ Kishinev 名 地名 西部露西亞のベサラビア州にある一市にして、同州の首府、人口十一萬餘。

きじ-ばと 雉子鳩 名 動物 鳥名、鳩鶴類、翼は長大にしてよく飛翅し、常に雌雄雙棲す、人に馴れ易し、尾は、恰かも扇子の如し。

きじ-ぶえ 雉子笛 名 獵人が雉子を呼びよするためにふく笛にして、雉子の鳴き聲に似たる音を發す。

きじほんまつ-たい 紀事本末體 名 歷史編纂の一法なり年月の順に從はずして、本末を一處にまとめて書くなり。

きしむ 軋 動 滑かならざるをいふ、俗に、きしきしする

きーしん 鬼神 名 一、死者の靈、二、恐るべきもの、三神といふ意に用ふることあり。

きーしん 寄進 名 神社佛閣に、金錢物品を納むること、寄附にたなし。

きーじん 奇人 名 人に異うたる行爲ある人、畸人。

ぎしん-あんき-た-しやうず 疑心生暗鬼 同 疑へば疑ふほど愈恐しくなるに喩へていふなり。

きーしやくど 稀釋度 名 化學 Dilution 溶液の薄さをいふ、卽、一瓦分子量を一リットルの水に溶かしたるものを單位とし、之を稀釋度一なりといふ、又二リットルの水に溶かしたるものを稀釋度二といふ、以下之に順ず。

きしも-じん 鬼子母神 名 佛の名、女性にして其子極め

て多く、他人の子を食ひしに、佛或時自己の子をかくせしかば、始めて子を失ふ悲しみを知り、之より悟道せりといふ。

きーしや 汽車 名 蒸瀛力を以て軌道の上を走る車。

きーしや 記者 名 一、書きものをする人、二、新聞雜誌などの原稿を書くことを業とする人「新聞記者」。

きーしや 騎射 名 馬上にて弓を射ること。

きーしや 喜捨 名 慈善の心より困窮するものに、金錢物品を惠むこと。

きーしやう 氣性 名 生來の心、氣質にたなし。

きーしやう 徽章 名 他と區別するために、帽子などにつくるしるしをいふ。

きーしやう 氣象 名 氣壓、氣溫、晴雨など凡へて空氣に關する現象をいふ。

ぎーしやう 擬晶 名 鑄物 Mimetic crystal 幾多の小結晶が相集まりて雙晶をなすときは、各個の晶體は、其晶系に特有なる對稱面を除きて、其他の晶面に對し新に對稱の位置を起すにより、時としては對稱面の數多き他の晶系の形態を擬することあり、之を擬晶といふ。

ぎじやう 義淨 名 人名 唐初の高僧、姓は張氏、范陽の人なり、幼より沙門に入り、學古今に通ず、年十五より、二十五年間三十餘國を遊し、梵本經律論、金剛座の眞容舍利等を得て還る、天武后の勅を受けて佛授記寺に居り、佛典の翻譯に力めたり、先天二年七十九にして卒す。

きじやうーのーくうろん 机上の空論 句 到底實行し得べからざる言論をいふ。

きしやうーがく 氣象學 名 學問の名、氣象の變化につきて、專ら研究する學問といふ。

きしやうーだい 氣象臺 名 氣象の變化を觀測する所。

きしやうーもの 氣性者 名 氣性のつよき人、氣丈者。

きしやうーもん 起請文 名 神佛にかけて誓ふ旨の書面、誓文、契約文

きーじゆ 喜壽 名 七十七歳の祝賀、喜の字は之を草書にてかくときは、七十七とかくに似たるより出でしなり。

ぎーしゆ 技手 名 會社などにて技術を扱ふ人をいふ。

きーしゆく 鬼宿 名 一、二十八宿の一、二、嫁とりの外萬事に吉なりといふ日。

きしゆくーしや 寄宿舍 名 學校などにて、學生の便の爲めに、之を宿泊せしむる建築物なり。

きーじゆつ 奇術 名 不思議なる術、てづまにたなし。

ぎじゆつーか 技術家 名 技術を業とする人。

きーじゆん 基準 名 人名 殷の太師箕子四十代の孫にて否の子なり、立て二十餘年、陳項天下を亂り、燕齊趙の民亡げて、準に歸するもの多く、後燕人衛滿に襲はれ、海に浮びて、南に逃れたり。

ぎしん 義眞 名 人名 相模の人、傳教大師と共に唐に行きて譯官となる、貞元中大僧正となり、天長中延曆寺座主に任せらる、十年七月寂す、年五十二。

ぎーしよ 魏書 名 書名 支那北齊の魏收の撰、本紀十二卷、列傳九十卷より成る。

きーしよく 氣色 名 一、顏色、血色、二、心もち。

きーしよく 寄食 名 他人によりて衣食する事、ゐさうろふ、にたなし。

きしる 軋 動 一、すらすらと行かざるにいふ、二、爭ふ。

キジルーイルマク Kizil Irmak 名 河名 小亞細亞の最大河にして、中央の高原より發して黑海に入る、長さ、五二〇哩、一名紅河ともいふ。

キジルークム Kizil Kum 名 砂漠の名 露領トルキスタン中、アラル湖の東にある廣大なる砂漠なり。

きしわだ 岸和田 名 地名 和泉國泉南郡岸和田町なり、天正十年中村一氏之を創め、十三年小出秀政之に代る、大阪の役の戰地となり、後松平康重の領となり、寛永十七年岡部宣勝に給はりて維新に及ぶ。

きす 鱚 名 動物 魚名 淡水に產するものと、鹹水に產するものとあり、前者は色青く、かはぎす又はあはきすともいふ、後者は色白く、しらぎす又はうみぎすともいふ、何れも嘴尖りて尾細く、淡水に產するものは斑點あり、皆其味美なり、此他に虎ぎす及沖ぎすなどの種類あり。

きす 疵 動 基づく、起因する。

きす 疵 名 一、毀損、二、鉄點「玉に疵」。

ぎす 擬 動 その物になぞらふ。

キーズ Guise 名 フランスの有名なる侯爵家の名、エースヌ州のギーズ市に居りしを以て此名あるなり。

ギーズ Guise 名 人名 ギーズ侯フランシスはフランスの大將にして、嘗て新教徒を虐殺し、之れやがてユグノー役の因となりたる事あり、(西紀一五一九—一五六三)フランスの政治家ローレヌの君牧師、(西紀一五二五—一五七四)。

ぎす 名 動物 「キリギリス」に同じ。

きーずいししやう 黃水晶 Citrin 名 鑛物 黃色なる水晶なり。

きーすう 奇數 名 數學の語 二にてわりきれぬ數、一、三、五、七、九、以下之に順ず、奇數に對し、二にてわりきれる數を、ぐうすう(偶數)といふ、二、四、六、八、のごとし。

き—すう 基數 名 數學 二個以上の式に共通なる數字

ギスカルド Guiscard, Robert. 名 人名 アプリア及びカラブリアの公爵なり、南伊太利を征服し、法王レオ九王と戰ひ、終に法王より南伊太利を封地として受けぬ、西紀一〇八五年卒す。

きづ—もつ—あし 疵持足 名 惡事をなして、我れから心に恐怖すること、きづもつすね(疵持髓)ともいふ。

き—すい 氣鬚 名 きままにおなしく、我儘の振舞をいふ

き—すゐ 奇瑞 名 不思議なる瑞祥。

き—せい 歸省 名 故郷に歸ること。

ぎ—せい 犧牲 名 いけにへともいふ、一、獸を生きながら神に供ふるをいふ、二、他の爲めに自己の身を捨つるにいふ「國家の爲めに身を犧牲とす」。

きせい—がん 氣成岩 名 地文 風の爲に生せる厚き地層

支那の黃土 (Loess) の如し。

ぎせい—くわん 議政官 名 官名 明治元年に始めて設けられしものにして、太政官七官の一なり、上下二局に分れ立法のことを掌りし官なり。

きせい—こん 寄生根 名 植物學の語 或る植物が其根を他の植物の體中に入れ、之より自家の養分を吸收するもの例へば 根なしかづらの根の如し。

きせい—こん 氣生根 名 植物學の語 大氣中にありて、莖より生じたる根をいふ、空中より養分を吸收す、例へばせきこく、ふうらんの根の如し。

きせい—し 祈請使 名 官名 宋の高宗、戰亂の際人を遣り、金に使せしめし官にして、之により臣と稱し、師を緩め、徽欽二帝を還さんと屢に請ひたり。

きせい—しんわう 燕成親王 名 人名 「ノリナリ」を見よ

きせい—わゆう 寄生蟲 名 動物、他動物の體中にありて之より滋養分を得て生活する虫なり、例へば、綿虫の如し

きせい—どうぶつ 寄生動物 名 動物 他の動物體内の種々の處に寄生し、其養分を吸收して生活する動物なり、器官は用ゐざれば退化する事自然の通則なるを以て、寄生動物は、生殖器の外、器官多く退化し、宿主を離れては、獨立生活をなす事能はざるものなり。

ギゼー (Gisei) 名 地名 埃及にある市、クプ王の時代に建てられし金字塔は、多く此所に殘存す。

き—せき 鬼籍 名 死者の法名をかき記るし置く帳面、過去帳にれなし、「鬼籍に入る」とは死去することなり。

き—せき 輝石 名 鑛物 單斜晶系又は斜方晶系にして、綠色、暗綠色、黝色、なと種々あり、條痕は白色又は綠色なり、硬度は五乃至六、比重三、一乃至三、五、成分は 種類

により異れり。

きせき—かこうがん 輝石花崗岩 Augite granite 名 鑛物、花崗岩の一種にして輝石を含むものなり。

きせき—へんまがん 輝石片麻岩 名 鑛物、片麻岩の一種なり、輝石、正長石、斜長石、石英、柘榴石より成る。

き—せつ 季節 名 とき、期節。

き—ぜつ 氣絶 名 甚しき驚愕なとにより、急に氣息の絶ゆるをいふ、直に救助すれば蘇生すべし。

ぎ—ぜつ 義絶 名 義を行ふために、血緣又は交友と絶つこと。

きせつ—ふう 氣節風 名 地文 季候風に同じ。

き—せなが 着脊長 名 よろひにれなし、但、雜兵のよろひにはいはず、普通のものより脊長きものなりといふ說あり。

き—せん 濠船 名 蒸濠船の略、蒸濠力により進行する船

き—ぜん 危然 形 嚴正なるかたちをいふ、嚴然。

き—ぜん 喟然 形 喟は嘆くかたち、「喟然嘆」。

きせん—ぼふし 喜撰法師 名 人名、俗侶、弘仁の頃の人山城國宇治郡に喜撰ヶ嶽と稱する山あり、此僧の住居の跡なりといふ。

ぎ—ぜん 僞善 名 外觀は善をかざること。

きせん 琦善 名 人名 鴉片戰爭の時、欽差大臣となり、廣東に赴き英軍と和を議せり、翌年朝議變じ、和破れ遂に黜けらる。

きせん—スペクトル 輝線スペクトル Bright line spectrum 名 物理 單體が極稀薄なる瓦斯の狀態にて發する光に依りて生ずるスペクトルなり、大部分暗黑なれとも、數條の有色線あるを以て、又線狀「スペクトル」と稱せらる。

きせん—だん 既然段 名 文法 動詞助動詞の第五の變化 即、既成を示すものなり。

きせる 烟管 名 烟草を吸ふ管 一本の竹管の一端に金屬製の屈曲したる管をはめ、之をがんくびと稱し、他の一端にも金屬製の管をはめ、之をすひくちと稱す、全體を金屬にて造くりしものもあり、きせろともいふ。

きせ—わた 着綿 名 眞綿をうすくして、菊の花をれはひ其香をうつらせたるもの、菊の節句に、此綿を以て身を撫づる時は、長壽すといふ、一に、きくのわたと稱す。

きそ 木曾 名 地名 信濃國西筑摩郡及び美濃國惠那郡邊の山谷の地をいふ、木曾川の上流地方なり、

き—そ 基礎 名 とだいに、れなし。

き—そ 起訴 名 訴訟を起すこと。

きそう 徽宗趙信 名 人名 宋八代の帝にして、哲宗の崩

後、皇太后に擁せられ即位す、時に相、蔡京及子攸、權を壇にし、帝を勸め土木を起し奢侈に戯らしむ、大晟樂、王清神霄宮、延福宮、保和殿、萬壽山等を作る、其費は一花にして數億緡のものあり、五十四にして、五國城に崩ず。

きろう　熙宗合剌　名　人名　金の帝にして、宋と和し高宗を册立し大宋主帝となし、暴虐を擅にし、近臣を殺害す、四年十二月右亞相亮宿衛と謀り、帝を殺せり、年三十一、武靈皇帝と謚す。

きろう　憲宗米由校　名　人名　明帝にして、神宗の後を受けて即位す、時に清兵諸城を陷れ、邊將類に敗報を傳ふ、内には魏忠賢の權を專にし、遂に大獄を興すあり、泰昌七年八月崩ず、年二十三。

きろう　毅宗朱由檢　名　人名　明帝なり、萬曆四十年、清兵大に攻め至り、明大に戰ひ賊を數ヶ所に破りしも、遂に衰運に向ひ、流賊李自成關に入り城陷り、帝萬歲山に崩せり、清兵之を帝禮を以て葬り、臣民に三日の喪服を令し、莊烈皇帝と謚す。

ぎーろう　議奏　名　武家時代に、幕府の奏聞を天皇に直接に取次ぐ役なり。

ギゾー　Guizot　名　人名　佛蘭西の政治家、かねて又歴史家なり、其文明史は著名なり、（一七八七―一八七四）。

きろーがは　木曾川　名　河名　信濃國より發し、伊勢の海に注ぐ、長さ、四十六里。

きーろく　驥足　名　駿馬の足をいふ、轉じて敏腕の意、故に人の志を得ずしてゐるを、「驥足を伸ぶる」を得ず」、などいふ。

きぞく―せいぢ　貴族政治　名　Aristocracy　政權の一種にして、二人以上の貴族が相共に國家の主權を掌握して國家を統治する制度なり、現今に於ては、世界中殆ど其實例なし。

きぞく―どうし　規則動詞　名　文法、正則なる變化をなす動詞（不規則動詞に對していふ）。

きぞく―るゐ　鰭足類　名　動物　Pinnipedia　食肉類の亞目、海棲動物なり、前後の兩肢は共に短小にして、後肢は後方に向ひて左右相接す、皆五趾を備へ、膜を以て相連接して蹼をなす、例へば、あざらし、あしかの如し。

きぞく―ゐん　貴族院　名　皇族、華族、勅選議員、及び、長者議員を以て組織する議院にして、衆議院を下院と稱し貴族院を上院と稱す。

きろ―の―かけはし　木曾の棧　名　信濃國西筑摩郡にあり上松驛の北半里、駒ヶ根村にあり。

きろ―の―くわんじや　木曾冠者　名　源義仲の異名。

きーろば　生蕎麥　名　蕎麥の粉のみにて製したるそば。

きろ―の―してんわう　木曾四天王　名　木曾義仲の臣にして、驍勇を以て名あるもの四人、曰く今井兼平、樋口兼光楯親忠、根野井行親是なり、之を木曾四天王と言ふ。

きろ―の―みや　木曾宮　名　北陸宮を見よ。

きろふ　競　動　他に劣らじと互に競爭するをいふ。

きろ―よしなか　木曾義仲　名　人名　勤王家、源義賢の子なり、木曾に成長す、治承四年信濃に兵を擧げ、平氏西海に落ち、義仲入京して伊豫守に任せらる、後頼朝と隙あり蒲頼義經の來り攻むるや之を防ぎて利あらず、粟津原に敗死せり、年三十一。

きた　北　名　一、方角の名、磁針の示す方向、二、北風の略。

きた―アメリカ―がっしゆう―こく　北亞米利加合衆國　名　國名、東は太西洋、西は太平洋にのぞみ、南は墨西哥、北は加奈陀と界す、面積、五十八萬餘方里、人口約一億あり西紀一七八三年、英國より獨立せし時は僅かに十三州なりしが、現今は三十餘州より成る、共和政體なり。

きた―アメリカ―がっしゆうこく―どくりつ　北亞米利加合衆國獨立　名　北米に於ける英國殖民地漸く繁盛したり、ジョージ三世の時、英國政府連年の戰爭の爲め窮乏したる國庫を補はんとし、同殖民地に課稅せんとす、是に於て殖民人は其不法を論じ、一七七三年ボストン茶船狼藉事件起りしを、本國政府は兵力を以て壓せんとせしかば、一七七四年殖民人フィラデルフィアに會し、ウォシントンを元帥とし、一七七六年七月四日宣言書を公布したり、一七八一年、ウォシントン、ヨークタウンに敵の全軍を降し、一七八三年ベルサイユ和議より、北米合衆國の獨立承認せられ一七八七年新憲法を制定し、共和政體を定め、ウォシントンを以て大統領となしたり。

きーたい　氣體　名　物理　空氣、酸素、水素、水蒸氣等の如く、分子の動搖常に甚しくして、互に相衝突反撥し、常に擴張せんとする性質を有す、故に之を器物に入れんとするも極めて嚴重に密封せざれば、直に放散するを免かれず

きーだい　希代　名　一、世に稀なること、二、不思議にたなし。

ぎーたい　擬態　名　動物「シヤクトリムシ」が枝の狀をなせる、蛾、甲虫等が蜂に擬せるが如く、自己を保護せんため、體を他物に擬似せしむることをいふ。

きたい―の―ちやうりよく　氣體の張力　名　物理　氣體は其受くる所の壓力により、容積に變化を來たし、外よりの壓力が減少するに從ひ、其容積膨脹す、其性質を特に氣體の

張力といふ、此張力は固體液體にはなし。

きたい—の—ばうちやう　氣體の膨脹　名　物理　氣體は之を液體に比すれば、膨脹すること一層大なり、而して其の膨脹する割合は、各氣體を通じて殆と全一なり、卽ち、太抵の氣體に何れも溫度一度昇る時は、零度に於ける體積の二百七十三分の一づゝ膨脹す、之をシャールの定則といふ

きたい—の—ふりよく　氣體の浮力　名　物理　液體と全じく氣體も亦物を浮ぶる力あり、而して物體の重量を減ずる割合は、其物と同積の空氣の重量に等し。

きたい—の—みつど　氣體の密度　名　物理　氣體は外部より壓力を加ふれば、其容積は壓力と反比例して、或る度までは縮小す、其質量は壓力の增減に正比例するものなり、全じ空氣の一氣壓を受け、同溫度にある氣體の質量を、其氣體の密度といふ。

きたい—の—ようせき　氣體の容積　名　物理　氣體は外より加はる壓力の强弱により、大に其容積を異にす、卽ち、溫度が一定なれば、容積は壓力に反比例す、之をボイルの定律といふ。

ぎだいふ—ぶし　薩太夫節　名　俗曲の名　淨瑠璃の一派にして、大隅薩摩節より分れたるもの、元祿の頃、竹本義太夫之を創む、故に此名あり、略して義太夫といふ。

き—たう　祈禱　名　いのること、「加持祈禱」。

き—だう　軌道　名　地文　Orbit　天體が太陽の周圍を旋轉する道をいふ、楕圓形をなし、其焦點の一に太陽が位置を占むるなり、「地球の軌道」。

ぎだう　義堂　名　人名　僧侶にて周信と云ふ、南禪寺に在りて學び奥義を究む、初め臨川寺に至りて夢想國師に仕へ機緣投契す、足利義滿大に之を信じ、政事上の事を謀る人物畫をよくす、嘉慶四年寂す、年六十四。

きたうら—の—みづうみ　北浦湖　名　地理　湖名、常陸國にあり、周圍凡そ十五里、鹿島、行方の二郡に亘る。

きた—かいきせん　北回歸線　名　地文　夏至線に同じ。

きたかいき—むふうたい　北回歸無風帶　名　地文　北回歸線附近に生ずる無風の場所。

きた—かた　北潟　名　地理　湖名、越前國敦井郡の北部にあり、周圍五里、又、北潟の入江ともいふ。

きたかみ—がは　北上川　名　地理　河名、陸中國北上山に流出して、陸前國石卷灣に注ぐ、長さ約八十里。

きたがは—うたまろ　喜多川歌麿　名　人名　有名なる浮世繪師なり、始め幕府の小吏なりしが、辭して畫法を學ぶ、最も美人畫に長ず、文化二年五月卒す、年五十三。

きたしらかは—の—みや　北白川宮　名　伏見宮邦家親王御

子、上野輪王寺宮を嗣がれ、戊辰の役彰義隊の擁する所となる、明治三年獨乙へ留學せられ、十年歸朝、日清の役近衛師團長として臺灣に航し、病を以て薨ず、年四十九。

き—だち　木太刀　名　木にて造りたる太刀。

きたドイツ—どうめい　北獨乙同盟　名　普露西亞の墺太利に克つや、北獨乙の諸邦、バヴリア、バーデン、ウェルテンベルヒ等を合して一聯邦をつくり、普露西亞王を以て其盟主とせり、實に西紀一八六七年なり。

きた—の—かた　北方　名　貴人の奥方、令夫人。

きたの—じんじや　北野神社　名　官幣中社、京都市の西北右近馬場にあり、天德三年、菅原道眞の靈を祭り、後に天滿天神、又は北野天神と稱す、來り賽するもの多し。

きた—の—しやう　北莊　名　地名　現今の福井、越前國にあり、柴田勝家の據りし所、德川氏に至り松平家に賜はる

きた—の—まんどころ　北政所　名　攝政關白の奥方が、宣旨によりて稱ふる號。

きたばたけ—あきいへ　北畠顯家　名　人名　親房の子なり陸奥守となり、次で鎭守府將軍となる、義貞と共に足利氏を各地に敗る、延元三年石津に戰死す、年二十一。

きたばたけ—あきよし　北畠顯能　名　人名　親房の子、義良親王を奉じ東征せんとし、風浪に制せられて歸る、正平七年伊賀伊勢の兵を以て楠正儀等と足利義詮を討ち京を復し、男山の行宮に至り、親房と京に入り、事務を叅決す、後義詮に攻められ、男山に退き、遂に駕に從ひ吉野に還り右大臣從一位に進み、三宮に准せらる、遂に薨ず。

きたばたけ—うじ　北畠氏　名　姓名　村上源氏より出づ、雅家祖にして親房父子に至り大に現はる、子孫世々伊勢の國司たり。

きたばたけ—ちかふさ　北畠親房　名　人名　南朝の忠臣、出家して三宮に准せらる、仍て北畠准后といふ、足利尊氏叛するに及び、兵を率ゐて之を伐つ、正平九年薨ず、其著神皇正統記は有名なり。

きたばたけ—とものり　北畠具教　名　人名　伊勢の國司にして、祖父顯能より世々伊勢を鎭す、永祿中信長に攻められ一偶に殘留す、後信雄を養ひ其女に配したり、天正四年具教病す、療養中其臣木造雄利に襲はれて自殺す、時に年四十九なり。

きたばたけ—みつまさ　北畠滿雅　名　人名　顯泰の子、伊勢の國司たり、應永二十一年、小倉皇子の、後小松帝の禪を受けぎりしを憤りて兵を帥ひて京に入らんとす、義持、土岐持益等をして攻めしむ、遂に和を媾ず、後兵を擧げ、南朝を復せんとして破らる、年六十四にして薨ず。

きたふ 鍛 動 一、金屬を幾度も燒きて打ち固むるをいふ二、藝術を積古す。

きた—まくら 北枕 名 佛教に於ては、死者は北方を枕として、臥せしむるを常とするなり。

きた—みなと 北港 名 港名 小笠原群島の一なる母島にあり、同群島中の最良港なりとす。

きたみ—の—くに 北見國 名 國名、北海道十一國の一にして、國内に八郡あり、北海道廳の管轄に屬す。

きたむら—きざん 北村季吟 名 人名 有名なる和學者、通稱久助、拾穗軒又は湖月亭と號す、近江國野洲郡の人、初め醫を業とせしが、後に俳諧を學び、幕府に召されて歌學所に入る、寶永二年六月卒す、年八十二、著す所、源氏湖月抄、枕草子春曙抄、八代集抄、萬葉拾穗集、其他種々の註釋書あり。

き—たん 忌憚 名 いみ憚ること、慎慮。

き—たんばくせき 貴蛋白石 名 鑛物 蛋白石の亞種の一にして、美色を呈し、往々變彩色を有せるものなり。

きた—やま 北山 名 山名 山城國葛野郡衣笠村にあり、南北の二峰に分れ、北方なるを大北山と稱す、足利義滿の麓に金閣を築きしを以て、著名なりとす。

きたやま—きやうこう 北山行幸 名 後小松帝の應永十五年、足利義滿の北山の別莊に行幸せられたるを云ふ。

きたやま—どの 北山殿 名 足利義滿の條を見よ。

きたやま—ゐん 北山院 名 山城國葛野郡衣笠村にあり、後小松帝の時、義滿隱棲にして別業を北山莊に營み、北山殿と稱したり、天皇の生母通陽門院の崩ずるや、諒闇を行はず、妻日野氏を入内せしめ、准母となし、北山殿に居らしめ、之を北山院と稱したり。

きたな—しげまさ 北尾重政 名 人名 浮世繪師、本姓は北畠氏、紅翠と號す、文政三年二月卒す、年八十一。

きち 吉 名 易の語 うらかたのよきをいふ「吉凶」。

き—ち 貴地 名 他人の住居地の敬語、御地、錦地。

き—ち 岐知 名 鑛物 銅鑛中に存する金屬の一種、柔軟にして黑色の光澤あり。

き—ち 危地 名 危險なる地「兵を危地に陷る」。

き—ぢ 木地 名 一、もくめ、二、天然のままなる物。

き—ちがひ 氣違 名 一、病名 精神錯亂して知覺を失ふこと、亂心、狂氣、二、以上の病氣にかかりし人。

きちがひ—じむ 氣違染 動 狂人の如き言行をなすことにいふ、俗に、きちがひしみたことをする。

きちがひ—なすび 氣違茄子 名 植物 草名、朝鮮朝顏ともいふ、葉は茄子に似て淺綠色なり、秋花を開く、其形朝顏に似て筒長く、白色の莖あり、讒つて棄莖などを食するときは、忽ち狂すといふ、故に此名あり。

きちがひ—みづ 氣違水 名 酒の異名。

き—ちく 機軸 名 一、機關の軸、二、地軸、三、發明するをいふ、「別に機軸を出す」新機軸。

きち—じやう 吉祥 名 又た、吉上とも書く、真丈雜記によれば、黃仕丁、卽 無位の黃色の狩衣を着る下部のことなるべし云云とあり。

きち—じやう 吉祥 名 緣起のよきこと。

きちじやう—てんによ 吉祥天女 名 佛名 毘沙門天の妹にして容色絕美なりといふ。

きち—にち 吉日 名 芽出度き日にして、祝ごとなどを、此日に行ふなり、吉辰、「黃道吉日」。

キチン Chitine 名 動物 昆虫の皮膚をなす有機成分の名稱

きちん—やど 木賃宿 名 食料は携へ行き、唯、薪、蒲團などの料を拂ふて泊まる宿、やすやど。

き—ちやう 几帳 名 今日のついたての類、とばりを垂れ貴人の座席の外部より見ぬやうに造りしもの。

ぎ—ちやう 議長 名 會議の際に多數の意見をまとむる人

ぎちやう—くわん 議定官 名 官名 賞勳局にあり。

き—ちやうぶ 氣丈夫 名 心の確かなること、きだしか。

ぎちやう—へい 儀仗兵 名 兵仗を帶びて儀式に臨む兵。

きちやう—めん 生帳面 名 禀動の嚴格なること。

き—ちやく 歸着 名 一、歸り着すること、二、結局一に決するをいふ。

き—ちゆう 忌中 名 忌にこもり居る間。

ぎ—ちゆうけん 魏忠賢 名 人名 明代の宦官、萬曆中選ばれて官に入る、熹宗帝立つに及び、大に用ゐられ司禮秉筆大監と爲り提督を兼ね權勢盛んなり、副都御史楊漣、忠賢の二十四大罪を劾奏せしも帝却て漣を責む、後忠賢を劾するもの續々起り、所謂東林の黨を立す、忠賢之を攻め、其徒の朝にあるものは、或は斥け、或は殺し、己の黨人を以て之に代ゆ、熹宗崩じ信王立つに及び、交章、錢嘉徵等の劾奏を容れ、忠賢を斥け尋で逮治せしむ、忠賢之を聞て縊死す、詔して並屍を磔し首を懸けしむ。

き—ぢよ 貴女 名 一、身分ある婦人、貴婦人、二、女に對していふ敬語、手紙の文に用ふ。

ぎ—ちよう 魏徵 名 人名 支那の賢人、字は玄成、魏州曲城の人なり、布衣より起り、李密に用ひられ、秦王卽位の時、諫議太夫となり、貞觀十七年卒す。

きちるまーちゐかん 黑的兒火者汗 名 人名 察合台汗トグラクの子、エリヤスの幼弟、初め喀什噶爾汗たりしも、

帖木兒勢を得るに及び、之に屬して兄を討ち、帖木兒に女を納れ之を輔けたり。

きち—れい 吉例 名 よきためし。

きつ—いん 喫烟 名 烟草を吸ふこと、喫烟を禁ず。

きつ—かう 拮抗 名 相持して下らざること、はりあふ。

きつかう—きん 拮抗筋 名 生理、上膊骨の內外にある筋の如く、一は腕を屈し、一は反對に之を伸ばす筋をいふ。

きつかう—でん 乞巧奠 名 七夕祭のこと、婦女などが、其業に巧ならんことを祈るにより、此名あるなり。

きつ—かけ 切掛 名 手はじめといふにたなし、俗語。

きづ—がは 木津川 名 川名 一、山城國にあり伊賀國より發して淀川に流入す、二、攝津國にあり、淀川の支流。

き—づかはし 氣遣 形 心もとなし、安心ならず。

きつかは—もとはる 吉川元春 名 人名 毛利元就の第二子なり、天文十七年、吉川奥經の嗣子となる、性英俊にして名聲中國に振へり、天正六年、秀吉と對陣す、會々信長弑に遇ひ、戰はずして止む、後ち征韓の役に出陣し、天正十四年十一月卒す、年五十七。

き—づかひ 氣遣 名 氣がかりなること、不安心。

きづき 杵築 名 地名 豐後國速見郡にある町の名 大分縣の管轄に屬す、松平氏の舊領地なり。

き—つきげ 黃桃花毛 名 白地に黃赤色を帶びたる毛の色なり。

きづき—の—みや 杵築宮 名 出雲大社を見よ。

き—づきやう 喫驚 名 驚くこと。

き—つけ 氣付 名 一、氣絕したる人などを、蘇生せしむること、二、氣付くすりの略。

きつ—さう 吉左右 名 めでたきしらせ。

きつ—しよ 吉書 名 武家時代に、將軍の判をすゑて、關東諸國へ下せし文書。

きつしよ—はじめ 吉書始 名 一、陰曆にて年始のかきぞめに、吉日なりといふ日、二、新たにかきそめすこと。

きつし—るゐ 嚙齒類 名 動物、大概小獸にして、上下各二個の門齒を有す、齒は鑿形をなし、前面のみ琺瑯質を以て蔽はれ、後面は單に齒質より成るを以て、年を經るに從ひ、其後面のみ磨滅す、而して此の類は多く菜食にして、冬期は永眠をなすものあり、又、食物を貯へて其間の用に立つるものあり、性質怯懦にして、巢をつくるに巧なり、りす、ねずみ、うさぎ等は之に屬す、脊椎動物有胎盤哺乳類なり。

きつす 接吻 名 接吻 泰西諸國にては、愛情を表はすために、互に口を吸ひあふなり。

きつ—すゐ 吃水 名 船體の水に沒するだけの深さをいふ

き—づた 木蔦 名 植物 五加科、草名、莖は上昇し、花瓣は芽に於ては纖合機に排列し、子房は五室より成る。

きつ—たん 契丹 名 鮮卑の別種なり、後魏の頃より契丹と稱せり、眞觀の初唐に從ひしが、唐末に至り阿保機起りて、室韋、女眞、等を從へ、突厥を破り、回紇、渤海を亡ぼし、其子太宗に至り、國を遼と號したり。

き—つつき 啄木鳥 名 動物 鳥類の攀木類、嘴最も銳利にして、羽毛は美麗なり、四趾ありて其二趾は前へ、他の二趾は後方に向ひ、樹幹をよづること極めて巧なり、山里に棲み、好んで昆虫を食す。

きつつき—るゐ 啄木鳥類 名 動物 攀木類、きつつき、あかげら、こげら等之に屬す。

きつ—て 切手 名 一、手形、二、郵便切手の略。

きつ—てう 吉兆 名 きちずゐにたなし。

きつ—と 屹度 副 一、たしかに、二、相違なく。

きづな 羈 名 一、動物をつなぐ繩、二、離れがたき情。

きつ—ね 狐 名 動物 食肉類、全形犬に似て、口吻突出し、體毛腹部は白く、他は黃褐色なり、尾は長くして太し性質多疑狡猾にして家禽類を害す、北極地方に產するものは毛色白し、之を白狐といふ。

きつね—あざみ 狐薊 名 植物 草名、形あざみに似て、針なく、深綠色の葉を有し、其裏面には柔毛あり、夏の初うすむらさきの花開く。

きつね—けん 狐拳 名 遊戲の一種、庄屋、狩人、狐、のさまをまね、庄屋は狩人に、狩人は狐に、狐は庄屋にかつものとし、二人にて勝負をあらそふなり。

きつね—ど 狐戶 名 狐格子ともいふ、狐の妖術の如く、內より外は見得れども、外より內は見得ざるやうに、縱橫に組みたる格子なり。

きつね—の—ぼたん 狐牡丹 名 植物 毛茛科、草の名、葉は複葉にして三個の小葉より成り、小葉は有柄卵形にして、缺刻及び粗鋸齒を有し、花は黃色なり、雌蕊は多數あり、頭狀に排列す、果實は瘦果にして、稍球形をなして集合す、莖、葉、根、果實共に有毒なり、一名、いたちのあし。

きつね—の—まご 爵牀 名 植物、爵牀科、草の名、葉は楕圓形にして殆ど全邊を有し、花は穗狀に排列せり、花冠は白くして紅紫色を帶ぶ、一名、かぐらさう。

きつね—の—よめいり 狐嫁入 名 日の照るに係らず、雨のふること。

きつぱう 吉報 名 よきことの知らせ。

キッポン 名 動物 テナガザルの英名なり。

きーづまる 氣詰 ■ 氣がつまる、窮屈に感ず。
きつーもん 詰問 名 なじりて問ひただすこと。
きーづよし 氣强 形 氣丈夫なり、轉じて、情うすきをいふ。
きつれーがは 喜連川 名 地名 下野國鹽谷郡にある町の名、栃木縣の管轄に屬す、喜連川氏 名 古河公方義氏の後裔にして德川氏に至り、下野國の喜連川に封せられたり。
きーてい 起碇 名 船の出帆すること。
きーてい 旗亭 名 料理店、旅人宿、酒樓、などをいふ。
きーてい 規定 名 れきて、規則。
ぎーてい 議定 名 國政の評定に預かる官、明治元年置かる。
きてい-ゑき 規定液 名 化學 溶媒の一定量に試藥の等價量を溶解したる溶液をいふ、水酸化「ナトリウム」の四十瓦を一「リットル」の水に溶かしたるものの如し。
きてい-ようゑき 規定溶液 名 化學 規定液に同じ。
きてい-るゐ 奇蹄類 名 動物 有胎盤哺乳類、多くは大形の獸にして、四肢の拇指のみ非常に發達し、他は僅かに其痕狀をのこすに過ぎず、故に恰も只一拇指のみの觀あり此類は皆草食にして、門齒は上下に備はり、犬齒は小、臼齒は凹凸の咀嚼面を呈す、胃は單一にして盲腸大なり、うま、さい、など之に屬す。
きーてう 歸朝 名 外國より歸り來るをいふ。
ぎーてき 儀狄 名 人名 支那の夏時代の人、始めて酒をつくりたりといふ。
きてっくわう 鐵鑛 名 鑛物 赤鐵鑛の一種、金屬光澤にて、結晶は板狀なり。
きーてん 起點 名 物事の始まりの點。
きーてん 機轉 名 氣のきくこと、機敏なること、氣轉。
きーでん 貴殿 名 貴下にたなし。
ぎーてん 儀典 名 儀式に就きてのさだめ。
きでん-き 起電器 名 物理 Electric machine 多量の電氣を發生せしむる器械にして、摩擦によるものと、感應によるものとの二種あり、ラムスデンの發電器は前者に屬す、ウィムシャーストの發電器は後者に屬す。
きでん-たい 紀傳體 名 歷史の編纂法の一體、天皇皇后及諸名臣に就きて、一人毎に其傳記をかき列らねたるもの
きでん-だう 紀傳道 名 古の大學寮の一科、後に文學道と改む。
きーど 屹度 副 一、たちまちに、二、たしかに。
きーど 木戸 名 出入口、門。

ギド Guy, Guido 名 人名 一、フランスの將軍にて十字軍に從ひサラヂンに敗らる、一一八六—一一九二年の間イエルサレム王たりき、二、有名なるギド病院を倫敦に建てたる英國の書肆（西紀一六四五—一七二四）。
キート Quito 名 地名 南米エクアドルの首府、人口八萬餘、海拔九千呎の高處に在り火山の中心に位し地震の虞あり、一七九七年にも四萬人の死傷ありたり、住民の多數はインド人なり、有名なる火山コトパキシ、チンブラソ等は此附近にあり、（Q.あ79,Q.W.）。
きど-いろに-あらはれず 喜怒色に現はれず 同 心氣這大安淵にして、喜怒共に顏色に現はれず、平然たるをいふ。
きどう-ぐんしふ 機動演習 名 兵語 各種の兵より成りし軍隊が、よく地理を知らざる土地に於て行ふ演習。
ぎどう-さんし 儀同三司 名 官名、三司は三公にして、三公に同らはめの義なり。
きど-かういん 木戸孝允 名 人名、明治維新の元勳、舊長州藩士にして、夙に大義を唱へ、諸藩と連合して、遂に政權を奉還するに至らしめ、郡縣の基をたてぬ、明治政府に仕へて、大に維新の洪業をたすけ、八年參議に任せらるる十年五月卒す、年四十四。
き-どく 奇特 名 一、賞すべき行爲あるをいふ。
き-どく 危篤 名 病の爲めに死に瀕すること。
きどく-けん 既得權 名 法律の語 既に得たる權利。
きど-ぐち 木戸口 名 一、城戸口、城の門なり、二、通路又は芝居などの出入口。
ぎど-せん 木戸錢 名 興行物の見物料。
きどり-や 氣取屋 名 きどる人、俗にようだいぶる人。
ギドーレニ Guido Reni 名 人名 イタリアのボロニア派の畫家、（西紀一五七五—一六四二）。
き-な 幾那 名 藥の名 幾那樹より製せらる、解熱劑として用ひらる。
き-ない 畿內 名 山城、大和、河內、和泉、攝津の五國を總稱していふなり、五畿內。
きな-こ 黃粉 名 大豆をいり、舂にて挽き粉にせしもの
き-なし 氣無 名 思ひやりのなきこと。
きなしかろ-の-わうじ 木梨輕皇子 名 人名 允恭帝の皇太子たりしも、同母妹輕皇女と密通せしを以て時人服せず、伊豫溫泉に流さる。
キナバル Kinabalue 名 山名 ボルネオ島の最北端に在る最高峰、高さ一三〇〇〇乃至一四〇〇〇呎の間に在り。
きな-の-き 幾那樹 名 植物 茜草科、常綠木にして、葉は對生し光澤を有す、花は白又は帶紅色なり。

ぎ—なんたいるゐ 擬軟體類 名 動物「シャミセンガヒ」、「コケムシ」等此類に屬す、二枚の貝殼を背腹に有し外見軟體動物に類似するを以て此名あり、尤も內部は非常に異なり、「コケムシ」の如き岩石、木草等に固着し、石灰質の殼を分泌して其中に棲息するよりして見れば殆んど動物の觀を呈せざる程下等のものなり、此類は更に腕足類、苔蟲類の二小類に分ち、「シャミセンガヒ」、「ホウズキガヒ」は前者に、「コケムシ」は後者に屬す。

き—なふ 歸納 名 論理學の語 特殊の事實より一般の理論を推しだすをいふ、(演繹に對して)。

き—に—むく 氣向 名 心にかなふこと。

キニン Quinine 名 $C_{20}H_{24}N_2O_2$ 名種のキナ皮中に存在す、良好なる解熱、及び强壯劑なるを以て最も貴重なるものなり、水に溶けがたく、無水のものは百七十一度にて熔解す。

きぬ 絹 名 絹糸にて織りたるもの。

きぬ 衣 名 一、ころも、二、釉廣く、直衣の下より出づるまでに裾を長くせしもの。

きぬ—がさ 衣笠 名 傘の一種にして、長き柄を有し、其周圍に絹を張りたるもの。

きぬがさ—じやう 衣笠城 名 城名 相模國三浦郡衣笠村にあり、康平年間、三浦爲通始めて此處に城を築きぬ、今は僅かに其城趾を存するのみ。

きぬ—かつぎ 衣被 名 一、昔、身分ある女が、面部を他に見られざるために、頭に被りしもの、二、衣被をかぶりたる女。

きぬ—がは 鬼怒川 名 川名 下野國塩谷郡衣沼より發し南流して下總國に入り利根川に合す。

き—ぬけ 氣脫 名 はりあひぬけ、ぼんやりとなること。

きぬごし—どうふ 絹漉豆腐 名 絹の袋を以て漉したる豆腐、略して單にきぬごしともいふ。

きぬ—ざる 絹猴 名 動物 體頗る小、毛絹の如く、尾に黑白の輪斑あり、耳に白き長毛鉤狀に生ず、爪も亦鉤狀にして銳く猫に類す、南米に產する猴なり。

きぬ—た 砧 名 きぬいたの略にして、衣にすべき布を打つ木の塞なり、石にてつくれるもあり、(砧の音)。

きぬ—の—くび 衣頸 名 ねりとになし、古語。

きぬ—ばり 絹張 名 一、絹布にて張ること、二、絹布を張るべき板。

きね 杵 名 形 槌に似て、舂の中の物をつくに用ふるもの、多くは木にて作くる。

きぬ 宜彌 名 神に仕ふる女、はふりの類、古語。

ギニア Guinea 名 地名 北アフリカ南西岸に於ける一地方、英佛獨葡白の分領なり、(6,0N. 5,0W)。

キニアス Cineas 名 人名 エピロス王ピロスの顧問官。

き—ねい 歸寧 名 家に歸り、父母の安否を訪ふこと、俗に、さとがへり。

き—ねずみ 木鼠 名 動物、りす(栗鼠)におなじ。

きねずみ—どり 木鼠鳥 名 動物 鳥名、雀に似て、羽毛は、青灰色及び樺色なり、常に、山中に棲み、小虫を食ふ。

き—ねん 紀念 名 後の思ひ出に殘し置くもの、かたみ。

ぎ—ねん 疑念 名 疑はしく思ふこと。

きねん—さい 紀念祭 名 芽出度きことを忘れざるために毎年又は數年毎に、其事のありし日に行ふ祭をいふ。

きねん—び 紀念日 名 紀念の日。

きねん—ひ 紀念碑 名 紀念のために、後世に傳ふべき事項を彫りつけたるものをいふ。

きねや—かんごらう 杵屋勘五郎 名 人名 三味線の名人初の名を喜三郎といふ、大江戸歌舞伎三絃の祖、元祿十二年七月卒す、年八十一。

き—のう 氣囊 名 鳥類などの胸腔、腹腔などに存在する一種の膜囊なり、肺臟を經過して來る空氣は、此膜囊に入りて、躰を輕捷ならしめ、且つ血液氣化の作用を補ふ。

き—のう 機能 名 身體の內にある各部機關の活動する能力をいふ。

きの—え 甲 名 十干の一。

き—の—かは 紀の川 名 川名 大和國大臺原山より發し和歌山の西北に至りて海に入る、其上流を吉野川といふ。

き—の—くに 紀の國 名 國名 きいのくにに同じ。

きのくにや—ぶんざえもん 紀國屋文左衛門 名 人名 姓は五十嵐氏、幼名文吉、紀州加田浦の人なり、十八歲の時風波を犯して蜜柑を江戸に送り、忽ち巨萬の財を得たり、後江戸に大火起るや、木曾の材木を買收して又萬金を得たり、即、豪奢を極め、花街に遊んで金錢を散ずる土芥の如し、享保十九年四月卒す、年六十六、世に紀文大盡といふ。

き—の—こ 菌 名 植物 隱花植物なり、葉綠を有せず、同化作用をなす能はざるが故に、他に寄生して養分を仰ぐなり、まつたけ、しひたけ等此類に屬す。

き—の—こさみ 紀古佐美 名 人名 桓武天皇延曆十三年敕を奉して都を山城葛野郡宇太村に營む、光仁天皇の朝、藤原繼繩と共に蝦夷を征し、桓武天皇延曆七年之を再征す

き—の—こゆみ 紀小弓 名 人名 雄略天皇の九年、師を率ゐて新羅を征し大に之を破り其王を走らす、敵再び來るに及び利を失ひ尋で軍中に歿す。

きーのーじ　き字　名　きちがひ(氣違)の隱語、きしるし。

きのしたーじゅんあん　木下順庵　名　人名　儒者、名は貞幹、字は直夫、京都の人なり、幼にして聰明神童の名あり き、松永昌三の門に入りて性理の學を修む、天和二年將軍綱吉の召に應じて儒官となる、門人頗る多し、元祿十一年十二月歿す、年七十八。

きのしたーちやうせう　木下長嘯　名　人名、肥後守家定の長男、名は勝俊、豊臣秀吉に仕ふ、若狹國小濱城主なり、慶長五年の役、去就を決せざりしかば、亂平きて封を奪はれ、京都東山に潛居し、長嘯子と號す、和歌を咏じ風月を友とす、慶安三年六月卒す、年八十一。

きのしたーやゑもん　木下彌右衛門　名　人名　尾張中村の足輕、二兒を殘して早世す、長子は實に豊臣秀吉なり。

キノスケファレ　Kynoskephalai　名　地名　希臘のテッサリア州にあり、西紀前一一九七年、羅馬の將フラミニウスがマケドニア王を擊ち破りし地なり。

きーのーつらゆき　紀貫之　名　人名　有名なる歌人、かぬて書をよくす、延喜六年、御書所預となり、土佐守に累進し、天慶八年、從四位下木工權頭となり、九年卒す、醍醐天皇の勅命により、古今和歌集を撰せり。

きーのーはせな　紀長谷雄　名　人名　貞觀十八年、始めて文章生となり、累進して大學頭となる、延喜中、參議に任じ中納言に任せらる、十二年卒す、年六十八。

きのふ　昨日　名　今日の一日前の日、さくじつ。

きのふーけふ　昨日今日　名　一、昨日と今日と、二、近頃。

きーのーまま　着儘　名　着たまま。

きのまろーどの　木丸殿　名　材木を削らずして、きり出したるままのものにて、假りに築きたる宮殿。

きのみーきのまま　着身着儘　名　俗語　現在身につけて居るより外に、衣服を持たぬこと。

キノン　Quinone　$C_6H_4O_2$　名　化學　「アニリン」を重「クローム」酸加里と稀硫酸との作用にて酸化したる時生ず、黄色の結晶にて針狀或は柱狀なり、臭氣ありて特異の刺戟性あり水には溶解し難きも、「アルコール」「エーテル」には容易く溶解す、熔點百十六度にて美麗に昇華す。

きーのーめ　木芽　名　木の芽、このめ。

きのめーとうげ　木芽嶺　名　山名、越前國の南條郡と敦賀郡との境界にある山なり。

きのり　名　植物　地衣の一、盤桓山地方に產し、食用に供す。

きーのり　氣乘　名　興に乘ずること。

きーのーよしと　紀淑人　名　人名　中納言長谷雄の次子なり

河内守より轉じて、伊豫守となり、海賊を追捕す、藤原純友に輔けられて追捕の爲めに靈す。

きーのーなまろ　紀男麿　名　人名　欽明天皇の二十三年、新羅任那を侵す、男麿敕を奉じて大將軍として副將軍河邊瓊岳と共に、兵二萬を率ゐて之を征し、向ふ所皆捷ち遂に敵軍白旗を擧げて降る、此時敵計に陷り軍大に潰ゆ、男麿先づ歸り、瓊岳尋で敗軍を署して歸る、男麿は又蘇我馬子と共に物部守屋を倒せり。

きは　際　名　一、はて、かぎり、二、かたはら、三、時、四、身分、分際。

きーばう　既望　名　陰曆十六日の夜の月をいふ、既にもち(望)をすぎたりといふ意、赤壁賦「壬戌之秋七月既望」。

きーばう　希望　名　志し願ふこと、のぞみ、ねがひ。

きーばう　欺罔　名　あざむくこと、「欺罔天聽」。

ぎーばうしゆ　擬寶珠　名　憍の花の如き形したるものにして、橋の柱などの上に飾るなり。

きばうーほう　喜望峰　名　地名　亞弗利加の最南端にあり初は和蘭に屬せしが今は英領なり、西紀一四八六年、西班牙人バーソロミゥー、ヂアズなる人始めて此地を發見せりといふ、Cape of good hope.

きーはうやう　氣保養　名　遊山物見などして氣を慰むること、俗に、きはやうといふ。

きはーざは　際際　名　一、はるばると、二、くまぐま。

きーはく　稀薄　名　物理　液體又は氣體の密度の少きこと

ざはく　魏博　名　人名　今の直隸省大名府、代宗の初年此地に節度を置く。

きばしり　名　動物　鳴禽類の一種、嘴硬くして頭脊共に淡黄に、淡黑の斑點あり、腹胸は白く恰も鶉の如し。

きーはだ　黄蘗　名　植物　芸香科、草名、樹の內皮は黄色なり、藥用及び染料に供す、木材は種種の用に供せらる。

きはーだつ　際立　動　めだつ。

きーはつ　氣發　名　液體が火氣を加へざるも、自然に氣體に化すること、揮發。

きーばつ　奇拔　名　意外にして而かもすぐれたること。

きはつーゆ　揮發油　名　化學　不油「エーテル」の事なり。

きはーどし　際疾　形　際にて危きことにいふ。

きはまる　極　動　一、至極の義にて、限りに至る、果つ、などの義なり、二、決定す、きまる。

きはみ　極　名　きはまりの約、「あめつちのきはみ」。

きばーむしや　騎馬武者　名　馬に乘りたる武者、騎兵。

きーはん　軌範　名　方則なり、又、摸範の意、「文章軌範」

きーはん　羈絆　名　きづなにれなし。

きはめる 極 ㊀ 一、限、果、二、決定すること。

きはめ 斷目 ㊀ 境界、わかれめ。

きはめつくす 極盡 ㊁ 盡くすかたなくつくす。

きはもの 敷物 ㊀ 入用の節にのみ賣る物品。

きはものし 敷物師 ㊀ 一定の業なくして、敷物のみを賣りて生計を立つる術人。

きばや 氣早 ㊀ 一、短氣、二、短氣なる人。

きばらし 氣晴 ㊀ 鬱氣を散ずること、鬱散。

きばる 氣張 ㊁ 一、奮發す、二、はりつ。

きびし 忌憚 ㊀ 一、忌み憚ること、二、法律の語、訴訟人が判事又は檢事若くは書記の執務の業正を申請すること、是れ裁判の公正を期するために與へられし權利なり。

きび 黍 ㊀ 植物、禾本科、草名、高さ三尺許りに成長し小穗狀花序は圓きて下垂せる圓錐花序に排列す、葉は柔かくして廣し、其實は食用とす、五穀の一なり。

きび 鰭尾 ㊀ 鰭鳥の尾なり、先驅に從ふことを「鰭尾に附す」なといふ。

きびん 機微 ㊀ 氣運の變化する兆。

きびきび一ど 氣性氣緊 ㊁ てきぱきと思ひきりて。

きびし 嚴 ㊁ たゞしかなり、强し、俗に、きびしい。

きびす 踵 ㊀ くびすの轉、かかとにたなし。

きびすをめぐらす 踵返 ㊁ 後方へ歸ること、又、きびすをめぐらす、ともいふ。

きびたき ㊀ 動物、鳥名、ひたきの一種、ひたきよりも小さくして黃色なり、頭は黑く尾も赤黑し、其巢美なり。

きびつひこのみこと 吉備津彥命 ㊀ 人名、孝靈天皇の皇子、四道將軍の一人。

きびのにこきえ 吉備弟君 ㊀ 人名、雄略天皇の七年、百濟を征ぜし時、第二回の征軍、其將として援軍に渡りしも功なくして歸る。

きびのくに 吉備國 ㊀ 古の國名、現今の備前、備中、備後の三國及び美作國の總稱なり、天武十二年吉備を備前、備中、備後の三國に分たれ、和銅六年に備前の六郡をさきて美作を置かれたり。

きびのまび 吉備眞備 ㊀ 人名、本姓下道、元正帝の靈龜一年、遣唐留學生として支那に行く、彼の地にわたりて經史を修め、天平七年歸朝す、孝謙天皇朝の時、仕傳講たり、天平勝寶四年、遣唐副使となりて歸朝、正二位右大臣に榮進す、光仁天皇の寶龜六年に卒す、年八十二。

きびは一に 圖 幼くかよわくて、增銳「きびはきびはにたはしらましかば」。

キビリス Civilis Claudius ㊀ 人名、四紀第一世紀頃の獨乙の酋長、バタビア人を率ゐて蜂起し、頻りにローマ人を破り、眞國としてガリアに入り、ガリア獨立國を立てんとせしも、志と乖する能はざりき。

きふ 急 ㊀ 一、いそぎ、二、危急。

きふ 笈 ㊀ たびすりのこと。

きふ 寄附 ㊀ 金錢又は物品をたくること。

きふ 敬 ㊁ 一、位の高下を敬ふる時にいふ語、二、斬りたる首を敬ふる時に用ふる語、「首をきること三千級」。

きふ 岐阜 ㊀ 地名、もと美濃の口といふ、美濃國稻葉郡にある市街の名、岐阜縣の管轄に屬す、縣廳所在地なり、

きふう 氣風 ㊀ 性質、氣質。

きふかうしゃ 急行列車 ㊀ 急行する汽車にして、停車場に多く停止せざるなり。

きふかう 寄附行爲 ㊀ 法律の語、財團法人設立のために、自己の財産を無償にて處分する單獨行爲なり。

きふきふ 汲汲 ㊁㊀ 危く安からざる狀なり、「汲汲すとして危きかなと」。

きふきふ 汲汲 ㊁㊀ 或ることに心を傾くる狀。

きふきふ一じよりつのやう 急急如律令 ㊁ 叱咤の末に唱ふる語、速かにせよと命ぜられしの意にして、强制を迫ふ

ためにらふなり。

きふ一きん 給金 ㊀ 給料、雇人などの勞働の報酬として之に與ふる金。

きふ一さく 起伏 ㊀ 高低、「山岳起伏す」。

きふ一ず 屈伸 ㊀ 彎屈、伸縮などにたなし、從ひつくこと、まつらふこと。

きふく 忌服 ㊀ 喪にこもり居る間をいふ、例へば父母の忌五十日、服十三ヶ月、兄弟の忌二十日、服九十日の如し。

きふけきしゅつかう 急激昇降 ㊀ 地殼、火山の噴火若くは大地震に伴ふ急激なる土地の昇降。

きふ一けつ 泣血 ㊀ 悲みの極、涙の出づること血の如しといふ意、ちのなみだにたなし、「泣血三年」。

きふ一けん 岐阜縣 ㊀ 美濃及び飛彈の二國を管轄す、縣廳は美濃國岐阜市に在り。

きふ一じ 給仕 ㊀ 人の傍にありて、其人の用を弁ずもの。

きふし 五倍子 ㊀ 植物、ぬるでの木に生ずる虫の巢、內空にして中に細小なる虫蟲ゐ、乾して紛としたるものは、ふしの粉として墨を染むるに用ゐ又藥用とす。

きふしつ一そくちう 吸收作用 ㊀ 物理、固體及液體は共に氣體を吸收するの性質を有す、液體が吸收する氣體の量は

通常液體の溫度低きほど多く、又氣體の壓力大なれば、從つて吸收すること多きものとす。

きふ—しやう 急症 名 急病にたなし。

き—ぶしやう 氣無性 名 氣のひきたたぬをいふ。

きふ—じゆつ 救恤 名 救ふこと、あはれむこと。

きふ—しよ 急所 名 一、身體の中最も大切なる部分にして、之を傷けらるる時は生命にもかかはる所なり、二、弱點、「急所をつく」。

きふ—す 急須 名 陶器にてつくり、茶を入れ湯を加へて之を煎じ出す器なり。古は酒をあたためたりといふ。

きふ—すう 級數 名 數學、ある一定の方式によりて、連續する諸數をいふ、等差級數、等比級數などの別あり。

きふ—だい 及第 名 試驗に合格すること、(落第に對す)

きふちゆう—るゐ 吸蟲類 名 動物 他の動物の內臟又は體面に寄生するものにして、渦蟲類より生じたるものなり、口は盃狀肉質の壁を有し、他物によく吸着す、腹面には一つの吸盤あり、雌雄同體なり。

ぎふ—ちやうちん 岐阜提灯 名 岐阜より產出す、細骨にうす紙を張り、山水草花などの繪を畫けり、夏の夕軒端につるす。

キプチァク 欽察部 Kiptchak 名 部落の名、西紀十二世の頃、高加索山の西に居りしが、元の太祖西征の時哲別蓮不台の二將之を降せり、己にして太祖の長子朮赤に與へられぬ、後の金張國は此邊の地なり。

きふ—てい 泣涕 名 なみだを流して泣くこと。

きふ—てふ 名 動物 黑地に黃紋あり、前翅の黃色紋は、Y字形をなし。後翅の紋は紅色及藍色なり、「アゲハノテフ」に類し稍小なり。

き—ぶね 木舟 名 木をつみたる舟。

きふね—じんじや 貴船神社 名 官幣中社、山城國愛宕郡貴船に在り、水神岡象神を祭る、社殿は二ヶ所にあり、下の社、奧の社といふ。

きふ—ば 急場 名 急迫せるとき、せつぱつまれるとき。

きふ—ひ 給費 名 費用を給すること、「給費生」。

き—ぶん 奇聞 名 奇妙なる風說。

き—ぶん 氣分 名 一、心もち、氣もち、二、性質。

きふ—な—わふ 百笑 同 笑は書簒なり、師のあとに從ふこと厚きをいふ、轉じて遊學する意に用ふ。

キプロス Kypros (Cyprus) 名 地名 地中海の東部にある島にして、西紀一八七八年、土耳古より英國の手に歸したり、人口二十萬餘、知事ありて之を統治す。

き—べ 柵戶 名 王朝時代、東陲の夷因に備へんため設けたる一廓內の人民なり。

き—へい 騎兵 名 馬に乘りたる兵士、(砲兵、步兵、工兵などに對して)。

ぎ—へい 義兵 名 義のために起る軍、「義兵を擧ぐ」。

き—へん 木偏 名 漢字の偏の名。

き—べん 詭辯 名 詐りの辯舌をいふ、人を迷ひ易からしむる辯舌、「詭辯を弄す」。

きへ—ゆく 來經行 動 きへつつゆく、年月すぎゆく。

ギベリン Ghibellines 名 西紀十一世紀より十五世紀に渡り、ゲルマン皇帝を助けてゲルフ黨に反したる伊太利の政黨なり。

き—ぼ 規模 名 規は圓を正す器、模は書の下取りなり、故に制を立て、範を垂るる義なり。

きほう 氣胞 名 生理 肺臟內の氣管細枝の先端に在る囊ナを圍む毛細管內の血液中の炭酸瓦斯は入り來る空氣中の酸素と交換さるるなり。

き—ぼう 奇謀 名 他の思ひもよらぬ謀略。

ぎほう—れき 儀鳳曆 名 曆の一種、持統天皇の時に、始めて用ひられたるもの。

き—ぼく 龜卜 名 龜の甲にすじ目を入れ、之をやきて其のさけ方によりて吉凶を判斷するなり。

きほひ 競 名 一、きそひ、はりあふこと、二、威勢。

きほひ—うま 競馬 名 馬に乘り之を走らせて、到着の遲速をきそひ、勝負を決すること、くらべうま。

きほふ 競 動 きそふにたなし、他に負けじと爭ふこと。

き—ほん 基本 名 もとゐ、もとで。

きほん—きん 基本金 名 資本金、にたなし。

きほん—そしきけい 基本組織系 名 植物學の語、植物の體の表皮及び維管束系を除くの外、植物體の組織の總稱。

き—まぐれ 氣紛 名 氣の定まらぬこと。

き—まじめ 生眞面目 名 眞率 最もまじめなること。

き—まづし 形 心の面白からざることにいふ。

き—まへ 氣前 名 心ばへ。

き—まま 氣儘 名 一、思ふままにすること、二、我がまま、きすね。

きまん—めんちよ 期滿免除 名 法律の語、有罪の判決を與へられし犯人が、法律上の期限を經過して、刑の執行を免除せらるること。

きまり 極 名 一、決定 二、常例。

きまり—が—わるい 同 俗語 はづかしいにたなし。

きみ 君 名 一、天皇にたなし、二、主君、三、他人を呼ぶ語、四、遊女、「きみけいせい」。

きみ 公 名 古代のかばねの名、君の義なり。

きみ 黍 名 植物 一、きびにたなし、二、たうもろこし

き—み 氣味 名 一、氣もち、二、たもむき、けはひ。

きみ 君 代 對等の間柄に於て用ふる語、「君と僕」。

きみ—きみたらずとも—しん—しんたらざるべからず 君雖不君、臣不可以不臣 文 君が其本分を守らざることありとも、其臣は臣たるの義務をつくすを要すとの意なり。

きみこ—ひでたけ 吉彦秀武 名 人名 出羽の人、後三年の役、家衡を助け眞衡と討ち功ありし人なり。

き—みつ 機密 名 機事の秘密をいふ、「軍事の機密」。

きみやう—ちやうらい 歸命頂禮 句 佛教の名 念佛のときに唱ふる語。

ぎ—む 義務 名 一、人のつくすべき義理、二、法律の語 法律の強行する人々の行爲又は不行爲の責任なり。

き—むづかし 形 俗にきむづかしい。

きむら—さだゆき 木村貞行 名 人名 赤穗四十七士の一人、元祿十六年二月義に死す、年四十六。

きむら—しげなり 木村重成 名 人名 長門守と稱す、幼より豊臣秀頼に仕ふ。慶長十九年十月大阪冬の陣によく戰ひ、衆皆其勇を賞す、元和元年夏の役に戰死す、年二十一

きむら—じゆとく 木村壽德 名 人名 有名なる射術家、壽德流をはじむ、天正年間の人。

きん 金 名 一、金貨の略、二、通貨の總稱、三、鑛物、黄色の金屬にして延性展性に富む、酸類及び強熱に犯さるることなく、唯王水には溶解す、質柔軟なるが故に、銅若くば銀を混じて、貨幣又は裝飾品をつくる。

きん 斤 名 物の重さを量るに用ふる語。

ぎん 銀 名 一、銀貨の略、二、鑛物、白色の金屬にして延性展性に富む、電氣及び熱の良導體なり、空氣及び強熱に犯かさるることなし、銅と混じて貨幣及び裝飾品をつくる、但馬佐渡より最も多く産す。

ぎん 吟 名 聲を出して、うそぶくこと、「詩吟」。

きん—イオン 金イオン 名 化學 金は二種のイオンを生ず、一は一價、他は三價なり、性質は両者共未だ明かならず。

ぎん—イオン 銀イオン 名 化學 銀は只一つのイオンを生ず、一價にて無色、性質は銅及び水銀の一價のイオンに類す。

きんい—ぎよくしよく 錦衣玉食 句 衣服飲食に贅澤なること。

きんい—てう 金衣鳥 名 動物、うぐひすの異名、又、金衣公子とも書く。

きん—う 金烏 名 太陽の異名、「金烏玉兎」。

きん—うんも 金母 名 鑛物 黑雲母の一變種。

ぎん—うい 吟詠 名 詩歌をうたふこと。

きん—いう 緊要 名 最も大切なること、かなめ。

きんにち—び 金曜日 名 七曜(日、月、火、水、木、金、土)日の一にして、即、金曜にあたる日なり。

きんにふ—しふ 金葉集 名 歌集の名、十卷あり、崇德院の御代に、撰まれしものにして、撰者は源俊頼なり、金葉和歌集。

きんれうど 金幹耳朶 名 元太宗死し、西征の皆歸りしが拔都は、獨り其新領地に留り、諸屬國を鎭撫し、沒後四紀一二四三年ボルガ川の下流なる、サライに幾殿を立てたるを言ふ。

ぎん—が 銀河 名 あまのがはにたなし。

きん—かい 禁戒 名 いましめのたきて。

ぎん—かう 銀行 名 經濟、自己の計算及び危險に於て、信用取引に媒介することを其主たる職務とするものなり、即、預金、貸付、手形割引、爲替業務、其他手形代金の取立、證券委托販賣、貴重品の保護預、貨幣両替、地金銀賣買などを其業となす、又、特殊の銀行は特殊の業務を主として行ふことあり、即、日本銀行の兌換券發行に於ける、日本勸業銀行の不動産抵當の貸付に於ける、横濱正金銀行の内外國爲替に於けるが如し。

きん—がく 金額 名 きんだかにたなし。

きんかく—こう 金角港 名 港名 浦潮斯德の異名なり。

きんかく—じ 金閣寺 名 寺名 京都葛野郡衣笠村にあり足利義滿の建つる所、鹿苑寺といふ、金閣は三層樓にして方丈の西林泉の中に立つ、四壁みな金箔を塗り、結構美を極む、美彩今尚昭然たり。

ぎんかく—じ 銀閣寺 名 寺名 京都北淨土町にあり、慈照寺といふ、足利義政の建つる所なり、銀閣は二層より成る、竣功に先ち義政卒し、實際は銀箔を以て飾りしにあらず、庭園の清雅なる金閣寺に劣らず。

きん—かん 金柑 名 植物、芸香料、密柑の變種なり、葉は一個の小葉より成り、花は白色にして黄色の果實を生ず其大さ、なつめの如し、食するを得べし。

きん—がん 近眼 名 生理 眼の水晶恒レンズの凸出習慣となりて、復た元形に復することなく、遠方の物は判然と見得ざるなり、近視眼、ちかめ。

きんがん—きやう 近眼鏡 名 遠方のものが判然と見ゆるやうにつくりたるもの、近視眼の人の用ふるもの。

きん—からかは 金唐革 名 なめし革に、唐草などの模様

をれし出し、之に金漆を塗りしもの、箱などを張るに用ひらる。

きん—き 金氣 名 金は秋の氣、秋冷の意なり。

きん—き 欣喜 名 よろこび。

きん—き 近畿 名 一、畿内の近傍。二、宮城にちかきところ。

きん—き 錦旗 名 錦の御旗、天皇旗なり。

きんきす—わう 近貴須王 名 人ロ 百濟近肖古王の子なり、應神帝の時、使を日本に送り、論語千字文等を献じ日本の文學の基を開きし人なり。

きんきふ—わよくれい 緊急勅令 名 緊急の必要ある場合に、議會閉會中にて、之にはかるを得ざる時に發する勅令にして、法律に代るものなり、但、次の議會に提出して其承諾を經べきものとす。

キンキンナツス Cincinnatus 名 人名 羅馬の勇士なり西紀四五八年、羅馬兵がエキ軍のために死地に陷りしアルギツス山の重圍を解きし人なり。

きん—ぎよ 金魚 名 動物 魚類 鮒の變種なり、形は鮒に似て腹大に尾長し、尾は四岐せるものを最もよしとし、三岐は中にして鮒尾なるは下なり、體の色は、純紅、白紅白斑、黑斑などあり、種類甚だ多し、盆池に養ふて夏日の愛玩とす。

きん—ぎよく 金玉 名 一、金と玉と、二、貴きものを形容していふ「金玉の文字」。

きんぎよくきん 金玉均 名 人名 西紀一八八四年朝鮮の國論二派に分れし時、獨立黨の主領として、日本に依賴して支那の抑制を脫せんとし、反對の大官を殺し、日本兵を以て宮を衛る、王清軍に投じ、事敗れ日本に逃る、後機を見て國に歸らんとし上海に至りて暗殺せらる、時に西紀一八九四年なり。

きん—く 禁句 名 一、獸にいむべき語、二、人の感情を害すべき言語。

きん—ぐさり 金鎖 名 黃金にて作れる鎖。

きん—くん 禁軍 名 支那にて皇城を守る兵隊なり。

きん—くわ 金貨 名 金にて製造したる貨幣、我國の金貨は、二十圓、十圓、五圓の三種なり。

きん—くわ 近火 名 近所より出でたる火事なり。

ぎん—くわ 銀貨 名 銀にて鑄造したる貨幣、我國の銀貨は、五十錢、二十錢、拾錢の三種なり。

きんくわい—わかしふ 金槐和歌集 名 歌集の名、源實朝の和歌を集めたるものなり。

きんくわ—ぎよくでう 金科玉條 名 科も條も法律をいふ

きんぎよく、は貴重の意にして、貴ぶべき品しなの意。

きんくわ—ぼんわ 金貨本位 名 經濟 金貨を以て法定の貨幣となし、凡べての取引及び貸借は他に明示の約束なければ、必ず此貨幣を以てすべきことを定めたる制定なり、但、金貨本位制に於ても金貨のみ流通するにわらずして、金貨は唯本位貨として多額の支拂に用ひられ、小額の支拂には多くは補助貨を用ふるなり、之を合本位制といふ。

ぎんくわ—ぼんわ 銀貨本位 名 經濟、金貨本位とたなしわけにして、單に金貨に代ふに銀貨を以てするのみ。

きん—くわん 金環 名 黃金の輪、古代の裝飾品。

きんくわん—しよく 金環蝕 名 一種の日蝕にして、太陽の中心に月の影が入りて、其部分は暗くなり、太陽の周圍のみ環狀に殘るなり。

きんくわ—ざん 金華山 名 山名 陸前國牡鹿郡にあり。

きんくわざん—たき 金華山沖 名 沖の名 陸前の國の東方にあり。

きんけい—てう 錦鷄鳥 名 動物 雉子に似て頭部に鶏冠を戴き、全身綠紅茶黑などの色混じて頗る美麗なり、腹は緋にして尾は長し、にしきどり。

きんけい—の—ま 錦雞間 名 宮中にある室の名。

きんけいのま—ぎこう 錦雞間祗候 名 特に命せらるる官にして、錦雞間に祗候して諸間などに座するものなり。

きん—けつ 禁闕 名 皇居をいふ、禁裡、内裏。

きん—けつ 金穴 名 金滿家をいふ。

きんけつ—はつぱう—の—らん 甲子禁闕發砲の乱 名 元治の變とも言ふ、元治元年長藩が藩、會藩藩の奏により、入京を禁せられ、怒て官闕に直訴せんとし、遮られて、遂に皇居に發砲したり。

きん—げん 金言 名 貴きことば、格言にたなし。

きん—げん 謹嚴 名 嚴格にして、謹みぶかきこと。

きん—こ 禁錮 名 刑名 一定の期間牢に入れ置くこと。

きん—こ 金鼓 名 陣鉦及び陣太鼓。

きん—こ 金庫 名 一、貨幣を入れ置く倉庫、二。金山又は大切なる物品を入れ置きて、火災などを防ぐべき堅固なる箱。

きん—こ 光參 名 動物 沙嚢類、全身黃色にして外面に凸起物あり、肉は美味にして、陸奥北海道近海に産す。

きん—ごく 禁獄 名 刑名 牢獄に入れ置くこと。

きんこ—し 近古史 名 近古のことを記したる歴史。

きんこ—したん 近古史談 名 書名 上下二卷、大槻磐溪の著、漢文にて記したり。

きんご—ちゆうなごん 金吾中納言 名 人名 小早川秀秋

をいふ。

きん—こん　菌根　名　植物　菌類と共生する顯花植物の根なり、菌絲發達して根の周圍を包むものあり、松柏科に於けるが如し、或は菌絲、根の組織中に侵入し、其細胞内に位置を占むるものあり、闊科に於けるが如し。

きんこん—しき　金婚式　名　結婚後五十年にして、夫婦共に生存する時、之を祝ふ式。

ざんこん—しき　銀婚式　名　金婚式と同じわけにて、唯此の場合には二十五年目にして五十年目にわたす。

きん—ざ　金座　名　德川時代に金貨を鑄造せしところ。

ぎん—ざ　銀座　名　德川時代に銀貨を鑄造せしところ。

きん—さいばう　糎細胞　名　動物、海綿類の一個體をいふ　體の中央に一節ありて尖端に一鞭毛あり、之を動かして流れ來る食物を捕へ食す。

きん—さつ　禁札　名　禁示の條條をしるして立て置く札。

きんざん　金山　名　地名　清國奉天府開原縣の西北にあり　西紀一三八七年明將馮勝、藍玉等二十萬の兵を以て、脫古思帖木兒元汗の將納哈出を破りし所なり。

きんし　今齒　名　地名　今のビルマの東邊の地なり、元世祖の大理を征せし時、共に降服し、後明の初將藍玉、沐英等之を攻め、明の治下となしたり。

きん—し　金鵄　名　鳥の名　金色の鳶、神武天皇の大和へ攻め入られし時、其みはづに止まりしといふ靈鳥。

きん—し　金史　名　書名　二十一史の一、本紀、志、表、列傳合せて百三十五卷なり、一名、遼史、季思儀の撰。

きん—し　菌絲　名　植物、菌類の發育器官にして、地中に埋沒せる錯雜なる絲狀體なり。

きん—じ　近侍　名　一、近臣、二、こしもと。

きん—しう　錦繡　名　一、あやにしき、二、美服。

きんし—がん　近視眼　名　きんがんにたなし。

きん—じき　禁色　名　一、古代、許可なくしては着すること能はざりし衣服の色、即、深紅と深紫なり、二、中古より、あや織の衣服のことをいふ。

きんじき—せんげ　禁色宣下　名　宣下にて禁色を用ふることを許可せらるること。

きんし—くんしやう　金鵄勳章　名　軍功の顯著なる將士に賜はる勳章にして、功七級より功一級まであり、金鵄の摸樣あるにより、此名ある なり。

きんしつ—あいわず　琴瑟相和　文　夫婦の和合すること。

きんじつ—てん　近日點　名　天文　地球の軌道上にて、太陽に最近き點、長徑の一端なり、地球は通常一月二日此點に來る。

きんし—てう　禁止鳥　名　動物　樹木、作物等を食害する動物を捕食する等直接間接に人生に益をなすを以て、捕獲を禁止されたる鳥類なり、次の十一鳥なり、

ツル、ツバメ、ヒガラ、コガラ、シジフガラ、ゴジフガラ、エナガ、ミソサザエ、ホトトギス、カクコウ、サンコウテウ。

きんじ—とう　金字塔　名　ピラミッドを見よ。

きん—しん　近親　名　血すぢの近き親戚。

きん—しん　謹愼　名　一、つつしみて、さし控ふること、二、舊幕時代に士分以上のものに科せし刑、遠慮のややれもきものなり。

きんしん—しうちやう　錦心繡腸　同　風流韻事を事とせる人の心。

きん—しやう　襟章　名　軍服の襟に付くる制規の飾にして將官、佐官、尉官など其階級によりて、金線銀線などの種類あり、形も亦一定せず。

きん—じやう　今上　名　當代の天皇をいふ。

きん—じやう　金城　名　名古屋城の異名なり。

きんじやう—たうち　金城湯池　名　城郭の堅固なるをいふ　金城とは金にて作れる意、湯池とは熱湯を滿へたる壕の意

きん—しゆ　金主　名　資本主　資本を出す人。

きんしゆく—はんたう　緊縮半島　名　地文　土地の下降、若くば海の破壞作用にて生ずる半島なり、北米「ノヴスコチア」の如し、之は海水の剝蝕にて半島形に變せしなり。

きん—しよう　燎衝　名　醫學の語　身體の一部に熱を起して其部の官能に異常を來たすこと。

きんしようこわう　近肖古王　名　人名　百濟王契王の嗣なり、百濟は開國以來文字わらざりしが、王の時に至りて始めて書記あり。

きん—しよく　禁色　名　きんしきに同じ。

ぎん—しよく　銀燭　名　燈火のはなやかに輝くを形容していふ語なり。

きん—す　金子　名　かね、せに、金錢。

ぎん—す　銀子　名　きんすにたなし。

きん—せい　禁制　名　一、禁止したるもの、二、官より禁じたるもの、禁斷。

きん—せい　金星　名　星の名　內憑星に屬し、夕暮及び拂曉に現出す、俗に、宵の明星、明けの明星といふ、其軌道は地球と水星との中間に位し、二百二十四日を以て公轉す其自轉に關しては確たる測定なし、雰圍氣は極めて少し。

きんせい—きじん—でん　近世畸人傳　名　書名　伴蒿溪の

著なり、五卷あり、其時代の畸人の傳記凡そ百餘をのせり

きんせいたん 金聖嘆 名 人名 清朝の小說劇戲曲の批評家にして、水滸傳の批評は有名なるものなり。

ぎんーせかい 銀世界 名 雪のふりつもりたるさま、又は梅の花のさきみだれたる林のさまを、形容していふ語。

きんせきーがく 金石學 名 鑛物に關する學問なり。

きんせきーのーまじはり 金石交 同 友情の最もあつきをいふ。

きんせん 金川 名 大小二部に分れ、四川の西邊の土司なり、清高宗の時、大金川反し、傅恒等に平げられ、後又兩金川亂をなし、阿桂に平げられたり。

きんーせん 金錢 名 通用するかね、通貨。

きんちう 欽宗桓 名 人名 宋九代の帝なり、金軍に逼られて上皇と共に金軍に就く、後帝金主に詔書を宣して、異姓なる前の大宰相張邦昌を册して禁帝となす、金人二帝を伴ふて歸る、紹興三十一年、帝五國城に崩ず。

きんーちく 禁足 名 外出を禁ずること。

きんーぞく 金屬 名 金銀銅鐵などの如く、所謂金屬光を有し、電氣及び熱の良導體にして、展性延性を有し、又其酸化物は鹽基性を有するものの總稱なり。

きんぞくーくわうたく 金屬光澤 名 鑛物、金屬固有の光澤。

きんぞくーくわうぶつ 金屬鑛物 名 鑛物、金、銀、銅、錫、鉛、亞鉛等の如きものにて、多くは、酸素、硫素、硫黃アンチモニー等と化合して產出す。

きんぞくーげんそ 金屬元素 名 化學 主として鹽基を生成する元素なり、白金、金、銅、鐵、水銀、鉛、銀、亞鉛錫、ソヂウム、マグネシウム、アルミニウム、などなり。

きんーろしき 筋組織 名 生理 筋肉よりなる組織をいふ

きんーだ 勤惰 名 精勤なると怠惰なると。

きんーだい 金臺 名 黃金を臺として其上に錠金などを施し、又は之に種々の物を着すること。

ぎんーだい 銀臺 名 金臺にたなし、唯金に代ふるに銀を以てするの差異あるのみ。

きんーだち 公達 名 一、攝家、清華家の、然るべき公卿をさしていふ、二、身分高き家の男子をいふ、

きんだーへう 勤惰表 名 學校などにて職員生徒の勤惰をしるせるもの、出席簿。

きんーだん 禁斷 名 禁制 禁じたるわきて「殺生禁斷」。

きんちーさん 禁治產 名 法律の語、精神喪失の常況にある人にして、財產權の行使能力を禁ぜらるゝこと。

きんちーてん 近地點 名 天文 月の軌道の長徑の兩端中

最地球に近き方の點なり。

きんーちゆう 禁中 名 皇居 內裏、禁裡。

きんちよう 金帳 名 金幹耳朶を見よ。

きんーつば 金鍔 名 一、黃金にて作りたる刀の鍔、二、莫子の名、きんつばやきの略。

きんーてい 禁庭 名 きんちゆうにたなじ。

きんーでい 金泥 名 金箔を細粉にして、膠に浸したるもの、書畫に用ひらる。

ぎんーでい 銀泥 名 金泥と同樣、唯金に代ふるに銀を以てするの差異あるのみ。

きんていーしきよう 欽定四經 名 清の聖祖の御撰に係る周易折中、詩經、書經、春秋傳說彙纂の四書なり。

きんーてき 金的 名 弓術に用ふるまとの一種、金色の一小板の中央に、直徑三分位の圓をかきたるもの。

きんーてつ 金鐵 名 一、金と鐵と、二、堅固なる事にいふ。

きんーでん 金殿 名 極めて美麗なる家屋。

きんてんかんせい 欽天監正 名 官名 天文、測候の事抔を掌る支那の官名なり。

きんーと 筋肚 名 生理 筋の赤色の部分なり、筋の兩端は必ず白色の腱あり、筋中此腱以外の部分を筋肚といふ、筋の收縮は此部分のみの作用なり。

きんーとん 金團 名 料理の名 ながいも（又はさつまいも）を摺りおろして餡となし、栗、若くは慈姑を混したるもの。

キントラ Cintra 名 地名 葡萄牙の一市なり、一八〇八年佛將ジュノー、此地にて英軍に降り、其兵二萬一千と共に英船にて佛に送還せられし所なり。

キンナ Cinna 名 人名 羅馬の貴族、マリウスと友たりマリウスの死後、スルラを討たんとして毒手に死せり。

ぎんーなん 銀杏 名 植物 いてふの木の實。

きんーにく 筋肉 名 生理 主として骨の周圍に附着し、收縮によりて之を動かすものなり、其形紡錘形をなす

きんーばん 勤番 名 德川幕府の時、諸侯の參覲交代に從ひたる藩士の勤務を言ふ。

キンバーリー Kimberley 名 地名 ケープ、タウンの東北、グリクアランド、ウエストの首府なり、附近に金剛坑あり、人口約三萬、南亞弗利加內地の樞要なる市なり。

キンバーリー Kimberley 名 人名 英國自由黨派の政事家、外務次官たること二回、アイルランド總督となり、後、內大臣、殖民大臣、印度大臣、外務大臣、などに任せられたり、西紀一八二六年に生まる。

きんーば 金波 名 月光の映じて、金色に光る波。

きんぱくーけんでんき　金箔驗電器　名　物理　發電及び其電氣量の多少を驗する便利なる器械なり、卽硝子瓶の上部より金屬棒を垂き、其下端に二枚の金箔を垂れ、其上部には金屬の球又は板を附したるものなり、今發電體を其金屬球に觸るるときは、電氣忽ち棒より金箔に傳はり、金箔は互に相開くべし、其開き方の大小によりて發電の多少を量るなり。

きんーばん　勤番　名　德川時代に、遠國のものが、かはるがはる、勤にゆくこと。

きんぴーせう　禁祕抄　名　書名　順德院の撰、三卷あり、禁中の故實を詳細にしるされしもの。

きんーぴら　金平　名　極めて立派にして且强き物事の形容語なり。

きんぴらぼん　金平本　名　江戸時代の初めに出でし金平淨瑠璃の正本を言ふ。

きん-ふう　金風　名　あきかぜ、秋風にたなし。

きん-ふくりん　金覆輪　名　覆輪とは、細く緣を取りたるものをいふ、故に金覆輪といへば、金をかぶせたる覆輪の義なり。「金覆輪の鞍」。

きんぷーせん　金峰山　名　山名　大和國吉野郡にあり。

キンブリ　Cimbri　名　蠻族にして、西紀前二世世チュートン人と共にゴールに浸入し羅馬を擾ましたり、マリウスのために擊退せらる、ケルト人種にして、南部歐州に來りしものなり。

きん-べん　勤勉　名　つとめ、はねをり。

きんぼう-げ　毛茛　名　植物　毛茛科、有毒植物なり、一名、うまのあしがた。

きんまん-か　金滿家　名　富みたる人、ものもち。

ぎん-み　吟味　名　一、詩歌を吟して其妙味を味ふこと、二、罪をただすこと、三、花がるたの語。

きんみった　金密陀　名　化學　酸化鉛(所謂密陀僧)を强熱して熔融したる後、冷やして黃赤色の結晶質となしたるもの。

きん-みづひき　金水引　名　植物　薔薇科、草名、葉は不齊羽狀複葉にして、花は總狀花序に排列し、花瓣は五個ありて黃色なり、山椒に似て毛ある實を結ぶ、龍牙草。

きん-むく　金無垢　名　純粹の黃金、純金。

ぎん-むく　銀無垢　名　純銀。

きんぬい-ちく　金明竹　名　植物　金竹ともいふ、マダケの一種にて、幹黃色にして綠色の一道を有す。

きんぬい-てんわう　欽明天皇　名　人皇二十九代の天皇、

在位三十二年、御年六十二にて崩ず。

きん-ぬっき　金鍍金　名　眞鍮に金箔をやきつけしもの。

ぎん-ぬっき　銀鍍金　名　眞鍮に銀箔をやきつけしもの。

きん-もうる　名　織物の名　金糸と絹糸とに織りしもの。

きん-もつ　禁物　名　一、使用を禁止せられたるもの、二、好まぬもの、すかぬもの。

きん-もん　禁門　名　皇居の門、禁闕。

きん-ゆう　金融　名　かねまはり。

きんゆ-ほふ　均輸法　名　宋の神宗の熙寧二年、王安石が頒布したる新法にして、各地多く產する產物を朝廷に納めしめ、朝廷は之を產する少き地に賣り、商品の價を均しくせしめたる法なり。

きんよう-しふ　金葉集　名　崇德帝の大治元年、白河法皇の院宣により、源俊頼の撰したる歌集なり。

きん-らん　金襴　名　織物の名　錦の一種にして、緯に平金線を織りまぜて、摸樣をあらはしたるもの。

ぎん-らん　銀襴　名　金襴と同樣、銀糸を織りまぜしもの。

きんらん-の-ちぎり　金襴契　名　友人間の極めて親密なる交情をいふ、「金襴之交」。

きん-り　禁裡　名　きんちゆうにたなし。

きんりしよう　金履祥　名　人名　元の學者なり、著書、大學章句疏義、論孟集注考あり、仁山先生と稱せらる。

きんりよう　金陵　名　地名　江蘇省江寧府の舊名なり、明太祖、此地をとり、卽位す、後成祖都を燕京に移し、此地を南京と改む。

きん-れい　禁令　名　法律の語　禁止の法令。

きん-わう　勤王　文　王事に勤むることなり、信長の朝廷に忠を盡せし時此稱あり、德川幕府の末山縣大貳が皇室に盡し王事に勤むべきを唱ふ、之より勤王の語行はれたり。

きぬい-うらがき　記名裏書　名　法律の語　裏書讓受人を指定すること。

キヤメ　Kyme (Cimme)　名　地名　カンパニアの一市なり、昔は有名なる港なりしも、今は全く衰へたり、希臘の伊太利に於ける最古の殖民地なりといふ。

きーぬう　奇妙　名　一、立派なること、二、ふしぎ。

きも　肝　名　動物の腹中にありて、一種の液を出す臟腑、二、雄雄しき心。

きも-いり　肝煎　名　一、周旋する人、二、庄屋、名主、

きも-に-めいず　銘肝　動　深く心にしるして、忘れずとの意なり。

きも-ふとし　肝太　形　一、大膽、物事に驚かざるにいふ、二、橫着なるにいふ。

キーモン Cimon 名 人名 アテンの名將、西紀前四六六年、アテンとペルシヤとの戰爭に際し、其名を揚げたり、四六三年、タソスを征服せり、キプロスにて卒す。(西紀前五一〇—四四九年)。

き—もん 氣門 名 生理 昆虫類多足類の呼吸孔をいふ。

き—もん 鬼門 名 東北の方角にあたり、忌みさくべき方角なり、佛家の語。

ぎもん—だいめいし 疑問代名詞 名 問を發するに當りて其問ふべき事物を指示する代名詞、誰、何方などの類。

きも—な—つぶす 潰肝 同 甚だしく驚くさまを形容していふ句なり、きもをけすともいふ。

きやう 京 名 みやこにわなし。

きやう 卿 名 一、古代の八省の長官、二、三位以上の人

きやう 行 名 位高くして官卑きをいふ、之に反して、官高くして位卑しきものを守といふ。

きやう—たう 饗膳 名 もてなし、馳走。

きやう—たうばん 京大番 名 鎌倉幕府の時、西國の武士に課したる役にして、交番に在京し、闕を警衛したりしも邊境の事起り、遂に廢せらる。

きやう—か 狂歌 名 滑稽によみたる短歌なり。

きやう—かい 境界 名 さかひ。

ぎやう—かう 行幸 名 みゆきを見よ。

きやうかう—るゐ 胸甲類 名 動物、甲殼類の一種にして頭部と胸部と緊着して一の用をなす、腹部は八個の環節より成り、一環節毎に二個づつの肢を有す、歩脚は五對なり眼は複眼にして柄の末端にあり。

きやう—がーしま 經島 名 島名 攝津國の牛島、平清盛の築きしもの、一に築島ともいふ。

きやう—かたびら 經帷子 名 死者を葬送する時に、着せしむる衣なり。

きやう—き 强記 名 記臆のよきこと。

ぎやう—き 行基 名 人名 高僧、姓は高志、和泉國高島郡の人、四方を歴遊して、佛教を弘め、道を開き、橋を架して、民衆の便を計れること少からず、聖武天皇の殊寵を得て大僧正となり、後、行基大菩薩の稱號を賜ふ、天平二年二月寂す、年八十二。

ぎやう—ぎ 行儀 名 たちゐふるまひ、行狀。

ぎやう—ぎやうし 仰仰 形 仰山なり。

ぎやう—く 狂句 名 滑稽にものしたる俳句。

きやう—ぐう 境遇 名 境涯 しわはせ、めぐりわはせ。

きやうくわ—すゐげつ 鏡花水月 名 鏡にうつれる花、水にうつれる月、目に見ゆと雖も、實際手に取りがたきもののたとへ。

きやう—くわん 鄉關 名 生れたる土地、故鄉にわなし、「男子立志出鄉關」。

きやう—け 京家 名 藤原不比等の四男麿を以て祖とせる藤原氏の一派なり。

ぎやう—けい 行啓 名 皇后、皇太子のみゆき。

きやう—げん 狂言 名 一、能樂の幕あひに演ずる滑稽の藝、二、歌舞伎のしぐみ。

きやうこう—てんわう 慶光天皇 名 人名 光格天皇の御父典仁親王の御事なり、明治十七年勅諚なり。

きやうごく—うぢ 京極氏 名 姓名 宇多源氏、佐々木氏より分る、北朝に仕へ世々近江守たり。

きやうごく—げ 京極家 名 姓名 御子在家より出づ、歌學を以て朝に仕ふ、藤原爲教に至り、京極家と稱す、爲明に至りて家絶えたり。

きやうごく—たかきよ 京極高清 名 人名 近江領主京極高氏の後にして、勝秀の子なり、陪臣淺井賢政之を逐ふて湖北を領し六角氏に抗抗す、高清之と屢々戰ひて制する能はず、永正十四年卒す、年五十八。

きやうごく—たゐよ 京極爲世 名 人名 爲氏の子、累進して正二位權大納言に至り、延元三年薨ず、年八十九、最も和歌に巧にして、敕を奉じ、新後撰集、續千載集を撰びたり。

きやう—さう 競爭 名 互に負けしとあらそふこと。

ぎやう—さう 行草 名 漢字の書體の一、行書と草書との中間のかきぶり。

きやう—ざく 驚策 名 一、及第の義、二、推察。

きやう—さつ 驚殺 名 非常にたどろくこと。

きやうざん 京山 名 人名 戲作者、名は二樹、通稱は利一郎、後京山と改め、鐵硯堂と號す、安政五年九月卒す、年九十。

きやう—さん 强酸 名 化學 水溶液となりて多量の水素「イオン」を生ずる酸、鹽酸、硝酸、硫酸の如し。

きやう—じ 經師 名 一、經文をまき物などに貼ることを業とする人、二、今日は表具師の意に用ひらる。

ぎやう—じ 行司 名 相撲の勝負を見分くる役、又その人

ぎやう—じ 行事 名 事のまかなひをする役、又其の人、

きやう—しん 鏡心 名 物理 球面鏡の反射面の中心、

きやう—しん 强震 名 地文 舊き建築物を破損し、墻壁に龜裂を生じ、石燈を倒し、振子時計を停め、瓶水を溢出せしむる程の强さの地震をいふ。

ぎやう—しよ 行書 名 漢字の書體の一、楷書と草書との

間のかきぶり。

きやうしよく 京職 名 大寶令によりて制定せられ、左右あり、京師を分管し、市中の庶政を司る官なり。

ぎやうーずゐ 行水 名 一、身體をきよむるために洗ふこと、二、身體の汗を洗ひ去ること。

きやうーせい 強制 名 政府の權力を以て強ひ行ふこと。

きやうーせい 匡正 名 物事を正すをいふ、改良などの意匡も亦正すの義なり。

ぎやうーせい 行政 名 國家を統治するために、諸般の政務を施行するをいふ。

ぎやうせいーがく 行政學 名 法律學の一部、國家と法人との法律關係を研究する學問なり。

ぎやうせいーくわん 行政官 名 行政の局にあたる官。

ぎやうせいーさいばん 行政裁判 名 法律の語、行政處分に對する訴訟を裁判すること。

きやうーそう 競走 名 走りくらべ。

ぎやうそうん 行尊 名 人名 僧侶、保安中、天臺の座主となる、朱雀天皇の寵を得たり、長承四年二月寂す。

きやうーだい 兄弟 名 はらからにれなし。

きやうーぢく 鏡軸 名 物理 球面鏡の中心と球の中心とを連ねたる線。

ぎやうぢゆうーざぐわ 行住座臥 副 行くこと、止まること、座すること、臥すことの意にして、立居振舞をいふ、起居、動作、常時。

ぎやうーてん 仰天 名 甚しく驚くこと、身をそらす親。

きやうと 京都 名 地名 三大都の一、山城國愛宕葛野の二郡に跨る、之を二區に分ち、三條通以南を下京となし、其以北を上京とす、面積二方里餘、人口三十五萬餘あり、桓武天皇以來千〇七十四年間、代代の帝都たり、明治元年都を東京に移されたり、風光明媚にして見るべきの甚だ多く、舊内裏を始め有名なる神社佛閣校舎に遊あらず、帝國大學、第三高等學校、高等工藝學校などの官立學校あり、京都府廳所在地なり。

きやうどく 享禄 名 年號の名、後花園天皇の御代の年號紀元二千百十二年より二千百十四年まで。

ぎやうどく 行禄 名 地名 下總國東葛飾郡にあり、利根川の支流なる江戸川に沿ひ、鍛鐵を以て名あり、千葉縣の管轄に屬す。

きやうどーしゆごしよく 京都守護職 名 源頼朝始めて大江廣元、中原親能をして交々六波羅に居り、禁闕を守り、人民を統治せしむ、此時は職權は守護たりしも後實權採題に遷りたり、文久二年幕府又此職を置きて浪士の入京を禁し、關を守らしめ、五萬石を給したり、慶應の終之を廢したり。

きやうと-しよしだい 京都所司代 名 德川幕府の置きし職にして、禁裏仙洞の守護、公卿以下京都市民一切の事に關する庶政を掌る。

きやうと-ふ 京都府 名 山城、丹後、二國の全部と、丹波國南桑田、北桑田、天田、船井、何鹿の五郡とを管轄す、府廳は京都市にあり。

きやうーな 京菜 名 植物 ミヅナの事なり。

ぎやうーならべ 行並べ 名 物理 數個の電池の陰陽兩極を交互に連ねる排列法をいふ、縱の排列法ともいふ。

ぎやうーにんべん 行人偏 名 漢字の偏の名、彳字をいふ

きやうーねん 享年 名 世に生存せし年數、行年ともかく

きやうーばい 競賣 名 一定の期日に一定の場所に於て、多くの買手を競爭せしめ、其中最も高價なる申出をなしたる買手に買はしむる法なり。

きやうはう 享保 名 年號の名 仲御門天皇の御代の年號紀元二千三百七十六年より、二千三百九十五年まで。

きやうーはう 禮祿 名 むつきにれなし。

きやうばしーく 京橋區 名 地名 東京市十五區の一。

きやうーふう 驚風 名 病名 癇性の烈しきもの。

きやうーふう 強風 名 地文 大枝小幹を動かす風。

ぎやうぶーしやう 刑部省 名 古の八省の一。

きやうーぼく 喬木 名 松杉の如き長く高き樹木の總稱にして、南天躑躅の如き矮小なる植物に對していふなり。

きやうほーのーち 享保の治 名 中御門天皇の享保中、德川吉宗將軍たりし時、整政を改め、賢良を擧げ、文武を奬勵し、治大に擧る、故に此名あり。

きやうーやき 京燒 名 京都より産出する陶器類の總稱、清水燒、粟田燒、樂燒などの種類あり、野々村仁清の創始

きやうゆう 鄕勇 名 人民より組織する兵隊所謂國民軍なり、長髮賊の亂の時、曾國藩之を召集し、武昌漢陽を復したることあり。

きやうよみーどり 經讀鳥 名 動物 鶯の別名。

きやうろく 享祿 名 年號の名、後奈良天皇の御代の年號紀元二千八十年より、二千百九十一年まで。

きやうわ 享和 名 年號の名、光格天皇の御代の年號、紀元二千四百六十一年より、二千四百六十三年まで。

きやう-わらは 京童 名 みやこのわらは。

ぎやくーい 逆意 名 むほんの心、逆心。

きやくーか 却下 名 願ひ出でなどを戻さるること。

ぎやくーざん 逆産 名 子の生まるるとき、頭より出でず

して、他の部分より出づること。

きやく—しや 客車 名 瀛車の乘客を運搬する車。

ぎやく—しゆ 逆修 名 佛法の語にして、逆に冥福を修するをいふ、卽、少者死して老者が其後世の冥福を吊ふ如きをいふ。

きやく—しよく 脚色 名 狂言又は小說などのしぐみ。

ぎやく—せんぷう 逆旋風 名 地文 或る一地點にて、急激に高氣壓部の生じたる時起る風にて、旋風と全く方向反對なり。

きやく—どめ 客止 名 輿行物などの大入のため、後より來る客の入場を謝絕するをいふ。

ぎやく—はんたう 逆反應 名 化學 可逆反應の條を見よ

きやく—ぼん 脚本 名 芝居狂言のしぐみをかきしもの。

ぎやくりう—れいきやくき 逆流冷却器 名 化學 冷却器を立てたるものと同じ效用をなす冷却器。

ぎやくれいき 逆冷器 名 化學 逆流冷却器に同じ。

きや—しや 花車 名 容子のやさしきこと。

ギャースウッチントグラク 名 人名 印度の人にして、西紀一三二〇年奴隸より起り、トグラク朝を始め、法令、宗教を改革し、蒙古の侵略に備へ、國威を張りたり。

き—やみ 氣病 名 鬱したるよりおこる病氣。

きやーら 伽羅 名 一、極めて上品なる香の名、二、凡べて物事をほめていふ語。

き—やり 木遣 名 一、材木の運搬などに音頭を取りてはやすこと、二、きやりうたの略。

き—ゆ 覬覦 名 上位又は國などを覗ふこと。

きゆうにい 弓齊 名 人名 新羅王憲安の子にして、反王なり、兵を率ゐて東地を略し、都を鐵圓に置き、國を泰封と號す、後其將王建衆心を得て立つに及び、辰谷に逃れ、莽墳の民に害せられたり。

きゆう—くつ 窮屈 名 自由ならぬこと、氣づまり。

きゆうこう 歸有光 名 人名 明代の學者にして、鄉試より進士となり、長興知縣を授けられ、後右僕丞となり、內閣制敕房を掌る。

きゆうしゆう—スペクトル 吸收すべくとる 名 物理 Absorption spectrum 連續スペクトルを生ずべき光の、プリズムに達するに先ち、或る物體のために、其光の一部を吸收せられたる時、生ずる所のスペクトルなり。

きゆう—じゆつ 弓術 名 弓を射る術。

きゆうち—こもんくわん 宮中顧問官 名 明治十八年官制改革の時宮中に置かれ、帝室の百般の事を議定する官職なり。

キューバ Cuba 名 地名 西印度諸島中最大の島にして、長さ七百哩幅三百哩あり、もと西班牙領なりしが、今は北米合衆國保護の下にあり、砂糖烟草を産ず。

きゆう—ばん 吸盤 名 動物 タコの觸手の梳の如く、物體面に吸着して容易に離れざるものをいふ。

きゆうふく 邱福 名 人名 韃靼汗明の成祖の使者を殺せしかば、邱福に命じて之を討たしめしも、破れて遂に死せり。

ぎゆう—へい 義勇兵 名 自から進んで兵士となりしもの

きゆう—めい 窮命 名 非常に苦しき目にあふこと、

きーよ 毀譽 名 そしりと、はまれと。

きよ—いう 許由 名 人名 支那の堯帝が天下を讓らんといひしに、許由之を辭して、耳を汚がされたりとて、潁川に其の耳を洗へりといふ。

きよう 凶 名 うらかたのわるきこと、「吉凶」。

ぎよう 堯 名 人名 支那太古五帝の一にして、勵精治を致し、舜を擧げ後之に位を讓りたり、後世此治世を稱して堯舜の御世と云ふ。

ぎよう 鄴 名 地名 今の直隸省 彰德府にあり、五胡十六國の時、後趙回燕の都せし所にして、魏の時孝武帝、高歡に迫はれて、長安に奔りしかば、歡別に孝靜帝を立て、鄴に都せしめたり。

き—よう 器用 名 技藝にたくみなること。

ぎよーう 御宇 名 御代にたなし、治世の間。

ぎようかい—がん 凝灰岩 名 鑛物 火山破裂したる時、火口より噴出したる火山岩の片碎より成れる岩の總稱。

ぎようかい—はう 凝灰峯 名 地文 火山の灰及砂礫の、熱水にて凝結せられたるもの、多少成層し、通常十二三度の傾斜をなす。

きよう—かく 胸隔 名 むねにたなし。

きよう—かく 恐嚇 名 たどしたびやかすこと。

きようかんせん 姜甘蕾 名 人名 高麗の名將なり、遼の聖宗が、高麗の江東六州を還さざるを怒り、之を征せし時遼軍十萬の大兵を率、陀二河に破りたる人なり。

きよう—きふ 供給 名 他人のもとめに備ふる意、(需求に對する語なり)。

きよう—きよう—と 恂恂 副 驚がしきにいふ、「物情洶洶」

きよう—きよう—と 兢兢 副 わそるるさまにいふ。

ぎよう—けつ Frieezing 名 物理 凝固を見よ。

きやう—けつ Condense 名 物理 氣體の液化すること。

きよう—こ 凝固 名 物理 熱によりて溶解せし物體が、冷却して復た固體となること。

きょう—こ 凝固 Coagulation 名 生理 血液の固結するに用ゆる語。

きょう—こう 峽江 名 地文 絶壁をなせる海岸の細長く陸地に灣入するもの。

きょうこう—し 姜黃紙 名 化學 「きょうわうし」に同じ

ぎょうこ—てん 凝固點 名 物理 液體の固體に變ずるとき、卽、凝固する場合に、其時の溫度を凝固點といふ。

きょう—さく 凶作 名 農作物の充分に成熟せぬこと。

きょうさ—にうとうきん 胸鎖乳頭筋 名 生理 胸骨、鎖骨と顳顬骨の乳頭突起との間に在る筋、左右同時に收縮すれば頭を俯し、交互に收縮すれば、左或は右向をなす。

きょう—さん 胸算 名 むなざんよう、成算。

ぎょうしふ—りょく 凝集力 名 物理 同質の分子互に相牽引し、物體の各部離散せずして其形狀を保たしむる力。

きょうしんわう 恭親王奕訢 名 人名 清文宗の弟なり、西紀一八六〇年英佛の聯合軍が京城に入りて、文宗は熱河に奔りし時、京を留守し、尋で英佛と和議を結ぶに盡力せり。

きょう—しゅく 恐縮 名 深くかしこまること。

きょうじょうわう 恭讓王 名 人名 高麗三十四代の王なり。

きょう—ず 興 圖 面白く思ふ、うかれ樂しむ「笑ひ興ず」

きょう—せい 共生 名 植物 或る種の植物が全く種類を異にせる他の生物と同棲し相共に生活を營むをいふ。

きょう—せい 共棲 名 動物 僧老同穴の如く、二種の動物互に害を及ぼすことなく共同して棲息するをいふ。

ぎょう—ちう 蟯虫 名 動物 回虫類、大さ一分五厘乃至三分、人の大腸中に棲息す。就寢後溫暖となる頃、肛門より出でて徘徊するを以て、劇痒を感じ、不眠症に陷り、或は精神病を誘起す。

きょう—つい 胸椎 名 生理 脊椎骨の一部にて胸部にありて十二個の骨より成る、肋骨を附屬す。

きょうてい 恭帝德文 名 人名 司馬氏、東晉最後の帝なり、劉裕の骨を進めて宋王となせしが、勢を得て帝に迫りて、位を禪らしむ、在位一年、後裕の爲めに弑せらる。

きょうてい 恭帝侑 名 人名 隋三代の帝、年十三にして李淵に擁せられ卽位す、半年にして位を唐に禪り、酆國公となる、年十五にして崩ず。

きょうてい 恭帝侗 名 人名 隋四代の帝なり。

きょうてい 恭帝 名 人名 五代周三代の帝なり。

きょうてい 恭帝廞 名 人名 西魏九代の帝にして、梁を討ち其主を降す、帝位を宇文泰の子周公に讓りて殂す。

きょうてい 恭帝顯 名 人名 宋十六代の帝にして、四藏にして卽位す、蒙古の兵に迫られ、衆と共に北に去る、後元主愈必烈、帝を以て衛國公となせり。

きょう—ど 匈奴 名 太古游牧の民にして、現今の西比利亞地方をも有せしが、晉の初めに至りて滅びぬ、匈奴は淺の代に始めて稱せられし名なり。

きょう—どう 鏡銅 名 化學 銅六十七、錫三十三の割合に混じたる合金、鏡を製するに用ふ。

きょうどう—こっかく 共同骨骼 名 動物 數多の個體が群體をなして形成する骨骼をいふ、珊瑚、海綿の骨骼の如し。

きょうどう—にく 共同肉 名 動物 動物の肉にて群體をなし共同して生活するをいふ、珊瑚、海錦の肉の如し。

きょうびんわう 恭愍王諱 名 人名 顯古、又祺蒙古、又伯顏、帖木兒忠惠王の母弟なり、忠肅王十七年に生れ、江君に封せられ、後國王となる、在位二十三年にして薨ず。

きょう—へき 胸壁 名 とりでにたなし。

きょう—まく 瞥膜 名 生理 眼球の前方以外の大部分の外面を被ふ強固なる膜。

きょう—まく 胸膜 名 生理 肋膜に同じ、肋骨の裏面を被ふ薄膜。

きょう—めい 共鳴 名 物理 靜止せる發音體が自己の振動數と同振動の音を受くる時誘はれて鳴り出す現象をいふ

きょうやく—しょうてん 名 物理 共軛點を見よ。

きょうやく—てん 共軛點 名 物理 球面鏡又はレンズの軸上の一點Aより發する光線は球面に依りて反射せられ、若くばレンズにて曲折せられ、軸上の他點Bに集合す、反對にBより發したる光線はAに集合す、斯くの如き關係ある二點を球面鏡又はレンズの共軛焦點又は共軛點と稱す。

きょうわう—し 姜黃紙 名 化學 姜黃の根の汁にて染めたる紙、色黃、アルカリにて褐赤色に變ずるを以て、アルカリの試驗紙とす。

きょうわ—せいぢ 共和政治 名 民衆の中より大統領を擁出し、其任期を定めて、之に國家の政務を委托する政治、現今の米國及び佛國は卽此の政治なり。

きょいん 許遠 名 人名 唐代の忠臣なり、玄宗帝に召されて睢陽の太守となり、安祿山の軍を防ぎしも、力及ばずして死せり。

ぎょ—か 漁獸 名 漁夫のうたふ獸。

きょ—か 巨鍋 名 地文 地壺に同じ。

きょかい—かいきせん 巨蟹回歸線 名 地文 北回歸線に同じ。

きよ—がう 傲傲 名 たかぶり高ぶること。
きよ—かつ 虛喝 名 虛勢をはりておどすこと。
きよ—き 獻欷 名 すすりなき、悲泣のさまにいふ語。
きよ—きん 醵金 名 金を募集すること。
きよく 曲 名 一、うた、二、手品、曲馬などの技曲、三、興があること、四、正しからぬこと、「曲直」。
きよく 極 名 一、きはまり、二、地軸の兩端、「南極」又は「北極」。
きよく 局 名 一、官省の區別の局、二、地位、「當局者」。
きよく 棘 名 動物 動物體面に在る棘狀物、比較的堅硬なり、ウニの刺の如し。
ぎよく 玉 名 支那、印度等東洋諸國にて、玉とて古より刀劍什器等の飾、耳の飾等を製して貴重するものなり、寶玉の本なり、之は鎭石の一種なる軟玉 Jadeite か角閃石の一種硬玉 Nephrite なり。
きよくがく—あせい 曲學阿世 同 學說を曲解して、世俗の意を迎ふること。
ぎよく—がん 玉顏 名 玉の如く美しき顏。
きよくぐわい—ちゆうりつ 局外中立 名 他國と他國との間に戰爭などの起りしとき、其いづれにも屬せざること。
きよく—くわう 極光 名 地文 Aurora 極地方にあらはるる一種の光の現象なり、其形は一定せざれども、多くは弓形なり、色は概ね白又は黃色にして稀には赤色なることあり、其出現の原因は未だ判明せず恐らくは電用の作用により起るものならんといふ、磁氣嵐は此の現出に伴ふこと多し。
きよく—げん 極言 名 言葉を極めていさむること。
ぎよく—ざ 玉座 名 天皇の御座所。
ぎよくさん—くづる 玉山崩る 同 玉山は人品の高潔なるに譬ふ、醴の酒に醉ひてくづるるをいふ。
きよくじつ—しやう 旭日章 名 勳章の名。
ぎよく—ずゐ 玉髓 名 鑛物、石英の一種なり。
きよくすゐ—の—ゑん 曲水宴 名 古 三月三日に、宮中にて行ひし公事の名、顯宗天皇の時より始まれりといふ、元來、支那の文人の始めしものにして、流水の邊に居て、水面に杯をうかべ、其の杯が自己の前を流れ過ぎざる內に詩を賦し、其杯を取りて酒を飲む一種の遊びなり。
きよく—せき 跼蹐 名 せぐくまり、ぬき足すること。
ぎよく—せき 玉石 名 玉と石と、轉じて、貴きものと然からざるものと、「玉石混淆」。

ぎよく—たい 玉體 名 天皇の御身體を敬していふ語。
きよくぢよじよう 曲女城 名 地名 今の西北州のカノージにして、笈多朝の都なり。
きよくてい—ばきん 曲亭馬琴 名 人名 本名は瀧澤清左衛門、江戸の人、有名なる小說家にして、著作頗る多し、その中、八犬傳最も名あり、嘉永元年十一月卒す年八十二
ぎよくてき—せき 玉滴石 名 鑛物 蛋白石の亞種の一、溫泉の堆積物中に現はる、無色透明、强き玻璃光澤、魚卵狀を呈す。
きよく—ど 極度 名 ゆきづまり、どんづまり、極點。
ぎよく—と 玉兎 名 つき(月)の異名。
きよく—ひ 曲庇 名 事實をまげて、曲者をかばふこと。
きよくひ—どうぶつ 棘皮動物 名 動物、うに、ひとで。なまこ等の諸類を含む一門にして、皆海產なり、成長せるものは星形、球形、又は蠕虫狀にして、檢石灰質の骨片を有し、其外面には堅き棘を有す、故に此名あり。
きよくふ 曲阜 名 地名 清國山東省兗州府曲阜縣の東十里にあり。
きよくぶ—でんりゆう 局部電流 名 物理 電池用の通常の亞鉛は鐵鉛砒素等を含有するを以て、電池にて亞鉛、稀硫酸中にあれば、亞鉛と上記の金屬と接續したる理なるにより其間に電流を生ず、此電流を局部電流といふ。
ぎよく—へん 玉篇 名 書名 支那、梁の大同年間に於ける顧野王の原著にして、和訓を附したるもの、二十卷。
ぎよくよう—しふ 玉葉集 名 正和元年京極爲兼が伏見上皇の敕を奉じて、萬葉以降の集に就て撰したる歌集なり。
ぎよく—らん 玉闌 名 人名 京都の人、壽伯池野大雅の妻、山水畫及び和歌をよくす、夫妻並び稱せらる、天明四年九月卒す、年七十八。
きよくりつ—はんけい 曲率半徑 名 物理 球面鏡の球面をなす所の球の半徑。
ぎよく—ろう 玉樓 名 玉の如く立派なる高殿、「金殿玉樓」
きよく—くわい 巨魁 名 惡黨の首領をいふ。
きよく—ゐ 極位 名 此上なき位、從一位の稱。
きよけい—ずゐらい 魚形水雷 名 水雷の一種、外部は金屬板を以て包み、內部は前頭に爆發藥を、中央に壓搾せる空氣を、後尾に機關を裝置せり、其名の如く形狀魚に類し迅速に水中を進行して、敵艦をうち破るの用をなす。
きよ—げつ 去月 名 先月、去ぬる月。
きよ—げん 虛言 名 うそいつはり、そらごと。
きよこう 許衡 名 人名 元の學者にして、程朱の學を講じたり、世祖に召されて累進し、文帝の意に從ひ大學を開

き、其教授を司る、永久十七年新曆を作り天下に頒つ、其六月疾みて卒す、年七十三。

きょ—こつ 距骨 名 生理 足頸にある骨、脛骨、跟骨及附骨の間に挾まる。

きょさき 清崎 名 地名 越後國頸城郡にあり、新潟縣の管轄に屬す、松平氏の舊領地なり。

きょ—じう 去就 名 身の進退をさだむること。

ざよし—たいふ 御史大夫 名 官名 大納言にたなし。

きょ—じつ 虛實 名 まことそらごと、事實の有無。

きょ—じん 擧人 名 貢擧の條を見よ。

きょしん 許愼 名 人名 召陵の人なり、學博し、著述に『說文解字』、『說文解字大篇』あり。

きょじん—ふ 巨人釜 名 地文 河水の流れ激烈なる時、水底に穿つ甕穴をいふ、又甌穴ともいふ。

きょ—しやう 去聲 名 漢字の四聲の一。

きょ—しよう 礁礁 名 地文 珊瑚礁の一種、自然の島の周圍に接して存す、島礁の間に水を湛てず。

きょしよう—てん 虛焦點 名 物理 焦點の條を見よ。

ざよす 馭國 一、馮を取扱ふ、二、下を治むるにいふ。

きょす—じよう 清州城 名 尾張 西春日井郡清須町にあり初め斯波氏の有なりしも、後信長に歸し、小牧、長久手の亂後秀吉之を領す、秀吉福島正則を清州に封ず、後家康の四子忠吉の領となる、弟義直つぎたりしが、名古屋に移りてより以來、清州城廢す。

きょ—ぞう 虛像 名 物理 凹面鏡の焦點以内に實物のある場合には、其より發する光線は反射の後發散すと雖も、是等の光線を逆に後に引き延すときは、鏡面の後に於て、一の像を形成すべし、之を虛像と名づく。

きょ—ろく 虛足 名 動物 下等動物が任意の體部より、一時肉部を突起し、以て其方角に身體を移動せしむるをいふ、例へば、アミーバのごとし。

きょ—どう 擧動 名 たちゐ、ふるまひ、所作。

きょ—ねん 去年 名 前年、こゝ、昨年、去歲。

きょ—はく 巨擘 名 一、拇指 二、轉じて、かしらの意

きょはら—いへひら 清原家衡 名 人名 眞衡の異母弟なり、義家奧羽を征するや、家衡は清衡と共に義家眞衡を討つ、義家出羽に入り、此二人を攻む、武衡來て家衡を助け金澤の柵によりて能く戰ふ、寛治二年官軍之を圍む、城陷り、十一月皆斬に處せらる。

きょはら—さねひら 清原眞衡 名 人名 武貞の子、源義家と共に家衡武衡の亂を平定す。

きょはら—たけさだ 清原武貞 名 人名 武則の子、康平五年父と共に安倍貞任を討ち功を擧ぐ。

きょはら—たけのり 清原武則 名 人名 出羽山形の俘囚の長なり、源頼義の安倍貞任を討ちて累年利あらざるや、武則兄弟を召す、康平五年、武則兵を率ゐて官軍に投じ、終に貞任を滅す、朝廷其功を以て從五位上鎭守府將軍とす

きょはら—たけひら 清原武衡 名 人名 武則の子なり、清原家衡の條參照。

きょはら—なつの 清原夏野 名 人名 小倉土の第五子なり、延曆二十三年內舍人となり、累進して近衛大將右大臣となる、淳和帝の勅命により、南淵弘貞等と共に、令義解を撰定して奉る、承和四年卒す、年五十六、世に雙岡の大臣、又は北寺大臣と稱す。

きょ—ばらひ 清祓 名 古 十二月末日に、其年內の穢を祓ふために、禁中にて行はれたる式なり。

きょはら—もとすけ 清原元輔 名 人名 有名なる歌人、後撰和歌集を撰す、正曆元年卒す、年八十三。

きょはら—よりなり 清原賴業 名 人名 明法博士なり、明經の道を兼ね、博學事理に通ず、宋國嘗て白河法皇に書を賜りて、日本國王に賜ふとの文あり、賴業其禮を失ふを以て返牒せざるべきを奏す、賴業又中庸を表出して禮記を讀む、宋にありて朱子出で、其所見暗合せり。

ざよふ—の—り 漁父之利 同 第三者の利となること。

きょみ—が—せき 清見關 名 關所の名 清見潟の近傍にありしもの。

きょみ—がた 清見潟 名 潟の名 駿河國庵原郡興津の海岸をいふ、三保の松原と相對し、海道風指の勝地なり。

きょみづ—でら 清水寺 名 寺の名 京都東山の高地にあり、清水の觀音といふ、音羽の瀧と稱する瀧布あり、境內風致に富み近年楓樹を多く移植して、新高尾と稱せらる、

きょみはら—の—みや 淨見原宮 名 大和國高市郡飛鳥村にあり、天武天皇の宮なり。

きょむ—どう 虛無黨 名 黨名 Nihilist 從來の國家及び宗教の組織を根本より破壞し、一の新社會をつくらんとする徒黨なり、西紀一八七二年、露國に弘まり、其後同國政府は之が壓迫につとむと雖も、何等の効果なし。

きょ—めい 虛名 名 實際にそはざる名、むなしき名。

ぎょ—めい 御名 名 天皇の御名。

きょもと—ゐんじゆさい 清元延壽齋 名 人名 俗稱は岡村吉五郎、寛政六年、富本延壽齋の門に入り、遂に一派の曲節を始めたり、文政八年五月、人に殺さる、年四十九、

きょもと—ぶし 清元節 名 元祿以後行はれし俗曲の一種

きょ—らい 去來 名 往來すること。

きらく 氣樂 図 一、心やすきこと、二、乞食をいふ、や隱居後の方言。

きらびーやかーに 壯麗 図 きらきらしく美しきにいふ語。

きらーぼし 煌星 図 一、星のきらきらうつと輝やくをいふ、二、多人數が列座して美くしきさまにいふ、「銀羅星の如く居なら ん」。

きらーみつまた 吉貞滿貞 図 人名 參河吉貞の人、世々足利氏に仕ふ、正平七年帝男山に御す、滿貞信濃國の兵を率ゐ、後村朝に降り、細川清氏を破る、後吉野國清の京國に走るを要擊し、敗れて義詮に降り、僧となる。

キラン Ghilan 図 地名 裏海とエルブルス山脈との間にあるペルシア西北部の一州、人口二十萬余あり、(32,15N 21,42E)°

きらーよしなが 吉貞義長 図 人名 上野介と稱す、性貪欲にして、淺野長矩のために辱られしも、僅かに免れしが、元祿十五年十二月、赤穂の遺臣大石良雄等所謂義士のために殺されたり。

きらら 雲母 図 鑛物 板狀六角柱狀の結晶をなし、其光澤眞珠の如くにして、紙の如く薄く剝離するの性あり、而して剝片は彈力性を有す、雲母に二種あり、一は白雲母と稱して其色白く、一は黑雲母と稱し其色黑褐なり、共に花崗石中に存す、ウラル、東印度、等より産出するもの大なる結晶をなす。

きらーゐーかざる 飾瓔珞 回 かざりとはふこと、又、瓔珞をはる、瓔珞をみがく、などいふ。

きり 桐 図 植物 木の名、支那有、幹は二丈餘の高さに達し、葉は掌圓小鑑形をなす、四五月の頃、紫色又は白色の花を開く、夢は五裂し、花冠は鐘狀をなし、蒴卵の如き實を結び、成熟すれば兩裂して、夥多の小扁子を散布す、此木は成長速かにして、材は机本箱等諸々などの製作に用ふ。

きり 霧 図 地文 雲の低く地面に接して生ずるもの。

きーり 義理 図 一、人の行ふべき道、二、わけ。

キリク Giljak 図 樺太より黑龍江沿岸に至る間に住する人種、漁業、狩獵を業とす、大約八千あり。

きり一あさ 桐麻 図 植物 草名 いちびにたとし。

きり一いつぺん 義理一片 図 義理の外は、決して何物をも顧みざること。

きーりう 寄留 図 原籍地以外の地に住むこと。

キリーキア Kilikia 図 地名 小亞細亞の西南にある州の名なり、タウルス山脈の南、東シリアに接し、西南は海に臨む、高原とタウルスとを稱す。

きり一きん 切金 図 一、月賦にて其金の返濟を受くること、二、賦金のうち、借り主に出したる殘部を受取ること、三、賦金のうち、借り主に出したる殘部を受取ること、

きりぎりす 蟋蟀 図 動物 直翅類、農名、綠色又は褐色にして、觸角長く、前翅に濃褐の斑紋あり。

きり一きり一と 図 一、しまうつたと、二、とくとと。

きり一こじやう 切口上 図 話の一句一句が判然と聞ゆること。

きりさげ一がみ 切下髮 図 夫に先立たれたる妻のゆふもの、髮を束ねて切り下げたるもの。

キリーシア Greece 希臘 図 國名 バルカン半島の一部にして、羅馬以前にありて榮ゆる盛なりしも、其後、羅馬人、土耳古人の蹂躪する所となり、西紀一八三〇年、獨立國となれり、面積四二〇〇方哩、人口二百萬あり。

キリシアーカトリック 希臘正教 図 羅馬教會派に對してコンスタンチノプル教會派と云ふ、七二六年東羅馬帝レオ鳳像崇拜を禁ぜしに、羅馬法王之に反し、基督教は前記東西二派に分れたるなり。

きりしあーしたいさい 希臘四大祭 図 オリンピア祭、ピチアン祭、イスミアン祭、ネメアン祭を云ふ。

きりしあーしちけんじん 希臘七賢人 図 タレース（天文家且哲學者）、ソロン（雅典の立法者）、ピタコス（立法者）、ペリアンデル（僭主）、ビアス（詩人）、キーロン（政治家、

クレヰプロス(僭主)の七人を云ふ。

ざりしあ—しゆう 希臘宗 名 一〇五四年羅馬教會より分れたる教會なり。

きりしたん 切支丹 名 英語の Christian の訛、室町時代より、我國に入り來りし耶蘇天主教のことなり、天草の亂後、德川幕府は之を嚴禁せり。

きりしたん—ころび 切支丹轉 名 耶蘇改宗の事なり、寛永年間信者多かりしを以て幕府改宗に力めたり、改宗をコロビといふは、大久保忠隣京都にて信者を改宗せしめんとて俵に入れコロヤコロヤと謳賣したるによる、多くは苦に堪ゐ兼ねて轉びたり、轉ばざるものは改宗の意なきものなり。

きりしたん—ろう 切支丹牢 名 正保三年、切支丹信者を投獄せんとて江戸小日向に造りたる牢にて、今の切支丹坂の邊に在りたり、非常に嚴重に作り、外圍は堤塘を以て繞らし、石垣一丈二尺、方四十三間、堀の高さ一丈二尺、其上に八寸の鐵欄を排し、皆刃ありて内に向けて繞らしたり

きり—しま 霧島 名 植物 石南科、木の名、紅色の花を開く、一名、きりしまつつじ。

きりしま—やま 霧島山 名 山名 日向大隅の二國に跨れる山にして、天孫降臨の地なり。

キリスチアン Christian 名 人名 丁抹王にて一世は一四六〇年シュレスウイヒ、ホルスタインの貴族に選ばれて其君主となり、一四七九年ホルスタイン公に封せられ、三世は在位中改革を實施し、(在位一五三六—一五五九)、四世は一五八八—一六四八年王位に在り、三十年戰爭に獨逸新教徒を救ひしも、ワレンスタイン、チリ等の爲に破られ、七世は在位中獨人ストルエンセー改革政策を取りしに、太妃ユリアヲ、マリーに黜けられ、友人プラントと共に死刑に處せられ、九世は一八六三年以來王位に在り、位に即くやシュレスウィヒ、ホルスタイン等の人民叛し救を獨逸同盟に求め、王軍敗れて此地を獨乙同盟に讓りたり。

キリスチアン 四世 Christian 名 人名 デンマルク王三十年戰爭に獨乙の新教徒を助けしが、ワーレンスタイン、及びチリ等のために破られぬ、賢君にして國民親愛せり、(西紀一五七—一六四八)。

キリスチナ Christiana 名 人名 瑞典の女王、グスタフ、アドルフの女なり、資性學を好みて、多くの學者を招聘したりしが、後、王位を其姪に讓り、カトリック教に歸依し、羅馬に行きて、專ら學藝を學べり、(西紀一六二八—一六八九年)。

キリスト Christ 名 人名 耶蘇、西紀前四年、猶太の一

小村ベツレヘムに生まる、母はマリーといふ、ユダア教により別に一宗教をなし、自から豫言に應じて生れたる救世主なりと稱し、博愛同仁の義を說きて萬民の救濟を計れり然るに國人の爲めに世を毒するものと思はれ、西紀三三年十字架上に磔殺せられたり、而れども其博愛主義は忽ちにして歐洲各地に傳播せられ、歐洲今日の文明に貢獻せし所頗る大なるものあり。

きりすと—けう 基督教 名 宗教の名 キリストの唱へたるもの、耶蘇教ともいふ。

キリストホロ Christofors 名 人名 ヘンリイ八世及エドワード六世の代に、チエスターの僧正なりしが、宗教上のことにより、國外に放逐せられしが、メリー女王の時に復職せり、西紀一五五八年死す。

きり—せん 切錢 名 一、両替の手數料、二、日日貯ふる錢。

ざり—たて 義理立 名 義理をかたく守ること。

き—りつ 規律 名 規則、わきて。

ざり—づく 義理靈 名 俗語 義理のために、止むを得ずはりあふこと。

きり—つぼ 桐壺 名 淑景舍をいふ、内裏の一殿にして、溫明殿の北、梨壺と北舍との間にあり。

きり—ど 切戸 名 一方の扉をつけたる戸なり。

きりの—としあき 桐野利秋 名 人名 鹿兒島の人、夙に勤王の志を抱きて、維新の際王事につとめ、東北地方を平定して功あり、陸軍少將となり、明治六年征韓の議合はざるを以て、西郷隆盛と共に鄕國に歸り、十年隆盛を佐けて兵を擧げ事成らずして、九月城山に自刃す。

きり—の—まがき 霧籬 名 霧の立ちめぐれるさまを、垣にたとへていふ語、古語。

きり—び 切火 名 石と鐵とを打ちて出す火。

きり—びと 切人 名 君寵を得て勢望ある人、權臣。

きり—ひらく 切開 動 一、一方の血路をひらく、二、荒地を開墾して、田畑又は宅地となすことをいふ。

きりふ—の—や 切文の矢 名 切文は矢の羽の斑文にて、鷹の尾の羽の黑白段々になれるをいふ、其羽を以て刻きたる矢なり。

きりふり—の—たき 霧降瀑 名 瀑の名 下野國日光山中にあり、高さ約三十四丈、幅凡そ十丈あり。

きり—まい 切米 名 德川幕府が領地を有せざる旗下の士に給する祿米を云ふ、年毎に三回渡せり。

キリマヌ Quilimane 名 地名 東部アフリカ、モザンビ

ケ運河に在り、キリマヌ河口より十五哩に位する瓦港、人口六千餘あり、(38.18 37.1E)。

キリマ―ヌジアロ Kilima Ndjaro 名 山名 獨領アフリカの北界に聳ゆる有名なる火山群にして、海拔一九〇〇〇呎、就中、キボ、キマエンヂ最も高し。

きり―まはす 切廻 動 物事をよく處理するをいふ。

きり―むすぶ 切結 動 太刀と太刀とを切り合ふ。

き―りん 麒麟 名 動物 有蹄類、丈高く脚長く、二寸許の小角あり、頭小にして頸長く、脚の割合に胴短かく、前肢は後肢よりも長し、色はうすき樺茶色にして、好みて草木の若芽を食ふ、亞弗利加の南部に產す。

きりん―さう 麒麟草 名 植物 景天科、花は長楕圓形又は長倒壓形なり、觀賞用として栽培す。

きりめ―の―わうじ 切目王子 名 熊野へ參詣する途中、王子と稱するもの九十九所ありて、其中最も著名なり。

ギリン Giirin 吉林 名 地名 滿州吉林省の首府、吉林將軍の駐在する所、松花江に濱し、商業盛んなり、人口十萬。

きり―もの 切者 名 きりびとにたなし。

ぎ―りやう 技倆 名 うでまへ、はたらき。

き―りよ 羈旅 名 旅行、たびだち。

ぎりよう―しんわう 義良親王 名 人名 「のりながし」を見よ。

キリル Cyril (Kirill) of Jerusalem 名 人名 イエルサレムの法教長にして三五一年選ばる、ギリシア教の神父なり三八一年のコンスタンチノープル會議に於ては、ニケーン黨に屬し、其通俗的の說教を人民に鼓吹するを以て任務となせり、(三七六―四四四)。

きりよく―がん 綠岩 名 鑛物 綠色の基性岩にして、又、綠岩ともいふ、斜長石及び鐵苦土硅酸鹽類の集合より成る。

キルギス Kirghiz 名 人種の名 吉利吉思、ウラル河と裏海の東部、キルギス地方に住居する游牧人種にして、トルコ屬なり。

ギルギット Gilgit 名 地名 西西藏のカシミルの西北部に在る一州、ダルド人種住す。

ギールス Giles 名 人名 ロシアの外交政治家、ストツクホルムの公使、外務次官を歷て一八八二年外務大臣となる(西紀一八二〇―一八九五)。

キルチ―てう キルヂ朝 名 西紀一二九〇年ゴール家の親族なる、セラルウツヂンが奴隸王朝に代りて政を執り、デルヒに都せし王朝なり、一三二〇年トグラック朝興りたるなり。

ぎろく―しよ 記錄所 名 後三條天皇の延久元年、諸國の莊園の券を取り調べて記錄せしめ、一方に於ては藤原氏の威權を抑へんために設けられし役所なり、尋いで訴訟裁判をも司れり、後、後醍醐天皇の元亨元年にも之を置かれたり、今の登記所の類なり。

きろ―ぐらむ 基 名 「佛語」、佛國の秤り目を示す語、一きろぐらむは一ぐらむの千倍にして、我國の二百六十六匁全にわたる。

キログラムーカロリー 瓩カロリー 名 物理 カロリーなる單位が小に過ぐる時用ゆる熱量の單位にして、大カロリーと稱するものなり、(之に對して前者を小カロリーといふ)、一瓩の水を攝氏零度より溫度一度高むるに要する熱量なり。

キログラメートル 瓩米 名 物理 仕事の單位にて、一瓩の物體を重力に抗して一米の高さに上ぐる仕事をいふ。

キロス Cyrus (Kurush) 名 人名 ペルシア帝國の始祖にてキロス大王と稱せらる、リヂア王クレサスを降しバビロンを圍みて陷れ四方亞細亞の司配者となれり、寬大にして征服せる各國に信仰の自由を許したり、(西紀前五六〇―五二九)。

ギーロン Geelong 名 地名 オーストラリヤ、ビクトリ爲亡びたり。

ギルバートーの―せつ ギルバートの說 Gilbert's theory 名 物理 磁石に關してギルバートのなしたる說なり、即ち「磁石の各分子は、各一個の小磁石をなし、同名の極を具へたる端は、皆同方向に排列す、されば中央部にては、異極の作用相中和して、磁性を呈せず、兩端にては、同種の極排列する故、作用相加はりて磁性を呈し、其作用亦强し」といふなり。

キルヒホフ Kirchhoff 名 人名 獨乙の有名なる物理學者にして、光線分拆を發明せり、(西紀一八二四―一八八七年)。

き―るゐ 着類 名 身に着くるものの總稱。

き―れい 綺麗 名 一、美しきこと 二、清きこと。

ぎ―れつ 義烈 名 義の心に富むこと、「忠勇義烈」。

き―れつ 龜裂 名 地文 地震の際地面に生ずる裂け目。

キレ子 Cyrene 名 地名 埃及の東部に位する都市にして希臘の殖民地なり、今は只其痕跡を止むるのみ。

き―ろく 季祿 名 春秋二季(二月上旬と八月上旬)に、在京の官人、一位以下少初位に至るまで、通じて賜はる恩祿なり、皆位記によりて相違わり。

き―ろく 記錄 名 後世に傳ふるためにしるし置く文書、

アの眞港、メルボルンの西南四五里にあり、クリナ市に隣ふ最繁華なり、貿易は水浴場として浴客多し、人口二萬餘〔38,10S, 144,20E〕。

ぎーろん 議論 名 互に自己の意見をたたかはすこと。

キロ―メ―トル 粁 名 佛國の尺度を示す語、一キロメートルは一メートルの千倍にして、我國の曲尺にて、三百三十丈におたる。

ぎ―わう 魚往 名 過去のこと、すぎさにし方。

ぎ―わう 義王 名 人名 京都の白拍子、容色あり、平清盛の寵を得たり、後、嵯峨野に隱棲す、時に年二十一。

ぎ―わく 疑惑 名 うたがふこと、うたがはること。

きわ―ど―に―ん―ど 際度人度 名 物理 晶井溫度に同じ。

きわ―ど―じ―や―う―たい 際度狀態 名 物理 或る物體が際度を溫度に在り、際度を壓力を受くる時、流體氣體の區別判然せずして、溫度壓力の變化如何にかかにて、際度に大なる變化を生ずる如き狀態にあるものをいふ、學術物體の氣體と液體との混淆せる狀態をいふなり。

ぎ―ゐん 議院 名 事を議するところ、議場等。

ぎ―ゐん 議員 名 議院にて、議事にあづかる人。

ぎ―ゐ―く―ら―か―ら 疑惑 回 かを疑惑ならしむること。

ぎ―ゐ―つく 附氣 回 一、注意す、二、注意をしひ。

ぎ―ゐ―びく 引氣 回 こころゑる。

ぎ―ゐ―ん 祇園 名 人阪市北、京都東山にあり、業業繁盛を極る、毎年七月十七日より二十四日を以て五柱祭を施行す、是れ有名なる京都の祇園會なり。

ぎゐ―ん―しやう―じや 祇園精舍 名 天竺の寺の名、釋迦が法を說きし道場にして、もと祇陀太子の園なりしかば祇園といひ、後、須達長者、之を購ひて寺としたるものなりと云、精舍は寺の義なり。

ぎゐ―ん―だ―い―かい 祇園南港 名 人名 浩人、かねて書畫に巧なりき、名は後輩、南港は其號なり、木下順庵に學ぶ、寶暦元年九月卒す、年七十五。

ぎゐ―ん―に―よ―ご 祇園女御 名 人名 白河法皇の寵人、姓氏不詳、祇園に居りしを以て此名あり、また、白河院、京御方とも稱せらる。

ぎゐ―ん―の―ざ―ら 祇園櫻 名 京都人阪靜岡の櫻、丸山公園の內にある櫻の名、華麗にして白雪滿枝、一株以て林をなす、其花開發の時、夜は其下に燈火を點ず、夜色の幽麗を賞す、世に祇園の夜櫻といふものの是なり。

ぎゐ―ん―ま―り 祇園會 名 京都人阪靜岡の祭禮、七月十七日に清潔禊を行ひ、二十四日に渡御す、市內の諸町より山鉾を曳き出し、祇園御旅所より迎女の輦輿を出す。

ク

く 五十音圖中、加行の第三位に位す、語の中にあるときは音便にて、促音のつの如く呼ばるることあり、例へば、がくから(學校)をがつから、しやくきん(借金)をしやつきんといふが如し、又音便にてうとなることあり、例へば、しらく(白)をしらう、はやく(早)をはやうといふが如し。

く 句 名 ことばの一寸を言ふる處なり、歌にては大抵、五音又は七音を以て一句とす。

く 苦 名 くるしみ、讎義すること、樂の反對。

く 區 名 一、一の限定したる土地、二、行政區劃の名、例へば、東京の十五區、京都の上京、下京の二區、大阪市の東西南北四區の如し。

く 九 名 數 ここのつに在り。

く 來 動 きたる、こたたく、くる、古語。

クアイラ Guaira 名 地名 カリブ港に位するベネズエラの港港、カラカス港ともいふ、人口約一萬三千。〔10, 37 N. 66, 57 W.〕

パラグアイの北境の流域を流るるパラニア河の源流、一名キチタダスともいふ。〔24, 28 S. 53, 57 W.〕

パラニア河の上流に沿へる土地を泛川せしイスパニア人の名稱なり。

クアケルナク〔ヤコス〕 Quaeckernaeck, Jakob Josz. 名 人名 慶長五年(西紀一六〇〇年四月一一日)カラバ(ジャバ島の貿易港、當時ヲランダ人領地に居りたり)より我九州に漂着せしヲランダ船ヤクリナー號の船長、同船米先案內內員人のイルレンムアダムスと共に江戸に召出され、家康の寵を得て海外の同國貿易を勸ばる、此時を「ヤコスガシ」といひたり、今の麴町區八重洲河岸のことなり、寛永年中鎖國の令嚴重なりしかば、死したりといふ。

クアダラハラ Guadalajara. 名 地名 イスパニアの一州、人口二十萬、首府も同名にして人口八千、メキシコのザリスコ州の首府、人口九萬五千。

クアダルキビル Guadalquivil. 名 河名 イスパニアの河アンダルシアを貫流して西南に流れ大西洋に入る。〔36, 10 N. 6, 18 W.〕

クアディアナ Guadiana 名 河名 大西洋に注ぐイスパニアの大河、イスパニアとポルトガルとの境をなす。〔37, 10 N. 7, 16 W.〕

クアテマラ Guatemala. 名 地名 中央アメリカの共和國、山多く金銀の產出に富む、首府も同名なり、人口八萬五千。

グアドルップ Guadeloupe 名 地名 西印度諸島中の一、人口五十四萬五千、西紀一八一六年以來佛領たり、地寒多し。(16, 13 N. 61, 35 W.)

グアナフアト Guanajuato 名 地名 メキシコ中部の一州、銀に富む、人口百萬餘、首府も同名にて工業の中心なり、鑛銀多し、人口五萬二千。

グアノ Guano 名 動物 南アフリカ及南アフリカ海岸に多き海鳥糞の總稱。

グアム Guam 名 地名 太平洋中ラトロン群島の最大島、周圍百哩人口八千、(13, 26 N. 144, 40 E.)

ぐーあん 愚按 名 愚考に同じ、自分の考を謙遜していふ語。

グアヤキル Guayaquil 名 地名 エクアドルのグアヤキル灣頭グアヤキル河口に在る良港にて商業の中心なり、氣候健康に適せず、發黃熱流行す、人口四萬五千。(2, 11 S. 80, 0 W.)

グアルダフイ Guardafui 名 地名 アフリカ最東端の岬、11, 50 N. 51, 2 E.)

クインスランド Queensland 名 地名 ガーストラリアの東北部に在る州にして、西紀一七七〇年、クック氏始めて發見し、一八四二年、自由殖民地となり、一八三九年、ニウー、サウス、ウエールスより分離して、自由政治を行ふ、人口約五十萬、氣候は稍酷熱なり。

クインチリアヌス Quintilianus 名 人名 羅馬の文人にして、修辭學に名あり。(西紀三五—九二)

クインツス Quintus 名 人名 クインツス カラベルはギリシアの詩人(西紀五世紀頃)、イリアッドの續篇ともいふべきもの十四卷を著はす、クインツス クルナウスはアウグスト時代のローマの歷史家、アレクサンドロス大王傳を著はせり。

ゲイアナ Guiana 名 地名 南米の北東に於ける地方、重なる産物は穀物、砂糖なり、金も産す、英佛蘭に分領せらる。(4, 0 N. 55, 10 W.)

ケイリナル、ヒル クイリナル岡 Quirinal Hill (Collis Quirinale) 名 パラチノの岡の北に在る羅馬七丘の一、

くう 空 名 一、そら 二、とりとめなきこと。

くう—あん 空案 名 地文 向斜の條を見よ

ぐう—い 寓意 名 他の物になぞらへて、それとなく、其意をはのめかすこと。

くうかい 空海 名 人名 高僧、姓は佐伯氏、讃岐國の人唐に留學して、佛典、書法などの學を極め、大同年中、歸朝して眞言宗を傳ふ、高野山に金剛峯寺を建立す、能書の

きこと高くして、我國三筆の一人なり、承知二年三月寂す、延喜二十一年諡して弘法大師といふ。

ぐうか—げんろ 偶價元素 名 化學 Artiad 酸素の如く原子價の偶數なるものをいふ、即、二價四價などに作用する元素をいふ。

くう—かん 空間 名 すべて物質界を包括したる、前後左右上下の窮りなき所をいふ。

くう—き 空氣 名 無色透明の氣體にして、其成分は酸素四と窒素一との比を以て混合し、此他少量の炭酸瓦斯水蒸氣などを含む、動植物の生活に必要缺ぐべからざるものにして、其地球の周圍を包む高さ三十里に達すといふ。

くうき—かんだんけい 空氣寒暖計 名 物理 空氣の膨脹によりて、溫度の高低を測る寒暖計なり、空氣は其膨脹すること液體に比して頗る大なるが故に、些少なる溫度の相違をも知ることを得べし。

くうき—の—あつりよく 空氣の壓力 名 物理、空氣の重量より來るものにして、幾十里といふ高き處より、漸次下層の空氣を壓して次第に壓力增加し、地球表面に至れば、一平方寸の面を約十六斤の力を以て壓するなり。

くうき—ぽんぷ 空氣ポンプ 名 物理 密閉せられたる器中の空氣を拔取るに用ゐる器械、排氣器、排氣鐘等とも稱す

ぐう—きよ 寓居 名 かりずまひ、假りの住所。

くうき—よく 空氣浴 名 化學 金屬製(多くは銅製)の箱にて、中に物を入れ下より熱しつつ空氣を通はして乾燥するに用ふ。

くうくう—じやくじやく 空空寂寂 同 一、佛教の語、萬物皆むなしくなること、二、更らに考のなきをいふ。

くう—げん 空言 名 むなしきことば、虛言。

ぐう—げん 寓言 名 寓意ある言、たとへばなし。

ぐう—ざう 偶像 名 木、石、金などにて作くりたる神佛の像。

ぐう—じ 宮司 名 一、伊勢大廟の神官の格の名、二、官幣社又は國幣社の神官にしてその社の長たる人。

ぐう—すう 偶數 名 數學、二にて除し殘餘を生せざる數例へば、二、四、六、八、十、以下之に順ず。(奇數に對して)

ぐうすうか—げんろ 偶數價元素 名 化學 偶價元素に同じ。

クー、ゼン Cousin 名 人名、佛國の哲學者、折衷派を創設す、哲學上の著作多し。(西紀一七九二—一八六七年)

ぐうぜん—と 偶然 副 思ひもよらず、ゆくりなく。

クーゼン—モントーバン Cousin Montauban. 名 人名 佛國の將軍、西紀一八六〇年、淸國遠征軍を率ゐて、北京

を占領せり。(西紀一七九六—一八七八年)

くう—ちゆう 空中 名 たはぞら。

くうちゆう—でんき 空中電氣 名 物理 晴陰に拘らず、大氣は常に多少の電氣を帶ぶ、之を空中電氣と云ふ、重なる原因は水の蒸發にて、量は地表上よりの高さを增すに從ひ加はる。

くうちゆう—ろうかく 空中樓閣 同 空中にある樓閣の義にして、ありうべからざること、空想、空想に耽ることを空中に樓閣を畫くなといふ。

ぐうてい—るゐ 偶蹄類 名 動物 脊推動物の有胎盤哺乳類なり、四肢共に二指より成り、此類中には胃囊を數個有するものあり、之を反芻類といふ。

クーデター Coup d' Etat. 名 歷史、武力に訴へて政治をなすこと、西紀一八五一年十二月にナポレオン三世之を行ひ、一七九九年十一月ナポレオン一世之を行ひぬ。

クーバーがは Cooper's Creek. 名 河名、ニカジエルシイの河にして、テラクェア河に合す。

くう—ばく 空漠 名 眼界を遮ぎるものなくして、ひろびろとせること。

くう—ふく 空腹 名 腹のううること、俗に、すきばら。

くうや—しやうにん 空也上人 名 人名、高僧、仁明天皇の御孫なり、天下を歷遊して、民衆の便を計る、天曆五年京師に六波羅密寺を建つ、天祿三年九月寂す、年七十。

クーラム Kulam (Coilan, Quilon) 名 地名、故臨葛蘭コモリンの北八五哩、トラバンコアの西岸にある貿易港なり。

くう—り 空理 名 事實に遠ざかりたる理。

ぐう—りよく 偶力 名 物理 大さ相等しく方向相反せる二つの平行力をいふ、時計の鍵にてぜんまいをまく時、手の兩指の力等は偶力なり。

クール Kur. 名 河名、外カウカシアの主要なる河にして黑海の附近より發し、東カウカシアの南部を流れ、南方アルメニアより來るアラス河を合せて、終に裏海に入る、長さ約五二〇哩あり。

クールトレー Courtrai 名 地名 ブラッセルの西方五四哩、リス河岸にある白義の都府にして、レース、羅紗の製造を以て名あり、人口三萬餘あり。

クールベー Courbet. 名 人名 佛國の海軍中將、東洋に於て光輝ある成功をなせり、(西紀一八二七—一八八五)

クールランド Kurland. 名 地名 露西亞の一州にして西バルト海、北リカ灣、東北ドビナ河に界す、面積壹萬方哩餘、人口六十二萬あり、首府をミツタウといふ。

くう—ろん 空論 名 無用の議論、根據なき論。

くうはいだつ 孔穎達 名 人名 唐の儒者なり、冀州の人、太宗の時文學館學士となり、後國子博士に遷る。

く—はう 九曜 名 七曜に羅喉、計都の二の星を加へたる名。

くえん—さん 枸櫞酸 名 化學 此の酸は種種の果實中に多く存在す、殊に レモン、橙、梅、いちご、などに多く存す、三鹽基酸にして、一分子の結晶水を以て美麗なる斜方形柱狀の結晶を生じ、水及びアルコールに溶け易し。

くたん—じ 久遠寺 名 甲斐國身延山の南面に在る日蓮納骨の廟寺にして法華宗なり。

クカ Kuka 名 地名 中央アフリカ、ツァード湖西岸の一市、商業盛んなり、〔13, 5 N. 13, 23 E.〕

くが 陸 名 陸地、古語。

く—がい 公廨 名 「くげ」を見よ。

く—がい 苦界 名 一、佛教の語、苦痛の絕ぇざる世界、卽、人間界、二、娼婦の墳淫、うきかはたけ。

くがい—さう 九蓋草 名 植物、支參科、葉は輪生なり、紫碧色の花は穗狀花序に排列す、蕚は四裂又は五裂し、花冠も亦四裂若くは五裂す、二雄蕊を有す。

く—がく 苦學 名 學費の不足などにより、種々苦辛して學問すること。

くが—しま 久賀島 名 島名、肥前國西方の海中にあり。

くが—だち 探湯 名 上古に行はれたる立證の方法にして熱湯を探り手の傷くると否とによりて正邪曲直を判決す、允恭天皇の時、姓氏を正すために行ひしことあり。

クガチ 忽哥赤 名 人名 元の世祖の皇子、雲南王に封せられ、大理、鄯闡、金齒などの地を治めたり。

く—かん 軀幹 名 地文 大陸の周圍に在る出入を去りて考へたる大陸の胴部。

ぐ—がん 具眼 名 事物の是非を判定する力ある人。

くき 莖 名 植物、根より出でて通常は上行す、其生存する期限によりて、一年生莖、二年生莖、及、多年生莖の三種あり、又其位置によりて、地下莖、地上莖、氣莖三種に別つことを得、莖は太抵圓柱形なれども、時に變形なきにあらず、莖の實質を木質といひ、軟かきを草質といふ。

くぎ 釘 名 板などを打ちつくるために、打ち貫くもの、竹、木、金にてつくる、其形種々あり。

くぎ—ぬき 釘拔 名 やっとこの一種、釘を拔くに用ふ。

くぎ—の—うら 名 浦の名、遠江國榛原郡大井川の川口にあり。

くきん 九斤 名 動物、鳥類、鷄の一種、交趾鷄。

くーざやう 公卿 名 攝政、關白、大臣を公といひ、大中納言、三位以上を卿といふ、故に三位以上の人達を公卿と稱す、但、參議は四位なりと雖も公卿の中なり、後世に至りては殿上人を總稱して公卿といふに至りぬ。

くーざやう 苦行 名 佛法の語、つらき行をつみて、佛道を修むること。

くさーよしたか 九鬼嘉隆 名 人名 藤原氏にして、熊野の九鬼に住す、志摩石川七島を畧す、始め信長に仕へ、後秀吉に仕へ、征韓の役に功あり、後慶長四年稻葉道通と爭ひ、家康の裁決の否を憤り仕へずして、後道通と戚ひて自殺す、年五十九、時に慶長五年十月十二日なり。

くーざり 句切 名 一、句のきれめ、二、事物のかぎり。

くく 九九 名 一、九の二乘、卽、八十一、二、乘算に用ふる語の稱。

くぐつ 竹器 名 笆の類にして、藁又は竹を絲にてあみて作くれる袋、藁、貝などを入るるに用ゐらる、古語。

くぐつ 傀儡 名 一、古代の演藝の一種にして、人形を歌につれて舞はしむ、二、まひめ(舞姫)におなじ。

くくーと 區區 副 まちまちと、又、小さきにいふ。

くくみ 鑣 名 硬馬の口にはましむる金の輪なり。

くぐむ 屈 動 かがむにおなじ。

くぐもる 曇 動 分明ならずあり、古語。

くくり—ばかま 括袴 名 糸を貫きて裙を括るやうになしたる袴。

くくる 括 動 一、しばる、二、すべをまとむ、總括す。

くーくわつ 久活 名 文法、形容詞のはたらきの一種。

くーぐわつ 九月 名 月の名、正月より數へて九月目の月ながつき。

ぐくわん—せう 愚管抄 名 書名、撰者不詳、前の部分は神武天皇より順德天皇に至るまでの君臣の事蹟をしるし、後の部分は其時代の山家と鎌倉の關係をしるせり。

くげ 公廨 名 役所の事にして、又大寶の制に內外諸司に給はる俸給をも云ふ、其財源は公廨稻、公廨田等なり。

くーげ 公家 名 一、たはやけ、朝家、朝廷、二、公卿。

くーけい 矩形 名 四邊形にして其四の角が各直角なるもの、方形。

くーけい 九經 名 周禮、儀禮、禮記、左傳、公羊傳、穀梁傳、周易、毛詩、尙書經を云ふ。

くげう 公曉 名 人名、源賴家の第二子、幼名、善哉、賴家の害に遇ふや僧となり、鶴岡八幡宮の別當に補せらる、承久元年正月、源實朝右大臣拜賀の式を鶴岡に行ふに當り公曉父仇を報ゆと稱して之を弑し、三浦義村のために殺さる、年十九。

くげーしゆう 公家衆 名 一、禁中に仕へし人々、二、武家時代に及びては幕府に仕ふる臣下。

くーけつ 口訣 名 言葉にて傳ふべき肝要なること。

くげーでん 公廨田 名 古 在外官(今日の地方官)に賜はりし職田なり。

くげーとう 公廨稻 名 諸國より納むる正稅の幾分を割き役所(公廨)の入用とし、又貸して利を得、又正稅の欠負、未納等ある時之を以て補ひ、其餘を國司に分配す、正稅の欠負とは米の自然の耗(メリ)を云ふ。

くげーはつど 公家法度 名 元和元年に德川家康が秀忠及び關白昭實と議して、公家を抑制せんがために、其行爲を制限したる法にして、十七箇條より成る。

くこ 枸杞 名 植物、茄科、木の名、葉はむくげに似て小さく、枝に刺多し、夏秋の交花開く、花冠は淡紫色にして其裂片は覆瓦狀に排列し、形なつめに似たる赤色の實を結ぶ、葉を食用に供し、又茶の代用となす。

くご 供御 名 天皇又は將軍家の膳部をいふ。

ぐこう—やまなうつす 愚公移山 文 成功を永遠に期して智巧を用ひず、不撓不屈事に從ふたとへ、昔、支那に愚公といふ人ありて、年九十の頃、山を移さんとしけるに、之を笑ふものありしかば、愚公は子子孫孫相繼がば遂に成功せんと答へたりとぞ。

くーごふ 口業 名 佛教の語、妄語をつつしむこと。

くーこん 九献 名 一、酒を三献づゝ三度さすこと、三々九度、二、さけの異稱。

くーごもる 口籠 動 言語の口中にこもりて判明ならざるにいふ。

くさ 草 名 植物 莖は草質にして又多くは一年生なり、葉も亦太抵一年にして枯る、苗は種子より生ずるものあり又、古根より生ずるものあり。

くさ 種 名 一、種類、たぐひ 二、たね、「いひぐさ」三、子孫、後裔、古語。

くさ—あはせ 草合 名 古の遊戲の名、五月五日に種々の草を合せくらべて、勝負を決するなり、鬪草。

くーさい 愚妻 名 他人に對し自己の妻を謙遜していふ語

くーさいばんしよ 區裁判所 名 官廳の名、最も下級の裁判所にして、輕罪、違警罪及び軍大ならざる民事の訴訟を判決するところなり。

くさーいろ 草色 名 もえぎ色、綠色。

くさかーさか 孔舍衙阪 名 地名 河內國河內郡日下村の地なり、神武帝東征の時、此地に入り楯を立てて、楯津と

云ふとある所即ち是なり。

くさ—かげろう 名 動物、昆虫類、柔軟なる體軀にして綠色を帶ぶ、其卵は俗に優曇華といふ、幼虫はアリマキ(蚜虫)を食するにより益虫なり、體臭極めて惡し

くさかべ—いさうじ 日下部伊三次 名 人名、有名なる勤王家、名は信次、薩州侯の臣なり、同志と共に攘夷説を唱へて、幕府に捕へられ、安政五年十二月病によりて獄中に死せり。

くさかべ—の—わうじ 草壁皇子 名 天武天皇の御子、御母は持統天皇なり、天皇立てて皇太子となし、萬機を攝せしむ、持統天皇の三年四月薨ず、御年二十八。

くさか—みちたけ 久坂通武 名 人名 通稱は義助、玄瑞と稱す、吉田松陰の門に學ぶ、夙に攘夷の説を唱へて、同志と共に經營慘憺たりしが、幕府の阻む所となりて果さず元治元年六月君側を清むと稱し、兵を率ゐて京師に入り、幕府と戰ひ利あらずして自刃す、年二十六。

くさ—かんむり 草冠 名 漢字の冠の名、菊苗などの字の冠、即、廿(艸)の字なり。

くさがめ 椿象 名 動物、昆虫類、夏期に草木の葉上に普通見る所にして、其姿分を吸取する害虫なり、強き惡臭を放ちて、防禦の具とす

くさか—やま 草香山 名 山名、攝津國にあり。

くさかり—がま 草刈鎌 名 草を刈るに用ふる鎌なり。

くさかり—わらべ 草刈童 名 草を刈るわらはたち。

くさ—がれ 草枯 名 秋冬の交、霜雪のために草の枯るること。

くさ—ざる 転 國 田畑の雜草を取り去る。

くさ—ぐさ 種種 名 いろいろ、さまざま、しなしな。

くさ—ぐも 草蜘蛛 名 動物、虫名、蜘蛛の一種にして普通の蜘蛛より小さく、色斑なり。

くさ—ざうし 草册子 名 平假名にてかき、婦女小供などにも解し易きやうに作りし物語本、草双紙。

くさ—じし 草鹿 名 鎌倉時代に家人の間に行はれたる遊戯なり、即、野原の草の類を束ねて鹿の形をつくり、之を射て狩獵のさまに模倣したる弓技、歩立の三ツ物の一なり

くさす 腐 國 そしる けなす、わるくいふ。

くさ—すいしやう 草水晶 名 鑛物 普通石英の陽起石を含有し漁の如き綠色を呈するもの。

くさすぎかづら 天門冬 名 植物 てんもんどうのことなり、百合科草本にて、葉は杉に似て柔かに、刺のあるものとなきものとあり、花は夏開き帶綠色にて小し、根は長さ

二三寸にて叢生し肥大なり、色は黃なると白きとあり、藥用とし又砂糖漬として菓子とす。

くさ—ずり 草摺 名 鎧の附屬物なり、前と左と右との三つなり、前の草摺は前板とも稱して、鎧の胴につけ、左右の草摺は腰の左右に垂るるなり。

くさ—だか 草高 名 田地より收納する米の分量をいふ、籾のまゝにて計算するなり、全收獲高。

くさ—だち 草立 名 草のしげるにいふ、古語。

くさ—だんご 草團子 名 草餅の類にて、餅草をつきまぜてつくりたるだんごなり。

くさつ—づき 草津月 名 陰曆八月の異名、古語。

くさ—とり 草取 名 一、草を除き去ること、又其の人、二、草を取り去るに用ふる器具、草取具。

くさなぎ—の—つるぎ 草薙劍 名 三種の神器の一、一名叢雲劍、素戔雄尊が大蛇を斬り其尾より得られしもの、日本武尊、東征の時、此劍を以て草を薙ぎ倒し難を免れられしにより、此名あるあり。

くさ—の—いほ 草庵 名 草ぶきのいほり。

くさ—の—まくら 草枕 名 たびね(旅寢)におなじ。

くさ—の—わう 白扇榮 名 植物 舉要科、草名、葉は羽狀複葉にして小葉は缺裂を具ふ、四月頃花を開く、花は黃色にして繖狀に排列し各長き柄を有す、花柱は短く、果實は上部に向つて裂開す、有毒植物なり。

くさ—ばな 草花 名 一、草に咲ける花の總稱、二、花の咲くべき草。

くさび 楔 名 頭を太く、末を細く作り、恰かも二個の斜面を合せたる如きものなり、鐵木などにて作り、之を用ひて、木材を割り、重き物體を扛げ、若くは物と物とはめ合せたるところに打ちこみて抜けぬやうにするなり。

くさ—ひとがた 草人形 名 藁人形の類 古祭に用ひたるもの。

くさ—びら 草片 名 一、青物、野菜、二、茵、茸。

くさ—ふ 草生 名 草の繁げく生ひたるところ、草はら。

くさ—ぶかし 草深 形 くさしげし、俗に、くさぶかい。

くさぼけ 檀子 名 植物 薔薇科、草名、一名の皮け、山野に生じ、葉は倒卵形にして小さく、花は黃赤色又は白色なり、莖の高さ一二尺、果實は食すべし。

くさ—ぼたん 草牡丹 名 植物 草名、葉はみつばせりに似て大に、莖の末に白きひとへの花を開く。

くさ—まき 草枕 名 植物 高野槇を見よ。

くさ—まくら 草枕 枕 古、草を結びて枕とするは旅の常なりき、故に、たびにかけていふ。

くさ—むすび　草結　名　一、先立ちて事を始むるにいふ、二、くさあはせにたなし。

くさ—むら　叢　名　草の繁茂せるところ。

クサンチポス　Xanthippos　名　人名　クサンチポスは雅典の海軍指揮官にして、西紀前四七九年ペルシア艦隊をミカレに全滅したる人なり、クサンチポスはカルタゴの客將にして、紀前二五五年、羅馬軍をツチスに破りたる人なり。

くさめ　嚏　名　生理、鼻腔内に不用物あるとき、之を排除せんがために、吸氣の後急激の呼氣を行ひ、鼻孔より排出するなり、感冒に罹るときは、汗腺の排泄止み、氣管、喉頭、咽頭、鼻腔内の粘膜之に代りて排泄を多くするにより此の排泄物を排除するためにくさめを出すなり、くさみ。

くさ—や　草屋　名　一、牛馬のかひばを貯ふる所、二、草葺の家。

くさり　鎖　名　金屬製の環をつぎ合せたるもの、

くさり—かたびら　鎖帷子　名　くさりを以て襦袢の如くつくりたるもの、戰場に於て用ひしものなり。

くさり—がま　鎖鎌　名　鎌に長きくさりをつけしもの。

くさり—だび　鎖廻　名　數人にてなす歌のよみかた、一人のよみたる歌の一句を、他の一人がとりて、其句につづけてよむなり。

くさり—ばかま　鎖袴　名　くさりに作りたる袴。

くさり—れんが　鏈連歌　名　上下のよく合ふやうに詠む連歌。

くさる　腐　國　朽つ　俗に、くされる。

くされ—じゅしや　腐儒者　名　無能の儒者。

くされ—れんげ　草蓮花　名　植物、草名、葉は牡丹に似て小さく、枝は柳の如く垂る、蓮花に似たる白色の花を開く。

くさ—わけ　草分　名　一、草原をわけ行くこと、二、荒地を開墾すること、三、始めてなすこと、草創。

くさ—わた　草棉　名　植物　草名、葉は三稜形にして、黄色の花を開き實を結ぶ、生熟すれば、破裂して中に白き綿を存す、糸又は布となす。

くし　髪　名　かみにたなし。

くし　串　名　一、竹又は金を箸の如く細くつくり、尖端を尖らかし、魚肉其他のものを燒くに用ふるもの、二、幕を張るとき地上に立つる棒。

くし　櫛　名　髪を梳り又は髪の裝飾として用ふるもの、細かき齒なり、黄楊、象牙、鼈甲、ゴムなどにてつくる。

くし　奇　名　不思議なり、あやし、いぶかし。

くーじ　公事　名　一、朝廷に行はるる政事、其他の儀式一切をいふ、二、官に訴訟すること、訴訟。

くしあかるだま—の—みこと　櫛明玉命　名　人名　天太玉命の臣にして出雲の玉造の祖なり、日神退窟の時に、八坂瓊曲玉を造りたり。

くし—あげ　髪上　名　かみあげにたなし。

クシュンコタン〔コルサコフ〕　Kushunkotan〔Korsakov〕　名　地名　コルサコフを見よ。

くじ—かた　公事方　名　武家の役名、訴訟を裁決する役。

くじかた—さだめがき　公事方定書　名　御定書百ヶ條を見よ。

くしがた—の—まど　櫛形窓　名　清涼殿の晝御座（ひのおまし）と、鬼の間との隅の柱を挾みて櫛形の窓あり、之をくしがたのまどといふ、殿上の間をすき見せんがための窓なり。

くじ—がは　久慈川　名　川名　常陸國八溝山より發して、久慈郡と那珂郡との間を流れて太平洋に注ぐ。

くじ—き　舊事記　名　書名　推古天皇の二十八年に、厩戸皇子が蘇我馬子と議して撰せし書にして、天皇、臣、連、造、國造などの本記ありしが、蘇我氏亡滅の際、遂に燒失す、今日存するものは皆後人の僞作にして、開闢の初めより、推古天皇の御代までの事蹟をしるせり。

くしきし　麗式紙　名　人名　明代の忠臣、常熟の人なり、萬曆四十四年進士となり、吉安永豐知縣に拜し、惠政大に民心を得、後事に座して貶せられ、家廢す、後福王南京に立つに及び之に應ず、後兵部右侍郎に擢でられ廣東に居る後大兵桂林を討ちたる時、よく守りて、城陷らず、後大兵深く薄り、諸將皆死したる時、總督張同敞と共に死せり。

くじく　挫　名　一、凪す、したがふ、二、きづつく。

くし—くらげ　櫛水母　名　動物　腔腸動物、球狀にして粘膠質透明なり、體面に櫛齒狀の纖毛板を八列に具へ、能く水中に移動するは其振動によりてなり、體に二極を有し、其一極に口を開き、他の一極には胞狀感覺器あり、粘質細胞ありて、食料を採取するの用に供す、海面に無數現出することあり、夜間大に光を放つもの有り。

くし—げ　櫛笥　名　櫛を入るる箱、古語。

くし—けづる　梳　名　櫛にて髪をけづること。

くじ—こんげん　公事根源　名　書名　一卷、一條兼良の著一月より十二月までの朝廷の儀式、年中行事の起源沿革などを記したるものにして、國文を以てしるせり。

くし—ざし　串刺　名　一、古代の刑名、二、物を串に貫くこと、又貫きたるもの、三、くしざすこと。

くじ—し　公事師　名　他人の依頼により之に代りて訴訟を

扱ふ人、代言人。

くじ—だふれ　孔子仆　名　賢人にても案外過失ありとの意

クシナガラ　Kuchinagara　名　地名　印度のカシアとアンルドワの間にある舊城市にして、城の附近沙羅樹園中に於て釋迦入滅せしを以て有名なり、又クシナガラの一寺院には釋迦の床中北首せる涅槃像を祭る。

くしなだひめ—の—かみ　櫛名田姫神　名　神名　出雲の國神手名椎足名椎と稱する老翁老媼の女なり、素盞雄命に配して須賀に住む、櫛名田、一に奇稲田に作る。

くじ—の—うら　久慈浦　名　浦の名　常陸國久慈郡にあり

くし—の—は—な—ひく　櫛齒をひく　句　幾たびも往來するにいふ、「注進さながら櫛の齒をひくが如し」。

くじ—ば　公事場　名　訴訟を吟味する所、裁判所。

くじ—びき　鬮引　名　くじとりにたなし。

くじ—ぶぎやう　公事奉行　名　武家の役名、鎌倉幕府の時代の、越訴奉行、評定奉行、安堵奉行などの總稱。

くじ—ぶぎやうにん　公事奉行人　名　武家の役名、一、ひきつけしゆうにたなし、二、問注所の寄人の稱。

くじふくり—の—はま　九十九里濱　名　濱の名、上總國長柄郡より下總國海上郡に亘る凡そ十五里間、いわしの漁業を以て殊に有名なりとす。

くし—まき　櫛卷　名　髪を櫛にまきて假に結びたくもの。

く—しん　苦心　名　心を苦しむること、配慮。

く—しん　苦辛　名　困難すること、難義をすること。

く—じやう　苦情　名　一、困難なるわけ、二、不平。

ぐ—じやう　具狀　名　やうすを申上ぐること、(書面にて)。

くじやく　孔雀　名　動物　鳥名、熱帶地方に產す、羽毛美麗にして九彩爛然たり、雌は雄に比して美ならず、體長は三尺許、雄の尾にある美麗にして長き處は三尺七八寸に及ぶ、其端に金色の緣ある丸き斑ありて、室内又は帽子の裝飾に用ひらる。

くじやく—さう　孔雀草　名　植物　草名、高さ一尺許にして、紅黃色の花を開く。

くしや—くしや—と　副　一、物事の混雜せるさまにいふ、二、氣の面白からぬさまにいふ。

くじやく—ぜき　孔雀石　名　鑛物　Malachite　銅の炭酸化合物にして、通常瘤狀をなし、綠緣色にして光澤あり、用途は飾石、繪具などにして、多く出づれば銅を取るを得べし我國に於ては、羽後の阿仁、陸中の小坂、飛彈の神岡より多く產す。

くじやく—ばと　孔雀鳩　名　動物　鳥名、鳩の一種なり。

ぐしや—しゆう　倶舍宗　名　佛教の一宗派、法相宗より出づ、桓武天皇の時、僧明全が始めて開きし宗派なり。

クシュク、カイナルチ　Kuschuk Kainardschi　名　地名　ブルガリアの東北にあり、一七七四年露國女帝カタリナの土耳其と平和條約を結びたる地なり。

くーじゆ　口授　名　言語を以て教ふること。

ぐーしゆん　虞舜　名　帝舜有虞氏をいふ、堯の後天子となる。

くしら　櫛羅　名　地名　大和國葛上郡にある町、奈良縣の管轄に屬す、永井氏の舊領地より。

くしる　抉　動　さし入れてゑぐる。

くしろ—がは　釧路川　名　川名　北海道五大川の一、釧路國釧路郡釧路嶽より發す。

くしろ—ぬま　釧路沼　名　沼名　釧路國釧路郡にあり、周圍六里餘、中に噴火島あり。

くしろ—の—くに　釧路國　名　國名　北海道十一國の一、東は根室國に境し、北は北見國、西は十勝國に接し、南は海に臨む、厚岸、河上、阿寒、釧路、足寄、白糠の六郡あり、北海道廳の管轄に屬す。

くず　名　植物　「クスノキ」に同じ。

くず　葛　名　植物　豆科、草名、葉は三小葉に分かれ、表面は綠色、裏面は白色を帶ぶ、花は深紅色にして、長梗上に複總花をなす、根は山芋に似て之より澱粉を製す、吉野葛最も名あり、其内皮より纖維を製して布を織る、葛布是れなり、遠江國より多く產す。

くず　國栖　名　人名　大和國吉野郡國栖に住みし人、應神天皇の御時より、大嘗會の節會に來りて舞樂に與かりぬ。

ぐず　具　動　伴ふ、率ゐる、引きつれ行く。

くずぐる　握　動　こそぐるの轉訛。

くず—こ　葛粉　名　葛の根の汁を取りて製したる粉、澱粉に富み、食用の外種種の用途あり、大和國吉野郡の產最も有名なり。

クスコ　Cuzco　名　地名　南米ペルーの都會、海拔一一四呎、人口二萬、〔13,718 72,4W〕。

くすーし　藥師　名　いしや(醫者)にたなし、古語。

くすし—がる　動　窮屈なりと思ふ、古語。

ゲスタフ—アドルフ　Gustavus Adolphus　名　人名　カロロ九世の子にして、一六一一年瑞典の王位に即き、大に國政を改革し、軍伍を整へ、銳兵を以てデンマルク、ロシアの軍を破り、ポーランドの紛擾に乘じ地を割かしめしが、三十年戰爭の時、獨乙新教徒を助け、リウツエンの戰に歿せり、(西紀一五九四—一六三二)。

ゲスタフ—ワサ　Gustavus Vasa　名　人名　瑞典王ナリ、一

五二三年、デンマルク人を逐ひて瑞典を獨立せしめて、其王となり、新敎を奉し、他日瑞典の雄飛の基を造りたり、（西紀一四九六―一五六〇）。

くすーだま 藥玉 名 一、種種の香を入れたる袋を玉の如くになし、かざりをつけて其下に長き五色の糸を垂らしたるもの、二、かけがう。

クストッツア Custozza 名 地名 伊太利のベロナ州にある村にして、古戰場として有名なり、即、西紀一八四八年七月、オーストリアの將軍ラデツキがサルヂニアのカール、アルバートを破りし地なり。

くずーぬの 葛布 名 織物の名 葛の内皮を纖維となし、之を以て織りたる布なり、遠江國掛川より産するもの最も有名なり。

くずーのーき 楠 名 植物 樟科、木の名、葉は稍楕圓狀卵形をなし、花は帶黃色にして小さく、果實は豌豆大にして黑熟す、木材は淡黃色にして中心稍赤色を呈す、古來船艦材として賞用せらる、實より蠟を取り、材より樟腦をつくる。

くずのき―まさしげ 楠正成 名 人名 南朝の忠臣、橘諸兄の裔にして、世々河内國金剛山の西に住めり、後醍醐天皇に登置に召されでより、一族勤王に憑率し、延元元年、足利尊氏と湊川に戰つて敗死せり、明治に至り從一位を贈らる其靈を祀れる湊川神社は別格官幣社なり。

くずのき―まさすゑ 楠正季 名 人名 七郎帶刀と稱す、正成の弟なり、兄と共に湊川に戰死せり。

くずのき―まさつら 楠正行 名 人名 正成の子、父の遺訓を守りてよく賊軍と戰ひ、正平三年正月、高師直と四條畷に戰ひ、利あらずして弟正時と共に戰死せり年二十三世に小楠公と稱す、明治に至り別格官幣社に祭らる。

くずのき―まさのり 楠正儀 名 人名 正行の弟、南朝に仕へ、後、故ありて北朝に降り、両朝の統一を計りしが、成らざるを以て、復た南朝に仕へたり、元中年中卒す。

くずのき―みつまさ 楠光正 名 人名 永享元年將軍義教を殺して、南朝の再興を謀りしが、中途事破れ、捕へられて六條河原に梟さる。

くずーのーはな 葛の花 名 植物 豆花草本、秋の七草の一、葛の花なり、尙ほ「くず」の條を見よ。

くずのーわう 葛野王 名 人名 弘文天皇第一の皇子、詩文書畫をよくせらる、慶雲年中薨ず、年三十七。

くずーば 葛葉 名 くずかづらの葉。

くずーばな 葛花 名 くずにはなし。

くすーぶ 燻 動 年老いて見ゆ、俗に、ふけて見ゆる。

くすぶ 燻 動 烟を立つる、俗に、くすべる。

くすぶる 燻 動 燃ゆずして烟のみ立つにいふ。

くすみーもりかげ 久隅守景 名 人名 通稱は半兵衛、有名なる畫家にして、探幽門下の傑物たり、無下齋と號す、筆力雅健、元祿年中卒す。

くすむ 動 一、くすぶの轉、二、率直に見ゆ、三、花やかならぬさまにいふ、しみなるさま。

くすん―ごぶ 九寸五分 名 短刀の一種、長さ九寸五分内外なるより此名あり。

くずーや 名 草葺の屋根、又、其の家にもいふ。

くすり 藥 名 一、病氣を治療するために用ふるもの、水藥、散藥、丸藥などの種類あり、二、陶器に用ひて光澤を出だすもの、三、くわやく（火藥）にもなし、四、何事にもあれ身に利益あるもの。

くすりーがり 藥狩 名 古 五月五日に山野に入り、藥を採集せしこと。

くすりーこ 藥子 名 古、正月元日に、先づ、供御の屠蘇酒を試みし童女の稱、古語。

くすりーづつみ 藥包 名 一、藥を包みたるもの、二、女御更衣の入内の節、つかはさるるもの。

くすりーのーつかさ 典藥寮 名 古 宮内省に屬して、醫藥のことをつかさどりしところ。

くすりーび 藥日 名 陰曆五月五日の異稱。

くすりーや 藥屋 名 藥を賣る家、又、その人、賣藥商。

くすりーゆび 藥指 名 一名無名指 又、べにさしゆび、拇指より第四番目の指、藥などをとかすには大抵此指を用ふるにより此名あり。

くすゐーし 鼓吹司 名 古 兵部省に屬して 戰陣に用ふる鼓角と之を扱ふ人とをつかさどりしところ、古語。

くせ 癖 名 一、一方に偏したる性質、二、髮の毛の縮みてのびざること。

くせ 曲 名 正しからぬ意を表はす語、「くせ者」。

くーぜい 弘誓 名 佛敎の語 佛の弘く衆生を救濟せんとの誓。

くせーごと 曲事 名 正しからぬこと。

くーぜち 口舌 名 いさかひ、口論、古語。

くせーのーと 九世渡 名 地名 天の橋立の古き名。

クセノファネス Xenophanes 名 人名 希臘の哲學者にして、エリア學派の祖なり、（西紀前五三八―五〇〇）。

クセノフォン Xenophon 名 人名 希臘の歷史家哲學者、且軍隊指揮官なり、ソクラテスの友なり、（紀前四三五―三五四）。

くせ—まひ 曲舞 名 舞の一種、歌曲に合せて舞ひたるなり、これより謠曲は出で來りしなり。

く—せん 口宣 名 古 五位以上の官位を賜はりし時、頭の辨より其旨の勅命を拜官者に傳へしをいふ。

くせ—もの 曲者 名 一、くせあるもの、すねもの。

くそ 糞 名 胃中にて消化したる食物の滓の體外に排出するもの、大便。

グゼラット Gujerat 胡茶辣 名 地名 印度ボンベー州の北方、カチ灣カンベイ灣間に在る一州、人口三百三十萬。

クセルクセス Xerxes 名 人名 ペルシア王にして、ダリオス一世の子なり、紀前四七八年大軍を率ひて希臘を征す、テルモピレーの苦戰をなし遂に之を破り、進でアテチの市を燒きたりしも、海軍サラミスの海戰にて全滅せられ逃れて本國に歸る、後王者位に流れ、遂に近衛一兵卒のために暗殺せらる、在位二十一年。

くそう 苦楚 名 艱難辛苦すること。

くそう 矩巢 名 天文 地球と太陽と、地球と月とを結べる直線が直角をなす時を矩巢といふ。

くそう—がへる 蛙 名 動物 いぼがへるにたなし。

ぐ—ろく 具足 名 一、十分なること、二、器具、三、よろひにたなし。

ぐ—ろく 愚息 名 他に對して自己の男子をいふときの語

ぐろく—びつ 具足櫃 名 よろひかぶとを收むるひつ。

くろ—ばへ 蠅蛹 名 動物 虫名、蠅の一種にして、形大に、常に不潔物に集まるものなり。

くろ—ぶくろ 糞袋 名 ゑぶくろにたなし。

くろ—へ 屎戸 名 古代の罪の名、場虚をかまはず、糞をすること。

くだ 管 名 一、機を織るに用ふる器、二、筒の類にて細長きもの。

くだ 管 名 むだぐち、俗語。

く—だい 句題 名 三代集の歌の七言の一句を題とすること、即、「ながながしき夜を」、「もみぢふみわけ」などの類を題として歌をよむなり。

くたか—しま 久高島 名 島名 琉球諸島の一にして、沖繩の東岸にある一小島なり。

くだく 碎 動 こぼつ、やぶる、「心をくだく」。

くだ—くだし 淳 形 くどし、くどくどし。

くだ—くらげ 管水母 名 動物 脾腸動物、管狀をなして長く直立せるもの、深紅色なり。

くだ—さんご 管珊瑚 名 動物 管珊瑚類の一種にして、石灰質を有する數多の管相列して聚生體をなし、横板あり

て其上下を連接す、水線は通常淡紅色なれども、管は深紅色なり、產地は印度洋なり。

くださる 被下 動 たまはる、俗語。

くだし—ぐすり 下劑 名 大便を通ぜしむるための藥、一に、つうじぐすり。

くだし—ぶみ 下文 名 一、院、廳親王、法親王、門院廳辨官、撿非違使廳、雜訴決斷所、攝政家政所、親學院政所將軍家、寺社などより、其下に命令する文書をいふ、二、鎌倉室町時代に、政所より下したる文書。

くたす 腐 動 一、くさらす、二、惡口する、貶す。

くだす 下 動 一、ねろす、二、劣らしむ、三、京師より地方へつかはす、四、大便を通ずるにいふ。

くだす 降 動 降服せしむ、從はしむ、まつろはしむ。

くだ—たま 管玉 名 上古裝飾に用ひし玉の一種にして、圓柱體の管なり、曲玉、切子玉などと共に紐を通して帶びたるものなり。

くたに—むら 九谷村 名 地名 加賀國江沼郡の南部に位す、陶器の產出を以て名あり。

くたに—やき 九谷燒 名 陶器の名、寛永年間、加賀國大聖寺の士が、其主前田利治の命により、肥前有田より傳習し來りて、加賀國九谷村にて始めて燒き出したるもの、赤繪、金襴手の摸倣に巧なり。

くたばる 死 動 しぬにたなし、卑めていふ俗語。

くたびる 草臥 動 歩行又は運動などしてつかるるにいふ

くだ—ぶね 管笛 名 竹筒の如き笛、戰場に用ひしもの、

ゲタペルカ Gutta percha 名 化學 ゲッタペルカ、ガタペルチアともいふ、ゴムに類するものにて印度に產する赤鐵科の植物より得、酸水炭三元素化合物なり。

くだ—まき 名 動物 虫名 きりぎりすの類にして、鳴く聲絲車をまはすに似たり。

くだ—まく 動 醉ひてわからぬことを、くだくだしくいふ

くだん 件 名 くだりの音便、前に述べたることをさしていふ。

くだ—もの 百濟物 名 百濟の國の物 古語。

くだ—もの 果物 名 一、木や草の實にして食ふべきものの總稱、二、かうじ(柑子)をいふ。

くだら 百濟 名 國名 古の三韓の一、今の忠淸全羅の二道を領す、西紀前一八年に、高句麗の東明聖王の子溫祚が其兄と和せずして南走し、都を北漢山に定めて箕氏の馬韓を亡ぼし、今の朝廷の中部に國を建つ、之を百濟國とす、後二十九世を經て、西紀六六〇年、唐の蘇定方のために滅ぼされぬ、我國へは神功皇后の四十六年に始めて劇賞し、

天智天皇の時全くつを放棄せり。

くだら—かは　百濟川　名　川名　大和國十市郡にあり。

くだら—がはなり　百濟河成　名　人名　有名なる畫工、もと百濟の人、我國に歸化せり、平城嵯峨二朝に仕ふ、當時の名匠飛彈内匠と相知る、從五位下安藝守に累進し、仁壽三年八月卒す。

くだら—けいふく　百濟敬福　名　人名　百濟の王子禹廣の孫なり、聖武天皇に寵せられ、陸奥守より累進して近衛大將となり、刑部卿に任せらる、天平神護二年卒す。

くだら—ごと　百濟琴　名　樂器の名　百濟より渡來せしもの、小なる琴にして七絃あり、撥を以て彈ずるなり。

くだら—ない　形　一、つまらぬさま、二、やぼなり、俗語

くだり　下　名　一、さがること、二、時刻の移りて末になること、三、都より地方へゆくこと、四、くだりはらの略

くだり　行　名　文の縱のならび。

くだり　具　接　裝束などを數ふるに用ふる語、古語。

くだり—ざか　下坂　名　一、坂の下り道、二、盛りの過ぎたるにいふたとへの語。

くだり—づき　降月　名　下旬のつき、古語。

くだり—やな　下梁　名　增水せるとき川上より落ち來る魚を捕ふるために梁をつくること、又その。梁

くだる　下　動　一、上よりトにゆく、二、世が末になる、三、劣る、四、部より地方へゆく、五、時刻がうつる。

くだる　降　動　降參す、從ふ、まつらふ。

くち　口　名　一、消化系の最も尖端に位し、外唇及び口により外界と界し、後方は咽喉に連り、齒舌を有し、三對の唾液腺の開口あり、食物を咀嚼する外に、言語を發するの用をなす、二、ことば、ものいひ、三、食物の分量。

くち　口　名　一、わな、二、くちぎ(栓)の略「瓶のくち」。

くち　口　名　たぐひ、種類。

ぐ—ち　愚痴　名　一、たろか、二、いひて甲斐なきことを嘆くこと、「愚痴をこぼす」。

くち—あそび　口遊　名　くちずさびにたなし。

くち—あたり　口當　名　口に適せる味、二、待遇。

くち—いれ　口入　名　一、仲人、二、奉公人などの世話をすること。

くちいれ—にん　口入人　名　口入を業とする人。

くー—ちう　宮中　名　大内裏、禁裡、古語。

くち—うつし　口移　名　一、自己の口より子供の口に物をうつしやること、二、言語にて傳ふること、口授。

クチッム　Kutchum　名　地名　西比利亞にある砦の名、トボルスクの南東十二哩にあり、元首府の所在地たり。

くち—がき　口書　名　罪人の白狀せることがらをかきしるすこと、又かきしるしたるもの。

くち—がたむ　固口　動　他言を戒しむるをいふ。

くち—がため　固口　名　くちとめ。

くち—がる　口輕　名　よく物をいふこと、多言、俗語。

くち—がるし　口輕　形　俗に、くちがるい。

くちき—がき　朽木書　名　くちふでにて畫をかくこと。

くち—きき　口利　名　上手に物をいふこと、又その人。

くち—きよし　口清　形　口さきのみ清し、(過ちなどは之を押かくして)。

くち—きり　口切　名　くちあけ、はじまり。

くち—ぐすり　口藥　名　火門のところに置く火藥。

くち—くせ　口癖　名　くせとしていふ語、常套語。

くち—ぐち—に　口口　副　一、各自に、二、齊しく。

くち—ぐるま　口車　名　上手にいひまはして欺くことば、「くちぐるまにのる」といへば、欺かるの意なり。

くち—ごうしや　口巧者　名　物いひの上手なること。

くち—ごたへ　口答　名　一、口にて答ふること、二、長上者に對して抗論すること。

くち—ごはし　口强　形　わくまでいひ爭ひてあり。

くち—ごもる　口籠　動　音聲が口の中にこもりて、判然と聞き取りがたなきこと。

くち—さがなし　形　憑くいふてあり。

くち—さき　吻　名　一、口のさきのところ、二、赤心よりいふにあらずして、口にのみかざりいふこと。

くち—さみせん　口三味線　名　口にて三味線の調子をとること。

くち—ずさぶ　動　ただ何にとなくうたふ。

くち—せん　口錢　名　こうせんにたなし、手數料。

くち—つき　口付　名　一、口の形、二、ものをいふ有樣。

くち—とづ　閉口　名　言葉を止む。

くち—どめ　口止　名　他言を止むること、くちがため、

くちとり—ざかな　口取肴　名　料理の名、きんとん、かまぼこ、鳥魚の肉などを取り合せたるものにて、酒宴の初めに出すなり、略してくちとりともいふ。

くちなし　梔子　名　植物　茜草科、木名、幹は一丈餘、葉は楕圓形なり、花に香氣あり、赤黃色の實を結ぶ、中なる仁より黃色の染料を得べし、山梔。

くちなし—いろ　梔子色　名　色の名、黃色にて赤みを帶びたる色なり。

くちなし—やま　口無山　名　山名　大和國にあり。

くち—なは　蛇　名　勝物　爬虫類、へびにたなし、古語。

くちなは—いちご 蛇苺 名 植物 草名、へびいちご。

くち—なほし 口直 名 藥なと飲みし後莫子なとを食ふこと。

くち—なる 馴口 國 くちづくにたなし、口に馴る、即、是迄食ひ得ざりしものの漸く食ひ得るに至ること。

くち—に—のる 乘口 同 口車に欺るる、人の言にのる、

くち—にまかせて 任口 國 口から出まかせに。

くちの—こ 口籠 名 くつこにたなし、古語。

くち—の—しま 口島 名 島名 薩摩國の南方にあり、周囲五里許、薩摩七島の一なり。

くち—の—つ 口の津 名 地名 肥前國南高來郡島原の南端にあり、長崎を去ること四十海里、肥後の三角を去ること十六海里なり、天正慶長の頃、西教徒の本據にして、原城趾はその南に在り、今燈臺の設けあり。

くち—の—は 口端 名 ことばのはし。

くちのは—に—かかる 掛口端 同 人にかれてれといはるること。

くち—ば 朽葉 名 一、落葉のくちたるもの、二、くちばいろの略。

くち—ば 朽葉 名 鬚(ヒゲ)の色目の名、表は山吹色、裏は黄色

くちば—いろ 朽葉色 名 色の名 黄に赤みたる色。

くち—ばし 嘴 名 一、くちさきにたなし、二、鳥類の口のはし、口吻の延長して角質を被むるところ。

くち—ばしる 口走 動 いふまじき事を思はずいひ洩らす

くち—はば 口幅 名 協若無人の言、俗語。

くち—ばみ 腹蛇 名 動物 爬虫類、まむしにたなし。

くち—び 口火 名 一、小銃の火門に用ふる火、二、すべて、物事の導きとなるもの。

くち—びやうし 口柏子 名 口にて柏子をとること。

くち—びる 唇 名 生理 口の入口にある内緣をいふ、種々の方向に走れる筋肉あるにより、種々の形狀に變ずることを得、感覺極めて鋭敏にして、言語の一部は唇によりて發せらる、唇の乾きて龜裂を生ずるは、胃病に原因すること多し、節足動物、軟體動物なとにも唇を有するものあれとも、人類のものとは其作用構造たなしからず。

くちびる—ほろびて—は—さむし 唇亡齒寒 文 唇と齒とは相隣れるものゆゑ、隣國亡ぶれば其國も危しとの意。

くち—ぶた 口筒 名 口をすぼめてふきならすこと。

くち—ふさぎ 口塞 名 くちとめ、くちがため。

くち—ふで 朽筆 名 下藷なとに用ふるものにして、木の尖端をやきこがしたるもの。

くち—べた 口下手 名 ものいひの下手なること、俗語。

くち—べに 口紅 名 一、婦女の唇にさす紅、二、緣を紅に塗りたるもの。

くち—へん 口偏 名 漢字の偏の名、鳴、吐、咲なとの偏

くち—まかせ 口任 名 口から出まかせにものいふこと。

くち—まね 口眞似 名 他人のことばを眞似すること。

くち—まへ 口前 名 もののいひぶり。

くち—まめ 口實 名 上手によくものいふこと、俗語。

クチン Kudjin (Sorawak) 名 地名 ボルチオ島の北西部の一領土にして、西北は支那海に面し、オランダ領ボルチオに續けり、西紀一八八八年英國の領地となりぬ、地味肥沃にして、砂糖、椰子實、米、茶なとを產す、又、鑛物少からず、水銀、金、安質母尼なとを採取すべし、住民は土人と歐州人とにして、薪嘉坡との取引盛なり、人口三十二萬、首府をクチンといふ、サラワク河畔にありて、人口二萬五千餘あり。

くち—ぬ 口女 名 動物 魚名、一、あかめにたなし、二いな、(京都附近の語)、三、いせびひ。

くち—ぬ 朽目 名 古代の和琴の名。

くち—もと 口元 名 一、口のあたり、二、口のさま。

く—ちやう 區長 名 一區の長、一定の行政區劃内の長。

くちやう—でん 九丈殿 名 伊勢神宮大祭のとき、接社、末社の神に捧ぐる神饌を調進するところ。

くち—やかまし 口喧 名 一、俗に、くちやかましい、二些細のことをも甚だしく咎むる性質。

ぐちゅ 曲出 名 人名 元の太宗の皇子にして、命を奉して、宋の中部湖北に攻め入りたる人なり。

ぐ—ちゆう 愚中 名 古の時の名、午前の巳の時。

くちゅるく 曲出律 名 人名 乃蠻の王子、元太祖に逐はれ、西遼に走る、後西遼を奪ひしも、太祖の西征にあひ、捕はれて殺さる。

ぐ—ちよく 愚直 名 極めて正直なること、馬鹿正直。

くち—よごし 口汚 名 唯口をよごすのみにて、腹に滿たすとの意、他に物を進むるときなとに、謙遜していふ語、俗に、「はんのれ口よごしです」といふ。

くち—よせ 口寄 名 巫女が死者の意を己の口よりいはしめしこと、俗語。

くちら 鯨 名 動物 哺乳類、海獸の名、形狀魚に似たる海獸にして、動物中最も大なるものなり、長さ五六間より十四五間に至る、鱗も毛もなく體は肥大にして、其上部に穴あり、其所より鹹水を噴吹す、前脚は鰭となり、後脚は尾の如く、叉になりて横面に附く、色は黑白種々あり、効用は頗る多く、皮肉は食用に供し、骨は肥料又は細工に用

ひ、脂肪は需要最も多く、鬚は彈力强き故に種種の細工に用ひらる、これをさ又はひれと稱す。

くぢら 鯨尺 名 ものさしの名、くぢらざしの略。

くぢら—ざし 鯨差 名 ものさしの名、古、鯨のひげより作りしゆゑ此名あれども、今は多く竹にて造くる、衣服類の長などを計るに用ふるものにして、其一尺は、曲尺の一尺二寸五分にわたる。

くぢら—の—ひげ 鯨鬚 名 動物 齒なきくぢらの上顎に生ずる纖維狀の角質板にて、櫛齒狀に列生す、齒の變形なり、用は小動物を口に入れたる後、少しく口を閉ぢて口中の水分を出し、殘れる食餌を嚥下すにあり。

くぢら—ぶね 鯨船 名 鯨を捕ふるために用ふる船。

くち—りこう 口利口 名 くちだうしやにたなし。

くち—わき 口脇 名 口のわき、くちばた。

くちわき—きばみ—たり 口脇黃 同 未だ幼し、黃吻兒。

くち—わけ 口分 名 種類によりて物を分類すること。

くち—ゑ 口繪 名 書物などのはじめにかく繪、多くは、彩色せる美麗なる繪なり。

くち—ゑぼし 口烏帽子 名 烏帽子の一種。

くち—な—きく 聞口 同 一、物をいふ、二、仲裁す。

くち—なし 口惜 形 殘念なり、くやし。

くち—な—たたく 敲口 同 多辯なるにいふ、「へらずぐちをたたく」俗語。

くち—な—ぬぐふ 拭口 同 知らぬ眞似をすること。

くち—な—のりす 糊口 同 仕事をなして活計を立つ。

くつ 靴 名 革、木、又は藁などにて作りたる足袋の如きものにして、足に履きて歩く具なり、古代のものには、あさぐつ、くわのくつ、ふかぐつ、などの種類あり、現今用ふるは、皆西洋型にして、ながぐつ、ごむぐつなどの種類なり、沓。

くつ 朽 名 一、草木の枯れくつるをいふ、二、衰ふ。

くづ 屑 名 一、善き部分を取り去りたる殘餘、二、すべて役にたたざるもの、三、かみくづの略。

ぐづ 愚圖 名 怜悧ならざるもの、痴鈍なるもの、俗語。

くつ—いし 沓石 名 椽の柱の臺に用ふる石、いしづへ。

く—つう 苦痛 名 いたみくるしむこと、快樂の反對。

ぐ—づう 弘通 名 佛教の語、佛教の廣く世間に廣まること。

くつ—かけ 沓懸 名 地名 信濃國西筑摩郡駒ヶ根村に在り。

くつ—がた 履模 名 靴を製するに用ふる模形。

くつ—がた 沓形 名 とりぶすまにたなし。

くつ—がぶり 沓冠 名 折句の一種。

くつ—がへす 覆 動 ひるがへす、倒にする。

くつ—がへる 覆 動 ひるがへる、ひつくりかへる。

くつ—きやう 空寛 名 くきやうの音便、最もすぐれたるもの、「風寛の逸物」、「風寛の兵士」。

クック Cook 名 人名 英國の有名なる航海者、セントローレンス及びニウフアウンドランド海岸の測量に從事すること殆ど九年、西紀一七七二年、南海を發見し、後、太平洋探險を企て、マーリング海峽に達し、土人のために殺されたり、(西紀一七二八—一七七九)。

くつ—くつ 感 ひそかに笑ふ聲。

ぐづ—ぐづ—ど 副 俗語 のろのろと、のろくさく。

くつげん 屈原 名 人名 戰國楚の明士、楚の懷王に仕へて寵あり、後に讒を以て黜けられ、不平やるかたなく、終に汨羅に投じて死せり。

くつ—こ 口籠 名 牛馬などの口にはむる籠にして、嚙みつくを防ぐためなり。

くつ—し 屈指 名 指を數ふるほどに有名なること。

くづし—がき 崩書 名 一、漢字の書をはぶきてかくこと、二、草書にかくこと。

くつし—きん 屈指筋 名 生理 屈指屈掌を司る筋肉にして、深淺の二筋あり、共に起點は尺骨にして先端四製す、此の各腱は拇指以外の他の四指に運る。

くつ—した 靴下 名 多くは毛糸などにて編みたるものにして、靴を穿くときに用ふるなり。

くつ—しま 沓島 名 島名、丹後國伊島の別名なり。

くつしやろ—ぬま 屈斜路沼 名 沼の名、釧路國上川郡にあり、周圍二十里餘。

くつす 屈 動 一、かがむ、二、氣の鬱するをいふ。

くづす 崩 動 一、破る、二、惡くす、(行儀などを)三、漢字の書をはぶきて書く、四、草書に書く。

くつ—ずみ 靴墨 名 靴に塗りて光澤を發せしむる汁。

くつせつ—かく 屈折角 名 物理 光が一の光媒より、他の光媒に投射して屈折したるとき、其投射點に一の垂直線をひき、此垂直線と屈折したる光線との成す角をいふ。

くつせつ—さ 屈折差 名 天文 地球の周圍には大氣ある故天體よりの光は屈折して吾人の眼に達す、されば一つの天體を觀測者より見たる方向は實際の方向と異なり、此差を屈折差と云ふ。

くつせつ—の—ていりつ (光の)屈折の定律 名 物理 「入射線及屈折線は、共に兩光媒の相接する境界面に垂直なる

同一平面に在りて、入射角の正弦と屈折角の正弦との比は両光媒の質の變迭ざる以上は一定なり」といふ光の入射と屈折とに關して佛人デカルトの發見したる法則なり。

くっせつ—ぼうえんきょう 屈折望遠鏡 名 物理 望遠鏡の一種なり。

くっせつ—りつ 屈折率 名 物理 光が一の光媒より他の光媒に入り、屈折したるときは、投射角と屈折角との間には、投射角の大小に拘はらず、常に一定の關係あり、即、投射角の正弦と、屈折角の正弦との比は、両光媒の性質により一定し、光媒の異なるによりて常に其比を異にす、此両正弦の比を屈折率といふ。

くっろく—るい 擒足類 名 動物 軟體動物、管狀の單殼を有し、口中上部に顎板あり、下部には小なる鋭齒を有す又、眼を有せず、足は極めて長く、海底を匍匐す、雌雄異體なり、口の周圍に若干の觸手ありて食物を捕へ食す。

クツゾフ Kutusow 名 人名 露西亞の將軍なり、一八一二年九月七日、ナポレオンの軍とモスクバ河畔のボロヂノに於て佛軍と血戰して退きたる人なり。

くっ—たく 屈托 名 物事に思ひつきて、心の屈することと

くつ—たび 靴足袋 名 くつしたにおなじ。

くつちかき 癲狂 名 病名 てんかんにおなじ。

くつて—とり 靴手鳥 名 動物 鳥名、はとときすにおなじ。

ぐっ—と 副 一、非常にすぐれるにいふ、二、一のみに、三、力を入れて、たしかに。

くつな—しま 忽那島 名 島名、伊豫國地方の海中にあり

くつぬぎ—いし 沓脱石 名 戸口などの上り口にある石、略して、くつぬぎともいふ。

くつ—の—れい 靴禮 名 古代の禮、貴人にあひたるとき馬上ならば馬より下りて、靴をぬぎ、之を以て禮とせしなり、古語。

くつ—ばみ くつわにおなじ、古語。

くつ—ひき 蠕蚰 名 動物 爬虫類、ひきにおなじ。

くつ—びき 臥機 名 くつを、機のまぬきにつけ、一端を織る人の足に結びつける麻縄、古語。

くつ—ひと 名 幇間の異名。

くつ—べら 靴篦 名 靴を着くる時、足を容易に入れしむるために、かかとに當つるもの。

くっ—ふく 屈伏 名 力屈して降參すること。

くづほる 頽 名 くづるにおなじ。

くつま 偏僂 名 せむしにおなじ。

くつ—まき 履卷 名 やしりを、篦竹につけたるところ。

くづめ—らくげ 苦爪樂毛 句 一、苦勞すれば爪延び、樂のある時には毛生長すとの意、二、場合により適不適ありといふ意の語。

くづ—や 屑屋 名 一、屑物を賣買する人又は家、二、紙屑屋の略。

くづりゆう—がは 九頭龍川 名 川名 越前國大野郡穴馬郷より發し、日本海に注ぐ。

くづる 頽 動 一、天然に破れそこなふにいふ、二、すたる、三、散解す（集會などの）。

くづれ 頽 名 一、くづれたるところ、二、散會。

くつろぎ—どの 寛殿 名 儀式の時などに、休息する所。

くつ—わ 轡 名 馬の口にはまし め置く金具、之に手綱をつけて馬を御するなり、くつばみ。

くつわ 轡 名 家紋の名 其形くつわに類す。

くつわ 亡八 名 一、遊里、二、遊女屋の亭主。

くつわ—がひ 轡貝 名 動物 貝の名、ばかがひにおなじ

くつわ—しま 轡島 名 島名 薩摩國本浦島の異名。

くつわ—だすけ 轡助 名 轡の両側に垂らして、其末はふさの如くせるもの、馬のかざりの一種なり。

くつわ—むし 轡虫 名 動物 昆虫類、きりぎりすの類にして、秋夜鳴く、其聲くつわの音に似たり、がちやがちやのわる時には毛生長すとの意、二、場合により適不適ありといふ意の語。

くつわ—や 轡屋 名 遊女屋の別稱。

くつ—な—へだてて—かゆき—な—かく 靴隔掻痒 文 物の本體を得ざるにたとふ、已の煮のままにならぬこと、趣意の徹底せざること、俗に「かゆき所に手がとどかぬ」。

くづ—なる 動 朽 腐す、氣抜けす、古語。

くて 名 水草などの生したる低地なり。

クテイ Kostei 名 河名 ボルチオの河、中央山脈に發してセレベス島と木島の海峽に注ぐ、（2°N. 114°E）。

ぐ—てい 愚弟 名 他に對し自分の弟を謙遜していふ語。

ぐ—てう 口調 名 ものいふ調子、音聲の高低の配合の有樣、語路。

くでう 公帖 名 五山派臨濟派の僧の官位を進むるとき、朝廷より賜はる免狀。

くでう—け 九條家 名 北條時頼の時、京都制府の政署として、藤原氏を分離したる五攝家の一なり、藤原忠通の子兼實九條を稱したり。

くでう—すけざね 九條輔實 名 人名 從一位關白太政大臣に歴進せり、享保十四年十二月卒す、年六十一。

くでう—たねみち 九條植通 名 人名、後奈良天皇の朝に大臣關白となり、從一位に進む、文祿二年卒す。

くでうーの—はいてい　九條廢帝　名　仲恭天皇を申す。

くでうーの—ゐん　九條院　名　九條廢帝（仲恭天皇）の御所にして、所在今不明なり。

くでうーみちいへ　九條道家　名　人名　攝政兼經の子、土御門、順德の二朝に仕ふ、仲恭天皇立つに及び從二位左大臣より攝政に任じ、承久の役後薙髮して行恵と稱す、建長四年卒す、年六十。

くでうーよしつね　九條兼經　名　人名　兼實の子、後鳥羽土御門二朝に仕ふ、建仁二年攝政となる、建永元年卒す。

くでうーよりつぐ　九條頼嗣　名　人名　頼經の子にして、父の後をうけ、六歳にして右近衛少將に任じ、征夷大將軍を兼ぬ、後左近衛中將となる、父北條氏を亡ぼさん事を謀りし爲め、頼嗣罷められて歸る、年十八にして薨ず。

くでうーよりつね　九條頼經　名　人名　攝政道家の三子なり、政子薨去の翌年征夷大將軍となる、寛元二年子に之を傳ふ、在職十九年、時に二十七歳なり、後北條氏を亡ぼさんとして、京師に還され、三十八にして薨ず。

ぐでーぐでーに　國　ぐてんぐてんにれなし。

クテシアス　Ktesias　名　人名　ペルシアの歴史（今僅に殘篇を存するのみ）を書きしギリシアの醫者、アルタクセルクセスとクナクサの戰に出で其後ペルシア朝廷に止り其材料を得たるなり、（西紀前四一五—三九九）。

クテシフオン　Ktesiphon　名　人名　アテンの人にしてデモステネスに金冠をいただかしむべしと主張して罰せられしも、デモステネスの雄辯により救ひ出されぬ。

くーてん　句點　名　文章の句の記號につくる點。

くーでん　功田　名　古　功勞ありし人に賜はりし田地。

くーでん　口傳　名　一、言語にて傳ふること、二、秘傳。

ぐでん—ぐでん—に　國　酒に醉ひて身體が綿の如く、ぐだぐだになりしさまをいふ、俗語。

グーテンベルヒ　Gutenberg　名　人名　獨逸人にして初めて活版を發明したり。

くど　曲突　名　一、竈の後に穴をあけ、以て烟出しとせるもの、二、かまどにれなし。

くーど　苦土　名　マグネシウムと酸素との化合物。

くーとう　句讀　名　文中にて語の切れたる所を句といひ、句の中を更らに分ちて、點などをつけて、讀み易くしたるを讀といふ。

くどう—すけつね　工藤祐經　名　人名　伊東祐次の子、頼朝に仕へて左衛門尉となり寵あり、采領のことにつきて、河津祐泰を殺す、建久四年、祐泰の子曾我祐成兄弟のために殺さる。

くどう—てん　句讀　名　句讀のしるしにうつ點。

くどう—へいすけ　工藤平助　名　人名　江戸の醫師、林子平の海國兵談は、平助の言により作くりたるものなりといふ、寛政十二年卒す、年六十二。

くどき—うた　口說歌　名　俗謠の名、なげぶしにうたう鼻唄。

くーどく　功德　名　善き行、くりき。

くーどく　口說　動　一、口にてくどくどしく說きつくる、二、强いて承諾せしむ。

くどく—ゐ　功德衣　名　けさ（袈裟）にれなし。

くどー—くどー　形　くだくだしの轉、煩はし。

くどく—の—はやし　功德林　名　功德のしげきことを林にたとへいふ語。

くどし　形　くだくだし、くどくどしなどにれなし。

くど—せん　苦土泉　名　鑛泉の硫酸苦土を多量に含有するもの。

グードホープ—さき　Cape of Good Hope　名　地名　南亞弗利加西南端の岬にして、一四八六年、ヂアズの發見に係るものなり。

くーない　區內　名　一區のうち。

くない—きやう　宮內卿　名　人名　後鳥羽天皇の宮女、巨勢宗義の外孫にして、右京大夫師光の女、和歌を以て世に名あり、又、書をよくす、餘に和歌の推敲に心を傾注せしため、病を得て早世せり。

くないきやう—はふいん　宮內卿法印　名　人名　狩野探幽の異名なり。

くない—しやう　宮內省　名　一、古の八省の一、右大辨の支配に屬し、帝室の御用度御料地及び禁中に關する土木工匠のことを掌る、二、今の宮內省も其執り行ふ事務は古と異ることなく、唯、職員など甚だしくかはれり。

ゲナイスト　Gneist　名　人名　ルドルフ　フォン　ゲナイストは獨逸の公法學者、名著あり、西紀一八一六—一八九五）

ゲナイゼナウ　Gneisenau　名　人名　獨乙の陸軍大將にして、ワーテルロー戰爭に功ありし人なり、（西紀一七六〇—一八三一）。

くない—だいじん　宮內大臣　名　今の宮內省の長官。

くーなう　苦惱　名　なやみくるしむこと。

クナクサ　Kunaxa　名　地名　ユーフラテス河畔、バビロニアの一都邑にして、バビロニアの北六〇哩にあり、西紀前四〇一年、アルタクセルクセス王が其弟と戰ひし地なり。

くなじり　國後　名　島名　千島列島の最南端にある島にして、北海道に最も近く、古より本島に交通せり。

くな—たぶれ 頑狂 名 頑固なる人を嘲りていふ語。

く—なん 苦難 名 くるしみ、かんなん。

くに 國 名 一、政府の下に統治せらるる土地の大區劃、「日本の國」二、戚務天皇の時に始めて山河の形勢によりて區劃せし土地の制、現今八十五あり、「山城國」三、他の地にありて自己の故郷をいふ語、四、京以外の諸國。

くに 國 名 人名 出雲大社の巫女、本邦女優の祖、正保元年死す、世に出雲れた國と稱せらる。

ぐに 五二 名 博奕の語。

くに—うど 國人 名 一、くにびとの音便、二、京都に參勤せずして常に自己の領國にありし大名をいふ。

くに—が 陸 名 くがにたなし、古語。

くに—がた 國形 名 國の風俗、古語。

くに—がた 國方 名 京以外の諸國、地方。

くに—がへ 國替 名 舊幕時代に大小名の領邑を他へ移したること、移封、轉封。

くに—くづし 國崩 名 いしびやの一種なり。

くにく—の—はかりごと 苦肉之計 同 身命を抛ちて敵に油斷さする謀、敵を詐かんために大將と不和の如く見せかけて、佯りて敵に降るなどをいふ。

くに—ぐに 國國 名 多くの國、諸國。

くに—ことば 國語 名 一地方に限り特別に行はるることば、方言。

くに—たみ 國民 名 國人、一國の民衆。

くに—ち—ごうで 九日小袖 名 九月九日に着るなり、表は白、裏は紫の小袖なり。

くに—つ—かみ 國神 名 天つ神に對していふ語にして、この國の神の意なり、地祇。

くに—つ—ふみ 國書 名 我國の書、(外國の書に對して)

くに—づめ 國詰 名 舊幕時代に大名が其領地に居りしをいふ、江戸に居る時は江戸詰といひき。

くに—つ—もの 國物 名 其國の物産、土産。

くにとこだち—の—かみ 國常立神 名 神の名 天地開闢の時、あまくだりし神。

クニドス Knidos 名 地名 小亞細亞西岸に於ける、ドリア人種の古代の主要なる殖民地なり。

くになか—きみまろ 國中公麿 名 人名 歸化人の裔にして、聖武帝の時、東大寺の盧舍那佛の鑄造をなす、造東大寺次官となり、寶龜五年卒す。

くになが—しんわう 邦長親王 名 人名 後二條天皇の長子にして、文保二年三月元服太子に立つ、後醍醐帝の讓を受くべかりしに、正中二年三月薨ず、御年二十。

くに—たや 國親 名 一、天皇陛下、二、太上天皇、

くに—の—かみ 國守 名 ずりやうにたなし。

くに—の—つかさ 國司 名 ずりやうにたなし。

くに—の—はかせ 國博士 名 大寶令に設けられたる國學の教授なり、高向玄理、僧旻等國博士なり。

くに—の—はは 國母 名 一、皇后陛下、二、皇太后陛下

くに—の—ほ 國穂 名 國土のすぐれたるところ、一に、くにのまほらともいふ、又、くにのまほろば。

くに—の—みことものち 國司 名 ずりやうにたなし。

くに—の—みや 久邇宮 名 新列の親王家の一。

くに—の—みやつこ 國造 名 上古 國を支配せし地方官にして、代々其國を保てり。

くに—の—なさ 國長 名 ずりやうにたなし、古語。

くに—はら 國腹 名 舊幕時代に、大名などの子の、其領國にありて生まれたるもの。

くに—ばらひ 國拂 名 犯かせる罪ありて、其國土より放逐せられ、再び其國に入るを許されざること。

くに—びと 國人 名 くにものにたなし。

くにふ 口入 名 くちいれ、なかうど、古語。

くに—ぶぎやう 國奉行 名 役名 古 諸國を監察し、又訴訟を裁判せし役なり。

くに—ぶみ 國文 名 國司より其國の貢物に添へて出すふみ、古語。

くに—まぎ 國覓 名 住むべき國をもとめさがすこと。

くにみ—だけ 國見嶽 名 山名 大隅國にあり。

くに—みたま 國御魂 名 神名 國をつくりし神。

くにむけ—の—ほこ 國平矛 名 ひひらぎのやひろぼこにたなし。

く—にん 公人 名 一、古 公文所に使はれし役人、二、禁中、地下などの小役人。

くにん—ぶぎやう 公人奉行 名 役名 古 政所などにて奉行の進退をつかさどりしもの。

くにも—せ—に 國狹 同 國も狹きばかりに。

くに—もち 國持 名 諸侯の、一國又は數國を領するものくにもちしゆう(國持衆)ともいふ。

くに—もの 國者 名 一、同國人、二、田舍漢、

くにやす—がは 國安川 名 川名 遠江國菊川の異名。

くに—わかれ 國別 名 國を別かれて出立すること、古語

くぬぎ 櫟 名 植物 殼斗科、葉は長き楕圓狀披針形にして鋸齒を有し、果の葉に似て稍小なり、莖を薪炭料に供し若き葉を染料とす、葉を野蚕の食料となし、樹皮を染料又は柔皮用に供す。

クヌュド Kund d. Gr. 大王 名 人名 英國及丁抹の王なり、寛仁大度の君にして、本國丁抹に耶蘇教を布きたり。

くね 畔 名 あぜをいふ、伊勢の國の方言。

ゲ子ウス Gnaeus 名 人名 羅馬共和制の末路に出でたる人にして、スルラの部下にあり、紀元八三年、ポンペーウスと共にマリウスの余黨を討ちたり。

くね—くねし 拗戻 形 根性わるし、心のねぢけたるにいふ。

タ子子 Cuneme 名 河名 亞弗利加の西南、ペングエラ國の河にして、國の東南境に沿ふて流れ、太西洋に注ぐ。

くねぼ 九年母 名 植物、木名、くねんぼにたなし。

くねんぼ 九年母 名 植物 木名 柚に似れる木にして、實は香氣ありて味甘酸し。

くねる 屈曲 動 一、うねる、二、ひがむ、まがる。

ケ子ルスードルフ Kunersdorf 名 地名 プロシアのオーデル河の東岸にある村にして、西紀一七五九年に、フレデリキ大王が五萬の兵を以て此處に露墺同盟軍を破りしが、追擊の際却つて同盟軍の爲めに破られて大敗せり、

くのう—ざん 久能山 名 山名 駿河國安倍郡にあり、靜岡を去ること三里許、別格官幣久能神社あり、德川家康を祭る、別稱、九能山。

くのに—かう 薰衣香 名 衣を薰らす香料なり。

くの—ぼうしう 久野鳳州 名 人名 儒者、名は後明、字は彦遠、詩に長じかねて書をよくす、享保元年、尾張侯に仕へ、明和三年卒す、年七十。

くは 桑 名 植物 桑科、木名、變種甚だ多し、葉の形狀も亦種種あり、其邊緣に鋸齒を有す、花被は黃綠色にして蕚と花冠との區別なし、又雌花雄花は異株に存し、共に穗狀花序に排列す、葉は養蠶の料に供し、木材は堅くして緻密なれば種種の細工に用ひらる、樹皮より紙料を取る、果實を藥用又は食用に供す。

くは 鍬 名 土地を掘るに用ふる具、全體木にて唯頭に金屬をつけたるもの。

くは—いちご 桑苺 名 桑の果實をいふ。

く—ばう 公方 名 一、朝廷、二、足利義滿の頃より、征夷大將軍の僭稱となれり。

くは—がた 鍬形 名 兜の正面に、左右に分かれて、二本の角の如く立ちたるものをいふ、鍬形はくわゐ(慈姑)形の略にて、くわゐの葉を側面より見たる如き形なればなり。

く—はく 琥珀 名 鑛物、こはくの轉、俗語。

くは—こ 桑子 名 かひこの異名なり、古語。

くは—さけ 桑酒 名 酒の一種、桑の根にてつくれる酒なり、丹波國の名產。

くはし 委 形 つまびらかなり、つぶさなり。

くはし—いも 細妹 名 美しき女 古語、くはしめ。

くはず—ぎらひ 不喰嫌 名 一、物を食はずして、嫌なりと思ふこと、二、すべて物事の妙味を知らずして、一概にわしく思ふこと。

くは—た 桑田 名 桑をうゑたる田。

くはだつ 企 動 思ひ立つ、思ひ起す、計畫す。

くは—ちや 桑茶 名 桑の葉を茶の如く製したるもの。

くはな 桑名 名 地名 伊勢國桑名郡桑名町、揖斐川の河口にあり、白川樂翁公の後なる松平氏の舊領地にして、三重縣の管轄に屬す。

くは—の—うら 玖波浦 名 浦の名 安藝國佐伯郡にあり

くは—の—かど 桑門 名 佛門、しやもん。

くは—の—ゆみ 桑弓 名 桑の木にてつくりたる弓、よもぎのや(蓬矢)と共に、古、魔をはらふために用ひしもの。

くは—ばら 桑原 動 雷鳴のときに唱ふる語、俗語、桑原は菅原氏の舊領にして雷は落ちずといひ傳へたるによる。

くはは 加 動 ふへる、ある上に添はる。

くはふ 加 動 ふやす、くはへる。

くはふるに 加之 接 且、そのうへ、しかのみならず。

くはまゆ 桑繭 名 かひこのまゆ。

くは—むし 桑虫 名 動物、虫名、かひこにたなし。

くは—や 此者 動 これよ、さればよ。

くばり 名 一、くばること、二、花瓶にはむる木。

くばる 配 動 一、分つ、分與す、二、配偶を定む。

くひ 杭 名 地に打込みたる材木。

くび 頸 名 一、生理 頭と胴との連絡部をいふ、脊椎動物以外の動物にはこれを缺如するもの多し、二、首のところ三、頸の形せる部分。

くび 首 名 かしら、かうべ、「首級」。

くび—あわせ 食合 名 二種の物を一時に食ひあはせて、身體の毒となるをいふ。

くひ—いる 食入 動 くひこむにたなし。

くび—かし 盤枷 名 くびかせにたなし。

くび—かせ 盤枷 名 くびかしの轉、古代の刑具の名、かしは鐵又は木にて作くり、罪人の體に加へて、自由ならしめぬやうにするもの、頸にあるを頸枷といひ、手にあるをてかせ(柾、足にあるをあしかせ(桎)といふ。

くび—さ 首木 名 車の轅のはしにつけ、牛馬の首にかくる横木。

くび—きり 首斬 名 罪人の首を斬ること。

くびきり—だい 首斬臺 名 罪人をのせて斬首する臺、たんとうだい(斷頭臺)ともいふ。

くびきり—ばった 首斬蟋蟀 名 動物 昆虫類、虫名、ばったの一種なり、愈地非常に強く、物などを噛ませて其の一端を引けば、其首切れても尙放たず、故に此名あり。

くひ—きる 食切 動 一、齒にてかみきる、二、食ひ盡くす。

くびきれ—ちやう 頸切疔 名 腫物の名、なうそ(腦疽)にたなし、又、くびきりちやうともいふ。

くび—くくり 頸縊 名 一、頸をくくること、二、頸をくくりて絶息したる人。

ぐび—くわ 具備花 名 植物 雌雄両蕊を同一花中に兼備する花をいふ、故に必ずしも完全花にあらず。

くひ—こむ 食込 動 資本の減ずるにいふ、收支相償はず

くび—じつけん 首實見 名 古 戰場にて討ち取りたる敵の首を、大將自から檢して、果して何某なるや否やをただすこと。

くひ—しばる 切齒 動 上下の齒を強く合せかむ、(非常に憤慨せる時などに)。

くびす 踵 名 かかと、きびす、古語。

くび—すぢ 頸筋 名 襟のところ、ねりくび。

くひ—ぜ 株 名 かぶ、木のきりかぶ、きりくひ。

くび—せん 頸錢 名 古 斬首の刑を宣告せられし罪人が首を斬らるるを贖ふために出したる錢、くびだい。

くひぞめ—の—いはひ 食初祝 名 生兒の百二十日目に、始めて食ふ祝、略してくひぞめといふ。

くび—だい 首代 名 くびせんにたなし。

くひ—たふす 食倒 動 一、他人の物を食ふて、金錢又は相當の報酬をなさざること、二、くひつぶす。

くび—だま 頸玉 名 一、頸に飾りし玉、二、犬などの頸につくる環。

くひ—ちがひ 食違 名 まちがひ、考へちがひ、齟齬。

くびっ—たけ 頸丈 形 一、立ち居る人の頸までのたけ、二、男女の深く愛し合ふことなどにいふ。

くひ—つぶし 食潰 名 徒食すること。

くひ—つむ 食詰 動 糊口の道に窮す、生計の困難となること。

くひな 水鷄 名 動物 涉禽類、鳥名、頭脊翼に蒼黑の班點を有し、淡黃色を帶ぶ、嘴細く、脚小なり、眼上に一條の白班あり、常に沼池に棲息し、夕刻又は晝夜の時、淋しき聲にて鳴く、其聲人の門をたたくが如し。

くび—ひき 首引 名 遊戯の名、両人相對座し、互に繩を首にかけてひき合ひ、ひきよせられたる方を負とするなり

くび—まき 頸卷 名 ねりまきにたなし。

くひもの—あたり 食傷 名 食物にあたりたる病氣、しよくあたり。

クビライ Kublai (Khublai) 名 人名 忽必烈、西紀十三世紀に於ける蒙古の大帝、即、元の世祖なり、印度、アラビア、小亞細亞を除き、殆ど全アジア大陸を征服せり弘安四年我國を伐たんとせしも、却て大敗せり、西紀一二九六年に卒す。

くびる 縊 動 一、頸をくくる、二、頸をしめて殺す。

くび—なげ 首桶 名 斬りたる首を入るる桶。

くふ 食 動 食物をくらふ、又、活計をたつ。

ぐ—ぶ 供奉 名 行幸などの際御供すること。

く—ふう 工夫 名 考へめぐらす。

ぐ—ふう 颶風 名 地文 高氣壓の中央に低氣壓を生し、其差甚しくして、両地相接近するときは、外にわる高氣壓の空氣は忽ち激烈のサイクロン運動を起して低氣壓の所に向つて急流す、之を颶風といふ、日本支那の大風と稱するは皆此類なり、而して其速度は大抵一時間七十哩乃至八十哩にして、時には百二十哩乃至百五十哩に達することわり

ゲブタ 笈多朝 名 印度案度羅朝の衰へたる後、曲女城に都したる朝にして、月氏を印度より追ひ出したりしが、後嚈噠人に破られて亡ぶ。

ぐ—ぶつ 愚物 名 愚鈍なる人、馬鹿者。

くぶん—でん 口分田 名 大化の制により、一般人民に給與せられし私田にして、六歳以上の者之をうけ、收獲の百分三を上納し、六年を一期として死するときは官に殺す、其割合は男一人に二段歩を得、女は其三分二なり。

くふ—や—くは—ず 食不食 同 生計のたつかたたぬかのさかひ、俗語。

く—べつ 區別 名 かぎり、境界を設くること。

くへんとう—ゆ 苦扁桃油 名 化學 ベンザアルデヒドに同じ。

くぼ 窪 名 くぼみたるところ、古語。

くぼさ 利 名 利益、利潤、まうけ。

ぐ—ほふ 弘法 名 佛教の語 佛法をひろむること。

ぐ—ほふ 求法 名 佛教の語 佛の道を求むること。

くぼまる 蹲踞 動 うづくまるにたなし。

く—ぼん 九品 名 佛教の語 佛となるまでに凡そ三の階級を經ざる可らず、而して其一階級各更に三の品わりて、都合九等の階級あること。

くぼん—れんだい 九品蓮臺 名 佛教の語 極樂にありと

いふ蓮の葉のうてな、略してくばんともいふ。

くぼーめ 窪目 名 深くひきこみたる目。

くま 熊 名 動物 食肉動物、獸の名、我國にては北海道に多く産す、全身黑色にして鋭利なる爪を有し、喉下に白色の毛輪あり、所謂月の輪と稱するもの是なり、肉及び脂肪は食料となし、其膽は藥品となる、毛皮は褥となす、種類甚だ多くして中には白色なるものあり、之を白熊といひ寒帶地方に多く産す。

くま 隈 名 一、すみ、かげ、二、色と色と、又は、光と影と相接するところ、三、俳優の顏に色を加ふること。

くま 奠 名 くまーねにれなし。

クマーリラ、バタ Kumarila-bhatta 名 人名 印度のミマンサー派哲學の有名なる學者にして、痛く佛敎に反對したりといふ。

くーまい 供米 名 神佛に供する米。

ぐーまい 愚昧 名 愚かにして事理にくらきこと。

くまがひ 熊谷 名 地名 武藏國大里郡にある町の名、埼玉縣の管轄に屬す。

くまがひいーなほさね 熊谷直實 名 人名 源義經に從ひ、各處に轉戰し、驍勇の名高し、建久三年、僧となり源空上人に投じて蓮生坊と稱す、承久二年九月卒す。

くまーがは 球磨川 名 川名 肥後國に在り、九州第一の急流にして、八代郡の山中より發し、八代港に注ぐ。

くまーぐま 隈隈 名 ここかしこのくま。

くまざかーづきん 熊坂頭巾 名 頭巾の一種、しころを長くせしもの、元文の頃に流行せしもの。

くまざかーわやうはん 熊坂長範 名 人名 有名なる盜賊承安の頃の人。

くまーざさ 隈笹 名 植物 禾本科、竹類中普通のものにして細き莖と廣き葉とを有す、一名やきばささ。

くまざはーばんさん 熊澤蕃山 名 人名 儒者、字は了介名は伯繼、通稱は二郎八といふ、十六歲にして池田光政に仕ふ、後中江藤樹に從つて陽明學を學ぶ、江戸に出でて學ぶ所多し、後再び岡山侯に仕へ、大に治績をあぐ、貞享四年封事を綱吉將軍に奉り時事の得失を論ず、遂に禁錮せらる、元祿四年七月卒す、年七十三。

くましろーゆうひ 熊代熊斐 名 人名 名は斐、字は淇瞻我國南蘋畫風の祖、安永元年十二月卒す、年八十。

くまーろ 熊襲 名 地名 昔時九州に在りし熊襲族の地方今の日向國の南より大隅薩摩の二國を合せたるもの。

くまろーたける 熊襲梟帥 名 人名 熊襲の酋長なり、景行天皇の朝に反すること一回、後、日本武尊に刺殺さる。

くまーだか 熊鷹 名 動物 鳥名、鷹の一種にして、性質極めて烈しく、猿羊狸兎などを掴み食す、形は全く鷹と同一なれども、大さは殆ど其三倍に達す、唯耳の上に角の如き毛ありて稍梟にも似たり。

くまーち 隈路 名 人の目に見ぬところ、くまでともいふ。

くまーで 熊手 名 一、熊の手の如き鐵製のものを、長き柄のさきにつけ、敵を掴ふるに用ふ、二、仝上の形にて、唯鐵の代りに竹を用ひしもの、落葉などをかき集むるために用ふ、三、東京市に於て酉の市に賣るもの、竹製の熊手に、わかめの面などを飾りつけしものなり。

くまーどる 暈取 國 染分けにす。

クマナ Cumana 名 地名 南米々子ズエラ國の港市にして南米西班牙領の獨立に偉功ありしアントニオ、ホセ、スクレの生地なり。

くまーなし 無隈 形 一、へだてなし(心の)、二、くもりなし、「くまなき月」。

くまの 熊野 名 地名 紀伊國東牟婁郡本宮村にあり、素戔嗚尊を祀る、熊野權現と稱し、國幣中社なり。

くまーのーい 熊膽 名 熊の膽にして胃病に効あり。

くまのーうら 熊浦 名 浦の名 紀伊國にあり。

くまのーがは 熊野川 名 川名 大和國十津川の下流、紀伊國にあり、別稱、新宮川。

くまのーさん 熊野山 名 山名 紀伊國本宮、新宮、那智の三山を總稱していふ。

くまーばち 熊蜂 名 動物 虫名、やまばちの一種、形、虻に似て大に、全身深黑色なり。

くまーまつり 熊祭 名 北海道のアイヌ人が熊の兒を捕へ來り、婦女の乳を以て之を育て、三年目に之を殺して神に奉るをいふ。

くまもと 熊本 名 地名 肥後國飽田郡にあり、熊本城は加藤清正の修築する所にして市の中央にあり、要害堅固を以て有名なり、明治十年西南の役、谷干城官軍を以て此城により、賊徒を防禦したり、熊本縣の管轄に屬す、細川氏の舊領地なり。

くまもとーけん 熊本縣 名 縣名 肥後國の全郡即十六郡を管轄す、縣廳を熊本に置く。

クマリ Kumari (Comori) 名 地名 印度の最南端の岬なり。

くまわうーまる 熊王丸 名 人名 字野六郎の子、六郎楠正儀と戰ひて敗死せしかば、父仇を報せんとて正儀をねらひしが、遂に捕へられし時、つぶさに實を正儀に告ぐ、正

儀其志に感じ、食祿を與へ元服せしめて和田正覺と名乘らしむ、熊王遂に害心を去り僧侶となる。

くみ　胡頽子　名　植物　木名、高さ六七尺、小枝叢生し、葉は梨子に似て表青く裏白し、小さき花を開き、赤き實を結ぶ、其種類多し、一にぐみともいふ。

くみ　組　名　一、なかま、二、同調子の短き琴の曲を數多組み合せて一となしたるもの。

ぐみ　胡頽子　名　植物　くみにれなし。

くみ—あひ　組合　名　一、なかま、二、とりくみ（角力の）

くみあひ—ゐん　組合員　名　組合を組織せる人々。

くみ—いと　組糸　名　糸をくみ合せたるもの、くみ。

くみ—うち　組打　名　敵と組み合ふこと。

くみ—がしら　組頭　名　仲間のかしら、德川時代に行はる

くみ—かはす　酌交　名　互に杯のやりとりをすること。

くみがみ—な—とく　解組髪　動　降服す、古語。

くみ—こ　組子　名　くみした　てした、部下。

くみ—しく　組敷　動　敵を組みふするをいふ。

くみ—した　組下　名　組頭に從ふもの、てした、くみこ。

くみ—す　組　動　くむ、仲間に入る、徒黨となる。

くみ—ちんき　苦味丁幾　名　藥品の名　褐色の液體にして味頗る苦く、消化をたすくるために用ひらる。

くみ—てがた　組手形　名　手形の紛失に備へ、又は流通の便をはかるために振出す手形にして、數通同文なり。

くみ—とる　汲取　動　一、器に水なぢを汲みうつす、二、くみはかるにれなし。

くみ—はかる　酌量　動　ねもひやる。

くみ—わく　汲分　動　一、汲みて分くる、二、くみかはるにれなし。

くみ—た　組緒　名　組糸のさげを、くみのを。

くむ　組　動　一、仲間になる、二、とりくむ、くみわふ。

くむ　酌　動　おもひやる、事情をれしはかる。

くん　訓　名　漢字に國語をあててよむこと、よみ。

くん　勳　名　一、功績、いさを、てがら、二、くんゐにれなし。

くん　君　接　他人の名の下に添ふる敬語、「何某君」。

ぐん　軍　名　一、戰爭いくさ、二、軍隊、軍勢。

ぐん　群　名　むらがり集りたること。

ぐん　郡　名　こはりにれなし。

ぐん—ゐい　軍營　名　軍隊の陣地。

ぐん—が　郡衙　名　郡の政務を執る役所。

ぐん—かう　軍港　名　軍用の港、海軍の根據地にして、鎭守府の所在地、相模の横須賀、安藝の吳、肥前の佐世保、

丹後の舞鶴、臍振の室蘭などなり。

ぐん—がく　軍學　名　へいがく（兵學）にれなし、「軍學兵法」

ぐん—かん　軍艦　名　戰爭に用ふる艦　戰鬪艦、巡洋艦、砲艦、などの種類あり。

ぐん—かん　軍監　名　一、古の鎭守府の判官、二、軍事を監督するもの。

ぐんかん—ぶぎよう　軍艦奉行　名　安政六年始めて置かれたり、軍艦の操練、大小船艦の製造等を司る、若年寄の所管にして、千石の職なり、外國奉行永井玄蕃頭尙志之れに任せらる。

ぐん—き　軍規　名　軍隊の規律。

ぐん—き　軍記　名　戰爭のことをかきたる書物。

ぐん—き　軍旗　名　れんたいきにれなし。

ぐんき—さい　軍旗祭　名　軍隊に於て軍旗を祭ること、即軍旗を下賜せられたる日又は戰勝紀念日などに行ふなり。

ぐん—くわい　郡會　名　郡のことにつきての會議。

ぐん—げん　軍監　名　ぐんかん（軍監）の二にれなし。

ぐんけん—せいど　郡縣制度　名　國家を以て天皇の直轄となし、之を縣に分ち、更に郡に小分して、統治權を中央に集むること、（封建制度に對して）。

くん—こう　勳功　名　いさをし、てがら。

ぐん—さう　軍曹　名　一、古代の鎭守府の主典、二、今の陸軍の下士官の一。

くん—し　君子　名　德行ある人、才德兼備の人。

ぐん—し　軍師　名　大將に從ひて謀をめぐらす人、今日の參謀にれなし。

ぐん—じ　郡司　名　役名　昔郡を治めしもの、かみ（太領）すけ（少領）、じよう（主政）、さくわん（主帳）の四職ありき

ぐんじ—こうさい　軍事公債　名　軍費にあつるために募集する公債。

くんし—こく　君子國　名　昔、支那人が我日本をさしていひし語、又、くんしふしのくに（君子不死國）ともいふ。

ぐん—じん　軍人　名　いくさびと、戰爭をなす人。

ぐん—じん　軍神　名　いくさがみにれなし。

ぐん—しや　軍者　名　ぐんしにれなし。

くん—しやう　勳章　名　國家に功勞ある人に賜はる徽章にして、胸間にかけて其功を表示するなり、金鵄勳章を始め其他種種あり。

くんじやう　郡上　名　地名　美濃國郡上郡にあり、岐阜縣の管轄に屬し、青山氏の舊領地なり。

くんしゆ—せいぢ　君主政治　名　君主が統治權を行ふ政體

くんしゆ—どくさい　君主獨裁　名　君主政治を分ちて、二

種となす、一は立憲君主制にして、君主は主權を總攬すれども、其行使は憲法の制限をうく、他の一は卽獨裁君主制にして、君主は自己の自由意思によりて主權を行使することを得るなり。

くんしゅーろん 君主論 名 伊太利人マキアベリ氏の著書なり、之には歐州中世の君主の權謀術數を指摘したり。

ぐんしょーるゐじゅう 群書類從 名 書名 塙保己一の編にして、本邦古今の書籍を類別校訂したものにして、千二百七十三部あり、後、二百三十三部の續編を出せり。

ぐんーす 軍 名 陣を取る、陣地を定む。

ぐんーせき 軍籍 名 兵役の義務あるものの屬籍。

ぐんーせん 軍扇 名 大將が部下を指揮する時に用ゐる扇にして、鐵骨に漆紙を張り、日月などを畫けるもの。

くんーろく 君側 名 君主のそば、「君側を淸む」。

ぐんーぞく 軍屬 名 一、其軍に屬するもの、二、陸海軍に屬する文官其他陸海軍に從事するもの。

ぐんーたい 群體 名 動物 一所に集まりて生活し、或は共同の體部を有して集合棲息せる全個體。

ぐんーだい 郡代 名 こはりぶぎやうにたなし。

くんーたう 薰陶 名 火の物を薰し、陶の器を作くる如く德を以て誘導しつつ人物を養成すること、卽、感化教養。

くんーだう 訓導 名 一、教へ導くこと、二、小學校などの教員の資格の名。

ぐんーたう 群島 名 數多の島嶼の不規則に群集せるもの。

ぐんーだん 軍團 名 數多の軍隊が集團せし兵隊にして、二十一歲より六十一歲までの中より撰び出し、軍事を練習しめ、事變に備へ、又其の中より衛士、防人などの役にも充てたり。

ぐんだんーし 軍談師 名 軍談を講じて聞かするもの。

ぐんーぢやう 郡長 名 役名 郡の政治を執るもの。

くんーてん 訓點 名 漢文を和讀するときに用ふるふりかな及びかへりてん。

くんーどく 訓讀 名 漢字に國語をあてて、よむこと。

くんトーのーぢっけん クントの實驗 Experiment of Kundt 名 物理 種々の瓦斯體内にての音の速度を計る爲にクントのなしたる實驗裝置なり。

ぐんないーたり 郡内織 名 甲斐國郡内にて、織り出す絹、主として夜具蒲團の表などに用ふ。

ぐんにやりーと 名 力なきさまにいふ、俗語。

ぐんーばい 軍配 名 一、軍のかけひき、二、ぐんばいうちはの略。

ぐんばいーうちは 軍配團扇 名 古、大將が戰場にて其部下を指揮するに用ひしものにして、其形、團扇の如く多くは鐵板に漆を塗り、日月をえがきしもの。

ぐんーばふ 軍法 名 一、軍のかけひきの方法、二、軍人に關する法律、ぐんりつにたなし。

ぐんばふーくわいぎ 軍法會議 名 軍法に違反したる軍人を處罰するために開く會議なり。

ぐんーび 軍備 名 戰爭の用意、戰爭準備。

ぐんーぴ 軍費 名 戰爭に要する費用。

ぐんびりく 堯必里克 名 人名 蒙古の濟農巴圖蘇の長子にして、西紀十六世紀の始め、弟淹答と共に屢々明の山西附近を劫掠したり。

ぐんーぷ 軍夫 名 軍隊に從屬する人夫。

ぐんーぷく 軍服 名 軍人の制服、大將より下士卒に至るまで階級により種種異れり、正服と略服とあり。

くんーもう 訓蒙 名 童蒙を教へさとすこと。

ぐんーもん 軍門 名 軍營の門「降を軍門に乞ふ」。

ぐんーやくしよ 郡役所 名 郡の政務をとり行ふ役所。

ぐんーり 郡吏 名 郡役所に奉職する官吏。

ぐんーりよ 軍旅 名 一、軍と旅と、二、たたかひ。

くんーれい 訓令 名 上級官廳より下級官廳に向つて發する命令の一種。

くんーろく 薰陸 名 一、熱帶地方に生ずる一種の大木のやにのかたまり、なんばんまつやに、二、陸中國より產する一種の香料、松の葉の變化したるものなり。

くんーわう 君王 名 君主、天皇、帝王。

くんーゐ 勳位 名 軍功あるものに賜ふ位、古は、十二等に分ち、一等より六等までは勅授にして、六等以下は奏授なり、勳一等は正三位に準當し、以下十二勳等は從八位に準當せり、今は、大勳位以下一等より八等までありて、三等までを勅任、以下を奏任の待遇とす、而して文勳の人にも賜ふことになりぬ。

くめーうぢ 久米氏 名 姓名 神武天皇の時、功勳ありし大久米命の率ゐられたる久米部の族稱なり。

くめーしま 久米島 名 島名 琉球國沖繩島の西方にあり

くめぢーのはし 久米路橋 名 大和國久米川にかけたるもの、昔、役小角といふ行者、大和の葛城より金峯山に岩橋をかけんとて、諸神に命ぜしに、一言主神、形醜きをはぢて實は役に就かず、行者怒りて此神を縛りしにより、橋半にして止めたりといふ俗說によりて、中の絕えたる事にいひならはせる語なり。

くめーていさい 久米訂齋 名 人名 京都の儒者、三宅尙齊の學統をうけ、講說を事とす、明和年中歿す、年六十。

くめ―の―さらやま　久米佐良山　名　山名　美作國久米南條郡の中央にあり。

くめ―の―せんにん　久米仙人　名　仙人の名、大和國上郡の人、仙術を學びて仙人となりしが、一日、物洗ふ婦人の白き脛を見て、通を失ひ、人界に墮落せりといふ。

くめ―の―わうじ　來目皇子　名　人名　用明天皇の皇子なり、推古帝の十年兵を率ゐて新羅征討に向ひ、疾にかかり明年二月薨ず。

くめ―べ　久米部　名　古代の武人、大伴部と共に、宮門を護衛せし部の名なり。

くめ―へいない　久米平内　名　人名　本姓は兵藤、名は長守、九州の濱士、最も劒術に長じたり、千人斬を思ひたちしが、後、之を悔い、其罪業を滅さむが爲めに、自ら我肖像を刻みて通行の人に踏みつけられんことを誓へり、後人踏つけを文つけと誤解し、文をつけて心願を祈れり、今、淺草觀音の邊にありといふ、天和三年六月卒す、年六十。

くめ―まひ　久米舞　名　古代の舞の名、大嘗會の時行はる

くめ―もとふみ　久米幹文　名　人名　本姓は石川、名は幸三郎、永廻舍と號す、常陸國水戸の人、平田鐵胤、本居内遠の門に入り、國典に通じ、歌文に巧なり、敬神愛國の志最も高く、明治の初、教部省に出仕し。十五年東京大學の講師となり、次で第一高等學校の教授となる、明治二十七年十一月卒す、年六十七。

く―ぬん　工面　名　一、くふう、さいかく、二、くらし、身代、しんしやう、俗語。

くも　雲　名　地文　空氣中の水蒸氣が高き上際にありて、凝集し、依て生ずるものなり、其形によりて之を四種に分つ卽、卷雲、積雲、層雲、雨雲、是なり、地面より最も高き位置にあるは卷雲にして其高さ三里餘に及ぶことあり、又最低のものは雨雲にして、地面を去る僅かに二三町なることあり。

くも　蜘蛛　名　動物　節足動物、虫名、頭小に、臀大に、八足より成り、尻より糸を吐きて木枝などに網を張り、虫を捕へて之を食ふ、其種類甚だ多し、ささがに。

くも―あし　雲脚　名　一、雲の動くさま、二、雨雲の地面に近く垂れたるさま、三、雲形の机の脚。

くも―がくれ　雲隱　名　一、月などの雲にかくるること、二、遠く離れて見ねぬやうになること、三、貴人の死ぬること、古語。

くもかすみ―と　雲霞　名　逃げ去りて見ねぬやうになるにいふ。

くも―がた　雲形　名　雲のたなびけるさまの模樣。

くも―がみ　雲紙　名　とりのこがみの一種。

くも―ざれ　雲絕　名　雨後の雲のたゆ間。

くも―すけ　雲助　名　昔、驛路に漂泊し、つぎたての人夫となりし賤民の稱。

くも―だこ　蜘蛛蝥　名　動物　蝥の一種、形蜘蛛に似て、普通の蝥より小なり、北陸道及播磨の海に産す。

くも―ぢ　雲路　名　鳥の空中を行く路をさしていふ。

く―もつ　供物　名　神佛に供へ奉る物。

くもづ　雲津　名　地名　能登國にあり。

くも―で　蜘蛛手　名　一、道路などの蜘蛛の足の如く八方に行きちがへるさま、二、橋梁の桁などを支ふる木、三、刀を四方八方に打ち違ふこと。

くもで―に　蜘蛛手　國　一、八方にゆきちがひて、二、心のかれこれとみだるるさま。

くも―の―あるじ　雲主人　名　仙人にねなし、古語。

くも―の―い　蜘蛛糸　名　蜘蛛のかけたる網、蜘蛛の巢。

くも―の―うへ　雲上　名　禁中を天にたとへていふ語。

くものうへ―びと　雲上人　名　公卿、殿上人などの稱。

くも―の―かけはし　雲梯　名　一、雲と凌ぐほど高き橋、二、禁中にあるかけはし、三、攻城の時用ふる梯の類。

くも―の―ろで　雲袖　名　雲を衣の袖にたとへていふ語、又、くものたもと。

くも―の―とばり　雲帳　名　大御帳の意なり。

くも―の―はたて　雲旗手　名　一、雲の形の旗の如くなびくもの、二、心のかれこれと亂るるにいふ。

くも―の―はま　雲濱　名　地名　若狹國小濱の舊稱。

くも―の―みね　雲峰　名　夏の雲の峰の如く涌き立てるさまをいふ、「夏雲多奇峰」。

くも―の―みやこ　雲都　名　蓬萊山の異名。

くも―ひとで　蜘蛛人手　名　動物　棘皮動物の一種、海中に産す、常に礫邊の石上を匍行し、或は石下に棲息す、其體は放線形にして中央にある石灰質の扁平圓板より、圓柱形の長臂五個を射出す、此臂は細長くして刺を有し、容易に屈曲して移動す、此臂を損失する時は、新に復た生ずるの特性あり、又口は體の下面中央に開き、肛門を缺如す、陽遂足。

くもひとで―るゐ　陽遂足類　名　動物　體圓板狀にして、五個の細長き腕を有し、體の全面鱗狀の石灰質を以て被はれ、歩帶の溝狀は腕の下面にあり、又、腕の根底には開口ありて呼吸生殖の作用を司る。

くも―ま　雲間　名　くもざれにねなし。

くも—みづ 雲水 名 一、雲と水と、二、うんすゐ。

くーもん 苦問 名 くるしみもだふること。

くもん—じよ 公文所 名 鎌倉幕府の庶政を總裁し、又財務をも司る所なり、建仁二年政所と改む。

くもらじふ 鳩摩羅什 名 人名 天竺の僧にして、興西に聘せられて長安に入り、衆經三百餘卷を譯出す。

くもり 曇 名 一、雲のかかること、二、くらむこと、三うたがひ、四、氣の晴れぬこと。

くも—るゐ 蜘蛛類 名 動物 節足動物の一類、頭部、胸部、腹部は明かに區別し得るものあれども、大抵頭と胸とは密接して全然見分け難きもの多し、肢は六對にして、第一肢の末端は釣形をなし、毒腺を有するものあり、氣管により呼吸し、消化器は胃に五對の盲囊ありて、排泄器はマルピキ氏管より成り、鶴の後方に開く、此類に特有なるは絲腺にして、其内臓中にあるや單に粘液なれども、空氣に觸るるときは直に凝固す、凡て卵生にして變體することなし。

くもわけ—まゆ 雲分眉 名 眉のわとに小豆はどの大に、うす墨にてかきたる眉、德川時代に奥女中のなせしもの。

くも—ゐ 雲居 名 一、空中、大空、二、雲、三、遠くへだたること、四、雲の上、内裏。

くもゐ—たつを 雲井龍雄 名 人名 慷慨家、本名は中島守善、米澤の藩士、王陽明の學に精通し、明治の初、德川氏の窮をそそぎ藩政を恢復せむとして兵を擧げしも事成らず、明治三年二月、復た兵を起さんとして事露はれ、小塚原に刑せらる、年二十七。

く—やう 供養 名 佛に物を供へ、僧に施をなして同向すること。

く—やく 公役 名 公より人民に課する役、ぶやく。

く—やくしよ 區役所 名 區内の事務をとる役所。

くやし 悔 形 うらめし、くちをし、殘念なり。

く—やつ 彼奴 代 かやつにたなし、古語。

くやみ 悔 名 一、悔むこと、二、他の死を吊ふこと。

くゆ 悔 動 後悔す、前非をさとる、俗に、くいる。

クユク 貴由 名 人名 元の太宗の子にして、西紀一二三六年、拔都と共に歐州を征し、太宗歿するに及び、諸軍と共に國に歸り、西紀一二四五年、大汗の位に即き、在位三年にして歿す、之を元の定宗となす。

くゆらす 薫 動 烟を立つ、ふすぶらす、「烟草を薫らす」。

くようじゅ 公羊壽 名 人名 西漢の春秋を傳へたる儒者にして、春秋公羊傳を著はしたる人なり。

くよ—くよ—と 副 絶間なく思ひ煩ふさま。

クラ Kia 名 地名 マラッカの西部とブーロペナンノとの間にある二島にして、大クラ小クラと稱す。

クラ Kra 名 地名 馬來半島と印度支那とを連接せる地峽にして、中部にクラ市あり。

くら 鞍 名 馬の背にのせて、人の乘り又は荷物を負はしむるに用ふる具、前をまへわ、後方をしづわ、中央をゐぎといふ。

くら 倉 名 物品を貯藏し置く建物。

くら 座 名 一、物をのする臺、古語、二、すわるところ座席、古語。

クライステネス Kleisthenes 名 人名 西紀前六〇〇年頃希臘シキオンの僭主なり。

クライド Clyde 名 河名 スコットランド西方の河。

クライブ Clive 名 人名 英國の豪傑、初め英國東印度會社の一書記なりしが、雄畧ありてカルカッタを復し、シアンテナガルを陷れ、西紀一七五七年、プラッシーの戰に大捷を得て、終に東印度總督に推薦せられ、英領印度の基を開けり、(西紀一七二五—一七七四年)。

くーらう 苦勞 名 一、苦むこと、二、心配、配慮。

ぐーらう 愚老 名 老人が他に對していふ謙遜の語。

くらう—しやう 苦勞性 名 些細なることをも非常に氣にかくる性質の人、俗語。

クラウヂウス Claudius 名 人名 クラウヂウス一世はチベリウス帝の甥にして、兵士に推され、西紀四一年位に登り、四五年まで羅馬皇帝たりき、二世は在位西紀二六八年より二七〇年までとす。

クラウヂウス—ネロ Claudius Nero 名 人名 羅馬のコンソルなり、西紀前二〇七年、カルタゴの將軍ハスドルバルが伊太利に侵入し來りし時、サリナトルの軍と共に之をメタウルス河畔に破り、ハスドルバルを殺せり。

クラウヂウス—プルヘル Claudius Pulcher 名 人名 羅馬のコンスルにして、西紀二四九年ドレパナの海戰に於てカルタゴ軍に破られ、艦を奪はれたる人なり。

くらーうど 藏人 名 役名 藏人所の官人、くらうどとろを見よ、くらんど。

くらうど—どころ 藏人所 名 嵯峨天皇の時、始めて設けられし役所、機密の文書及び諸の訴訟を斷ず、別當一人を置き、公卿の上位を之に當つ、別當の次に、頭二人あり、一は辨官より兼ね(頭辨)、他の一は近衛中將より兼ぬ(頭中將)、此下に職事官ありて禁中の細務及び供膳を掌る、後藏人所の權益重くなりて、少納言、侍從などの職も亦ここ

に移りて、殿上のことは大小となく行へり。

くらうーはらくわん 九郎判官 ㊐ 源義經をいふ。

グラウビッテン Grisons (Graubunden) ㊐ 地名 スウィスの東南に在る一州、山多く健康に適す、人口九萬五千〔46,38N. 9,8E〕。

クラカウ Krakau ㊐ 地名 ガリチアの一市にして、ポーランドの舊都なり、住民の多數は猶太人なり、人口七萬五千餘あり。

クラカタウ Krakatau ㊐ 地名 ジャワとスマトラとの間なるスンダ海峽中にある一火山島なり。

くらーがく 鞍替 ㊐ 娼妓などの他の場所へ轉ずること。

くらーがり 暗所 ㊐ くらがりたるところ、古語。

くらがりーたけ 暗嶽 ㊐ 山名 大和國平群郡にあり。

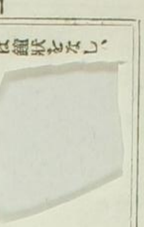
くらーぐら 暗暗 ㊐ 夜の未だ明けざるとき、又は、日の暮るるとき。

くらーくらーと ㊐ 一、湯の沸きかへるさま、二、眼のまはるときのさまにいふ、俗語。

くらーぐらーと ㊐ 一、動きて定まらぬさまにいふ、二、くらくらとにたなし。

グラサ Grace ㊐ 人名 英國の有名なる圖畫者、（一八四八年生）、クリケットに關する著あり。

くらけ 水母 ㊐ 動物 腔腸動物 傘狀又は鐘狀をなし、傘の底に口あり、其周邊に觸手及び有色の感覺器あり、傘下に四乃至八條の唇瓣ありて垂下す、其中央に口あり、生殖器は四個ありて中壁に生じ、多くは明に透かし得ることを得、種類甚だ多し。



くらーしき 倉數 ㊐ 倉を借りて物を入れ置くときの損料

くらーしむき 暮向 ㊐ 生活のありさま。

くらーしろ 倉代 ㊐ くらしきにおなじ。

くらす 暮 ㊐ 一、月日を送る、二、生計を立つ。

くらす ㊐ くらくなる。

グラスコー Glasgow ㊐ 地名 スコットランドの一部會にして、大學校あり。

クラスヤルスク Krasnojarsk ㊐ 地名 シベリアのエニセイ河畔にある一市にして、エニセイ州の首府なり、人口二萬五千餘、シベリア鐵道此地を通過す。

グラヂアトル 國音 Gladiator ㊐ ローマ古代に祀廟又は宴の餘興をして、猛獸と鬪はしめて、衆觀に供せり、之に當るものをグラヂアトルと云ふ。

グラーツ Graz ㊐ 地名 オーストリアの、スチリアの首府

古畫、イタリア十六世紀時代の遺物を藏せる有名なる大寺院あり、〔47,5N 15,25E〕。

グラックス Gracchus ㊐ 人名 グラックス兄弟と稱せられたるローマの政治家にして保民官、（西紀前一二六―一二三）、（西紀前一五九―一二二）、ローマの大將、（西紀前一二二）、（西紀前二一〇―一五八）。

クラッスス Crussus ㊐ 人名 羅馬の英雄、西紀前六十年第一回三頭政治の一人なり、後パルチアを討ちて敗死せり（西紀前一一五―五三年）。

ぐらーつく 動搖 ㊐ 一、うごく、ゆらめく、二、眼がまはる、くらめく、眩す、俗語。

くらつくりのーとり 鞍作鳥 ㊐ 人名、有名なる畫人、大和國法隆寺金堂の壁畫をかけり、推古天皇の頃の人

グラッドストン Gladstone ㊐ 人名 英國の政治家、西紀一八三二年、國會議員に選出せられ、一八六九年、始めて首相となる、其後三たび首相となりて名聲世界に鳴る、一八九五年職を辭し、一八九八年五月卒す、（西紀一八〇九年―一八九八年）。

くらーつぼ 鞍坪 ㊐ 鞍の上の人の乘るくぼみ。

クラテルス Craterus ㊐ 人名 希臘山大王の將軍なり、又武のオあり、大王死後アンチパテルと共に希臘を服從し、西紀前三二一年エウメネスと戰ひ敗死せり。

クラニーのーつけい クラドニの圖形 Chladni's Figures ㊐ 物理 硝子又は金屬板の一點を固定して、其上は細砂を撒布し、板の一端に手指を觸れ、胡弓の弓にて板を擦りて振動せしむれば、種々の形の網板上に作らるゝを「クラドニ」の圖形又は單に節網といふ。

グラナダ Granada ㊐ 地名 西班牙の州にして、西紀一四九二年、イサベラ及びフェルナンドのために亡ぼされし最後のサラセン王國なり。

グラニコス Granikos ㊐ 川名 ビシニアの一小川なり、西紀前三三四年亞歷山大王のペルシヤ軍を破りし所なり。

くらにーしゅうしょ 倉庫證書 ㊐ 法律 倉入れしたる商品の預かり證書。

くらーのーかみ 內藏頭 ㊐ くられうの長官。

くらーのーすけ 內藏助 ㊐ くられうの次官。

くらーのーつかさ 藏司 ㊐ 官衙の名、古、禁中の寶物及びを納むる倉庫をとつかさどりし所、中務省に屬せり。

くらはしーだけゆき 倉橋武幸 ㊐ 人名 赤穗四十七士の一人、元祿十六年二月、死を賜はる、年三十四。

くらはしーじま 倉橋島 ㊐ 地名 安藝國にあり、瀨戸島

くらはしーやま 倉橋山 ㊐ 山名 大和國十市郡にあり。

クラビホ Clavijo 圖 人名 西班牙人なり、西紀一四〇三年、ヘンリー三世の大使として、サマルカンドに使し、帖木兒の後チムールレンノ帖を著せり。

くらーびらき 藏開 圖 新年の初に、吉日を擇んで始めて藏を開き、貨物を取り出す式なり。

くらぶ 倶樂部 圖 同志のつくれる團體、又、其相會するところ、英語の Club より來りしなり。

くらぶ 較 國 物と物との差異を見合す、比較す。

くらぶやま 暗部山 圖 山名 山城國愛宕郡にあり。

クラプロート Klaproth 圖 人名 獨乙の東洋學者、且つ言語學者にして、支那の學問に通ぜり、（一七八三―一八三五）。

くらべーうま 競馬 圖 けいばにたとし、古語。

くらーぼふし 藏法師 圖 役名 武家時代に米倉の米の出納を司りしもの、倉奉行。

くらーまぎれ 暗紛 圖 くらやみに乘ずること、古語。

くらま―やま 鞍馬山 圖 山名 山城國愛宕郡にあり。

くらむ 眩 國 一、くらくなる、二、目がまはる。

グラム 瓦 圖 佛國の單位をはかるに用ふる語、一グラムは我國の二分六厘六毛強にあたる、Gramme

グラム Gramme 圖 ナポリランダンのロイマルの西北の一山より發して北西に流れ、ツンスツルト河に合し、迷にずーン河に合する一支流、〔51,10N 11,10E〕。

グラム Gramme 圖 人名 白耳義國の詩家兼哲學者、（西紀一七六一―一八一八）。

グラムーカロリー 瓦カロリー 圖 物理 カロリーのことなり。

グラムーくわん Gramme 環 圖 物理 輪狀の軟鐵核を卷れて心とし、其周圍に絕緣したる銅線を同一方向に卷き、中央には數多の部分に分たれたるコンミュテーターを設けたるものなり。

グラン Gran 圖 地名 今の匈牙利の中央にある一市にして、元の我邦が西征の際此都城を陷れたり、時に一二四一年なり。

クーラン 倶蘭 圖 地名 西紀十三世紀の頃、南印度の西岸にありし國にて、元の初招かれて朝貢したり。

グランーサッソ Gran Sasso 圖 山名 イタリア、アペニン山脈中の最高峯、高さ一〇一〇六呎。

クーランジュウ Fustel de Coulanges 圖 人名 佛國の歷史家なり、（一八三〇年生）。

グランーチャコ Gran Chaco 圖 地名 アルゼンチン共和國の東北部の不毛の一州、人口約二三〇〇〇〔20,30S. 60.0W〕。

くらーんど 藏人 圖 くらうどにたなし。

グラント Grant 圖 人名 米國の名將、北部米利加合衆國のオハイオ州に生る、初めメキシコの軍務に服せしが、後、之を辭し、南北戰爭の起るや、西紀一八六四年、北軍の總指揮官となり、翌年、リチモンドを陷れて功あり、一八六八年選ばれて大統領となる、一八七二年再び大統領となる、（西紀一八二二―一八八五年）。

クランノーン Crannon 圖 地名 マケドニアの國境なるテッサリアの一市にして、窓歷山大王死後、アンチパテルス及ラミアルスは此地にアテネ人を破りたり。

グランピア Granpian Hills 圖 山名 スコットランドにある山脈なり。

グランベリア Granvella 圖 人名 フランスの有名なる僧正にして政治家、（西紀一五一七―一五八六）。

クランマー Cranmar 圖 人名 英國カンタベリーの大僧正、イングリー人共起を繼續せんとするや、之を覺悟して羅馬法王に絕縁したり、西紀一五四七年、エドワード六世立つや、王を輔佐してアングリカン教會の基礎を確立したりしが、マリア女王即位するに及び禁錮せられたり。（西紀一四八九―一五六六年）。

グラモン Gramont 圖 人名 有名なる佛の大將、頓オおり、ルイ十一世に爭へ其國を蒙りしも寬洲事件にて流さる（西紀一六二一―一七〇七）。

くら―やど 倉役 圖 土倉役のことにして、一種の課稅なり、足利時代に行はれ、其當時土藏を有せしものは多くは質屋を業とせるものなれば、つまり、質屋に課したる稅なり。

くら―やど 藏役 圖 米倉を守る役人。

くら―やしき 藏屋敷 圖 德川時代の諸大名より、國産米穀等を大阪に送り販賣せしめたる其邸を藏屋敷と云ふ。

くらやまだ―いしかはまろ 倉山田石川麻 圖 人名 馬子の孫にして、倉麻の子なり、一族中蘇我氏のみ嫉なり、石川麻、鎌足の謀に與り入鹿を誅したり、大化五年鳳母皇后日向、石川麻を立て太子信じて帝に奏す、帝怒を以て反狀を詰問す、石川麻國に至り白狀せんとする內に、帝兵を以て之を圍まし、使て使に奔る、是より先皇子石川麻を捕して之を防がんとす、石川麻之を聽止し、自殺す太子等石川麻の家を檢するに、重寶皆太子の物と知るを見て、其冤を悟りしも、及ばず、日向を太宰帥に貶す。

くらーやみ 暗闇 圖 暗きところ、くらやみ。

くら 苦參 圖 植物 豆科、草本、郊野に自生し、一回

羽狀複葉を有し、花は白黄綠色にして單總狀花序に排列す根を藥用に供し、莖及葉の煎汁を野菜の驅虫劑となす、又莖の皮より纖維を採る。

くら―れう 内藏寮 名 一、くらがかさにたなし、二、今の宮内省に屬する役所。

クラレンス Clarence 名 人名 ヨーク侯リチャードの第二子、死罪を宣告せられし時、マルムセー酒の樽の中に溺死せんことを許されたしと願へりといふ、(西紀一四五九―一四七八年)。

くらゐ 位 名 一、天皇の居らるるところ、二、親王諸臣に賜ひて宮中に於ける席次の高下を示めす資格、今は、正從各九位の十八階に分ち、且、親王の位はなし、三、つかさ、四、物の等級。

くらゐ 接 はと、ばかり、俗語。

くらゐ―に―つく 即位 同 天皇が天位に上らるること。

くらゐ―やま 位山 名 山名 飛彈國大野郡に在り、古、御笏の料として、此山の水松を献上せしとき、位を賜ひて一位の木と稱せられ、山を位山と號せられたるなりといふ。

くり 栗 名 植物 殼斗科、木名、葉は長楕圓狀披針形にして鋸齒を有す、初夏花を開く、異臭あり、雌雄其花を異にし、所謂單性花なり、雄花は數多集まりて、長き花軸上につき十個より成る、雌花は雄花の基脚に着生し、三個相集まりて綠色の小球をなし、鱗狀の總苞を具ふ、果實は其外面に總苞より變成せる栗毬を有す、果實は之を食ふ可く木材は種々の用途あり、樹皮及果實の總苞より染料を取る

くーり 庫理 名 寺のくりや。

くり―あぐ 繰上 動 一、次第に上にあぐ、二、繰り終る

くり―あはす 繰合 動 糸などをくりて合せること。

くり―あはす 繰合 動 用事の差支へるをやりくりす。

クリート Krete 名 島名 地中海の東部、希臘の南にある有名なる島なり、名義上は猶土耳古に屬す。

クリーブランド Cleveland 名 地名 北米合衆國オハイオ州第二の都市にして、エリー湖岸にあり、製鐵事業、商業共に盛なり、人口約二十五萬。

グリーンランド Greenland 名 島名 北米合衆國の東北に位する一大島にして、北氷洋圏中にあり、デンマルクの殖民地を含む。

グリーンランド―りう グリーンランド流 名 地文 北氷洋より流下し、グリーンランドとアイスランドとの間を南流し太西洋の北部に出で更に北折してデーヴイス海峽に入る寒流。

くり―いろ 栗色 名 色の名 熟したる栗の果實の皮に似たる色、褐色に稍黑みを帶びたるもの。

クリッチェフスカヤ―ソプカ Kljutchevsk ja Sopka 名 山名 シベリア東海岸にある火山群中の最高峯、高さ一五八二五呎。

クリッニー Clugny 名 人名 西紀一七七六年チュルゴーに襲ぎてフランス財政の衝に當り、チュルゴーとは反對の政策を取り財源を全く富豪に依頼せし人。

クリッニー Clugny 名 地名 フランス中部の一小市にてベヂタクテンの本部の稱地。

クリウスーデンタツス Curius Dentatus 名 人名 ローマのコンスルなり、西紀前二七五年エピロス軍をベヂベンツムに破りし人なり。

くり―かた 栗形 名 刀の鞘の下げ緒を通すわな。

くり―かへす 繰返 動 同しことを幾度もすること。

くりから―たうげ 倶梨迦羅峠 名 山名 越中國礪波郡にあり、加賀國河北郡に跨がる、木曾義仲が平維盛を破りしところなり、栗殼峠。

くーりき 功力 名 佛教の語 功德の力。

グリクァランド Griqualand 名 地名 南アフリカに在る英領地、人口八萬一千、首府はキンバーリーにて金剛石を多く産す。

ぐり―ぐり 名 一、病名、瘰癧の一種、二、肱などにて、他人の肩などを揉むこと、俗語。

くり―くり―と 副 一、物のまはるさまにいふ、二、圓くふくれたる物の滑かなるにいふ、俗語。

くり―げ 栗毛 名 馬の毛色の名、赭赤色にして、たてがみの黑きもの。

グリココル Glycocoll CH_2NH_2-COOH 名 化學 一塩化醋酸をアンモニアと共に熱して得、大なる一斜柱結晶にて無色なり、水には容易に溶解すれども、アルコール、エーテルには溶解せず、甘味ある敎膠糖と名づく、强く熱せば分解す。

くり―こと 繰言 名 同じことを幾度もくりかへしていふこと、「老の繰言」。

くりこま―やま 栗駒山 名 山名 一、陸前國栗原郡にあり、別稱、駒ヶ嶽、二、山城國久世郡にあり、栗隈山。

クリシッポス Chrysippos 名 人名 希臘の哲學者、ストイック派に屬し、著書少からず、(西紀前二八〇―二〇七年)。

クリシナ Krishna 名 河名 印度の河にして、ビサブール山より發し、西より東に流るること八百哩、ベンガル灣頭ゴダバリ河口に相接して注入す。

クリスチァニア Christiania 名 地名 ノールウエーの首

府、王室及び政廳あり、商工業盛にして材木を主として輸出す、人口二十萬餘あり。

クリステチス Kilisthenes 名 人名 アテチ人にして、民權の伸長を主張し、アテチに共和制を施さしめし人なり、(西紀前五〇〇年頃の人。

クリスピ Cripi 名 人名 伊太利の政治家、シシリイ革命に際して、ガリバルヂーを助けてより、伊太利政府の一員として活動せり。

くりすます Christm's 名 耶蘇の誕生日、即、十二月二十五日。

ぐりすりん 佶里斯林 名 液體をなし、甘味を有す、無色透明なり、吸收劑として用ふ。

クリソフ Klisow 名 地名 瑞典王カロロ十二世の波蘭及索國の連合軍を破りし地なり。

クリケット 名 遊戯の名 木球を長き柄の檀木の如きものにて打ち、鐵線を曲げてつくれる小門を通らしめ、勝負を爭ふなり、Cricket

クリップル—ガハ Criple Creek 名 川名 一、イングランドのアバーヂンを貫通して海に注ぐチー河の支流、二、テンチッシーのルーテルフォード地方を流れてミシシッピ河に注ぐ一支流なり。

クリトラオス Kritolhos 名 人名 希臘道遙派の哲學者なり、西紀前一五五年、雅典の使者として羅馬に至り、修辭學を講せり。

グリニチ Greenwich 名 地名 英國ケント州中テームス河上に在る一市、倫敦橋の東南五哩に在り、天文臺は一六七五年カロロ二世の建てたるものにて有名なり、人口約八萬、(51,28N 0,0E)。

グリノック Greenock 名 地名 スコットランド、デンフリュー州の港、グラスゴーの西二二哩に在り、人口六萬餘有名なるロットの生地なり、(55,56N 4,45W)。

くり—はし 栗橋 名 地名 武藏國北葛飾郡にある町、埼玉縣の管轄に屬し、奥州街道にわたる。

くりふ—たけ 栗生嶽 名 山名 大隅國にわり。

クリム Crimea (Krum) 名 地名 ロシアの南方、黑海中に突出する半島をいふ。

グリム Grimm 名 人名 ドイツの言語學者、ゲッチンゲン大學教授たりき、(西紀一七八五—一八六三)、ドイツの生理學者、前者の弟、(西紀一七八六—一八五九)、ルーソーと交深かりしドイツの文學者、(西紀一七二三—一八〇七)

クリムカン Krum Khan 名 國名 拔都の弟、殷哈帖木兒の子孫が、西紀十三世の末、アゾフ沿海に建てたる汗國なり、後、後、西紀一七八三年、露西亞領となれり。

クリム—せんそう Krum 戰爭 名 歷史 戰爭の名 露西亞のニコラス一世が土耳古を蠶食せんと企てしより起りし戰爭にして、即、西紀一八五三年、戰爭を開始し、土耳古軍頓りに敗られたり、於是、佛帝ナポレオン三世英國と同盟して土耳古を援け、一八五四年聯合艦隊はクロンスタット要塞を攻めて克たず、乃、陸軍を以てクリム半島なるセバストポールを圍み、一八五五年之を陷る、翌年、パリに和約を結び、戰終局を告げたり。

くりん—さう 九輪草 名 植物 櫻草科、草名、葉は長楕圓形にして、上面は深綠色にして、下面は淡綠色なり、花梗は長くして數層の花を輪生す、山萱高。

クリントン Clinton 名 人名 米國の將軍、かねて政治家なり、初め紐育の長官となり、後、合衆國副大統領となる、(西紀一七三九—一八一二年)。

クリントン Cinton 名 人名 英國の將軍、アメリカ戰爭に敗れたりしかば彈劾せられしも、辯明書を出して許されたり、(西紀一七三八—一七九五年)。

くり—もどす 繰戻 動 一、順次にあと(へ戻す、二、くりかへすにたなし。

くり—や 厨 名 食物を調理するところ。

くり—や 繰矢 名 榎は木にてつくり、鴨の羽を以てはぎたるもの、遠矢に用ふるものなり。

くりやがは—の—き 厨川楢 名 地名 陸中國岩手郡厨川村大字下厨川にあり、後三年の役源義家、真任を此地に擒にしたり。

くりやま—せんぼう 栗山潛鋒 名 人名 水戸藩の儒者、本姓は長澤愿一、山城國淀の人、國史に精通す、寶永三年四月卒す、年三十六。

クリューゲル Kruger 名 人名 トランスバール共和國の大統領、西紀一八七二年行政會議員となり、一八八二年大統領に選ばる、其後三回引き續き再撰せらる、其國人たるボアー人の權利を主張し、遂に南亞弗利加戰爭を起し、屢英國の大軍を敗りしも、勢終に屈して歐州に逃れ、諸國に戰爭の仲裁を依頼せしも聽ずる者なかりき、(西紀一八二五—一九〇四年)。

グリルパルツェル G llparzer 名 人名 オーストリアの戲曲者にして、第一流の詩人なり、(一七九一—一八七二)。

くる 繰 動 一、まきめぐらす、二、順次に數ふ。

くる 暮 動 一、暗くなる、二、夜となる、三、まとふ、四、終る、果てる。

くる 與 動 あたふ、俗に、くれる、やる。

グルイェール Gruyeres 名 地名 スウイス、ブライブルゲの一市、人口一千百、此地より産する乾酪は良好なり、(46,35N 7,5E)。

クルガン Kurgan 名 地名 シベリアの西部にある一小都邑にして、オビー河の上流、オムスクの西に位し、シベリア鐵道の通過する地なり。

くる—くる—と 繰繰 副 一、物の廻轉するさまにいふ、二、物を卷くさまにいふ、三、とどこはらずに。

くるし 苦 形 一、身體の痛むにいふ、二、心の悶ふるさまにいふ、心苦し。

クルシウム Cusium (Chiusi) 名 地名 古代のエトルリアの都市なり、現今はキウシと稱す。

くるしから—ず 不苦 同 差支なし、さしさはりなし。

くるしま—さない 久留島喜内 名 人名 數學家、久留島流算術の祖、寶曆七年卒す。

グルーズ Greuze 名 人名 佛の肖像畫家、(西紀一七二五—一八〇五)。

くるす—の 栗栖野 名 地名 山城國宇治郡栗栖にあり。

クルーゼンステルン Krusenstern 名 地名 太平洋上マルシャル列島中の一、長さ十五哩、廣さ五哩、(10,27N 170,0E)

クルーゼンステルン Krusenstern 名 人名 ロシアの航海者、(西紀一七七〇—一八四六)。

クルチア Kuldja (A'malik) 名 地名 トルキスタンの一州、山多し、面積二萬三千方哩、人口七萬余あり、首府をクルチアといふ。

クルチウス Cu tius 名 人名 獨乙の原語學者、ベルリン及びキール大學の教授にして、希臘語に關し學界に貢獻せし所大なり、(西紀一八二〇—一八八五年)。

グルック Gluck 名 人名 ドイツの音樂家、イタリア、ミランにて研究したる後倫敦に行き、再び歸りてパリ、ウイン等にて大に名を揚げたり、(西紀一七一四—七八七)。

クルックス Sir Willi m Crooks 名 人名 ラヂオメトルオセオスコープ、クルックス管等を發明したる英國の物理化學者、(西紀一八三二年生)。

クルックス—くわん クルックス管 Crooke's tube 名 物理 硝子管の兩端に白金線を封入し、「スプレンゲル」の空氣「ポンプ」にて內部の空氣を拔出し、氣壓を百分一耗位にしたるものなり、兩端の白金線に感應コイルの第二コイルの導線を連ねて電流を通ずれば、「ガイスレル」管の如く波狀の光を發せずして、唯陰極より放射線を發し、管壁に衝突して螢光を放つを見得。

クルップ—はう Krupp 砲 名 大砲の一種、獨乙人クルップ氏の發明する所、砲身はすべて鋼鐵にて作くる。

ぐるてん 麩質 名 化學 小麥粉を金巾製の袋に入れ水中にて揉みたる時澱粉流出後殘るもの、燒きて燒麩を製す。

クルド Kurds 名 地名 東部亞細亞土耳古と西部ペルシアとの間にある一大廣地にして、面積凡五萬方哩あり、チグリス河此所に發源す、其沿岸には多く穀物を産し、又牛馬は有名なり、首府をスレアニアといふ。

クルノーブル Grenoble 名 地名 フランス、イセール州の首府、イセール河上に在り、綿布製造盛んなり、人口五萬七千、(51,11N 5,43E)。

グルハン 潤兒汗 Gurkhan 名 王者の稱號なり。

くるはら—もりこど 栗原盛功 名 人名 勤王家、國學に精通し、泰西の兵法に長せり、文久二年、時事を憂ひて自殺す。

くる—ひ 來日 名 明日、次の日、翌日。

くる—ぶし 踝 名 生理 足首の脛と相連なる關節にして高く突起せり、つぶなき。

くるほし 狂 形 くるひたるが如し、古語。

くるま 車 名 一、人又は荷物を乘せて運ぶ具、大抵二輪より成る、種類甚だ多し、二、中心ありてくるくるとまはすもの、「水ぐるま」。

くるま—いび 車鰕 名 動物 節足動物、甲殼類、海に產す、其形狀普通の鰕と異ることなく、大なるものも七八寸を超ゆることなし、殼は藍色にして、節毎に美しき紅色の班點あり、全身屈曲して車輪の如くなるを以て此名あり、秋冬の頃最も佳味なり。

くるま—がかり 車懸 名 一、一番手、二番手、三番手なども兵を分ち置き、一番手疲勞すれば二番手之に代り、二番手疲勞すれば三番又之に代り、順次攻めかくること、二今の三人がかり又は五人がかりなどの類。

くるま—ざ 車座 名 大勢の人が丸く圓形に相對して座すること。

くるま—ざき 車裂 名 支那の刑名、二の車に兩足を一つづつ結び付けて、罪人をひき裂きて殺すこと。

くるま—だて 車楯 名 楯に車をつけて、陣中を自由にひきめぐり得る如くに作くりたるもの。

くるま—づか 車塚 名 上古の御陵の制にして、車の兩輪の如く、瓢形の兩側に二個の陪塚あるを云ふ。

くるま—ながもち 車長持 名 長持の下に、車を付けて、火災などのとき、其儘ひき出すやうに作くりしもの。

くるま—へん 車偏 名 漢字の偏の名、輪、輪、軸の如し。

くるま—むし 輪蟲 名 動物 蠕形動物に入るべきものな

り、淡水に棲息す、體は下部の膨れる「コップ」の如く上端に纖毛密生し之を顫動して轉動す、尾部の先端に盤狀物を生せる尾狀の附屬物あり、顯微鏡を用ゐずしては見る能はず。

くるま—やどり 車宿 名 車を入れて置く建物。

くるま—ゆり 車百合 名 植物 草名、百合の一種、葉は莖の節毎に對生す、花瓣はまきかへり、赤色又は濃黃色なり。

くるま—よせ 車寄 名 車をよせて上がるところ。

くるま—ゐど 車井戸 名 滑車の椽に溝を掘り、之を井戸の上につり置き、其椽の溝に繩をかけて兩端に釣瓶をさげ水を汲み上ぐるやうにつくりたる井戸。

くるみ 胡桃 名 植物、木名、葉は漆に似て、夏の初に、紅白色の花開き、桃の如き實を結ぶ、核は堅く、仁には脂ありて菓子などに用ひらる。

くるみ 動 殘らず、有りたけ、ことごとく。

くるむ 包 動 卷いてつつむ。

くるむ 包 動 巧に言ひて欺くこと、俗に、くるめる。

くるめ 久留米 名 地名 筑後國三潴郡にあり、福岡縣の管轄に屬す、有馬氏の舊領地なり。

くるめかす 廻轉 動 くるくるとまはす。

くるり 久留里 名 地名 上總國望陀郡にあり、千葉縣の管轄に屬す、黑田氏の舊領地なり。

ぐるり 周圍 名 めぐり、まはり、俗語。

くるる 樞 名 一、とぼそ、二、やゑん、三、しんぼう。

くるわ 郭 名 一、城などの周圍に作くるかこひ、二、かこゐの中にある地、三、遊女の家の集合せるところ。

くれ 暮 名 一、日の暮るる頃、夕暮、二、年月及季節の終、三、物事のをはり。

グレー Gey 名 人名 英國の政治家、始め下院議長となり、亞弗利加の奴隸賣買禁止法案を通過せしめ、西紀一八三〇年、首相となる、(西紀一七六四—一八四五年)。

グレー Gey 名 人名 英王ヘンリー七世の曾孫、才媛を以て鳴る、西紀一五五三年、女王となり、九日間其位を保てり、故に、「九日女王」の名あり、(西紀一五三七—一五五四年)。

グレー Gey 名 人名 有名なる亞米利加の植物學者、(西紀一八一〇—一八八八年)。

グレー Grey 名 人名 英國の詩人、(西紀一七一六—一七七一年)。

グレアム Graham 名 人名 トマス、グレアムは瓦斯の擴散の法則を發見したる有名なる英國の化學者、(西紀一八〇五—一八六九)、ゼームス、グレアムはスコットランドの詩人、(一七六五—一八一一)。

クレイトス Kleitos 名 人名 亞歷山大王の將なり、大王のグラニコス河畔に於けるペルシアとの戰に、氏來りて王の危きを救ひたり、後サマルカンドに於て大王の怒に觸れ殺されたり。

グレイン Grain 氏 名 英國の量目を示すに用ふる語、一グレインは、我國の一厘七毛强にあたる。

クレオパトラ Kleopatra 名 人名 エヂプトの女王、美貌を以て有名なり、ケーザルを惑はし、ケーザルの死後アントニウスを迷はし、其死するや羅馬に虜となるを恥ぢて、自から毒蛇に咬ましめ、自殺せり、(西紀前六九—三〇年)

クレオン Kleon 名 人名 アテンの奸雄、スパルタ人と戰ひ名をあげしが、後、西紀前四二二年、スパルタの將軍ブラシダスに破らる。

クレオンブロトス Kleonbrotos 人名 名 スパルタの王なり、西紀前三七一年レウクトラの戰に、エパミノンダス及ペロピダスの爲めに敗られたり。

クレオメネス Kleomenes 名 人名 スパルタの王に名あり、又アテネの有名なる彫刻家にも名あり。

くれ—かう 吳港 名 港名 安藝國安藝郡の南にある軍港なり、鎭守府の設あり。

くれ—ぐれ 吳吳 副 かへすがへすも、いくへにも。

グレゴリー Gregory 名 人名 羅馬法王にして此名あるもの十六人あり、其中グレゴリー七世最も有名なり、即、西紀一〇七三年、法王となり、僧侶の大改革を行ひ、又、僧官封地の權を皇帝より奪はんとしたりしかば、獨乙皇帝ヘンリー四世怒て法王を廢せしも、グレゴリーは却て王を破門せり、ヘンリー孤立止むなくして法王に哀を乞ひ、漸く破門を免せらる、後、グレゴリーは王の爲めにサレルノに逃亡し、一〇八五年憤死す。

グレゴリーれき グレゴリ曆 Gregorian Calendar 名 天文 現今露國以外各文明國にて用ゐる曆にして、ローマ法皇グレゴリ十三世の制定せしものなり。

クレシー Creey 名 地名 佛國の一小村なり、西紀一三四六年エドワード三世が三萬の軍を以て、佛國の大軍と戰ひ大捷を得たる地なり。

くれ—たけ 吳竹 名 植物 竹の一種、葉細く、節しげく長さ數尺に過ぎず、多く庭に植う、吳の國より渡來せしものなりといふ。

くれたけ—しふ 吳竹集 名 書名 尾崎雅嘉の著、和歌を集めて例證をあげしもの。

くれたけ—の 呉竹 名 一、よにかけていふ、二、ふしにかけていふ。

クレテ Krete 名 地名 地中海の東部にしてギリシアの南にある島なり、トルコに屬し、反亂絶えず、一八九八年ギリシアのジオルジ親王此島の總督となる。

グレート—スレーブ湖 Great Slave Lake 名 湖名 カナダの西北にある湖 長さ三百哩、マッケンジー河の源なり。

グレート—ソルト—レーク 大鹽湖 Great Salt Lake 名 湖名合衆國ユータ州の西北部にある湖、長さ八〇哩廣さ約三〇哩、深さ平均十二呎、魚類を産せず

クレド子ル Credner 名 人名 地上地震の主張者にて、三角洲、三角江を地面の昂起と沈降とにて說明したる獨逸人

グレート—バリアー—リーフ Great Barriet Reef 名 クイインスランドとニューギヲアとの間にある暗礁。

グレート—ベーア湖 Great Bear Lake 名 湖名、カナダの西北にある湖、面積一万四千方哩、マッケンジー河之より流出す、(66,0N 120,0W)。

くれなゐ 紅 名 呉の藍にて染めし色、鮮紅。

くれなゐ—ぎく 紅菊 名 かさねの色目の名、表紅、裏青

くれなゐ—ざくら 紅櫻 名 かさねの色目の名、表は紅、裏は紫。

くれなゐ—の—わり 紅屋 名 うき世のちり、(紅屋萬丈)。

くれなゐ—の—なみだ 紅涙 名 血の涙。

くれなゐ—の—ふで 紅筆 名 女の書きたる文字。

くれ—はとり 呉織 名 くれはたり(呉織機)の略、雄略天皇の時に、呉の國より歸化せし織工なり、後世呉服といふは、此等の織工が織りたる衣類の意なり。

ぐれ—はま 甑鮎 名 物事のくひちがふこと、俗語。

クレビー Crecy 名 地名 佛國の一都市にして、西一一三四四年九月、獨乙のカール五世とフランシス一世と平和條約を結ひし地として有名なり。

クレフ Kleve 名 地名 プロシアの一市なり、一八〇五年プロシア之を佛國に讓與し、ナポレオン之をムラーに與へしが、一八一五年又プロシアの手に復せり。

クレフエルド Crefeld 名 地名 プロシアのライン地方の一都市なり、コロンの西北約三十哩にあり、絹綿麻などの織物の商業盛大なり。

クレベル Kleber 名 人名 佛の將軍にして、ナポレオンに從ひ、エヂプトに行き、後此地に止り、トルコと條約締結中アラビア人に殺さる、(一七五三—一八〇〇)。

くれ—まどふ 暗惑 動 憂のために心のまどふこと。

ぐれん—ちごく 紅蓮地獄 名 佛教の名 地獄に、八熱地獄、八寒地獄あり、紅蓮地獄は八寒地獄の一なり、ちのいけおごく(血池地獄)にたなし。

クレンツェ Klenze 名 人名 獨乙バヴァリアの名工なり。

クレメンス Clement 名 人名 羅馬法王の中此名の人十四人あり、其中、クレメンス七世はカール五世と爭ひ、羅馬に禁錮せらる、又、英王ヘンター八世の離婚を承諾せず爲めに英國は全く法王の支配を脫するに至れり。

クレメンチナ Clementina 名 人名 クレメンスの女。

クレモナ Cremona 名 地名 ナサルピンゴールの一市にして、ポー河畔にあり、古、羅馬の殖民地にして、ハンニバルが始めて伊太利に入りしとき、大に苦しめられぬ。

クレレンドン Clarendon 名 人名 英國の政治家、又、歷史家なり、(西紀一六〇八—一六七四年)。

クレレンドン Clarendon 名 地名 英國の都會のサルスベリーの附近にある村なり、古、此處に王宮ありて、屢議會を召集せられたる地なり。

クレルモン Clermont 名 人名 サンルイスの第六子にして、佛國のブルボン家の始祖なり。

くろ 畔 名 わせにたなし。

くろ 黑 名 一、墨の如き色、二、くろいしの略。

クロー Grog 名 人名 佛國公使にして、アロー事件起るや、英王使エルチンと共に船艦百餘を從へて、白河に入り、太沽大津を取り、京城に入り、宮殿を焚き、一八六〇年北京條約により、清と和議を結べり。

クロアチア Croatia 名 地名 ハンガリアの一州にして嘗て獨立の一王國なりき。

くろ—いし 黑石 名 碁石の黑き方のもの。

くろ—いし 黑石 名 地名、陸奥國津輕郡にあり、青森縣の管轄に屬し、津輕氏の舊領地なり。

クロイソス Croesus 名 人名 リヂアの王なり、學を好み學者を左右に侍せしめたり、イソップも亦其一人なり、スパルタ、バビロニア、エヂプト等と同盟し、ペルシアに對したりしも、十四年の後遂に破れて王は虜となる、ペルシア王キロス、王を焚き殺さんとす、王火中にありて、平然として、嘗てソロンと談論せし人生問題の議論に耽り居たるを見て、キロス感激遂に親友として、其教を受けたり、リヂア國は王と共に亡びたり。

クロイドン Croydon 名 地名 ロンドンブリッヂの西南にある都會、今はロンドン市の郭外となれり、人口十萬餘あり。

ぐ—ろう 愚弄 動 輕侮す、たぶらかす、冷かす。

くろうし—の—うみ 黑牛海 名 海の名、紀伊國海部郡の

前面にあり。

くろ—うと 黒人 名 その道に達したる人、(しろうとに對して)。

クローツ Clootz 名 人名 佛國革命家の一人、世界的同盟を主張せり、(西紀一七五五—一七九四年)。

クローデ Claude 名 人名 佛國の僧侶、熱心なるプロテスタントなり、ナント勅令改革の前夜退去を命ぜられたり(西紀一六一九—一六八七年)。

クロード—ロレン Claud Lorrain 名 人名 有名なる山水畫家、(西紀一六〇〇—一六八二年)。

くろ—む Chromium 名 化學 金屬元素の一、原子量五二、一、比重、六、八、白色にして光輝あり、極めて堅く展性及延性を有し、稍熱及び電氣を導く、主としてクローム鐵鑛となりては存在す、我國にては豊後、飛彈の二國より良好の鑛石を産出す。

クロム—イオン 名 化學 二價のと三價のとあり、二價のは青色にて三價のに變ずる傾を有し、三價のは菫色にて複イオンを生ずる性あり。

クロム—てくわう クロム鐵鑛 名 鑛物 八面體なれども多く粒狀塊をなす、鐵黑、黝黑、半金屬光澤、蛇紋岩中に衣又は塊となりて現はる、本邦にては豊後産地なり、藥品或は顔料の原料とす。

くろ—うんも 黒雲母 名 鑛物 單斜晶系、色黑、暗綠、綠、條痕白色、眞球光澤、白雲母と同じく近江、美濃、磐城に産す、白雲母は決して新火山岩中に入り居る事なきも黑雲母は新火山岩たる、安山岩、粗面岩、玄武岩等の中に存する事あり、尤も、花崗岩、片麻岩等の古き岩中にもあり。

くろうんも—かこうがん 黒雲母花崗岩 名 鑛物、花崗岩の一種にて黑雲母のみ塩基性のもの。

くろ—がき 黒柿 名 植物 柿の木の黑き部分、種種の細工に用ひらる。

くろ—かげ 黒鹿毛 名 馬の毛色の名、鹿毛の黑きもの。

くろ—がね 黒金 名 鑛物 てつにれなし。

くろ—かは 黒川 名 地名 一、岩代國若松の舊稱、二、越後國北蒲原郡にある町、新潟縣の管轄に屬す、柳澤氏の舊領地なり。

くろかは—たどし 黒革巓 名 黑き染革を細くたちて、れとしたる鎧。

くろかは—はるむら 黒川春村 名 人名 國學者、考證と號す、始め、古學を狩谷掖齋に學び、遂に一家をなす、慶應二年十二月卒す、年六十九。

くろ—がみ 黒髮 名 黑く光澤ある髮。

くろかみ—の 黒髮 枕 みだるにかけていふ。

くろかみ—やま 黒髮山 名 山名 下野國日光山中にあり別稱、北富士、又、男體山。

くろ—き 黒木 名 一、皮を削らぬ木、二、こくたんにおなし、三、薪の代用をなすもの、(京都にて)。

くろ—き 黒酒 名 黑き色をつけたる酒。

くろき—の—ごしよ 黒木御所 名 一、皮を削らず野生のままの材木にて建てたる御所、二、宮の名、大和國吉野郡和田村にあり、後醍醐天皇の御所なりき。

くろ—くは 黒鍬 名 一、田畑を耕やすを業とする人、二、德川氏の頃、一種の卑しき役をつとむるものをいひき、今の土方の類なり、後に、目付の配下となりて黑鍬組などいふに至れり。

くろ—くわる 烏芋 名 植物 莎草科に屬する水生の草本地中に慈姑の如き黑色の塊球を生ず、食用とす、味甘美なり。

くろ—こはく 黒琥珀 名 鑛物 琥珀の一種、鐵の如く堅くして、深黑色なり。

くろ—ごめ 黒米 名 未だ精白せぬ米、玄米。

グロサ Glossa 名 地名 ギリシアの東海岸(リドロミ島の西部に在りて、スキアトス港と對せる小港。

グロサ Glossa 名 中古イタリア、ボロニア府を中心として起りしローマ法律註釋家の團體。

くろさは—たきなまろ 黒澤滝滿 名 人名 藤臣と號す、本居宣長の門人にして國學に精通せり。

くろさは—ちゆうざぶろう 黒澤忠三郎 名 人名 水戸の浪士、萬延元年三月、同志と共に井伊大老を櫻田門外に殺す文久元年七月斬らる、年二十二。

くろさは—ちかう 黒澤雉岡 名 人名 名は萬新、程朱の學に通ず、明和六年六月卒す、年八十四。

くろ—しほ 黒潮 名 地文 North pacific Current 暖流の一にして、暗藍色を呈し、溫度は附近の海水に比し高きこと四度に及ぶ、フィリッピン群島の邊より起り、臺灣の東を流れ、分岐して二流となり、本流は本邦の東面海を過ぎ、伊豆七島を横斷し、犬吠岬の邊にて東に折れ、北亞米利加の西岸に至り、南より西に轉じて源に還る、他の一流は、對島海峽を經て日本海に入り、本邦裏面の海岸を洗ふ之を對島海流と稱す。

くろ—じゆす 黒繻子 名 織物の名、黑色の繻子なり。

くろ—しろ 黒白 名 一、黑色と白色と、二、正と邪と、善と惡と。

グロスグロクヂル Gross Glockner 名 山名 オーストリア、チロル州に在るアルプス山脈の高峯、高さ一三一〇〇呎、(47,0N 12,47E)。

グロスター Gloucester 名 人名 十三世紀頃英國の史家にして僧侶たり。

クロステル—ツェフェン Kloster Zeven 名 地名 プロシアにあり、一七五七年、佛將リシェリュー とカンバーラン ド公とが條約を締結せし所なり。

クロスベヂヂゲル Gross Venediger 名 山名 チロル州北部アルプ山中の一高峯にてグロクヂルの西に在り高さ一一〇三〇呎、(47,7N 12,5E)。

くろすみ—けう 黒住教 名 神道の一派、黒住宗忠の創めしところ。

くろすみ—むねただ 黒住宗忠 名 人名 備前國御野郡の人、黒住教の始祖なり、嘉永三年卒す。

くろ—すゐしやう 黒水晶 名 鑛物 黒色の水晶。

くろせ—がは 黒瀬川 名 黒潮の一部、伊豆國御倉島と八丈島との間を東北に向て流るるもの、フイリッピン群島より來る黒潮なり。

くろだ—さよたか 黒田清隆 名 人名 薩摩の藩士なり、維新の際越後會津に出で佐幕黨を討つ、又函館に榎本武揚を伐つ、明治七年開拓使長官となり、陸軍中將となり、參議を兼ぬ八年江華島事件起り、特命全權辯理大臣となる、西南の役に島津父子を說き官軍に付かしめ、賊を討つ、十九年獨米諸國を巡察し、歸後農商務大臣となる、二十一年內閣總理大臣となり、二十二年宮中顧問官となる、二十五年遞信大臣となり、又樞密院議長となり、正二位勳一等伯爵たり。

くろ—だな 黒棚 名 ちがへだなにれなし。

くろだ—ながまさ 黒田長政 名 人名 通稱は吉兵衛、豊臣秀吉に仕ふ、征韓の役に功あり、關ヶ原の役、家康を援けて功ありしかば、筑前福岡五十二萬石を賜はる、元和九年卒す、年五十六。

くろ—だひ 黒鯛 名 動物 魚類、魚名、海中に產す、全身淡黑色を帶び、大なるは尺餘に及ぶものあり、體肥ゆ、眞鯛に似たり。

くろだ—よしたか 黒田孝高 名 人名 通稱官兵衛、如水と號す、播磨の人、豊臣秀吉に仕へ、豊前中津の城主となる、慶長九年三月卒す、年五十九。

クロタール Chlotar I 名 人名 フランク王にして、五五八—五六一年の間君臨せり、死後同王國はクロドウィヒ王の諸孫により四分せられたり。

グロチウス Grotius 名 人名 オランダの法律學者又神學者なり、十七世紀中頃瑞典大使たり、(一五八三—一六四五)。

くろ—ちく 黒竹 烏竹又紫竹一名胡麻竹 名 植物 ハチクの一種、提燈、傘、幕の柄等に用ふ、稈は初年には深綠色なれども次年よりは紫黑色となる。

くろ—つが 名 植物 ツガの異名。

くろづか 黒塚 名 地名 岩代國にあり。

くろ—つぐみ 黒鶫 名 動物 鳥類、鳴禽類、鳥名、常に林間に棲息し、昆虫を食ふ、頭背は純黑、胸は白色なり、鳴く聲は丹鶴に似たり、其肉最も佳なり。

グロート Grote 名 人名 英國の歷史家、希臘史殊に雅典の歷史に精通す、(西紀一七九一—一八七一)。

くろ—ど 黒戸 名 古の禁中の一所、くろとのでしよを見よ。

クロドウィヒ Chlodwig 名 人名 サリのフランク酋長にして、詐計を以てフランクを統一して王となり、後諸國を征伐したり。

くろど—の—ごしよ 黒戸御所 名 清涼殿の北、瀧口戸の西にある間にして、其邊にて焚く火のために煤けて黑くなりたる故に黑戸といふ、光孝天皇の營まれし所なり。

くろど—の—はま 黒戸濱 名 濱の名 一、上總國木更津にあり、二、下總國にあり。

クロトン Croton 名 地名 伊太利南海岸にある一市にして、ヂオニウスに攻擊せられて占領せらる、又ピロス及ンニバルの戰時に苦めらる、ピタゴラスは此地に學派を開きたり。

くろ—とりげ 黒鳥毛 名 鳥の黑き羽にてつくり、槍の鞘なぞの飾とせるもの。

グロニンヘン Groningen 名 地名 オランダの一州、人口二十八萬、首府も同名にて、商業盛んなり、有名なる大學、博物館あり、人口約六萬、(53,15N 6,46E)。

くろ—のり 黒海苔 名 植物 海藻類、草名、色黑くして其味美なり、若狹國の海に產す。

くろ—はちちやう 黒八丈 名 織物の名、武藏國八王子及甲斐國より產す。

くろ—はま 黒濱 名 濱の名 豊後國海部郡にあり。

くろび 名 植物 チヂコに同じ。

くろ—び 黒日 名 陰曆にて萬事に凶なりといふ日、凶日

くろ—ふ 黒斑 名 一、黑き斑、二、黑き斑點ある鷹の羽

クローファード Crawford 名 人名 ジョン クローファードは英國の官吏にして、東洋の事情に通じ、「印度群島史」

「シアム及コシエンシーヌ」、「マライ語文典及字彙」を著はしたり、スコットランドの外交家、(西紀一七八三—一八六三)、合衆國の將軍、(一八二九—一八九二)、アメリカの彫刻家且著作家　一八一四—一八五七)。

クローファード Crawfurd 名　地名　合衆國諸州の市。

くろーぶし 踝 名　くるぶしにたとし。

クロプストック Klopstock 名　人名　獨乙の詩人にして、獨乙六大家の一人なり、一七四八年メッシアデの絶唱を以てミルトンのパラダイス、ロストに抗せり。

クローブ—てんち クローブ電池 Grove's cell. 名　物理　アンセン電池の炭素棒の代りに白金板を用ゐたるもの。

くろ—ふね 黑船 名　外國船のこと、外國の船は多くは黑く塗りたるよりいへるなり、德川の嘉永年中より盛に我國人の間に行はれし語なり。

くろ—ぼ 麥奴 名　植物　菌類、麥及其他の種子に生ずるものにして、胞子を生じ、萌芽して菌絲と稱する少數の細胞より成る、纖維を害する有害菌なり。

くろ—ぼん 黑本 名　天保の頃行はれし草双紙の一種にして表紙に黑き紙に用ひたるもの。

くろ—まく 黑幕 名　一、演劇に用ふる幕、二、公然表たたずして、後援するもの。

くろ—まつ 黑松 名　植物　松柏科、木名、葉は針狀にして二個束生し常綠なり、花は雌雄同株にして、雄花は穗狀をなして新芽の下邊に簇生し、雌花は許多の鱗片より成りて小毬狀をなし、新芽の頂に生じて各鱗の內面に二個の胚珠を裸出す、木材を種種の用に供し、樹幹より樹脂を取る雄松。

くろ—まめ 黑豆 名　植物　大豆の一種なり。

くろむ 黑 動　一、黑くなさ、二、巧に紛らす。

クロムウエル Cromwell 名　人名　英國の英雄、西紀一六二九年、議員となり、議會軍の總大將となり、一六四六年、大に勤王軍を破る　チャーレス一世を裁判して、一六四九年、遂に之を死刑に處したり、かくて英國は一時共和政府となり、クロムウエルは自からプロテクトルとして武斷政治を行ひ、舊教を壓しぬ、一六五一年、有名なる航海條例を發して、オランダの商業を妨げて海上權を制し英國の國勢は隆隆として盛大となりぬ、西紀一六五八年、病を以て卒す、(西紀一五九九—一五六八年)。

クーロン Charles Augustin Coulomb 名　人名　シャーレル、オーガスチン、クーロンは有名なる佛國の物理學者、電氣學者にして、捩秤の發明者、クーロンの定則の發見者なり、(西紀一七三六—一八〇六)。

クーロン Coulomb 名　物理　實用上の電氣量の單位、等量の電氣を帶びたる二個の質點が、一糎を隔てて相牽引し、又は拒斥する力が、一ダインなるべきものの三十億倍の電氣量をいふ、又一アンペールの強さの電流にて、導線の切口を一秒時間に通過する電氣の量なりとも云ひ得。

クロンスタット Cronstadt 名　港名　フインランド灣中にあるロシアの一大軍港にして、ペルチック艦隊の根據地なり要塞の防備極めて堅固にして、西紀一八五四年英佛の聯合艦隊これを砲擊せしことあり。

クロンダイク Klondike 名　地名　カナダの北東にある地

クーロン—の—ていりつ クーロンの定律 Coulomb's law 名　物理「磁石の兩極間の引力或は斥力は、相互間の距離の二乘に反比例し、兩極の强さの相乘積に正比例す」といふ磁氣に關してクーロンの立てたる定律なり。

くろん—ぼ 黑坊 名　印度及び亞弗利加の如き熱帶地方に住する色黑き人をいふ。

グロンメン Glommen 名　河名　ノルウエーの最大河、アーサンド湖に發して南流し、ククリスチヤニヤの近傍よりボハス灣に入る、(60,40N 11,30E)。

くろ—め 黑目 名　眼球の黑の黑き部分、ひとみ。

くろもじ 黑文字 名　植物　樟科、木の名、多くは山中に生じ、葉は深く三裂し、裂片は鋭頭なり、香氣極めて高きゆゑに小揚すとして用ひらる、鉤樟。

くろ—やき 黑燒 名　一、燒きこがすこと、二、燒きこがしたるもの。

クロラル Chloral 名　化學　强き特臭の臭氣ある油狀の液體、沸點九十九度、比重一、五〇二、水と結合して抱水クロラルとなり、苛性加里と共にクロロホルム、蟻酸加里を生ず。

クロロフイル 葉綠素 Chlorophyl 名　植物　植物の綠色部中に存在する綠色體、組成未明。

クロロホルム Chloroform 名　藥品の名　無色の液體にして、快香を有す、揮發し易く、其蒸氣を吸收すれば一時知覺を失ふ、故に麻醉劑として用ひらる。

くわ 科 名　一、しな、二、くわもくの略。

くわ 課 名　一、うけもち、二、やくわて、三、官廳の局の中の小區分、「土木課」「兵事課」。

くわ—あふ 花押 名　かきはん、卽、姓名の下に草書にてかきたる字。

くわい 魁 名　かしら、首領。

くわい 會 名　數多の人の一所に集ること、よりあひ。

ぐわい—かい 外界 名　心理　心以外の萬事萬物。

ぐわい—かう 外寇 名 外國より來り攻むること。

ぐわい—かう 外交 名 境外の交際、又、外國との交際。

ぐわいかう—くわん 外交官 名 外交の局にわたる人、公使、領事などをいふ。

くわい—き 回忌 名 死者の死せし月日の毎年めぐり來るとき、例へば一年目を三回忌、三年目を三回忌といふが如し。

くわい—き 快氣 名 病氣の全快すること、「快氣祝」。

くわい—きう 懷舊 名 昔のことを思ひたてすること、「轉た懷舊の情に堪へず。」

くわいき—せん 回歸線 名 地文 地球の赤道より、南北へ各二十三度半に當たる所に假設したる緯線にして、北なるを夏至線、南なるを冬至線と稱す、太陽が夏至線に達したるときは我國の夏にして、冬至線に達したるときは、我國の冬なり。

くわいき—むふうたい 回歸無風帶 名 地文 貿易風の吹く南北兩緯三十度外の地には、空氣冷降するのみにして風なき所あり、之を回歸無風帶といふ、此部に冷下する空氣は貿易風となりて又赤道に至り、更に赤道無風帶より上昇して回歸無風帶に至り循環す。

くわい—さやく 詐謀 名 たはぶれ、しやれ。

くわい—くわつ 快濶 名 心の樂しきこと。

ぐわい—くわん 外患 名 外部より來る心配「內憂外患」。

くわい—けい 會計 名 金錢の出入を計算すること。

くわいけい 會稽 名 地名 今の浙江省紹興府にわり、春秋戰國の時、越の都せし所なり、西紀四五三年越王勾踐が吳王夫差の爲めに圍まれて、遂に降りたることあり。

くわいけい—けんさゐん 會計檢査院 名 各省が豫算の通りに行ふや否やを監督する獨立の官廳、院長は親任官なり。

くわいけい—けんど 會計年度 名 官廳にて會計を完了すべき期間、毎年四月より翌年の三月迄を一年度とす。

くわいけい—の—はぢ 會稽恥 名 深く心にしみて忘るべからざる恥、越王勾踐が吳國と會稽山に戰ひ、遂に囚へられて、甚だしき恥辱を受けたるに出づ。

くわいけい—はふ 會計法 名 國家の會計に關する法令。

くわいげん 快元 名 人名 明の僧なり、上杉憲實の足利學校を起すや、其託に應じ、書を携へて入朝す、文明元年寂す、

くわい—ご 悔悟 名 前非を悔ゆること。

くわいごう 隗囂 名 人名 西漢末の僭王なり、兵を起して漢に應じ、光武をして天下を統一せしむ、後反し、自ら西州上將軍と稱せしも、遂に降り、建武九年卒す。

クーロン Coulomb 名 物理 實用上の電氣量の單位、等量の電氣を帶びたる二個の質點が、一糎を隔てて相牽引し、又は相斥する力が、一ダインなるべきものの三十億倍の電氣量をいふ、又一アンペールの强さの電流にて、導線の切口を一秒時間に通過する電氣の量なりとも云ひ得。

クロンスタット Cronstadt 名 港名 フインランド灣中にあるロシアの一大軍港にして、バルチック艦隊の根據地なり要塞の防備極めて堅固にして、西紀一八五四年英佛の聯合艦隊これを砲擊せしことあり。

クロンダイク Klondike 名 地名 カナダの北東にある地

クーロンの—ていりつ クーロンの定律 Coulomb's law 名 物理「磁石の兩極間の引力或は斥力は、相互間の距離の二乘に反比例し、兩極の强さの相乘積に正比例す」といふ磁氣に關してクーロンの立てたる定律なり。

くろん—ぼ 黑坊 名 印度及び亞弗利加の如き熱帶地方に住する色黑き人をいふ。

グロンメン Glommen 名 河名 ノルウェーの最大河、アーサンド湖に發して南流し、ククリスチヤニヤの近傍よりボハス灣に入る、〔60,40N 11,30E〕。

くろ—め 黑目 名 眼球の黑の黑き部分、ひとみ。

くろもじ 黑文字 名 楂物 樟科、木の名、多くは山中に生じ、葉は深く三裂し、裂片は鋭頭なり、香氣極めて高きゆゑに小揚子として用ひらる、鉤樟。

くろ—やき 黑燒 名 一、燒きこがすこと、二、燒きこがしたるもの。

クロラル Chloral 名 化學 强き特臭の臭氣ある油狀の液體、沸點九十九度、比重一、五〇二、水と結合して抱水クロラルとなり、苛性加里と共にクロロホルム、蟻酸加里を生ず。

クロロフイル 葉綠素 Chlorophyl 名 植物 植物の綠色部中に存在する綠色體、組成未明。

クロロホルム Chloroform 名 藥品の名 無色の液體にして、快香を有す、揮發し易く、其蒸氣を吸收すれば一時知覺を失ふ、故に麻醉劑として用ひらる。

くわ 科 名 一、しな、二、くわもくの略。

くわ 課 名 一、うけもち、二、やくわて、三、官廳の局の中の小區分、「土木課」「兵事課」。

くわ—あふ 花押 名 かきはん、卽、姓名の下に草書にてかきかる字。

くわい 魁 名 かしら、首領。

くわい 會 名 數多の人の一所に集ること、よりあひ。

ぐわい—かい 外界 名 心理 心以外の萬事萬物。

ぐわい—かう 外寇 名 外國より來り攻むること。

ぐわい—かう 外交 名 境外の交際、又、外國との交際。

ぐわいかう—くわん 外交官 名 外交の局にあたる人、公使、領事などをいふ。

くわい—き 回忌 名 死者の死せし月日の毎年めぐり來るとき、例へば一年目を三回忌、三年目を三回忌といふが如し。

くわい—き 快氣 名 病氣の全快すること、「快氣祝」。

くわい—きう 懷舊 名 昔のことを思ひたてすこと、「轉た懷舊の情に堪へず」。

くわいき—せん 回歸線 名 地文 地球の赤道より、南北へ各二十三度半に當たる所に假設したる緯線にして、北なるを夏至線、南なるを冬至線と稱す、太陽が夏至線に達したるときは我國の夏にして、冬至線に達したるときは、我國の冬なり。

くわいき—むふうたい 回歸無風帶 名 地文 貿易風の吹く南北両緯三十度外の地には、空氣冷降するのみにして風なき所あり、之を回歸無風帶といふ、此部に冷下する空氣は貿易風となりて又赤道に至り、更に赤道無風帶より上昇して回歸無風帶に至り循環す。

くわい—ぎやく 詼諧 名 たはぶれ、しやれ。

くわい—くわつ 快濶 名 心の樂しきこと。

くわい—くわん 外患 名 外部より來る心配「內憂外患」。

くわい—けい 會計 名 金錢の出入を計算すること。

くわいけい 會稽 名 地名 今の浙江省紹興府にあり、春秋戰國の時、越の都せし所なり、西紀四五三年越王勾踐が吳王夫差の爲めに圍まれて、遂に降りたることあり。

くわいけい—けんさゐん 會計檢査院 名 各省が豫算の通りに行ふや否やを監督する獨立の官廳、院長は親任官なり。

くわいけい—けんど 會計年度 名 官廳にて會計を完了すべき期間、毎年四月より翌年の三月迄を一年度とす。

くわいけい—の—はぢ 會稽恥 名 深く心にしみて忘るべからざる恥、越王勾踐が吳國と會稽山に戰ひ、遂に囚へられて、甚だしき恥辱を受けたるに出づ。

くわいけい—はふ 會計法 名 國家の會計に關する法令。

くわいげん 快元 名 人名 明の僧なり、上杉憲眞の足利學校を起すや、其託に應じ、書を携へて入朝す、文明元年寂す、

くわい—ご 悔悟 名 前非を悔ゆること。

くわいごう 隗囂 名 人名 西漢末の僭王なり、兵を起して漢に應じ、光武をして天下を統一せしむ、後反し、自ら西州上將軍と稱せしも、遂に降り、建武九年卒す。

ぐわい—こく 外國 名 我主權の支配を受けざる國。

ぐわいこく—はふ 外國法 名 外國の法律。

ぐわいこく—こうし 外國公使 名 外國より我國に派遣せる公使。

ぐわいこく—ぶぎやう 外國奉行 名 安政五年七月創置せられし職なり、通商貿易其他外國人に關する一切の事務を掌らしむ。

くわいこつ 回紇 名 唐の太宗の招諭に應じて來りたる鐵勒の一部なり、部長安史の亂に唐を援けて功あり、仍て支宗に許されて唐の公主と三たび婚す、後衰へ、衆散じ、蒙古の鐵木眞に破られて降る。

くわい—さう 回想 名 過去のことを追想すること。

くわい—し 懷紙 名 歌などを書く紙、一定の書式あり。

くわいじん—かかん 懷仁可汗 名 唐玄宗の時、回紇に居り葛邏祿十一部を統一したる汗にして、安史の亂に唐を救ひたるを以て、唐之を厚遇し、三たび皇女を之に妻せり。

くわい—しや 會社 名 數多の人が組合ひて、商工業をいとなむところ、我商法によれば、株式會社、合名會社、合資會社、及、株式合資會社の四種あり。

くわい—しや 膾炙 名 なますと燒肉とは人の口にのる食物なり、よりて、普く人の口の端に上ることをいふ、「人口に膾炙す」。

くわいじやう—がん 塊狀岩 名 鑛物 複性岩の一種、鑛物分子膠結物質なくして集結するものなり、花崗石、輝石岩、閃岩の如き皆此中にあり。

くわいじよう—くわざん 塊狀火山 名 地文 成層火山は圓錐形をなすを常とすれども、塊狀火山は圓錐形又は平きドーム形をなす、此類の火山は噴火口を存するものなし、而して此種の火山は世界中至て少し。

くわい—せい 快晴 名 空のよく晴れたること。

くわい—せき 會席 名 一、數多の人の集まる席、二、くわいせきれうり(會席料理)の略、三、茶の湯の席にて、茶を出す前に出す飲食物。

ぐわい—せき 外戚 名 母方の親戚、母方の血縁。

くわいせき—れうり 會席料理 名 上等なる料理。

くわいぜん 快憚 名 人名 僧侶、加賀國小松の人、圍碁を以て名あり、本因坊等と名を等ふす、世に加賀和尚と稱す。

ぐわい—ろ 外祖 名 母方の祖父母。

くわい—ろん 外孫 名 我が娘の嫁して生みたる子。

くわい—たい 懷胎 名 くわいにんにたなし。

くわい—たい 拐帶 名 もちにげ。

くわい—たふ 回答 名 へんじにれなし。

くわい—だん 怪話 名 ばけものの話、怪しき話。

くわい—わゆう 蛔虫 名 動物 長さ七八寸の者にして蚯蚓狀の者なり、小兒の腸内に生ず、卵は大便と共に排出す 飲料水より再び人の腸中に入る時は蛔虫となる。

くわいわゆう—じるこ 懐中汁粉 名 餡を懐中し得るやうになしれるものにて、湯に入れて、かきまはせば、汁粉となるなり。

くわいわゆう—ずずり 懐中硯 名 硯、筆、墨などを小さきうすき箱に入れ、懐中に入るを得る如く作りしもの。

くわいわゆう—どけい 懐中時計 名 時計の一種、懐中に入れ得る小さき時計なり、たもとどけい。

くわいてい 懐帝 名 人名 西晉三代の帝なり、八王の亂後卽位したり、故に晉室大に衰へ、劉淵の漢國起り屢々入寇せしを以て、東海王越等をして之を拒がしむ、既にして劉聰大兵を以て入冦し、帝を執へて平陽に送る、在位六年

くわいとく—しょいん 懐德書院 名 享保中 中井甃庵の大阪に創立し、志士を教へし所なり。

くわい—にん 懐妊 名 はらむこと、みごもり。

くわい—ひ 回避 名 裁判官などが事件の審理に立ち會ふことをさくること、是れ被告に愛憎の念ありといふ疑嫌をさくるためなり。

くわいふうらう 懐風藻 名 天平勝寶中に淡海三船が集錄せし詩集にして、弘文帝以下百二十篇を集む、本邦最古の詩集なり。

くわひ—ぶん 怪聞 名 あやしき評判、奇怪なる風聞。

ぐわい—ぶん 外聞 名 世人の評判 世のきこえ。

くわいぶん—うた 廻文歌 名 上より讀む下すも、又、反對に下より讀み上ぐるも、同一の文句なる歌。

ぐわいむ—しやう 外務省 名 官省の名、外國との事件に關する事務を凡べて司るところ、其長官は外務大臣なり。

くわい—ぬい 會盟 名 周の時諸侯に霸たるものが、諸侯を糾合して、周室を尊び、諸侯の難を靖めんため設けたる盟約なり。

くわい—もん 槐門 名 大臣の異稱。

ぐわい—やう 外洋 名 公海にして何れの國にも屬せざる海洋、卽、領海以外のところ。

くわい—らい 傀儡 名 くぐつにれなし。

くわい—らう 廻廊 名 神社などのまはりにある細殿。

くわい—らく 快樂 名 たのしみ、(苦痛に對す)。

くわいりよう—しんのう 懐良親王 名 人名 「かねなが」を見よ。

くわい—りよく 怪力 名 非常なる力。

くわい—ろく 回祿 名 一、火の神、二、火災にかかること、「回祿の災」。

くわい—わ 會話 名 相對して談話すること。

くわいわう 懐王 名 人名 楚の三十六代の王にして威王の子なり、初め韓魏と從約せしが、後秦と盟をせしかば、齊韓魏は約に背けるを怒り、之を攻めしが、秦の援を得て大に之を破る、後秦に囚はれて死せり、(西紀前二世紀)。

くわい—ゐ 怪異 名 あやしきこと。

くわい—ゐ 魁偉 名 身體の長大なること、「容貌魁偉」。

くわう—いん 光陰 名 年月、月日、とき。

くわう—が 光駕 名 光來、光臨、狂駕、他人の來ることを敬していふ語、(多くは手紙の文に用ひらる)。

くわう—が 黄河 名 地理 河名、支那の甘肅省より發源し、山西省、河南省、を過ぎて山東省に入り、渤海に注ぐ楊子江に次ぎての大河なり。

くわう—かい 黄海 名 地理 海の名、支那山東省と朝鮮との間にある海なり、清語にてホアンハイといふ。

くわうかう—てんわう 光孝天皇 名 人皇第五十代の天皇 仁明天皇の第三子の皇子なり、在位三年、仁和三年八月崩 寿御年五十八。

くわうかく—てんわう 光格天皇 名 人皇第百十九代の天皇、閑院宮典仁親王の皇子なり、在位三十七年、天保十一年十一月崩寿、御年七十。

くわうか—もんゐん 皇嘉門院 名 人名 藤原聖子をいふ

くわう—ぎ 廣義 名 ひろき意義(狹義に對す)。

くわうきん—の—ぞく 黄巾の賊 名 歴史 後漢の靈帝の末年、鉅鹿の張角といふもの、妖術を以て人を惑はし、衆を集むること十三萬、一時に蜂起せしが、其兵衆は皆黄巾を着けしにより、此の名あるなり。

くわう—きゆう 皇宮 名 天皇の居らるる宮城。

くわう—きよ 皇居 名 天皇の居らるるところ。

くわうぎよく—せき 黄玉石 名 鑛物 黄色又は青色の結晶をなし、水晶よりも堅く且重し、我國にては美濃、伊勢の諸國より多く産出す。

くわうきよく—てんわう 皇極天皇 名 人皇 第三十五代の天皇、茅渟王の女なり、在位三年。

くわう—ぐう 皇后 名 天皇の御配偶、きさき。

くわう—くわう—と 煌煌 副 ひかりきらめくさまにいふ

くわう—くわつ 廣濶 名 ひろびろとせること。

くわう—けい 光景 名 ありさま、けしき。

くわう—けい 皇慶 名 人名 僧侶 秘密の宗を修さめ。

又、密傳の秘密を學ぶ、永承四年七月寂す、年七十三。

くわうーげふ 皇業 名 天皇が天下を經營せらるること。

くわうーげふ 宏業 名 偉大なる事業。

くわうーげふ 鑛業 名 鑛物の採掘及び之に附隨する業をいふ。

くわうーけん 光謙 名 人名 僧侶、筑前の人、眞宗の奥義を學ぶ、元文四年十月寂す、年八十八。

くわうーげん 廣言 名 大言 口から出まかせにいふこと

くわうげんーてんわう 光嚴天皇 名 北朝第一代の天皇、在位二年貞治三年七月崩ず、御年五十二。

くわうごうーぐう 皇后宮 名 皇后の居らるる宮。

くわうごうーじま 皇后島 名 島名 備後國沼隈郡の前面にあり。

くわうーこく 廣告 名 一、廣く世間に告げしらすこと、二、其口上をかきたる紙、ひきふだ。

くわうーこく 皇國 名 日本、みくに。

くわうーこつ 恍惚 名 ぼんやりすること、はれぼれとしたるさま、物事に氣を奪はれて、うつかりしたるさま。

くわうーこん 黄昏 名 くれかた、夕暮、たそがれ。

くわうざんーがく 鑛山學 名 鑛物の產出する山なるか、又は然からざる山なるかを研究し、若くは鑛物の採掘などにつきて研究する學問。

くわうーし 皇嗣 名 天皇の御よつぎ。

くわうーしつ 皇室 名 天皇の御一家をいふ。

くわうしつーざいさん 皇室財產 名 皇室に屬する財產、古は皇室の財產と國家の財產との區別なかりしが、現今は皆之を區別し、皇室の財產は別に獨立せるなり。

くわうしつーてんぱん 皇室典範 名 皇位繼承など皇室に關することを規定したるものにして、十二章、六十二條より成る。

くわうじんーじま 荒神島 名 島名 讃岐國の北岸にあり

くわうーじやう 皇上 名 きんしやう(今上)にたなし。

くわうしよくーくわん 黄色患 名 Yellow Peric 歐洲人の唱へる語にして、黄色人種が勃興して、歐洲人種を壓倒すといふ意なり。

くわうしよくーじんしゆ 黄色人種 名 人種の名 一に蒙古人種、皮膚黄色乃至褐色にして、毛髮黑く、且、眼斜にして頰骨高し、重に亞細亞の東部及び地境に住む、歐洲に於ては、土耳古人、ハンガリー人、フインランド人などを之に屬す。

くわうーせん 鑛泉 名 地文 地水岩石の間を流るる際には多少の鑛物質を含む、其多量の鑛物質を含みて湧出するものを鑛泉といふ、其冷かなるを冷泉と稱し、暖かなるを溫泉といふ、

くわうーせん 黄泉 名 冥途、よみぢ。

くわうーせん 光線 名 ひかり(光)を見よ。

くわうーち 皇祖 名 天皇の御先祖。

くわうーち 皇祚 名 天皇の御位、皇位、天位。

くわうーちう 皇宗 名 天皇の代代の御祖。

くわうーぞく 皇族 名 天皇の御血緣、即、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王親王妃、內親王、王、王妃、女王なり。

くわうーそん 皇孫 名 一、天皇の御孫、二、皇胤。

くわうーたい 光體 名 物理 凡べて自から光を發する物體は、之を發光體といふ、太陽、恒星、燃燒する物體の如き是なり、又、暗體と雖も、時としては他の發光體より光を受けて吾人に發送することあり、月の如き是なり、發光體たると暗體たるとを問はず、吾人に光を發送して物體あることを認知せしむるものは皆之を光體といふ。

くわうーたいごう 皇太后 名 先帝の皇后。

くわうたいごうーぐう 皇太后宮 名 皇太后の居らるる宮

くわうーたいし 皇太子 名 皇位をつがるべき皇子、太子

くわうーたいてい 皇太弟 名 天皇 の御弟にて皇太子なき時皇位をつがるべき御方なり。

くわうーたく 光澤 名 つや、ひかり。

くわうーぢよ 皇女 名 天皇の御女。

くわうーてい 皇帝 名 天皇にたなし、御門。

くわうーてう 皇朝 名 我國の朝廷。

くわうてうーしりやく 皇朝史略 名 書名 青山延子の著日本の歷史をかきたるもの。

くわうてつーくわう 黄鐵鑛 名 鑛物、鐵と硫黄との化合物、即、硫化鐵より、諸種の岩石中に入り、硫化金屬中、最も弘く分布する所のものなり、色は黄色にして眞鍮の如く、結晶の形は立方體最も普通なり。

くわうーど 光度 名 物理 光體の種類によりて光に强弱あり、光點より單位距離に於ける光の强さを光度といふ。

くわうーとう 皇統 名 天皇の御血統。

くわうにんーてんわう 光仁天皇 名 人皇第四十九代の天皇、施基親王第六の皇子なり、在位十二年、天應元年十二月崩ず、御年七十三。

くわうーはく 黄白 名 錢をいふ、黄は金、白は銀。

くわうーばく 廣漠 名 ひろびろとせること。

くわうふうーせいげつ 光風霽月 名 心の清くすみたるを

譬へていふなり。

くわう—ぶつ 鑛物 名 地球の外部を形成する無機物の總稱なり。

くわうぶつ—がく 鑛物學 名 鑛物の性質、成分、産出の有樣應用などを研究する學問なり。

くわうみやう—くわうごう 光明皇后 名 名は光明子、藤原不比等の女なり、聖武天皇の皇太子たりし時其妃となり孝謙天皇を生む、寶字四年六月崩ず、年六十。

くわうみやう—てんわう 光明天皇 名 北朝第二代の天皇後伏見天皇第二の皇子、在位十二年、康曆二年六月崩ず、御年六十。

くわう—みやく 鑛脈 名 鑛物の熔解物の岩石の間に沈澱して重りたるもの。

くわもん 黃門 名 ちゆうなごん(中納言)の唐名。

くわう—らい 光來 名 他の來ることを敬していふ語、光駕(主)として、手紙の文に用ひらる)。

くわう—りやう 荒涼 名 物凄きこと。

くわうれい—さい 皇靈祭 名 祭日の名 皇靈とは代代の天皇のみたまの義なり、春秋二回彼岸の中日に行はる。

くわ—ゐ 皇威 名 天皇の御威光。

くわう—ゐ 皇位 名 天皇の御位、天位、皇祚。

くわ—いう 火曜 名 七曜の一、月曜と水曜との間。

くわ—いん 火焰 名 可燃性瓦斯の生ずるときに生ず、ほのはにれなし。

くわいん—だいこ 火焰太鼓 名 太鼓の一種にして、其周圍に火焰の形したる飾あるもの、舞樂に用ひらる。

くわ—がい 花蓋 名 萼及び花蓋が同樣にして分別し得ざるとき之を花蓋といふ、單子葉植物例へば、ゆり、かきつばたにあり。

ぐわ—かい 瓦解 名 物事の甚だしく崩ずること。

くわ—かう 花梗 名 花軸より小柄を出して花をつくるときは、其小柄を花梗と名づく。

くわかう—せき 花崗石 名 鑛物 一名みかげいし。

くわ—がく 化學 名 物質の變化について研究する學問。

くわ—がく 科學 名 有物有則によりて研究する學問をいふ、哲學に對する稱なり、哲學を形而上學といひ、科學を形而下學といふ。

ぐわ—がく 畫學 名 畫をかく學問。

くわがくてき—へんくわ 化學的變化 名 物の實質の上に變化を及ぼす作用を稱していふなり。

くわがた—むし 名 動物 鞘翅類に屬す、俗にヂムシといふ、雄の大顎は非常に發育し兜の鍬形の如きを以て此名あり、觸角は十一節よりなる、脚爪大にて其間に小爪あり、前肢は地を掘るに適す、樹液を吸收して生活す、白色にて大なり。

くわ—がふ 化合 名 化學 元素と元素とが相合して、其の何れとも全く性質を異にせる一種の物質に變ずるを、化學的結合又は單に化合といふ。

くわがふ—ぶつ 化合物 名 一の物質が數種の他の物質と互に化合して生ずるもの、若くは二種以上の物質に分解し得るものをいふ、例へば水は酸素と水素とより成れる化合物なるが如し。

くわ—き 花器 名 花を活くるに用ふる器。

くわ—き 火氣 名 火の氣、火のいきはひ、火勢。

くわざう—かくじやう—の—あらそひ 蝸牛角上の爭 同 小さきことに就いての爭、つまらぬ爭。

くわ—きふ 火急 名 極めて急なること、大いそぎ。

くわ—きよ 科擧 名 民間より人材を登用する法にして、隋の文帝の時、進士の科を設けて士をとりたり、これ後世選擧の基を開きしものなり。

くわく 畫 名 漢字を楷書にてかくとき、筆を休めずして書き得る限りの稱、例へば、一は一くわく、十は二くわく土は三くわくの類。

くわくきよへい 霍去病 名 人名 漢の驃騎將軍なり、匈奴を擊つこと四たび、其勢盛なりき、元狩六年卒し、景桓侯と謚せらる。

くわく—くわう 霍光 名 人名 支那の西漢の宣帝に仕へ大司馬大將軍となる、後に廢立を行へり。

くわくこう 郭公 名 動物 鳥名、一、よぶことり、二、はとときすをいふ。

くわくしぎ 郭子儀 名 人名 唐の名臣、德宗尊びて尙父といふ。

くわくしこう 郭子興 名 人名 元の末 濠洲に據りて反したる人にして、明の朱元璋は初め之に屬したり。

くわく—しつ 確執 名 わらそひ、喧嘩。

くわく—しやく 矍鑠 名 老いて愈盛なるをいふ。

くわくしゆけい 郭守敬 名 人名 元の世祖に仕へて水利の議を立て、又天文學に精通し、授時曆を作りて支那曆法に一大革新を加へたる人なり、(西紀一二三一—一三一六)

くわく—せい 廓清 名 さつぱりと掃らひ清むること、後漢書に「慨然有廓清天下心」。

くわく—ちゆう 廓中 名 くわくないにれなし。

くわく—てい 確定 名 たしかに定まること。

くわく—ない 廓內 名 一、くるわの內、二、遊里の內。

くわく—よく 鶴翼 名 古の陣法の名 鶴の羽翼をひろげたる如く、横に布く陣なり。

くわく—らん 霍亂 名 病名 暑氣にあたりて吐瀉などをするもの、今の痢名なり。

くわ—くわん 花冠 名 植物 花の外部の美麗なる部にして、俗に花びらともいふ、其一片を花瓣と稱す、內部機關を被護し、生殖作用をなすため蟲類を誘致するの用をなす

くわ—げき 過激 名 極めて激しきこと。

くわ—けい 火刑 名 近古の末より德川幕府に至る迄、死罪の重罪人に科せし酷刑。

くわ—げん 嘗絃 名 くわんげんの略。

くわ—げん 訛言 名 誤りの風聞、根なしごと。

くわ—こ 過去 名 一、過ぎし昔、二、文法上の語、動詞又は助動詞の過ぎさりし動作を示めすもの、(現在、未來に對す)。

くわご 野蠶 名 動物 蠶に似て桑を食害す、成虫は長さ五六分、暗褐色にて、前肢に斑紋多し、幼虫は二寸內外にて暗褐色にて蠶に酷似す、一年一回發生し、第四回の脫皮を終へて結繭す、成虫は能く飛び、家屋內に入り來り、家蠶と交尾して大害を與ふることあり。

くわ—こう 畫工 名 畫に巧なる人、ゑかき。

くわこう—こ 火口湖 名 地文 火山の噴火口に水の溜りて、湖水をなすものをいふ、箱根の蘆の湖、●榛名山の榛名湖の如き其例なり。

くわこう—し 畫工司 名 中務省に屬し、繪畫彩色の事を司る役、大寶令にて置かる。

くわこ—わやう 過去帳 名 死者の法名をしるし置く帳簿をいふ。

くわ—ごん 過言 名 いひすぎし。

くわ—ざ 冠者 名 くわんじやの音便、又、くわんさ。

くわ—ざい 貨財 名 たから、金錢。

くわさい—ほけん 火災保險 名 保險の一種、若し火災にかかれる時は、其損害を賠償すべきことを約する契約。

くわ—さう 火葬 名 死者を燒きて葬むること、(土葬に對して)。

くわ—さう 萱草 名 植物 草名、くわんざうの略。

くわざう—はくわい—じだい 畫像破壞時代 名 七二六年東ローマ皇帝レオ、イサウリクス 基督教義に背けるものとして畫像禮拜を禁止してより、偶像崇拜者は虐待せられ法王も破門せられ、延いて希臘及羅甸教會分離の基となりたり、此時代を畫像破壞時代といふ。

くわ—ざん 火山 名 地文 圓錐形の山にして、其頂上に火口と稱する盆狀又は漏斗狀の凹窪ありて、之より水蒸氣鑄岩、燒土などを噴出するものなり。

くわざん—がん 火山岩 名 鑛物 所謂新火成岩にして、玄武岩。安山岩、粗面岩の如き、皆此中にあり。

くわざん—ぐん 火山群 名 地文 火山が不規則に集れるものをいふ、アイスランド島、カナリー島の如し。

くわざん—てんわう 華山天皇 名 人皇第六十五代の天皇在位二年、寛弘五年二月崩ず、御年四十一。

くわざん—みやく 火山脈 名 地文 火山の線狀に排列するものをいふ、アンデス火山脈、我國千島火山脈の如し。

くわざん—ゐん 花山院 名 京都御苑內西南の方にありしも、應仁の亂の時兵火に罹りて燒失したり、花山帝位を遜れて入り給ひしを以て有名なり。

くわざんゐん—もろかた 花山院師賢 名 人名 藤原家忠のことなり、後醍醐帝の笠置に遷り幸給ひたる時、僧軍を率ゐんとて假裝して天皇となり叡山に至りたる人なり、城陷うて敵に捕はれ下總に流され、元弘二年九月薨ず、今下總香取郡に在る小御門神社は公の靈を祀れるものなり。

くわ—し 花糸 名 植物 雄蕊の支柱なり。

くわ—し 菓子 名 食膳の外に食ふ物、乾菓子、餅菓子、蒸菓子などの種類あり、果實はこれを水菓子といふ、又西洋菓子あり。

ぐわ—し 畫師 名 專ら佛像を畫きし役、大寶令にて置かる。

くわし—かんだんけい 華氏寒暖計 名 寒暖計の一種、フアレンハイト氏の創作にかかる、氷點を三十二度とし、沸點を二百十二度としたるもの、一般に行はるる寒暖計は是なり。

くわし—ぐるみ 名 植物 テウチグルミ又テウセングルミともいふ、形オニグルミに似るも核は尙圓く且美にして薄し、種子を食用とす。

くわ—しつ 過失 名 しくぢり、わやまち。

くわ—じつ 過日 名 過ぐる日 先日、さきの日。

くわ—じつ 果實 名 一、植物 草木の實、卽、種子を有する雌蕊と之に合着せる諸部を合せていふなり、一花中の雌蕊より發育せるものを單花果といひ、數花の雌蕊より發育せるものを多花果といふ、例へば梅、大豆の果實は前者にして、赤松、桑などの果實は後者なり、二、或る元本より生ずる利益、例へば、今の利子、小作料の如し。

くわ—しん 禍心 名 わくしん、害心。

くわ—しん 花心 名 植物 雄蕊と雌蕊とをいふ。

くわ—しん 花信 名 花の見頃になりしことを巡知する音

信。

くわ―じん　寡人　名　德の少なき人の意にて、主君自から己を謙遜していふ稱なり。

くわ―しや　火舍　名　ひばちの類。

くわ―しや　火車　名　佛教の語　死者を奪ふ鬼。

くわ―しや　華奢　形　きやしやにたなし。

くわ―じや　冠者　名　くわんしやにたなし。

くわ―しやう　過賞　名　一、過を正し功を賞すること、二、はめすぐること。

くわ―じやう　官掌　名　古　神祇官などの雜事を務めし役

ぐわ―しやう　臥床　名　一、ねどこ、二、病床にあること

ぐわじや―しま　臥蛇島　名　島名　薩摩國南方の海にあり

くわ―しよ　過所　名　古　關所を過ぐるための切手。

くわ―じよ　花序　名　植物　花を生ずる莖部に、花の排列する狀態を花序と稱す、而して有限花序と無限

くわ―じすう　過剩　名　計算したる後の殘餘。

くわ―しよく　花燭　名　燭臺をはめて呼ぶ語　婚禮するこ

とを、「花燭の典をあぐ」などいふ。

くわ―ず　和　動　一、心のとけあふことにいふ、二、混ず。

くわ―せい　化生　名　動物が形を變ずること、蛆の蠅となり、蠶の蝶となるが如し。

くわ―せい　化成　名　化學　數多の元素が化合して、一の物となること。

くわ―せい　火星　名　星の名、太陽系の第四番目に位す、直徑四二一一哩、二個の衛星ありて、六百八十七日にて太陽を一周す。

くわせい―がん　火成岩　名　鑛物　地中より熔解の狀態にて噴出したるもの、地面にて凝固したる塊なり、水成岩の如く層理を呈せず、塊狀をなすを常とす、故に又塊狀岩の稱わり。

くわ―せき　化石　名　動植物が地中に埋沒して石に化したるもの。

くわ―ぜん　果然　副　案の如く、果して。

ぐわ―ぜん　瓦全　名　徒らに生き永らふこと。

くわ―ぞく　華族　名　明治二年始めて設けらる、公、侯、伯、子、男爵の五等に分つ、國家に功勞ありしもの若くは其子孫に賜はる。

くわ―たい　過怠　名　一、あやまち、二、過料。

ぐわ―だい　臥内　名　臥床。

くわ―たく　火宅　名　佛教の語　此世の安からぬは、恰も燃えつつある家の如しとの譬。

くわ―たく　花托　名　植物　花梗の最上部にして、花の各機關を着生する所なり、之に凸出したるものと、凹入したるもの其他種種の變形あり。

くわ―だん　果斷　名　決意の速かなること。

くわ―ぞう　華胄　名　高貴の家すぢ、華族。

くわぞう―さん　華頂山　名　山名　山城國愛宕郡にあり一名、阿彌陀峯。

くわ―ちゆう　花柱　名　植物　雌蕊中、子房の突出したる如き部分にして、受精作用を幫助するの用をなす。

ぐわつ　月　名　十二ヶ月を數ふるに用ふる語、「一ぐわつ」「三ぐわつ」「五ぐわつ」。

くわつ―がん　活眼　名　よく物事を見分くること。

くわつ―き　活氣　名　勢のよきこと、血氣。

くわつ―くわさん　活火山　名　地文　現に噴火する山例へば淺間山、及び、有史以後に噴火せしことある山例へば、富士山の如きをいふ。

くわつ―こ　括弧　名　數字又は文字の間に、他の部と區別するために置く記號、（）（）「」などの種類あり。

ぐわつ―さん　月山　名　山名　羽州國にあり。

くわつ―じ　活字　名　多くは銅又は鉛にて文字を作くり、自由に組み得るやうにしたるもの。

ぐわつ―しや　滑車　名　輪の周圍に溝を作り、之に繩をかけて廻轉さするもの、力の方向を變へ、又は小なる力を以て重き物體を揚ぐるに用ふ、挺子の變形なり。

くわつ―しよく　月蝕　名　地文　地球が月と太陽との中間にちて、地球の影が月面に映ずるなり、故に月蝕は常に滿月の時にあるものとす。

くわつ―せき　滑石　名　鑛物　其色は青黃白なる種種ありて光澤を有す、品形分明ならず、滑かにして脂觸を與ふ、是滑石の名わる所以なり。

くわつ―たつ　濶達　名　心の大きく廣きこと。

くわつ―ち　猾智　名　狡猾なる智、わるぢえ。

ぐわつ―てんし　月天子　名　月の異名。

くわつどう―しやしん　活動寫眞　名　電氣仕掛によりて、かげえの中にある人物などを、恰も活動せる如く見せしむるもの。

くわつ―ぱん　活版　名　活字を組み立てて造りたる版。

くわつ―もく　刮目　名　目をこすりてよく見ること、目をみはること、「士別三日、當別目相看」。

くわつ―よう　活用　名　一、應用すること、二、文法上の

語、動詞、形容詞、助動詞の語尾のはたらき。

くわつ—ろ　活路　名　助かるべき道「活路を開く」。

くわ—てい　和帝　名　人名　後漢章帝の子、竇憲恒を專らにせしを憾み、永元四年宦官鄭衆と謀り遂にこれを殺す。

くわ—てい　課程　名　務むべき事の程度。

くわてう—の—みや　華頂宮　名　四親王家の外に、新に列せられたる親王家の一。

くわでう—ろてん　科條類典　名　御定書百ケ條を家齊の時松平定信が訂正して作りたる法典。

くわでん—の—くつ　瓜田の履　句　瓜を盜むかとの嫌疑をさくるために瓜田には履を入れずとの故事より、疑をうくべき態度をいふ、「李下不正冠、瓜田不入履」。

くわと　蝌蚪　名　一、動物、蝦蟇子、俗に、おたまじやくし、二、支那上古の字體の名、今の篆字の古きもの。

ぐわとう—ぐち　瓦燈口　名　一、石燈籠の火ぶくろ、二、壁などに弓形に作くれる出入口にて、燈籠などを吊すところ、架燈口、くしがた。

くわ—なん　火難　名　くわさい、火事。

くわ—はう　果報　名　因果應報、しわせは。

くわはう—もの　果報者　名　しわはせよき人、運よき人。

くわ—ばん　花盤　名　花托の一部にして、蕚と雌蕊との中間にあり、みかんの花盤の如きは著しきものなり。

くわ—び　華美　名　花やかに美しきこと、はでやか。

くわ—ふ　寡婦　名　やもめにれなし。

くわ—ふきふ　過不及　名　過ぎたると、及ばざると、「過不及なし」、といへば程のよきことなり。

くわ—ふく　禍福　名　わざはひと、ふくと。

くわふく—は—あざなへる—なは—の—ごとし　禍福は糾へる縄の如し　文　禍と福とは、かはるがはる來るものにて福ありとも頼むに足らず、禍ありとも憂ふるに及ばずとの意、わざなふは、より合はすことなり。

くわ—ふろく　過不足　名　くわふきふにれなし。

くわ—ぶつ　貨物　名　荷物　しろ物。

くわ—ふん　花粉　名　植物　花の雄蕊の葯に包まれたる黄色の粉にて、葯熟して裂くれば、吐出せられて、生殖作用をなす。

くわ—へい　貨幣　名　政府が金屬を一定の形に鑄造し、其價格を定めて、賣買に便せしむるために發行するもの、其種類少からず、金貨、銀貨、銅貨などあり。

くわ—へい　花柄　名　植物　くわかう(花梗)にれなし。

ぐわ—へい　畵餅　名　畵きたる餅は食ふことを得ずとの意より、物の役にたたず、むだになることにたとへていふ語。

くわ—べん　花瓣　名　植物　はなびらにれなし。

くわん　棺　名　ひつぎにれなし。

くわん　歡　名　よろこび、たのしみ、「歡をつくす」。

くわん　管　名　一、くだ、二、樂器の笙笛などをいふ。

くわん　官　名　一、政府、二、政府に仕へて事務を行ふそれぞれの分限。

くわん　貫　名　一、せにだかを示すに用ふる語、一千文を以て一貫とす、二、重量を示すに用ふる語、くわんめの略なり。

くわん　卷　名　書物の册數を示すに用ふる語、まき。

ぐわん　願　名　ねがひ、いのり。

くわん—いう　勸誘　名　すすめいざなふこと。

くわんえい　寛永　名　明正天皇の御代の年號、紀元二千二百八十四年より二千三百〇三年まで。

ぐわんえい　元永　名　鳥羽天皇の御代の年號、紀元一千七百七十八年より、一千七百七十九年まで。

くわんえい—じ　寛永寺　名　寺名　東叡山寛永寺といふ、東京市上野公園に在り、天臺宗なり、德川家光の寛永年中に建立せしもの、天海僧正開祖なり。

くわんえい—つうはう　寶永通寶　名　錢の一種、寛永十三年に始めて鑄造せり、圓形にして中央に方形の穴あり、青銅製にて、今日一厘に通用するものと、二厘に通用するものとあり、又、鐵製のものあり、俗に、なべせんといふ。

くわんぐわん　寛延　名　桃園天皇の御代の年號、紀元二千四百〇八年より、二千四百十年に至るまで。

くわんたう　觀應　名　崇光天皇の御代の年號、紀元二千〇十年より、二千〇十一年まで。

くわん—たん　觀音　名　佛名　くわんぜをん(觀世音)の略又、觀自在菩薩、慈悲深くして、能く人を救ふといふ、千手觀音、十一面觀音、如意輪觀音、馬頭觀音など種種あり

くわんたん—ざき　觀音崎　名　岬の名、相模國三浦郡の東方に突出せる岬なり、房州の富津の鼻と相對す、東京灣の咽喉たるを以て、砲臺と燈臺との設あり。

くわんたん—じ　觀音寺　名　寺名　筑前國筑紫郡水城村に在り、天智天皇の創建なり、太宰府の舊趾亦此處にあり。

くわんたん—びらき　觀音開　名　左右より閉ぢ、中の處にて合するやうにしたる月びら。

くわん—かい　官海　名　政府の事務のひろきを海にたとへていふ語。

くわんがい—あひのぐむ　冠蓋相望　文　前車は後車の冠蓋をのぞみ、後車は前車の冠蓋をのぞむことにて、車の後より後よりと、ひきつづきて斷間なくゆくをいふ。

くわんーかう 還幸 名 天皇が外より皇居へ還らるること

くわんかうーはん 慣行犯 名 法律 同一の所爲を慣行して始めて成立する罪、例へば窃かに醫を業とするが如し。

くわんーがく 勸學 名 學問をすすめ勵ますこと。

くわんがくーゐん 勸學院 名 天長三年藤原冬嗣の建設せし學校。

くわんーかつ 管轄 名 支配すること。

くわんーき 寛喜 名 後堀川天皇の御代の年號、紀元千八百八十九年より、千八百九十六年まで。

くわんーき 歡喜 名 よろこぶこと。

くわんーきふ 緩急 名 危急におなし、急の字に重きを置く一種の用法なり、教育勅語、「一旦緩急あらば義勇公に奉じ」。

くわんきふーれっしや 緩急列車 名 汽車の一種、緩急共に自在になし得る機關のつきたる列車。

ぐわんーきん 元金 名 もときん（利息に對して）。

くわんきんーせうひ 官金消費 名 政府の金錢をひそかに消費すること。

くわんーぎよ 還御 名 くわんかうにおなじ。

ぐわんーぐ 頑愚 名 物の道理をきわけぬこと。

くわんーぐん 官軍 名 天皇の命に從ふ軍（賊軍に對して）

くわんくわう 寛弘 名 一條天皇の御代の年號、紀元千六百六十四年より、千六百七十一年まで。

くわんーくわう 觀光 名 他國の風光を見ること。

くわんぐわくーでん 勸學田 名 學問振興の費用に充てん爲め下附されたる田地にて、聖武天皇の時大學寮に水田三十町を給はりたるが其始なり、桓武天皇の時越前の水田を加給して百三十二町となしたるも、延喜以後大學衰ふると共に名のみ存することとなりたり。

くわんーくわーこーどく 鰥寡孤獨 名 一、やもをと、やもめと、みなしごと、ひとりものと、二、依賴すべきところなき人。

くわんぐわん 宦官 名 支那歷代宮中にありて、天皇に咫尺する內官を云ふ、歷代宦官は專橫にして、廢立を企て帝室を衰亡せしめたり。

くわんーけ 菅家 名 野見宿禰の後裔にして、菅原道眞に至り字多帝に用ゐらる、世々明法紀傳を以て朝に仕へたり

くわんーけい 換刑 名 法律 罰金科料を納め得ざるものを、禁錮拘留に處すること、壹圓を一日となす。

くわんーげい 歡迎 名 喜び迎ふること。

くわんげつーきやう 觀月橋 名 橋の名 山城國伏見町の東南、奈良街道の淀川に架せる橋なり。

くわんーげふ 勸業 名 農工商業をすすめ勵ますこと。

くわんーけん 管見 名 管の穴より天を見るが如きせまき見識。

くわんげん 寛元 名 後嵯峨天皇の御代の年號、紀元千九百〇三年より、千九百〇六年まで。

くわんーげん 還元 名 化學 炭素は酸素又は或る金屬の酸化物と共に熱すれば、其中より酸素を取りて化合し、金屬より遊離せしむ、此の如き作用を還元と稱す。

くわんーげん 管絃 名 一、いとたけ、二、音樂のみを奏して舞樂を行はぬこと。

ぐわんーこ 頑固 名 かたくな、一方に偏したる性質。

くわんーこう 菅公 名 人名 菅原道眞をいふ。

くわんこう 桓公友 名 人名 春秋十二列國の一なる鄭伯の始祖にして、周の宣王の弟なり。

ぐわんこうーじ 元興寺 名 寺名 奈良にあり、新本の二寺ありて新元興寺を飛鳥寺と云ふ、蘇我馬子之を建てたり平城遷都の時、更に新寺を作り、本元興寺と云ふ、養老二年飛鳥寺を奈良に遷して新元興寺と云ひたり。

くわんこうーのーは 桓公の霸 名 齊の桓公、周室の衰微に及び、國政を修め、尊王攘夷を唱へ諸侯を鄂に會して、楚の北進を防ぎ、諸侯の盟主となりたるを云ふ。

くわんこうーば 勸工場 名 種種の商品を陳列販賣するところ、數多の商人が相組み合ふてなすものなり。

くわんーざ 冠者 名 一、わかうど、二、六位にして官のなき人、古語。

くわんーさい 關西 名 くわんせいを見よ。

くわんーさい 關塞 名 大化改革の時、關所を守り、通行人を檢査したる官なり。

くわんーざう 萱草 名 植物 草名、わやめに似たる葉を有し、秋、紅黃色にして黑き斑點ある花を開く、之を、わすれぐさ（忘れ草）といふ。

くわんさうーがく 觀相學 名 人相を見る學、卽、人の容貌、骨格をみて、其人の運命を判斷する學問あり。

くわんさつーし 觀察使 名 古 五畿七道に臨時に派遣して、各國の政治の善惡を觀察せしめし役人、平城天皇の大同元年に始めて分遣せられしなり。

くわんざん 完山 名 地名 今の韓國全羅道にあり、新羅の女主眞聖王の時、侯人甄萱の據りて反し、百濟王と稱せし所なり。

くわんざん 關山 名 人名 僧侶 信濃の國の人、法を大燈國師に受け、京都妙心寺に住して、後光嚴天皇の延文五年十二月寂す、年八十四、安政二年三月、放無量光國師の

蹤を賜はりぬ。

くわんざん—じやう 管山城 名 城の名 西紀五五四年、百濟の聖明王、新羅を擊ちて此城を拔きしが、王は此の役に殺されたり、今の朝鮮國慶尙道聞慶縣にあり。

くわん—し 官使 名 太政官より發遣する使を云ふ、賑給撿損山、池溝、疫死等の使なり。

くわんし 管子 名 書名 齊の管仲の作くる所、二十四卷八十六篇より成る。

くわん—じ 冠辭 名 文法 名辭に冠する語、まくらことばにたなし。

くわんじ—かう 冠辭考 名 書名 十卷あり、加茂眞淵の著にして、枕詞の解釋をなせるものなり。

ぐわん—じつ 元日 名 新年の第一日、正月元日。

ぐわんじつ—さう 元日草 名 植物 草名、ふくしゆさう（福壽草）にたなし。

くわんじ—と 莞爾 副 笑をふくむさま、につこり笑ふさま、莞爾而笑。

くわんしふ—ほふ 慣習法 名 法律 一に不文法、法律と同じ効力を與へられたる慣習。

くわん—しん 歡心 名 嬉しく思ふ心、ありがたく思ふ。

くわん—じん 寬仁 名 寬大にして仁慈なること。

くわん—じん 勸進 名 僧侶が信者にすすめて、佛事のために金品を寄付せしむるをいふ、くわんげ（勸化）ともいふ

くわんしん—じ 觀心寺 名 寺名 河內にあり、眞言宗にして、天長四年僧實慧の開きし所なり、楠家の菩提地なり後村上帝の御陵あり。

くわんじん—ちやう 勸進帳 名 勸進の主意をしるして、寄附をつのるに用ふる帳簿。

くわんじん—もと 勸進元 名 勸進相撲などの發起人。

くわん—じや 冠者 名 くわんざにたなし。

くわん—しやう 干涉 名 かかりあふこと。

くわんしやう 寬正 名 後花園天皇の御代の年號、紀元二千百二十年より、二千百二十五年まで。

ぐわん—じやう 願狀 名 一、ぐわんしよ、二、神佛に願をかくる時に、其わけをかきたるもの。

くわんじやう—し 管城子 名 筆の異名 秦の蒙恬といふ人、筆をつくりて管城公に封ぜられしよりいふとぞ。

くわんしやう—だい 觀象臺 名 氣象をみる所、きしやうだい（氣象臺）にたなし。

くわん—じやく 官爵 名 官と爵と。

くわん—しゆ 貫首 名 一、かしら、二、職人の頭の異名

ぐわん—しゆ 願主 名 ねがひぬし。

くわんしゆん 桓舜 名 人名 僧侶 法性寺の座主、天喜五年寂す、年八十。

ぐわん—しよ 願書 名 願の意をかきしるしたる書面。

くわん—じよう 還昇 名 殿上を許されたる人が、一旦地下となり、再び殿上を許さるること。

くわんじよう 關城 名 「せき」を見よ。

くわん—しよく 官職 名 つかさにたなし。

くわんす 鑵子 名 一、茶の湯にて湯をわかす器、二、茶釜をいふ、關西地方の方言。

くわんす 冠 圖 一、冠をつくること、二、元服すること

くわん—せい 官制 名 政府の事務を扱ふところを官衙とす、其の制古今異れりと雖も、要するに官衙の組織及び權限を規定したる條規なり。

くわん—せい 慣性 名 物理 惰性ともいふ、外部より力の加はるに非れば、靜止せる物體は、自ら運動を始め、又現に運動する物體が、自ら靜止し或は運動の有樣を變ずることなし、之を物體の慣性又は惰性といふ。

くわんせい 寬政 名 光格天皇の御代の年號、紀元二千四百四十九年より、二千四百六十年まで。

くわん—せい 關西 名 地名 近江國逢坂山の西の方の諸國を總稱していふ、（關東に對して）。

くわん—ぜい 關稅 名 稅關に於て貨物に對して取り立つる稅金。

くわんせい—しんわう 寬成親王 名 人名 ひろひとしんわうのことなり。

くわんぜい—どうめい 關稅同盟 名 Zollverein 西紀一八一八年、プロシヤ國の計畫せし獨乙の商業的同盟なり、墺太利を除き獨乙諸邦は漸次此同盟に加入したり。

くわんせい—の—さんすけ 寬政の三助 名 尾藤良佐（二州）柴野彥輔（栗山）、古賀彌助（精里）、の三人をいふ、何れも幕府の儒官にして朱子學派なり。

くわんせい—の—ち 寬政の治 名 德川家齊、松平定信を擧げて、節約以て弊風を去りたれば、年大に稔り、天下太平を謳歌したるを云ふ。

くわんせい—れき 寬政曆 名 寬政十年より用ひし曆、高橋至時等の考案に成りしものにて、淸曆を訂正したるもの。

くわんぜ—たん 觀世音 名 佛名 くわんおんを見よ。

くわん—せつ 官設 名 官にて設置すること、（民設に對す）

くわん—せつ 關節 名 生理 二個又は數個の骨の相接合する所をいふ、關節の表面は必ず軟骨を以て蔽はる。

くわん—ぜつ 冠絕 名 秀でたること。

ぐわんぜ—なし 頑是無 形 幼小にして是非善惡の辨別心

を有せざるにいふ。

くわん—ぜん 完全 名 充分なること、缺點なきこと。

くわんぜん—くわ 完全花 名 植物 雌雄両蕊を具ふる花

例へば、胡瓜、柿、などの類なり。

くわんぜん—ちようあく 勸善懲惡 名 善をすすめ、惡をこらすこと。

くわんぜ—もときよ 觀世元淸 名 人名 本姓は服部氏、有名なる能役者、觀世流の祖なり、康正元年七月卒す、年八十一。

くわんぜ—りう 觀世流 名 能の流派の一、應永の頃、觀世元淸の始めしものなり。

ぐわん—ろ 元祖 名 物事を始めてなしたる人。

くわん—たい 歡待 名 よくもてなすこと。

くわん—たい 環帶 名 植物 羊齒植物の子囊を圍繞するものにして、子囊が熟すれば環體の一部破裂して、子囊の膜壁を横裂せしめ、以て胞子を飛散せしむ。

くわん—たい 緩怠 名 怠ること。

くわん—たう 官當 名 勳位わるもの罪を犯したる時、其勳位を下すことによりて、罪を減ずるを云ふ。

くわん—だか 貫高 名 俸祿を數ふる法にして、田千坪を錢一貫文とし、其收納の錢高によりて所領を算定するなり

鎌倉幕府以來行はれ、豊臣氏の時に至る。

くわん—たく 官宅 名 政府より高等の官吏に無貸にて貸す家屋、官舍、官邸。

ぐわん—たん 元旦 名 ぐわんしつにちなし。

くわん—たり 冠 圖 第一等に位す、冠絶。

くわんぢ 寛治 名 堀川天皇の御代の年號、紀元千七百四十七年より、千七百五十三年まで。

ぐわんぢ 元治 名 孝明天皇の御代の年號、紀元二千五百二十四年の唯一年間行はれたり。

くわんちう—るゐ 環虫類 名 動物 體は數多の環節相連りて之を成す、血液は無色又は赤色なり、環節毎に一對の小孔ありて環節器と稱す、排外作用をなすのみならず、生殖物輸管の働きをなすことあり、口は前端に位し、神經球は食道の直前にあり、又環節毎に神經球あり、頭部に眼を有す、蛭類及び毛足類は此類に屬す。

くわん—ちやう 官廳 名 くわん(官)にちなし。

くわん—ちやう 灌頂 名 一、佛教の語、香水を頂に灌ぐ儀式にして、始めて受戒する時にも、亦、修道の上進する時にもすることなり、耶蘇教の洗禮にちなし、二、墳墓に水を灌ぎかけて淸むること。

くわんちやう—が—たき 灌頂瀑 名 瀑の名 阿波國勝浦郡高鉾村の藤川山にあり、高さ四十八丈、幅九尺、一にいふ御來迎の瀑ともいふ。

くわんちやう—き 灌腸器 名 大便の滯りを通ぜしむるために、肛門に入れて藥品を注入する器械。

くわん—ちやざん 菅茶山 名 人名 有名なる儒者、備後の國の人、那波魯堂の門に入りて程朱の學を修め、詩をよくす、文政十年八月卒す、年八十。

くわんちゆう 管仲 名 人名 支那の名臣、春秋の時に、齊の桓公をたすけて、國政を修め、桓公の霸業を成さしめたり、又、法學に精通し、李悝と共に支那の法家の祖なり、(西紀前七百年代の人)。

くわん—つう 貫通 名 貫きとほすこと、貫徹。

くわん—づめ 鑵詰 名 食用品を永く貯へ得るやうにブリキ製の鑵につめたるもの。

くわんてい 桓帝 名 人名 東漢十代の帝なり、帝梁冀の專橫を怒りて之を殺げ、宦官を擧ぐ、後宦官大に跋扈し、かの黨人の獄を起すに至れり。

ぐわん—てう 元朝 名 新年の第一日の朝。

くわん—てん 寛典 名 寛大なる規則。

くわん—と 官途 名 官に仕ふる道。

ぐわんど 丸部 名 朝鮮平安道慈山の地方なり、後漢の末高勾麗が公孫康に破れて遷都したる所なり。

くわん—とう 關東 名 地名 古は、近江國逢坂關以東の諸國をいひしが、後には箱根の關より東、卽、坂東の諸國を關東といふに至れり、關東八州とは、武藏、相摸、安房、上總、下總、上野、下野、常陸の八國なり、(關西に對して)。

くわんとう—かんりやう 關東管領 名 室町幕府の時、鎌倉に在りて關東の政務を統轄せし職なり、建武二年、足利尊氏自から之に補し、尋で、直義、義詮之に補し、貞和五年基氏之に補せらる、威權將軍に亞ぐ。

くわんとう—くぼう 關東公方 名 鎌倉公方とも云ふ、關東管領の條を見よ。

くわんとう—しう 關東衆 名 關東の人人。

くわんとう—はつしゆう 關東八州 名 地名 くわんとうを見よ。

くわんどく 寛德 名 後朱雀天皇の御代の年號、紀元一千七百〇四年より、一千七百〇〇年まで。

くわんど—ぶぎやう 官途奉行 名 武家の役名 御家人に賜はる官位などのことを司どりしもの。

くわん—ない 管內 名 管轄の內、管下。

くわん—にん 官人 名 一、官吏、二、古代の諸省の主典

以上の稱。

くわんにん 寛仁 名 後一條天皇の御代の年號、紀元一千六百七十七年より、一千六百八十年まで。

くわんにん 寛仁 名 くわんじんにんなり、「寛仁大度」。

ぐわんにん—ばうず 願人坊主 名 一、江戸時代の一種の乞食僧、二、貧乏らしき坊主頭の人を形容していふ語。

くわんにゆう 貫乳 名 陶器の名 ひびやきに似て、細かき模樣あるもの。

くわんによ 官女 名 內裏に奉仕せる女房。

くわんぬき 關貫 名 一、くわんのきにぬなし、二、物を平にかまへたるをいふ。

くわんねん 觀念 名 一、佛教の語、一心にて餘事を思はず、悟道を念ずるをいふ、卽、邪心煩惱を去りて佛を觀じ思ふこと、二、決心、三、心理學、五官の作用により、外界の物の支配をうけて起る心の狀態。

ぐわんねん 元年 名 年號を改めて初めての年。

くわんの—き 關木 名 門などを固むるためにさす橫木なり、門。

くわんばう 關防 名 一、關所にありて敵を防ぐこと、二、書又は證の右の上に押す印。

くわんぱう 官報 名 法律、命令、其他種種の報告をのせて、內閣より發行するもの。

くわんぱう 寛保 名 櫻町天皇の御代の年號、紀元二千四百〇一年より、二千四百〇三年まで。

くわんぱう—さやく 官報局 名 官報に關する諸種の事務をつかさどるところ、內閣に屬す。

くわんぱう—の—まじはり 管鮑の交 句 朋友の情誼の極めて厚きをいふ、昔、支那の管仲と鮑叔魚とは非常に親しき友なりしよりいふなり。

くわんばく 關白 名 關はあづかり、白はまうすの義、天子を輔佐し、百官を總べて、萬機の政を行ふ官にして、光孝天皇の仁和元年、太政太臣藤原基經が命せられしに始まる。

くわんはっしゆう 關八州 名 地名 關東八州、くわんとうを見よ。

くわんび 完備 名 完全に備はること。

くわんぴ 官費 名 官より出す費用。

くわんぴ—せい 官費生 名 官より給費せらる學生。

くわんびやう—あかい 寛平遺誡 名 宇多帝讓位の時、醍醐帝に授け玉ひし訓誡の書を云ふ。

くわん—ふ 官符 名 太政官より發するくだし文をいふ。

くわん—ふ 官府 名 くわん(官)にぬなし。

くわんぶつ—ゑ 灌佛會 名 陰曆四月八日、卽、釋迦誕生の日に、其像に香水を注ぐ佛會なり、佛生會ともいふ、こは、佛の生れたる時に、天龍下りて水を灌ぎたりといふに起る、我國にては、推古天皇の元年より始まるといふ、香水の代りに普通は甘茶の煎汁を用ふ。

くわんぶん 寛文 名 靈元天皇の御代の年號、紀元二千三百二十一年より、二千三百三十一年まで。

くわん—ぺい 官幣 名 官より全國の神社へ、格式に應じて捧ぐる幣帛をいふ、昔は神祇官に於て之をつかさどりしが、今は式部職にてつかさどるなり。

くわんぺい—しき 觀兵式 名 天長節 陸軍始め、又は、外國よりの貴賓のために、天皇親から兵を閱し給ふ儀式。

くわんぺい—しや 官幣社 名 神社の格式の名、官幣をさしげらるるもの、官幣大社、官幣中社、官幣小社、及び、別格官幣社の四種あり。

くわん—ぺき 〻璧 名 一、瑕なき玉、二、すべて完全したるものにいふ、例へば文章の疵なきを、完璧など、賞めていふなり。

くわん—ぺん 冠冕 名 一、冠と冕と、二、冠冕は人君の着くるものなるより、轉じて、首領の義に用ひらる。

くわん—ぺん 官迎 名 かみむかへ。

くわん—ぼく 灌木 名 植物 一丈以上の高さに生成せざる樹木を總稱していふ、例へば、薔薇、山吹の類なり、又灌木に似て、一層草に近きものを亞灌木といふ、例へば、芙蓉の類なり、灌木にあらざる樹木を喬木といふ、例へば松、杉の如し。

くわん—ぼつ 官沒 名 官に沒收すること。

ぐわん—まう 願望 名 ねがひ、のぞみ、志望、希望。

くわん—まん 緩慢 名 ゆるやかなること、ゆつくりしたること、ぢぬるきこと。

ぐわん—み 翫味 名 心によく味ふこと、(文章の妙所など)。

くわんみん 官民 名 官吏と民衆と。

くわんむ—てんわう 桓武天皇 名 人皇第五十代の天皇、光仁天皇の皇子なり、延曆十三年、皇都を山城國葛野郡に奠めらる、所謂、平安京なり、在位二十四年、延曆二十五年三月崩ず、御年七十。

くわんむ—へいし 桓武平氏 名 桓武帝の子葛原親王の子なる高望王始めて平氏の姓を賜はる、平清盛、北條氏、織田氏は皆此裔なり。

くわんむりやうじゆ—きやう 觀無量壽經 名 書名 三部經の一。

くわん—ぬ 貫目 名 めかたにおなし、又、轉して威厭のなきにいふ、俗語。

くわん—ぬ 貫目 名 重量を示すに用ふる語、千匁を一貫目とす。

くわん—もん 關門 名 せきしよにたなし。

くわんもん—につき 看聞日記 名 御花園天皇の御父、貞成親王の著はされたる日記なり。

ぐわん—やく 丸藥 名 藥品を小さく丸めて粒となせるもの、丸藥なり。

ぐわん—らい 元來 副 元より、もともと、始めから。

くわん—らく 歡樂 名 喜び樂むこと。

くわん—り 官吏 名 政府の任命によりて、公務に從事する吏員をいふ、人民より撰擧するものは、之を公吏と稱し官吏と區別す、官員、役人。

くわん—り 管理 名 取りしまること。

ぐわん—り 元利 名 元金と利息と。

ぐわん—りき 願力 名 願を立てて、其目的を貫かむとする心、念力ともいふ。

くわんり—ふくむきりつ 官吏服務規律 名 官吏たるものの守るべきことがらを規定したる法令。

くわん—りやう 管領 名 將軍を輔佐し、諸職員を率ゐ、政務を統轄する職にして、室町幕府の設くる所なり、斯波細川、畠山の三氏、かはるがはる之に任せらる、世之を二管領と稱せり、別に關東管領あり、關東の諸將を統率す、後、勢力を得て、關東公方と稱し、從つて管領の名は其の執事に移りぬ。

ぐわんりやく 元曆 名 安德天皇の御代の年號、紀元千八百四十四年にあたる。

くわん—れい 管領 名 くわんりやうにたなし。

くわん—れい 慣例 名 ふるきならはし、舊例。

くわんれい—だい 管領代 名 室町幕府の時、管領事故により、禮式儀式等に列する能はざる時、臨時之に代る職なり。

くわん—れき 還曆 名 一、六十一歳の稱、陰曆にては、十二支十干の最小公倍數、即、六十年目に、再び、生れたる年の干支にめぐり來るによりいふ、又、はんけがへりともいふ、二、年の改まること。

ぐわん—ろう 玩弄 名 一、もてあそぶこと、二、愚弄。

くわんわ 寛和 名 花山天皇の御代の年號、紀元千六百四十五年より、千六百四十六年まで。

くわん—わき 灌域 名 地文 河川が水を供給する土地。

くわんゐ—じふにかい 冠位十二階 名 大小の德、仁、禮、信、義、智、十二に分れ推古帝十一年に定めらる、本邦冠位の始なり。

くわんゐ—さうたう 官位相當 名 守行の條を見よ。

くわん—なけ 棺桶 名 柩に用ふる桶。

くわ—もく 科目 名 學問のしなわけ、例へば、法科、文科、理工科、醫科、などの如し。

くわ—やく 火藥 名 硝石、木炭、及び硫黄の三物を各微細の粉末となし、よく混和したるものなり、之に火を點ずれば、烈しき音を以て爆發す、ゐんせう。

くわ—やく 課役 名 人夫 に出づる役目をいふ。

くわやく—いんぼう 火藥陰謀 名 英國の舊教徒、國會議員を殺さん爲め、企てたる陰謀にして、一六〇五年英王ジエームス一世臨御して國會開會式を擧行する日、火藥にて議事堂を破壞せんとせしを云ふ。

クワラ Kwalah (Kalah) 名 地名 西部亞細亞の村落なるに冠する字なり。

くわ—らく 花落 名 花の都、みやこ。

くわ—らん 禍亂 名 世のみだるること。

グワリオル Gwalior 名 地名 中央インドの一州、西紀一八〇三年後ドイツ保護の下に在り、阿片の產出多し、人口約三百萬、首府も亦同名にてアグラの北六十五哩に在り人口十萬餘。

くわりん 眞檀 名 植物 喬木の名、高さ一二丈、樹皮は一二寸毎に鱗片をなして剝落す、葉は細長くして鋸齒を有し互生す、淡紅色の花を開き、果實はまくはうりに似て香氣あり。

くわりん 華櫚 名 植物 木の名、熱帶地方に生ずる木にして、木理細かに質固く、稽紫檀に似たり、床柱などに用ひらる。

くわ—りよ 過慮 名 思ひすごすこと。

くわ—りよう 科料 名 鎌倉幕府が庶人に課したる刑にして現行法のものと同じ。

ぐわりよう—ばい 臥龍梅 名 植物 木の名、野梅の一種樹幹地に蟠まり、枝を垂れて地につき、其れより又根を生ずるもの、花は淡紅色なり。

くわ—りよく 火力 名 火のいきほひ。

くわれずみ 貨勒自彌朝 名 トルコ人、ヌシュテギンがセルヂュク朝より貨勒自彌の地に封ぜられて建たる朝なり、セルヂュク朝はゴール朝の地を併せ、ムハメッドに至り、勢甚盛なりしが元太祖の西征に遇ひ、破れて裏海の一島に竄れ死す、國遂に亡ぶ、時に西紀一二二〇年。

くわゐ 慈姑 名 植物 澤瀉科 水田沼池に生ずる草本、

葉は戟狀或は箭形にして、地下莖は球狀の塊をなす、花は單性にして果實は瓣果なり、地下莖の塊部を食用に供す。

くーわき 區域 名 かぎり、くぎり、さかひ。

くゑーにち 凶會日 名 陰曆にて萬事に凶なりとする日なり。

け

け 毛 名 生理 動物の皮膚の變化より生ずる針形狀のものなり。

け 毛 名 植物 稻の實のこと。

け 氣 名 一、元氣 二、酒又は醴の味を云ふ。

け 笥 名 神なものたたり、昔 これをもののけと云ふ。

け 來經 名 古語、年月日の立つこと。

け 清 醫 きゐの約音。

げ 偈 名 佛語 讃美に類する詩の一種にして四句づつつらねたり、正信偈等の偈なり。

げ 夏 名 古語 結夏のことにて、四月十五日なり。

げ 下 名 他に劣れること、賤しきことなどを云ふ。

けーあがる 氣上 醫四 體熱上りて のぼすること、逆上すること。

げーあさ 夏解 名 古語 夏結の終ること。

げあさーなさめ 夏解納 名 古語、夏解の後 結夏中に寫したる經、名號等を社寺に納むること。

けーあげ 蹴上 名 舟の ふみてわがるところ。

けーあわ 毛粟 名 植物 禾本科草本、ねばわはに同じ。

けい 磬 名 樂器 堅石を以て さしがねの如く作り、たゝく時は、清き音をなす。

けい 刑 名 法律語 犯罪人を罰する制裁のこと。

けい 景 名 景色のこと。

けい 卿 名 くぎやうに同じ、位三以上の人。

けい 兄 代 一、兄弟のあに、二、同輩の代名。

けい 繼 助 まゝしきあいだから、繼母等の如し。

けい 怪異 名 不可思議なること。

けい 契 名 人名 舜の時司徒となりて教育を敷き、舜の業を助けたる人。

ケイ Kei. 名 地名 マライ群島中の一群島及其北方の港

ケイ Kei. 名 人名 合衆國の法律家にして詩人（西紀一七九九—一八七五）

けいーあん 慶安 名 年號、後光明天皇の御代。

けいーあん 慶菴 名 奉公屋人口入所の名稱。

けいーい 敬意 名 神或は人を敬まふ心あるを云ふ。

けいーいーぎ 經緯儀 名 天文 天體の高度及方位角を計る器械にして、水平輪と直垂輪とを備ふ。

けいーいーど 經緯度 名 天文 經度と緯度との總稱。

けいーいん 契印 名 公文書類に割印するもの。

けいーえい 經營 名 後の爲めに、汲々といとなみつくること、行ふこと、戰後の經營と云ふ加し。

けいーえん 隣 名 隔離すること。

けいーたう 慶應 名 年號 今上陛下の御父君孝明天皇の御代。

けいーが 迎迓 名 歡迎すること、出で迎ふこと。

けいーかい 警戒 名 豫め注意していましめくること。

けいーがい 形骸 名 身體のこと。

けいかいーしよく 警戒色 名 動物 他の鳥獸に誤り食はるるを豫防する爲めの色にして、特に目立ちて鮮明なる色を云ふ、かかる色を有する動物は、毒を有するか、刺を有するか、又は惡味又は臭氣を有するを常とす、蜂の黃班の如し。

けいがいーにーせつず 接警咳 同 面眉すること、まみゆること。

けいーかう 啓行 名 旅行すること、今は 陛下の御出發を御幸と云ひ、皇后の御出門を御啓と云ふ。

けいかうーてんわう 景行天皇 名 人名 人皇第十二代の天子、垂仁帝第三皇子大足彦と申し 母を日葉酸媛命とす 紀元七三一年より在位六十年間 七九〇年十一月七月薨一〇六（一四一の説もあり）を以て崩御、在位中四に熊襲、東に蝦夷の謀反するありければ親征し給ひ 後皇子日本武尊（當時小碓尊と申す）をして全く平定せしめ給へり。

けい－かく　圭角　名　尖りたるところ、前を爭ふを　圭角を爭ふと云ふ。

けい－かく　瓊閣　名　結搆壯麗の家　玉のうてなのこと。

けい－かく　傾角　Inclination　名　物理　伏角とも云ふ、即ち　圖に於て水平線と指力線との間の角ABC即45°を傾角と云ふ、此角度は東京に於けるものにして其場所によりて多少の差異あり、即根室は五七度五　京都は　四八度八　鹿兒島は　四五度四なり。

(地球磁氣)

けいがく　桂萼　名　人名　明の世宗の寵を受けたる侫臣、世宗萼の建議を納れ既決したる大禮の議を變じたる爲廷臣の哭爭を起し、廷臣二百餘人獄に投せらる。

けい－がく　驚愕　名　おどろきおそるること。

けい－がく　螢學　名　苦學に同じ、昔支那に、車胤と云ふ人ありき　家貧にして石油を購求するを得ず、乃ち螢の光を藉りて學問せしより起れる字なり。

けい－がく　谿壑　名　山と山との間の深き谷を云ふ。

けい－がう　迎合　名　あらかじめ、相手の心を諂ひ迎へてれき之に從ふこと。

けい－かん　莖幹　名　植物　植物の上行部にして　必ず扁平なる側生部　即ち葉を着くるところあり　即ち莖幹Stemなり。又其種類も尠からず　1．草莖或は草本莖(Caulis)二、木幹(Trunk)、木質莖にして多年生なり、三、稈、(Culm)結節ある莖、禾本科の如きものこれなり。

けい－がん　啓龕　名　寺院神社などの開帳を云ふ。

けい－がん　硅岩　Quartzite　名　鑛物　多く石英粒より成り　砂岩の如くにて　眼を以て見分け難き程なり、其質甚だ硬し、庭園に布く黑色の砂も即ち此一種にて　試金石と云ふ。

けい－がん　慧眼　名　眼力のつよくてするどきこと、先見の智ありとの意。

げい－かん　迎寒　名　曆語　陰曆八月、冬季に向ひ始めなれば、かく云ひたり。

けいかん－せき　雞冠石　名　化學　赤き脆き固體にして、容易に熔融す、酸素又は空中にて熱せば焰を擧げ燃ゆ、煙火の用なり、成分はS_2As_2なり。

けい－がみ　罫紙　名　界紙におなじく、罫を引きたる紙。

けい－き　刑期　名　法律　犯罪人の刑罰を受くる期限のこと。

けい－き　京畿　名　畿內におなじく　みやこ邊の土地、今

の京都邊のことなり。

けい－きいつ　慶紀逸　名　人名　俳諧師　江戸の人、江戸俳諧の祖、寶暦十一年五月　年六十八　歿す。

けいき－きう　輕氣球　Balloon　名　物理　瓦斯體の乳力に基きて造れるものにして、其氣孔を塞ぎたる薄き絹布にて大なる嚢を作り、水素、或は石炭瓦斯を充し、其下に人の乘るべき籃を下げ、一切の附屬物と、其全量の重を、之と同容積の空氣の重力より輕くして空氣中に飛行するもの現今は之を戰爭に應用して甚だ功あるを認めらる。

けい－きんこ　輕禁錮　名　法律　犯罪人に服役せしめずして禁錮場に置くこと。

けい－きんぞく　輕金屬　Light metal　名　化學　金屬中比重五以下のもの、カルシウム、カリウム、ナトリウム、アルミニウム皆これなり。

けい－きよ　輕擧　名　かろがるしきふるまひ、そこつなるふるまひ。

けいきよう　景教　名　西紀四三〇年頃、東羅馬法王ネストリウスが唱道したる基督教の一派なり、始めペルシアに行はれ、次で印度、中央亞細亞に播り、唐の太宗の時支那に傳はりたり、其後大に信ぜられしも、武宗の時、一時廢せられ、元に至りて再び中國に傳はり、東洋宗教界に大要地を占めたり。

けい－きよく　荊棘　名　植物　いばらの群生する地。

けい－くわ　硅華　名　鑛物　有孔質細微粒狀のもの、有機體の遺跡の被掩物となりて現出す。

けいくわう－てんわう　慶光天皇　名　人名　典仁親王の諡號、親王は閑院宮直仁親王の子にて、光格天皇の父なり、寛政六年七月薨ず、明治十七年三月太上天皇の尊號を追贈せられ、慶光天皇と諡す。(きやうこう、てんわうに同じ)

けいくわうゐん－に　慶光院尼　名　人名　僧侶、伊勢國慶光院住職守悦のこと、足利時代に出で　伊勢神宮の修膳のため　諸國に勸化して　その費用を募集し、大に功勞ありし人なり。

けい－くわく　計畫　名　物事の前後を考へ謀くこと。

けい－くわん　京官　名　役名　孝德天皇の大化改新によりて　制定せられたる中央政府の官吏なり。

けいくわん－せき　鷄冠石　Realger　名　化學　鑛床鑛脈にありて他の岩石と混ず、又溫泉よりも出づ、性質は比重三、四三六　硬度一－五、橙色の柱狀透明體、熱すれば森葱の臭氣を放つ、煙火、繪具に供用す。

けい－けいし　掲傒斯　名　人名　文章家、元の人、宋、金、遼の三史を撰す。

けい—げつ 禊月 名 厚語 陰曆三月のこと。

けい—げつ 桂月 名 厚語、陰曆八月のこと。

けい—けん 經驗 名 こころみたること。

けい—こ 稽古 名 一、學問すること、二、事物を考ふること。

けい—ご 警固 名 堅く心に銘して 守ること。

けい—ご 敬語 名 文典 敬ひて云ふ語、助動詞セラル、サセラル、シメラルの變格を云ふ。例へば 彼をして之をなさしめらるの如し。

けい—こう 螢光 名 物理 或る物體にH光を受けしむる時、其反對の側に於て、發する紫青色の色を云ふ、石油、螢石、ウラニウム礦子、クロロフヰル のアルコール溶液等の如し。

けい—こう 景公據 名 人名 支那春秋の晉公、鄭、赤狄齊、等を打ち攻め 十九年卒す。

けい—こう 景公杵臼 名 人名 支那春秋戰國齊侯、莊公死するに及び立ち、奢侈を極め、民を苦む。

けい—こう 景公虔 名 人名 周の武王の子、成王の六年 春秋戰國齊侯に列す。

けい—こ—ゐうりやく 稽古要略 名 書名 神代の概要、神代外國交通の有樣を藤原好尙の撰せしもの。

けい—こ—ぎ 稽古着 名 撃劍 柔術をなすとき着する衣、白布を重ね 太き糸にて綴りたるもの。

けい—こく 谿谷 名 地文 河流の侵蝕したる低地を云ふ

けい—こつ 脛骨 名 生理 下肢骨の下腿骨に在り。

けい—さい 掲載 名 掲示にれなしく 書き上ぐること、多く 公文書を掲ぐる言葉。

けい—さい 荊妻 代 自分の妻を賤みて云ふ。(他人に對して)

けい—さい 經濟 名 生活せむ爲めに、節儉して、富となるの法。

けい—さい 輕罪 名 法律、刑名、禁錮、罰金の如くかるき罪。

けいざい—がく 經濟學 名 理財にれなしく、凡そ經濟に關しての學問なり。

けいざい—けん 刑罪權 名 法律、裁判所の有する 國家の犯罪人を刑罰するの權利なり。

けいさう—ぶつ 係爭物 名 法律、當時者の間に 爭を起したる訴訟の目的物をさして云ふ。

けい—さつ 警察 名 法律、法律に反するものをいましめ、社會國家の安寧秩序を保つ職務を有し、行政部に屬す。

けい—さん 硅酸 名 化學 硅素の水酸物、砂石、玻璃の主成分をなす。

けい—さん 景山 名 人名、德川齊熙のこと。

けいさん—あるみにうむ 硅酸アルミニウム $Al_2Si_2O_7.2H_2O$, 名 化學 角閃石及石綿の主成分をなす雲母及生長石中に存在す、雨或は無水炭酸に作用せられ一部分解して硅酸アルミニウムをのこす、これ卽ち粘土にして 磁器の原料なり。

けいさん—じけん 計算事件 名 法律、計算上の正誤を爭ひて起す訴訟法なり。

けい—し 桂枝 名 肉桂におなじ。

けい—し 屐子 名 あしだのこと。

けい—し 家司 名 古語 一、家を治むるに 雜務をとる人を云ふ。

けい—し 擊子 名 鑛物 しすゐのこと、やきものの下にねくもの。

けい—しう 閨秀 名 人なみに卓越したる賢婦人のこと。

けい—しう 桂秋 名 暦語 陰暦八月、桂月を八月と云ふを以てなり。

げい—しう 藝州 名 地名 山陽道に屬する安藝國。廣島縣島等有名なる地あり。

けい—しう 荊州 名 地名 今の湖北省荊州府なり。

けいしき—しゆぎ 形式主義 名 注入的教授法、無理に理解せしめて 教育の目的を達せむとするもの。

けいしう—の—たま 荊州玉 名 名玉 支那唐代に荊州より出しを以て云ふ。

けいじ—さいばんしよ 刑事裁判所 名 官所、刑事の罪惡を訊問するところ。

けいじ—じやう 形而上 名 心理 無形物に就きて云ふこと、卽ち五官の範圍を脫し、思想上の認識に屬す。

けいじ—ろしようはふ 刑事訴訟法 名 法律、刑事裁判所に 上訴するの手續。

けいしんさう—の—らん 敬神黨の亂 名 歷史 明治九年熊本の士族大野鐵平、上野謙治等神道を守り、改新を嫌ひ其黨二百餘人と共に亂を爲し、熊本鎭臺司令長官種田政明を殺す、翌日熊本兵の爲め平ぐ。

けい—じん 鷄人 名 役名、宮中にて時刻を奏上する人。

けい—しや 傾斜 名 地文 地層の水平面となす角度なり

けい—しやう 卿相 名 官位 卿は公卿にて三位以上の人相はナ臣、故に貴顯重職の人を云ふ。

けい—じやう 形狀 名 鑛物 金石の形狀は結晶形と無結晶形と二とす、甲は平面互に相集合して周圍をなし會合の所は一定の角をなす、乙は一定したる形狀なし、例へば、

食鹽、硫鐵鑛、金剛石は甲、石灰、天然玻璃は乙なり。

けい—じょう 啓上 名 手紙の文にて冒頭とする語、うやまうて申すなり。

けいじゃう—げん 形狀言 名 文典 物の性質形態を形容する詞、助詞の「く」「し」「き」「けれ」と働き 此の花こそ美しけれの如し。

けいじゃう—さいごふ 經常費入 名 規則正しく、毎年、金庫に納なる高額なり。

けい—しゅ 稽首 名 わいさつの丁寧なること、頭を殆んど地上につく、所謂今の最敬禮なり。

けい—しゅ 警手 名 官名 皇居の守衛人。

けい—しゅう 薊州 名 地名 清國直隸省順天府大興縣の南、幾の後 周の武王の封せし、春秋の時北燕の國都とせり。

けい—しゅう 瓊州港 名 地名 廣東省海口港のこと、一八七六年 北京條約を以て開港す、潮水の干滿不順、北面するを以て風を受くる大なれば、貿易盛ならず。

けいじゅ—あん 慶壽院 名 人名 烈女 足利義晴の夫人 永祿八年 三好松永の徒 反するに及び 義輝と共に火中に入りて死す。

けい—しょ 經書 名 書名 四書 五經等 支那聖賢の人道を教ふるの書。

けい—じょう 京城 名 地名 朝鮮國都 京畿道漢江河口城壁を圍らす、西紀一三九一年 季子の景福宮に都遷せしより歴代の國都となりぬ。

けい—しょう 敬承 名 人の手紙等を見て 返事するにつつしみてうけたまはるの意味に用ふ。

けいじょう 景淨 名 人名 アダムを見よ。

けいす 啓 動 三宮及東宮に言するときの言葉、きこえまうすの意義なり。

けい—せい 警醒 名 衰微せしものをよびたこし はげましいましむること。

けい—せい 經世 名 世間に出でて泰平に治むること。

けい—せい—そう 形成層 名 植物、圖中1. 靱皮部、2. 形成層、3. 木質部と云ふ、形成層は薄くして認め易からざるも悉く生活細胞より成り、細胞は分裂盛にして 毎年、新木質部及新靱皮部を形成す。

けい—せき 形迹 名 あとにのこりたるしるし。

けい—せき 硅石 名 礦物 結晶せるものを水晶、瑪瑙、と云ひ 結晶せざるは、燧石、硅板石、と云ふ。

けい—せき 螢石 名 鑛物、はたる石のことにて 酸化アルミニユムの電氣分解の時 溶劑として用ふる $FeCa_2O_4$ なり。

けい—せつ 磬折 名 禮法 立ちたるまま 腰げて禮すること 今の西洋風敬禮に同じ。

けい—せつ 勁節 名 人の氣質の強きこと、勇敢なること。

けい—せつ 螢雪 名 苦學すること、支那にて車胤、孫康のヨ 螢や雪やの光を以て學びたればなり。

げい—せつ 迎接 名 來賓を迎ふること。

けい—せん 經線 名 地文 地球上の位置を知る爲め南極より北極に縱線を引き、三百八十度に分ち、一度を六十分、一分を六十秒として 東西に量るを云ふ。此に交る横線にて赤道に平行なるものを緯線と云ふ。

けい—そ 硅素 名 化學 Si. 原子量二八 所在一種々の硅酸塩となりて地殼の主成分をなす、性狀、無定形褐色の粉末、鐵灰色光澤を有する結晶體 酸素と化合するときは無水硅酸となる。

けい—そ 螺鼠 名 動物 喫齒類 はつかねづみにたなし

けい—そう 惠宗 名 人名 元の最末の帝、前代よりの疲弊の爲め、權臣、跋扈、四方に叛賊起り、西紀一三七〇年 應昌に於て死す。

けい—そう 敬宗湛 名 人名 支那唐代十三の帝、穆宗の長子、荒淫、驕奢を用ふ、年十八、宦官劉克明に殺さる。

けい—そう 景宗賢 名 人名 遼主 耶律明璽と云ふ、應曆十九年正月 場の弑せらるるや、柩前に於て即位す、北漢を援て宋を伐つこと屢なりき。

けいそう 硅藻 名 植物 形種々にして、淡水海水に多く分布する顯微鏡的のものにして、外部に硅酸質の殼を被りて、蓋をなせる魂和に似たり、表面に點紋あり、又微孔ありて、之より原形質を脱出して移動す、分殖法によりて蕃殖す、

けい—そうど 硅藻土 名 地質 石英石の一種、通常土狀を呈し 微細なる石英粒より成るを以て、甚だ、輕き岩石なり。

けいぞく—さ 繼續器 名 物理「リレー」を見よ。

けいぞく—はふ 繼續法 名 心理、事物の回想 溯ぐとして 絶ゆることなく想起すること、連想に同じ。

けいそ—さいじ 荊楚歲事記 名 書名 支那の荊楚年中の行事の本、梁の宗懍之を著す。

けいがくーひ 繼續費 名 年度を限らず、繼續して出すべき國庫の費。

けいーたい 景泰 名 年號 支那明代景宗の時代の年號、時恰も瓦剌の入寇ありき。

けいーたい 形體 名 もののすがた。

けいたいーがく 形態學 名 動、植、動物形態學は 動物體の內部の形體を詳にし、發生及發生後の萬般を講究するものにて、解剖、發生の二科とす、植物形態學は又たなしく其の形態を論ずるものにて 更に解剖學と科を別にす。

けいたいーてんわう 繼體天皇 名 人名 人皇第二十六代の帝、彥主人王の御子 越前より迎へ奉る、此代に天皇謚位の法定れり。

けいーたん 雞旦 名 曆語 正月元日のこと。

けいーちつ 啓蟄 名 曆語、二十四季の一、春のこと。

けいちやうーさん 鷄頂山 名 地名 高天山のこと、下野國鹽谷郡にありて 五四一丈あり。

けいちやうーつうはう 慶長通寶 名 古錢、後陽成慶長十一年の鑄錢、銅にて製す。

けいちやうーの一つゆーとーなる 爲刑場之露 句 死刑にせられたること。

けいーちゆう 契冲 名 人名 僧侶 下河空心のこと、國學に通じ、水戸義公に知遇を得て、萬葉代匠記を撰す、後難波に退き、圓珠庵と號し、元祿十四年、年六十二死す。

けいちやうーし 計帳使 名 役名、延喜天曆以前國司の、中央政府へ出す四度の使の一、豫算帳を持ちて行く。

けいーづ 系圖 名 祖先より代々の血統を順序能く書きつらねたるもの。

けいーつい 頸椎 名 生理 頸部にある椎骨を云ふ、七個ありて、各縱孔を存し、脊髓之を貫通す。

けいーてい 逕庭 名 似よらざること、かけちがひのこと。

けいーてい 惠帝盈 名 人名、支那西漢第二の帝、卽ち高帝の子、呂太后の子なり、呂太后、暴婦にして如意を鴆殺し、戚夫人の耳目手足を切去り 之を厠中に置き 帝に見せしむ 乃ち驚哭、病んで立たず、二十四歲す。

けいーてい 景帝啓 名 人名 支那西漢第四の帝、文帝の子、鼂錯の策を用ゐ 諸王の封土を削る、乃ち吳王反す、周亞夫之を平ぐ、後錯及其の一族を斬る。

けいーてい 惠帝衷 名 人名 西晉二代の帝にして、性愚鈍なり、賈后氏、陰險、政を聽き、相將の任免を擅にす、太子も亦賈后氏の生む所ならざるを以て殺さる、征西大將軍趙王倫兵を勒して宮に入り、賈后氏を殺し、帝に禪位を迫る、齊王之を誅し、政を輔く、帝飄涙、東海王越に賴り

て洛に安せしも、後毒に中りて崩ず。

けいーてい 惠帝朱允炆 名 人名、支那明代第二の帝、太祖の孫なり、孝子にて禮經を遍考し、歷朝の刑法に參し、洪武律崎重七十三條を改定す、後一意治をはかり、賢能を擧げしも、燕王兵を起すに至り、帝の行くところを知らず或は僧となりぬ、と云ふ。

けいーてい 景帝祁鈺 名 人名、支那明代第六の帝、時に外寇止まず、從つて征討軍止むときなし、帝每に人民を賑恤し、四年農桑を課す、是年 琉球、安南、爪哇、日本、占城、哈密、瓦剌入貢す、父英宗復位するに及び廢せらる。

けいーてう 京兆 名 官名 支那唐制の左右京職。

けうーてん 經典 名 書名、經書にたなしく四書 五經のことなり。

けいでんーき 繼電器 名 物理「リレー」を見よ。

けいーいと 毛糸 名 毛を糸の如くよりたるもの、洋服、毛布、皆これなり。

けいーと 計部 名 天文 星の名、けいとせいのこと。

けいーど 經度 名 地文 同じ緯圖上の一地點の他地點よりの距離を云ふ、換言すれば、經線によりて數ふる度數、此の經度を測定するには基點を英國グリニッチとし、クロメートルと稱する極めて精密の時長を用ゐ、兩地間の時間の差異によりて其經度を知る。

けいーとう 鷄頭 名 植物 莧科草本 夏下種 二三尺に至る、莖は赤色、頂に鷄冠狀の花梗、紅色(稀に白色)の小花を密生し 葉は互生し末長くして尖り、紅色紫色或黃色を帶びて美麗なり、觀賞用とす。

けいーとう 惠棟 名 人名 支那明代の人、貧賤洗ふが如き逆境に陷りしも坦如して、學を積む、易に尤も深く、古書の眞僞を校勘精審して、黑白を辨じ、周易述を著す、千五百年の漢學不振、乃ち起る。

けいと一せい 計部星 名 天文 星名 九曜の一。

けいーなん 荊南 名 地名、支那五代の旁國、後梁太祖、高季興を荊南節度使とし、後唐太祖、之を南平王に封す、後會孫繼仲に至りて宋に合されぬ 時に西紀九六二年。

けいにくーけれい 鷄肉傑列 名 動物 料理 鷄の骨肉中の營養分を煎じ取れるもの。

けいーの一かちゆう 刑加重 名 法律 刑科の重きを主にして罪を處罰すること。

けいーの一げんけい 刑減輕 名 法律 刑加重の反對にて刑科の輕き方に從ひて處罰すること。

けいーば 競馬 名 馬のきはふこと。

げいーは 鯨波 名 激浪のことを云ふ。

けい—はう 慶寶 名 人名 烈女 十七歳の時寡婦、亡夫の主瀧川雄利 天正十二年四月 松島城に據る、秀吉之を攻むるに兵糧盡きて城中餓死せむとす、乃ち烈女慶寶は出で秀吉の軍に入り、この由を述べて許されむことを乞ふ。秀吉其の志を嘉みし圍を解きたり。

けい—はく 輕薄 名 一、そこつのふるまい、二、交際して不信義をなすこと、三、人にあゆすること、卽へつらうことなり。

けい—はつ 啓發 名 智識才能を開進すること。

けい—ばつ 警拔 名 文章中に、警策奇拔のあるを云ふ。

けい—はふ 刑法 名 社會國家の安寧秩序を亂して人民に害を加ふるものは之に罰するの掟なり。又此の原理及適用を政究する學問を刑法學と云ふ。

けいばん 荊蠻 名 今の湖北湖南の邊にありし蠻族にして周室の衰ふるに乘じ、其南部に侵入したり、春秋戰國に至り、支那南部に勢を振ひたる楚國は此部族より出づ。

けい—ひつ 警蹕 名 役名 天皇、又は貴國の御出御に際しさきばらひすること。

けい—びやく 啓白 名 言上すること、及經文の小口ばかりを讀むこと。

げい—ふ 系譜 名 歴史 一族の關係を祖先より圖にしたるもの、卽、系圖に同じ。

げい—ふ 黥布 名 人名 秦の時出で、陳勝番君の女と婚し、項梁の軍を以て景駒秦嘉を伐つ、梁敗れ、懷王彭城に都す、布も亦留り、後秦の二十萬の兵に抗し、項羽咸陽に入るを得たり。項王、齊を伐ち、布に兵徵するも應ぜず又漢、楚を破るも佐けず、漢に往いて淮南王となる、後漢の高帝の爲め攻められ、布番陽にて殺さる。

けい—ふう 惠風 名 暦語 陰暦三月のこと。

けい—ふく 慶福 名 大なる幸、非常に幸ひなること。

けい—ぶつ 景物 名 一、萬事四季の風情とそふるもの、二、商家の開店祝に、講買者に添へて與へる品物を云ふ。

けいふん 輕粉 名 化學 鹽化第一水銀に同じ。

けいぶんわう 惠文王 名 人名 春秋戰國秦第一代の王にして、孝公の子なり、在位二十七年にして卒す。

けい—へい 勁兵 名 强兵のこと。勁はたけ〳〵しきこと

けいべん—こう〈**けい** 輕便硬度計 名 鑛物 硬度計の條を見よ。

けい—ほう 警報 名 地文 天候不穩の虞わる地方を警戒する報知を云ふ。

けい—ぼう 京房 名 人名 儒者、後漢光武の五經博世十四家の一人、易を以て顯る。

けいぼう—もんゐん 教法門院 名 人名 藤原むね子のことなり。

げ—いん 外印 名 古の官位、六位以下の位記、又太政官の諸國諸司に文案に捺したる印。

けい—ぬい 鷄鳴 名 一、曉鷄の鳴くこと、二、五更のことにて丑の刻なり。

けい—ぬい 刑名 名 法律 重罪、輕罪、死刑、流刑、徒刑等なり、古答は、杖、默、流、死の五刑名ありき。

けい—ぬい 啓明 名 天文 金星のこと。

けい—ぬい 經營 名 けいこいの轉音、利益をいとなむこと。

けいぬい—たき 鷄鳴瀑 名 地理 瀑名、羽後國秋田郡山谷村、十五丈六尺の高さ、二間四尺の幅あり。

けい—ぬう 輕妙 名 文章の運筆の輕くして美妙なること美妙等に同じ。

けい—もう 啓蒙 名 教育すること、兒童に智を開發せしむること。

けい—よう 形容 名 一、かたち、相のこと、二、もののかたちをたとへて云ふこと、或はかざりつけること。

けい—らく 經絡 名 身體中の血筋を云ふ。

けい—らく 京洛 名 京都の稱。

けい—りく 刑戮 名 刑は刑罰のこと、戮は殺すこと、故に罪に行ふことを云ふ。

けい—りん 鷄林 名 地名 朝鮮國の稱、とりのはやし。

けい—りん 經綸 名 天下或は國家を、平安に治むること。

けいりん—まんろく 桂林漫錄 名 書名 古書畫、古器物の考証、森島中周之を撰す。

げい—れう 鯨獵 名 鯨を捕ふること。

けい—れん 痙攣 名 病名 筋肉のしびれ。

けいれん—さう 脛膿瘡 名 病名 脛倉のこと。

けいろう 桂婁 名 地名 今の清國奉京地方にして、紀前三七年高句麗の始祖鄒牟王創業の地なり。

けいろう—の—こ 鷄婁皷 名 樂器 樂の節をつくるに用ゐるもの、形圓く、前後のうつところ手なり。

けいわう 惠王 名 人名 春秋戰國周の王、大臣の間を奪て間となせしため太夫邊伯等五人亂を作したり。

けいわう 惠王 名 人名 戰國魏の王、蘇秦の合從の計に賛し六國の盟約をなしたり。

けいゐん—いし 桂園一枝 名 書名、歌集、香川景樹の著。

けう 孝 名 かうの轉音なり。

けう 稀有 名 古語、奇妙、不可思議のこと、又まれなる

こと、わりがたきことの意味あり。

けう—いく　教育　名　教授して智能を啓發せしむること、此が研究學問を教育學と云ふ。

げういん—にうどう、—しんわう　堯胤入道親王　名　人名　高僧、後花園帝の御猶子、明應二年、天臺座主となられる。

けうにき—しんぱう　饒益神寶　名　錢名　銅貨、清和帝の貞觀元年鑄す。

げう—かう　堯幸　名　人名　歌學者、頓阿法師の會孫、權大僧都法師、藤原雅世、新續古今を撰むに際し、和歌所開闔たり。年六十五寂す。

けう—がふ　校合　名　筆記などを、讀み合せてあやまりを正すこと。

けうがう—すり　校合刷　名　校合する爲め、印刷したるもの。

けう—ぎ　教義　名　佛語　各宗教派の主義とする教へ。

げう—き　澆季　名　世の衰頽したること、末世のこと。

げう—き　曉起　名　朝はやく起ること。

げうきよう—ほふしんわう　堯蔭法親王　名　人名　久嘉と申す、靈元天皇第十八子、母を幾之宮、妙法院に入りて天臺座主となり、御年四十五薨ず。

けう—くわ　教化　名　佛語　教へさとして、善道に入らしむること。

けう—くわい　教會　名　耶蘇教の說教場、

けうくわん—じごく　叫喚地獄　名　佛語　罪人の獄卒卽鬼に苦しめられ、わめきさけぶ世界、八熱地獄の第四。

げうげつ　曉月　名　人名　連歌師、冷泉爲守と云ふ。

げうげ—べつでん　教化別傳　名　佛語　經文外に於て、一種の幽妙なる眞理を悟らしむること、禪宗にて行ふ。

けう—さい　絞罪　名　刑名　犯罪人の首をしめて殺すこと

けう—さう　教相　名　佛語　密教卽ち眞言宗にて、經論、聖教を學ぶべき人。

けう—しゆ　梟首　名　刑名　ごくもんのこと、犯罪人の首を斬りて、さらすこと、江藤新平は佐賀にて梟首せらる。

けう—しゆ　教主　名　佛語　一宗開山の祖を云ふ。

けう—じよ　教始　名　人名　高僧、東本願寺住職、德川時代東西に分裂せしとき、東の法祖となられし人、慶長十九年五十七にて寂す。

けうしよ—でん　校書殿　名　歷史　歷代の書籍を禁中に納められし御殿、宣陽殿に對し、清涼殿の左にあり。

けうぜん　教禪　名　人名　佛畫師、後冷泉天皇に仕へ、勅命によりて、佛畫百二十一體を畫き、佛繪師僧綱に任ず、承和二年死す。

けう—ろく　鵂息　名　ひちかけのこと、小さき机に、布團をはりつけ、ひちをつくもの。

けうだう—しよく　教導職　名　神主　法師などのこと。神道又は佛道をたしへみちびくこと。

げう—わう　蟯虫　名　動物　寄生虫、極めて細小なる線狀形の虫、人類の大腸に寄生し、痒を感せしむるもの。

けうねん—ほふしんわう　堯然法親王　名　人名　天臺座主、名は常嘉、後陽成天皇の第六子、母を勾當內侍孝子とす、年六十一寂す。

けうぶ—しやう　教部省　名　官省　明治初年神佛の管理をなせし官廳、後文部內務兩省之を司るに至る。

けう—ぼく　喬木　名　植物　松柏科を云ふ、灌木はこれより小なるものを云ふ。

けう—ぼく　梟木　名　植物　でんもんの臺、梟首に用ゐる木のことを云ふ。

けう—みやう　交名　名　連名にたなしく、人名を書き連ねたるもの。

けう—やう　奉養　名　古語　父母に孝行すること。先祖に幸すること。養は供養の義なり。

けう—やく　貿易　名　古語　かうえきにたなしく、物品を交換すること、多く外國品と內國品との交換にて、橫濱、大阪、神戶、長崎の如き貿易隆盛なり。

けうら—に　清に　副　きよらかのこと、うるわしきこと。

けう—りやう　橋梁　名　河川に架したる橋、梁はばりと云ふ字なり。

けう—ゐん　教院　名　役所　教法の事を司る。

けうゐん　教圓　名　人名　天臺座主、寬和天皇の師傅となり、後大僧都となり、天臺座主となる、唯識論に精通し、能く之を誦す。

け—ねさる　被壓　動　勢に壓さるること、けは接頭語にて意味有せず。

げ—かい　下界　名　佛語　一、人間界、二、龍宮の稱、

けかい、—なし　非　不規則なること。

げ—かうし　下格子　名　古語　かうしをねろすことの稱。

け—がき　夏書　名　佛語　引き籠りて、有緣無緣の菩提のためとて經文を寫し書きして、結解納をなすなり。

け—かち　飢渴　名　古語　きかつの轉音。

げ—かん　下疳　名　病名　陰部以下に生ずる瘡なり。

け—がらす　毛硝子　名　物理　硝子を極めて細く引きのばして、毛の如くしたるものを云ふ。

け—ぎ　褻着　名　古語　けごろもの變化したるもの。

げき　鵠　名　動物　水禽類、白色の鳥、水中にありて魚を餌

として生活するは鵜に似たり。

げき 檄 名 檄文の略語　文章にて自己の意志を發表して之を掲示することなり。

げーき 外記 名 官名　しるすつかさのこと。本邦中古代太政官に屬して大小二ありき、大小公事の詔書奏文を勘造し、局中の記錄を司ること、今の書記官のことなり。

げーき 下機 名 佛語　下根にたなし。

げきーしん 劇震 名 地名　地震の振動のはげしきこと。

げきーぜつ 鴃舌 名 外國人の言語を卑むものの言葉。

げきーたく 擊拆 名 調子をとるときか、或は物の集りの合圓等に、柏子木をならすことを云ふ。

けーきやう 夏經 名 引き籠りて、經典を誦すること。

けーきやう 夏行 名 古語　けごもりのこと。

けーきやう 外痙 名 外科醫士のこと。

げーきやう 顯形 名 けんきやうの略、神佛の化して形をあらはすこと。

げーぎやう 下行 名 古語　賜物。

げーぎよ 懸魚 名 魚の尾の如きもの、かへるまたの上方棟の端を覆ふもの。

げきーらう 逆浪　激浪 名 一、逆卷く荒浪、二、山の如き浪。

けさらず—びらねど 毛不切天鵞絨 名 織物　毛にて織りたるままのもの。

げさーりん 逆鱗 名 天皇陛下の御怒に觸るること。

げーぐう 外宮 名 神社名　伊勢國山田町の豐受太神の祀れる神社、雄略帝の朝、丹波より移す、內宮に對して外宮と云ふ。

けーくくり 下括 名 古語　指貫の裾を、足首にてしめくくること、神社の發禮に神官の着する、寺院法要の時下袴として用ゐるもの、着方を云ふなり。

けくーげん 希來言 名 文典　願望の意義ある詞　多く助辭にてかも、なん、はや等なり。

けくに—ものまうす—まうちぎみ 申食國政大夫 名 古の官位、執政大臣のことを云ふ。

ケクロプス Kekrops. 名 人名　移住人、神話時代、埃及のサイスよりアセンスに移りしものなり。

げーくわん 外官 名 官名　京官を內官と云ふに對し、地方を外官と云ふ。古語なり。

げーくわん 下官 名 官位、官吏の位置の劣等のもの。

けげーさう 夏解草 名 植物　草類、大なるばくもんどうのことなり。

けけし 形 殊なり、優勝したること。

けーげん 化現 名 佛語　神佛のかりにかたちをあらはすこと。

けーげん 下弦 名 天文　二十日以後のゆみはり月を云ふ。

けーこ 華筥 名 古器　花を盛りたつるもの、今の花瓶を云ふ。

けーご 笥籠 名 古語　飯などを盛りたるうつは、今の茶椀の類。

けーご 家子 名 古語　一、妻子及奴僕等、二、家來卽下部のもののこと。

げーこう—じ 元興寺 名 古語　げでし、げでせとも讀み兒童らの鬼のまねをなして遊ぶこと。

けーごと 食事 名 古語　食物をくうこと、水を飲むこと

けーこみ 蹴込 名 古語　今の家屋の昇降口にあるくつぬぐひの如きものの下、及、人力車等凡て乘物にのりたるとき、足を休むるところなり。

げーこん 下根 名 佛語　下機に同じく、教義の思想に缺ちたること、思想の拙劣なること。

げごん—きやう 華嚴經 名 經典　唐の道璿の開きしもの華嚴、法相、日蓮、天臺、禪宗の所依する經文なり。

けごん—しゆう 華嚴宗 名 宗派　佛教八宗の一、支那南北朝の時、僧法順之を刱め、天平八年唐の僧道璿之を日本に傳へたり、賢首宗とはこれなり。

けごん—の—たき 華嚴の瀧 名 瀧名　下野國日光山に在り、源を同山中の中禪寺湖とす、高四十丈、幅十五間、明治三十六年五月、東京第一高等學校生徒藤村操なるもの、宇宙の大眞理を不可解とし、遂に煩悶して此の瀧壺の露となる、乃ち世人囂々として華嚴の瀧を口にするに至れり。

けーごも 毛褥 名 古語　毛類にて織りた衣。防寒の用に供す。

げごろ—ぶな 源五郎鮒 名 動物　脊椎動物、魚類、ふなの類、やや大なるもの、近江琵琶湖の物産とす。

けーごろも 毛衣 枕 ごるの枕言葉となる、皮をはりてつくるものよりかく云ふ。

けーさ 袈裟 名 法衣　迦羅沙曳の轉じたる語、類種々ありて迹べがたきも、凡て衣の上にて肩より被ふものなり。

けーさひ 解齋 名 古語　けつさいのことにて、いみごとを解くことなり。

げーざい 下財 名 鑛物　凡て金掘のこと。

げーざく 外戚 名 古語　ぐわいせきにたなし、親類のことにて多く貴顯の職にある人に云ふ。

げさくーしや 戯作者 名 小說家などの如く戯れに文章をかきて本とすること。此等の本を戯作本と云ふ。

けざーくわん 華座觀 名 佛語 阿彌陀佛の蓮臺にわるさまを觀ること、十六觀想の一なり。

けさーごぜん 袈裟御前 名 人名 節婦、阿部磨と云ひて源渡の夫人、遠藤盛遠の戀想の爲め、節に倒る。

けさとーざくら けさと櫻 名 植物 「サト櫻」に似たれども、花梗に毛あり、花は小なり。

げーさん 下散 名 古語 草摺のこと。具足の名。

げーざん 見參 名 けんざんの異音 天皇陛下に伺候したるとき、演書を出すこと。

げーざやかーに 鮮 副 著しるしき、はつきりしたること多く古語にわり。

げーざやぐ 鮮 動 古語 きはやかになること。

ケーザル Cæsar. 名 人名 武將、西紀前六〇年のローマ平民黨ノ領袖、千古の英雄たるユリウスシーサルのこと、當時の剛勇者ポンペイ及富豪者クラサスと結びて第一三頭政治を作り、後ガリア征伐の爲め八年間を費す、其間ローマにありて威權を横にせしポンペー野心ありて、ケーザルを召還す、乃ち大軍を率ゐてポンペイを伐ちギリシアに放つ、四八年ファルサスに之を敗り、四五年ザクテーメーとなり、次ぎて皇帝となる、一時、海陸軍の擴張、殖産興業善政の爲め、市民に迎へられしも、野心家、カーシアス、ブルタスの爲め、四四年議事堂にて弑されぬ。

けし 芥子 名 植物、罌粟科草本、葉は互生して白綠色を呈し、莖は四五尺、花芽は下垂す、春夏の間、芍藥の如き花にて白色或紅色のものを開き、其乳液より鴉片を作る、觀賞植物なると共に又種子等を食用に供す。

けし 芥 名 紋名 けしの種子の如く細き鉄を、鎧のかざりとして紋にしたる名。

げーし 解司 名 官省 式部省のことにて今は、宮內省に屬す。

げーし 夏至 名 天文 六月二十二日のこと、太陽の赤道を辷りて漸々北進し、二十三度半に至れば北回歸線に達し北半球にては日最も長く、最も熱し、故に此日を夏至と云ひ、北回歸線を夏至線とも云ふ。

けしーあざみ 芥子薊 名 植物、罌粟科草本、莖は二三尺にて青、紫の色を呈し、葉掖に黃色の花を開く。

けしーがらす 青硝子 名 鑛物 不透明の硝子のこと、透明硝子を金剛石等の如き堅きものにて擦りて作る。

けしきーどる 國四 顏に氣色をあらはすこと、怨恨のさまを云ふ。

けしきーのーもり 氣色森 名 地名 九州大隅國に在る森の名なり。

けしきーばかり 氣色許 副 古語 少しのこと。いささかの意義なり。

けしきーばむ 氣色 動 檀子の外觀にわらはるること。

けしーぐくり 芥子括 名 衣服 最も細く袖口をくくることなり、古語。

げじーげじ 蚰蜒 Scu ligera. 名 動物、肉食動物節足類、多足類、長一寸許、十五對の細長き脚、觸角及一對の脚極めて長く、走ること疾し、夜間屋內に來り、食物を食む、脚は觸覺を司る極めて奇なるものなり。

けしーけしと 副 古語 勢のつよきこと。

けしーけしまないた 名 植物 草本、翁草の一名。

げしーせん 夏至線 Tropic of Cancer. 名 地文 北緯二三度半の緯線なり。

けしーたま 芥子玉 名 けしの模樣、露のことにも云ふ。

けしなーぐさ 芥子柰草 名 植物 草本、ねはつちのこと

けしーなる 御髮 動 古語 貴顯の御床に入らせらるゝこと。

げしーにん 解死人 名 役名 自ら手を下して人を殺ろしたる人。

けーしね 食稻 名 古語 日毎の食事にする稻の稱。

けしねーひつ 食稻櫃 名 こめびつのこと。

けしーのーあぶら 芥子油 名 化學 鴉片のこと、阿片は罌粟の不熟實より得られたる乳狀液を乾燥して生じたる褐色の物質にして、數種のアルカロイドを含む、此が爲め、其主成分はモルフィンの柱狀結晶なり、止痛藥として、用ゐらるるも、過量に用ゐるときは、劇毒劑となる、支那及朝鮮人は好んで之を用ふ。

けしーのーか 芥子香 名 古語 けしやきのかをり。

けしーばうず 芥子坊主 名 古語 さらげ、すずしろ等の如く、頭を剃り、頂のみ、すこしそりのこしたるもの。

けーしん 化身 名 佛語 假りに形を代へて生れ出でたるもの、弘法大師の說によれば、佛は神の本なり、神は佛の化神にして衆生を濟度するものと云へり、所謂本地垂跡の說なり。

けーしやう 假粧 名 化粧 けさう、わつくりのこと、わしろい、べになどを以て顏をよそふことなり。

けーしやう 戀想 名 古語 けさうにわなし。

けーしやう 假裝 動 美麗なる繪模樣などを施せるものの名にそへて いふことばなり。

げーじやう 解狀 名 日安書のこと。

けしやうーいくさ 假粧平 名 表向のいくさ、かざりのいくさ、いくさのまね。

けしやうーがは 假粧革 名 繻革とも云ひ、假粧するに用ゐるものにわらず、美しき模樣のつきたるかはのこと。

けしやうーざせる 假粧 名 陶器などを以て作りたる長ききせるのこと、一時流行して女の用としたもの。

けしやうーだち 假粧立 名 力士の、かりに立ち試みることなり。

けしやうーだな 假粧棚 名 四十八棚の一、日本建築術の語なり。

けしやうーぼん 假堀品 名 佛語 法華經中の五十八品の一を云ふ。

けしやうーもどゆひ 假粧元結 名 ゑもどゆひ、いれもとゆひにわなし。

けしやうーやりど 假粧遣戸 名 古語 美しく色どりたるやりどなり。

けしやうーゆひ 假粧結 名 德川時代の奥女中のかみのゆひ方、長かもぢのもとを、ひら元結にて、ふたゑにまはしその上を、けしう元結にてむすぶこと。

けしーやき 芥子燒 名 古語 僧侶のこまをたくこと。

げーじやく 外戚 名 古語 けせき、ぐわいせきにわなし

げーしやく 下宿 名 一、長く同じ家に旅宿すること、二、やどさがりのこと、我家にさがりをること、

けーじゆす 毛繻子 名 織物 着物の襟、袖口などにわてるもの、滑かにして光澤ある毛織物なり、下等品なり。

げしゆーにん 下手人 名 役名 解死人のことにて、自ら手を下して、人を殺す人のこと。

げーじゆん 下旬 名 曆語 一月中の終り十日間のこと。

げーしよ 下書 名 公文書に云ふことばにして、したがきのことなり。

けーしよう 顯證 名 古語 暑音、あらはなること、まぼゆきこと。

げーじやう 下乘 名 乘打を禁じたること、馬車などより下りること、神社の境内などには立てられたり。

げーしよく 下職 名 一、卑しき下等の職業、二、重職人の下につかはるる人。

けーじらみ 毛虱 Phthirius Pubis, L. 名 動物 虫類體扁平、第二、第三對の脚先は强大なる鉤をなし、第一對脚は先端の一節折れて毛を挾むに適し、肉色を呈す、卵生動物にして、多く不潔なる毛に生ず。

けす 消 動 一、火の燃るを消すこと、二、除去すること、三、無用物とすること。

けす 着 動 古語 着物などをきることなり。

げす 下衆 名 古語 卑賤のものゝこと、身分なきもの、

はしたものこと。

げーす 下司 名 役名 卑賤の官吏、した役なり。

げす 解 動 物事を心に會得すること、或は藥などを除去すること。

げすーげすし 下衆下衆 形 最もいやしきもの、下衆の下衆と云ふ意義より來る。

げすーちかーに 下衆近 副 古語 いやしきさまかたちのこと、さまかたちの下衆にちかきこと。

けすちーたて 毛筋立 名 櫛の一種、多く木にて作り、其形は細長き柄に、一方に齒、他方に尖鋭のものありて、毛筋を正しく立つるもの。

ケスネー Quesney 名 人名 經濟學者、西紀一六九四年フランスに出で、ルイス十五世の侍醫となり、重農派の主張者となり、其著すところ經濟百科全書あり。

けすらふ 擬 動 古語 なづらふにおなじ。

げーすゐ 下水 名 けがれ水を流す溝、市街などは多く、土管を地中に埋めてこれを通す。此の溝の上を被ふ板を下水板と云ふ。

げすーむすめ 下衆女 名 古語 げすをんなのことにて、身分のいやしきをんなのこと。

けーせい 解制 名 制のをはること。

けーせう 顯證 名 古語 けしやうにわなし。

げーせん 牙籤 名 目標 小さき象牙の板に、書籍の表題を書き書物の帙の外にかけてたくもの。

けせんーかご 氣仙籠 名 籠の名、陸前國氣仙郡より產するを以て此名あり。

けせんーぬま 氣仙沼 名 地名 けせぬまとも云ひ、陸前國本吉郡に在り、清水深く灣入して、良港に富めり。

けーろく 華足 名 机又は臺の脚に、はでやかに彫刻せしものを云ふ。

けーろく 供饗 名 亡き人の爲め、神佛に祈りて、供養すること、或は父母に孝を盡すを云ふ。

げろくーだい 花束臺 名 寺院などにて供養するとき、花を立つるに用ゐる臺。

けーろん 家損 名 古語 家のきず、家のはち。

けた 方 名 かく、四角などの角ある形のこと、

けた 桁 名 一、家屋或は橋梁の外廻の柱についかう材、二、算盤の珠をつらねたる串のこと。

ケタ Kueta. 名 地名 英領埃、ペルシスタン北部の一市、インダス河の西一三哩に在り、鐵道ありて、インドのカンダハルと相通ず、英國の守備隊堅固の砲塞を築きて之を守る。

ゲタ Geta 名 人名 ローマのカラカラ帝の弟、兄、政を執りしも、帝の即位の初め、其徒數千人と共に殺害せられたり。

けーたい 懈怠 名 けだいとも云ひ、凡て、たこたること、なまかはになること。

げーたい 外題 名 一、書物の名をその書面の表紙にかきたるもの、二、芝居などにて、題號とするもの、となへ。

げたいーしんしよ 解體新書 名 書名 醫學解剖書、後花園天皇明和八年、桂川甫周と杉田玄白に勅して譯せしめられたるもの。

けーだう 化導 名 古語 善良の道にみちびき教ふること

げーだう 外道 名 一、佛語、佛教を信仰せざるもの、二、邪曲の心をいだけるもの、三、假名の、醜く、こはこはしきさまのもの。

げたーうち 擊壤 名 支那にて行はれし遊戯にして、羽子板の如きもの二枚を、一枚なげ、後一枚を以て、之を打つこと。

げたーぐみ 下駄組 名 古語 延寶、貞享頃の隠語にて、しりたるふりを裝ふ人を云ふ。

けだし 蓋 副 若しくは、多分、推量するになどの意。古語にては けだしくーもと云へり。

けーだす 動 一、物を蹴て出だすこと、二、會計などに撥算をへらして、その金高を取りのこすこと。

けーだら 夏斷 名 けでもりして、絶飲酒、絶肉食することを云ふ。

けーたつ 脚立 名 御樹、きやたつ)にたなし。

げーだつ 解脱 名 佛語 俗界を離れて、佛界に入ること六道の輪廻をまのがること、煩惱を脱して、涅槃に入ることを云ふ。

げだつどうさう—の—はふい 解脱幢相の法衣 同 佛語 解脱とは、世の俗念を脱して知見を得る法衣、幢相は、無垢衣、蓮華衣のことにて、俗塵の垢に染まぬ意にていふ法衣、畢竟僧侶の身分のことを云ふなり。

けーたで 毛蓼 名 植物 顯花植物、双子葉門、蓼科草本、初夏、桃色の花を開く、いぬたでに似て、葉上に白色のあるものなり。

けた—の—き 名 植物 木本、山空木(やまうつぎ)のこと。

ケーター—の—しんし ケーメーの振子 名 物理 各地に於ける重力の加速度を測定する器にして、二個の鋼鐵製の刃と二個の重錘とを具ふる寢振子なり、重錘の一つは固定し他は螺旋によりて動き、各地の重力の加速度の異なるに從ひて重錘間の距離を異にし得るなり、重錘間の長を l とせば、之は單振子の長に相當し、一振動に要したる時間を T とせば、求むる加速度は次の式より得らる、即ち

$$T=2\pi\sqrt{\frac{l}{g}} \quad \therefore \quad g=\frac{4\pi^2}{T^2}l.$$

げたーばん 下駄判 名 印 げたのはの如く、二字の間をあけて、彫りたるもの。

げーだん 下段 名 一、したのだん、次のだんの如く階段のだんを云ひ、二、刀を構へる方法にて、上段に對して云ふ語。

けだもの 獸 名 動物 全身毛を以て被はれ、四足あつて地上を歩行するものの總稱、往々變態したるものなきにあらず。

けたーゆき 桁行 名 はりまに對して云ふ語、一棟の家の長さをはかること。

けたるま 毛逵麿 名 かみのゆひかた、中年以上の女のゆひがみのこと。

けーたれ 小刺刀 名 英語の所謂ナイフのことにて、鐵、鋼を以て鍛へたる小さき、きれものを云ふ。

けち 闕 名 古語 けつの轉音。

けち 結 名 古語 一、終り、むすびのこと、二、昔、二人つがひにて、弓を射ることを云ひたり。

げーち 下知 名 命令 指揮などの意、三代實錄に「即下知東海東山北陸山陰南海依件行之」とあり、令下知の意なり。

けちーにん 結緣 名 佛語 古語 けつねんの轉音、佛道に入りて、後世、佛となるべきちなりのこと。

けちにん—に 揭焉 副 古語 靈驗あらたかに、きはやかに、いちじるしく。

けーちかし 氣近 形 近親なること、けは發語なり。

けーぐわん 結願 名 古語 けつぐわんの轉音。

けーさす 圍 囲碁、打ちはてて後、又石をならべることを云ふ。

げーじよう 下知狀 名 命令狀、古、武家より下部のものに、與へられたる命令書にて、文末に「下知如件」の四字あるを常とす。

げーぢん 解陣 名 古語 陣拂(ぢんばらひ)のこと、陣を取り拂ふこと。續世繼の一節に「二十日ごろ、げぢんとかいひて、對のはざまにて、御殿のみすなども、まきわげられ」とあり、即ちこの意なり。

けぢーぬ 區別 名 古語 くべつ、わかち、わいだめ、きは等の意なり。

けちーりん 名 極めてすくなきこと、いささかなること、東京邊の方言。

けつ 決 名 定めにたなしく、物事をとりきめたること、謀決とも、判決とも、決定とも云ふ、皆同じ意なり。

けつ 闕 名 一、ものの足らぬこと、わき、かけめ、けつわき(闕腋)とて中古武士の服にて、袍の一種も、腋のわきたるよりかく云ふなり。二、天皇陛下などの門、即御所の門を云ふ、闕を移すと云へば、陛下を御移し奉ることなり即ち、陛下の意にもなるなり。

けつ 羯 名 匈奴の別部にして、其上露の石勒は之より出で、後趙を立つ、即五胡十六國の一なり。

けつ 渚 名 古語 けす、きやすとれなし。

けつ 桀 名 人名 暴君、支那初代の夏の末王、西紀前十七世紀の人、性暗愚にして暴虐、國政は更に修めず、專ら奢侈淫逸に耽る、乃ち諸侯離散して、叛逆する至り、成湯と戰ひ、大敗して遂に放たる、是に於て、禹王より十七世、四百餘年間の夏、全く滅亡す。

ゲーツ (Ghiz) 名 人名 將軍、英國エセックスのマルドに生れ、北米合衆國の將軍となる、西紀一七五五年オハイオ州佛國殖民地、一七六二年一月マルチニコに遠征し、一七八〇年八月十六日、南カロリナのカムデンに於て、コーンワオリス卿の爲め敗績す。

けつ―うん 血暈 名 病名 血液の振ふこと。

けつ―えき 血液 名 生理 無色、アルカリ性の細微の小體組織より成る、即ち血漿と無數の赤血球及白血球より成る、血漿とは蛋白質其他含窒素物、及無機鹽類の多量の水に溶解する清き一種の液なり、赤血球は両面陷凹せる板狀にして三千二百分の一インチの直徑、一萬二千分の一インチの厚、彈力性强く、血色素を含むを以て特色を呈す、白血球は赤血球の如く數多からず、生活中常に變化して赤血球の補助をなす、赤血球の五百分の一の割合にて存在す、此等は營養物酸素を身體の各組織に輸送し又老廢物を吸收するを以て其作用とす、血清とは血液を空氣中に放つとき凝固して血餅となり、後表面帶黃色の水樣液を出し、血餅と離るものなり。是れ人間其他動物の一般に負傷して全身の血液を出さざる所以なり。

けつ―えん 結緣 名 佛語 けちえんのこと、佛道に入りて、佛となるべきちぎりをなすこと。

けつ―か 闕下 名 陛下の下にある事。

けつ―かい 結界 名 佛語 外道、惡魔等の入り來らざらんために、法力によりて、境界を作ることなり。

けつ―かい 結戈 名 古語 陰曆五月、九月の二十五日、弓射人の集りて、勝負すること。

けつ―かい 結階 名 官位制定法、五位以下に於て、國司の、毎年調査の結果を平均して、官位を進むること。

けつ―かく 結核 名 一、醫學、二、地質、一、肺病のため血のかたまりたる肉を云ひ、二、或點を核として、周圍に鑛物の集合したるもの、副塊の一種、龜甲石、鳴石等みなこれなり。

けつ―がん 夏岩 名 地質、粘土の固結して、柔軟なる板狀の岩石となりしもの、風雨に曝露すれば容易に溶け、圓顆をなして離脫す。

けつき 名 竹等にて作れる衣服をかくる笄。

けつ―き 血氣 名 元氣勃々たる樣、はやりこころ。

けつ―きう 血球 名 生理 血液の條を見よ。

げつ―きん 月琴 名 樂器 支那にて創めしもの、胴は扁圓狀、四絃十二柱あり、日本に傳り、古來よりの樂器たり。

けつ―きよ 穴居 名 古の風俗、混沌たる世の中、地中に穴を作りて住居とせしもの。

けつ―くわく 闕畫 名 古語 文章中、天皇其他貴國の御名を書くに、敬ひて其字の畫を省くこと。今行はれず。

けつ―くわん 血管 名 生理 動物の血液の循環する道、管狀をなすを以て名づく。

げつくわ―もんゐん 月華門院 名 人名 綜子內親王のこと、後嵯峨天皇の第一皇女。

けつ―げ 結夏 名 佛語 陰曆四月十五日より七月十五日迄、家に引き籠りて居ること。

けつ―げ 毛附 名 一、馬の毛色、二、其の毛色を書きしるしおくこと。

げつ―けい 月卿 名 官位ある人、三位以上の人、上達部のことなり。

けつ―こつ 結骨 名 人名 堅昆、キルギス人、中古突厥の部長土門、其下汗となるや、征せらる。

けつ―さう 血相 名 かはのさま、かはのいろ。

けつ―さく 傑作 名 傑はすぐれたるの意、名作の意義。多く文章詩歌などの技藝に云ふ。

げつ―さく 月朔 名 月のはじめ、一日のこと、ついたちと讀むなり。

げつ―し 月氏 名 人名 建國古、圖伯特種の河西の地に在り、元と匈奴と不和なりしが、漢の初め冒頓の爲め破られ、西方伊犁に走りしも、烏孫に追はれて、縛芻河に移り大夏國を伐ち、西紀一二八年大月氏國を建つ。

けつ―しきう 血色素 名 生理 赤血球をして鮮紅ならしむる色素を云ふ、此色素が酸化せば血液は鮮紅色となり、還元せば暗紅色となる。

けつ―しや 結社 名 同賈相謀りて、黨をなすこと、一時

戸米に行はれし、秘密結社の如し。

けつ—しやう 月性 名 人名 海防僧、周防國遠崎村妙圓寺住職、西蕃紀傳を讀みて、憤慨して、社門に投じて講説を究む、外交の事起るや、幕府の姑息をなげき、討幕の議を唱へたり、年四十三にて死す。

けつ—しやう 結晶 名 化鑛 四個以上の平面を以て圍れたる鑛物の天然の一定の形狀を保つもの。

けつしやう—けい 結晶系 名 鑛物 結晶軸の數、位置及長さによりて、結晶を六系に分つ、即ち等軸、正方、六方斜方、單斜、三斜是なり。

けつしやうけい—の—くわんさつ 結晶形の觀察 名 鑛物、結晶形の大體の輪廓柱狀、板狀、両端尖たるや、何れの面部和はるや、何個の結晶より成るか、一定の規則を有して結晶するや、此等の諸注意を以て、結晶形を究むるものにて、面を定むるに最も必要なるは、二面間の面部と四部の角を以てす。

けつしやうけい—の—せいせいげんいん 結晶形の生成原因 名 鑛物 金石結晶は容易に其の原因を尋ね難しと雖も、人工結晶を以て推知するを得、即ち、一、液體中に溶解せるものは其液の蒸散するとき即濃厚液の薄らぎたるとき、二、溶融せるもの、溫度下るとき凝結するもの、三、固體の蒸氣となりて再び冷却するとき凝結するもの、以上の三つの原因を以て其生成するを知るなり。

けつしやうけいとう—の—しゆるゐ 結晶系統の種類 名 鑛物 軸の大小、位置及多少によりて六種と定む、一、整系、二、正方系、三、六角系、四、菱角系、五、單斜系、六、三斜系、とす。

けつしやうじやう—せつかいがん 結晶質石灰岩 名 鑛物 大理石の事なり。

けつしやう—すうがく 結晶數學 名 鑛物 二面の相交りて成る線を稜、三面の相集りて成る點を角と云ふ、此によりて結晶形の數學的計算を爲すなり。即ち、三稜角、六稜角、四稜等凡て六晶屬二十四種なり、又其稜を削るときは正三角形、正六角形をなす、右左二邊づつ相等しく正四角形をなすあり、五角形のものあり。

けつしやう—たい 結晶體 名 鑛物學上にては、固體の鑛物にして、規則正しく一定の形をなすもの、即結晶をなすものをいふ、水晶、方解石の如し、植物學上にては、細胞液中に存する無機物質が、細胞膜又は細胞内に現出せるものをいふ、其成分は炭酸石灰、硫酸石灰、蓚酸石灰等なり、形は六面體、八面體、針狀なり。

けつしやうたい—の—さんてん 結晶體の三點 名 鑛物

結晶數學に最も必要なるもの、一、面、二、稜、三、尖、面は單に表面のこと、稜とは二面の交錯する線、尖は三面以上相交錯してなす角度を云ふ。

けつしやうたい—の—しゆるゐ 結晶體の種類 名 鑛物 一、三角形、(等邊、等脚、下等邊の三種あり)　二、四角形、(平方形、長方、菱形偏菱、デルトイード、トラペツの五種)　三、多角形、(五角形、六角形、八角形、十角形、十二角形の五種)

けつしやう—ちく 結晶軸 名 鑛物 結晶體の中心を貫通して走る所の數個の假想直線を云ふ。

けつしやう—の—はついく 結晶の發育 名 鑛物 一、軟性粘土中にありて黄鐵鑛、安山岩の液體なりし時分に其中に結晶せしもの花崗岩中の石英の如し、二、他の固體の表面に結晶するもの、三、結晶中に不規則に結晶するもの、四、岩石の空中にて鑛物固結すること、皆結晶する所の位置形狀に從ひて其の發生をなすものなり。

けつしやう—の—せいちやう 結晶の生長 名 鑛物 生長する有樣、噴火山にて硫黄臭の蒸氣を吹くあり、これ硫黄の結晶生長の有樣にして、花硫黄を生ずるを以てなり。

けつしやう—の—はつせい 結晶の發生 名 化鑛 結晶の化學的現象のことにて、二液相合して沈澱物を生ずること砂糖蜜の久しく貯ふるときに砂糖の結晶することなり。

けつしやう—の—せいしつ 結晶の性質 名 鑛物 結晶體の各方面によりて異樣の性質を有するあり、又内外共に規則正しく平面に取り卷かれたるものあり、水晶の如きは、各方によりて光に對して反應を異にし、溶解するも方面によりて溶くるに早遲あり、又方解石の如きは眞正の結晶質を有し、如何に細末にするも、方形を失はず、是れ分子間の結合力強きによるものなり。

けつしやう—へんがん 結晶片岩 名 鑛物 火成岩と水成岩との中間に位すべきものにして、結晶質にして、一方に剥離し易し、片麻岩、絲泥片岩、雲母片岩、等の如し。

けつしやう—すゐ 結晶水 名 化學 結晶體中の水分を云ふ、膽礬は結晶體のとき、黄白色なるも、水分を吸收するときは、青色となる如きものなり。

けつ—しよ 闕所 名 古語 一、領主の缺員となれる莊園　二、鎌川時代の沒取のこと。

けつ—しよう 血漿 名 生理 血液の條を見よ。

けつ—じよう 結繩 名 古語 古支那に於て行はれたる文通の代用、記錄の代用、等に繩を結びしなり。

けつ—しよく 血食 名 代々、先祖の祭禮を怠らざること

げつ—しよく 月蝕 名 天文 月と太陽との間に地球の來りしとき、月面を照らす日光を遮るを云ふ、皆既蝕と部分蝕との二種あり、十八年間に、二十九回生ず、是れ、月の地球を周る軌道の、地球の軌道面と五度の傾斜をなすを以て、唯軌道面の切合點、之に近き場合に生ずるものなり。

げつしよく—げんくわい—かく 月蝕限界角 名 天文 月蝕は滿月の時起る、卽ち太陽の中心が黃道と白道との交點Pに在れば、月蝕起り、Pより遠かる時は起らず、故に月蝕には限りあり、太陽の中心がPを距る十二度三十一分より大なれば月蝕起らず、九度より小なれば起る、此二角を月蝕限界角と云ふ。

けつし—ろば 嚙齒類 名 動物 概ね小形にして犬齒を欠き、門齒と臼齒との間に廣き間隙を存す、門齒は上下に各二枚あり、前面に琺瑯質を蔽り、上唇は分裂して、觸感を司る所の鬚を生ず、後肢は長く、運動速し、植物を食し、害をなすこと多し、鼠、兎の如し。

けつ—ずん 闕巡 名 古語 酒肴等にて、盃のの未だめぐらざるところにいたるとき云ふ。

けつ—ぜい 血稅 名 大化以前頃より始まりし徵兵の稱なり

けつ—せい 血清 名 生理 「血液」を見よ。

げつ—せう 月照 名 人名 僧侶、京都清水寺成就院の住職忍向、和歌に名を得たり、西鄕隆盛等と與みし、常に攘夷說を主張し、幕府の忌むところとなり、年四十二、隆盛と共に薩摩の海に身を投げて死す。

げつ—せき 月石 名 鑛物 石名、青色の光澤ある透明體なり、方長石の一種。

げつ—せき 月夕 名 暦語 陰暦八月のこと。

けつせき—さいばん 闕席裁判 名 法律語 辯論ある當日相手の出頭せず、又辯論せざるを以て、一方の相手の申し條を以て判決すること。

げつ—せん 月僊 名 人名 畫人、伊勢國寂照寺住職、元瑞と名け、畫を能くす、文化六年、年八十九寂せり。

けつ—ろしき 結組織 名 生理 强韌、恰も鞣皮の如く、容易く切れざる組織なり、表皮を剝ぎたる時、下に現はるゝものなり。

けつ—ろ 蹶鼠 名 動物 哺乳類、喫齒類、兎、鼠に似て尾端に毛を有す。

けつ—たう 結黨 名 黨派のくみあひ、政友會、進步黨の如きものなり。

けつだん—しよ 決斷所 名 官省 今の裁判所のことにて鎌倉時代より始まれり。

ゲッチスブルグ Gettysburg. 名 地名 古戰場、北米合衆國ペンシルバニアの南部の地、南北戰爭のとき、西紀一八六三年七月、北軍の將ミド、ロングストリート、エウエル等の軍を敗りてペンシルバニア、メリーランドを撤退したり

ゲッチンゲン Gittingen. 名 地名、今の獨逸、プロシアの一市、西紀一三六〇年ハンザ同盟加入、一七六〇年、佛軍の爲め占領、一七六二年之を恢復す、同市のゲオルギアアカゲストは西紀一七三四英王ジオジ二世の建設、一七三七年開校す。

けつ—ちよう 結腸 名 生理 人體內の腹中に在る大腸の中部分を稱して結腹と云ふ。

けつてい—ろしき 結締組織 名 生理 結組織に同じ。

けつ—ぱく 潔白 名 一、純白のこと、二、不正ならぬこと、いさぎよきこと。

けつ—ばん 結番 名 古語 朝廷を守らるゝ三十番神の、交代せらるゝこと。

けつ—ばん 血判 名 古語 信實なることを、神佛に誓ふ爲め、指の血を以て、捺印すること。

けつびよう—てん 結氷點 名 物理 氷點の條を一よ。

けつ—ぶん 闕文 名 脫したる文句のある文章を云ふ。

けつ—べい 血餅 名 生理 血液の條を見よ。

ゲーツヘット Gateshead. 名 地名 タラムの北堤に在る英國の一市、河を隔てニウカッスルに對す、製造業盛なり、デフォーの珍寶漂流記を書きし地なり、人口八萬六千。

げつ—ぼう 月峯 名 人名 畫人、京都東山双林寺長喜庵の僧辰亮、雅堂の門に學び、其眞意を得たり。

けつ—ぼん 血盆 名 形容語 口を開きたるさまの如し。

けつ—まく 結膜 名 生理 眼球部眼瞼の內面に沿ふて、眼球面に開展する粘膜を云ふ。

けつ—みやく 血脈 名 生理 血の循環する脈、大動脈、大靜脈の二あり、鮮紅色のものを動脈、暗紫色のものは靜脈なり、又別に肺動脈、肺靜脈ありて不潔血を清淨にするなり。

けつぬい—づめ 蹴爪 名 動物 鷄、雉等の脛背にある大爪を云ひ、あぶしとも云ふなり。

けつぬい—さん 決明散 名 藥名 目藥の一種。

けつぬん—しよう 缺面像 名 鑛物 對稱面に感じて現出すべき面數の半數、若くは四分の一に相當するものの外、現はれざるものをいふ。

けつり—かかん 頡利可汗 名 人名 酋長、支那突厥の人初め唐の天下を統一するに際し、之を拔きしかば唐之を德

とせしに乘じ、福利、醫書を極め、軍費の徵發、使唐等皆內外の怨を招く源因となり、唐太宗、貞觀四年西紀六三年李靖を遣して、之を陰山に伐ち、擒にす。

けづり—あげ 梳髮 名 古語 かみゆいのこと。

けつる—ぬ 血涙 名 古語 白馬のこと。

けつ—るる 血涙 名 慨嘆して思はず出す涙。

けつ—れい 厥冷 名 病名 血液の循環、不順となり、漸々減少して、體の冷くなること。

けつ—ろ 血路 名 敵の爲め圍繞せられたるとき、苦辛して、漸く免れ出でたる一の路を云ふ、所謂九死の一生を得し方なり。

けつ—ろう 缺漏 名 缺はかくること、漏はもるゝこと、故にもの、たらぬことなり。

けつ—ろん 結論 名 論文をかきて、終りに至ろんをむすぶこと、結論に對して云ふ。

ゲーテ Goethe. 名 人名 詩人、西紀一七四九年、ドイツに出で、身は赤管洗ふ境遇にありしも、常に學理を研讀し、シェクスピア以後の一大詩人となり、シルレルと肩を比す、又散文を能くし、其莊重の調を以て、人生の極祕を描くに至りては、眞に神に逼るの感あり。

ゲテボルゲ Gotebong. 名 地名 瑞典のゲテボルグ州、ボスの首府なる良港、人口約十萬七千。〔57,42N. 12,0E.〕

げ—てん 外典 名 佛語 佛經を內典と云ふに對して、他道の經典を外典と云ふなり。

けてん—がほ 化粧顏 名 怪顏顏の意にて、わやしみ且つおどろきたるありさま。

げどく—ざい 解毒劑 名 化學 毒を消す藥劑をいふ。

げどく—さう 解毒草 名 植物 草本、花ゝなき憂生草、吞に似たる葉、圓き大き朋色の莖、茶色の皮は解毒劑として用ゐらる。

ケトン Ketone. 名 化學 第二アルコールの酸化によりて生じたるものをいふ。

ケドリンブルグ Kuedlinburg. 名 地名 プロシアのサクソニア首府、マグデンブルグのクホード河上にあり、西紀九三〇年建設、一六九七年、ブランデンブルゾ侯に歸す。

ゲドロシア Gedrosia. 名 地名 ペルヂスタンの舊名。

け—ながし 來經長 名 古語 久しき時の間。

けなげ—に 健氣 副 かみがみしきこと、神氣爽快なること、心もちのよきこと。

けなし—の—なか 毛無岡 名 地名 六和國の岡、時鳥の多きを以て名あり。

け—ならぶ 來經並 動 古語 日數の多く立つこと。

け—に 殊に 副 古語 さらに、まさりて、それ以上に。

け—に 故 副 古語 かるがゆゑにの意なり。

げ—に 實に 副 しんに、いかにもの意。

ケニア Kenia. 名 山名 英領東アフリカ洲中最大高山の一、高さ一八〇〇〇呎、〔1,0S. 37,0E.〕

ケーニギンホーフ Koniginhof. 名 地名 ボヘミアの一市、エルベ河の左岸、西紀一四二一年フス黨の攻擊せしところ、一八六六年オーストリアの軍のプロシアの大軍に敗られしところなり。

げに—ごし 牽牛子 名 植物 草名、あさがほのこと。

ケーニヒグレーツ Koniggratz. 名 地名 ボヘミアの一市、サドヌに近し、西紀一八六六年七月三日、オーストリアの軍プロシアの大軍に敗績す。

ケーニヒスベルヒ Konigsberg. 名 地名 東部プロシアの首府、西紀一二五五年チュートン人の騎兵創す。一三六五年ハンザ同盟に加入し、一六五七年フレデリック三世のプロシア第一王位の卽位式場、一七〇一年フレデリック三世のプロシア第一王位の卽位式場、一七五八年より六年間露軍の占領、一八〇七年佛國の占領、一八六一年ウイルレム一世及女王の加冠式場なり。

け—にん 家人 名 役名 人の臣下なり、武家時代に於り家人の制度發達し、一定の土地を有するを得、主家に隷屬して忠誠を致すもの、御家人役と稱して、出馬、納稅、公事の勤務等を盡すものとせられたり。

げ—にん 解任 名 辭職、免職、退職等、任のなくなること。

げ—にん 外任 名 役名 外官の任にて、地方官の職なり內任に對して云ふなり。

け—ぬき 毛拔 名 鐵にてはさみの如く、扁平尖頭部の合する如く作り、毛を拔くに用ゐるもの。

けぬきがた—の—たち 毛拔形太刀 名 古語 古代の毛拔を二つ連ねたる如き形の目拔太刀にて、衛府に在り。

けぬき—がね 毛拔金 名 昔銃砲の一部分にありしもの。

げ—ねつ 解熱 名 病理 體熱を低くすること。

け—の—あらもの 毛麤物 名 動物 象、鯨等の如き大なるけのものを云ふ。

け—の—いり 夏入 名 天文 夏季に入ること。

け—の—くに 毛國 名 地名 古語、昔し、上野及下野の地を云ひし言葉。

けーのーころごろ 名 古語 年月のたつこと。

けはし 嶮 形 道路の險阻のこと、山道の危きこと。

げーばしようぐん 下馬將軍 名 人名、德川時代江戸城門の下馬制札に依らざる將軍、即家綱將軍の時の大老、酒井忠清のことなり。

けーばな 毛花 名 古語 鳥の毛の散りて花の如しと云ふ意にて、多く鷹狩のときの言葉。

けーはなし 豁放 名 古語 濶なき敷居のことにて、門下にわきて内外の境界をつくるなり。

けはひーさか 假粧坂 名 地名 相州鎌倉の西部に在り。

げばーふだ 下馬札 名 德川時代江戸城門下に立てられたるより始まりしものにて、馬を下るべきを示す札なり。

けーはらひ 毛拂 名 硬き毛をたばねて、かたく木につけたるもの、塵を拂ふに用ゐ、英語のブラッシのことなり。

けはりーねずみ 毛針鼠 名 動物 喫齒類、土中に生活する蝟のことにて、全毛針の如きより云ふ。

けひーうがはる 氣比氏治 名 人名 勤王家、延元頃、越前の氣比神社の大宮司をつとめし彌三郎天夫のこと、後醍醐天皇、再度叡山行幸の時、敦賀城を築きて官軍に應援し、後皇太子、尊良親王、新田義貞を奉じて、金崎城に入りしも城陷りて親王に殉しけり。

けひきーにどし 毛引織 名 織の織方、毛糸を以て織したる織なり。

けひーじんぐう 氣比神宮 名 神社名 越前國敦賀郡敦賀町に在る官幣大社、御食津大神、仲哀天皇、神功皇后の三神を祀れるなり。

けーびと 食人 名 人名 古語 亡人の靈前に供ふる食物を取扱ふ人のこと。

けひーのーうら 氣比浦 名 浦名 越前國敦賀にある敦賀浦のこと。

けびん 屬賓 名 地名 今の北印度のカシミルなり、紀元二世紀の末、寒種が月氏に逐はれ、此地を畧す、紀前一世紀の末、大月氏寒種を此地にたぼす。

けーびやう 花瓶 名 佛具 錫、眞鍮等の金屬にて作れる花を立てるものなり。多く、紅黄色なり。

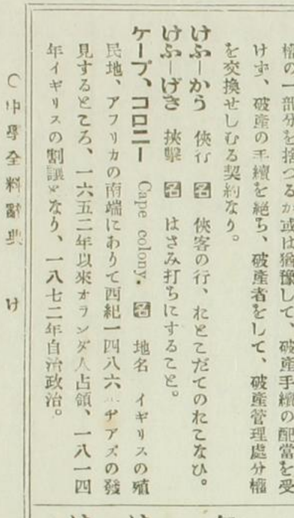
けびゐーし 檢非違使 名 役名 京にて惡民盜賊の惡のるとき、糾弘追捕し、非法を檢彈するの職なり、以前官吏裁判所なる彈正臺ありしも其權有名無實なりければ嵯峨弘仁七年檢非違使を置き給ふ。

けびゐしーちやう 檢非違使廳 名 役名 紀元年一四九〇年淳和天長七年之を置きて廳官を出し、衛府の追捕、彈正の糺彈、刑部の判斷、京職の訴訟等を司れり。

けびゐしちやうーのーべっとう 檢非違使廳別當 名 檢非違使廳の長官なり。

けーふ 狹布 名 地名、陸奥國の一村。

けふ 莢 名 植物 單子房よりなる果實、種子は内外縫線に附着し、内外縫線によりて裂開して種子を散布す。



げーふ 解部 名 官名 ときべにれなし。

けふがいーけいやく 協議契約 名 法律 債權者が、債權の一部分を捨つるか或は猶豫して、破産手續の配當を受けず、破産の手續を絶ち、破産者をして、破産管理處分權を交換せしむる契約なり。

けふーかう 俠行 名 俠客の行、わるこだてのわるこなひ。

けふーげき 挾擊 名 はさみ打ちにすること。

ケープ、コロニー Cape colony. 名 地名 イギリスの殖民地、アフリカの南端にありて西紀一四八六年ポルトガルの發見するところ、一六五二年以來オランダ人占領、一八一四年イギリスの割讓を受なり、一八七二年自治政治。

けふーさん 協賛 名 大衆の問題などに、同意して共に、力をつくすこと。

けふーじ 脇士 名 佛語 わきだちのことにて、佛の左右にある佛、觀音、勢至等の阿彌陀如來に從はれたるときなり。

けふじーのーぼさち 脇士菩薩 名 佛語 阿彌陀如來につきしたがへる觀音、勢至両菩薩のことなり。

けふーしよう 夾鐘 名 曆語 一、十二律中の二月の律、二、陰曆二月のこと。

けふーしよう 挾從 名 强迫的に屈服すること、心の堅からざるより、之をまげてつき從ふことなり。

けふーろく 脇息 名 わしまづきのこと、臂をかけて、體をもたれかかる爲め、小さき机の如きものに、皮をはりつけ、座の傍にわく道具。昔の人多く之を有す。

ケープ タウン Cape Town. 名 地名 ケープ殖民地キンバリー州の首府、商業盛なり、人口約八萬五千。(33.56S. 18.28E.)

けふちくーたう 夾竹桃 名 植物 灌木類、餅の如き葉、桃に似たる花を有す。

けふーのーせばゐの 希臘狹布 名 古語 幅の狹き白色の布にて、陸奥國希臘より産するを以て此名あり。

ケープブレトン Cape Breton. 名 島名 北亞米利加加奈陀の東海岸、セント、ローレンス灣口にある島。

げーぶん 外文 名 書名 古語 外院を採したる文書。

けふーぬい 莢迷 名 植物 木本、むくの如き葉、やまうつぎに似たる實、枝葉間に、黄色の花を開く。

けぶり 烟 名 一、火の烟、二、水のとびちりて烟の如く朦朧たるもの、三、かすかに、霞みて見ゆるもの。

けぶりーのーきり 烟桐 名 古語 琴のことを云ふ。

ケプレル Kepler. 名 人名 天文學者、西紀一五七一年、獨逸に出で、ケプレルの三大法則の唱導者たり。遊星の軌道、遊星の運動の法則は氏の發明によるなり。

ケプレルーのーほふそく Kepler's law. 名 天文 三則より成れり、卽ち、

1、遊星の軌道は楕圓にして其楕圓は何れも其の燒點を共同にす、太陽は其の燒點に在り。

2、遊星運行の際、動徑は同時間内に同面積を畫く、之により遊星の速方は近日點に速にして遠日點に遲し。

3、二遊星の平均距離の三乘數は此等遊星の公轉時の二乘數に比例す。

げへいーでん 外幣殿 名 伊勢山田の神宮にて、皇后陛下東宮の幣帛、國々の調物等を納むる所の名なり。

ケベック Quebec. 名 地名 英領加奈陀の州名、西紀一六〇八年佛國殖民地、一七五九年イギリス領となる。

ゲーベン Goeben. 名 人名 獨逸の將軍 西紀一八七〇年の獨佛戰爭の時、佛兵の堅守せしスピヘレン丘陵を取り、一八七一年一月十九日サンカテンにて、佛將フューデルブの北軍を全滅せり。

けべる-じう 名 舊式の鐵砲、外國より傳はりし小銃なり

げーぼくめん 下北面 名 階級 北面武士の六位下のものの總稱なり。

けーまん 華鬘 名 佛具 扁平體の輪の中に、蓮花などの造花を綴りて垂れたるもの、一の飾り品なり。

けまんーさう 華鬘草 名 植物 牡丹の小さき葉に似て、春季、淡白色の花を開く、一名、華鬘牡丹に同じ。

けーまり 蹴鞠 名 古の遊戯、用明帝の朝、支那より傳來し公家に行はる、飛鳥井家、難波家の二流は最も早く創まり、藤原爲家は一派を設けぬ、大化の頃中大兄皇子中臣鎌足等の法興寺にてなせしことわれば古きわそびなることは明なり、通常革に作れる鞠を、足にて蹴り上げ、又受くるなり、後其派によりて儀式正しく行ふに至れり。

けーみ 毛見 名 撿見のことにて、秋の成熟、不成熟を見て、年貢の高を定むること。

けーみち 褻道 名 馬術語 馬の足どりの方法に叶はず、普通の步調にて行くこと。

げーみやうぶ 外命婦 名 古語 婦人の稱、五位以上の官位を有せる人の妻君。

ケム Kem. 〔飯、謙〕 名 河名 クートノ湖、ニューク湖等の水を集めて白海に注ぐロシアの河、長さ約百哩。〔64.56N. 34.15E.〕

けーむ 動 過去の事柄を推量して云ふときに用ゐ、けん、けん、けめと働く、又形容詞の根源に從ひて、未來を想像するに用ゐ、からむの働きをなす、蓋しからむはくゐらむより出で來しなり。

けむし 梟 名 植物 草本、をあさのことなり。

けーむし 毛虫 名 動物 蛹類、全身に硬き毛ありて、褐色或は黑色を呈す、木にありて葉を食し、大に害をなす、毒を有し人の觸るるときはさす。

けーむし 毛虫 名 動物 わぶらむし等の如く、他物につきて離れざるもの。

ケムツ Kamtz. 名 人名 物理學者、ロシアの人、西紀一八一一九年ハルレに附きて法學を修め、後一八四一年、ドルパット大學理科大學教授となり、一八六五年に至り、ペテルスブルグ中央氣象臺の長官となりぬ。

ケムニツ Chemnitz. 名 地名 サクソニアの都會、綿絹布、織物等の製造盛んなり、人口約十五萬。〔50.45N. 15.0E.〕

けむりーかへし 烟返 名 土藏の戸前口にあるもの。

けむりーすいしやう 煙水晶 名 鑛物 煤褐色の水晶。

けん 鋸 名 一、つるぎ、鐵を鍛へて造るもの、二、他物を整すに用ゐる針の如きもの、多く蜂などの有するもの。

けん 腱 名 生理 一條の筋肉の兩端にある白色の強き紐あり之を稱して腱と云ふ、作用は筋肚の運動を骨に傳達するものなり。

けん 縣 名 地理 昔のあがたぬしの支配するところ、今は一地方廳の支配する土地の區分にて、日本國を四十三縣に分つ、他に一廳三府及臺灣あり、これを云ふ。

けん 乾 名 暦語 いぬゐの方角卽北方なり、又易の八卦の第一のことにて、天と定むるものなり。

けん 權 名 事物を處理するの能力あるを云ふ。

けん 謙河 名 河名 エニセイ河の上流、昔支那元の太祖の征せし斡亦剌部、乞兒吉思部等此の河邊にあり。

けん 鼎 名 人名 支那の帝、宋代度宗の子、當時宋は衰へ、文天祥、張世傑の豪者出でて、勤王に盡しも、遂に挽回の時機を得ず、伯顏の臨海に入るに及び、元に囚はれ

たり、西紀一二七五年、泰帝と謚す。

ケーン (Cen) 名 地名 フランスの都府、西紀一三四六年英王エドワルド三世に圍まれ、陷落す、一四一七年英軍に占領せられしも、一四五九年佛軍の恢復するところとなれり。

けん 軒 名 一、家屋の數をはかる單位、二、人名及家號に用ゐて、何々軒なと、書くなり。

けん 間 名 一、物と物とのわいさの意、二、六尺を一間とし、物の長短をはかる單位。

げん 弦 名 一、弓にはりたる細き紐、二、幾何(數學)圓の中心を過らず、直線がその圓周と二點にて交り、その圓にて切り取らる直線の部分を、その圓の弦と云ふ。

げん—あん 原案 名 第一着にかんがへたること、始めかきたるままの文案。

けんあん—の—しちし 建安七子 名 詩人 支那三國時代魏主曹操の子曹植と其友六人を云ふ、三國時代の學の華をなせり。

げんいう—いん 嚴有院 名 人名 將軍、德川四代將軍家綱卿の謚號なり、家綱は慶安四年三代將軍家光死して、天下の憂士由井正雪、丸橋忠彌等共謀して一時に所々に擧兵せしも、之を未發に防ぎ、一意治をはかりて天下を泰平ならしめたり。

げん 元 名 國號、支那梨古の忽必烈、至元八年國號を改め、明代建文四年其臣鬼力赤の、坤帖木兒を殺して國を去りたるまで凡そ十六王、百三十三年間の國號なり。

元室系圖

也速該—(1)鐵木眞—求赤
　　—(2)太宗(窩濶臺)—(3)定宗(貴由)
　　—拖雷—(4)憲宗(蒙哥)
　　—(5)忽必烈(世祖)—眞金—
　　—答剌麻八剌—武宗—明宗—東宗—昭宗
　　—成宗　　—文宗—寧宗—脫古思帖木兒
　　—仁宗—英宗

げん—うふ 源右府 名 人名 鎌倉幕府の創設者たる源頼朝のこと、平治の亂の時、父義朝は平氏の爲めに死し、頼朝は伊豆に流され、北條時政に寄る、漸く生長して、石橋山に兵を擧げ、平氏に敵對して之を敗り、其後幾多の大戰に勝利を得て、元暦二年紀元一八四五年、屋島の戰にて全く平家一族を滅し、鎌倉に幕府を立て、長く鎌倉に天下の勢權を掌らしめたり。

けん—うん 卷雲 名 地文 天空の高處に現はれ、纖維狀

若くは羽毛狀をなす白色の雲、微細なる雪片より成れりと考へらる。

げん—うん 眩暈 名 病名 逆上して目まいのすること。

げん—ぇ 玄慧 名 人名 僧、山門の學僧、經史法律に涉獵し、太平記の刪訂、庭訓往來の著書あり、僧は後醍醐天皇の侍講となり、足利尊氏、直義に寵愛を受け、建武式目制定に與りて力ありき。

けん—ぃい 卷纓 名 古語 まきぃいのことなり。

けん—ぃい 建永 名 年號 土御門天皇の御代の年號、紀元一八六六年なり。

げん—ぃい 幻影 名 心理 實在に對して云ふ語にて、感覺の錯雜、恐怖 刺激の强弱等によりて、物體ありのまゝを見ず、見誤りたる觀念を有し、又、全くなきものを有りとするが如きを云ふ。

げん—ぃい 元永 名 年號 紀元一七七八、九の二年にして、鳥羽天皇の時なり。

けん—ぃう 權要 名 大臣 高等官等の如く大權力ある人の位置なり。

げん—ぃき 現役 名 官役 軍人の現に服役したる間を云ひ、陸軍にては三年、海軍にては四年を以て通常とす、其將校、志願兵は此の限りにあらず、又戰時に於ても亦然り、

げんぃき—しう 現役囚 名 法律語 未決囚に對して云ふ語、既に公判の確定によりて、服役しつゝある囚人。

げん—ぃん 原鹽 名 鑛物 鹹水湖の涸渴して跡に殘れるもの、西藏、アラビア、サハラ等に產す。

げん—ねん 原音 名 物理 發音體の發し得る最低の音。

けん—が 懸河 名 地理 凡て急流の河を云ふ、蓋し懸はものの高きにかゝるを云ふより出でしなり。

けん—か 鹼化(作用) 名 化學 エステルの作用にして、エステルにアルカリを加へ熱すれば、金屬鹽と、アルコールとを生ずるによる、其反應次の如し。

1) $C_3H_5(C_{18}H_{35}CO_2)_3 + 3NaOH = (C_{18}H_{35}CO\ Na)_3 + C_3H_5(OH)_3$
(メルミチンサンのグリセリンエステル)(曹達)　(醋酸ナトリウム)　(アルコール)

2) $(C_2H_3)C_2H_3O_2 + NaOH = (C_2H_3OH) + Na\ C_2H_3O_2$
(醋酸エチル)　(曹達)　(醋酸ナトリウム)　(エチルアルコール)

げん—か 絃歌 名 音樂 箏、三味線などをひきて、歌ふことなり。

けん—かい 兼海 名 人名 高僧、名は淨法、密嚴第二世と稱せられ最も密嚴に精通し、密嚴尊者に師す、後その終る所を知らず。

けん—かい 狷介 名 不正義の行をせざる性質。

げん—がい 懸崖 名 山嶽のがけ、つきたつるところ。

げん—かいかく 〔全反射の〕限界角 名 物理 光線が密なる光媒中より疎なる光媒中に進入する時、漸次入射角を增して遂に全反射の現象を起さしむべき最小なる角を、全反射の限界角或は危急角といふ。

げんかい—がーしま 玄界島 名 島名 鷹島とも云ひ、九州筑前國中泊崎の北海中に在り。

げんかい—なだ 玄界洋 名 地名 筑前國の西北、長門周防の西の海の稱、元寇の時、元の怒、烈の大敗せしところ、明治二十七年七月、日露戰爭の際、日本の御用船、佐渡丸、以下敷艘、露國浦盡艦隊の爲めに大損害を蒙りし所なり。

けん—かう 權衡 名 權ははかりの玉、衡ははかり、故にものごとのつりあふことを云ふ。

けん—かう 乾綱 名 政綱にたなしく、政事のたはづな。

けん—かう 元弘 名 年號 紀元一九八一年より三年間、後醍醐天皇の御代。

げんかう—しやくしよ 元亨釋書 名 書名 推古天皇より以來七百餘年間の高僧の傳、虎關和尚之を作る。

げんかう—はん 現行犯 名 法律 現在行ひつゝあるか、又は行ひ終りたる時に、發定せられたる犯罪なり。

けんかう—ほうし 兼好法師 名 人名 僧、元、よしだけんかうと北條時賴との關係深かりしが、後吉野に入りて、薙髮して兼好法師となる、法師和歌を以て南北朝に名高く、徒然草の著書あり。

けん—かく 劍客 名 好みて劍をつかう人のこと。

げんがく 阮岳 名 人名 廣南の西山の土豪なり、阮福二氏の安南を爭ふに乘じ、其弟阮惠と共に廣南を亡ぼし、阮福順を殺したり。

けんか—しよくぶつ 顯花植物 名 植物、高等なる植物、開花結實し、種子にて蕃殖するもの。

けんが—の—べん 懸河辯 名 立板に水を流すが如く、滔々として述ぶることの出來る人、卽雄辯家のことなり。

げん—かん 阮咸 名 樂器 月琴のこと、これ支那晉代に、阮咸の始めしを以て此名あり。

げん—かーき 元嘉曆 名 年曆 我國人皇第三十二代推古天皇十二年正月よりの曆、元、東漢元嘉年間に成りし曆にして、我國にては儀鳳曆と併用し、最も古きものなり。

げん—き 元龜 名 年號 紀元二二三〇年より三年間にて、正親町天皇の御代、天正と併び稱し重要の年號。

けん—きう 建久 名 年號 紀元、一八五〇年より九年間にて、後鳥羽天皇の御代。

けん—ぎう 牽牛 名 天文 牽牛星のこと、一名彦星とも云ひ、北斗星と併び云ふ。

げん—きう 元久 名 年號 紀元一八六四年より二年間にて、土御門天皇の御代。

げん—きつ 元吉 名 人名 支那唐代高祖の子、太宗卽世民の弟なり、唐の天下を統一せしとき齊王に封ず、武德九年、兄建成と謀りて玄武門の變を起し、世民の爲め共に殺されぬ。

けん—きん 兼勤 名 二ツ以上の役目あるもの。

げん—きん 阮淦 名 人名 安南王黎氏の武臣、莫登庸、僭僞するとき、袁牢に往いて一郡を與へ、昭宋の子寧を擁して、清華州一府を治し、清に援を乞ふ、明乃ち至りしも淦の爲めに賂賄を取り、淦を援けず、後莫登庸の守將の爲め、毒殺せられぬ。

げん—きん 阮淦 名 人名 安南の人、莫登庸の主黎氏を殺すに當り、鄭檢と共に、黎氏を清華に奉じ、之を明に訴へ、莫氏と戰ひしも、安南を二分して、黎氏を南部王とす。

げんき—もん 玄輝門 名 歷史 內裏十二門の一、朔平門の後にあり。

げんき—もんゐん 玄輝門院 名 人名 後深草天皇の妃、伏見天皇の母、藤原愃子と云ひ左大臣實雄の第三女、正應四年、自性と稱し、年八十四にて死す。

げん—ぎやう 現形 名 佛語 顯形、化身と同じく、佛のかたちをあらはすこと。

けんきやう—じん 鉗狂人 名 書名 藤原眞幹の衒口發を論破せるものにて、本居宣長の著なり。

けん—きよう 祆教 名 宗教 火を以て善神とする、パクトリアのゾロアスターの開基による、蔥嶺以東に傳はりしが、南北朝の頃より、支那內地に入り、初唐には長安に祆祠を立てて、胡人に祀らしめたり。

けん—ぎよう 建業 名 地名 支那昔の首府、今の清國江蘇省玉寧府、西紀二二九年、三國吳王孫權の都、東晉瑯琊王睿の都、南北朝の南朝の宋、齊、梁、陳の都なりき。

けん—ぎよう 檢校 名 一、莊園の役人、伊勢神宮、及熊野三山、八幡、金剛峰寺、金峯寺の上首、二、德川時代の盲人の長の稱。

げん—ぐう 源空 名 人名 法然上人のこと、美作國稻岡に生れ、十九歲のとき法門に入り、天臺の教義を修め、承元年中淨土宗を創めたり、年八十、建曆二年一月二十五日

寂す。

げん—くん　嚴君　名　人の父を敬ひて云ふ言葉。

げん—くん　元勳　名　國家に力を盡して、功勞ある人、明治維新の元勳と云へば、伊藤博文、山縣有明、木戸孝允、西鄕隆盛等なり。

げんくうら—はんぐわん　源九郎判官　名　人名　源義經のこと、源頼朝の弟、義朝の第三子、幼名を牛若丸と云い、源氏再興即鎌倉幕府開設以前、所々に平氏の軍を破り、功勞實に大なりしも、猜忌わる頼朝の爲めに奥州清原秀衡の爲め殺されたり。

げん—くらべ　驗比　名　神佛に祈禱を競爭してすること。

けん—くり　懸果　名　植物　にんじんせりの如く、複子房よりなる乾燥せる閉果なり、二胞ありて各一種子を有し、熟するときは分離して果柄の両端より懸垂するものなり。

けん—くわ　堅果　名　植物　複子房よりなる複果の一種、果皮最も堅く、殼斗を有す、くりの果穗は苞の變形に外ならず。

けん—くわい　縣會　名　縣會議員相會して、地方稅の出入○方法を議する會合なり。

げん—くわい　元會　名　暦語　陰暦一月の稱。

げん—くわう　主黄　名　天地のことなり。

けん—くわ—かはう　喧嘩買　名　古語　唐犬五人男の類にて、元祿以來、暫時江戸に流行したる剛强助剧の輩の稱、鉢花、貝などを染め出したる着物をきたり。

けんくわ—しよくぶつ　顯花植物　名　植物　隱花植物に對して云ふ言葉にして、有花植物とも花ふ、凡て花を有する植物にて植物界中高等なるもの、もゝうめ、わさがは等皆此中に在り。

げん—くわん　主關　名　一、家の眞正面に作れる入口、二、禪宗にて、客殿に入ることを云ふ。

けんくうゑん　懸空園　Hanging Garden.　名　地名古　バビロニア王チプカドチッツァルの其妃の爲めに、高臺の上に造りし、世界七奇の一、園なり。

げんげ　紫雲英　名　植物　豆科草本、長き花梗の上に、繖狀の短かき總狀花序を生じ、蓮花に似たる帶紫色又は白色の花を開く、空田に生じ、翌年之を肥料とす。

けん—けい　阮基　名　人名　廣南の西山の土豪なり、始め弟阮岳と共に兵を擧げ、廣南を亡ぼし、交趾を定め、東京を陷れて大越を併せ、遂に安南を一統せり、清軍東京王を援ふを以て、清軍と戰ひ之を破りしも、尋で和し、清に朝して、冊封を受けたり、

げん—けい—しつ　原形質　名　植物　細胞含有物中最も。重要なるものにして、質柔軟、透明の半流動體又は顆粒狀を呈し、生活力を有して植物體中凡百の生理作用を司る。炭酸、水、窒素、硫黄、燐の各元素より成り、化學的反應は、沃度に逢ひて褐色、强硫酸に遇ひて薔薇色を呈す。

げん—げつ　支月　名　暦語　陰暦九月のこと。

げん—げふ　現業　名　官省の實地の業務、郵便局の郵便物發送の類を云ふ。

けん—げん　權限　名　許されたる權利の範圍内。

けん—げん　乾元　名　年號　紀元一九六二年、後二條天皇の御代。

げんげん—しふ　元元集　名　書名　天地開闢より伊勢太神宮の由緣、地神出生、神器の傳授法の起原をあらはしたるもの、北畠親房卿の著作なり。

けんげん—たいはう　乾元大寶　名　貨幣　銅貨、村上天皇天祿二年の鑄造。

けん—けん—と　塞々　副　一、汲々と働くこと、二、足の不自由なること。

けん—けん—と　涓涓　副　水及涙などの滔々と流るゝさまを形容して云ふ語。

けんけん—ろく　獻喧錄　名　書名、和漢說を漢字を以て隨筆したるもの。

けん—こう　獻貢　名　調度を官に差上ぐること、昔三韓征伐せられたるときより以來、朝鮮よりみつぎをせしなどのことなり。

げん—こう　元弘　名　年號　紀元一九九一年より四年間、後醍醐天皇の御代。

げんこう　阮潢　名　人名　阮淦の子なり、西紀一五九三年鄭氏が莫氏を亡ぼし、國政を擅にするを怒り、順化廣南により、西紀一六〇〇年自立廣南王と稱し、鄭氏と雄を爭ひたり。

けん—こう—たい　肩胛帶　名　生理　上肢骨の一部、二個の骨より成る、其一はS字形の長骨、胸廓上端に在りて、尖端は胸骨に接し鎖骨となる、其二は三角形扁平の骨にして胸の後上部に在りて鎖骨及上膊骨に連りて肩胛となる。

げんこう—の—らむ　元弘亂　名　歷史　後醍醐元弘年中起りし戰爭、源因は天皇、嘉暦元年皇太子邦良親王薨じ給ひしかば護良親王を立てんとし給ひしに北條高時之を聽かず、乃ち天皇は護良親王と鎌倉征伐を企てられしにより發す、高時之に先んじて、京都に侵入せしかば官軍遂に敗られ

たり、此時天皇は隱岐に流され給ひき、之を元弘の亂と云ふ。

げんこうもん 元好聞 名 人名 遺山と稱す、金の末、元の初、詩文を以て有名なりし人なり。

けんごーがく 言語學 名 各國の言語の根本を講究するの學問なり。

げんーこく 原告 名 法律 原告人の略にて、訴訟を起したる人を云ふ。

げんごーひけつ 源語秘訣 名 書名 源氏物語中の第十五ヶ條の秘說にて、一條禪閤兼良の著したるもの。

けんーこん 乾坤 名 天文 一、天地、二、いぬい、ひつじさるの方向を云ふ。

けんこんーつうはう 乾坤通寶 名 貨幣 銅貨、後醍醐天皇建武元年の鑄造。

けんーごろう 龍蓋 名 動物 節足動物、昆虫類、體は扁平にて水中を潛行するに適す、觸角は十二節より成りて、複眼の前方に生じ、糸狀をなして昆虫の特徴をあらはす、性劫掠なれば、他の昆虫及生肉片を以て、飼養し得。

げんごらうーぶな 源五郎鮒 名 動物 魚名、近江湖水に特産の鮒なり。

げんごらうーむし 源五郎虫 名 動物 趙趙類、體黑色、池又は小川に棲み、あたたきとき、とびありき、よく泳ぐなり。

けんーさい 賢宰 名 かしこき宰相、よき總理大臣。

げんざいーかんせい 現在完成 名 文典 事の今完成したること、成就したることをあらはすものにて、助動詞、つ、ぬ、たりを以て其意を示すなり。

げんーさいばん 原裁判 名 法律 第一番に審判したる裁判のこと。

けんーさう 喧噪 名 さわぎたてること。

けんーさう 儉相 名 すでみにびたるかはつき、人相のするどきかはつきの人。

げんさうーたいやう 幻巢太陽 名 地文 太陽が異形、重出或は銅色に見ゆる現象、旭日、夕陽に起る、水蒸氣塵芥の多量に起因す。

げんさうーたん 玄霜丹 名 藥名 九轉丹の一にて、昔用ゐられしもの。

けん—さき 劍先 名 一、つるぎのさき。二、伊勢太神宮の神符のこと。三、星の一つ、はぐんせいを云ふ。

けんさきーふね 劍先舟 名 つるぎの端の尖りたる如く、舟の端の尖りたるものを云ふ。

けんーさつ 撿察 名 撿はしらべること、ぎんみすること、察はかんがへること。故にかんがへてしらぶること、

けんさつーくわん 撿察官 名 役名 撿事のこと。

げんーさま 還樣 名 法師のことを云ふ。

けんーざん 建蘭 名 茶家に於ける天目の一種、極めて上品なるもの、こと。

けんーざん 撿算 名 數學 運算の結果、正しきか、誤りなるかをしらぶる算法。

けんざん 兼山 名 人名 學者、野中兼山のこと。

げんーざん 見參 名 けんざんともよみ、凡て、人に面會すること。又、御目にかけることの意あり。

げんざんーのーいた 見參の板 名 古語 鳴板とも云ふ。清涼殿に在りて、板一枚を釘付にせずして、人の蹈むに當りて、音あらしめ、昇殿の時に、人に知らしむるもの、孫廂と、落板數との間にあり。禁秘抄弘廂の條に「北有二荒海障子一、南方手長足長、北面障子、綱代墨繪也。二間與二上御局二之際、昆明池障子云々。南の切妻有二鳴板一。見參松」とあり、卽ちこれなり。

げんざんみーよりまさ 源三位頼政 名 人名 源頼政は三位なりしより此名あり。

けんざんーやき 乾山燒 名 陶器 京都嵯峨の人、元祿年中出で、嵯瀧山邊の土を用ゐて創製せし陶器、樂燒にて雅致あり、乾山とは、作りし人の緒方乾山なると、鳴瀧は、王城の乾の方に當るよりかく名けたり。

けんさーやく 檢査役 名 役名 銀行、會社の會計檢査をなす人。

けん—ざた 間竿 名 多く木にて竹の如く作りたるものにて、土地の廣狹面積の間數をはかるもの。

けん—し 劍士 名 劍客にたなしく、劍をつかう人。

けん—し 卷鬚 名 植物 葡萄等の如く、枝の變形して絲の如くなりたるもの、「げんしゆ」ともよむ。

けん—じ 謙辭 名 けんそんの語のこと。

けん—じ 檢事 名 法律 裁判所の官吏にして、國家の代表となり、上訴權を實行するもの、又國民の犯罪を取り調べて、訴ふるの職務あり。

けん—じ 劍璽 名 三種神器の二、劍は卽ち草薙劍にて、以前叢雲劍と云ひ、素盞嗚尊、出雲に下り給ひし時、大蛇を退治して、其の尾より得給ひしもの、景行天皇の皇子、日本武尊、蝦夷征伐の時、賊の爲め、火攻めせられし時、此劍を以て草を薙ぎ、難を免れ給ひしかば、改めて草薙劍と云ひ、尾張熱田神宮に祀れり。璽は八尺瓊曲玉のことにて、天照太神の、皇孫瓊々杵尊に授け給ひしもの。

げん—し 元史 名 書名 支那二十一史の一、本紀四七卷

、志五三卷、表六卷、列傳九七卷より成り、明の文豪の宋濂によりて稱せらる。

げん—し　原子　名　物理　諸元素の成分たるもの。

げん—し　幻師　名　魔法つかひのこと。

げん—し　元己　名　暦語　陰暦三月三日のこと。

げん—じ　源氏　名　一、源氏(みなもとうぢ)のこと、二、源氏物語の略。

けん—しう　献酬　名　宴會などのとき、盃をとりかはすことを云ふ。

げん—しう　元修　名　植物　草名、いぬつらめのこと。

けんじ—うち　源氏打　名　武具　やまとうち、のことにて、一枚づつ、上下にくひちがはせて、かさねたる鎧などの打ち方。

げんじ—にくいり　源氏奥入　名　書名　源氏物語の註釋、藤原伊行の著書。

げん—しか　原子價　Valency.　名　化學　各元素の當量を以て、其原子量を除したる高を云ふ、而して、當量と原子量と同一なるもの卽ち水素、瓦素等の如きものを一價元素と稱し、順次商の大なるに從ひ、二、三、四、五價原子價と云ふなり。

けんじ—きん　元字金　名　綱吉將軍の時、年號元祿の元の字をとりて鋳せる金貨にして、皆金銀銅の合金なり、當時諸貨を改鑄し、惡幣を作り、以て財政の困難を救ひたり、

げんじ—ぐわいでん　源氏外傳　名　書名　源氏物語の正しきもの、淫猥ならざることを論せしもの、熊澤蕃山の著。

けんじ—せい　検事正　名　官名　地方裁判所に於ける上席の検事。

けんじ—そうちやう　検事總長　名　官名　大審院に屬する、上席の検事。

げんじたくぼく　源氏琢木　名　武具　鎧の藏し方、龜甲の表、矢筈の裏のかひつくりを、たくぼく糸にて結び付けたるもの、古最も上等のものとせられたり。

けんじ—ちやう　検事長　名　官名　控訴院に於ける上席の検事。

けん—じつ　兼日　名　期日より前の日のこと。

げんじつ—は　現實派　名　哲學の一派、理想派に對して云ふ語にて、現在實物に、基本をおきて論説するものを現實派と云ふなり。

げんし—どうぶつ　原始動物　名　動物　原生動物に同じ、

げんし—はふいん　支師法印　名　人名　細川幽齋のこと、細川は桃山時代の歌人、武の心得ありき、古今集の秘傳を作る、かつて石田三成に、丹波に圍まれたるとき、天皇の

詔勅を以て援けられたるを以ても、如何に幽齋の人物なりしかを知るに足らむ。

げんし—ねつ　原子熱　名　化學　金屬元素及其他の關體を取りて地熱を測り、それに單體の原子量を乘じたるものは、常に六・四に近きこと經驗上明なり、これを稱して原子熱と云ふ。

けん—しん　顯心　名　佛語　八大地獄の一。

げん—しん　現身　名　佛語　現在の身、人間に生れたる身。

げん—しん　源心　名　人名　高僧、法華經に精通し、永承三年、叡山座主となり、年八十三寂す。

げん—しん　源信　名　人名　高僧、和州葛木郡の人、卜部氏と云ふ、慈懸大師に事へて、顯密二教を研究す、一乘要訣、叡宗二十七疑の著書あり、年七十六寂す。

げん—じん　支參　名　植物　草本、青色の莖、鋸齒狀の刻みある長き葉、初秋、青黄色の花を咲く。

げん—じん　原人　名　蒙昧混沌たる世の人、未だ發達せざりし境界にある人を云ふ。

げん—しんき　檢震器　名　天文臺に備へ、地震の强弱をはかる器械。

けんしん—もんゐん　顯親門院　名　人名　伏見天皇の宮人、四條帝を稱す、左大臣藤原冒雄の女季子なり、延元元年、年七十二にて薨ず。

げんじ—ものがたり　源氏物語　名　書名　一條天皇の朝、紫式部の、中古諸紳間の有樣を國文小説にかきしものにて全部、五十四帖より成る。

げんじものがたり—ひやうしやく　源氏物語評釋　名　書名　源氏物語の註釋、萩原廣道の著書なり。

けん—しや　縣社　名　神社の格　府社の次ぎにて、村社卽鄕社の上にあり。

けん—しや　縣車　名　官を去ること、是れ辭職すれば車をかけて使用せざるより起る。

けん—しやう　憲章　名　たきて、さだめかきのこと。

けん—しやう　勸賞　名　功勞あるものに賞與すること。

げん—しやう　現象　名　心理　肉體の變化してあらはれたる形。

げん—しやう　眼象　名　飾りのために、器物にわけたる穴などを云ふ。

げん—じやう　支上　名　古器　はるがみとて稗琶の一種仲々の名物なり。

げん—じやう　勸賞　名　けんしやうに同じくして古き讀みかたなり。

げんじやう—くわいふく　原狀回復　名　法律、不變期間

に、懈怠したりし訴訟法を、更に法律定規に照して、訴訟行爲の遂完をなすことなり。

けんしやう—だう 顯章堂 名 舊殿名 太極殿の東南にあり。

げんしやう—てんわう 元正天皇 名 人名 人皇第四十四代、元明天皇の子、奈良七代の第二の天子、御名を氷高と申す、在位九年間、壽六十にて薨ず。

けんしやう—の—さうじ 賢聖障子 名 支那三代より唐までの聖賢名臣の像三十二を巨勢金岡により畫かれたるを、內裏の南殿の御ふすまにはりしを以て此名あり。

げんじやう—らく 還城樂 名 一、舞曲名、及其に用ゐる假面、二、武具、頰當なり、是れ皆西域人の倉皇するの樣を擬せしものなり。

けん—じやく 劍尺 名 刀劍 門戶、佛像を計る爲め作られたるものさしにて、曲尺一尺二寸を、八區分したるもの。

けんしや—の—よはひ 懸車齡 名 歲八十のこと、これ、昔年齡八十歲に至りて官を止めしが故なり。

けん—じやり 劍舍利 名 鑛物 劍端の如き形の鑛物の總稱。

けんしゆ 卷鬚 名 植物 けんしにれなし。

けん—しゆ 黔首 名 一般の人民の總稱、天皇陛下の詔勅等に見ゆ、百姓の意義なり。

けん—じゆ 兼壽 名 人名 高僧、本願寺の住僧、見眞大師第八の孫、蓮如と號し、中興大師とあがめらる、當時宗教の中にて最も廣く盛んに行はれたり、始め寺を山科にたきしも、後大阪に移し、明應八年三月二十五日、年八十五歲にて寂す。

げん—しゆ 元首 名 一國の君、卽、天皇のことを申す。

けん—しゆつ 檢出 名 化學 定性に同じ、化合物中の元素、根等を見出すことなり。

けんしゆ—せう 見鯉消 名 植物 草本、紫色の莖、桑に似て紫色の葉を有する二三尺の植物にして、藥用とせり。

けんしゆん—もん 建春門 名 左衛門の陣のことにて、內裏の內廓十二門の一、宣陽門の前にあり。

けんしゆん—もんゐん 建春門院 名 人名 後白河天皇の皇后にて、高倉天皇の母君、時の兵部少輔平時信の女、滋子と申しき。

けん—しよう 顯證 名 法律語 判決するに證據をつくらむとて、裁判官の、係爭物を檢すること。

けん—じよう 兼仗 名 役人 中古に於て、太宰帥、鎭守府將軍、按察使等の隨行員を、武士中より選拔せしもの。

げんし—よう 原子容 名 化學 蒸氣態に於ける元素の原子量を密度(比較的)にて除したるもの。

けん—しよく 顯職 名 樞要の位置を占むる人の官職、高貴の官職を云ふ。

げん—しよく 原色 名 物理 赤、綠、紫の三色を云ふ。此等を適當の割合に混ずれば白色及其他如何なる色も生ず、されど、如何なる色を用ゐるも此三色を作りがたし、故に之を原色と云ふ。

げんし—りやう 原子量 名 化學 原子量とは(一つの元素の原子量とは)其の元素を含む諸物質の一分子中に存在する其元素の量を總べて整除し得べき、最大の量なり。

げん—ずう 勝藩 名 人名 支那明代世宗の信任を受く、賄賂を貪る、賢能を斥く、會銃の如き、蒙古の阿爾坦汗の、狹西、山西に寇せし時、大功ありしものを殺す等の不法行爲ある爲め、將士の怨恨を招き、明室大に之が爲め衰頹せり。

ゲンスボロ Gainsborough. 名 人名 畫工、西紀一七二七年、英國サフォークのサドベーリに生る。

けん—すゐ 建水 名 みずこぼしのこと。

げん—すゐ 元帥 名 軍の大將にて、第二ケ師團を支配するものとす、現今の、山縣有朋、大山巖、樺山資紀等皆然り。

げん—ぜ 現世 名 佛語 後世、前世に對してこのよ卽ち娑婆のことを云ふなり。

けん—せい 牽制 名 壓制せられて、自由にならぬこと、ひきつけて、自由にせぬこと。

けん—せい 建成 名 人名 唐高祖の長子、太宗の兄、元、皇太子なりしも、素行修らざるを以て廢せられたり、乃ち弟元吉と謀り、玄武門の變を起し、西紀六二六年殺さる。

けん—ぜい 元政 名 人名 高僧、菅原日政のことにて、京都に生れ、彥根侯井伊直孝に仕へ、後江戶に行きて、妙見寺日豐上人に仕ふ、國學、和歌、茶法に精し、淺草瑞光寺に住み、寬文八年、年四十六死す。

げん—せい 現成 名 人名 奇僧、江戶の人、貧民救助を以て樂みとす、弘化四年寂す。

けんせい—うんどう 牽制運動 名 戰術語 戰爭の時、或地を攻めむ爲め、又は攻められたる場合に、陽に、相手の勢力を割かむとする法なり。

けんせい—くわん 乾政官 名 役名 淳仁天皇の朝、一時改めし、太政官のことなり。

げんせい—どうぶつ 原生動物 名 動物、最も下等動物にして、其の始め原形動物より啓發せし、單純なる體制にて到底肉眼を以て見得べからず、形態は種々あれども皆一個の細胞より成り、器官は、原形質の分裂より生ずる種細胞

動物の如きものを有せざるなり。

けん—せう 顯昭 名 人名 僧、藤原清輔の弟、和歌を能くし、僧の寂蓮法師と友とし善し、相會する毎に抗論して止まず、獨鈷頭昭、蟾頭寂蓮と稱せらる。

げん—せん 元選 名 人名 僧、後醍醐天皇の皇子、元に入りて、福州高仰山檢友の法を嗣ぐ。

げん—ぜん—と 泫然 副 形狀語 涙のひとく流るるさま。

ゲンセリク Genseric 名 人名 王、西紀四〇六年西班牙ヒビリアに生れ、バンダル王となりし人、バンダル王國建設者ゴテギセルスの子なり、四二九年、アフリカのマウレタニアを略し、ローマの將軍ボニファチオを、ヒポレギウスに圍み、四三五年ローマと條約を結び、ヌミヂア、ムカレチアを得、四三九年カルタゴ占領、又ローマに侵入して平和條約をなす、其領土、シチリア、サルヂニア、コルシカ、パレア、スレース、埃及及小亞細亞の虜きに達せり、四七七年沒す。

けん—ず 見證 名 古語 見物しながら、批評することを許さざること。

げん—ろ 元素 名 化學 元素とは化合物及單體の成分なり、現今地球上の元素は合計七十三種ありて之を、非金屬、金屬の二區別とす。

けんろ 憲祖禡壇 名 人名 阮禡壇を見よ。

けんろう 憲宗 名 人名 明帝にして、英宗の子なり、宦官汪直等を用ゐ、失政の聞あり、在位二十三年。

けん—ろう 憲宗 名 人名 元の太祖の四子拖雷の子、四代の大汗なり、初め、紀元一二三六年拔都の西征に從ひて匈奴を打ち、定宗貴由の死するに當り、クリルタイに推され、一二五一年大汗に卽位す、後弟忽必烈をして西南方を征せしめ、親ら宋の四川を下し、合州に至りて死す、時に一二五九なりき。

けん—ろう 顯宗 名 人名 高麗太祖建の孫にて八代の王たり、權臣に、康兆ありて契丹の聖宗の爲め親征軍に圍まれたるとき羅州に走り、その命に服從せずして、鴨綠江、東六州を還付せざりしかば再び聖宗の大軍に攻められ、萊陀二河に敗走す、王此時酌すべからざるを知り、降を乞して一意治を圖り、崇賢好學せしかば、國大に治まれり。

げん—ろう 玄宗 名 人名 唐代睿宗の子、高宗に次ぎて卽位す、初め、中宗の末、韋后の亂を平げ、父睿宗を立たしめたり、卽位後は、勵精治を圖りしかば、富國强兵の策を得、開元の治と稱せらる、然れども後、政治を怠り、奢侈に耽りて國用足らず、奸人李林甫を相とし、楊貴妃を寵せしかば、安祿山の亂を起さしむるに至り、在位四十三

年にて死す。

げん—ろう 元宗 名 人名 朝鮮高麗王高宗の子、高宗の、元の憲宗に臣附するや、質として元に往く、後王位に卽きたり、元の忽必烈日本を招致せんとして、元宗に國書を奉致せしむ、西紀一二七四年、元の至元十一年死す。

げん—ざう 玄奘 名 人名 高僧、唐朝の人、貞觀三年、印度に往き、十七年を費して五天竺を跋涉し、經論六百餘部を持ち來り、七十四部千三百卷を譯出す、又法相を始む世に三藏玄奘と云ふこの人なり、蓋し三藏とは、經、律、論の三を云ふなり。

けんろう—てんわう 顯宗天皇 名 人名 人皇第二十三代の天皇、弘計王と申し、市邊押磐皇子の子、紀元一一四五年卽位し給ひ、年三十八崩じ給ふ。

けん—ろく 奉東 名 他人の論などに相反すること、拘泥することなり。

げん—ぞく 俗 名 俗にかへることにて、僧の通常の人になるを云ふ。

げんぞく—しやうぐん 還俗將軍 名 人名 足利義教のことにて、鎌倉管領足利持氏の云ひし言葉、これ、義教の、元青蓮院の僧なりしに、義持の死すに當り、還俗して其後を承けたるによる。

げんろく—どう 減速動 名 物理 加速度（不等速運動に於て）時々刻々、方向及大さを變更するその速度の變化の割合の漸々減少するを云ふ、例へば石を空中に揭ぐるときは、石の進むに從ひて、其力を減じ、遂に消滅して失落するなり、これ減速動の一現象なり。

げんぞく—の—みや 還俗宮 名 人名 北陸宮を見よ。

げんろ—ぶんせき 元素分析 名 化學 化合物中の元素を見出す爲の分析。

けん—だい 兼題 名 歌をよましむるに、數日前に出す題を云ふ。

けん—たい 肩帶 名 生理 肩胛帶に同じ。

けん—たう 見當 名 一、目的或は心あての意、二、銃に於ける照星のことを云ふ。

げん—たう 現當 名 佛語 現當二世の教と云ひて、現在と、未來とのこと。此の娑婆界と、彼の世とのこと。

けんたう—し 遣唐使 名 役名 昔日本より唐土に遣せし官にて、大使副使ありき、舒明天皇二年、犬山御田鍬、藥師惠日が命せられたるを始めとし、醍醐天皇寛平七年、菅原道實の上奏にて廢せられたり。

けんだう—しき 献室式 名 耶蘇教語 教會堂の新築を祝ひて、神に立てまつる式なり。

ケンタッキー Kentucky. 名 地名 合衆國オハイオ流域の南に在る州、土地豐饒にて亞麻、煙草の產出最多し、州の二分の二以上は秦皮、胡桃、欅の森林なり、工業も盛なり、人口約百八十六萬、首府はフランクフォートと云ひ人口八千あり、此州を貫流する河に同名の河あり、カンバーランド山より起りオハイオ河に合す、長さ二五〇哩あり。

けんたん—しよく 檢斷職 名 役名 後世の町奉行にて、以前檢斷のことを司りし人の職官なり。

けん—ち 軒輊 名 事物の優劣なり。

けん—ち 建治 名 年號 紀元一九三五年より三年間、後宇多天皇の御代。

けん—ちう 繃釉 名 織物 絹紬のこと、天蠶の糸にて、織りたる支那よりの舶來品なり。

げん—ちう 原蟲 名 動物 根足虫類、鞭毛虫類、胞子虫類、纖毛虫類を含み、他動物の體內に寄生するもの、淡水、鹹水共に頗る無數に產出す。

けん—ちやう 建長 名 年號 紀元一九〇九年より七年間、後深草天皇の御代。

げん—ちやう 原腸 名 動物 「ヒドラ」の腔腸の如く、複細胞動物の、發生の初期環狀物を生じ、一方陷入して生ずる空所。

けんちやう—じ 建長寺 名 寺名 相摸國鎌倉郡小阪村大字山內に在り、建長五年北條時賴の建立、宋の大覺禪寺道隆を開山とす、現今禪宗の本山として一管長、教授、專門道場あり、北條眞時の朝一寧國師來朝して此寺にあり、寧一山と號す、而して庭園を作る、是れ幽邃の山水の摸せし最初なり、足利義滿の時、鎌倉五山の第一位と定められぬ。

けん—ちゆう 檢註 名 古語 考へ、けんだん等の意。

げん—ちゆう 元中 名 年號 紀元二〇四四年より九年間、後龜山天皇の御代。

げん—ちゆう 現住 名 一、人の現に住める地、二、寺院に於ける現在の住職の代名詞。

けんちゆう—じ 建中寺 名 寺名 名古屋市筒井町に在り慶安四年、德川光友の創設にかゝり、阿彌陀如來を本尊とせらる淨土宗の寺、廟墓の開祖、奥德山と號せり。

げんちゆう—しふゐ 源註拾遺 名 書名 源氏物語の註釋僧契沖の著書なり。

げんちゆう—よてき 源註餘滴 名 書名 源氏物語中の言語の解釋、石川雅望之を撰す。

げん—ちよ 玄猪 名 動物 獸類、黑ゐのこのことなり、

けん—てい 檢定 名 改正して、善惡を定むること。

けん—てい 獻帝 名 人名 帝、支那東漢十二代卽末帝。

董卓によりて立つ、董卓威を恣にし、天下亂る、帝洛陽に遷き、曹操による、後三國(吳魏蜀)鼎の如く天下を三分するに至り全く實力を失す、西紀二二〇年、曹操の子丕、帝に逼りて其禪を受く。

げん—てい 元帝 名 人名 帝、支那前漢八代卽末帝、宦官石顯、外戚史高等と黨をなし、蕭望之等を斥けたるも帝優柔にして加何ともせず、爲めに在位十六年間にて漢室滅亡せり。

げん—てい 元帝 名 人名 帝、支那三國魏の文帝の姪、司馬氏によりて卽位す、されば國家の政權は實際、司馬氏に在りて、司馬炎帝の爲め、西紀二六四年、位を讓り、乃ち魏滅ぶ。

けん—てき 涓滴 名 一、雨のしたゝり、二、鎭細なること、少なることを云ふ。

けん—てん 圈點 名 文章中に要點及妙所あるとき其字の傍に、◉○◎、△等を打つもの。

けんでん—き 驗電器 名 物理 驗電氣とは物體に電氣の起りたるや否やを認むるための器械にて、圓の如く電氣振子と、金箔驗電氣の二種、甲、一の曲管(硝子)を硝子瓶の口栓に挿入し、極めて乾燥したる細き絹糸にて木髓球(ニハトコ)を曲管の端に結び、小球に發電體を近づくれば吸引せられて、やや久しくすれば、排斥して去る、乙は、硝子球中に二枚の金箔を垂したり、電氣を通ずれば、金箔開き、長用すれば又閉ぢ、是れ電氣の性質は、異名の極は相吸引し、同名の極は相反排すればなり。

ケント Kent. 名 地名 英國の東南端の一群、西紀八二三年サクソニー王國に合併せられ、第九、十、十一の三世紀は、丁抹人の來寇常に絕ひざりき。

げんと 玄菟 名 地名 朝鮮國咸鏡道の地、此地元、支那西漢の武帝、元封三年朝鮮の衛右渠を亡ぼして置き它る四郡の一、東漢の末、公孫度此地を領し、後司馬懿、公孫淵を滅して、此地に居る。

ゲント Gent. 名 地名 白耳義國の一市、ブラッセル四方、和蘭獨立戰爭の時、其の十五州、此地にて、ゲント條約を締結せし所なり。

げん—とう 幻燈(器械) 名 物理 凸レンズの應用にして圖畫を、强光の反射、風拆、擴大等の裝置に器械を作りて投影せしむるもの、現今行はるる活動寫眞も亦此れに外な

ら寸、唯、暗箱内に長帶の薄膜上に強き感光劑を塗りて、特殊の裝置にて之を動かし、活動する物體を撮影し、毎秒數回の割合にて、短時間を隔てたる物體の狀を表はす者、數十枚を作り、此を幻燈器械に入れ、撮影せし時の速度を以て、動かし投影すれば、像の活動する如く見ゆるなり。

げん—とう 舷燈 名 ふなばたに、ともす火なり。

げん—とう 減等 名 法律 四人の罪を輕くすること。

げざう—はふげん 玄同放言 名 書名 見聞したることを、諸書より引用して考證したる本、曲亭馬琴のものせしなり。

けんとく 建德 名 年號 紀元二〇三〇年より二年間、後龜山天皇の御代。

げんとく 元德 名 年號 紀元一九八九年より二年間、

げんとく 玄德 名 人名 王、支那三國の蜀の昭列帝のこと、劉備と守す。

げん—とさく 源都督 名 人名 太宰權帥の源經信のこと、都督は、權帥の唐名なり。

けんどん 名 家具 戸棚の一種、上下又は左右に溝ありて戸の自由にはめはずしの出來る樣に、こしらへたるもの。

けん—どん 絹緞 名 織物 絹紬の一種にて、どんすに似たり。

けん—なう 献納 名 献上に同じく、さしあげ奉ること。

げんな—ねんぶ 元和偃武 名 歴史 元和時代に至り、元龜天正以來の兵乱始めて熄み、全國德川氏の政に服從せしことを云ふ。

けん—なん 險難 嶮難 名 一、刃物に罹りたる災難、二、山道などのけんそ(險阻)なること。

けんにん 建仁 名 年號 紀元一八六一年より四年間、土御門天皇の御代。

けん—にん 兼任 名 役名、二つ以上の職に、兼ね任せること。

けん—にん 堅忍 名 意志 極めて堅く、物事に堪へ忍ぶこと。

げんにん 元仁 名 年號 紀元一八八四年、後堀河天皇の御代。

けんにん—じ 建仁寺 名 寺名 京都市縄手通四條下る建仁寺町に在り、京都五山の第三位、開祖は、後鳥羽天皇の初め、入宋して、禪宗の教旨を修め、歸朝して、禪宗の教を本邦に弘通せし千光國師榮西禪師達人なり、當寺開北朝の僧侶、非常なる勢力を有し、榮西を排斥せしかば、土御門天皇の詔勅により、建長三年、此處に創建せしものなり、是れ、禪宗濟家派の本山にして、禪宗あるの始とす。

けんにんじ—がき 建仁寺垣 名 桓根の作り方、割竹を皮の方を外向にし、平たく並べ結ひたるもの。

けんにん—ふばつ 堅忍不拔 名 不撓不屈なると同義にして、意志堅固、物事に屈せざるを云ふ。

げん—ね 名 こころのこりのこと、遺憾なること。

げん—のう 玄能 名 工匠具 鐵にて木の柄のつきたるもの、釘を打つに用ふ、けんをうにたなし。

げん—の—しか 元の四家 名 人名 支那元の文人、虞集、揭傒斯、范梈、揭溪斯をいひ、又、虞、揭、范、揭とも稱せらる。

げん—の—しようこ 飛牛兒 名 植物 草本、長さ一寸ばかりの齒鋸狀の刻みある葉、夏季、淡紅の花を開き、莢の熟するときは、裂けて卷きあがるなり、みこしぐさと云ひて、藥用とす。

げん—の—ほくせん 元の北遷 名 歴史、元の末帝順帝の至正二十七年、朱元璋なるもの、當時四方に割據せし群雄を平定し、其勢、益强大に赴き、遂に元に侵入し、之を伐つ、乃ち元軍防守盡せりと雖も、敵せず、大に敗られ、大都を捨てて、北方開平に走る、時に西紀一三六八年なりき、之を元の北遷とは云ふなり。

けんのん—しやう 名 憶測なること。

けん—ば 犬馬 名 一、いぬとうまとのこと、二、極めて卑賤なるものの、たぐひと云ふ意。

げん—ば 玄蕃 名 玄蕃寮の官吏を云ふ。

げん—ば 名 大桶のこと、火災などのとき、水をはこぶもの。

けん—ぱう 健忘 名 病氣の爲め、能くものを忘るること、司空圖の詩に「齒落傷脣久、心驚健忘頻」とあり。

けんぱう 建保 名 年號 紀元一八七三年より六年間、順德帝の御代。

げん—ぱう 玄昉 名 人名 僧、南都興福寺の住僧阿刀氏のこと、靈龜天皇二年勅命によりて入唐し、法相の學を修めて歸朝せり、大に朝廷の用ゐるところとなりしも、天平八年六月、住所を去りて、其往くところを知らず。氏譬て、義淵法師に就き、唯識の學を修めたりき。

けん—ばく 建白 名 建白書の意、意志を政府に向ひて表すること。

けんばく—いどう—の—べん 堅白異同辨 題 泰强附會して、是を非とし、非を是とすること、堅白とは、堅と白を離し、異同とは同じき者を異ならしむるもの、莊子に「公孫龍問ニ魏牟一曰、龍少學ニ先王之道一、長而明ニ仁義之行一、合ニ異同一離ニ堅白一、然ニ不然一可ニ不可一、困ニ百家之知一、窮ニ衆口

之辨ニ吾自以爲ニ王道一也」とあり、是れより出づ。

けんばく—かく 顯謨閣 名 支那宋代の宮中の一閣、徽宗の崇寧三年顯寧、元豐の功臣王安石の徒を畫き、此中に置きたり。

けんば—ぐわん 奉馬丸 名 古、用ゐられし藥。

けん—ばつ 圈發 名 漢文 圈點、點發のことにて、漢字の四聲を示すもの。

けん—ばつ 遣發 名 人を使にして、差つかはすこと。

げん—び 原被 名 法律 裁判所に告訴せし人と、せられたる人の稱、原告と、被告とのことなり。

けんび—きやう 顯微鏡 名 物理 細微なる物體を明確に見んゝ爲めに凸レンズを應用し作りたる器械、(一)を普通の肉目鏡、(二)物理的顯微鏡卽ち肉眼にて見得ざるものを明白に見得る器械、第二圖に於て、Cを對眼鏡、Dを對物鏡と云ふ、Cより見るときは、物體ABは初めabに擴大せられ、更にCの鏡によりて、擴大せらるとa'b'の像を結ぶ、其裝置如何によりて大小の差あり。

けんびきやう—てき 顯微鏡的 形 顯微鏡に非れば見ることの出來ざる程小なる。

げんび—しよくぶつ 原微植物 Protophyta. 名 植物 植物界中最下等のもの、極微細の單細胞より成り、之を別ちて、原微藻 原微菌とす。其所在は到るところにありて池溝、濕地等にもあり、又人體の寄生虫もあり、バクテリアとは卽ちこの植物にして諸病の源泉をなす、是其の繁殖の簡單にして速なるによる。

げんぴ—せう 元秘抄 名 書名、和漢の年號改元等を詳かにせるもの、著者明かならず。

げんぴん—やき 元寶燒 名 陶器 支那明末の臣、陳元贇の傳授せしものにて尾張國より產す、七寶燒に類す。

けん—びやう 硯屏 名 衝立に似て小なるもの、硯上の風塵よけなり。

けん—ぶ 建武 名 年號 紀元一九九四より二年間、後醍醐天皇の御代にて、建武中興の行はれし時代なり。

けん—ぶ 鐵符 名 辭令書 王朝時代に於て、事情の爲め、賦役を免除する場合に下すもの。

ケンフェル Kampfer. 名 人名 有名なる「日本及シャム」の著者なるドイツの植物學者（西紀一六五一—一七一六）

げんぶ—ぐわん 玄武岩 名 鑛物 第三世紀頃の噴出岩、

某性岩類の一種、暗黑緻密なる熔岩、斜長石輝石、磁鐵鑛、橄欖石、霞石、柘榴石、等を含む、印度デッカン平原の如きは、全部此岩を以て臺とせり。其形狀は、玻璃質あり、六角又は八角の柱狀あり、及球顆狀ありて一樣ならず、各々其所在地によりて異にす。

げん—ぶく 元服 名 古語 古の武士は十六歲に至りて始めて初冠すと、元ははじめ、服はきもの、幼年のもの生長して一人前の人間となりたりとて、其衣服をきるゆゑなり。

げんぶく—ゐい 阮福映 名 人名 嘉隆帝のこと、廣南王なり、初め阮岳の廣南を亡ぼすや、暹羅に逃れ、佛國宣教師ピニョーによりて、援を得、順化の舊都を恢復し、東京を合せ、西紀一八〇二年安南を統して嘉隆と改元す。これ今の安南王の祖なり。

げんぶく—こう 阮福昊 名 人名 王、安南王の建福帝、順化の壞夷黨に推立せらる、基督教の殺戮の爲め、清佛の交戰を起し、天津條約によりて、西紀一八八七年以後全く佛の保護國となり終んぬ。

げんぶく—じ 阮福塲 名 人名 王、越南王阮弘智のこと、先代王 佛國宣教師を虐待せしかば、西紀一八六二年、佛國ナポレオン三世の爲め攻められ、明年和を請ひ、サイゴン、ミトー、ビンホア三州、崑崙島を割き、償金二千萬フランクを出す。

げんぶく—じゆん 阮福順 名 人名 阮潢八世の孫にして安南の廣南の王なりしも、西紀一七七三年、阮岳、阮惠兄弟亂をなし、廣南を亡ぼし王を弑したり。

けんぶくてい 建福帝 名 人名阮福昊を見よ。

げんぶく—の—しだい 元貞之次第 名 書名 武家元服の故實をしるせるもの、小笠原長時之を著す。

けんぶ—しきもく 建武式目 名 歷史 古の法律、室町時代南北朝の北朝光明建武三年、僧是圓、玄惠、大寶令制度及び武家の習慣法を深斟して武家法度十七ヶ條を制定せしものこれなり。これ室町幕府の基本制度たりき。

けんぶしきもく—ついか 建武式目追加 名 法令 二百八ヶ條より成れる新編式目追加にて、建武五年より、文明年間まで百三十年間、追々頒布せし法律の集合なりき。

けんぶ—の—ちゆうこう 建武中興 名 歷史 後醍醐天皇の、北條氏を亡して政權を朝廷にかへし給ひしこと、制度は中央政府には、恩賞方、紀錄所、雜訴決斷所、武者所の四書を置き、地方には、國司に公卿、守護に武を置き、其他の新政としては、內裏の修築、紙幣發布なりき、紙幣發布は、本邦に於ける嚆矢とす。

げんぶ—どう 玄武洞 名 地名 玄武岩より成り、數千の

石柱聯立して奇觀をなすところ、但馬國にあり。

けんぶ—ねんぢゆう—ぎやうじ 建武年中行事 名 書名 官廳の事、諸實の遺訓を商量してかきたるもの、北畠親房卿の撰なり。

けんぶん 建文 名 明惠帝の在位四年間の年號にして、此時燕王棣の靖難起りたり。

ケンブリア山 Cambrian Mts. 名 山名 ウエールス州の南北に亘る連山。

ケンブリッヂ Cambridge. 名 地名 英國の都府、倫敦の西北、有名なる大學あり、これ中世紀の創設にかゝれり。

けん—ぺい 權柄 名 權威のあること。

げんぺい—せいすゐき 源平盛衰記 名 書名 源平二氏の盛衰の樣を寫せる軍記物語に、鎌倉時代の葉室時長の作なり。

けん—ぺん 權變 名 臨機應變の意にして變に應じて、かりに、都合よくとりはからうこと。

けん—ぽふ 憲法 名 法律 一國の政治上の方針を制定する大典、卽ち、國のたきてなり。

けんぽふ—ぞめ 憲法染 名 明暦の頃京都西洞院四條の染工吉岡憲法の發明せしもの、吉岡染ともいひ、黑色に小紋を染め出せるものなり。

けんぽふ—じゆうしちぞう 憲法十七條 名 法律 人皇第三十二代推古天皇の二十年、聖德太子の撰み給ひし條令、本邦法制の起原とす。

けんぽふ—はつぷ 憲法發布 名 法律 今上天皇明治二十二年二月十一日、發布せられたる、成文の欽定憲法なり、是によりて、日本國家の施政の大典定まり、臣民の權利及財産生命の保護をなし、國家を安寧に保持すべき大典なり。

けんぽ—なし 枳棋 名 植物 眞李科木本、幹數丈の高さに達し、廣卵形の葉、夏季帶白色小形花を咲く、花梗は肥大し、後紫褐色に變じ、甜味あり、食用に供し、木材は机卓函箱等の用に供す。

けん—ぼふ 顯法 名 佛語 密法に對して云ふ言葉にて、天臺宗の說教して、道を弘むること。

けん—ま 研磨 名 研はとぐこと、磨はすること、故に、一、ものをみがくこと、二、學問などを、けんきうすること。

けんまん—むすび 名 紐の結び方にて、十字形に似たり。

けん—まんがんくわう 堅滿俺礦 名 礦物 滿俺礦の一種、六七度の堅さを有す。

けん—み 檢見 名 一、檢査のことにてものをしらべる。二、昔流行したる遊戲の犬追物の檢査を云ひき。

けんみつ—の—ろう 顯密僧 名 佛語 顯教卽天臺宗、密教卽眞言宗の兩教を行ふ僧なり。

けんみん—し 遣明使 名 役名 室町時代、足利氏の奢侈の爲め、國庫欠乏し、後小松天皇より、後奈良天皇の頃まで、義滿が、明に使を貢して貿幣を求めしものなり。

げんみやう—てんわう 元明天皇 名 人名 人皇第四十三代の天皇、奈良朝初代の天子、天智帝の第四皇女御名阿閉と申しき、在位七年、養老五年十二月、年六十一薨ず。

げん—めう 玄妙 名 たくゆかしきこと、幽玄精妙とも云ふ。

けん—もつ 喫物 名 古の官名、大藏、內務の出納、倉庫の取締する役にて、古、中務省の屬官なりき。

げん—もん 諺門 名 朝鮮文字、たんもんと云ふ。

げんゆう—の—せい 元祐の政 名 歷史 宋の高太后の政治を云ふ、哲宗の幼なるとき、太后朝に臨みて攝政し、司馬光を相として、王安石の黨を黜け、其新法を廢したるを云ふ、元祐とは年號なり。

げんゆう—の—かんとう 元祐の姦黨 名 歷史 宋の哲宗の時、安石の徒章惇、蔡京等を用ひて、新法を復し、司馬光の諡を奪ひ、後徽宗の世に至り、蔡京政を執るに及び、司馬光等を目して、元祐の黨となし、姦黨の碑を州縣に立てたり。

けん—よ 權輿 名 權はかりの玉、輿はこしの類、共に第一番に作るなり、故に事のはじめを云ふ。

けんよう—すい 懸壅垂 名 生理 口腔の奥に垂下せる肉突起。

げん—らう 元老 名 國家の功臣にて名望ある、官位ある人を云ふ。

けんらう—ぼくしつ 堅牢木質 名 植物 中心木質に同じ。

げんらう—ゐん 元老院 名 今の貴族院の如きものにて、元老を以て組織したる會議場の人人を元老院議員と云ふ、我國に於ても、明治以來置かれたり、歐州等は古代よりセナートと云ふて組織せられたりき。

けん—り 權利 名 法律 自己に許されたる勢力を以て事にあたり、自ら處分することのできる力を云ふ。

けんり—きようつう 權利共通 名 法律 多數の人の共通に有する權利なり。

けんり—くわんけい 權利關係 名 法律 當事者の間に於ける權利義務の關係なり。

けんり—こうそく 權利拘束 名 法律 裁判所に繫屬する法律上の訴訟が、他へ移動すべからざるに至りたること。

けんり—せいぐわん 權利請願 名 歷史 英國王カロロ一

世の時。干の秘政を防がん爲め、國會の力によりて、許可せられたる The Petition of Right. なり、

1. 成文法を度外視し、國會の協賛を待たづして、義献、强借、課税、等を徴收せざること。
2. 成文法の規定に背き、理由なくして濫りに人を拘留、檻禁するの不法なること。
3. 臣民の意志に違ひ、兵士海員を其家に宿泊せしむるの不法。
4. 濫りに軍事法律を施行するの不法なることを以て、之れを廢すること、以上。

けんり－せんげん　權利宣言　名　歴史　英國革命(名譽)の時、英國議會の、ウイルレム及マリアの前に、英國民の權利自由を列擧して之を誦讀し、二人をして之を守らしむることを約したる、The Declaration of Right. なり。

けんり－でうれい　權利條令　名　ビル、オブ、ライツを見よ。

げん－りん　原林　名　植物　始原林に同じ。

けんりん－かく　乾臨閣　名　殿名　豐樂殿のこと。

けんりやく　建暦　名　年號　紀元一二八七一年より三年間、順德天皇の御代なり。

けんりゆう　乾隆　名　年號　清の年號にて、清國最隆の時代、卽ち、清の高宗六十年の在位にて、其間、金川、回部、準噶爾等を平げぬ。

けん－れい　縣令　名　官名　今の縣知事の舊稱、明治四年廢藩置縣の事成り、新に、任したる地方長官、縣の行政を統監するものなり。

けんれい－もん　建禮門　名　內裏內廓十二門の一、內裏の南承卽門の前方。

けんれい－もんゐん　建禮門院　名　人名　高倉帝の中宮、安德天皇の母、平清盛の女德子なり、文治元年、安德天皇と共に海中に入りしも、源氏の爲めに釣せられ、京師に還う、薙髮して、眞如覺と號しぬ、年五七、建保元年死す。

げん－れう　原料　名　材料に同じく、物事のたねとなるものなり。

げん－ろ　言路　名　下民の情を、上に知らしむる道。

げんろう－ゐん　元老院　名　明治八年太政官代中、左院の跡に置き、新法制定、舊法改正、建白等を議する所とせり、二十三年に至り、之を廢す。

げんろう－ゐん　元老院　Senatus.　名　最初羅馬の最高立法行政議會に與へられたる名稱にして、羅馬時代の元老院は、國務を左右し、勢の大なりし事共和時代に最も甚だしかりしも、帝政となりて、勢力削減せられたり。

げんろく　元祿　名　年號　紀元二三四八年より十六年間東山天皇の御代。

げんろく－じだい　元祿時代　名　歴史　東山帝の朝、德川綱吉の將軍時代、名家大儒彬々として輩出し、文學の隆盛を極めしも、倘武勳儉の道は、大に頽廢し、華美優柔となり、諸士相會して、淨瑠璃、芝居等、器玩に戯るに至れり。

げん－ろん　言論　名　議論にたなしく、ことばを以て、わげつらふこと。

げんわ　元和　名　年號　紀元二二七五年より九年間、後水尾天皇の御代。

げんわう－たん　玄黃丹　名　黃花丹　春花丹とも云ひ、古用ゐられたる藥名。

げん－わく　眩惑　名　目くらみ迷ふこと、目くるめきて心の迷ふこと、漢書に「靡二瞻不一レ眩靡二聽不一レ惑」とあり。

げんわ－つうはう　元和通寶　名　貨幣　後水尾天皇、元和三年鑄造せし銀銅の二貨なり。

げん－なう　玄翁　名　人名　高僧、越後に生れ、空外と號す、下野國那須郡那須野原に殺生石(毒石)あり、人此氣に觸るれば、直ちに死す、乃ち玄翁、此處に至り、汝は唯、一個の石なるに、何の靈ありてか、怪事をなするものぞと、石を打つこと三度、石二つに裂け、それより、祟をなさずとなん言ひ傳ふ。

げん－なう　玄翁　名　げんのうに同じく、頭部は鐵製にして、槌の如く、釘などを打ち込むものなり。

けんなん－き　驗溫器　名　寒暖計の一種、熱の低高の度を量るもの。

けん－な－ねがふ　希賢　同　周濂溪の曰く「聖希天、賢常レ聖士希レ賢」と。

げ－めん　外面　名　一、ぐわいめん(外面)のこと、二、佛語、そとに現はれたるかはいろのこと。

け－も－いよだつ　毛彌立　同　古語　身の毛の立つこと、寒きとき、恐ろしきときなどに立つ、古語に「琴の音の、ことちにむせぶゆふぐれは、けもいよだちぬ、そぞろさむさに」とあり。

け－も－なし　無氣　形　別に樣子もなし、けはひもなしの意。

けもの　畜　名　牛、馬、羊、豚等の如き家畜のこと。

けもの－たふし　畜仆　名　古語　咀哭する爲め、獸類、虫類をころすこと。

けもの－や　名　古語　龍因法師の所謂の(野)のこと。

けもん－りよう　花文綾　名　織物　花の形を、綾にうちはりすること。

けーもも 毛桃 名 植物 薔薇科木本、花、實共に大にして、實の皮に毛を有する桃の一種なり。

げーや 下屋 名 小屋のこと、母屋に造りかけたるもの。

けーやかーに 異 副 古語 すぐれたるさまに。

けやき 欅 Zelkowa acuminata. Pl 名 植物 榆科木木、幹數丈に達し、葉は楕圓狀卵形、春時新葉と共に、雄花雌花を開く、單性にして、子房中央外に位せる花柱を有す、色は淡紅色なり、樹皮は灰褐色堅硬にして、粗き鱗紋と、無數の細小なる突起とを有す、木材は黃色にして堅く、種々の建築用、器具に供す。

けやけきーこと 同 意外なること、勝れたること、不思議なること、際立ちたること。

けやーけく 副 非常に明かなるさまを形容す。

けーやけし 異 形 けやけきことにれなしく、きは立ちたること、ことやうなり。

けーやすし 清易 形 古語 清はやすきこと。

ケヤリ 名 動物 鰓形動物、環蟲類、淺海の岩間に固着し暗赤色を呈す、口周に數多の觸手を有し、體の周圍には、體より分泌せる半質の筒を被り、常に之より觸手を出して食物を捕へ、獻來れば直に筒中に入る。

げーゆ 解由 名 歷史 中古官吏交代の時、前任者の事務、租稅の滯りなき由を印したる文書を、新任者の受取りて後、始めて、任に就く、國司交代のことなり。

げゆーじやう 解由狀 名 歷史 王朝時代の國司交替に最も必要なるものにて、前任者は、在職中の事務一切を、後任者に引き渡し、後任者は、此を精して檢して差支なきを以て、之を前任者に達する、而して前任者は其後任者よりの狀を受けざれば公職に就くを得ざりき、朝廷よりは特に此事務を司るものを出張せしめたり、即ち勘解由使なり。

けーら 蛞蝓 名 動物 連環動物、一綱直翅類、土中に棲み、長さ一寸、頭圓く濃褐色を帶び、其前脚は特に長く、鼠の手の如し、田畑を荒す害虫なり。

けーら 鵁鶄 名 動物 鳥類、燕雀類、俗に云ふ吉原雀のことなり。

けーらい 家禮 名 臣隸のこと、家來とも云ふ、本縉紳諸氏の攝家本宗に就て禮を執るの稱なりしも、武家時代に至りて、臣下從者の稱となりしなり。

けらいと 克烈部 名 地名 西紀十三世の初、薛美哥河の南に居住せし、部落、その長王汗は蒙古の鐵木眞を助けて、蔑兒乞部を破り、後、鐵木眞の勢力盛なるを嫉みて、約に背き、蒙古を襲ひしが、却つて大敗し、國亡びぬ。

けらし 助 文典 過去の推量をあらはす詞、けるとらしと

の結合したるもの、動詞の內其變は連體段、其他は終止段より連りて其意をあらはすものなり。

ケラット Kelat. 名 地名 ペルチスタンの首府、軍事上主要なる地なり、一八八八年以來英領となれり、人口一萬四千餘。〔28.50N. 66.40E.〕

げーらふ 下臈 名 役名 武家に仕へて、未だたふとからぬもの。

けらまーしま 慶良麻島 名 島名 琉球冲繩島の西方、周圍三里あり。

けり 梟 名 動物 鳥類、水邊にありて魚を捕へ、餌とする嘴は黃色にして、さきの方黑し、頭と脊とは灰色、胸と腹とは白色、翅は黑白相交はれり。

げーり 外吏 名 役名地方官のこと、古の國司、主領。

ゲーリッサック Gay-lussac. 名 人名 物理學、及、化學者、佛國パリ、ピエンヌのサン、レオンナールに生る、時に西紀一七七八年十二月六日、一八〇八年より二十五年間、ソルボンヌの教授となり、物理學を敎へたり。一八五〇年歿せり。

ゲーリウサックーのーていりつ Gay-lussac's law. 名 化學 佛國の物理學者ゲーリッサックの定めし化學上の法則にして二あり、一、凡て氣體は、溫度に一度昇降ある毎に、其零度に於ける容積の二百七十三分の一を增減するものなり、換言すれば、氣體の容積は、絕體溫度に比例す。二、氣體反應の定律にして、即ち氣體が化學變化に關係する場合に於ては、相反應する氣體の容積間に及び、相反應する氣體と生ずる氣體との容積に極めて、簡單なる比を有す。

けーりやう 家令 名 官位 四品以上の親王、三位以上の人に贈る職、而して其家を司るものを云ふ。

ゲルゴビア Gergovia. 名 地名 古戰場、佛國クレルモン附近の地、西紀前五二年、シーザルが此を圍み、拔けずして、アレシアを攻め勝利したり。

ゲルシク Gersik (Grisse) (華兒石、吉力石) 名 地名 ジャバ島の一市、住民はジャバ人、支那人なり、製鹽場、船選等あり。

ケルソネスースタウリカ Chersonnesus. Taurica. 名 地名 今のクリーム半島なり。

ケルチ Celts. 名 種族 アーリア人の一種、歐州のイギリス、フランス西部に住居せり。

ゲルトルド Gertrude. 名 人名 詩人、西紀一八〇九年英國に出で、カメルを著はす。

ゲルフ Guelfs. 名 十一世紀より十四世紀迄イタリアの獨立及法王の主權を維持せんとてギベリン黨に反對せし政黨

ゲルヴィヌス Gervinus. 名 人名 歴史家、西紀一八〇五年獨逸に出で、一八三六年ゲッチンゲン大學教授、一八三七年免職、一八四四年ハイデルベルヒ大學教授、一八七一年歿す。

ゲルマニ Germani. 名 種族 歐州中部及西北部に居住する種族、フランク、ヴンダル、ゴート、サクスブルゲント等、數十派に分かる、民主政體を戴き、牧畜、農業盛なり。

ゲルマニクス Germanicus. 名 將軍の名、西紀前十四年、ローマに出づ、年二十にして、ダルマチ、パンノニアを征して功あり、後獨逸を征し更に東方征伐に從事し、西紀後十九年小亞細亞アンチキナに於て歿せり。

ケルマン Kerman. 名 地名 古代カルマニアの事にして南部波斯の一州なり。

ケルン Cuhn. 名 地名 獨逸のライン地方の一管區。

ケルン Kern. 名 地名 カリフォルニア州に在る河湖。

ケルン Kern. 名 人名 スゥイスの外交家、西紀一八〇年生れ一八八八年歿す。

ケルレン 怯綠連河 名 河名 支那北方の河、源を不兒罕山に發し、フラン湖に注ぐ、元の故民は、怯綠連、斡難兩河の間に遊牧せしものなり。

ゲルレルト Gellert. 名 人名 戲作者、西紀一七一五年獨逸に生れ、ライプチッヒ大學に入り、一七五一年より十九年間同大學の教授たりき、氏は聖書に關する著者と道德的哲學者たりき。

ゲレイン Grain. 名 重量の名、英國の藥量單位、我が一厘七毛〇二四に當る。

けれたうと 結蹠亞曹篤 名 藥名 油狀液體にして透明無色、淡黃色の二種わり、烟臭を有す、齒の止痛劑なり。

ゲレサンヂア 格埒森札 名 人名 第十六紀の中頃、蒙古逢延汗の時、其諸子皆南に移りしも、格埒森札のみ止りて今の外蒙古四大部の汗王の祖となる。

ゲロ Gero. 名 人名 獨逸ブランデンブルヒのマルクグラーフにして、西紀九六五年、ツゥエンドを討ちて、オーデル河畔まで之を征服せり。

ケーロ子ア Chaeronea. 名 地名 ギリシアのボイオチアの舊市、西紀前三三八年、マケドニア王フィリポスがアテネの軍と激戰して之を破りたる古戰場なり。

げーゐ 外位 名 古從五位下と、正六位との間に置かれたる位にして一時の位なり。

けーな—ふきて—きず—な—もとむ 吹毛求疵 同 古語つまらぬ瑣細の事に手を出して大害を求むることをかく云ふなり。

こ

こ 海鼠 名 動物 軟體、動物最下等動物の一にして、頭尾、目、口なし、長さ六七寸、黑色にして、

こ 籠 名 かごのこと、多く竹にて作る。

こ 鈎 名 みづなどをかくるもの、釘のるる。

こ 代 文典 指示代名詞、近きものを指して云ふ。

こ 子 助 女の名に添ふる語、仁明天皇の皇女正子を以てはじめとす。

ご 吳 名 地理 國名、支那三國の一、建業に都し、姓を孫氏と云へり、吳系圖左の如し。

周章—餘昧—王僚—闔盧—夫差(滅)

ご 豆油 名 大豆等をすりて、水に溶かしたるもの、顏料に供す。

ごあ 臥亞 名 一、織物、二、地名、一、昔、闍人の始めて傳へしもの、二、英領印度の西岸にあり、西紀一五一〇年、印度總督アルボケルク、此地を畧す、東洋の貿易盛なり。

こあかろ 名 植物 蕁麻科植物、形狀苧麻より小なり、皮部より、一種の纖維を製し苧麻と混用せらる。

こーあみがさ 小網笠 名 鎗持のもちしあみがさ。

こーあふみ 古近江 名 人名 三絃の胴の發明者、江戸の人なりき。

こあみーでら 小網寺 名 安房安房郡豊房村、和銅三年の創立にかゝる眞言宗の寺なり。

こいうーぬいし 固有名詞 名 文法 其もの特有の名。

ごーいきよう 吳偉業 名 人名 詩人、清初、江南大倉に生れ、進士、秘書院侍講、國子祭酒等に累進し、六三死す。

こいけーいうけん 小池有賢 名 人名 儒者、水戸藩の人天文、曆數に精通せり。

こいけーいうしき 小池有識 名 人名 歌人、有賢の孫、寶藏院の槍術に精し。

こーいたじき 名 殿中にわりし、いたしき。

こーいたどり 小虎杖 名 植物 草木、いぬいたどり。

こいわ 名 動物 魚類、一尺ばかりにて口ながし、秋季、佳味わり。

こいちでうーだじやうだいじん 小一條太政大臣 名 人名 藤原忠平の稱。

ごいちでうーてんわう 後一條天皇 名 天皇 人皇第六十八代の天子、一條天皇と上東門院彰子との間の子、寛元一六七七年より在位二十年間なりき。

ごいちでうーゐん 小一條院 名 人名 三條天皇の長子敦

明親王、母は小一條左大將濟時の女娥子なれば　藤原氏に憚りて　皇太子を辭し　院號を給ひけり、永承六年　年五十八にて薨ず。

ごいっしん—の—まつりごと　御維新の政　名　歴史、慶應三年十月　德川慶喜大政奉還せし時、今上陛下、翌年八月紫宸殿にて即位し給ひ、明治と改元し、總裁、議定、參與の三職をおき、天子自ら國家の政權を總攬し給ふを云ふ。

こいづみ　肥富　名　人名　其出不明、應永八年足利義滿の命を奉じて明に使聘す、是足利時代濟明進貢船の始めなり

こいで—ひでまさ　名　人名　小出秀正　泉州岸和田の城主豊臣秀吉の命によりて、片桐且元と共に、秀頼の正傅たりき。

コイト　Couto.　名　人名　歴史家、西紀一五四二年、ポルトガルに出で、インドに渡り軍務をなし、ゴアに住す、イスパニア王ヒリップ二世は、インド史家の名を與ふ。

こいで—まさひで　小出政秀　名　人名　尾張國愛知郡中村の藤原氏、播磨介たり、片桐且元及小出秀正と共に、秀頼の傅たりき。

ご—いん　五音　名　音樂　宮、商、角、徵、羽の五。

コインブラ　Coimbra.　名　地名　大學のあるところ、シオルジ、ポルトガルの教授たりしとき、聖獸をラテンに譯し、異教徒として迫害をうけ入牢せり。

こいよう　胡惟庸　名　人名　明代の奸臣、定遠の人なり、太祖に仕へ、左亟相に進み、專横益盛なり、後陰謀發覺、帝の怒りにふれ、遂に誅せらる。

コイル　Coil.　名　物理　道線を卷きて、圓筒狀となしたるもの。

こう　綱　名　動物　分類學上の語、門の下、目の上に置かる。

こう　翎　名　動物　パノヒラの意、翼の中軸より分出する羽枝、小羽枝等の密接して成れる一面の軟部をいふ。

ごう　鄉　名　歴史　孝德天皇大化二年、使を諸國に遣し、戸口を調査せしめ、全國を六十餘國、六百餘郡、一萬三千鄉に分ち一鄉の民戸を五十戸、鄉に鄉長一人をおく。

こうあつきかん　高壓機關　名　物理　蒸氣機關にて一度、ピストンを動かすに使用したる蒸氣を直ちに空氣中に放出する裝置なり、蒸氣は氣壓に抗せざるべからざる故其壓力比較的大なるを要す、之れ此名ある所以なり、滊車に用ゐる機關は多く此種なり。

こうあん　弘安　名　年號　西紀一九三八年より十年、後宇多天皇の御代。

こうあんこく　孔安國　名　人名　漢學者、孔子の後、曾の共王孔子の宅を壞ち、古文尚書、禮記、論語、孝經を出して孔子に還す、後、諫議大夫、都尉を授けらる。

こうあん—れい　輿安嶺　名　地理　山脈、支那蒙古の東北に横はる山脈、キンアンレイ、スタノボイとも讀む。

こうあん—れいせつ　弘安禮節　名　書名　弘安八年、龜山帝の定め給ひし書驛、藤原實雄の著なり。

こう—い　更衣　名　役名　桓武天皇の朝始めて此官を作る元は禁中女官の、御衣を更へ給ふ便殿に參候するものなりしも、後、御寢所へも伺候し、四、五位に叙せらるるに至りぬ。

こう—い　好意　名　心理　他人の意志に對して、自己の意志の想念的關係なり。

こういう—しんわう　公猶親王　名　人名　有栖川宮熾仁親王の御子正道と申す、天皇座主とならる。

こういうとく　孔有德　名　人名　明將にして、清の侵入を防ぎしも遂に破れて清に降りたり、明の永州を平げ、桂林を陷れ、明將瞿式耜を殺せり、翌年明將季定國と戰ふて、遂に戰死す。

こう—いど　黄緯度　名　天文　天球上にて、一星と黄道の極とを通過する大圓が黄道と交はる點と、此星との間の弧を此星の黄緯度といふ、太陽の黄緯度は常に零なり。

こういちゆう　廖永忠　名　人名　明太祖創業の臣にして洪武元年命を奉じて、兩廣を平げたり。

こういん　紅炎　名　天文　太陽の表面に在る紅色の瓦斯層の周圍に突出する同質の瓦斯團をいふ。

こう—いん　後燕　名　國名　肥水の戰後、江北に、慕容重の建てし國、西紀四〇五年、義照五年高實の時、北燕の爲め亡ぶ。

こういん—ほうしんわう　公延法親王　名　人名　閑院宮典仁親王の御子方仁と申し、桃園天皇の猶子、毘沙門堂に入る

ごうえく—の—ざ　剛臈の座　名　歴史　後三年の役、源義家の武衡を討つに當り將士を勵ます爲め、剛臈二座を設け强弱を分ちて、座せしむ、乃ち將士はげみしと云ふ。

こう—たつ—にん　甲乙人　名　庶民百姓のことなり。

こうたん　高音　名　物理　物體の振動の急激なる時生ずる音。

こう—たんたい　恒溫帶　名　地文　晝夜季節に不拘、一定不變の溫度を有する地下の地層、土地の狀態にて其深さは異なれども、通例二十尺乃至七十尺なり。

こう—が　潢河　名　河名　蒙古の大河、古饒樂水又は濫眞水と云ひき。

こう—が　黄河　名　河名、源を西藏巴顏哈剌山に發し、流

る、こと二千五百浬、直隷灣に注ぐ、此間、汾水、渭水を入る。

こう—か 膠化 Gelatinisation. 名 化學 膠の如きものとなるもの。

こう—か 鑛花 Mineral bloom. 名 鑛物 粉狀鑛物の他の鑛物の外部に附着するもの。輝安石の時日を經るに從ひ、光澤を失ふは、此が現象の一なり。

こう—かい 紅海 Red Sea. 名 地名 アラビアとアフリカとの間の海、北隅はスエズ運河に連接す。

こう—かい 公廨 名 公の家、役所の名、クガイと發音するる正しとす。

こうがい—こつ 口蓋骨 名 生理 口腔の天井をなす骨。

こうかいど—わう 廣開土王談德 名 人名 故國壤王の子、卽位の年、百濟を征し十城を拔く、尋で北契丹を伐ち、五百人を虜にす、翌年より百濟及燕と戰を結び、連年解けず、毎々克てり、二十二年、冬薨ず。

こうがい—ひる Bipalum. 名 動物 扁蟲類、長サ三寸に伸長す、頭部は左右に突出し、體面に粘液あり、多く日光の直射せざる所に棲息す。

こうかく 岬角 名 地文 沿岸線屈折し、陸地の海中に突出せる部分。

ごう—がく 合萼 Gramosepalous. 名 植物 萼片の相連合せるもの、種類を區別すれば次の如し。

1 管狀萼　なでしこ
2 壺狀萼　ふしぐろ
3 唇狀萼　れとりこさう
4 鐘狀萼　べらどんな

こうがく—いせいたい 光學異性體 Optical isomer. 名 化學 立體異性體に同じく同一の組成にして、只分極光線の回轉する方向の異なるものなり。

こう—がくし 工學士 名 學士の一、工科大學卒業生のうくる稱號なり。

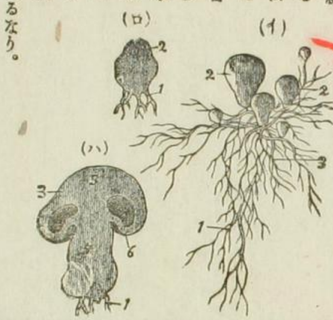
こうかく—てんわう 光格天皇 名 人名 百十九代の帝にして、兼仁と申す、慶光天皇と諡す、閑院宮典仁親王の第十六皇子なり。

コーカサス Caucasus. 名 カフカズを見よ。

こうかじやう 交河城 名 今の清國新彊省吐魯番にあり、唐太宗の時、安西郡護府を此地に置かれたり。

こうか—せい 向化性 Chemotropism. 名 植物 植物體が、化學的物質に感應する性質にして、花粉管或は菌絲の

示す現象を云ふなり、圖は卽ち菌絲の作用を說明するものたり、菌絲は菌類の原體にして何づれの菌體も皆之より成る、而して菌絲の諸部に球形の小體を發生し、上部より內方に輪狀の空隙を生ずるときは次第に發生し終りに蕈となるなり。



はつたけ生長の順序

こう—かん 槓杆 名 物理 一の棒にて、如何なる大力を加ふる變形せざるものなり、支點、重點、力點の三點を要す。

こう—かん 高侃 名 人名 梁の學者、禮記講疏五十卷を撰し秘閣に付せらる、武帝の時、員外散騎侍郎に加ふ。

こう—かん 黃幹 名 人名 儒者、福州閩縣の人、朱子の婿、累進して安慶府の知事たり、後、廬山に入り、徒弟を敎ふ、文肅と諡す。

こう—がん 睾丸 名 生理 動物の雄が精蟲を作る處。

こうかん—しんけい 交感神經 名 生理 交感神經節及び之に連接せる神經より成り、內臟、血管に分布し、不隨意運動卽ち、植物性機能を司る神經なり。

こうがん—せう 厚顏抄 名 書名 德川光圀の命により、釋契沖の、日本紀と古事記の和歌を註釋せしもの。

こうが—るゐ 溝牙類 名 動物 蛇類に屬する一亞目、牙は前面に縱溝あり毒液を出だす、「ハブ」は此類に屬す。

こう—ぎ 後魏 名 國名 漢魏以來、拓跋氏崇頭部可汗たり、西晉末、道武魏王と稱し、帝となる。

こうき 康熙 名 年號 清聖祖在位六十一年、清國西域に振ひし時代、乾隆と併び稱せらる。

こう—ぎ 公儀 名 古語 公家より變じて將軍家の稱となれり。

こう—き 坑氣 名 化學 「メタン」と空氣との混合物にて自然に石炭坑に生じ時々爆發することあるより此名出づ。

こうき 口器 名 動物 主として節足動物の口部を云ふ。

こうき 洪熙 名 明仁宗の在位一年間の年號なり、西紀一四二五年。

こう—きこう 高季興 名 人名 字は貽孫、陝州硤石の人なり、梁の太祖に愛せられて、朱氏を冒す、太祖の爲めに、譖所に戰ひて軍功あり、南平王に封せらる、後朝廷に意を

得ず、遂に吳に仕へ、秦王に封せらる、天成三年、七十一にして卒す、武信と謚せらる。

こうき—せい 向氣性 名 植物 植物の瓦斯に對する感應性、殊に酸素に對して云ふ語なり、向化性の特例なり。

こうぎ—でん 弘徽殿 名 歴史 舊内裏清涼殿の北、皇后及び女御の御座所。

こうきん 後金國 名 國名 明の萬曆、四十四年、愛親覺羅部の双兒吟赤科、再沁部を慢け、近傍諸部を服して汗となりたる時、建てたる國號なり、後二十一年を經て、清と改めたり。

ごう—きん 合金 名 化學 眞鍮、洋銀等の如く、二種又は二種以上の金屬を合せたるもの、

こうきん—の—ずく 黄巾の賊 名 歴史 鉅鹿の人張角首魁となり、黄巾を着けて幟となし、黄道を奉じ、符水を以て病者を撫し、大に衆の信仰を曳く、三十六萬の大衆を集め將に事を起さんとせしに、謀發覺して千餘人誅せらる、後、燔燒掠略取を極め、京師爲めに震動せり、後角病死し二弟戰死せしかば止む。

こうきん—の—ずく 紅巾の賊 名 歴史 支那元の至正中、永平の韓福山童、劉福通と兵を擧げしも、山童は擒にせられ其子林兒亦起りて、亳州に依り宋と號す、四方に干戈を交へ、明軍の爲めに平らげらる、世之を紅巾の賊と云ふ。

こうきやう—じ 弘經寺 名 寺名 下總國岡田郡豊岡村、應永二十一年、嘆譽瓦肇上人之を創建す、淨土宗なり。

こう—きよ 貢舉 名 式部省試驗に合格するもの、舉は大學より出でしもの、貢は國學より出でしもの、秀才、明經、進士、明法の四法あり、始め大初位下以上正八位上迄に叙せらる、年齡二十五才以上なり。

こうきよ 康居 名 地名 今の哈薩克右中部、右西部の域にして、左部は堅昆に屬す。

こう—ぎよく 硬玉 名 鑛物 古、石斧、耳環等を作りしものにて軟玉と共に玉(ギヨク)と稱せらる、角閃石の一種なり、

こう—ぎよく 紅玉 名 鑛物 紅寶石の事なり。

こうぎよくしや 鋼玉砂 名 鑛物 硫鐵鑛、赤鐵鑛と混和したる粒狀の銅玉石なり。

こうぎよく—せき 綱玉石 名 鑛物 化學の酸化コバルトにて、多く花崗石、石灰石中に存し、河川の砂中に混ず。形は六方錐或は正方柱の結晶、酸に犯されず、火に溶がたく、透明にして青綠、黄紫等の美色を呈す、金剛石に次ぎて硬く、比重三、九乃至四、純粹のものは寶玉として用ゐられ、青玉、紅玉と稱す、不純にて黑褐色のものは寶石を琢く用とし、青玉は美濃姪川、紅玉は豊後木浦、印度セイロン島を以て主産地とす。

こうきよく—てんわう 皇極天皇 名 人名、三十五代の女帝にして、茅渟王の女、在位三年、壽六十八。

こうぎ—るゐ 硬鱗類 名 動物 硬骨類の一亞目、鯛、鰹の類なり、背、臀、腹の三鰭は前部の無節の硬棘にて支持せらる、されば棘鰭類ともいふ。

こうく 高照 名 人名 明成祖第二子、性凶悍なり、漢王に封せられ、行かず、青州に封せられ又行かず、各衛の建士を集め、劫掠を縱にす、後異志を決し、宣德元年反す、帝親征す、高照大に懼れ、武器を捨て、潛に帝に見へ罪を請ふ、廢せられて庶人となり、尋で死せり。

こうくんしふ 侯君集 名 人名 唐の武將なり、秦王李世民に仕へ、武功多し、後吐蕃を征し、還りて、劾せられ、遂に承乾太子のために謀り、覺はれて、獄に下され、後斬らる、

こうくわ—せんじよ—の—ほふ 考課選叙の法 名 官吏の一年間の勤惰性行を檢して、賞罰黜陟して、太政官に申請し、選叙する法を云ふ。

こうくわ—たう 紅瓊島 名 島名 朝鮮京畿道の海中にあり、西紀一二三一年太宗の撤黑禮塔、高麗の高宗を征せしときの高宗の避難所、八六六年朝鮮攘夷のことを行ふや佛國軍艦此島を攻めて利あらずして歸りたり。

こうくわ—ふ 興化府 名 地名 福建省にあり、西紀一五六二年、倭寇の爲に陷りし事あり。

こう—くわん 高歡 名 人名 東魏の丞相、西魏の宇文泰と戰ふ屢々なりき、氏は懷朔鎭の人、任俠且つ智略あり、

こう—け 高家 名 名族、德川幕府諸禮の事に關する役、中古參のものを高家肝煎といふ、三人交替して京都に使を勤めたり、官位は四位中將迄すむ。

こう—けい 侯景 名 人名 反賊、魏懷朔鎭の人。初め尒榮に仕へ、高歡に降り、西魏に降り、梁に往き、東魏と不和を生じ、武帝の爲めに三公を就き、文帝を拘束し、自ら漢王と稱し、後王僧辯、陳霸先に破られ、吳にて斬らる。

こう—けい 鎬京 名 地名 清國陝西省西安府長安縣の西南、周武王酆より鎬に居る、是を宗周と云ふ。

こうけい 興慶 名 地名 清國甘肅省寧夏府にあり、宋の時、裏河西の回紇部、夏に反し獨立の姿をなしたるを、夏の李元昊、之を討て降し、都を茲に奠め、夏帝と稱したり

こうけいちゆう 高繼中 名 人名 五代南平に仕へし人にして、節度使を拜し、屢戰功ありし人なり。

こう—けいど 黄經度 名 天文 黄道の極と一星とを通過す

る大圓の黃道との交點を春分點より計りたる弧を一星の黃經度といふ。

こう—けいも　耿繼茂　名　人名　清の初、明より降りて武功を立てたる仲明の子にして、父に襲ぎて靖南王となる、子續忠清に反したり。

こうけ—したい　江家次第　名　書名　江家とは大江家のこと、世々明法家たりき、江家次第とは、大江匡房の、年中の恒例、臨時の政事、大小儀等を、くわしくしるせるもの

こうけつ　公潔　名　人名　韶仁親王の子、累進して近衛中將となり、天保七年、年十九死す。

こうけつ—ねん　黃血鹽　名　化學「ねうけつねん」に同じ。

こうけつ—なーしぼる　絞膏血　動　人の雜儀するもかまはず、稅を收むること。

こう—けん　公權　名　法律　憲法上國民の有する權利。

こうけん　光策　名　人名　本願寺九代の僧、蓮如上人の子、實如上人と云ふ加賀、能登、越中を奉還し、勝仁親王の即位式費用を奉れり、大永五年、年六十八死す。

こう—けん　公驗　名　法律　王朝時代の創起、官所の、人民の土地賣買に關する地券を証明する文書。

こう—げん　光源　名　物理　發光體ともいふ、太陽、星、非常に熾熱されたる物體の如く、自ら光を放つものをいふ

こう—げん　高原　名　地文　高臺のことなり。

こうけん—わう　康獻王　名　人名　朝鮮の太祖李成桂なり西紀一三八九年王昌の廢せらるるや、自立して國號を朝鮮と改め、明の册を受け、國都を漢陽に移したり。

こうけん—しよく　後見職　名　官名　執權に同じ。

こうけん—てんわう　孝謙天皇　名　人名　人皇第四十六代聖武天皇の皇女、高野と申す。

こうげん—てんわう　孝元天皇　名　人名　人皇第八代、大日本根子彥國豪と申し、孝靈帝の御子。

こうげん—こ　高原湖　名　地文　高原の湖水、西藏にあり

こうけんし　寇謙之　名　人名　後魏の道士にして、嵩山に隱れて道教を修め、大武帝の時、錄圖眞經六十卷を獻じたり、帝其言を信じ、天師道教を興し、佛教を抑壓したり。

こうげん—てい　孝元帝　名　人名　西漢皇帝なり、帝優柔にして、宦官弘恭、石顯等に朝政を專らにせられ、漢室の衰微を來したり、在位十六年にして崩ず。

こうけん—わう　興獻王　名　人名　明の孝宗の弟なり、興に封せらる。

こうこ　廣固　名　地名　今の山東省青州府の西北にあり、五胡十六國の一なる南燕の慕容德の都せし所なり。

こう—こう　孝公　名　人名　支那春秋戰國秦の二十六代の

帥、秦はもと夷狄を以て遇せられ、諸侯の會盟に預らず、憤慨に堪へず、輔秦者を天下に求め、公孫鞅を得、十年にして、民、道を尙び、盜賊なく、家給し、人足り、天下大に治まる。

こう—こう　弘光　名　人名　西漢の良相、孔安國の孫、蔚冠より桑進し、匡衡尙書令に進む、後王莽の大司馬となるや病と稱して辭す、元治元年、年八十七にて死す。

こう—こう　口腔　名　生理　俗にいふ「クチ」の學術上の語。

こうこう—てんわう　光孝天皇　名　人名　人皇第五十八代、基經によりて立ち給ふ、是れ、人臣の天子を廢立する始めたり。

こうこく—るゐ　甲殼類　名　動物　節足動物の一、頭胸の兩部判然せず、此部に一双の複眼、二對の角を有す、眼は柄を有し、單眼又は複眼なり、呼吸器は鰓、胸部に心臟あり、神經系は腹面を走る神經球の連接より成る。

こうこ—せうろく　好古小錄　名　書名　名筆、繪卷、自らの見聞せしものを記を以て、和漢の書を參考して註釋せるもの、藤原眞幹の著書なり。

こうこつ—るゐ　硬骨類　名　動物　硬骨よりなる故此名あり、魚類は多く此類なり、鱗は覆ふ狀、尾鰭は正形なり、鰓は櫛齒を狀なし多く四對なり、鰓蓋はあれども、鰓は有るものとなきものとあり、硬鯖、軟鯖、喉鰾、固類、總鰓類の五亞目あり。

こうこ—にちろく　好古日錄　名　書名　古代の印章、錢を圖を以て註釋したるもの、藤原眞幹の著書なり。

こうご—の—ねんじやく　庚午の年籍　名　天智天皇九年設けられたる戶籍、後世の標準物たり。

こうごん—てんわう　光嚴天皇　名　人名　後伏見帝の太子なり、後醍醐帝の南狩せらるるや、北條高時によりて立つ、北朝第一の天皇にして、空器に座し玉ふ、後醍醐帝の入洛するや、皇位を返し、太上天皇といふ、在位二年、御年五十一にして崩ず。

こう—さ　光佐　名　人名　僧、本願寺十一代の人顯如上人と云ふ、信長に石山に圍る、二年にして破らる、乃ち紀州雷森に守る、本能寺の變ありて秀吉に和す、文錄元年死す

こう—ざう　後像　名　心理　一反外物の刺激を受け、其暫時は、神經作用によりて實物ある如き感覺あり之を後像と云ふ。

こう—さく　告朔　名　古の儀式、毎月一日、天皇、大極殿に出御ありて、前月の公文を進奏せしめらるること。

こうさく—せん　工作船　名　船名　遠征軍艦の船體、機關、兵器の修覆を成す爲め、火床、其他の諸機を備ふるもの

こう—さくろせき 紅柘榴石 名 鑛物 粒狀の小なる結晶なり、柘榴石の一種なり。

こうざん—い 高山葉 名 地文 海拔二千米突以上の高峯を有する山岳の集合。

こうざん—しょくぶつぐん 高山植物群 名 植物 高山にある植物の群にて、組織堅强、多肉にて、被毛し、幹短く往々平臥す、根は比較的大なり、葉は叢生せす。

こう—し 孔子 名 人名 儒者、名は丘、字は仲尼、父は叔梁紇、母は顏氏、魯の襄公二十一年十月庚子を以て生る季氏に仕へ、魯相となり、定公十三年大司寇となり、後諸國を遍歷して王道を說くも用ゐられず、歸りて三代の禮序書傳を追述し、詩三四五篇を定む、魯哀十四年、史記に因り春秋を作る、年七十四死す、弟子三千人、身六藝に通するもの七十二人なりき。

こう—し 貢士 名 役名 明治元年二月三日、大藩より三人、中藩より二人、小藩より一人を限り、俊才を選び、議官とせられし能士、今の衆議院の如きものなり。

こう—し 後肢 名 動物 動物の後脚、前後二對あり。

こうしう 後周 名 國名 宗文氏にして、鮮卑の宇文部の裔、魏に代はる、凡そ五世、二十五年、隋—禪る。

ごうしう 合州 名 地名 今の清國四川省重慶府合州なり元の憲宗、宋を征し、此地を圍み、疾て崩せし地なり。

こうじ—きん 麴菌 名 植物 稻麴と稱せらるるものにて、始め稻の稈に生ず、米を麴となす菌なり、日本酒の醱酵は其本源此菌にありと云はる、尤も之は未だ確かならず。

こうし—けご 孔子家語 名 書名 古書を攝集して評釋せるもの、支那王肅の著。

こうし—さん 硬脂酸 名 化學 ステアリン酸に同じ。

こうし—ちょう 黃子澄 名 人名 明代の文臣、書を以て著はる、官累遷し、國政に與り、廢立意の如くす、燕王師を起し、王師利あらず、子澄誅せらる、兵を募り王師を拒けんとせしも執はれ、戚祖の前に抗辯し、磔に遇ふ。

こうしつ—かいめん 膠質海綿 名 動物 海綿にて骨骼中に骨片なきもの。

こうじつ—せい 向日性 名 植物、植物の光線に對する感應能力なり、陽性向日性とも云ふ。

こうしつ—てんぽん 皇室典範 名 明治十八年制定發布せられたる皇室一般の規定せる法典なり。

こうしつ—ひしやうたい 膠質非晶體 名 鑛物 蛋白石の如く、水中より膠質物沈澱し、固結して生ずるもの。

こうしん 後秦 名 國名 東晉の大元九年、姚長が北地に起り、秦王と號し、國號を後秦と稱せり、後、義熙十三年晉將王鎮惡のために亡ぼさる、其間三代三十四年。

こうしん 黃晉 名 人名 金の文士にして、明の安澜の詩の師なり。

こう—しん (レレズノ)光心 名 物理 主軸上の一點にて、其點を通過する光線レンズ通過後も方向を變ぜざる點なり、位置は表面の曲率によりて異なる。

こうじん 貢人 名 貢擧の條を見よ。

こう—しんせい 貢進生 名 幕府の開成校を再興し、明治二年校と改め、諸國の人材を入れ、洋學を學ばしめしもの。

こうしんばら 月季花又長春花 名 植物 四季常に開花する故長春花といふ、バラの一種にて最普通にあるものなり、よく盆栽とせらる、チョージンバラ、ボタンイバラ、イバラボタン、シキザキイバラ等の異名あり。

こうしん—ろく 孝信錄 名 書名 崔述の著、古史の實事及聖賢の眞意を顯はすもの。

こう—しや 向斜 名 地文 地層は波狀をなせるが、波谷に當る部のものは兩側より、中央に傾斜す之を向斜といふ、波山の部は中央より兩側に傾斜する故背斜といふ、此背斜層は水蝕作用の爲め、中間を除去されて兩翼の連續を欠く故空鞍なるもの生ずるなり。

こうしやう 高昌 名 車師を見よ。

こう—しやう 交鈔 名 支那の紙幣なり、宋高宗の時始めて作る、現今清にば、政府發行の紙幣とし、銀行より發する手形も亦用をなす。

こうしやう—じ 興正寺 名 寺名 京都堀河にあり、經豪の草創。

こうじやう—なんこつ 甲狀軟骨 名 生理 喉頭の前方に凸出する骨喉頭軟骨中最大なり。

こうしやう—ほうしんわう 公障法親王 名 人名 閑院典仁親王の御子、桃園天皇の猶子、法和と申す、安永二年十月毘沙門堂に入り同五年七月十日年十七薨ず。

こう—しゆ 功首 名 丁寧なる禮、首を地につくる位。

こう—じゆ 光壽 名 人名 東本願寺の開基人、光佐の子故ありて家康一寺を立てて光壽に居らしむ、慶長十九年、年五十七寂す。

こう—しゆう 廣州 名 地名 清國廣東省に在り六七世紀の貿易場、一八三九年、林則徐の爲め、鴉片沒收の件起り、英軍に圍まれ、一八四二年、互市場とす、又一八五六年、アロー事件の起るや、英人の爲め陷り、日清交戰の和議あるや、佛は灣を九十九年間借用す。

ごう—しゆう 濠州 名 地名 一、太平洋の中央、洋々たる中に大島をなす、オースタラリヤにて英領なり、二、支那

元の至正十二年、明太祖朱元璋の天下を一統せしところ、

こう—しゅく 功叔 ㊟ 人名 茶人、千利休に學び、豊臣秀吉の知遇を得たり。

こう—しゅうぜん 洪秀全 ㊟ 人名 粵の逆賊、廣東花縣の人、天父第二子と自稱し、康戌年十一月金田に在り、亂を唱へ、太平國と號す、天王と稱す、後、金陵省城を陷れ王府と號す、賊穴に入りて其終りを知らず。

こうしゅ—わん 膠州灣 ㊟ 地名 清國山東省南岸の一大灣、面積百八十萬浬、日清講和の干渉の爲め、獨逸の九十九年間租借地となる。

こうしゅくぐ 康叔虞 ㊟ 人名 周成王の弟なり、成王嘗て戯れに桐葉をけづりて樹を封せんといふ、史佚等以て天子に虚言なしと稱したり、依て王は叔虞を唐口に封す叔虞都を長歌に定め、晉と號す、即ち晉の始祖なり。

こうしゅくぼう 康叔封 ㊟ 人名 周の文王の子なり、武王殷に克ちて、叔封を朔土に封し殷の餘民を治めしむ。

こう—じゅん 寇準 ㊟ 人名 宋の眞相、年十九進士の第に登り、太宗に用ゐられ、參知政事に至る、事ありて鄧州に走り、年六十三卒す、忠愍と謚し、皇祐四年、神道碑を選び、葬して旌忠と曰ふ。

こうじゅん—ほふしんわう 公遵法親王 ㊟ 人名 中門御院の第二子、延享一年五月、天臺座主となり、天明八年三月二十五日薨す、年六十七なりき。

こう—しょ 苟且 ㊟ かりそめ、まにあはせのこと。

こう—しょう 鑛床 ㊟ 鑛物 石炭或は鐵石の如く、多少横に廣く延びたるものを云ふ。

こうじょう—くわん 興讓館 ㊟ 羽前米澤にあり、元祿十年藩主上杉綱憲の創立、治憲の時、興讓館と稱し、規模を擴張して、藩士の子弟を教育す。

こうしょう—にん 公證人 ㊟ 政府より任命せられ、國民と政府との間に立ちて、土地の讓與等を司る證人なり。

こう—しょくき 紅蜀葵 ㊟ 植物 草本、輸入植物、橙紅色をおび、莖、葉、實皆、麻に似たり、秋氣紅色或は黄色の美花を咲く。

こうしょく—けつろにん 黄色血滷鹽 ㊟ 化學 黄血鹽に同じ。

こうしらい 后氏禮 ㊟ 西漢武帝の、五經博士、七家の一に算へられ、后苍が傳へたる儀禮の一種なり。

こう—しるゐ 甲翅類 ㊟ 動物 昆蟲類、前翅角質、休息する時は、柔軟なる膜、後翅を蔽ひ、後翅は膜質にて靜息する時は折れて外にあらはれず、頭并に胸は 質の硬き皮

を以て覆はる、是れ甲翅類の名ある所以なり。

こう—す 困 ㊟ こんすの音便にて、困難なること。

こう—すい 硬水 ㊟ 化學 炭酸「カルシウム」硫酸「カルシウム」等を溶かせる水、一時と永久との別あり。

こうすい—せい 向水性 ㊟ 植物 陽性向水性ともいふ、根が水の刺戟に感應する能力なり、向化性の特例なり。

こうすいりやう 降水量 ㊟ 地文 雨量ともいふ、雨雪霜露の雨量計の筒中に溜りたる量。

こう—せい 孔性 ㊟ 物理 如何なる物體にても極小の空隙ありといふ性質を物體の孔性といふ、有孔性ともいふ。

こう—せい 恒星 ㊟ 天文 太陽の如く自ら發光する星を云ひ、一億五千萬あり、太陽に最近なる星はフルファ星にして十萬億星あり現今吾人が肉眼を以て見得る恒星は、其數僅か七千あるのみ。

こう—せい 硬性 ㊟ 物理 物體の分子の凝集力の割合を云ふ例へば、水晶、長石、石膏を比較するに、水晶最も堅く長石之に次ぎ、石膏最も后たり、是れ其凝集力に差あるを以てなり。

こう—せい 江西 ㊟ 地名 楊子江以西の地、蒙古時代に湖廣といひたる所なり。

こう—せい 廣西 ㊟ 地名 清國南部の一省、長髮賊の魁洪秀全は其首府たる桂林府より出でて清朝を震動せしむ。

ごうせい 合生又着生 ㊟ 植物、同機關或は他機關の着生をいふ。

こうせい—がくは 江西學派 ㊟ 歴史 近江聖人中江藤樹は陽明學派を唱へしを以て、藤樹の學派をかく云ふなり。

こう—せいく 孔生駒 ㊟ 人名 河内日下村の人、文雄と云ふ、專ら、性理學を修め、古文辭を好む、水利交通、殖産事業に志し、後、徂徠の學を奉ず、寶暦二年十二月晦日年四十一死す。

こうせい—げつ 性星月 ㊟ 天文 月の眞に地球を一周する時間にて、二十七日七時四十三分十一秒五四なり、月が天球上恒星の間を運動し、地球の周圍を一回轉するに要する時間なり。

こうせい—じ 恒星時 ㊟ 天文 春分點の時角、觀測者の居る場所を其時刻の恒星時といふ。

こうせい—じつ 恒星日 ㊟ 天文 春分點か其地の子午線にある時より、再び其子午線に來る迄の時間を一恒星日といふ、地球が眞に一回の自轉をなすに要する時間なり。

こうせいちゆう 耿精忠 ㊟ 人名 清の康熙中、父の封をつぎ、福建王となる、吳三桂の反に應じ、臺灣の鄭經と連合せんとして成らず、清將康親王に攻られて降る。

こうせい—ねん　恒星年　名　天文　眞に地球が太陽の周圍を一旋轉する時間にて、地球が星に對して、或る場所を出立し再び同場所に歸り來るまでの時間なり。

こうせい—の—がい　鑛稅の害　名　明　萬曆の朝鮮の役後國用足らず、鑛山を開き、種々の稅を增し、宦官をして之を領せしむ官吏各省に遍く遂に權勢を以て其民を凌虐し其慘害の大なりしをいふ。

こう—せき　項籍　名　人名　楚將、字は羽、項燕の子、諸戰に功を奏し、上將軍に進み、大兵を率ひて、函谷關に至りしに、沛公既に咸陽を陷れたりときき憤り、鴻門の會にて沛公を殺さんとせしも、張良、樊噲によりて果さず、後垓下に圍まれ、東烏江を渡らんとして、敵に迫はれ、自殺す。

こう—せきえい　紅石英　名　鑛物　水晶の紅色なるもの。

こう—せきこう　硬石膏　名　鑛物　斜方晶系、色は白、黃、青、紅、條痕淸白、玻璃又は眞珠光澤、硬度三乃至三、五酸に溶解す、水を吸收せば、石膏となる、石灰岩中に現出す、或は石膏、又は、石鹽に隨伴して現出す、彫刻の材料とせらる。

こうせき—ど　洪積土　名　地質　東京の山の手の如く、沖積土よりも、一層古く、海底に積みたりし地層なり。

こう—せつ　交接　名　動物　男女、雌雄の受胎作用をなさん爲め行ふこと。

こうせん　光線　Ray.　名　物理　光りの進行する直線、光線は組織一樣なる透明體中にては四方一樣に一直線に進行するものなり。

こう—せん　勾踐　名　人名　春秋越王、禹の後胤、會稽に居す、吳王闔廬の打つに當り、之を擲李に破る、吳王死し、子夫差仇を報す、勾踐和を請ひ、歸りて十年間、休民養兵吳を打つて姑蘇に破る。

こう—せん　鑛染　名　鑛物　獨逸の食銅粘板岩の如く、或る液の爲め染りたる感ある岩石なり。

こうぜん—じ　興禪寺　名　寺名　下野河内郡宇都宮北河原にありて妙心寺派なり。

こうぜんぜん　黃潛善　名　人名　宋高宗時代の姦臣、奸佞にして、同僚を陷れて死に至らしめたることすら少なからず、用ゐられて左僕射兼門下侍郎に進みしも、高宗の末年、副元帥にれとさる。

こうろ　高祖　名　人名　支那唐初代の帝、隴西成紀より出で、長安を陷れ、恭帝を立て、尋で禪を受け、天下全く平定せしとき、子世民に位を禪る、貞觀九年五月、年七十にて歿す。神堯大聖大光皇帝と謚す。

こうろ　高祖劉知遠　名　五代漢の第一帝なり、沙陀の後

、太原に居り、愍帝を輔けしも、後、自ら卽位し天福と號しぬ。

こうろ　高祖石敬瑭　名　人名　五代晉の第一帝、梟振鷄太西夷に出で　愍帝の出奔するや、其從者百餘人を切り帝を衛州に幽し、天福元年十一月、皇帝の位に卽き、晉と號せり。

こう—ろ　光素　名　物理　ニュートンは光は光體より發する至微至細なる一種の物質なりといひ、此物質を光素と名附けたり。

こう—ろ　酵素　名　化學　醱酵を起す無機物。

こうぞ　楮　名　植物　本邦至る所に生ず、內皮纖維は紙に製し、薄美濃、紋美濃、奉書紙、半紙、小葉、杉原等の名を附して坊間に賣らる、桑科の木本にして、葉は卵形にて往々分裂し、花は單性なり、紅色の果實を結び味美なり。「シャコ」は此類なり。

こうろう　高宗弘曆　名　人名　明君、淸五世の帝、乾隆六十年の在位、禮勵治を圖り、文武を奬勵し、康熙と、併び稱せらる、大淸一統志を著はさしめ、四庫全書館を開き十二經を大學に石刊せしめたり、年八十九、嘉慶四年歿す。

こうろう　興宗　名　人名　契丹の主、宋に西夏の變あるや、關南を侵さんとし、富弼によりて得ず、後條約を結び幣として絹十萬匹、銀十萬兩を與ふ、在位二四年歿す。

こう—ろう　高藏　名　人名　高麗榮留王の姪、泉蓋蘇文の爲め三子國を亂すや、唐の高宗の將李勣の爲め平壤に圍れ西紀六六八年、破れて高勾麗亡ぶ。

こうろう　后蒼　名　人名　字は近君、禮に通じたりし漢の學者にして著后氏曲臺記は世に行はる。

こうろう　高宗治　名　人名　唐三代の帝、太宗の第九子、治世中、突厥の寇稍んと息む時なく、在位三十四年にて弘道元年崩ず。

こうろう　興宗宋眞　名　人名　遼の帝、降緒に嗣で位に卽き、重熙二十四年八月秋山に卒す。

こうろう　高宗趙構　名　人名　宋十代の帝、徽宗の第九子、紹興二十二年在位三十六年にて禪位す。

こうろう　孝宗趙昚　名　人名　宋一一代の帝、高より先き金との國交大に風爭を受け居りしも帝に至り稍改めて叔姪の禮を採るに至りたり、淳熙十六年在位廿八年にて禪位す。

こうろう　光宗趙惇　名　人名　宋十二代の帝、孝宗の第四子、明君にて心を政治に委ね、大に民心を得たり。

こうろう　孝宗祐樑　名　人名　明八代の帝、憲宗の第三子、成化二十三年九月卽位す、佞臣を謫して賢臣を擧ぐる等大に意を國治に用ひたり。

こうろう 光宗生榮洛 名 人名 明の帝、神宗の長子、萬曆四十八年八月卽位す、直省被災者の租賦を蠲す。

こうろう 高宗睿 名 人名 高麗二十三代の王、康宗の長子にして、康宗の二年八月卽位す、內憂外患ありて國家危殆の間にありたるを能く保持したる明君なり在位四十六年。

こうろうぎ 黃宗羲 名 人名 淸初代の大儒、世に黎州先生と稱せらるる人なり、明十三朝より、上二十一史に遡りて史を修め、著述の如き考證該博なり、朝廷再三召したれども應じ、康熙三十四年卒す、年八十六。

こうろうーしき 構造式 名 化學 原子價を表はす符號を以て、元素の符號を聯結し、物質を組成せる諸元素の互に結合せる狀態を示せる分子式なり、H-O-H-の如し。

こうろうし 孔叢子 名 書名 孔家の記錄、漢の孔鮒の撰なりと。

こうろうてきーのーたに 構造的の谷 名 地文 地層の屈曲にて出來たる谷。

こうろうーるゐ 紅藻類 名 植物 「クロロフイル」「フイコエリスリン」を含む藻類をいふ、アサクサノリ等は此類なり

こうろくーるゐ 口足類 名 動物 胸甲類の一亞目、體は附屬部ある十九節と、附屬器なき一尾節とより成る、肢は、六對ありて、五對迄鰓あり、頭胸部によく發達せる胸あり、三個の胸節を露出す。

こうろうーのーじっこう 高宗の十功 名 歷史 淸の高宗十度兵を出して、功を奏せしこと卽ち、準噶爾を打ち、金川を掃ひ、廓爾喀を降したること二度、回部を下し、臺灣を定め、緬甸を打ち、安南を降す是れなり。

こうろうーのーろく 黃巢の賊 名 歷史 乾符二年黃巢王仙芝の餘衆を率ひて、南方に至り、唐の東都を破り長安に入りて、齊帝と自稱す、已にして李克用、沙陀部を以て征し、中和四年之を瑕邱に斬り、亂平ぐ。

こうろうーはっしん 皇祖八神 名 神名 日本神代の諸神にて、足產靈、生產靈、玉積產靈、高皇產靈、神皇產靈、御食津、大宮賣、事代主の八神なり。

こうろんゐん 公孫淵 名 人名 三國時代の僭主なり。明に帝に仕へて遼東の太守となる、後公孫權に通ぜしかば、魏天下に告げ、孫權を以て不俱戴天の仇とし、淵を反者せしむ、淵明帝に歸し大司馬となり、樂浪侯に封せらる、後其奸を奏するものあり、帝之を徵す、淵懼れて反し、自立燕王となる、後司馬懿に征せられて敗れ遂に斬らる。

こうろんかう 公孫康 名 人名 遼東の人、東漢末代の武將だり、十二年曹操三郡烏丸を征し、柳城を屠る、袁紹遼東に奔る、康之が首を斬り操に送り、襄平侯に封せられ、

左將軍を拜す。

こうろんこう 公孫弘 名 人名 西漢の宰相、齊の菑川薛の人、武帝の時年六十にして召され博士となりて匈奴に使す、意を得ず、罷めらぬ、後太常の時又歷し、丞相となり賢能を延き、自ら粗衣薄飲以て賓人に給す、主父偃を殺し董仲舒を退けしは氏の暇とすべし。

こうろんじゆつ 公孫述 名 人名 東漢の僭主、扶風茂陵の人、更始の時豪傑所々起るや述使を以て南陽の宗成、虎牙將軍を迎ふ、成等成都に至り掠奪を極めしかば述之を惡み、衆に語りて眞主の至るを待たしし、巷詐りて漢將軍蜀郡の太守樂益州の牧の印綬を受け、成等を擊破し、二年蜀漢を孔へ、自立して天子と稱したり、其後十一年光武帝の爲め攻められ十二年十一月成都にて落馬して死す。

こうろんたく 公孫度 名 人名 三國時代の僭主なり、襄平の人、自立して遼東侯となり、平州の牧と稱す、魏の曹操之を壯とし武威將軍とし永寧侯に封ず、後病んで卒す。

こうろーゐん 控訴院 名 法律 地方裁判所の判決を不服として更に訴訟を起すところなり。

ごう—たい 剛體 名 物理 力を受くるも容積、形狀等の變化せざる物體をいふ。

こう—たいこう 皇太后 名 父帝の皇后のことなり、又中宮女御、准后などにて、其所生の天皇の御卽位ある時は、皇太后と稱せらるることもあり。

こうたいーし 交替使 名 官吏交替の時、事故あれば發せらる使をいふなり。

こう—たいてい 皇太弟 名 天皇の御弟にして御世嗣とならせられし御方のことなり。

ごだいーのーじっこく 五代の十國 名 五代の際海內分裂し十國交る交る其間に起りしをいふ、卽吳、前蜀、楚、閩、吳越、南漢、南唐、後蜀、荊南、北漢等なり。

こうたいーよりあひ 交代寄合 名 德川幕府の時最上生駒の徒の如く、萬石以下にして、大名と同じく參覲交代をなし、大名と等しく待遇せられしものをいふ。

こう—たう 勾當 名 一、攝家に於ける勘定人、二、眞言宗に於ける寺務員、三、盲官に同じ。

こう—だう 抗道 名 鑛物 鑛坑の地下に於ける隧道樣の橫坑。

こう—だう 黃道 名 天文 太陽の一年間に天球上に畫く大圓。

こうだう—くわん 弘道館 名 水戸藩の學校、天保九年、藩主德川齊昭の創立、戶田忠敬、藤田東湖等敎授たりき。

こうだうしう 黃道周 名 人名 明の遺臣なり、福王南